太宰府市の文化財 第99集

大宰府条坊跡36

ー 県道観世音寺二日市線建設に伴う調査 ー

平成20(2008)年

太宰府市教育委員会

太宰府市の文化財 第99集

太宰府条坊跡36

－ 県道観世音寺二日市線建設に伴う調査 －

平成20（2008）年

太宰府市教育委員会

第236-1次調査第１調査面および第236-2次調査全景（上が北）

曲物（第236-1次調査SE510　Fig.80-10）

「有佛」墨書瓦（第236-2次SK015暗灰色土
Fig.106-17）

滑石製屋蓋（第236-2次調査SE050暗灰色粘土、Fig.102-11）

序

本書は、県道観世音寺二日市線の道路新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査地は大宰府条坊跡の中央付近に位置し、かつて西日本鉄道二日市操車場があった場所で、その機能が筑紫駅に移転するまで、大きな建物が建ち並んでいました。

今回の調査では「天下之一都会」(『続日本紀』)と称された大宰府を物語るように、奈良時代から平安時代にかけての遺構や遺物が多数見つかりました。その中でも大型の掘立柱建物跡や東西道路などの条坊痕跡のほか、滑石製屋蓋や須恵器の盤など珍しい遺物も発見され、大宰府の歴史を知る上で貴重な所見を得ることが出来ました。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成20年3月

太宰府市教育委員会

教育長　關　敏治

例言

1. 本書は太宰府市朱雀2・3丁目で行われた大宰府条坊跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第II座標系（旧日本座標系）を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限りG.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 調査対象地の表土除去および埋め戻しは（有）松田造園土木に委託した。
4. 遺構の実測及び写真撮影は宮崎、柳、松浦、床平慎介、森若知子が行った。
5. 第236-1次調査の遺構全体図作成は航空測量を実施し、これを㈱写測エンジニアリングに委託し、1面目のみ図化を行った。また、平行して手測りによる実測図も作成した。
6. 遺構の空中写真撮影は（有）空中写真企画（代表壇睦夫）が行い、一部を㈱写測エンジニアリングが行った。
7. 出土品の自然科学分析は（株）パリノ・サーヴェイに委託した。
8. 出土した鉄製品・木製品の保存処理は下川可容子、安芸朋江、鈴木弘江が行った。
9. 遺物の実測は、主に第236-1次調査分を（有）システム・レコ、NPO法人文化財保存活用支援センターに委託し、第236-1次調査分の一部と第236-2次調査分を久味木理恵、森部順子、福井円、久家春美、松本理栄子、宮崎が行った。
10. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美が行った。
11. 遺物の整理接合・復元作業は中村房子、林美知子、久保喜代香、馬場由美が行った。
12. 遺物の写真撮影は（有）文化財写真工房（代表岡紀久夫）が行った。
13. 第236-1次調査第2・3調査面の遺構全体図については、㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託しデジタルトレースを行った。第3調査面の一部のデジタルトレースは久味木理恵が行い、デジタルトレース図の加工・修正等は、井上信正の協力を得た。
14. 遺構・遺物実測図の浄書は、全て宮崎が行った。
15. 本書に用いた分類は以下のとおり。
    須恵器・・・『宮ノ本遺跡II　―窯跡篇―』（太宰府市の文化財第10集）1992
    陶磁器・・・『大宰府条坊跡XV　―陶磁器分類―』（太宰府市の文化財 第49集）2000
    土器・・・・『大宰府条坊跡II』（太宰府市の文化財第７集）1983
16. 執筆は、V章を(株)パリノ・サーヴェイが行い、その他の執筆および編集は、宮崎が担当した。

目次

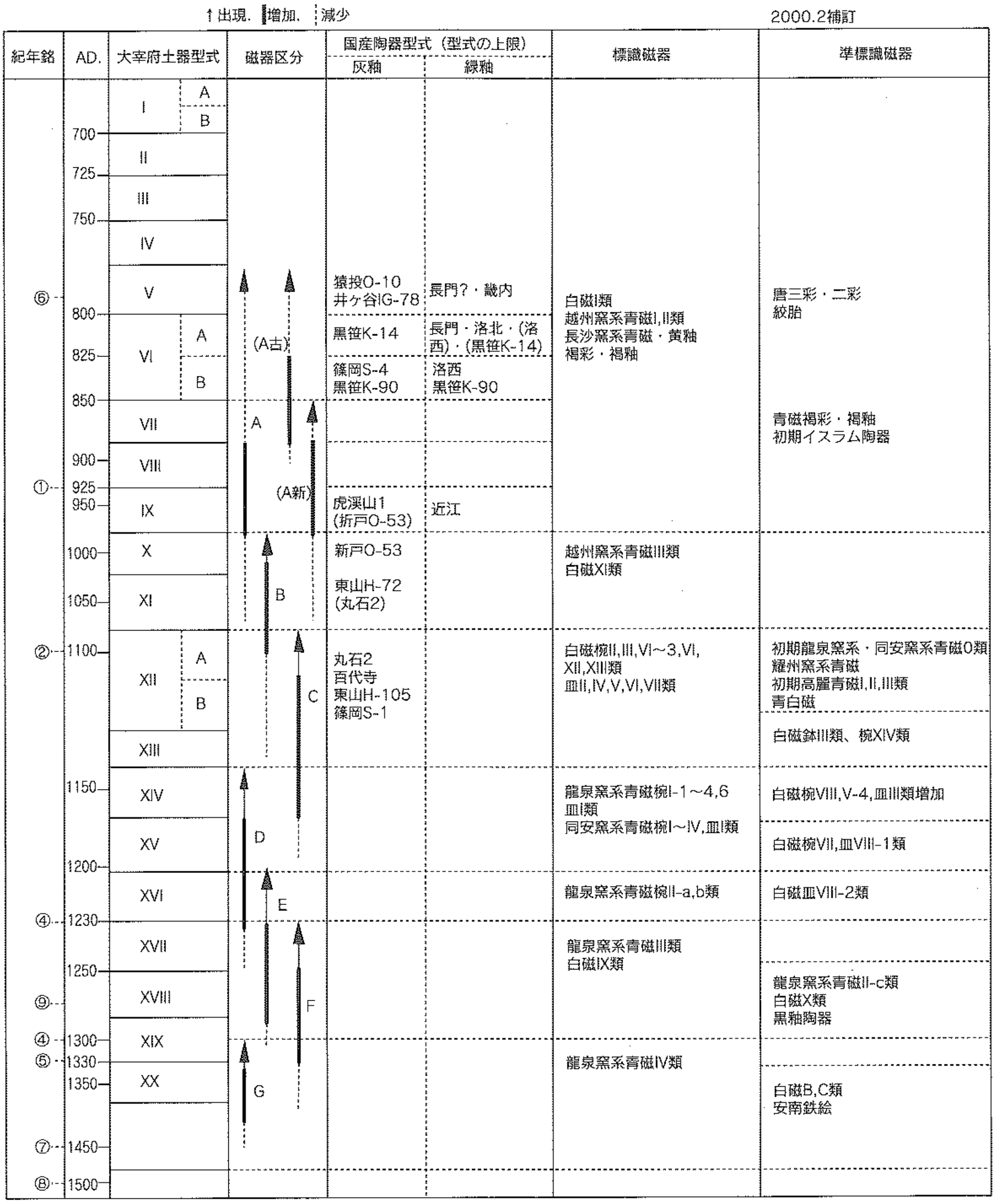
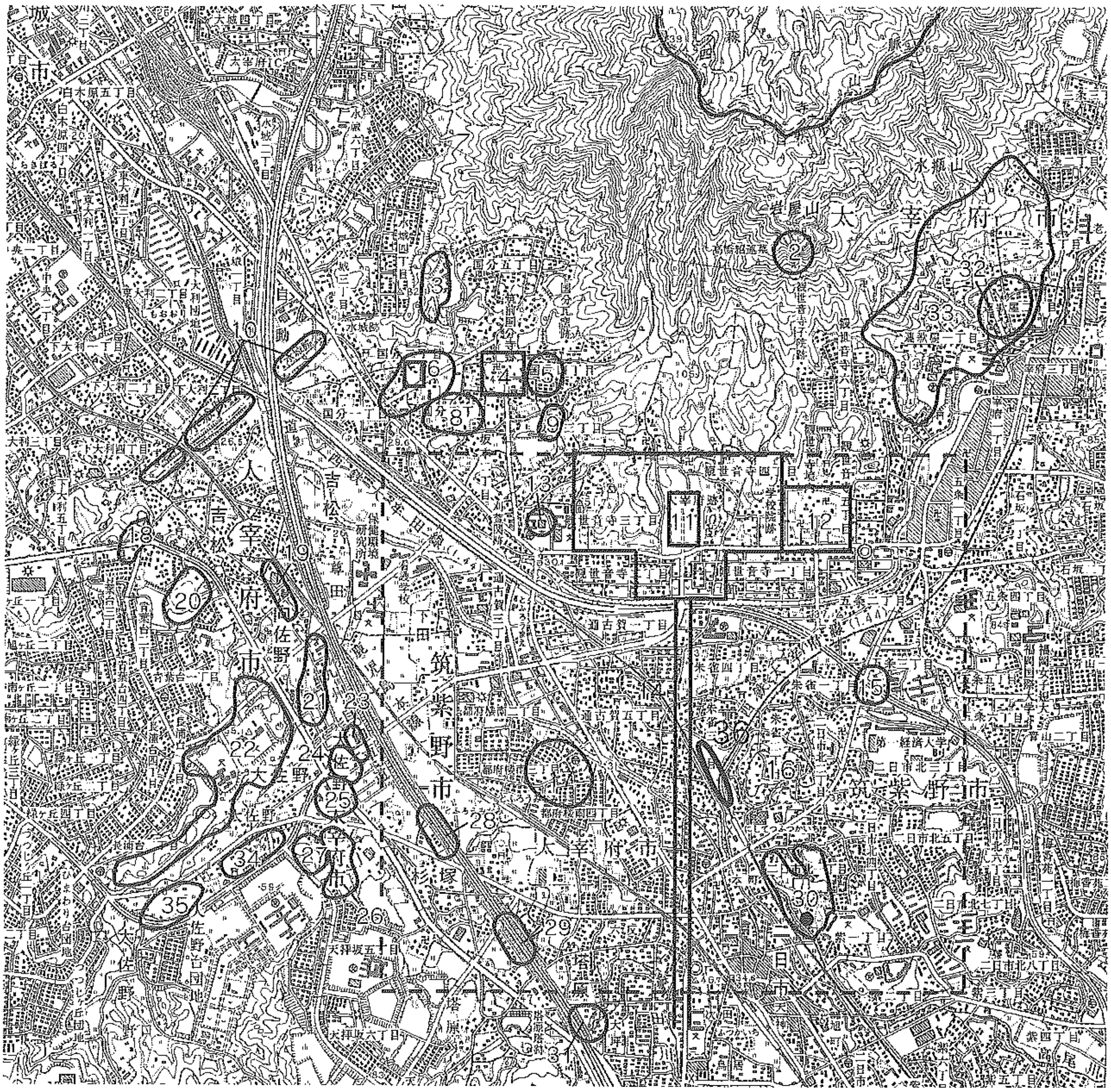


Fig.1　大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁編年

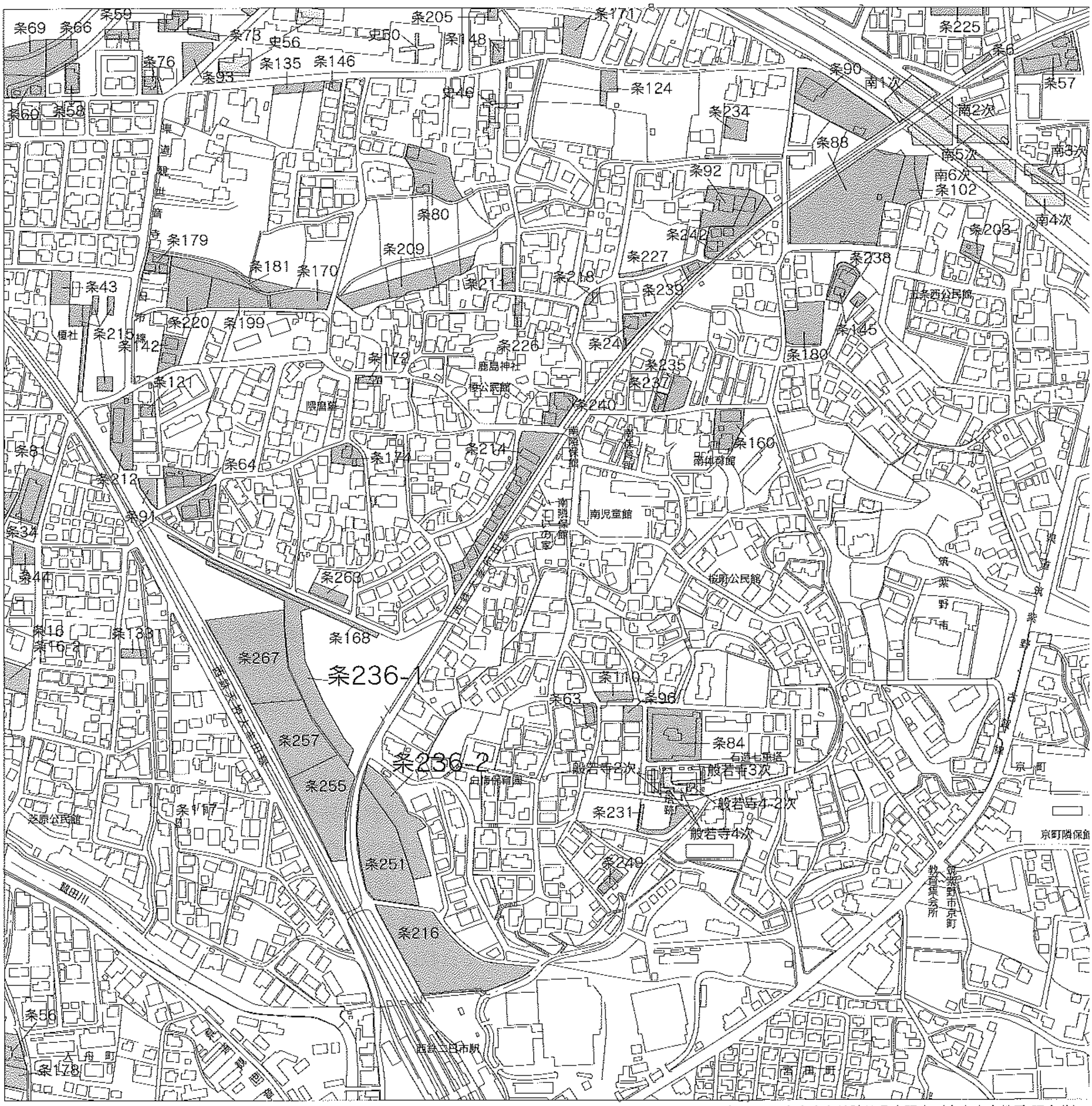
紀年銘資料
①A.D.927　延長5年,大宰府74次SD205A溝
②A.D.1091 寛治5年,平安京左京4条1坊SE8井戸
③A.D.1224 貞応3年,大宰府33次SD605溝
④A.D.1304 嘉元2年,大宰府109.111次SD3200溝
⑤A.D.1330 元徳2年,大宰府45次SX1200池
⑥A.D.784　延暦3年,長岡京102次SD10201溝
⑦A.D.1459・1465 長禄3・寛正5年,福岡市井相田CII・SG16池
⑧A.D.1501 文亀元年,大宰府70次SD1805溝
⑨A.D.1265 文永2年,博多62次713土壙

文献
①九州歴史資料館　「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
②田辺昭三・吉川義彦　「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
③九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
⑤九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988
⑦福岡市教育委員会「井相田C遺跡II」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
⑧九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨福岡市教育委員会「博多48」「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995



1.大野城跡
2.岩屋城跡
3.陣ノ尾遺跡
4.筑前国分寺跡
5.辻遺跡
6.国分松本遺跡
7.筑前国分尼寺跡
8.国分千足町遺跡
9.御笠団印出土地
10.水城跡
11.大宰府政庁跡
12.観世音寺
13.遠賀団印出土地
14.大宰府条坊跡(破線内)
15.君畑遺跡
16.般若寺跡
17.市ノ上遺跡
18.神ノ前窯跡
19.原口遺跡
20.篠振遺跡
21.前田遺跡
22.宮ノ本遺跡
23.雑川遺跡
24.フケ遺跡
25.尾崎遺跡
26.脇道遺跡
27.殿城戸遺跡
28.剣塚遺跡
29.唐人塚遺跡
30.峯・峯畑遺跡（●は峯火葬墓）
31.太宰府天満宮(安楽寺跡)
32.浦城跡
33.原遺跡
34.京ノ尾遺跡
35.カヤノ遺跡
36.第236次調査地（報告地点）

Fig.2　太宰府市とその周辺の遺跡（1/30,000）



条○次・・・ 大宰府条坊跡第○次調査（太宰府市教委 調査分）
史○次・・・ 大宰府史跡第○次調査（九州歴史資料館 調査分）
南○次・・・ 御笠川南バイパス第○次調査（福岡県教委 調査分）

Fig.3　調査地と周辺調査地点（1/5,000）

Ⅰ、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に背振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。二つの平野に挟まれた狭い平地を古代には官道が、現代では鉄道や高速道路が通り抜け、今も昔も交通の要衝となっている。

古代にはこの狭い平野の北端に大宰府政庁を置き、前面にいわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。その規模は南北22条、東西12坊におよび、南辺部は筑紫野市まで広がっている。近年開発による発掘調査が増加し、下記のような大宰府条坊を解明する上で重要な成果を得ることが出来ている。

五条2丁目で行った第217・224調査では、平安時代中期と12世紀埋没の南北道路側溝が検出され、約90mの区割りでみる条坊案では左郭12坊推定ライン上にあたる。『宇佐大鏡』久安４（1148）年条の記述から、12坊路を「京極大路」とするという見解が大宰府条坊復原案を最初に提示した鏡山猛氏以来支持されてきたが、その「京極大路」の遺構である可能性が十分考えられる。また、西側側溝からは大量の獣骨・人骨が出土し、土器とともに側溝に廃棄された状況が確認できた。また、12世紀中頃～後半に道路の付け替えが行われた際、調査区の東からのびる東西道路が、南北道路に取り付きＴ字路になっていることが明らかになり、平安時代後期の時点で、平安時代中期以降急速に栄えていった安楽寺天満宮周辺の街区と大宰府条坊が接していたことを示すものと考えられている。

筑紫野市塔原東1丁目（第258次調査）では、8世紀後半埋没の平行する東西溝が検出され、井上信正条坊案の22条と合致し、条坊の南限である可能性が指摘されている。

苅萱関の伝承地の北側100mの坂本2丁目付近（第264・265・269次調査）では、奈良時代の掘立柱建物群が検出され、その規模から官衙の一部である可能性が指摘され、政庁周辺に広がる官衙域がさらに西側に広がっていた可能性も考えられる。また、周辺には苅萱関伝承地や遠賀団印出土地があり、政庁周辺官衙と異なった機能を持つ官衙であった可能性も考えておく必要があろう。

都府楼南2丁目の第222次調査は広大な面積が調査された。遺構の殆どが11世紀末～12世紀前半埋没という所見が得られ、検出された道路遺構などから、東西95m、南北110mの区画の存在が確認された。条坊内では近年一区画90m四方の設計プランが導き出されているが、条坊外に続く条里の存在も指摘されており、この調査地が条坊の外側であった可能性も考えられ、平安時代後期に条里の土地での住宅開発があったとみられ、条坊と条里の関係を知る貴重な所見を得ることが出来ている。

今回の調査地の東側丘陵上には般若寺跡があり、現在塔跡が現存している。塔跡は一辺8.8mの瓦積基壇でその中央付近に後世の移動があるものの塔心礎が置かれている。その周辺からは塔跡より遡るとみられる掘立柱建物などが確認されている（第231次調査）。

般若寺跡が所在する丘陵の西斜面は、瓦窯の存在が知られていたが、開発によって明確な調査が行われることなく住宅地になっていた。しかし、2007年、住宅改築に伴って、窯跡が1基確認され、発掘調査が行われた（第270次調査）。瓦窯は有階無段登窯で、天井が落下した様子が確認でき、窯内からは粘土質の瓦片が多く出土した。時期は10世紀代と推測される。この瓦窯跡は第236-2次調査地の東隣に位置する。

以上のような調査成果が増加する大宰府条坊跡において、今回の調査地はその大宰府条坊の真ん中付近に位置し、標高は31.7mの平地で、西と南は開けていて南西の鷺田川方向に向かって僅かに低くなっていく。東側は般若寺跡が所在する標高50mほどの丘陵が迫り、北側はその般若寺丘陵から派生した標高38m前後の低丘陵が中央大路（推定朱雀大路）付近まで続いていて、現在のように住宅が建て込まな

かったとしても、調査地から真北の政庁官衙域は見通しがきかない立地だったと推測される。また、西鉄太宰府線が丘陵の狭間を通っているが、最近の発掘調査（第214・240次調査）から、ここは古代から谷地形であったことがわかっている。

近代以降この地には西鉄二日市操車場があったのだが、その西日本鉄道は大正4年10月に太宰府参拝客の輸送を目的に、筑紫電気軌道株式会社として設立され、その後社名を九州鉄道株式会社に変更するとともに、都市間の旅客輸送を目的とするようになった。大正11年9月16日福岡～久留米間38.8kmの工事に着手し、大正13年4月12日完成に至った。二日市操車場と呼ばれる二日市工場と車両基地（車庫）もこの時に設置されている。当時の車両は96人乗り、4輪ボギー客庫16両で、福岡～久留米間を55分で走る当時としては最新鋭車両であった。全線14区に分けられ、1区6銭であった。福岡～大牟田間全線が開通したのは昭和14年7月1日のことで、昭和17年に西日本鉄道に改称している。

昭和53年当時の二日市操車場の規模は、工作線9（799m）、検車線3（518m）、洗車線3（420m）、ピット線6（298m）、留置線2（410m）であった。しかし、輸送力増強などにより二日市車庫は収容力が限界に近づき、昭和48年筑紫駅近くに新しい筑紫車庫の建設に着手、昭和51年7月には一部使用が開始され、昭和57年3月25日に車両基地が完成し、昭和62年1月1日に筑紫工場が完成した。この筑紫車庫の完成により、二日市操車場は解体されるに至った。

調査地点の当時の状況は、第236-1次調査地には車両基地、第236-2次調査地には住宅などが十数件建ち並んでいた。基地解体後発掘調査直前までは前者が空地で、後者が駐車場として利用されていた。

参考文献

『遺跡だより48号　昔は町外れでした』 太宰府市教育委員会　2001年
大宰府条坊跡第258次調査現地説明会資料　筑紫野市教育委員会　2007年
『大宰府条坊跡27』太宰府市の文化財81集　太宰府市教育委員会　2005年
『西日本鉄道70年史』西日本鉄道株式会社　1978年
『西鉄創立80周年記念　明日に翔ける』西日本鉄道株式会社　1988年

Ⅱ、調査体制

(平成16／2004年度)・・・発掘調査

総括	教育長	闞　敏治
庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	木村和美
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	事務主査	藤井泰人（～6月30日）
		齋藤実貴男（7月1日～）
	主任主事	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利
	技術主査	山村信榮　中島恒次郎
	主任技師	井上信正　高橋　学
		宮崎亮一（調査担当）
	技師（嘱託）	下川可容子　森田レイ子　渡邊　仁　長　直信
		柳　智子　松浦　智（7月1日～）（調査担当）

(平成19／2007年度)・・・報告書発行

総括	教育長	闞　敏治
庶務	教育部長	松永栄人（～9月30日）
		松田幸夫（10月1日～）
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	久保山元信（～9月30日）
		菊武良一（10月1日～）
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	吉原慎一　齋藤実貴男
調査	主任主査	城戸康利　山村信榮　中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	高橋　学
		宮崎亮一（整理担当）
	技師（嘱託）	柳　智子　下高大輔　大塚正樹　端野晋平

なお、調査および整理に際して、次の方々から有益なご教示を得た。記して感謝いたします。
(順不同・敬省略)
小田富士雄（福岡大学名誉教授）、山中章（三重大学教授）、大橋泰夫（島根大学教授）、狭川真一・佐藤亜聖（元興寺文化財研究所）、舟山良一・石木秀啓（大野城市教育委員会）、松井章、玉田芳英、豊島直博、箱崎和久、市大樹、関広尚世（奈良文化財研究所）、山川均（大和郡山市教育委員会）、長谷川透（明日香村教育委員会）

Ⅲ、調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群I』（太宰府市の文化財第14集 1989）、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』（太宰府市教育委員会 2001年9月改訂）に基づいている。

○発掘調査

南北に長い調査地で、表土除去を行った時点で、南端ではすでに地山が検出されていたが、北端では全く地山が見えていない状況であった。遺構面が全面均等のレベルで広がっていないことが予想されたため、整地の広がりを注意しながら遺構検出を行い、遺構の掘削は明瞭に古い時期の遺構と判断できない限り、各調査面で確認したものおよび遺構プランが完結しているものを随時掘削し調査を行った。また、撹乱が多く見られたが、撹乱の底面から検出した遺構については、どの遺構面に属する遺構なのか判断が困難なため、撹乱内で完結している遺構については第1調査面で調査した。

表土剥ぎはバックホーによって行い、第1調査面の検出を行った。北側のみに広がる第2遺構面は、遺構プランの一部は第1調査面ですでに検出されていたため、その上面を覆う整地や遺構を人力によって除去した。第3調査面は第3遺構面を覆う灰色土を除去した面であるが、調査区中央の大撹乱の南側で、灰色土が厚く堆積していたため、人力で遺物の出土状況や遺構の有無等を確認しながら2/3ほどの厚さを除去した後、残りの1/3ほどはバックホーによって掘り下げ、第3調査面を検出した。北側の一部を除いて調査区の大半が、第3・4の遺構面が混在して検出され、掘立柱建物等と切りあっていない限り、同時に検出・掘削を行った。

各調査面はラジコンヘリによる航空測量を行い、第2 ～ 4調査面は手測りによる実測も行った。

○整理報告

報告の手順としては、遺構がどの段階で確認されるに至ったかを明確にするため、大きな相違がない限り、調査作業順つまり調査面ごとに報告し、主要遺構の遺構面の整理は第VI章のまとめで行っている。よって、第IV章の調査報告では、調査面ごとに報告しているため、同一面でありながら、時期の異なる遺構が混在することとなっている。また、遺構略測図は全て調査面ごとに整理したが、遺構全体図については、第3調査面で明瞭に第4遺構面と認識できた遺構のみを抜き出し、第4調査面に合成し報告している。

遺物については、国内からの搬入品については形状が確認できるものは極力報告することに努めたが、整理報告作業の効率化と報告書のスリム化のため、規格性が強い輸入陶磁器については『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類－』を基に分類し、出土遺物一覧表に分類と破片数を掲載したのみで、実測作業は基本的に行っていない。しかし、未分類のものや稀な陶磁器などについては実測し報告している。よって、遺構時期の検証については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。また、古代の遺構から確認される石鏃等の石製品については、混入品と判断したものの、条坊施行以前の活動を物語る遺物と考え、出土遺構ごとには報告せず、調査面毎にまとめて報告している。

上記のように遺構面が単純でないため、この調査報告書については、言葉の混乱を避けるため、発掘調査作業において遺構面と判断し調査した面のことを「調査面」、その後の検証で確認された面を「遺構面」と区別し報告することとする。各調査面で確認された遺構面との大雑把な関係は、第1調査面で第1・3遺構面、第2調査面で第2遺構面、第3調査面で第3・4遺構面、第4調査面で第4遺構面である。

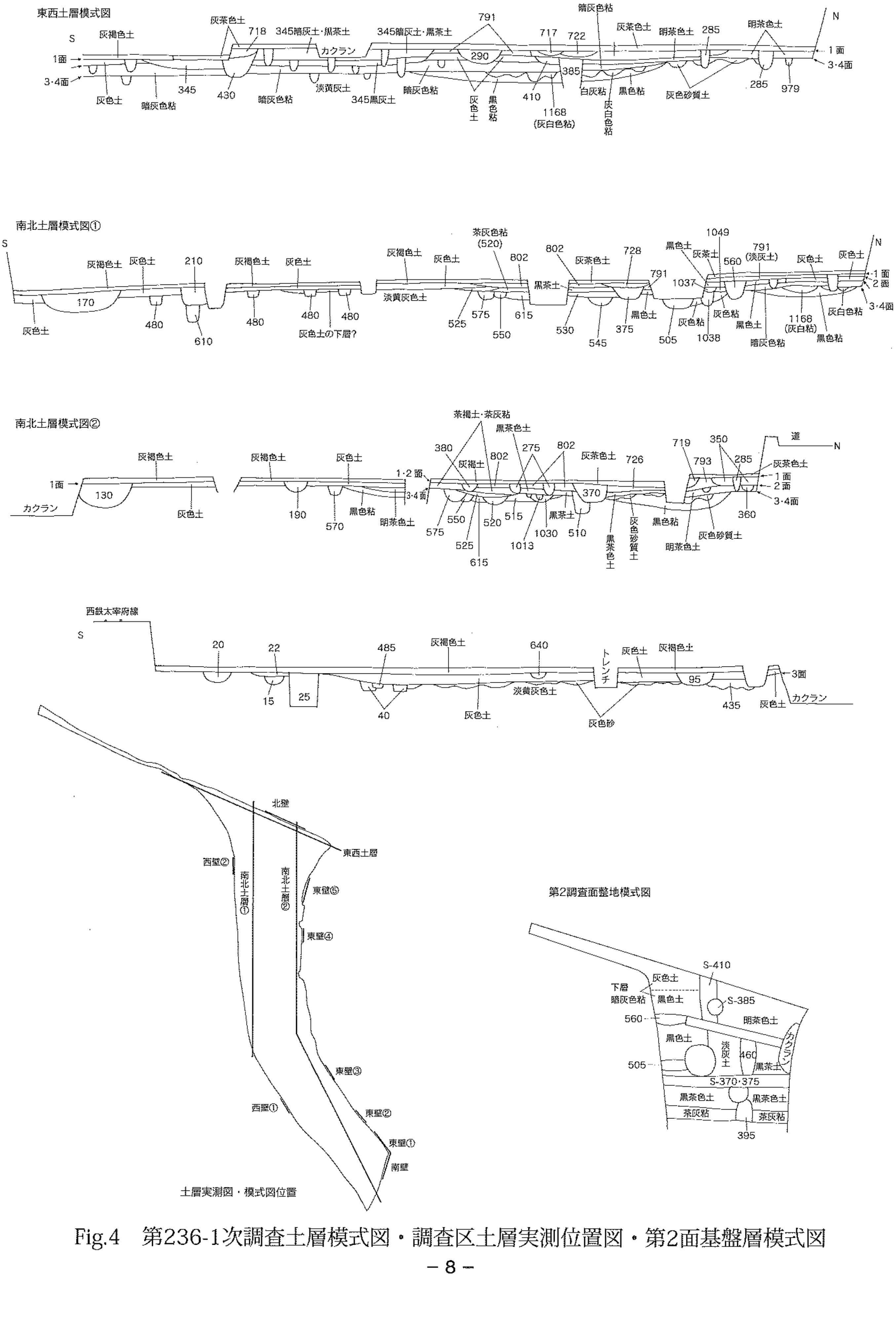
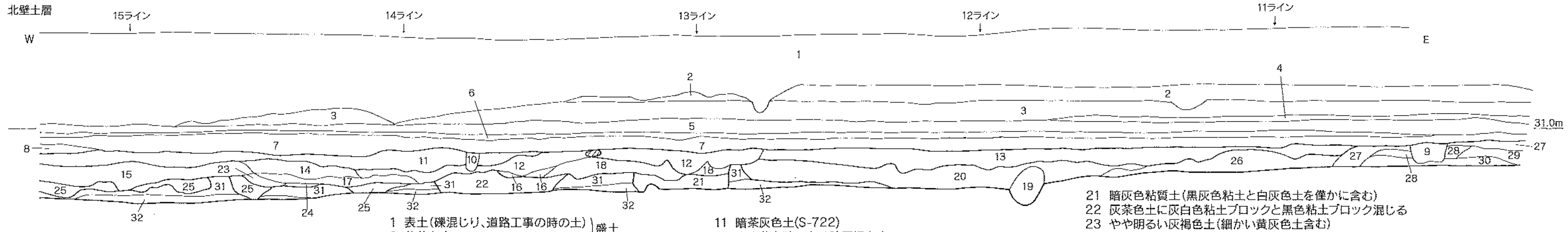
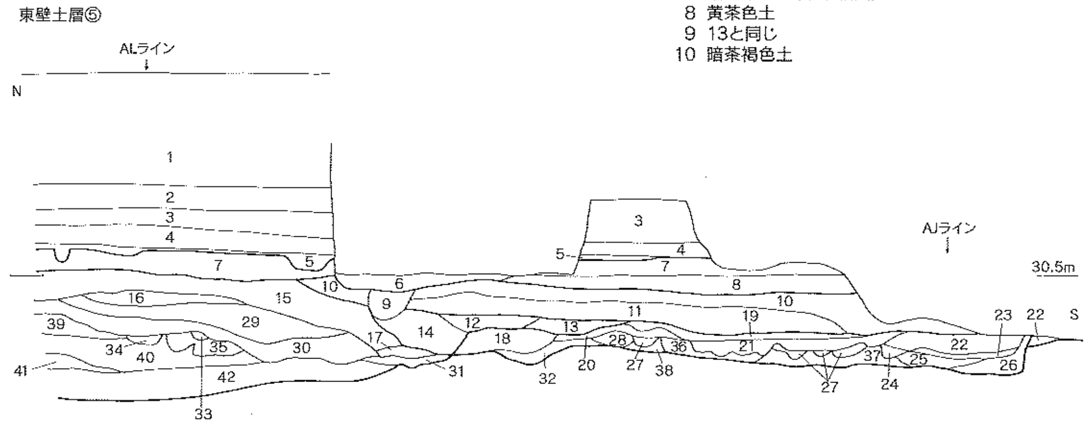


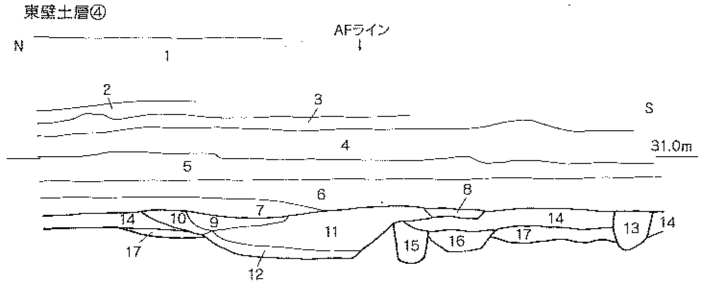
Fig.4　第236-1次調査土層模式図・調査区土層実測位置図・第2面基盤層模式図



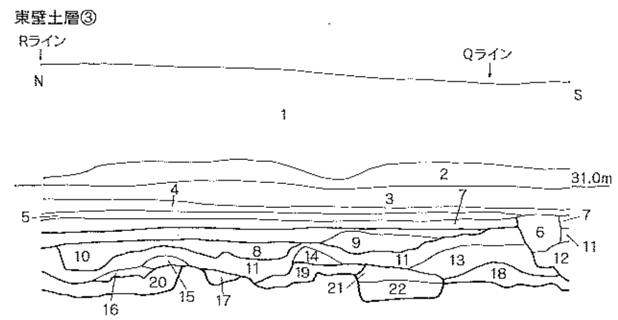
1 表土(礫混じり、道路工事の時の土)
2 黄茶色土
(1・2 盛土)
3 黄灰茶色土(昔の耕作土か？)
4 暗黄灰色土(床土か？)
5 黄灰色土(若干灰色土と互層になっている)(床土か？)
6 淡灰色土
7 暗灰茶色土(やや粘質)
8 黄茶色土
9 13と同じ
10 暗茶褐色土
11 暗茶灰色土(S-722)
12 やや茶色味のある暗灰褐色土
13 暗茶灰色土(茶色サビ混じり)やや紫色っぽくみえる(S-350)
14 暗灰褐色砂質土
15 暗灰褐色土(12と同質に近い)
16 茶褐色粘土と暗灰色土の混合層
17 暗灰色粘土
18 灰茶色土と白灰色粘土と茶灰色土の混合層
19 茶灰色土(pit)
20 淡灰色土に暗灰茶色粘土ブロック、灰白色粘土ブロック混じる
21 暗灰色粘質土(黒灰色粘土と白灰色土を僅かに含む)
22 灰茶色土に灰白色粘土ブロックと黒色粘土ブロック混じる
23 やや明るい灰褐色土(細かい黄灰色土含む)
24 白灰色土と灰茶色土の混合層
25 白灰色土と黒色粘土と灰茶色土の混合層
26 淡灰色土に黄褐色土と暗灰茶色粘土混じる
27 暗灰色土に茶灰色土混じる(炭含む)
28 暗灰色土に茶色土(サビ)混じる
29 黄茶色土に灰色土が混じる
30 黄白灰色粘土(32と同質)
31 黒色粘土
32 灰白色粘土



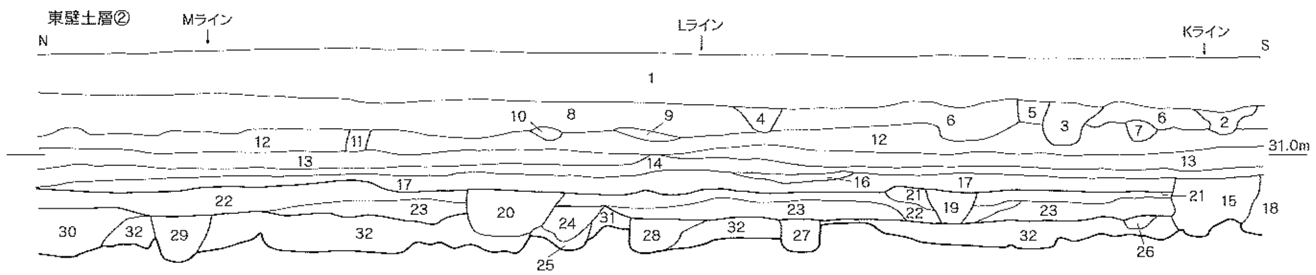
1 表土(礫、黄橙色土含む)
2 黄灰茶色土(旧耕土か？)
3 黄灰色土(灰色土が若干互層になっている)
4 灰色土
5 暗灰色土に炭、焼土塊を多く含む
6 撹乱と灰茶色粘土
7 茶色味を帯びた灰色粘土
8 灰茶色土、黒灰色土(焼土)と黄褐色土混じる
9 暗灰色粘土(茶色サビ混じり)
10 明灰茶色粘土
11 灰茶色粘土
12 茶褐色土
13 やや明るい灰色粘質土
14 淡茶灰色土
15 紫色味を帯びた茶灰色土
16 茶灰色土(細かい橙色土が混じる)
17 灰白色砂質土
18 灰白色砂
19 明灰白色砂質土
20 明茶色砂質土と茶褐色砂質土(やや固い)
21 明黄茶色砂(固い)
22 茶灰色土(やや粘質、橙色土混じり)
23 明灰色粘土
24 灰茶色土(やや砂質)
25 灰白色砂
26 暗灰色土と灰茶色土と灰白色砂の混合層
27 黒灰色土(やや砂質)
28 灰茶色土(サビ混じり)
29 茶灰色土
30 明茶灰色土(若干砂質)
31 灰色土
32 暗灰色砂質土
33 淡灰色粘土
34 暗灰茶色土
35 灰茶色土
36 淡灰色粘土ブロックと暗灰褐色土混じり層(やや固い)
37 淡暗灰色粘土(40と同じか？)
38 淡灰色粘土(黒色土が僅かにマーブル状に入る)(40層と同一)
39 黒色粘土
40 淡灰色粘土
41 やや明るい灰色砂(細かい砂)
42 暗灰色粘土(木混じる)
43 白灰色砂



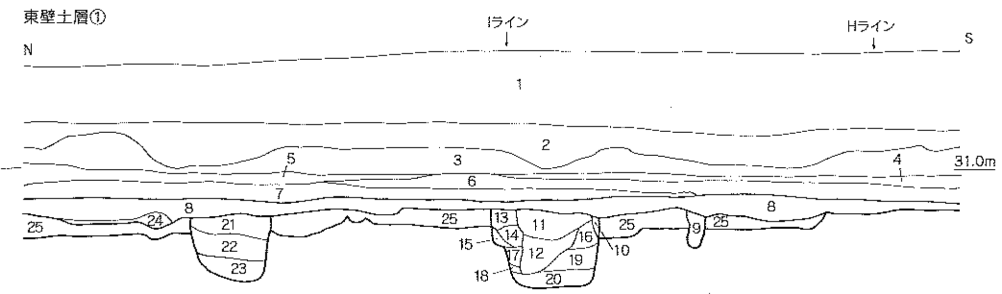
1 表土(礫混じり)黄橙色土混じり
2 灰茶色土
3 橙白色土ブロック混じり茶色土
4 黄灰茶色土(旧耕土か)
5 黄灰色土(灰色土が若干互層になる)
6 灰色土
7 灰色土に茶サビ混じる
8 炭を多く混じる暗灰色土
9 暗灰色土と橙色土ブロックの混合層
10 橙色土と暗灰色土の混合層
11 橙色味を帯びた茶灰色土
12 灰色粘質土
13 橙茶色土
14 暗灰色土に橙色土(サビ)混じり
15 暗灰色土(上層がやや茶色味)
16 暗灰色土
17 暗灰色土に黒色粘土ブロック混じり
18 淡黄灰色土



1 礫、バラス、真砂土を含む黒灰色土
2 灰色土(鉄サビ若干)
3 淡黄灰色土(下に行くほど黄色味が増す)
4 黄灰色土
5 黄茶色土(マンガンを多く含む)
6 橙灰色土(炭と黄茶色土ブロック混じる)
7 淡茶灰色土(炭混じる)
8 茶灰色土(鉄サビを多く含む)
9 暗灰色土(炭混じり)
10 淡茶色土(灰白色砂混じり)
11 橙白色砂(橙色砂が白色砂を挟む)
12 橙灰色土(礫と炭混じる)
13 茶灰色粗砂　13～15同一層
14 茶灰色粗砂
15 茶灰色粗砂
16 淡茶灰色細砂
17 灰黄色土(黄色粘土ブロック含む)17～20同一層
18 灰黄色土(黄色粘土ブロック含む)
19 灰黄色土(黄色粘土ブロック含む)
20 灰黄色土(黄色粘土ブロック含む)
21 淡茶灰色粘質土
22 灰黄色土



1 礫、バラス入り黒灰色土
2 灰色土
3 木柱片入り灰色土
4 灰色土
5 橙色土
6 暗橙色土
7 灰色土
8 黄色土ブロック含む暗橙色土
9 灰色土
10 灰色土
11 灰色土
12 淡茶灰色土
13 淡黄灰色土(黄色土が淡灰色土を挟む)
14 黄灰色土
15 淡茶色土
16 炭混じり灰色土
17 茶褐色土(上層がやや暗灰色土)16に似ている
18 バラス入灰色土
19 茶色土
20 茶灰色土
21 暗茶褐色土
22 明茶褐色土(マンガン含む)
23 暗茶灰色土(炭、マンガン多く含む)
24 茶色土
25 淡灰色粘質土
26 灰色粘質土
27 灰色粘質土(黄色土ブロック含む)
28 茶灰色粘質土
29 茶色土
30 茶色土
31 黄灰色粘質土
32 灰色土



1 黒灰色土(礫、バラス入り)
2 黄色土ブロック含む暗橙色土
3 茶色粒多く含む淡茶灰色土
4 黄灰色土
5 黄灰色土
6 マンガン含む灰茶色土
7 明茶褐色土
8 明茶色土
9 茶色土
10 茶灰色土
11 マンガン含む茶色土
12 淡茶灰色粘質土
13 茶褐色土
14 黄色土ブロック含む茶褐色土
15 黄色土ブロック含む淡灰色粘質土
16 黄色土ブロック含む淡灰色粘質土
17 淡灰色土
18 黄色土ブロック含む灰色粘質土
19 黄色土ブロック含む灰色粘質土
20 黄色土ブロック含む淡青白色シルト
21 黄色土ブロック含む茶灰色土
22 黄色土ブロック含む灰色土
23 黄色土ブロック含む淡黄色シルト
(21～23 S-1183)
24 茶灰色粘質土
25 淡灰色粗砂

10～20はS-1182

0　2m

Fig.5　第236-1次調査区土層実測図①（1/60）

Ⅳ、調査報告

1、第236-1次調査

(1) 調査に至る経過

第236次調査の調査地は太宰府市朱雀3丁目340-1、305-1で、太宰府市の南辺中央付近に位置する。

1992年2月29日、西日本鉄道株式会社の依頼によって二日市操車場跡地の試掘調査を行い2面以上の遺構が広がることが確認された。1995年に北辺部の市道が拡幅されることにより発掘調査が実施され(第168次調査)、試掘所見を上回る2～4面という高密度な遺構が展開されることが確認された。

平成14年2月28日、市の都市計画課から県道新設に伴う資料作成の要請があり、本格的に県道部分の発掘調査の調整に入った。

県道581号観世音寺二日市線は、月山官衙跡前から南に伸び、榎社の横を通り、筑紫野市境で県道福岡日田線（旧国道3号）に接続する道路であったが、西鉄二日市駅東口の開設や県道整備に伴って、榎社から西鉄二日市駅東口に通じる道路が新設されることとなった。そこで、西鉄太宰府線と西鉄二日市駅間の敷地および西鉄天神大牟田線と太宰府線に挟まれた三角形の広大な西鉄二日市操車場跡地を横切るように計画された。また、西鉄二日市駅に近い所では市道が新たに接続するということで、併せて調査を行った。調査は遺構密度が高い西鉄太宰府線より北側を第236-1次調査として先行して実施し、駐車場として使用していた南側を第236-2次調査として続けて調査を行った。

西鉄二日市操車場の主要な建物が建っていた部分が調査対象地ということもあり、その名残である線路や枕木などがみられたが、最も障害となったのは建物等の大きなコンクリート基礎で、深く入り込んだものは地山まで達し、遺構を大きく破壊していた。また、調査を行った2004年は、台風が過去最高の10個日本に上陸し、しかも温暖化の影響なのか、通常の降雨でも豪雨になるという異常気象の年であった。よって、ひと雨降れば現場は全面水浸しで、浅いところでも水深30cm近く水没するという状態で、昼夜問わず排水を行っても、2日以上かかってしまう始末であった。このような悪条件は現場進行の停滞と遺構の崩壊を招き、調査精度に大きな影響を与えることとなった。

発掘調査は第236-1次調査が2004（平成16）年4月19日から2005（平成17）年3月29日、第236-2次調査が2005（平成17）年１月26日から2005（平成17）年3月29日にかけて実施した。広大な面積と遺構面が複数に展開するため、調査は宮崎亮一と柳智子が常時担当し、調査中頃から松浦智が参加し行われた。開発対象面積は第236-1・2次調査合わせて約5000m^2、そのうち第236-1次調査の調査面積は2740m^{2}である。

(2) 基本層位

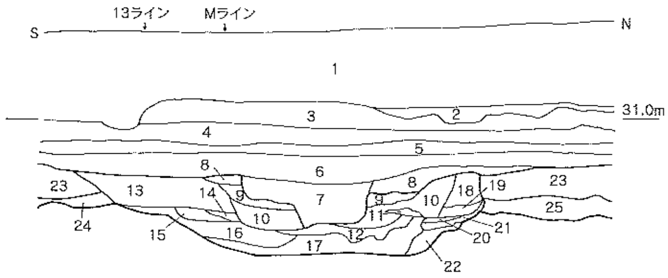
○第1遺構面の覆土

深さ0.9mほどまでは西鉄二日市操車場のコンクリート基礎、撹乱、表土が覆っている。その下に操車場建設直前に広がっていた田圃の耕作土と床土が全面に覆い、0.2mほどの包含層を除去したところで、第1調査面として遺構を確認している。現地表面から約1.1mの深さである。

○第1遺構面と第1遺構面基盤層

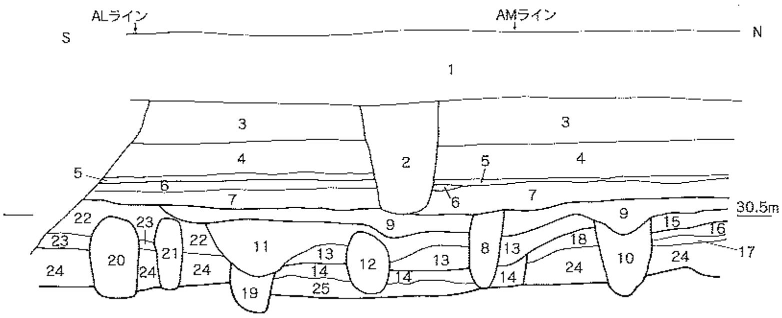
第1調査面での遺構検出時の取り上げ土色は灰褐色土で行ったが、AKライン付近から北側一帯では、重機による表土剥ぎ後、細かい土器片が多く散らばり、周囲と状況が異なっていたため灰茶色土と分けて取り上げた。

調査区西壁土層①



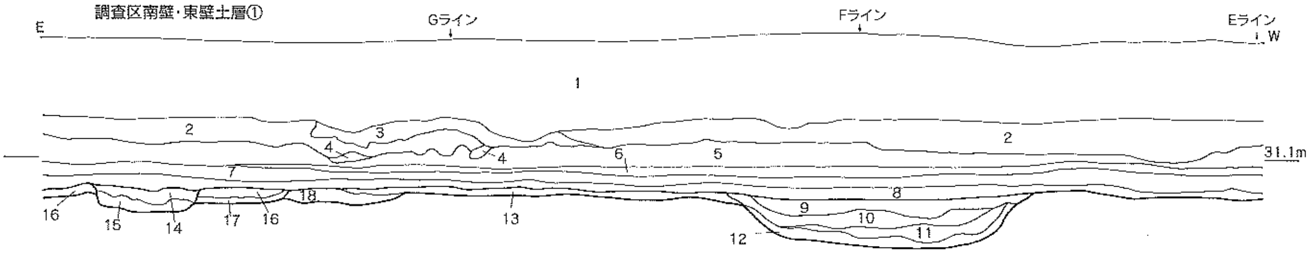
1 黒灰色土(礫、バラス、真砂土を含む)
2 灰色土
3 茶灰色土(茶色サビを含む)
4 淡橙灰色土
5 黄灰色土
6 茶灰色土(淡い茶色サビを多く含む)
7 茶灰色粘質土(炭を若干含む)
8 黄灰色土(黄色粘土ブロックを多く含む)
9 茶灰色土
10 灰黄色粘質土(黄色粘土ブロックを含む)
11 淡黄色シルトブロック土
12 橙灰色土(淡黄色シルトブロックと炭を多く含む)
13 明茶灰色土(炭混じり)
14 淡灰色粗砂
15 灰茶色粘質土
16 橙灰色粘質土(橙色土が混じる)
17 淡灰色粘質土
18 暗茶色土
19 淡茶灰色粘質土
20 淡青白色シルトブロック土
21 淡灰色粘質土
22 淡灰色土
(淡青白色シルトブロック混じる)
23 明茶灰色土
24 暗灰色土(炭混じり)
25 黄灰色粘質土

調査区西壁土層②



1 表土(礫混じり)
2 淡黄白色土ブロックと灰茶色土の混合層
3 淡黄白色土
4 黄灰茶色土(旧耕土？)
5 暗黄灰色土
6 黄茶色土と暗灰色土
7 暗灰色土(紫色味を帯びる)
8 暗茶灰色粘質土に灰白色粘土
ブロック下層に混じる
9 暗灰茶色土
10 灰茶色土に橙色土ブロック細かく混じる
11 灰茶色土(黄色ブロック僅かに含む)
12 暗灰色粘質土
13 黄橙色土ブロックが多く混じる灰茶色土
(下層に白色粘土)
14 暗灰色粘土(木質混じり)
15 暗茶灰色土
16 灰茶色土
17 灰白色砂質土(固くしまっている)
18 暗灰色土
19 暗灰色粘土
20 灰茶色土
21 暗灰茶色土
22 灰茶色土
23 暗灰色土
24 黒灰色土(炭少量混じる)
25 灰白色砂

調査区南壁・東壁土層①



1 黒灰色土(礫、バラス入り)
2 黄色土ブロック含む暗橙色土　西鉄操車場の整地
3 マンガン含む灰色土
4 灰色粘土
5 茶色粘土多く含む淡茶灰色土
6 淡橙茶色土
7 黄灰色土(黄色土と灰色土が若干互層になっている)
8 マンガン含む灰茶色土
9 茶色土
10 黄色土含む灰茶色土
11 灰茶色土
12 灰茶色粘土
13 マンガン含む明茶色土
14 茶色土
15 黄白色粘土ブロック含む灰茶色粘土
16 明茶色土
17 淡灰茶色土
18 茶灰色土

0　2m

Fig.6　第236-1次調査区土層実測図②（1/60）

第1遺構面基盤層は、大きくみれば薄い紫色のような土色で、調査地全体に広がっていた。しかし、北側が若干土質の異なる大きな塊状の整地で形成されていたため、北側の基盤層は土質ごとに遺構番号を付して除去した。また、第2遺構面が第1調査面検出作業時に部分的に確認できるところもあった。この北側の整地状況は南から続く淡黄灰色土の地山が窪み下がっていくAI付近からみられ、その整地を除去した面が第2遺構面である。第1調査面はその後の精査で、全体的に若干掘り下げ過ぎた部分がみられたが、この調査面が今回の調査地でほぼ最上の遺構面と認められた。しかし、南端部に関しては第1調査面で既に地山まで検出している状況で、第3遺構面までが同一レベルで確認できるという新旧混在した状況であり、その遺構の中で最も新しい遺構が第1遺構面のものということになる。

○第2調査面と第2調査面基盤層

第1調査面基盤層のうち、北側に団塊状に広がる整地を除去した後に確認し調査した面を第2調査面とし、その後の精査から第2遺構面と同じ意味をなしていると判断できた。調査区南側では第2遺構面は明瞭に確認できなかった。

Fig.7　第1調査面基盤状況

第2調査面基盤層は、主に灰色土層で、これは淡黄灰色土のシルト質の地山を覆う土層である。平安時代前期の遺物を含む層で、SD015の東西溝の北側付近から始まり、北に進むにつれ徐々に深くなり、深いところで厚さ0.4mほどになるが、大きな撹乱を挟んで北側は厚さ0.1m前後と薄くなりながら北側へつづく。SD415の東西溝があるAI付近から北側は、淡黄灰色土が深く下がり、全体が落ち込み状になっていたためか、層位が南側と異なるため灰色土の広がりが明確につかめていない。灰色土層は全面一様な整地ではなく、南側の灰色土が始まる部分は全体が灰色土であるが、大撹乱に近いほど若干状況が異なり、灰色土の下層、つまり、地山を覆う層は、黒灰色粘土ブロックと黄灰色土と灰茶色土の混合層である。また、大撹乱の西側のSD170の周囲は黒灰色粘質土や灰色粘質土が0.2mほど窪み状に堆積していたが、遺物は殆どなく、重機によって除去した。

灰色土の遺物は上面で出土することが多く、掘り下がるほど極端に少なくなる。掘削時は判別できなかったが、その後の精査で地山（淡黄灰色土）と第3遺構面との間には2層あることが確認され、その上層が第2調査面の基盤層（灰色土とする）であり、下層は第3遺構面の基盤である。この下層は一様に広がるものでなく、アメーバ状の凹凸である。

また、一部第1遺構面の遺構の掘り残しがあるのか、11世紀の遺物が部分的に出土する。

○第3遺構面と第3遺構面基盤層

第3調査面検出作業で、第2調査基盤層（灰色土）が上下2層になっていたことに気づかなかったため、第3遺構面の基盤層も一部同時に掘り下げてしまった。よって、調査では地山やそこに掘り込まれているアメーバ状の凸凹に、遺構が切り込んでいる状態で検出されたが、実際には、これらを覆う薄い灰色土

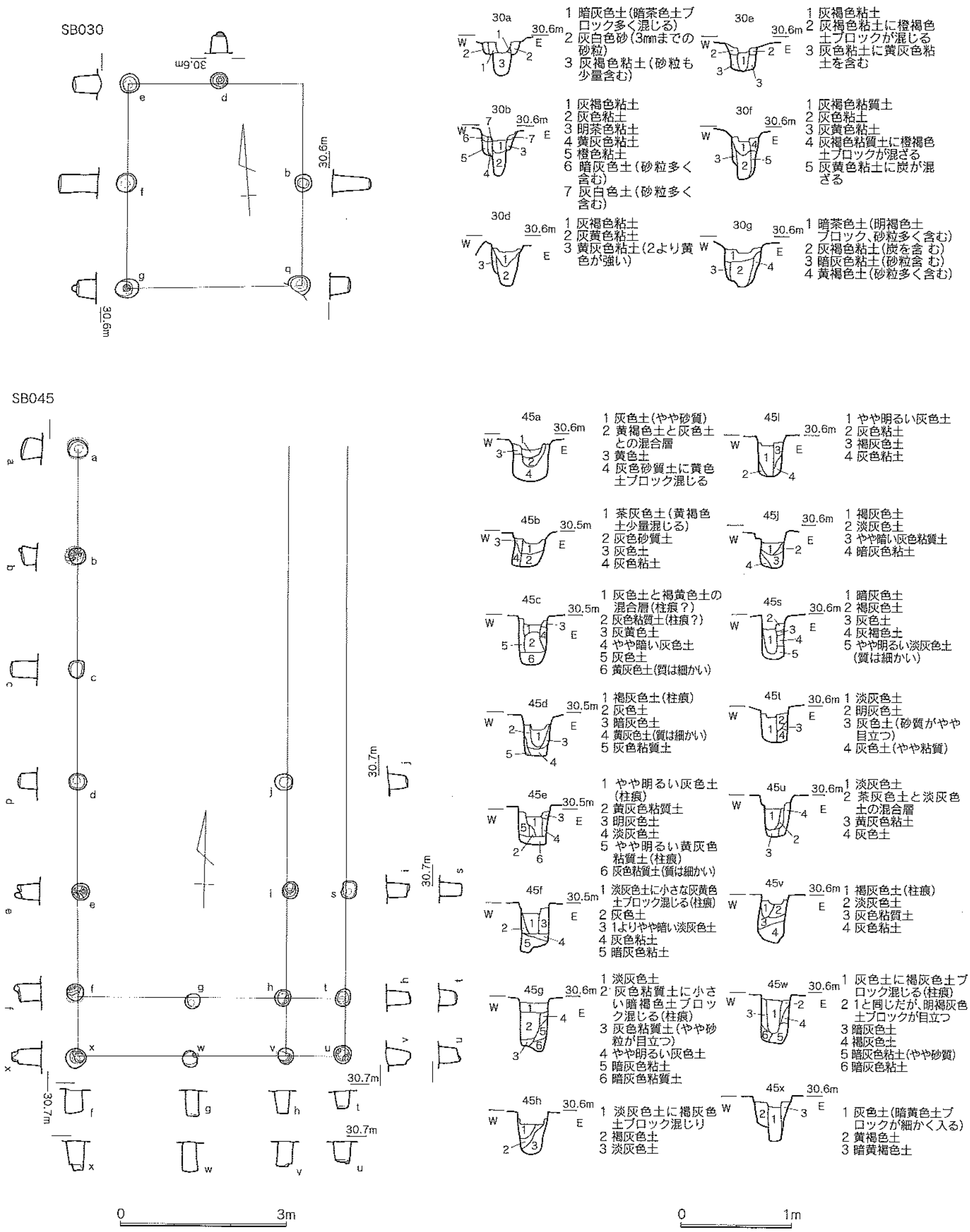


Fig.8 SB030・045遺構実測図（1/100、土層図は1/50）

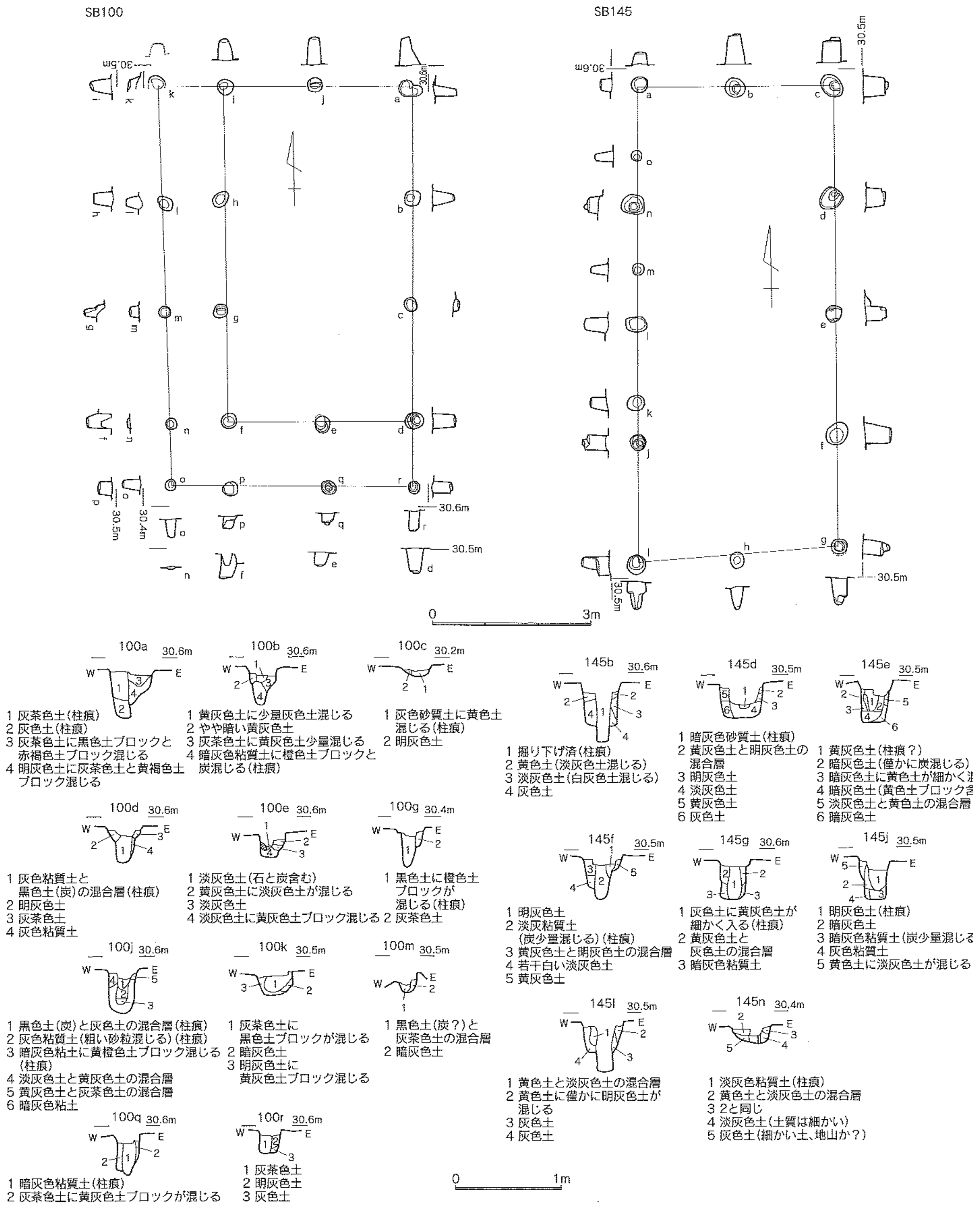


Fig.9　SB100・145遺構実測図（1/100、土層図は1/50）

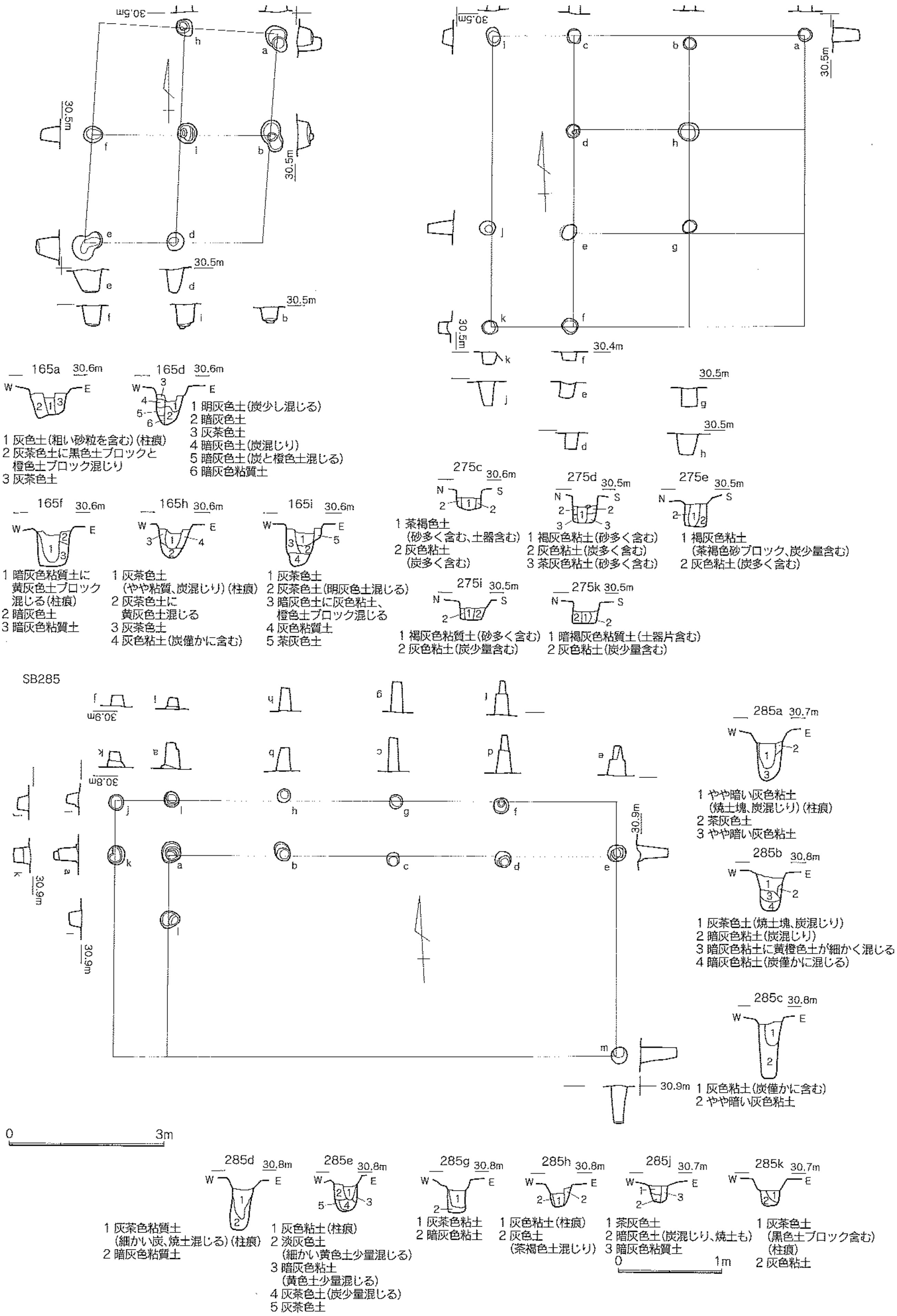


Fig.10　SB165・275・285遺構実測図（1/100、土層図は1/50）

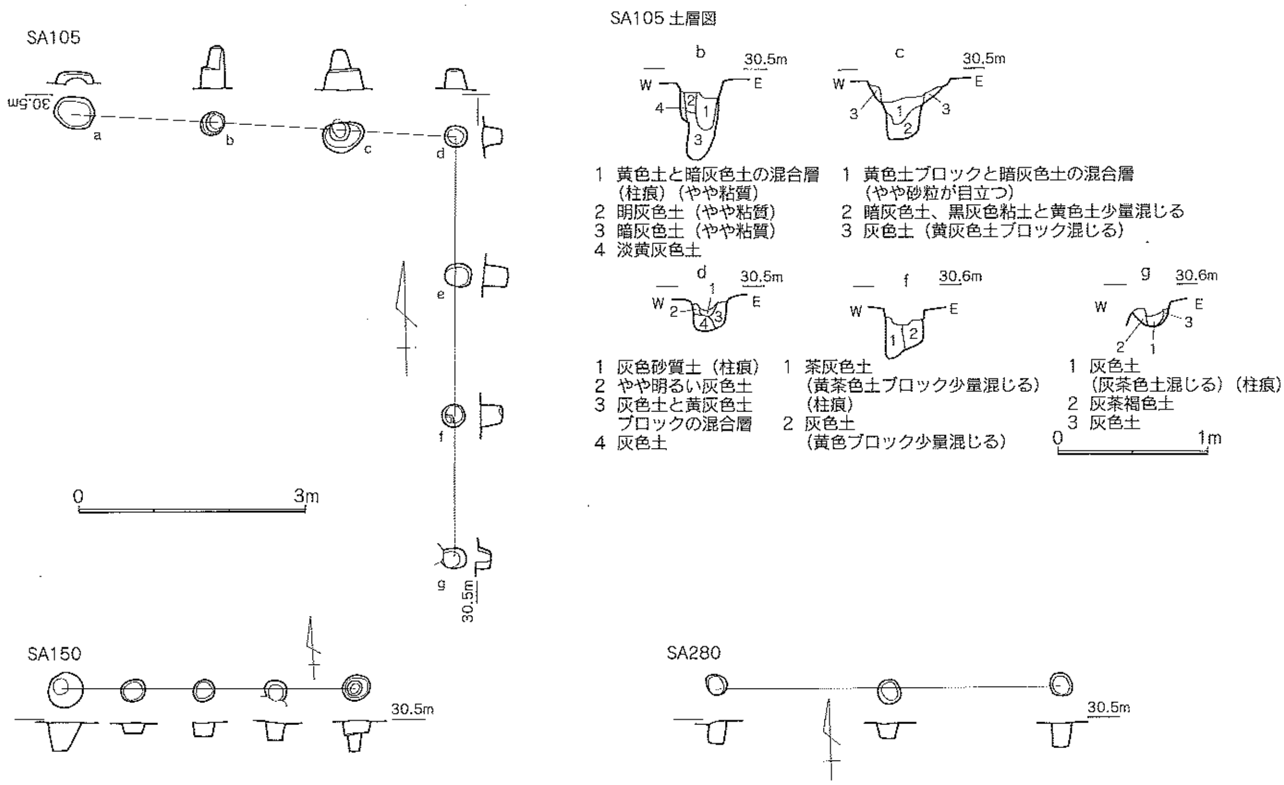


Fig.11　SA105・150・280遺構実測図（1/100、土層図は1/50）

下層が第3遺構面の基盤であることが、その後の精査で確認できた。第3遺構面の南端部分は第1調査面で確認され、調査を行った。

○第4遺構面

第4遺構面は第3調査面で検出された遺構のうち、埋土が淡灰色の真砂土のような土や灰色砂で、地山である淡黄灰色土にアメーバ状に広がっているものが第4遺構面の遺構である。調査区北側で検出された黒色粘土にも、凸凹に入り込んでいて、黒色粘土ブロックやその下層の白灰色粘土のブロックなどが埋土に含まれている遺構を第4遺構面と判断した。これは、自然によるものではなく、人工的に掘り返されたものであることが理解できたが、そのほか淡黄灰色土に広がるアメーバ状の凸凹は僅かに遺物が含まれているものの、すべて人工的な意図がある掘り込みとも言い難く、また、淡黄灰色土の地山が降雨後とても柔らかいことから上面からの沈み込みも含まれていると考えられる。

(3) 検出遺構

3つの調査面に分けて発掘調査を進めたが、III章の調査および整理方法で述べたように整地の有無等によって第1調査面で第3遺構面の遺構を掘ることもあり、よって、時期の異なる遺構が混在する結果になっている。ここでは調査面で報告し、各時期については第VI章でまとめることにする。

○第1調査面

掘立柱建物

236-1SB030 (Fig.8)

2×2間の南北棟。振れは桁行で約N-3° 43′ -Eである。北東隅は調査区外で、南側中央はSK050に攪乱されて不明である。掘り方は円形で直径0.3 ～ 0.4m、深さは0.4 ～ 0.7m、柱痕は直径0.1 ～ 0.15m程である。柱間は南北が1.8 ～ 1.9m、東西が1.6mを測る。

236-1SB045 (Fig.8)

2×5間の南北棟であるが、北側は調査区に接するため、5間で終わるかさらに延びるのかは明確でない。振れはN-1° 45′ -Wである。柱間は梁行が西から2.0mと1.8m、桁行は2.0mで南端の柱間のみ1.9mである。掘り方は円形で直径0.25 ～ 0.35m、深さは0.35 ～ 0.5m、柱痕は直径0.12m前後である。さらに東側と南側に1.08mの間をあけて庇が1間付いている。掘り方は格子状に広がる畑状遺構の溝の埋土に掘り込んでいる。

236-1SB100 (Fig.9)

2×3間の南北棟の掘立柱建物で、南と西に庇が1間づつ付く。振れはやや歪んでいて、東側の柱筋で約N-1° -Eを測る。柱間は梁行1.75m、桁行2.1m。掘り方は径0.3m前後、深さ0.4 ～ 0.5mで、庇の掘り方は径0.2m前後、深さ0.2 ～ 0.3m、柱痕は直径0.12 ～ 0.16 mである。西北隅の庇の掘り方がXII期埋没のSD070の埋土に切り込んでいるため、それ以降の建物と推測される。

236-1SB145 (Fig.9)

2×4間の南北棟の掘立柱建物で、振れはほぼ真北を示している。柱間は桁行およそ2.2m、梁行1.9mを測る。掘り方は径0.3 ～ 0.4m、深さ0.5前後の円形で、柱痕は直径0.12 m前後である。西側のみそれぞれの柱間の中央付近に径0.2 ～ 0.3mのピットが確認された。そのピットの埋土は灰色粘土である。

236-1SB165 (Fig.10)

2×2間の総柱の掘立柱建物で、振れは全体的に歪んでいて、東西に柱筋を合わせている所もあるが、およそN-1° 56′ -Eに振れている柱筋もある。柱間は東西1.7 ～ 1.8m、南北2.07mを中心に狭い所は1.95mを測る。掘り方は径0.3 ～ 0.4m、深さ0.4m前後の円形で、柱痕は直径0.16 m前後である。SB100と重複しているが、掘り方の切り合いがなく新旧については不明。北西隅の掘り方は確認できていない。埋土に焼土塊を含むものがある。

236-1SB275 (Fig.10)

2間以上×3間の総柱の掘立柱建物の東西棟で、東側は調査区に接するため、さらに東側に続く可能性がある。西側に建物から1.6mで庇が付く。振れはN-2° 35′ -Eを測る。柱間は東西2.2m、南北は1.8m、2.0m、1.8mで中央部分がやや広い。掘り方は径0.22 ～ 0.38m、深さ0.2 ～ 0.5mの円形で、柱痕は直径0.1m前後である。柱痕は褐灰色粘土で、裏込めは灰色粘土で、両方に炭化物を多く含んでおり、これらの炭化物は建物建築前のものと推測される。

236-1SB285 (Fig.10)

調査区北端で南側は、試掘トレンチによって消滅している。3×4間の東西棟で、北と西には建物から1.06mで庇が付く。振れはW-2° 57′ -Nを測る。柱間は東西2.15m、南北は約1.2mを測る。掘り方は径0.24

～ 0.38mの円形で、焼土塊が多く出土する。また、柱痕は灰色粘土である。

236-1SB340

4間以上×2間以上の南北棟で、南側は撹乱により不明、西側は調査区外へ続いていて、この報告書作成時にその西隣で第267次調査が行われていて、続きを確認した。柱間0.9 ～ 1.2mで、振れはほぼ真北を示す。柱痕は全体に灰色や茶灰色の粘土で、明瞭に確認できる。

236-1SB655

調査区西端で検出したピットが、その後隣接地で調査を行った第255次調査のS-101と第257次調査のS-5と合わせて、2間以上×3間の南北棟で、南側と東側に１間の庇が付く建物であることが判明した。振れはおよそN-1°57′-Eを測る。掘り方が楕円形のものが多く、建替えもしくは柱痕の除去が行われた可能性が考えられるが、柱穴掘削後に建物と認識したため掘り方の埋土状況が掴めていないため、明確に言い切れない。柱間は南北2.0m、東西は1.8mと2.0m、庇との間は東側が1.0m、南側1.08mである。全体として4.9m×7.0mの建物である。

236-1SB660

調査区南端で検出したピットが、隣接する第255次調査のS-60と合わせて、東西2間、南北4間で、南側に庇が付く南北棟と考えられる。柱間は南北2.1m、東西1.8m、庇との間は2.2mを測る。振れはN-2°30′46″-Eである。

柵列

236-1SA105（Fig.11）

南北3、東西3間のL字に展開する柵列で、東西5.0m、南北5.45mを測る。当初は調査区外に続きがあると推測し、掘立柱建物と考えていたが、隣接地で調査を行ったところ、続きとみられる遺構が確認できなかったため、柵列として報告する。柱間は南北1.85m、東西1.55 ～ 1.9m。

236-1SA150（Fig.11）

東西に並ぶ柱痕を確認した5個のピット列。全長4.0m、柱間0.92 ～ 1.06mで、振れはW-2°43′-Nを測る。SB145の掘立柱建物の掘り方と接しているが、切り合い関係は微妙で不明瞭である。

236-1SA280（Fig.11）

SB275の北側に平行して東西に並ぶ3個のピット列。全長4.5m、柱間2.3mで、振れはW-1°-Nを測る。SB275の柱間とほぼ同じであるため、建物と関係があるものと考えたいが、同時に存在するにはあまりに近接しているため、時期が異なる柵列と考える方が妥当であろう。

236-1SA325

柱痕を確認した3個のピットで、南北に並び、対となるピットが確認できないため、柵列と推測される。全長4.7m、柱間2.2mと2.5mで、振れはN-19°47′-Eを測る。柱痕は灰色粘土であった。

溝

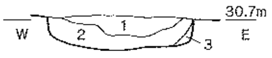
236-1SD001（Fig.12）

振れはN-0°43′29″-Sの南北溝だが、途中で東に屈曲した後、さらに北側に伸びている。検出長17.6m、幅0.6 ～ 0.85m、深さ0.1 ～ 0.18mを測る。埋土は周囲の地山に似た土質で、茶褐色土と淡灰色土の混合層で、南側に行くほど黄色土混じりの灰色土に変わっていく。遺物は玉縁の白磁が1点出土する以外は奈良時代の遺物が多い。

236-1SD015（Fig.12）

振れはE-1°42′17″-Nの東西溝で、SD020と平行する。検出長20.3m、幅0.65 ～ 1.6mで東側がやや狭い。深さ0.05 ～ 0.15mで底面はほぼ水平である。

SD001 東西土層①

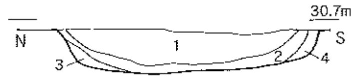


1 黄色土と灰色土の混合層
2 灰色土(やや細かい) に
　小さな黄灰色土含む
3 黄灰色土と淡灰色土の混合層

SD001東西土層②

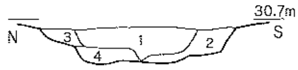
1 淡灰色土と茶褐色土の混合層
2 淡灰色土(やや細かい)
3 こげ茶色土

SD020南北土層



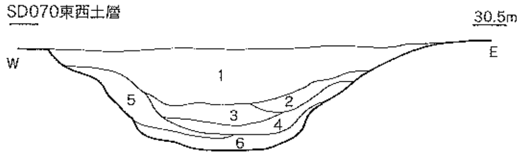
1 灰色粘質土(黄色土ブロック少量含む)
　(茶サビが多い)
2 明灰色粘質土
3 淡灰色土(地山と同じ砂粒がみられる)
4 淡灰色土(地山と同じ砂粒がみられる)

SD015南北土層



1 灰色粘質土に暗茶色土ブロックを多量に含む
　炭、橙色土ブロック少量含む
2 1と同じで、暗茶色土ブロックが少ない
3 明灰色粘質土に暗茶色土ブロック少量含む
　炭、橙色土ブロック少量含む
4 灰色粘質土に黄灰色シルトブロック含む
　暗茶色土ブロック少量含む

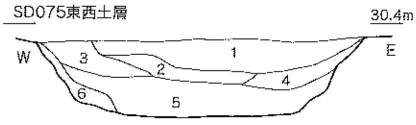
SD070東西土層



1 黄褐色土で灰色土と茶灰色土との混合層
　(明黄色土ブロック少量混じる)
2 黄褐色粘質土と茶灰色土の混合層
3 淡灰色粘質土(黄褐色土が若干混じる)
4 灰色粘土
5 淡灰色砂
6 暗灰色粘土

遺物取り上げ土層との対照
灰茶色土…1.2と5の一部
暗灰色粘…2~5
灰色粘…6

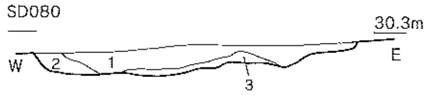
SD075東西土層



1 茶灰色土と黄褐色土ブロックと黄灰色土の混合層
2 暗灰色粘質土に茶色のサビ色がみられる層
3 茶灰色土
4 暗灰色粘質土
5 暗灰色粘土
6 暗灰色砂(やや粘質土混じる)

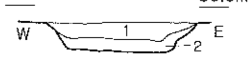
遺物取り上げ土層との対照
灰茶色土…1
暗灰色粘…2~4.6の一部
灰色粘…5と6の一部

SD080



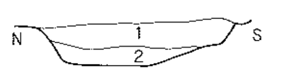
1 茶灰色土
2 灰色土(黄色土ブロック含む)
3 黄色粘土(地山)

SD0155



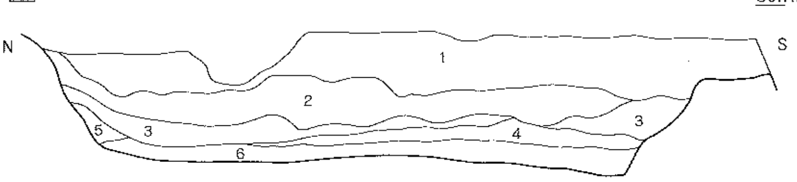
1 灰茶色土
　(橙色砂ブロックや灰色粘土ブロック多く含む
　炭化物少量含む)
2 灰色砂質土(灰茶色土ブロック、炭化物少量含む)

SD190南北土層



1 褐色土(砂粒を多く含む)
2 灰褐色粘土(褐色土、淡褐色砂質シルトが混ざる)

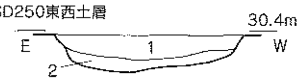
SD130南北土層



1 黒灰色土(黄色土ブロック含む)
2 茶灰色土(黄色土ブロック含む)
3 灰色粘土
4 暗灰色砂質土(黄色土ブロック含む)
5 黄色粘土ブロック土(地山壁の崩落土)
6 淡灰色砂質土(黄色土ブロック含む。粗い)

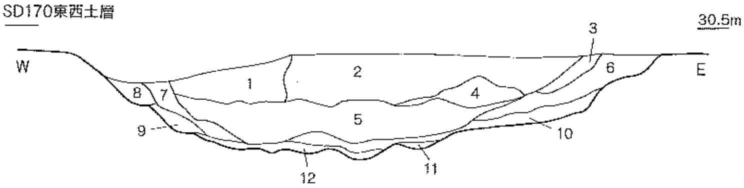
遺物取り上げ土層との対照
黒灰色土…1
茶灰色土…2

SD250東西土層



1 茶灰色土
2 茶色粘土

SD170東西土層



1 黒灰色土(黄色土ブロック含む)
2 茶灰色土(黄色土ブロック含む)
3 灰色粘土(茶灰色土含む)
4 灰色粘土(茶灰色土含む)
5 灰茶色土(マンガン沈殿)
6 灰色粘土(黄色土ブロック含む)
7 灰色粘土
8 茶灰色粘土
9 暗灰色土(黄色土ブロック含む)
10 暗灰色粘土(茶色土ブロック含む)
11 灰色粘土
12 灰色粘土

遺物取り上げ土層との対照
茶灰色土…1~4.6の一部
灰茶色土…5.6.10
黒灰色土…7~9.10の一部
灰色粘…11.12

SD170遺物出土状況

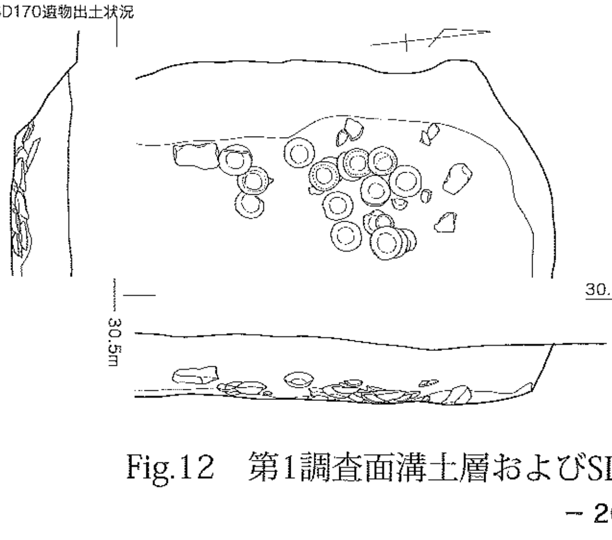


Fig.12　第1調査面溝土層およびSD170遺物出土状況実測図（1/40）

遺構検出時点で、S-22や茶褐色土など11世紀の遺物を含む層が薄く上面を覆っていた。5ラインより西側では、暗灰色土に深く切り込んだ淡灰色土が明瞭に確認できた。淡灰色土には須恵器の蓋3や土師器の坏a（9世紀代）の小破片を僅かに含んでおり、暗灰色土のような7世紀末前後の遺物という状況と大きく異なっている。淡灰色土の南端は溝の検出ライン内におさまっていることから、全く異なる溝とは考えがたく、8世紀中頃には殆ど埋没していた可能性が高く、SD015の北で確認された整地が行われた平安時代前半にはこの溝は完全に機能していなかったと推測される。しかし、7世紀末前後の遺物が殆どを占める暗灰色土のような状況は、今後注意すべき課題である。

また、西端で馬の歯片は出土したが、この付近は数条の溝が切りあっているため、この溝の埋没に伴うものなのかは明確でない。

236-1SD020（Fig.12）

振れはW-1°49′37″-Nの東西溝で、SD015と平行する。検出長13.1m、幅1.1～1.65m、深さ0.2m前後でほぼ水平である。北岸が南岸に比べ、なだらかに立ち上がる。埋土は大きく2層に分けられるが、上層はその上の埋土によって、土壌変化したような感じで、土質はほぼ同質とみて問題ないであろう。また、淡灰色土ではF4～F5付近で骨片が少量出土し、その中に馬の歯が含まれていた。

236-1SD035

振れはW-1°39′37″-Nの東西溝。SD015を切っている。検出長4.25m、幅0.95m、深さ0.1～0.2mで、東側が若干深くなっているが、全体の埋土は同じ明灰色土である。

236-1SD041・042

振れはE-0°48′45″-Sの東西溝。検出長7.9m、幅0.2～0.8m、深さ0.1m前後である。第257次調査で、この延長上の溝が道路南側溝をなしている。

236-1SD065

振れはN-7°7′30″-Eの南北溝。検出長4.45m、幅0.5～0.7m、深さ0.04～0.1mの浅い溝で、埋土は暗灰色土の単一層である。SD030の建物がこの溝の埋土に切り込んで建てられている。

236-1SD070（Fig.12）

振れはN-2°22′49″-Eの南北溝。検出長18.7m、幅1.1～2.0mで1.8m前後、深さ0.45～0.5mを測る。周囲の地山は黄灰色の細かい土で非常に柔らかい。多量に出土した遺物は殆どが土師器で、糸切り痕跡は確認できない。遺物の時期幅はない。遺物を含む層は土量より遺物量が多い状況で、一括廃棄したと推測される。北側は撹乱で大きく削平されているが、その直前で陸橋状の高まりがあり、上端幅が0.4m以上、溝との高低差0.2mを測る。南側のSD075との境界部分も試掘で削平を受けているが、陸橋状になっていて上端幅0.43m、下端幅1.27m、高さ0.3mを測る。この陸橋間は上端で12.6m、下端で11.8mを測る。これは条坊内の道路側溝でみられる連続土坑の状態が良いものと見られる。

埋土は遺物を多く含む層が暗灰色粘土と灰色粘土で、粘土が厚く堆積している。その両岸には砂層が薄く堆積する。特に北側の陸橋状になっている部分には粗い砂がやや厚めに堆積していた。

236-1SD075（Fig.12）

南側は調査区外に続き、北側は陸橋状の高まりを挟んでSD070に続いている南北溝。検出長3.85m、幅1.85m、深さ0.5mを測る。埋土の堆積状況も下層ほど粘土層になっている。よって、SD070と同じ遺構とみて間違いないであろう。

236-1SD080（Fig.12）

振れはN-5°49′5″-Wの南北溝。検出長8.65m、幅0.6～2.4m、深さ0.05～0.15mを測る。遺物は多くないが、奈良時代の遺物が多い。遺構は浅いため、溝の両肩は直線的ではなく、蛇行している。北

側がやや深くなっている。

236-1SD125

検出長2.25m、幅1.15m、深さ0.3mを測る南北溝。。調査区端のため全容は不明瞭だが、SD080に切られている。埋土は細かい淡灰色土で、周辺の地山の土が堆積したとみられる。埋土中に川原石は4個まとまって出土した。

236-1SD130（Fig.12）

振れはW-1° 49′ 32″-Nの東西溝。西側が大きく撹乱によって破壊され、東側はすぐ調査区外になるため、検出長4.0m、幅3.55m、深さ0.6mを測る。南側に淡灰色土、北側に明灰色土、それを除去すると一見地山のような黄色土と灰色土の混合層がみられたが、横の撹乱からこれは溝の埋土であることが確認できた。底面は途中に幅0.37～0.6mほど陸橋のようになっていて、高さは東底より0.2m、西底より0.45mを測る。埋土の最下層は灰色土のとても細かい土である。その土質はこの現場の雨天後に堆積した土壌に良く似ているため、随時流水があったというより、自然に堆積したとみるのが妥当であろう。

236-1SD155・190（Fig.12）

南北方向の溝だが、東にやや湾曲している。検出長15.0m、幅0.9～1.0m、深さ0.14～0.3mを測る。SD070の延長上に位置するが、その間が撹乱で大きく削られているため、連続性が掴めない。埋土もSD070と全く異なり、茶褐色土で遺物も散発的に出土する状況である。SD155とSD190は撹乱によって分断されているが、埋土の状況が茶灰色土と灰茶色土の2層に分かれ、全く同じであることから、同一のものと判断できる。

236S-1SD170（Fig.12）

振れはN-5° 2′ 23″-Eの南北溝。長さ12.3m、幅2.6～3.15m、深さ0.3～0.55mを測る。北端ではほぼ完形の土師器の丸底坏aが19個、小皿aが1個が重なり合って出土した。出土位置は底面より僅かに浮いた状態であるが、土器間の埋土と土器下の埋土は殆んど同じである。また、土師器は裏返ることなくすべて正位置で出土していることなどから、埋没時に意図的に置かれたものと推測される。その他では破片が出土するくらいで、多量に遺物が出土する状況ではない。埋土はやや濁った茶灰色土と灰茶色土が厚く堆積している。底および側面には灰色土や灰色粘土が薄く堆積している。また、丸底坏4枚の内面に薄く炭化物が堆積していた。樹種同定の結果、第V章に記しているようにシャンシャンボとツゲ科の炭化物であった。

236-1SD180

南北溝で振れはN-0° 6′ 39″-Eである。長さ9.8m、幅1.6m以上、深さ0.05m前後と浅く、埋土は黒灰色土で、底面には2条の南北溝（SD329、SD185＝225）が走り、東端の溝（SD329）は幅0.45～0.8m（0.6m前後）、深さ0.1～0.2mで、西側の溝（SD185）の西側立ち上がりは調査区外のためどのようなものかは明確にはわからない。両溝の埋土はほぼ同じで茶灰色土である。しかし、SD225についてはSD185の延長上にあるため、同一の溝とみられるが、遺物から9世紀代の埋没の可能性が考えられるため、明確に言い切れない。

236-1SD210

長さ約4m、幅2.6m、深さ0.3m前後の東西溝。東側を撹乱できれいに無くなっているが、その東側延長上にSD130がある。埋土状況が異なるため、全く同一のものとは言いがたいが、北側のラインは揃っているため、同じ意味を成す溝と推測される。2遺構を合わせた振れはW-0° 30′ 6″-N。埋土は暗灰色土で撹乱近くでは黄色土や木材が出土したが、撹乱による影響と考えられる。

236-1SD220

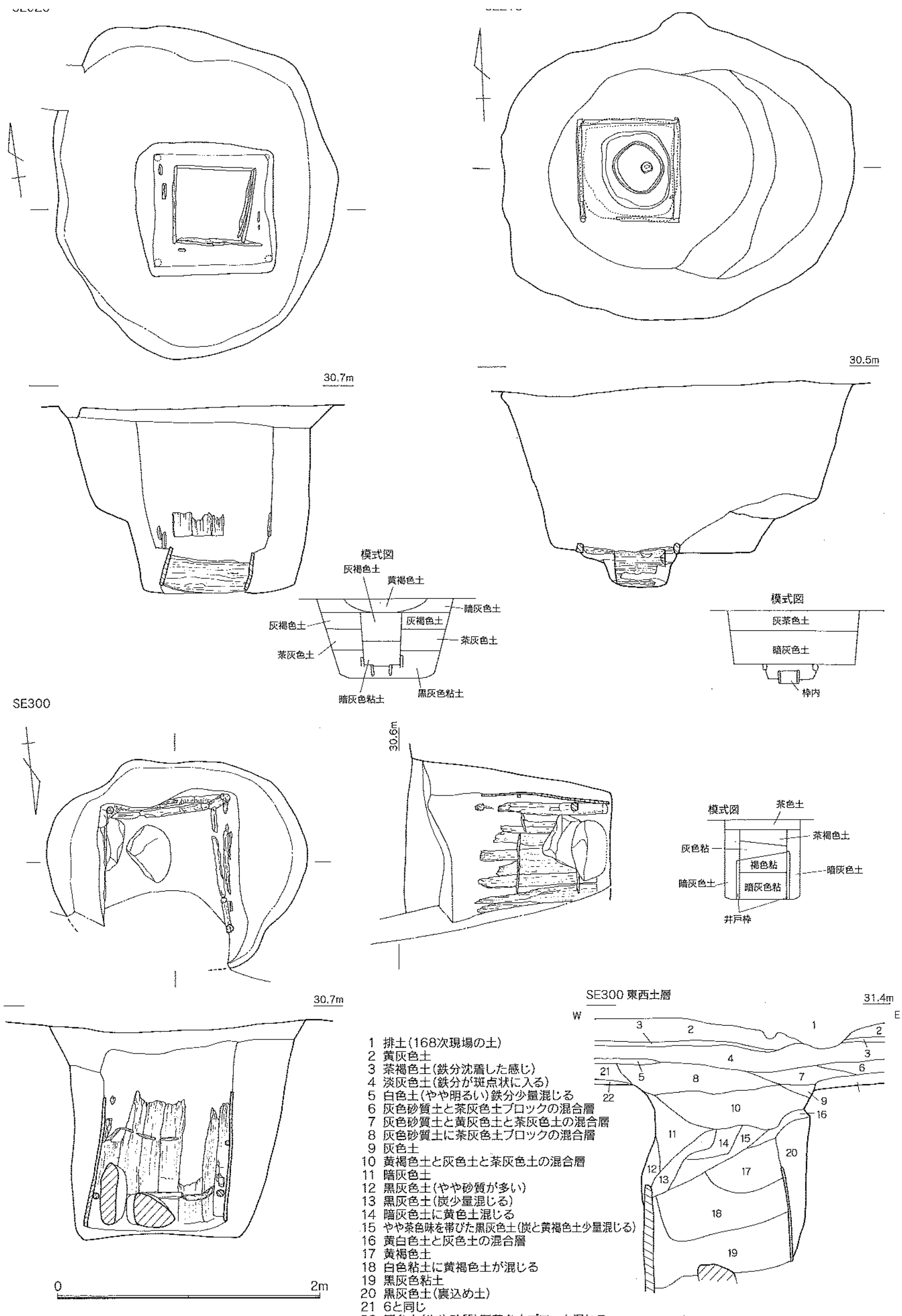


Fig.13　SE025・215・300遺構実測図（1/40）

振れはN-7° 4′ 43″ -Eの南北溝。長さ4.2m、幅0.84 ～ 0.98m、深さ0.1 ～ 0.2m。埋土は茶灰色土でほぼ単層である。畑状遺構に切られている。

236-1SD250·260・335（Fig.12）

振れはN-0° 36′ 23″ -Wの南北溝。長さ25.9m、幅1m前後、深さ0.15m前後でU字形をしている。埋土はおよそ2層で、上から灰茶色土と茶灰色土である。遺物量は比較的少ない。SD250と260と335は、それぞれ分断されているものの埋土の状況などから同一の溝と判断できる。

236-1SD270

振れはN-5° 19′ 7″ -Eの南北溝で北端が東に若干蛇行している。長さ11.6m、幅0.6 ～ 0.75m、深さ0.05 ～ 0.1m。埋土は淡灰色土でほぼ単層である。

236-1SD657・658

長さ1.7 ～ 2.3m、幅0.3m前後、深さ0.05 ～ 0.1m前後の小さな東西溝だが、畑状遺構のSX645の北端部に位置する。

井戸

236-1SE025（Fig.13）

東西2.1m、南北2.5m、深さ約1.4mの楕円形をした掘り方で、遺構検出段階で円形プランの中央に黄褐色土が不定円形で確認できた。遺構全体を0.2mほど掘り下げた段階で、井戸枠と推測される方形プランを確認した。

井戸枠は一辺0.8mの正方形で、北側と南側に幅0.05 ～ 0.1mの板材を立て並べていたが、本来の厚みがわからないほど腐食し、一部に残るのみであった。また検出段階でかなり土圧によって前に押し出されていた。四隅には井戸枠を留めていた隅柱の痕跡とみられる径0.05mほどの空洞があった。

中央には0.6×0.6mの正方形に組まれた板材が検出されたが、これはいわゆる曲物の代用であろう。部材の厚さは0.025m、幅は約0.3mで、部材同士はホゾなどの細工もなく組まれていた。表面に加工痕跡などは確認できなかった。この板材上面と井戸枠の底面とでは約0.1 ～ 0.2mの落差があり、やや不自然な状態を示している。

掘り方の明確な底面は、調査中に湧水によって周囲が崩壊してきたため、確認できていない。

236-1SE215（Fig.13）

東西2.68m、南北2.32m、深さ1.38mの楕円形をした掘り方で、東側が一段テラス状になっている。井戸枠は横桟の最下部が残っていて、内法0.68m×0.7mを測る。横桟は西側のものが断面方形状に加工を施しているが、それ以外の3本は樹皮が残り、自然木をそのまま利用したものとみられる。それぞれの端部は凹凸状にホゾ加工し組まれていたとみられるが、腐食し欠損も目立つ。

横桟に囲まれた中央には径0.38m、深さ0.26mの曲物が残っていた。曲物は一辺0.74m、深さ0.26mの正方形の掘り方に納められ、横桟はその掘り方の上面に置かれた状態であった。掘り方の中央付近より下は砂質土で、調査中は曲物内のみ湧水し、その曲物内からは瓢箪のような木製品は出土した。

236-1SE230（Fig.14）

東西1.9m、南北1.8m、深さ1.2mの楕円形をした掘り方で、西側上面は撹乱によって、削平されている。井戸枠は検出面から約0.6m付近から残っていて、四隅に隅柱を立て（1ヶ所欠損)、内法0.6m×0.7mを測る。南・西側には井戸枠が残存しているが、北側および東側の井戸枠は残っておらず、土層観察からも崩壊したことが窺える。井戸枠は腐食が著しいが、幅0.09 ～ 0.12m、厚さは現状では5mmの縦板を使用し、それぞれ南辺は縦板が約8枚、西辺は約9枚、東側は1枚のみ残存していた。南辺では縦板が一部二重になっていた。隅柱は直径約0. 05m前後の断面円形で、ホゾなどの加工痕跡は腐食が著しく未確

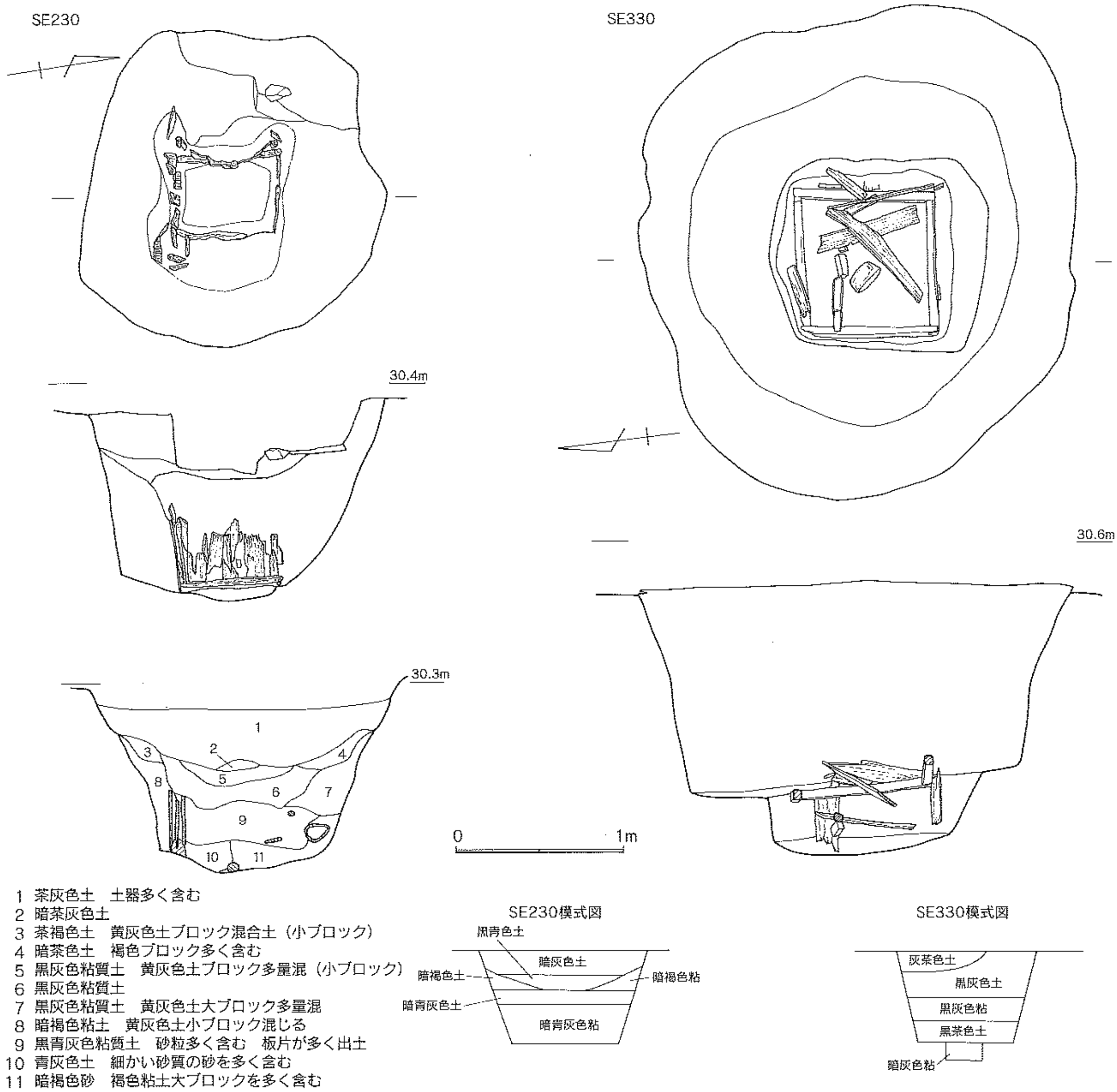


Fig.14　SE230・330遺構実測図（1/40）

認。横桟は腐食が著しいが、およそ断面円形をしており、直径0.02～0.05mを測る。横桟は縦板の最下部付近で縦板を押さえるように設置されていた。東側の横桟は隅柱より内側にずれていて、また、東側の横桟が南辺の縦板の二重部分の内側の縦板にくい込んで検出されたことから、二重の縦板は修復痕跡の可能性が考えられる。井戸枠内の埋土から板片が少量出土し、最下層からは焼けた花崗岩が出土した。井戸底周囲の地山は粗い褐色砂である。

236-1SE300（Fig.13）

調査区の北端に位置し、北側が調査区外になり未検出である。掘り方は東西2.0m、南北1.6m以上、深さ1.6mの楕円形である。井戸枠の内法は東西0.9m、南北1.0mを測り、縦板は検出面から約0.5m付近から残っているが、腐食が目立ち部材はぶよぶよの状態である。幅0.08～0.11m程で、一部幅0.2mのものもある。厚さは殆ど1.5cm前後である。横桟は2段分が残存し、上段の横桟はかなり腐食していて、原型を失いかけているが、元来直径0.03m程の自然木を使用していたとみられる。また、横桟は隅柱のホゾに差し込まれていたとみられるが、横桟は当初の位置から最大0.2mほど落下していたが、隅柱に僅かにホゾが差し込まれた状態で残っていた。下段の横桟は直径約0.04～0.05m程で、良好に原型を保っている。それぞれ端部は隅柱に彫りこまれたホゾに差し込まれた状態で検出された。上段のホゾ穴は残り

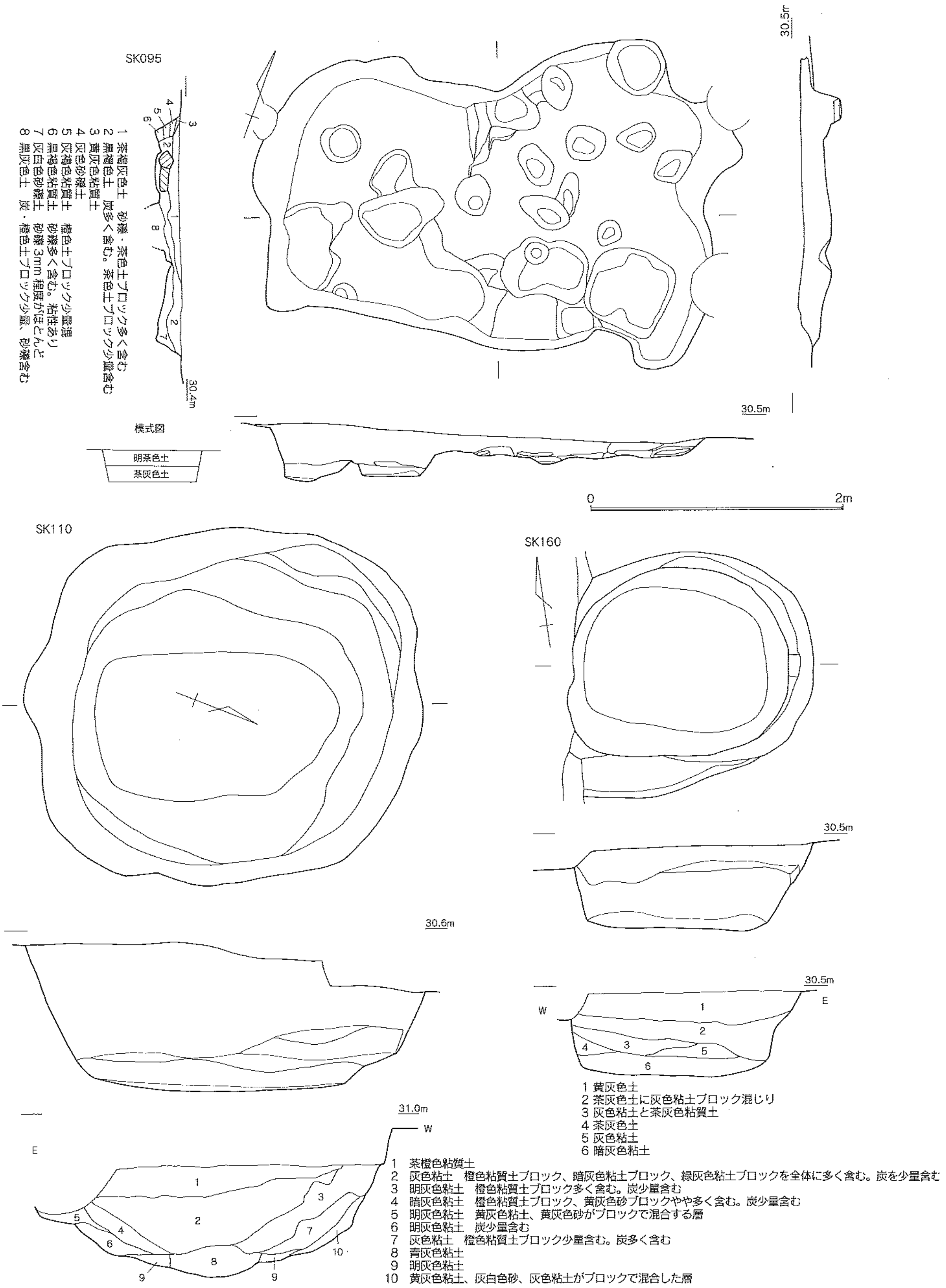


Fig.15　SK095・110・160遺構実測図（1/40）

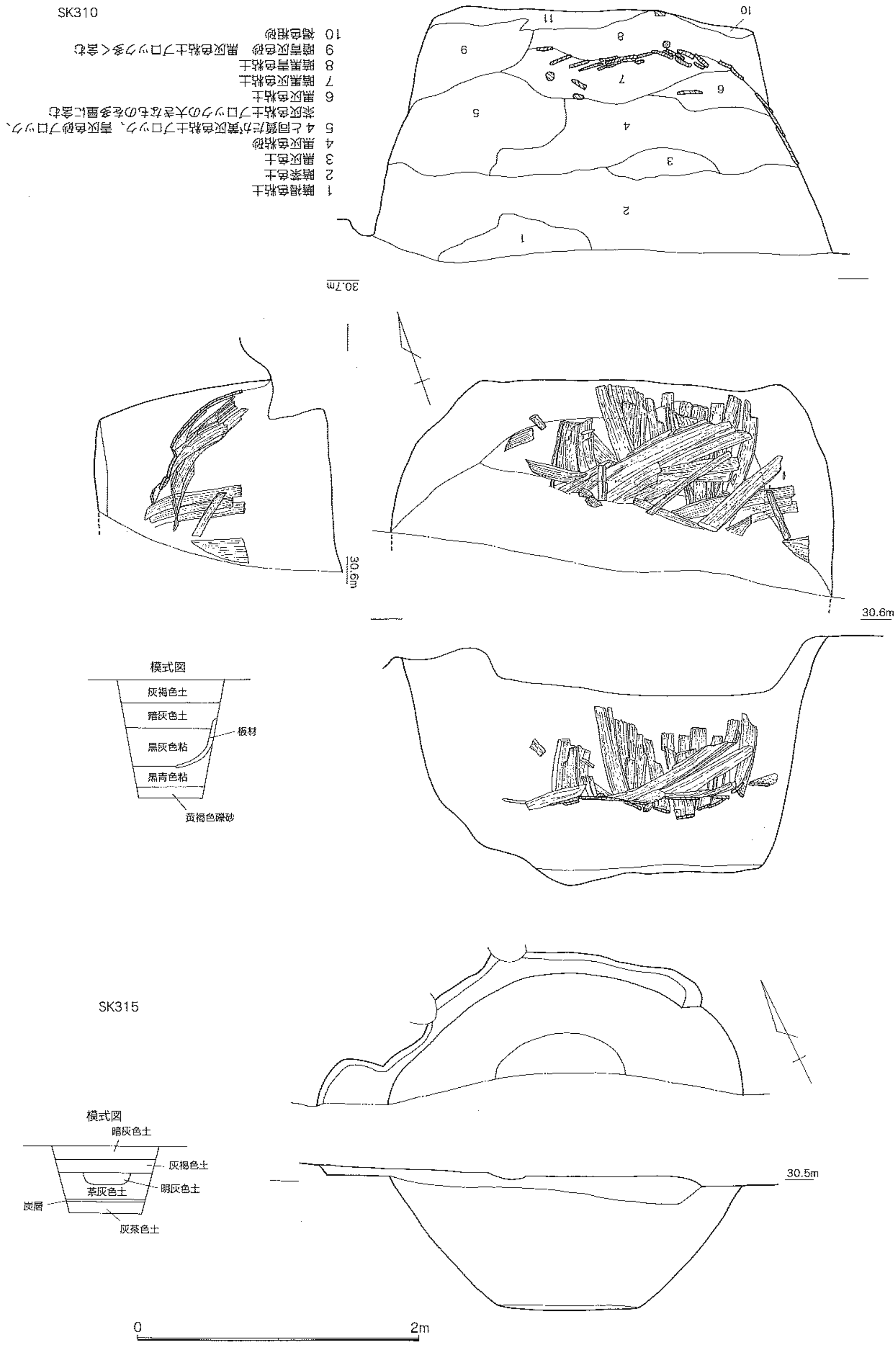


Fig.16　SK310・315遺構実測図（1/40）

が良くないが、下段は残りがよく、縦0.09m、横0.04mの長方形を呈している。隅柱は残りが良い南側の2本は、直径0.09mの丸木で、一部に樹皮が残存していた。先端部は尖らせることなく、ほぼ水平にカットされていた。南西隅の下段のホゾ穴は南辺と西辺の位置が段違いになっていて、南辺側が上にあって長さ0.09m、幅0.04mで貫通している。西辺側のものは長さ0.045m、幅0.035mで、貫通はしていない。また、隅柱底と縦板底はほぼ同レベルであった。

下段の横桟のレベルで花崗岩の大石が3個あり、ほぼ井戸底に接している。1個の大石と東壁の縦板との間には横桟が挟まる形で残っており、横桟がしっかりと顕在していた時に投げ込まれた可能性が考えられる。埋土の下位にあたる大石周辺からは草木が検出された。大石があって確認しづらい状況であったが、井戸底に曲物等は全く存在していなかった。土層堆積状況が、周囲にない黄色土が多く堆積していることや東側からの傾斜がみられることから、自然堆積というより人為的に埋められたと推測される。井戸底にある花崗岩の大石もその時に投げ込まれたものと推測される。調査中は湧水が著しく周囲が崩落していた。

236-1SE330（Fig.14）

東西3.0m、南北2.6m、深さ1.2mの隅丸方形をした掘り方である。遺構検出時点で、細かい土師器片を多く含む灰茶色土が、黒色粘土ブロックを多く含む黒灰色土の西側に偏った状態で検出された。黒色粘土は掘り下がるほど量が多くなった。遺構検出面から約0.5mまでは黒灰色土で井戸枠痕跡のプランは全く確認できなかった。井戸枠の横桟が確認されたあたりから、砂利混じりの黒茶色土になり、湧水も著しくなった。

横桟は南東隅が最も高く、北西隅が最も低く、その高低差が約0.36mで、明らかに当初の位置から傾いた状態で検出された。しかし、横桟はそれぞれホゾで組み合ったままで、約0.74m四方の方形を保っている。横桟両端のホゾは東西が凹型、南北が凸型に加工する。その外側には元位置を保っている縦板が3枚確認できた。また、横桟に囲まれた内部からは、転落した縦板に混じって曲物が1点傾いた状態で出土した。大きさや出土状況から転落した曲物と推測される。埋土中からは、井戸枠材の破片が散発的に出土し、良好な部材は幅0.052～0.17m、厚さは0.007～0.02mであった。また、井戸枠を除去した部分には、南北1.3m、東西1.12m、深さ約0.5mの方形の掘り込みがある。

井戸枠や横桟の出土状態、埋土の状態などから、この井戸は崩壊した後に黒灰色土によって埋められた可能性が考えられる。

土坑

236-1SK050

検出時では方形プランを示していたが、降雨と湧水によって崩落し、写真・実測時は円形になり、原形から大きく変わってしまった。大きさは直径約2m、深さは1.2mを測るが、当初は南北約1.8m、東西約1.5mであった。SB030を切っているが、埋土は灰色砂混じりの近現代の撹乱のようなものであったため、時期の特定は困難である。

236-1SK095（Fig.15）

規模は3.88×2.55m、深さ約0.35mで、東西に長い不定形の長方形をなしている。底面にはピットが確認され、全体的に凹凸がある。ピットについてはこの土坑に伴うものか、下層の遺構なのかについては判断が難しい。埋土は炭や黄色土がまじり、一見撹乱のような状況を示している。また、焼土塊が多く出土している。底面は暗灰色砂である。

236-1SK110（Fig.15）

規模は南北3.15m、東西2.8m、深さ1.15mの楕円形で、きれいな擂鉢形をしている。検出時は井戸で

はないかと思われたが、途中で草木片は出土するものの、加工を施した木片や井戸枠材等は全く出土していなかった。埋土は全体的に少量ではあるが炭が混じり、底面近くの青灰色粘土からは焼け石が3個出土した。柔らかい地山を掘り抜いているため、底面や底面近くの側壁は非常に崩れやすい状態である。

236-1SK160（Fig.15）

規模は1.9×1.9m、深さ0.7mの円形土坑である。西側はSD155によって切られている。底面に近い下層は灰色粘土で木片を少量含んでいた。

236-1SK235

規模は0.91×0.61m、深さ0.5mの円形土坑で、埋土は黒灰色土で、土師器の破片が細かく入っている。底に花崗岩の川原石が置かれている。隣接する第168次調査で一部調査されている。

236-1SK240

規模は1.8×0.5m以上、深さ0.53mの円形土坑である。隣接する第168次調査でSK440として半分調査されている。

236-1SK290

規模は3.9×2.55m、深さ0.25mの南北に長い土坑である。埋土は中央付近が灰色粘土で、その周囲は茶灰色土であった。灰色粘土には土師器の丸底坏が多く含まれていた。

236-1SK310（Fig.16）

調査区際のため全容は不明であるが、確認した規模は東西3.15m、南北1.4m、深さ1.75mの円形状の土坑で、土坑の北壁と底面には板材が積み重なっている。北側に関しては土坑の傾斜に沿って板材も湾曲している。板と板の間には粘土が入り込んでいるところも確認できた。下端から0.3m付近でも屈曲している板材も数点みられた。板材は幅0.08m前後で、長さは1mを超えるものもある。板材は大きく2層に分かれ、壁にまっすぐもたれ掛かる板材は多いところで3～4枚重なり、その上にやや斜めに板材が重なっている。もたれ掛かった板材の下部からも短めの板材が出土する。この短めの板材に対し逆方向の90度で立つ板材が2～3枚出土。折れて落下したものかの判別はできない。これらの下から板材は出土しない。板材に挟まれた状態で、井戸の横桟に似たような凸型に加工した角材が2点出土し、また、西側の調査区際に直径0.05m程の丸木が縦に刺さり、その外側に縦板が3枚確認され、調査区外に続く可能性がある。埋土の最上層である灰褐色土からは鞴羽口が出土。その下の層は黄灰色ブロック混じりの暗灰色土で、その下の黒灰色粘質土には木片が少量混じり、北側の壁からも板材が検出し始める。この埋土は下層ほど砂混じりの粘質になっていく。

現状でこの遺構が何なのかを言及するには情報が乏しいが、隣接地の調査で明らかにしていきたい。

236-1SK315（Fig.16）

調査区際のため全容は不明である。規模は東西2.5m、南北1m以上、深さ1.0mで、現状では半円形状の土坑である。埋土は暗灰色土で、中央付近は黄色ブロックが細かく入っている。遺物量は検出時から多く、土師器が殆どである。茶灰色土の底面および側面からは炭化物が多く検出された。この炭化物を採取し、放射性炭素年代測定を行ったところ、第V章で示したように、較正年代がcalAD686～802であり、遺物と同じ年代結果が示された。

畑状遺構

236-1SX640（Fig.17）

調査当初は溝として調査を行っていたため、各溝に遺構一覧表に記したように遺構番号を付したが、以下のようにひとつの遺構と考えたため、S-640と統一して報告する。

幅0.25～0.5m（0.35m前後）、深さは東西0.05～0.15m、南北0.1～0.25mほどの溝が約3m四方の

Fig.17　SX640・650遺構配置図（1/200）

Fig.18　SX645遺構配置図（1/200）

格子状に広がっていて、南北37mの範囲で確認でき、西隣の第257次調査でも検出され、東西合わせて約45mまで広がっていることがわかった。主な所見をあげれば以下のとおりである。

・東西溝と南北溝とでは、切り合いが微妙な状態で確認できる所がある。
・東西溝と南北溝は埋土が全く同じで、切り合いが非常に困難な場所も多く、殆ど時間差なく掘削・埋没が行われたと考えられる。
・格子溝以外にも何度か掘り直しとみられる溝が検出された。
・溝の底面に砂や腐植土など水が常に流れていた痕跡は全く確認できない。
・埋土を花粉分析したところ、風化が目立ち植生復元するような結果は得られなかった。
・溝の間隔が3mとやや広く、畝の間に掘られた溝としては深い。
・灰色土の整地と検出範囲がほぼ一致する。
・遺構の範囲には同時期の建物が検出されていない。
・類似した遺構が長岡京跡水垂地区で検出されており、菜園遺構と推測されている。

以上のことから、湿気抜きなど地盤を安定させる溝と耕作（畑）に関する遺構と考えられるが、その後の目立った土地利用がないことを考えると畑の遺構と考える方が妥当ではないかと考えた。しかし、作物の畝の間に掘られた溝というのでなく、作物の畝に直角に掘った溝と推測される。今後の事例の増

加によって新たな見解も出てくるものと考えられる。

236-1SX645（Fig.18）

大撹乱と14条路との間で検出された幅0.22～0.45m（0.37m前後）、深さ0.15m前後の南北溝のことで、検出範囲は南北約23mである。埋土は茶灰色土で砂層は見られない。断面形状はU字形をしている。約8本の列になり、2.5m間隔で掘られているものもある。南側で検出された格子状に展開する溝（SX640）と同じ性格である可能性が考えられる。

時期はVIII～IX期埋没のSE215に切られていることから、それ以前の埋没と推測される。

236-1SX650（Fig.17）

格子状に展開する溝（SX640）の中で最も新しい東西溝で、埋土は灰色土のほぼ単純層で、S-5・10・34・140の4本の溝で、それぞれS-5は長さ10.6m以上、幅0.4～0.56m、深さ0.15～0.23m。S-10は長さ4.1m、幅0.5m、深さ0.2m、S-34は長さ8.7m、幅0.45m、深さ0.2m前後。S-140は長さ7.6m、幅0.4～0.6m、深さ0.13～0.2mを測る。SX640・645のような大規模な畑ではなく、屋敷内の小規模な菜園と推測される。

道路遺構

236-1SF665

SD015と020に挟まれた空間で、現存幅4.0m、溝中心間は5.46mを測る。上面は削平され、地山が露出している状態であった。平安後期には、SD041・042を南側溝とする東西路が造られている。

整地層（第1調査面基盤層・第2遺構面覆土）（Fig.7）

236-1SX345

整地層と考えられる土層で第2調査面でも述べるが、調査区は北端であったため全容が掴みにくい状況であった。その後この遺構は大きく2時期の埋土で構成されていることが判明した。上層はXII期、下層はVII期頃である。調査区北端付近は細かい土器片が一面に広がっていた。西側のAU22付近からは丸底坏が完形の状態でまとまって出土した。ほぼ同レベル、また正位置で出土している土器も多い。

236-1SX350

北端部に東西に広がる第2調査面を覆う整地層である。茶灰色土で鉄サビのような土も混じっている。東側は細く溝状になっているため、溝状の窪みを埋めたものと推測される。

236-1SX717

茶褐色土に黄色土が混じる土層で、厚さ0.05mほどである。

236-1SX718

暗灰色土層で、黄色土を少々含む。

236-1SX719

試掘トレンチ沿いに細長い整地で、灰茶色土である。

236-1SX722

灰茶色土で錆色をしている。厚さ0.05mほどである。

236-1SX723

黄色土で若干白色土が混じっている。遺物はあまりなく、殆ど下層から出土している。

236-1SX724

灰茶色土層。

236-1SX726

灰茶色土で錆色土を含む。東側ほど土色は明るくなる。

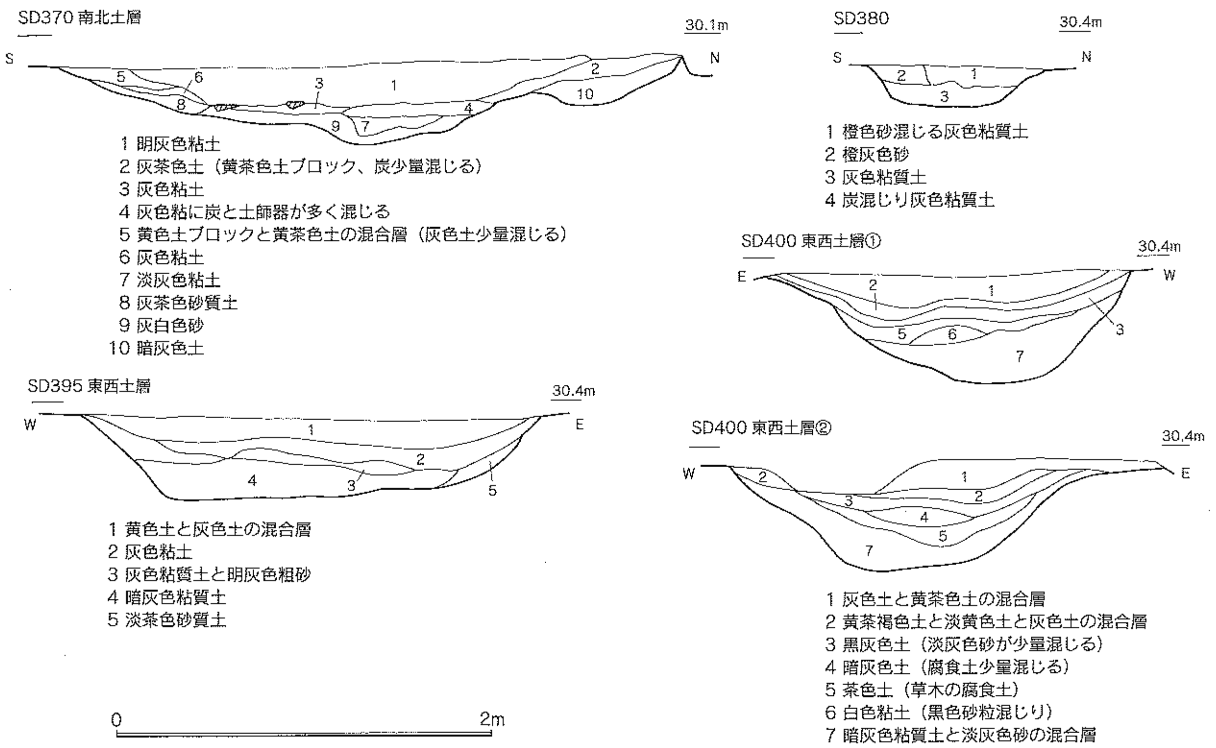


Fig.19　SD370・380・395・400土層実測図（1/40）

236-1SX727

黄色土と白色土と茶色土の混合層で、真砂土のような土質である。

236-1SX728

錆色土や黄色土を含む灰茶色土層である。

○第２調査面

溝

236-1SD355・360

SX350の整地を除去後に確認できる溝で、整地の北辺に沿う形で東西に蛇行している。SD355とSD360は幅0.66m分断されているが、ほぼ同一遺構とみられる。SD360の埋土は紫色に近い暗灰色土で、西端の行方については確認できなかった。SD355は検出長5.3m、最大幅1.0m、深さ0.2～0.25m、SD360は検出長9.2m、幅0.8～1.3m、深さ0.1m前後を測る。

236-1SD365

振れはN-7°12′40″-Wの南北溝で、検出長2.7m、幅0.4m、深さ0.1m を測る。SX350によって切られている。

236-1SD370・375 (Fig.19)

振れはW-1°31′12″-Nの東西溝で、検出長24.3m、幅2.65～3.45m、深さ約0.3～0.5mを測る。SD375とSD370でひとつの溝と考えられるが、当初溝と認識できていなかったことと撹乱で分断されていたことから、調査時は遺構番号を分けて調査を行った。

SD370は第1調査面の遺構検出時に一部の遺構ラインは確認できたが、部分的に整地が覆っていたため第2調査面で調査を行った。SD375のプランについては、第１調査面では全く確認できなかった。埋土は明茶色粘土でその下に灰色粘土、灰色砂で地山に達する。南北両肩に中段があり、溝は二段掘り込みの形状を示している。SD370の明茶色粘土には丸底坏など多くの土師器が出土する。

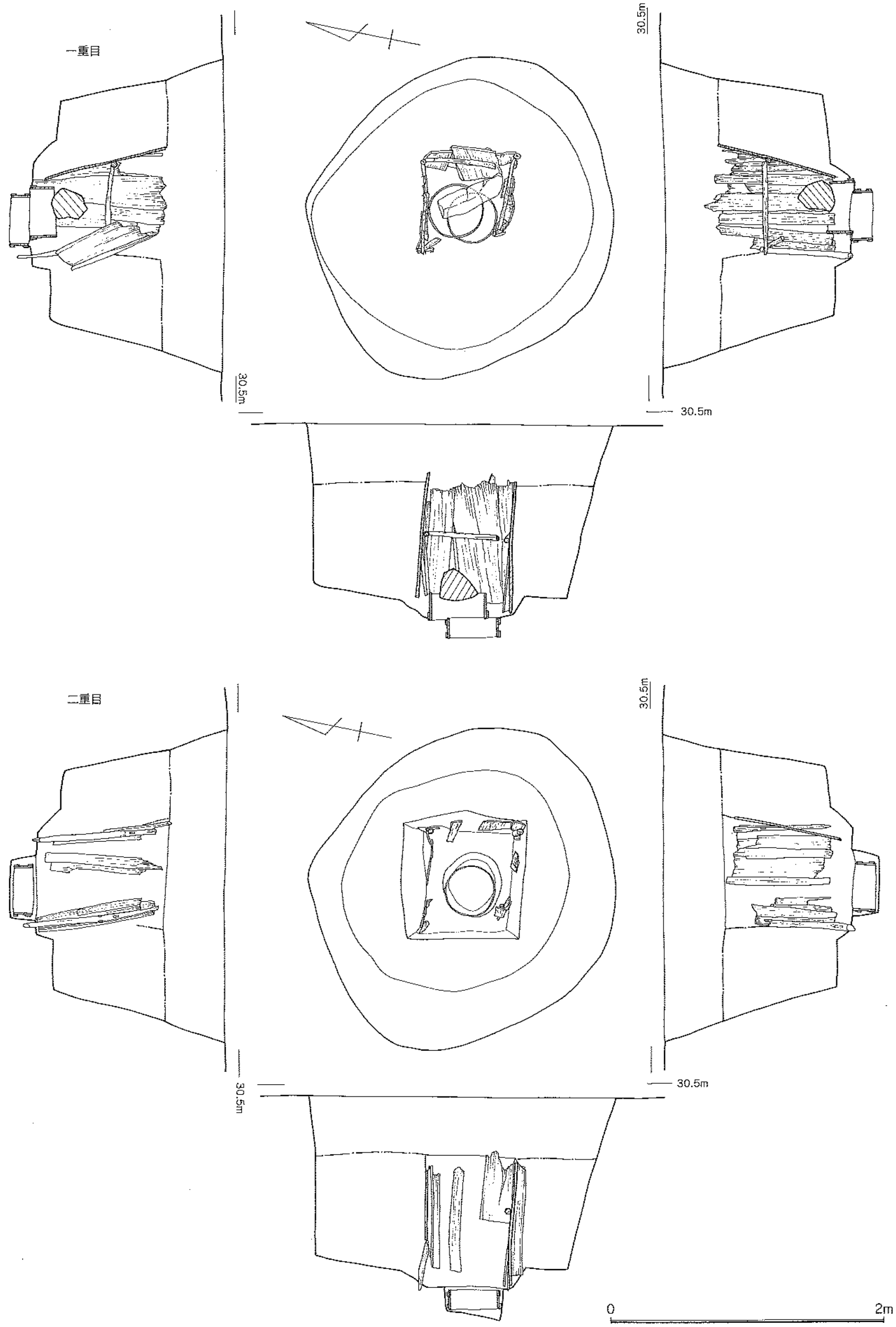


Fig.20　SE385遺構実測図（1/40）

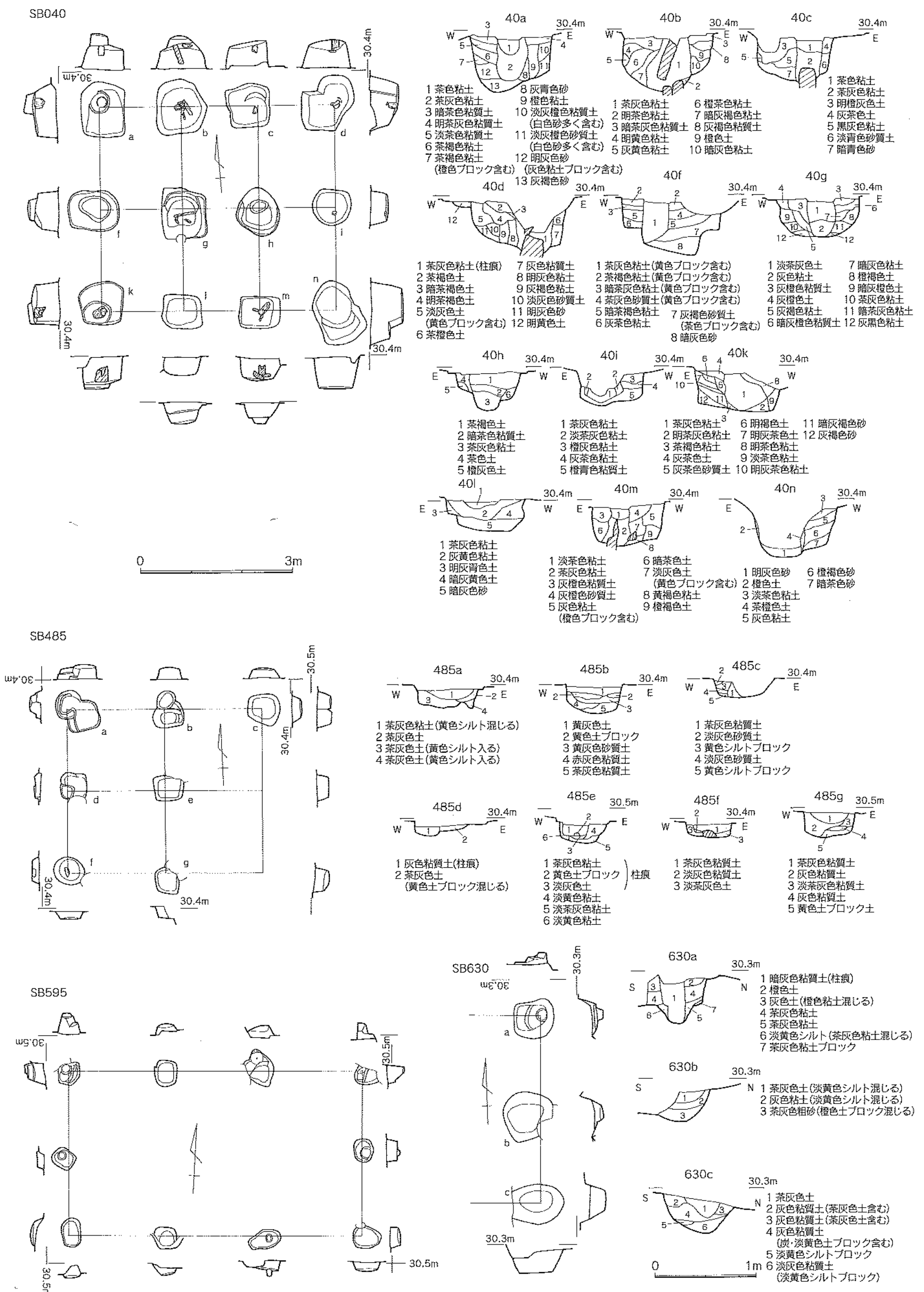


Fig.21　SB040・485・595・630遺構実測図（1/100、土層図は1/50）

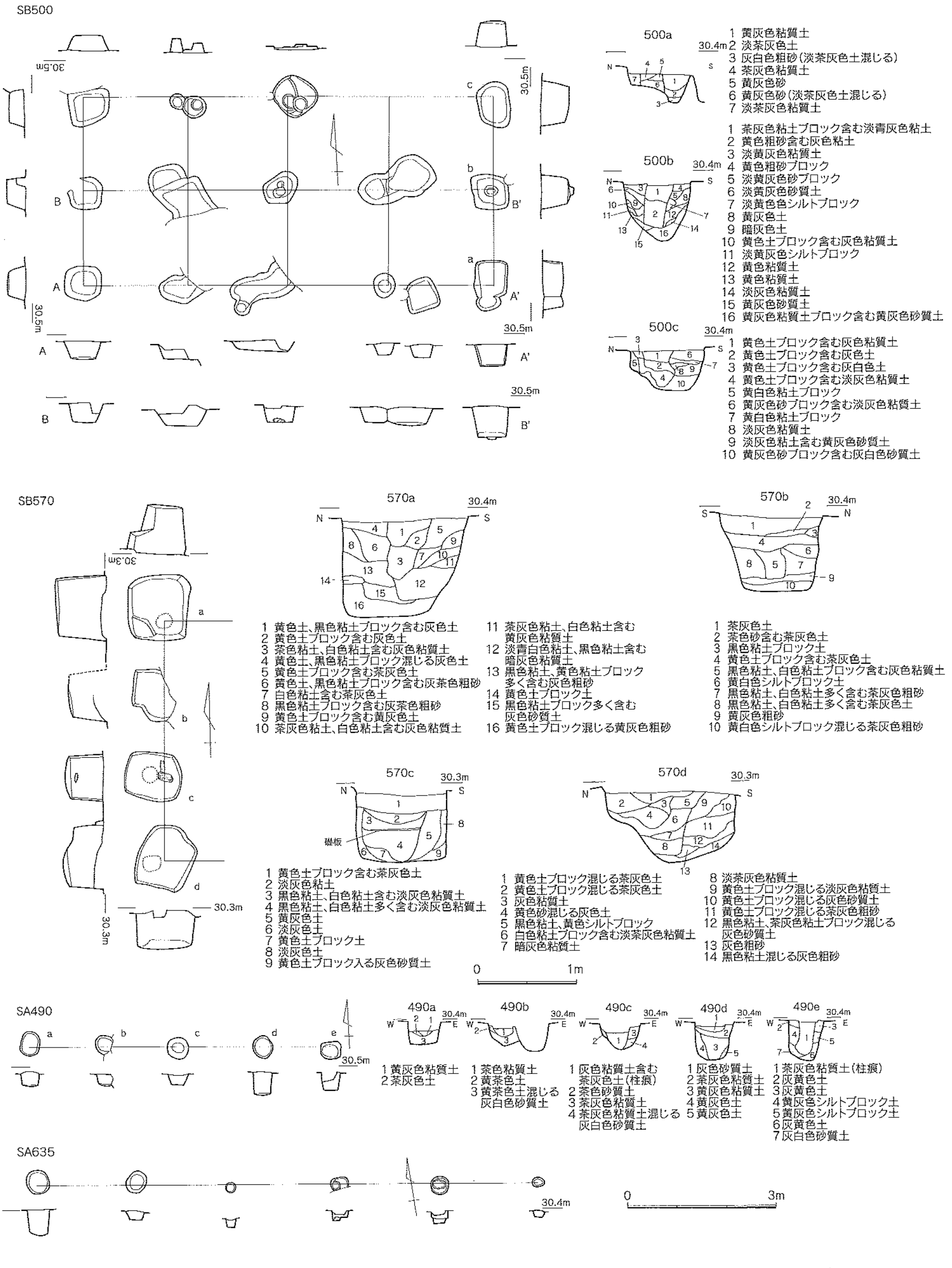


Fig.22　SB500・570、SA490・635遺構実測図（1/100、土層図は1/50）

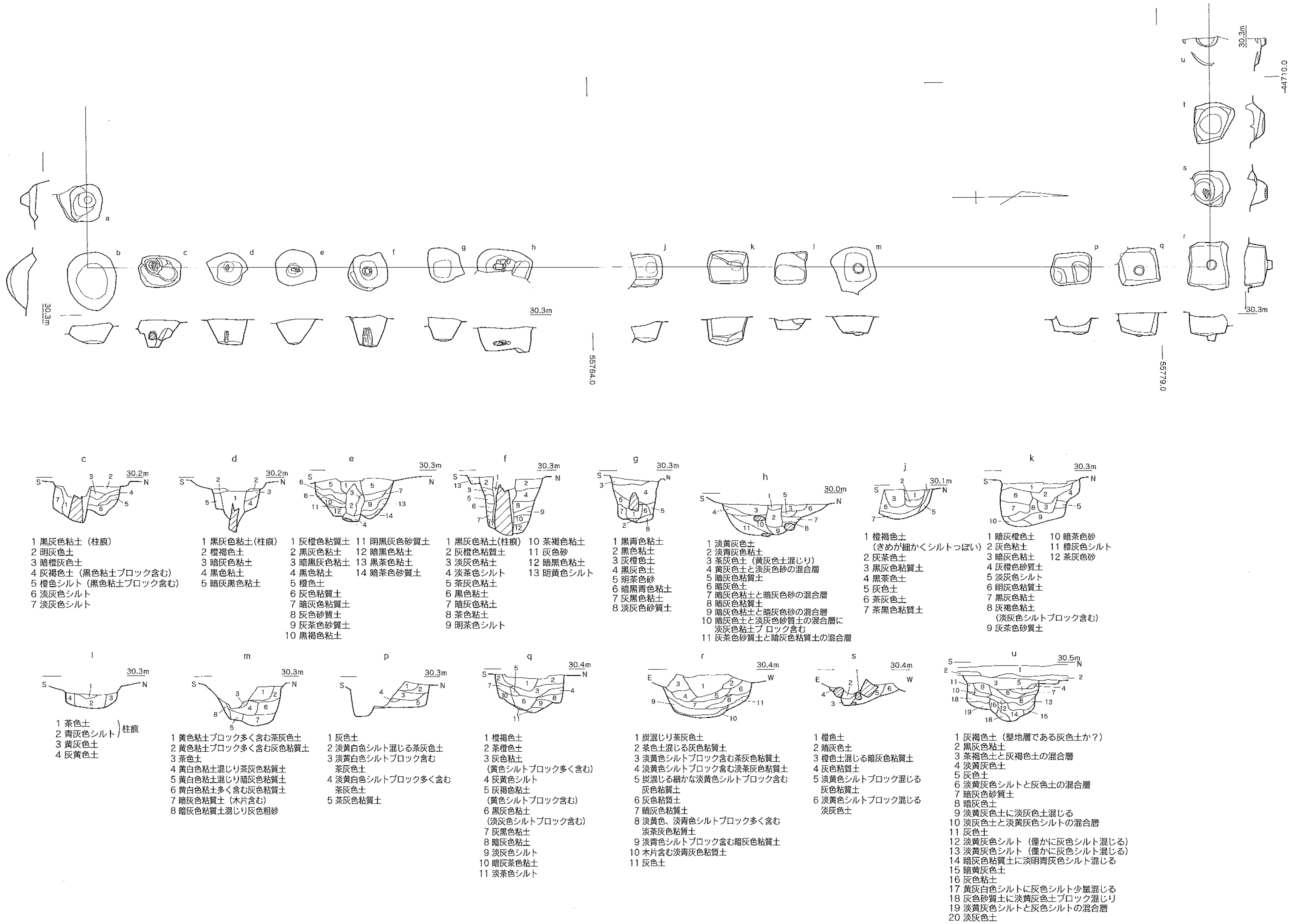


Fig.23　SB480遺構実測図（1/100、土層図は1/50）

236-1SD380（Fig.19）

振れはW-3° 3′ 10″-Nの東西溝で、検出長16.3m、幅0.85～1.3m、深さ0.2m前後を測る。東側は攪乱によって行方不明である。西側は途中で途切れている。SD370・375と平行するが溝の規模や遺物の混入状況は全く異なっている。埋土は灰色粘土で、西側はその下層に黄色砂混じりの黄灰色粘土が堆積していた。

236-1SD395・400・786（Fig.19）

この3つの遺構は攪乱などによって分断されているため、繋がっていたかどうかについては明瞭でないが、南北に並んでいるため、連続土坑のように同じ性格の遺構であると判断し、ここで合わせて報告する。

SD395は振れがN-0° 5′ 49″-Sの南北溝で、検出長10.1m、最大幅3.5m、深さ0.1～0.6mを測る。埋土は上面に黄色土混じりの茶灰色土が蛇行し、その下に茶色砂を含む灰色土が全体的に広がっている。その埋土を除去すると灰色粘土が厚く堆積している。灰色粘土には部分的に土師器を多く含んでいるところがある。

SD400は振れがN-13° 3′ 21″-Wで、検出長5.8m、最大幅2.8m、深さ0.2～0.9mを測る溝だが、一見長い土坑のような状態である。南端はSD370の埋土の端を僅かに切り込み終わっている。上面は複数の薄い整地がみられ、その下面より灰色粘土が溝状に検出される。その下には茶灰色土を挟んで、炭を多く含む黒灰色土が厚く堆積し、南端の方では草木も多く見られた。また、0.6×0.3mの花崗岩や白色粘土の塊も検出された。

SD786は南北4.9m、東西2.9m、深さ0.07～0.15mの不定形な土坑状の遺構で、底面にも土坑があり、凸凹している。単なるたまりかと考えていたが、SD395・400と南側に続く遺構が検出されたため、一連の溝の可能性が推測される。埋土は灰色土と黄色土の混合したものである。

236-1SD415

振れはE-0° 58′ 31″-Nで、検出長7.1m、幅0.4～0.95m、深さ0.15mを測る東西溝。埋土は灰色土である。

236-1SD560

第2調査面で検出されていたが、作業に伴う窪みや試掘トレンチによって、確認できる状況に至ったと判断し、遺構の掘削は第3調査面で行ったが、ここでは遺構検出順のまま第2調査面で報告する。振れはE-0° 28′ 19″-Nで、検出長13.0m、幅は1.7m前後で最大幅1.95m、深さ0.5m前後で最深0.8mを測る東西溝で、東側は先細りになっている。埋土は黒色粘土である。

井戸

236-1SE385（Fig.20）

11世紀後半の遺物を含む整地層を除去した面から検出された。しかし、第2調査面検出時は土質が異なるというよりは円形に割れ目がある状態で確認されたことから、埋土の土質の違いによる沈み込みと推測され、第2調査面よりやや古い時期の埋没とみた方が妥当と考えられる。掘り方は南北2.2m、東西2.3m、深さ1.6mの楕円形で、中央付近で検出された方形の井戸枠は、内法南北0.75m、東西0.62mを測り、四隅には径0.05m前後の隅柱が立てられ、横桟は隅柱を貫通するホゾ穴に差し込まれていた。ホゾ同士はずれた状態で彫りこまれている。横桟は径0.03～0.045mの自然木で、樹皮が残存していた。横桟に押さえられた状態で、幅0.045～0.1mの縦板が残存していた。西側の井戸枠は殆ど検出されていないが、南西隅の隅柱が大きく東側に向かって傾いていることや残存する縦板が一回転して南側の横桟に接していることなどから崩壊し消滅したと推測される。また、最初の井戸枠縦板の背後には、幅0.1m前後の縦板を中心に0.03～0.21mとばらつきのある縦板が部分的に残存していた。この縦板は一重目に比べて大きく厚みがある。二重目に隅柱は確認できなかったが、当初から存在していたかも不明である。

井戸枠内には大きな花崗岩が落下していて、それを除去した直下から曲物が検出された。径0.38m、深さ0.19mで木質の腐食が目立ち、調査中の土圧で崩壊した。その直下からさらに曲物が確認されたが、位置関係は若干ずれた状態であった。下位の曲物は径0.4m、深さ0.15mで、上位の曲物と異なり非常に残りが良かった。下位の曲物は井戸枠の隅柱より深い位置に設置されていた。

以上のように、曲物が2個あることから、修復して使用されたと推測されるが、縦板が二重になっていることについては二重目の縦板が中位までしかないものもあり、補強材とも考えられる。

土坑

236-1SK390

楕円形状の土坑で、南北約3.7m、東西約2.8m、深さ0.2mを測る。僅かにSD400を切って掘り込まれている。底面からは浅いピットが検出された。深さが浅いため、埋土はほぼ単純層であるが、埋土中にSD400埋土で検出された白色粘土が少量出土した。草木も少量出土。

236-1SK405

直径1.2m、深さ1mの円形の土坑である。埋土はほぼ2層で上層がやや粘質の黒灰色土で、下層がシルト質の青灰色土である。掘り込んだ周囲の地盤は砂質で、少量の湧水がある。

その他の遺構

236-1SX345

調査区北西部に広がる整地層。第1調査面でも前述したが、調査区が狭まる部分で、全容が掴めない状況であったが、出土する遺物は多く、上層はXII期、下層はVII期頃の大きく2時期の遺物があり、この遺構の中に上下2面あるものと推測される。詳細は隣接地の調査で明らかにしたい。

○第３調査面

調査区北西部以外では、この面で異なる時期の遺構面が2面同時に検出される状況であった。よって、層位が明瞭な北西部以外は第3調査面で報告する。

掘立柱建物

236-1SB040（Fig.21）

南北2間、東西3間の総柱建物。柱間は梁行約1.5m、桁行2.1m、振れはN-4°29′33″-Eである。さらに東側に掘り方が確認されたため、調査時は同一遺構とみていたが、他のものに比べ浅いため、報告時では別遺構とした。柱痕に関しては第1面で一部プランが確認されたものもあったが、掘り方は全く確認できず、また、その柱痕部分の埋土も空洞が多く、柱が腐食したことによる陥没した状況を示していた。掘り方は一辺0.62～1.1m、深さ0.3～0.6mの隅丸方形を呈する。掘り方のうち、柱材が残るものが6ヶ所、横木などの礎板だけ残るものが2ヶ所と比較的遺存状況は良好であった。柱穴は明灰色粘土で満たされている。柱痕の径は0.2m前後を測る。

236-1SB420

第168次調査でSB250として確認されていた2間×4間の建物の残りの掘り方３つ分である。埋土は黄色土で、明瞭な柱痕は確認できていない。

236-1SB480（Fig.23）

東西3間以上、南北16間の南北棟で、南北長29.6m（小尺100尺）を測り、柱間は梁行約2m、桁行約1.85mである。振れは僅かに東に振れていて、N-1°9′6″-Eである。掘り方は9世紀代の灰色土の整地で覆われ、灰色土下層の整地に切り込んでいた。この下層の整地の時期に関しては、遺物が少なく特定できていない。掘り方は一辺1m前後の方形もしくは隅丸方形を呈し、深さは0.25～0.75mで、概して0.6m前後である。

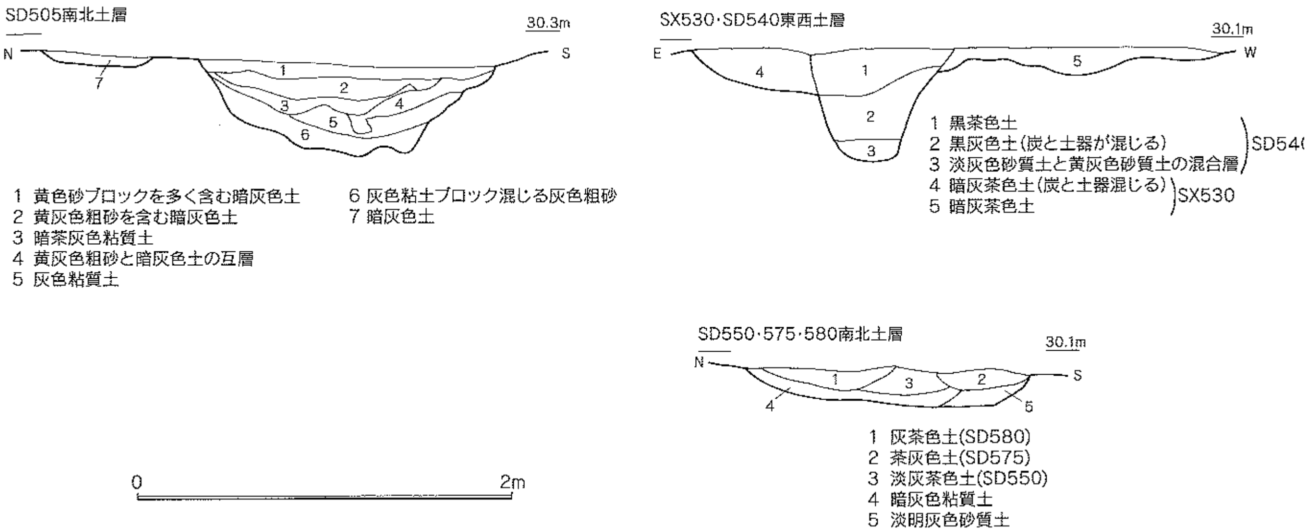


Fig.24　第3調査面溝土層実測図（1/40）

柱痕や礎板が残存する掘り方が5つあり、ひとつは川原石を敷いたものがあった。柱痕で最も残りが良いもので、径0.19m、高さ0.59mほどであった。

調査区西端で検出され、西側の展開状況がわからない。また、掘り方が一部撹乱によって欠落しているため、1棟の建物か複数の建物か調査時は不明確であったが、南側の第257次調査で、同様の大型建物を検出したため、SB480は長大な1棟の掘立柱建物であったと推測でき、あわせて2棟が南北に並んでいたことになる。この西半分は報告時に行っている第267次調査で確認されている。

236-1SB485（Fig.21）

東西2間、南北2間の総柱建物で、南東部は撹乱で欠損する。柱間は東西1.9m、南北1.6mである。振れは僅かに東に振れていて、N-2° 45′ 30″-Eである。掘り方はおよそ一辺0.5～0.6mの隅丸方形で、深さ0.1～0.3m、土層観察や掘り方の検出状況から柱は抜き取られた可能性も考えられる。SB040と重複しているが、切り合い関係からSB485が新しい。

236-1SB500（Fig.22）

S-495とS-500として調査を行ったもので、当初別遺構とみていたが、西隣の第257次調査で、S-500と同規模の掘り方が確認され、同じ意味を持つ遺構と判断された。柱間は1.9m。掘り方は一辺0.7m前後の隅丸方形で、深さは0.4～0.6mのしっかりした造りをしている。しかし、この2間の掘り方の間には同規模の明瞭な掘り方が少なく、建物として図示したが、明確に言い切れない状況である。巨大な建物SB480やSB570との位置関係から門の可能性も考えられるが、今回は明言できず周辺の調査によって再検討しなければならない。振れはW-3° 34′ -Nである。

236-1SB570（Fig.22）

調査区の東際で、南北3間の4つの大きな掘り方が検出した。埋土を調査したところ、明瞭な柱痕は確認できず、土層観察から柱を抜き取った可能性が高い。よって、規模は南北4.8mで、柱間はおよそ1.6mと推測される。振れについては柱痕を確認できていないため、明確ではないがSB570cで検出した礎板の位置を考慮したところ、同時期とみられるSB480に近い振れの可能性が高いと推測した。掘り方は方形を呈し、その一辺が1.0～1.3m、深さ0.75～1.0mという大きさを誇っているため、柵列というより、掘立柱建物と推測され、東側の調査区外に続いていくものとみられる。

236-1SB595（Fig.21）

南北2間、東西3間の東西棟。柱間は梁行1.63m、桁行1.92mと推測される。振れはおよそW-3° 2′ -Sである。掘り方は0.38 ～ 0.66mの不定円形を呈する。掘削中はピットとして掘り下げていたが、整理中に建物として完結することがわかったため、柱痕の確認等を怠っている。埋土は掘り方の場所によって異なり、西側は地山が黒色粘土や白色粘土地盤のため、それらの混合土で埋まり、東側は粘土地盤でないため埋土は灰茶色土であった。

236-1SB630（Fig.21）

調査区西端で検出した南北2間の柱列、調査時はS-480としていたが、SB480と異なる建物と考え、新たに遺構番号を付した。掘り方が周囲の建物に似ているため、東西棟の掘立柱建物になると推測される。南北長3.7mで柱間は1.85m、振れは柱痕を明瞭に確認していないが、振れはSB480とほぼ同じ約N-1° 45′ -Eとみられる。掘り方は長さ0.7 ～ 1.0m不定円形で、深さは約0.5mであるが、断面形状はややなだらかである。

柵列

236-1SA465

東西4間の柵列で、長さ3.6mを測る。振れはE-1° 34′ -Eで、柱間はおよそ0.9m、掘り方は径0.35 ～ 0.5mの円形である。

236-1SA490（Fig.22）

東西4間の柵列で、長さ6.1mを測る。振れは約W-3° 10′ -Nで、柱間はおよそ1.5mである。掘り方は径0.4 ～ 0.5mの円形で、深さは0.2 ～ 0.45mである。

236-1SA635（Fig.22）

報告整理中に確認した東西5間の柵列で、長さ10.1mを測る。振れは約W-9° 9′ -Nで、柱間はおよそ2mである。掘り方は径0.2 ～ 0.5mの円形で、深さは0.1 ～ 0.5m。底面のレベルは深浅が交互になる。

溝

236-1SD410

振れはN-17° 27′ 50″ -Eの南北溝。検出長8.3m、幅3.5m、深さ0.1m前後。SE385の井戸が切り込んでいる溝。埋土は黒灰色土。南側は試掘のトレンチで切断されていて、その後の行き先は不明。

236-1SD430

振れはW-4° 43′ 1″ -Sの東西溝。検出長6.2m、幅0.28 ～ 1.0m、深さ0.06 ～ 0.5mを測る。埋土は黄灰色土・灰色粘質土・黒色土で黄色土ブロックを含んでいる。1・2面目の遺構検出時に南辺ラインは確認していたが、調査区北端付近で全体が把握が難しく、整地もしくは堆積層の違いと認識していたが、3面目の遺構検出の際明瞭に確認できた。遺物が土師器の小皿を含んでいる。底面の一部がやや深くなっているところがある（S-450）。

236-1SD455

調査区北端に位置し、振れはW-9° 23′ 40″ -Nで、検出長4.2m、幅1.3m、深さ0.5mを測る東西溝。埋土は黒灰色土である。遺物は11世紀のものを含んでいて、整地の関係で1・2面目の遺構検出時にそれらしいプランは未確認であった。底面にピットや土坑が存在する。

236-1SD505（Fig.24）

振れはE-2° 35′ 1″ -Nの東西溝。検出長13.9m、幅1.1 ～ 2.0mでおよそ1.5m前後、深さ0.4m前後。最上面を細かい整地が覆っていて、プランを確認することがやや困難であったことが3面目でのプラン確認に至った。方位などから2面目で確認していたSD560と対になる可能性があり、2条の溝で道路遺構の可

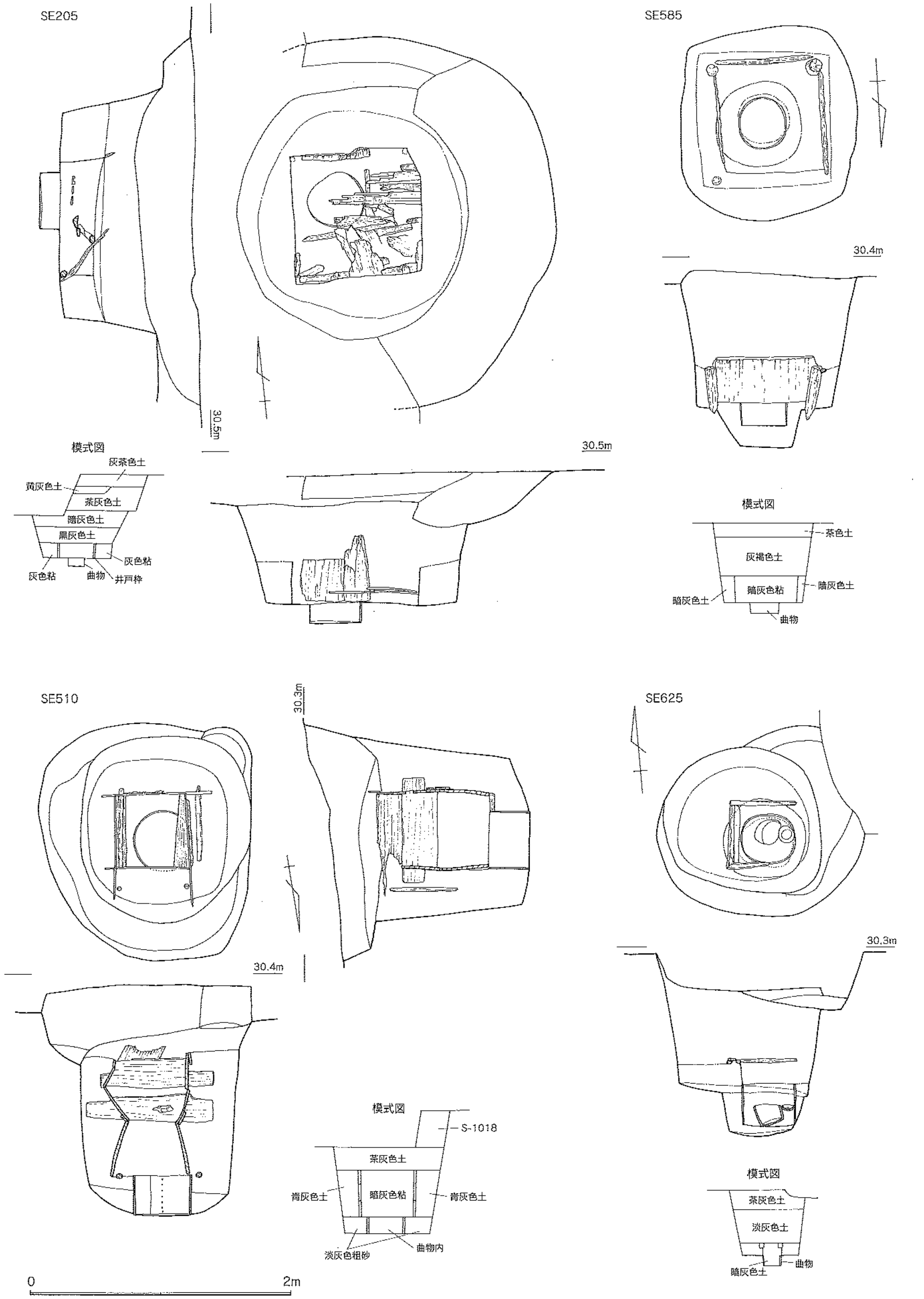


Fig.25　SE205・510・585・625遺構実測図（1/40）

能性も考えられる。2条の溝間は約3.5mである。埋土は最下層が灰色粘土であったが、その上面の溝の最終埋没の埋土は粗い砂と粘土の互層になり、木片も混じっていた。

236-1SD515

振れはSD520とほぼ同一方向を向く東西溝で幅0.3～0.4m。調査時は溝状にプランが確認されたが、土層を観察すると、溝というより道路とみられる窪みの北肩に堆積した堆積層（整地）とも考えられる。上層は黒茶色土、下層は茶色の砂質土である。

236-1SD520

振れはW-3° 37′ 15″-Nの東西溝。検出長22.5m、幅0.8～1.7m、深さ0.2m前後。北側のS-515（黒茶色土）より明るい茶色土のラインが東西に確認でき、南側は砂質（S-615）であったため、その間であるプランを溝と認識し掘削した。北側の埋土の違いは微妙な状況であった。SD550と平行し、合わせて道路側溝と推測される。

236-1SD540・1038（Fig.24）

振れはN-1° 41′ 18″-Wの南北溝。検出長約15m、幅0.55～1.5m、深さ0.4～0.5m前後。途中ほかの遺構によって分断されているが、延長上にあるS-1038の溝と同一遺構とみられ、それら全体をみると北側が東に緩やかに曲がっている。南端から馬の歯が出土している。SK545の最上面の西端から馬とみられる頭蓋骨が出土したが、その出土位置がSD540と切りあっている部分であるため、SK545出土の頭蓋骨もSD540出土とみた方が妥当である。また、SD540とSX530の切りあいは平面的にはSD540が古いように思われたが、土層断面で確認したところSD540が新しいことがわかった。

236-1SD550（Fig.24）

振れはW-3° 42′ 13″-Nの東西溝。検出長21.0m、幅1.1～2.0m、深さ0.3～0.4m前後。埋土は茶褐色土で、SD520と平行し、合わせて道路側溝と推測される。

236-1SD575（Fig.24）

振れはW-0° 33′ 0″-Nの東西溝。途中途切れている部分もあるが、検出長15.9m、幅0.2m前後、深さ0.1～0.3m。SD550上に切り込んであるもののそれと平行するため、SD550を掘り直したものとみられ、同様の機能を持っていたと思われる。

井戸

236-1SE205（Fig.25）

SX640や灰色土の整地層より下から検出されたが、中央の井戸枠付近は埋土が陥没し、第1調査面で確認されていた。掘り方はトレンチで一部は破壊されているが、最大径2.9mを測り、遺構検出面から0.4m付近で掘り方は狭くなり、南北1.9m、東西1.8mの円形を呈している。井戸枠は一辺1.0mの正方形で、東側の井戸枠が枠内に倒壊した状態で検出され、南側の縦板も内側に傾いた状態で検出された。縦板は幅0.2～0.3m、最も厚いもので0.05mを測った。横桟には径0.05mのやや屈曲した自然木が使用され、縦板の最下に据えられていた。隅柱はほとんど腐ってなくなっていたが、径0.05m程の空洞ができていて、北西隅には先端を尖らせた隅柱が僅かに残っていた。

井戸枠中央よりやや西側には、径0.4m、深さ0.15mの曲物が据えられていたが、東側で僅かに材質が残るのみで、他は掘り方のみ残っていた。井戸底は細かい砂で、曲物はその砂に掘りこまれていた。曲物の掘り方まで含めた全体の深さは1.15mである。調査時は曲物内のみ湧水していた。

236-1SE510（Fig.25）

掘り方は南北1.8m、東西1.6m、深さ1.75mの楕円形で、0.4mほど下がった所に中段があり、そこから南北1.4m、東西1.3mの隅丸方形の掘り方がつづく。埋土の上部である茶灰色土では瓦が多く出土し、

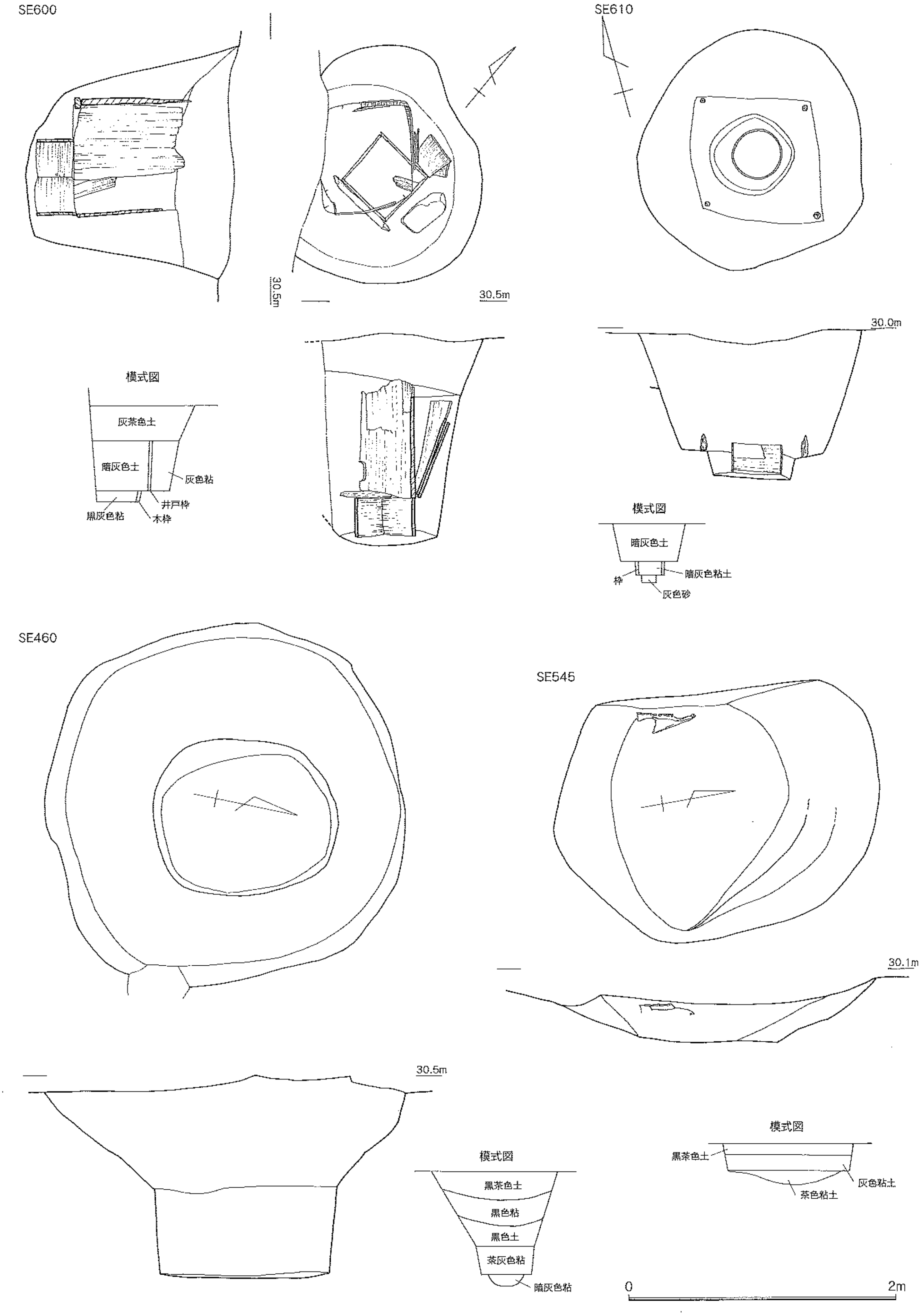


Fig.26　SE600・610、SK460・545遺構実測図（1/40）

井戸枠内の暗灰色粘土でも瓦が多く出土し、ほかに花崗岩や板材が混ざっていた。井戸枠は凸型に加工した板材を巧みに組み合わせて積み重ねている。内法は0.55m四方で、残存していたのは3段分で東西の井戸枠材が土圧で内側に押し出されている。最下の井戸枠とその上の井戸枠との繋ぎ目の裏側には板が置かれ、泥の進入を防いでいたように思える。井戸枠底には径0.45m、深さ0.3mの非常に残りの良い曲物が検出されたが、井戸枠とずれていることと曲物と同じレベルで横桟のような加工を施した部材が検出されたこと、その部材の一方が井戸枠の裏込め内から検出されたことなどから、この井戸枠は改修後のものと推測される。

236-1SE585（Fig.25）

灰色土に切り込む井戸で、第1調査面で確認していたが、第3調査面で調査を行っていた。掘り方は南北1.45m、東西1.35m、深さ1.0mの隅丸方形で、中央に約0.8m四方の井戸枠を作っている。井戸枠は北側が全く残ってなく、その他も遺存していたが腐食が著しく、縦板と確認できるのみで、枚数や縦板の幅など詳細は確認できる状態ではなかった。また、縦板の下は曲物上面と同一レベルであった。隅柱は南側が残っていて、径0.09mで僅かに先端は尖らせていた。横桟は北側以外残っていたが腐食が著しい。自然木を使用していて、径0.03～0.04mである。井戸枠内には曲物が設置され、大きさは南北0.36m、東西0.35m、深さ0.18mで、木質が僅かに残る程度であった。曲物内の埋土は2層で上層が暗灰色粘土、下層が明灰色砂であった。曲物は砂に0.65m程の掘り方を掘って設置されていた。

236-1SE600（Fig.26）

掘り方は南北1.75m、東西1.2m以上、深さ1.6mの不定円形で、西側は調査区外に続いている。井戸枠は0.8mの方形で、幅0.46mの板材をはじめ全体的に大きな板を使用している。南辺部は一部崩壊している。井戸枠は板を2～4枚重ねていた。井戸枠底から箱型の木枠が検出されたが、井戸枠の下にもぐっていくため、時期が異なるものとみられる。木枠は内法0.4m、深さ0.28mで、加工を施し巧みに組み合わせていた。井戸枠の裏込めには木枠と平行する縦板と石が検出され、木枠に伴って作られた井戸枠の残骸と推測され、改修して使用されたとみられる。井戸枠内の埋土からは縦板片や大石が出土した。

236-1SE610（Fig.26）

SB480の掘立柱建物の掘り方を切って掘り込まれた井戸で、掘り方は東西1.7m、南北1.8m、深さ1.1mの円形で、井戸枠は僅かに板材が残っていたが、調査中に埋土と一緒に取れてしまうほど腐食していた。四隅には径0.05m前後の隅柱が僅かに残存していた。中央には径0.35mの曲物が設置されていたが、これも薄く木片が残っている程度であった。井戸の埋土である暗灰色土には瓦が多く含まれていた。曲物内の埋土は2層で上層が暗灰色粘土、下層が明白色砂であった。

236-1SE625（Fig.25）

掘り方は東西1.26m、南北1.26m、深さ1.4mの円形で、一辺0.44m程の方形状に木片が検出された。井戸枠のようにも見えるが明確でない。その中央には曲物が存在し、その径は0.4mで掘り方中央よりやや東寄りで確認された。曲物周囲の掘り方は礫と木炭で埋められていた。曲物内からは0.18×0.2m、深さ0.14mの曲物と土師器坏が検出された。この曲物は汲み上げ具として使用されたものと推測される。

土坑

236-1SK460（Fig.26）

南北2.68m、東西2.68mの円形を呈している。形状から素掘りの井戸とも考えたが、掘削後全く湧水がないこと、雨水もすぐに吸い込んでしまうことや埋土中から少量の木片は出土したが、その他井戸枠を想定できる遺物が出土していないため、土坑として報告する。2面目で落ち込みによってできたとみられる土坑を確認していることや最上面の埋土（黒茶色土）に11世紀後半の遺物が含まれていることな

どから第2遺構面の遺構の可能性も考えられる。しかし、中位から底面までは9世紀代までの遺物が殆どであることから、最上面は整地の落ち込みなどと考え、この遺構は最終埋没こそ11世紀後半と言えるが、9世紀代には殆ど埋没していたと推測される。最上面の黒茶色土層からは獣骨の四肢骨片が少量出土した。

236-1SK535

調査区西端にある土坑で、調査区外につづく。埋土はSK530と同じ黒灰色土で、平瓦の完形品が出土。

236-1SK545（Fig.26）

南北2.4m、東西1.8m、深さ0.48mの楕円形を呈している。最上面の西端から馬とみられる頭蓋骨が出土したが、その出土位置がSD540と切りあっている部分であること、SD540からも馬の歯が出土していることなどから、この土坑出土とみるよりSD540出土とみた方が妥当である。

236-1SK590

南北4.0m、東西3.0m、深さ0.3mの楕円形を呈している。底面はやや凸凹している。埋土は全体的に灰色をした粘質土で、明白色の粘土ブロックが細かく入り、人為的に埋められた可能性が高い。

道路遺構

236-1SF615

SD520とSD550に挟まれた幅約1.8mの帯状に続く砂質土で、表面は若干凹凸があり、サビで茶色に硬化している。この硬化面を除去すると、やや砂質の黒灰色土が黒色粘土などに凸凹に入り込んでいる。砂質はこの付近の地山であるが、黒色粘土より下層に砂層があるため、SX615の砂質土は黒色粘土の上に路面とするため意図的に積まれたものと推測される。また、砂質土を除去すると周囲より低くなる。

その他の遺構

236-1SX530（Fig.24）

SD375を挟んで北側でも同様の埋土が存在するため、それまで含めて南北約6.5m、東西7.0m、深さ0.3m前後の方形を呈している。埋土は黒灰色土と黒灰色粘土の混合層のほぼ単一層で、底面ではSD540が検出された。土坑か窪みとみられるが不明瞭である。

236-1SX525

SD550、520、615を覆っている茶褐色土層で、厚さは10cm前後でそれら遺構との境目は明瞭である。

○第４調査面

調査区の北西付近一帯に広がっていた暗灰色粘土を除去した遺構面で、灰白色粘土や淡黄灰色土を基盤とした面である。確認される遺構はアメーバ状に暗灰色粘土やそれに黒色粘土ブロックが混じり込んでいる埋土で、明確に遺構と言えるものは多くない。この黒色粘土は砂を殆ど含まない粘性がとても強い粘土で、調査区内を蛇行する流路の最終埋没層とみられる。この埋没時期や埋没状況については分析を行っている（第V章）。北側では黒色粘土を抉るように凹凸が広がっているため、ある時期にこの粘土を採掘した可能性も考えられる。この採掘時期は黒色粘土付近で出土する遺物から弥生時代後期のものであろうか。また、この面では上面の遺構の掘り残しとみられるピット類も確認されている。

（4）出土遺物

○第1調査面

掘立柱建物

236-1SB100e出土遺物（Fig.27）

土師器

小皿a（1・2） 磨滅しているが、体部はヨコナデ。2は底部回転ヘラ切り。

236-1SB100g出土遺物（Fig.27）

土師器

小皿a（3） 復元口径9.0㎝。内面底部ナデ、体部は回転ナデ、底部回転ヘラ切り。

236-1SB145d出土遺物（Fig.27）

土師器

丸底坏a（4） 復元口径14.6㎝。体部は屈曲なく丸く仕上げ、下半に指頭圧痕や板状圧痕が残る。

236-1SB165a掘り方出土遺物（Fig.27）

土製品

焼土塊（5・6） 全体的に荒れているが、部分的に面を残している。色調は淡橙茶色で、0.4㎝未満の白色砂粒を多く含み、スサ痕跡もみられる。

236-1SB165h柱痕出土遺物（Fig.27）

土師器

丸底坏a（7） 体部中位付近で僅かに段があり、外面に板状圧痕を残す。

236-1SB165h掘り方出土遺物（Fig.27）

土師器

丸底坏（8） 体部中位付近で僅かに段があり、その下半はナデ、内面はミガキbを施す。

236-1SB275a出土遺物（Fig.27）

土師器

小皿a（9） 小破片で、底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（10） 復元口径15.2㎝。内面にミガキb、外面底部に板状圧痕が残る。

236-1SB275d出土遺物（Fig.27）

土製品

焼土塊（11・12） 部分的に面を残している。色調は茶灰色や橙灰色を呈し、胎土には白色砂粒やスサを多く含む。11には棒状痕跡があり、12には土師器片が混ぜ込まれている。

236-1SB275h出土遺物（Fig.27）

黒色土器A類

甕（13） 口縁端部外面はヨコナデ、その他は摩滅。外面に一部煤が付着している。

236-1SB285a出土遺物（Fig.27）

土師器

小皿a（14） 小破片で底部は磨滅する。体部は内外面ともヨコナデ。

236-1SB285b出土遺物（Fig.27）

土師器

小皿a（15・16） 口径9.0cmと9.8cm。両方とも底部回転ヘラ切り。内面底部はナデ。

236-1SB285b掘り方出土遺物（Fig.27）

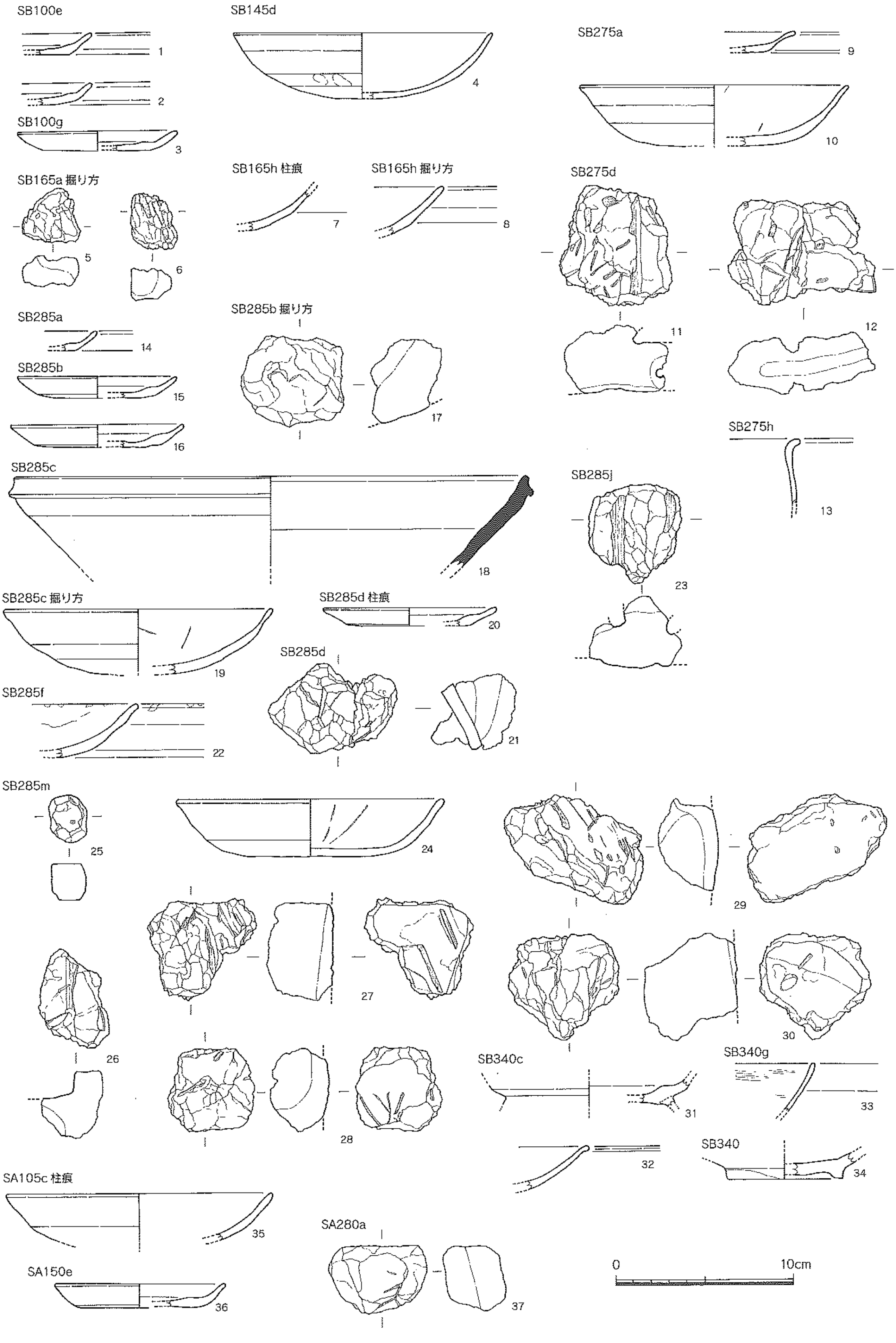


Fig.27　第1調査面掘立柱建物・柵列出土遺物実測図（1/3）

土製品

焼土塊（17） 胎土は茶灰色や黒灰色を呈し、0.5㎝以下の白色砂粒を多く含み、スサ痕も僅かにみられる。

236-1SB285c出土遺物（Fig.27）

須恵質土器

鉢（18） 復元口径29.6㎝、口縁端部が若干肥厚する。内外面とも回転ナデ。外面口縁部付近は暗青灰色で他は青灰色を呈する。東播系。

236-1SB285c掘り方出土遺物（Fig.27）

土師器

丸底坏a（19） 復元口径15.2㎝、内面にミガキbやコテ当て痕、外面は体部がヨコナデで、底部に板状圧痕を残す。

236-1SB285d柱痕出土遺物（Fig.27）

土師器

小皿a（20） 復元口径9.8㎝、器高1.0㎝。磨滅し調整不明。

236-1SB285d出土遺物（Fig.27）

土製品

焼土塊（21） 胎土は茶灰色や灰黒色を呈し、0.5㎝以下の白色砂粒を多く含み、スサや須恵器片が混ぜ込まれている。

236-1SB285f出土遺物（Fig.27）

土師器

丸底坏a（22） 内面にミガキbを施す。口縁端部に煤が付着している。

236-1SB285j出土遺物（Fig.27）

土製品

焼土塊（23） 胎土は淡茶灰色と黒灰色を呈し、0.5㎝以下の白色砂粒を多く含む。棒状の痕跡を2.4㎝の間隔で残し、土壁の可能性が考えられる。

236-1SB285m（S-697）出土遺物（Fig.27）

土師器

丸底坏a（24） 復元口径15.1㎝、内面にはコテ当て痕、外面は上部がヨコナデ、下半に指頭圧痕と板状圧痕を残す。

瓦類

瓦玉（25） 大きさは2.7×2.15×2.5cm。側面を打ち欠き、片面に布目痕が残る。

土製品

焼土塊（26～30） 胎土は茶灰色や黒灰色を呈し、0.5㎝以下の白色砂粒を多く含み、スサ痕跡も多くみられる。面を残している部分が多く見られる。26には土師器片を含む。

236-1SB340c出土遺物（Fig.27）

土師器

椀c（31） 磨滅し調整は高台接合のヨコナデ以外不明。

緑釉陶器

皿（32） 胎土は0.5mm程度の白色砂粒を多く含み、白茶色を呈する。口縁端部が僅かに外反する。釉は口縁部外面に僅かに残り、内面は点状に残る。土師質。

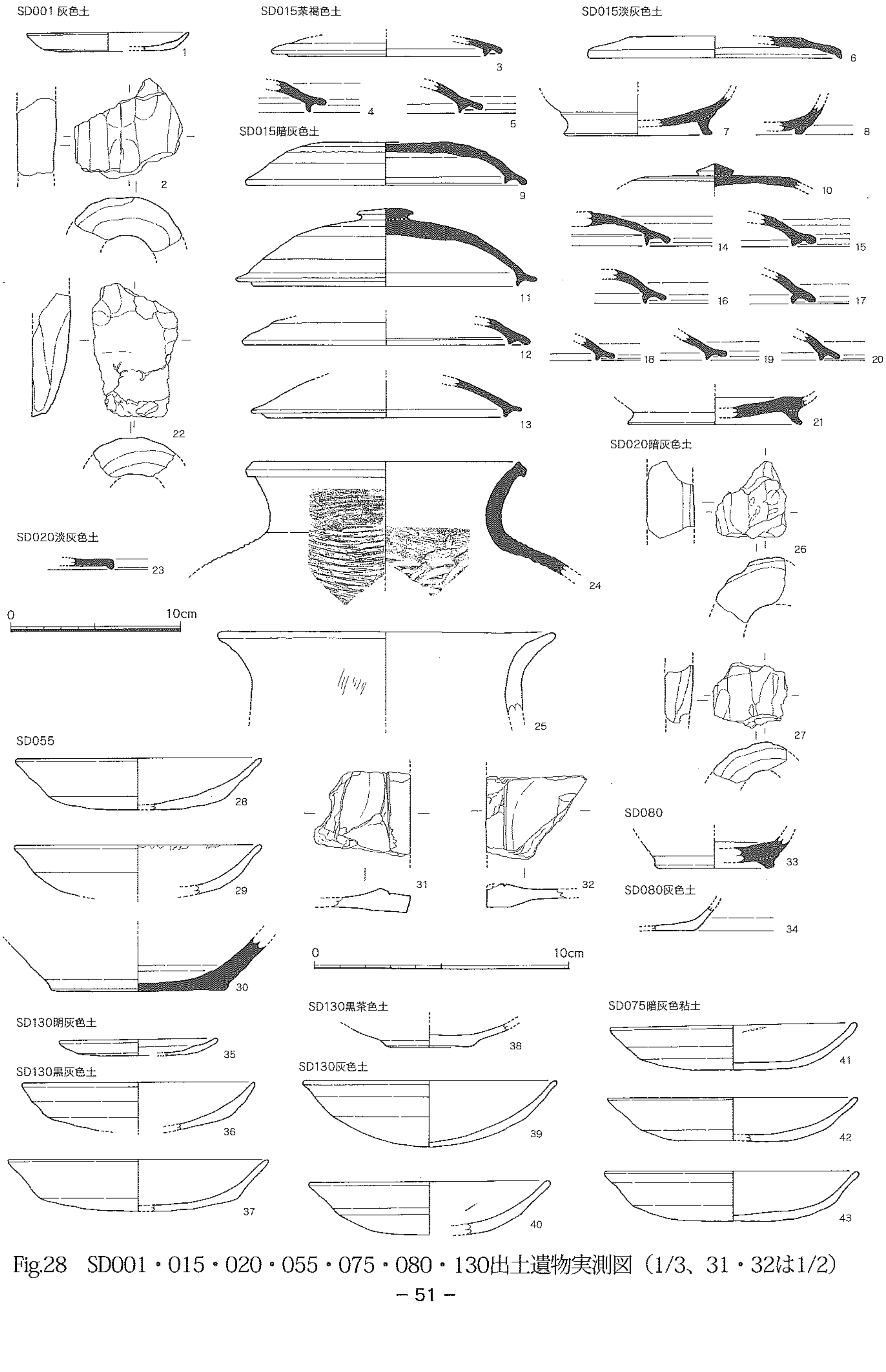


Fig.28　SD001・015・020・055・075・080・130出土遺物実測図（1/3、31・32は1/2）

236-1SB340g出土遺物（Fig.27）

黒色土器

椀（33） 内面に僅かにミガキcが残る。外面ヨコナデ。

236-1SB340（S-881）出土遺物（Fig.27）

緑釉陶器

椀×皿（34） 高台削り出しで、復元高台径6.6㎝。胎土は微細な白色砂粒を含み暗灰色を呈する。釉は暗緑灰色で、内面にミガキの後薄く施釉され、外面は高台と底部外面が露胎で、体部外面のみ施釉される。須恵質。

柵列

236-1SA105c柱痕出土遺物（Fig.27）

土師器

丸底坏（35） 復元口径15.0㎝。内面にミガキbが残る。

236-1SA150e出土遺物（Fig.27）

土師器

小皿a（36） 復元口径9.6㎝、器高1.4㎝。磨滅し調整不明。

236-1SA280a出土遺物（Fig.27）

土製品

焼土塊（37） 胎土は黒灰色と茶灰色を呈し、0.4㎝以下の白色・茶色砂粒を多く含み、スサ痕もみられる。

溝

236-1SD001灰色土出土遺物（Fig.28）

土師器

小皿a（1） 復元口径9.6㎝、内面ヨコナデ、底部外面に板状圧痕が残る。

土製品

鞴羽口（2） 現存長5.9㎝、幅6.3㎝、厚さ2.3㎝。胎土は3mmまでの白色・茶色砂粒を多く含み、表面から明灰色・淡茶灰色・淡橙色を呈する。表面はナデている。

236-1SD015茶褐色土出土遺物（Fig.28）

須恵器

蓋1（3～5） 口縁部より僅かに高い断面三角形の返りを貼付する。色調は青灰色を呈する。還元･焼成良好。3は復元口径13.6㎝。色調は明灰色を呈し、内外面とも回転ナデ。

236-1SD015淡灰色土出土遺物（Fig.28）

須恵器

蓋3（6） 復元口径15.0㎝。内外面とも回転ナデで、内面上部はナデ。色調は青灰色を呈する。還元･焼成とも良好。

坏c（7・8） 7は外開きの高い高台を貼付する。内面不定方向のナデ。8は内外面回転ナデ、底部端に低い高台を貼付する。

236-1SD015暗灰色土出土遺物（Fig.28）

須恵器

蓋a1（9） 復元口径16.6㎝。外面上半部は回転ヘラ切り、その他内外面は回転ナデ。胎土は1mm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。還元･焼成とも良好。

蓋c（10） 外面は回転ヘラケズリで擬宝珠形のツマミを貼付する。内面はナデ。胎土は1mm以下の白色砂粒を含み、内面青灰色、外面灰黒色を呈する。還元・焼成とも良好。

蓋c1（11） 復元口径17.8cm、外面上半部は回転ヘラケズリで、潰れた擬宝珠形のツマミを貼付する。その他は回転ナデで、内面頂部に一部ナデを施す。胎土は3mm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。還元・焼成とも良好。

蓋1（12～20） 胎土はおよそ1mm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。還元・焼成とも良好。復元口径は12が17.0cm、13が16.0cm。口縁部より僅かに高い断面三角形の返りを貼付する。口縁端部破片のため、内外面とも回転ナデ。14・15は外面上部に回転ヘラケズリが確認できる。17は明灰色を呈する。20は紫灰色を呈する。

坏c（21） 外開きの高台を貼付する。底部内面ナデ、底部外面ヘラ切りである。

土師器

破片 摩滅が目立ち実測するまでには至っていないが、回転台を使用したような橙色と黄褐色の土師器が4点出土している。場合によっては還元不良の須恵器の可能性もある判別が微妙な土器である。

土製品

鞴羽口（22） 先端部部分で、厚さは2.2cm。胎土は2mm以下の白色砂粒を多く含み、断面は外側から淡青灰色、淡茶灰色、淡橙色に変色する。先端部は熱で融解し、鉱滓も付着している。

236-1SD020淡灰色土出土遺物（Fig.28）

須恵器

蓋3（23） 口縁端部で、内外面とも回転ナデ。

甕（24） 復元口径16.6cm、口縁端部を肥厚させる。外面叩き、内面は同心円の当て具痕が残り、頸部外面は回転ナデで条痕状になっている。色調は青灰色で、体部内面は自然釉で灰黒色を呈する。

土師器

甕（25） 復元口径20.0cm、外面に僅かにタテハケが残る。胎土は淡橙色で、砂粒に混じって角閃石が混入する。

236-1SD020暗灰色土出土遺物（Fig.28）

土製品

鞴羽口（26・27） 2点とも胎土は3mm以下の白色砂粒を多く含み、26は厚さが2.8cm。断面は外側から暗灰色、淡橙灰色、橙茶色に変色し、外側は熱により硬化する。27は厚さが1.6cm。断面は外側から明灰色、赤茶色、淡橙色に変色し、外側は熱により硬化している。

236-1SD055出土遺物（Fig.28）

土師器

丸底坏a（28・29） 復元口径は14.5、14.6cm、29は口縁端部内面に炭化物が付着する。

須恵質土器

鉢（30） 胎土は精製され、明灰色を呈する。復元底径は10.4cm。底部外面は回転糸切り、内面は使用によって磨滅する。

石製品

風字硯（31・32） 硯面は凹面に仕上げ、周囲に浅い沈線を巡らし、その外側に平坦面を作る。裏面は表と同様に加工しているが、粗く割り僅かに研磨するだけである。石材は黒色味の強い暗灰色の粘板岩。2点は同一個体の可能性が高い。

236-1SD070灰茶色土出土遺物（Fig.29）

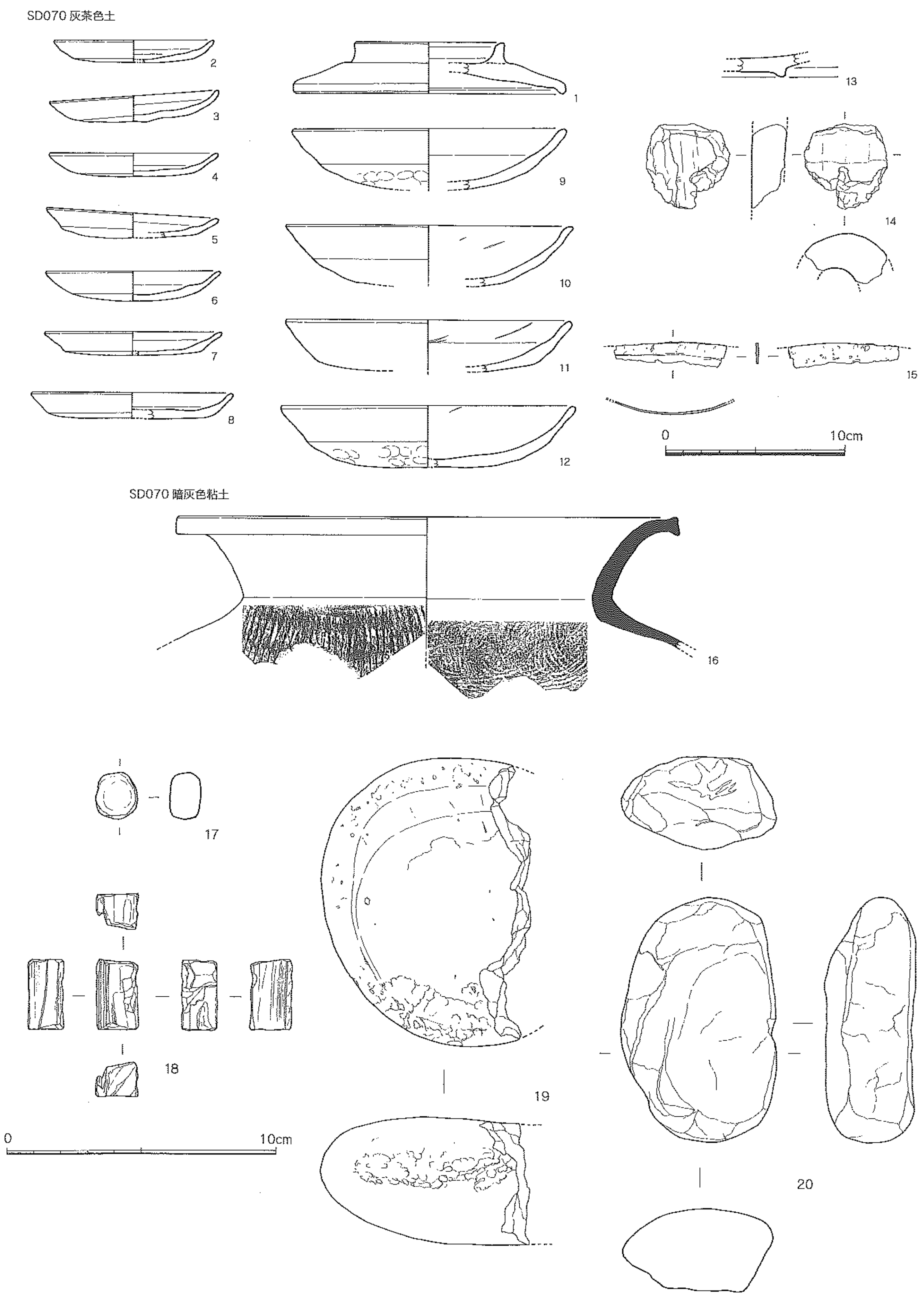


Fig.29　SD070出土遺物実測図①（1/3、18～20は1/2）

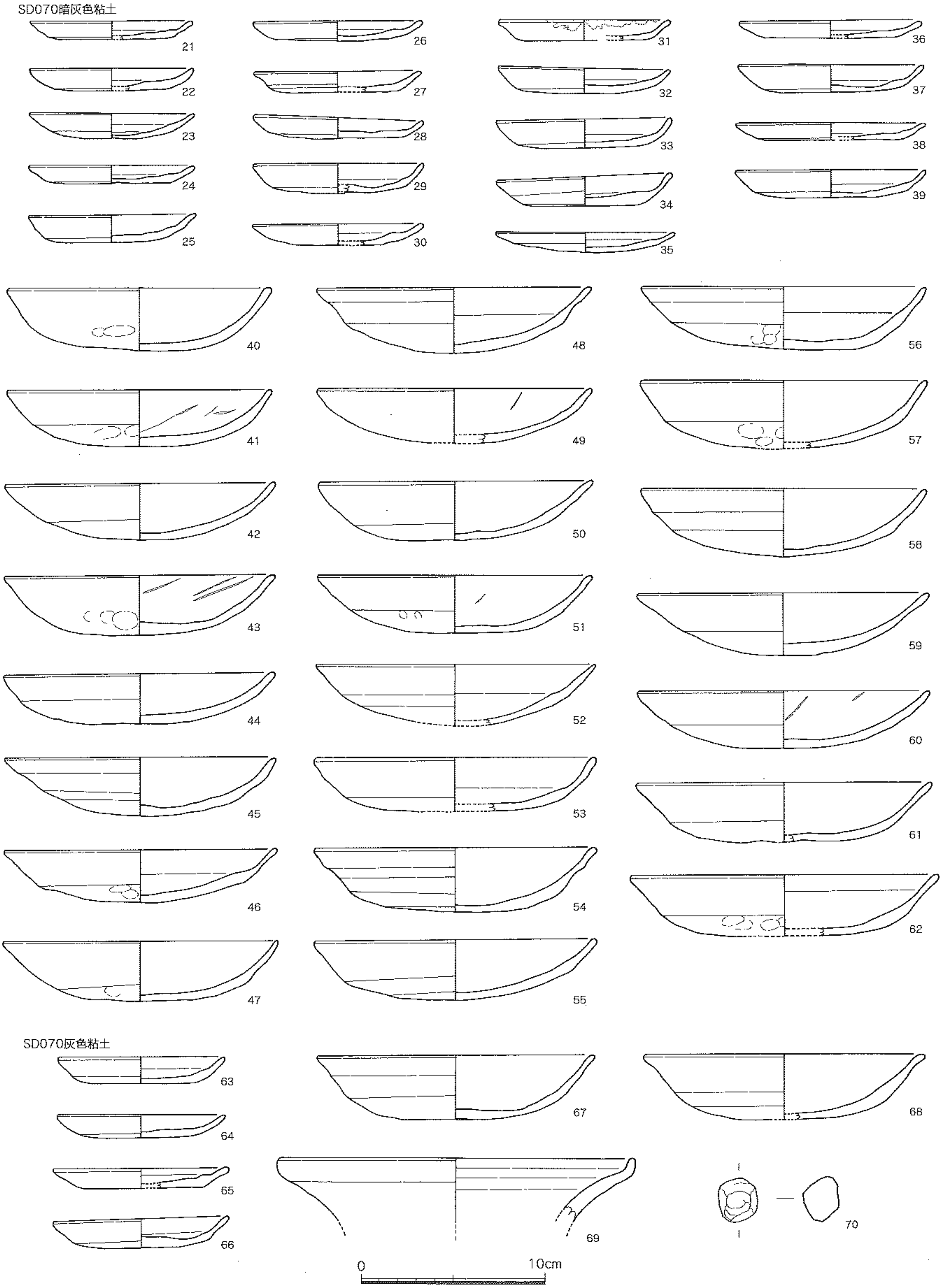


Fig.30　SD070出土遺物実測図②（1/3）

土師器

蓋b3(1)　復元口径14.8㎝、ツマミ径は8.4㎝、口縁端部を僅かに曲げている。全体的に磨滅しているが、外面回転ナデ、内面ナデか。色調は茶灰色～黄橙色を呈する。

小皿a（2～8）　口径8.9～11.2㎝、器高1.2～1.65㎝。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（9～12）　復元口径15.2～18.4㎝、内面ミガキbで、体部下半は押し出し。9・12には指頭圧痕が僅かに残る。

緑釉陶器

椀×皿（13）　高台部はケズリ出しで、高台畳付および底部外面以外は薄く淡緑灰色釉を施す。焼成は須恵質で、京都産とみられる。

土製品

鞴羽口（14）　厚みは1.5～2.2㎝、中央の孔は復元径約2.2㎝。胎土にはスサ痕が明瞭に確認できる。外面は茶灰色と暗灰色に変色し、先端部は融解している。

金属製品

用途不明製品（15）　現存する大きさはタテ1.4㎝、ヨコ6.2㎝、厚さ1.0㎝。内側に僅かな段を有する。湾曲しており、何か器状の口縁部分とみられる。

236-1SD070暗灰色粘土出土遺物（Fig.29・30）

須恵器

甕（16）　復元口径28.0㎝、口縁端部は僅かに肥厚させる。頸部は内外面とも回転ナデで、くびれ部が内外面ともナデ。

土師器

小皿a(21～39)　口径8.8～10.4cm､器高0.9～1.6cm。確認できるものはすべて底部回転ヘラ切り、板状圧痕が残る。31の口縁部内面には煤（油煙）が付着している。

丸底坏a（40～62）　口径14.4～16.8cm、器高2.7～3.7cm。全体的に摩滅が目立つが、ミガキbやコテ当て痕が部分的に確認できる。外面中位に僅かに屈曲している。

瓦類

瓦玉（17）　大きさは2.1×2.3×1.7㎝。全体的に磨滅している。

石製品

滑石加工品（18）　大きさは2.6×1.6×1.3㎝。方形に削られ、当初の面が3面残り、口縁部もしくは鍔部分を加工したものとみられる。

磨石（19・20）　19は円形で半分ほど欠損する。最大長10.7㎝、厚さ4.7㎝。両面は研磨され、側面には敲打痕も確認できる。20は両端が非常に研磨され光沢を放つ。石材は石英で長さ9.2㎝、幅5.8×3.0㎝である。表面の筋目に赤色顔料が確認でき、蛍光X線分析を行ったところ水銀朱であった。また、同様に金色物質も確認でき、蛍光X線分析を行ったところ、金であることが確認できた。

236-1SD070灰色粘土出土遺物（Fig.30）

土師器

小皿a（63～66）　口径9.0～9.6cm、器高1.1～1.6cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（67・68）　口径はそれぞれ15.1cmと15.4cm。外面は屈曲なく丸く仕上げる。

灰釉陶器

甕×壺（69）　口縁端部を上方に屈曲させる。復元口径19.4㎝。胎土は淡灰白色で1mm前後の黒色粒を含む。内外面とも回転ナデのあと施釉されているが､外面は殆ど剥落していて､淡緑灰色釉が僅かに残っ

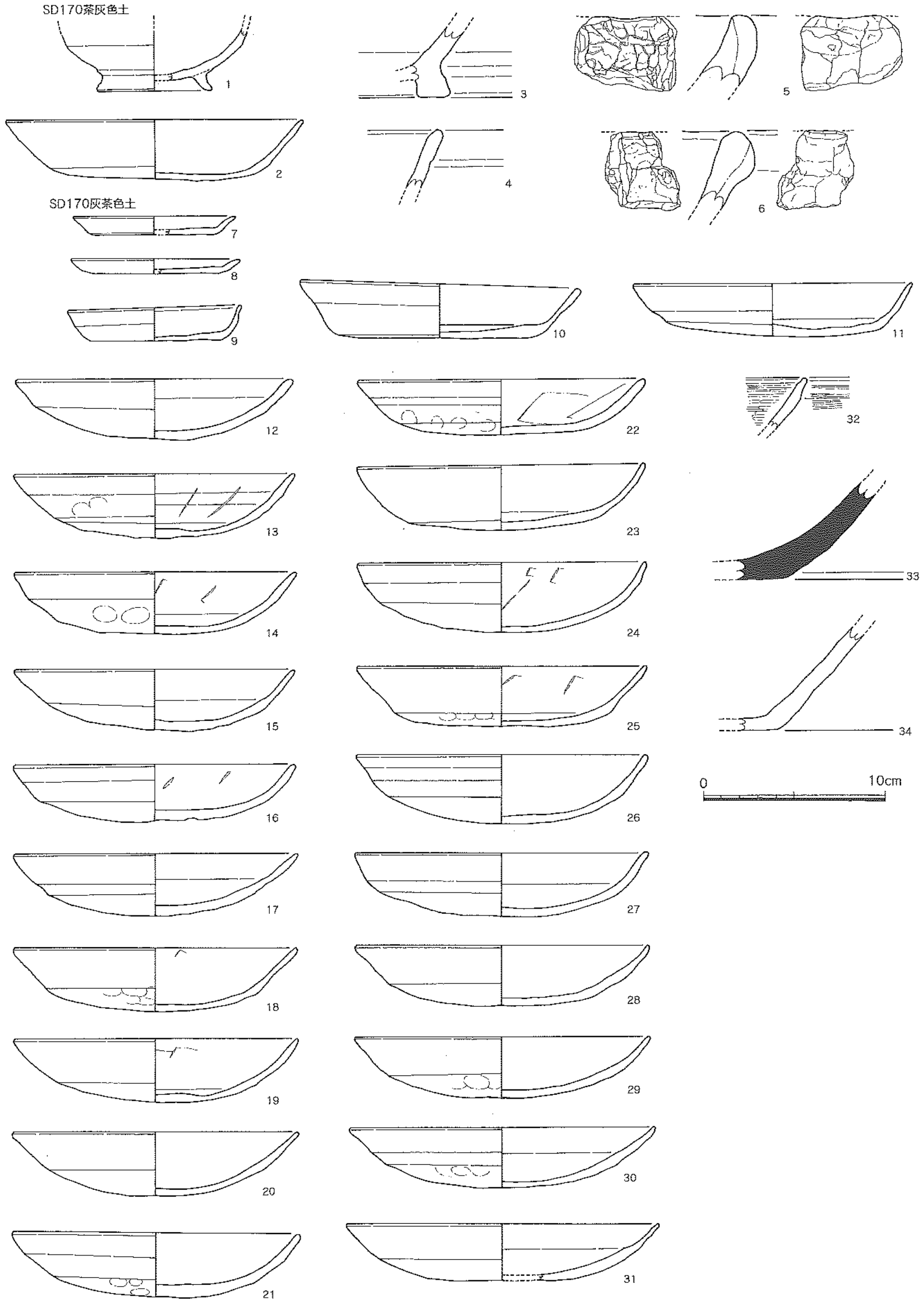


Fig.31　SD170出土遺物実測図（1/3）

ている。

瓦類

瓦玉（70） 大きさは2.4×2.1×1.9㎝。丸く加工されている。

236-1SD075暗灰色粘土出土遺物（Fig.28）

土師器

丸底坏a（41～43） 復元口径14.6～15.0㎝、器高2.6～3.0㎝。外面中位に僅かに段を有するがほぼ丸い。胎土は茶白色や茶灰色を呈する。

236-1SD080出土遺物（Fig.28）

須恵器

坏c（33） 底部内外面はナデ。底部端に台形の高台を貼付する。復元高台径7.1㎝。

236-1SD080灰色土出土遺物（Fig.28）

土師器

坏a（34） 体部と底部との境は若干丸味を帯びる。胎土は茶灰色を呈する。

236-1SD130明灰色土出土遺物（Fig.28）

土師器

小皿a（35） 復元口径9.4㎝、器高0.95㎝。全体的に磨滅している。

236-1SD130黒灰色土出土遺物（Fig.28）

土師器

丸底坏a（36・37） 2点とも全体的に磨滅している。体部中位が肥厚し僅かに屈曲する。胎土は茶白色を呈する。

236-1SD130黒茶色土出土遺物（Fig.28）

土師器

坏（38） 底部は凸型で、磨滅しているが糸切りのようにも見える。胎土は砂粒を少量含むが精製されている。内面は茶白色、外面は橙灰色を呈する。豊前からの搬入か。

236-1SD130灰色土出土遺物（Fig.28）

土師器

丸底坏a（39・40） 内面はミガキb、外面底部は回転ヘラ切り後ナデ。胎土は茶白色を呈する。

236-1SD170茶灰色土出土遺物（Fig.31）

土師器

椀c（1） 復元高台径6.3㎝の外開きの高台を貼付する。坏部はやや小振りである。

丸底坏a（2） 磨滅し調整は内面底部で僅かにナデが残るだけだが、底部は若干押出しが認められる。

灰釉陶器

壺（3） 底部付近で、がっちりとした高台を貼付する。体部外面下半は回転ヘラケズリ、高台部は回転ナデ、施釉は内面のみで淡緑灰色の釉が薄く掛かり、貫入もみられる。

朝鮮系無釉陶器

甕（4） 口縁端部で外面は叩きの後、回転ナデを施す。内面回転ナデ。胎土は淡褐白色砂粒を僅かに含み、外面は灰黒色、断面は茶褐色を呈する。

土製品

トリベ（5・6） 5は内面が灰白色に変色し、端部に褐黒色の付着物がみられる。胎土には亀裂が多くみられ、スサ痕も残る。6は内面が淡赤灰色や淡黄灰色に変色硬化する。

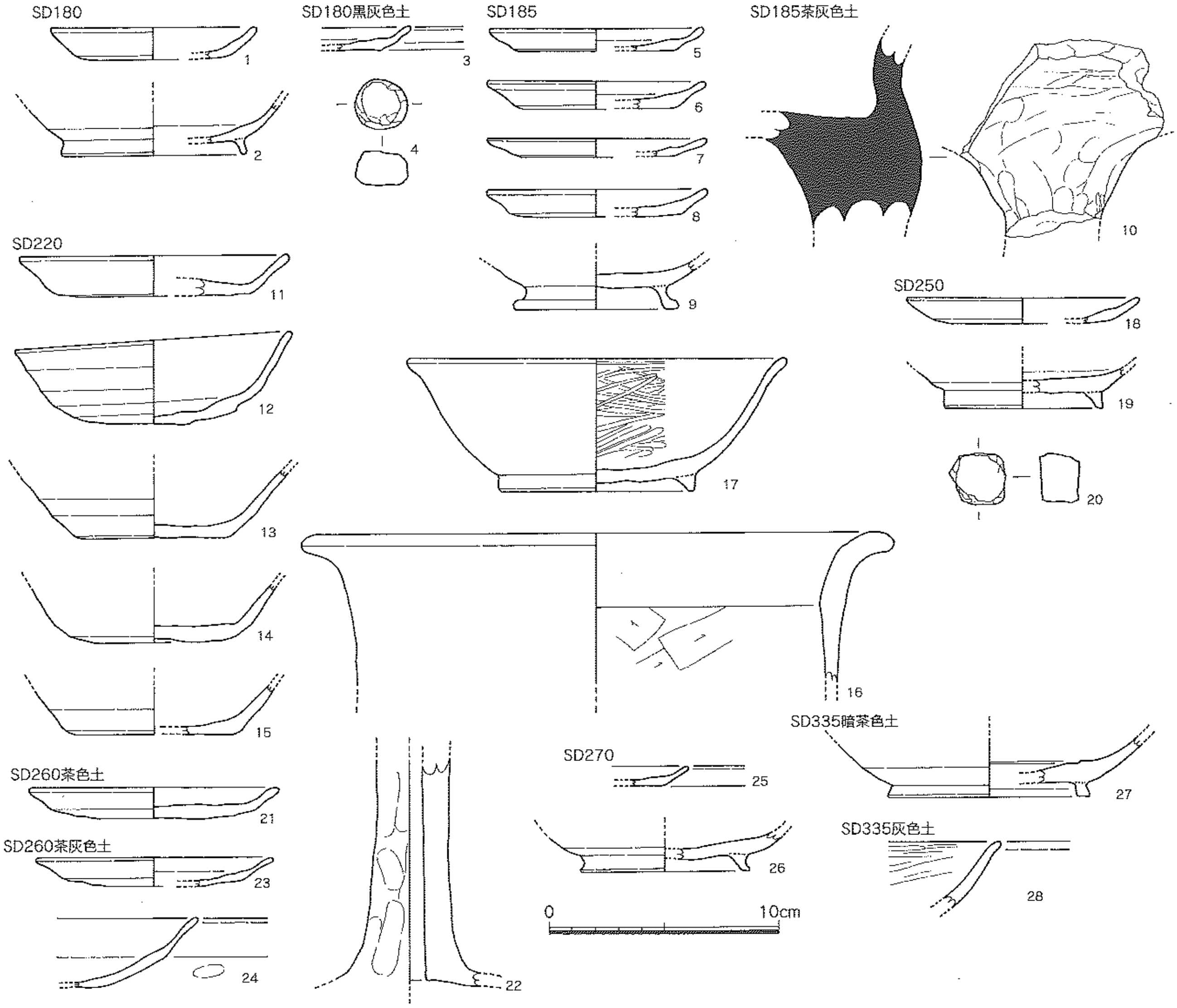


Fig.32　SD180・185・220・250・260・270・335出土遺物実測図（1/3）

236-1SD170灰茶色土出土遺物（Fig.31）

土師器

小皿a（7～9）　口径9.0～9.5cm、器高0.8～1.8cm。9のみ底部回転糸切り。

坏a（10・11）　2点とも口径15.4cm、内面不定方向ナデ、外面底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（12～31）　口径15.2～17.2cm、器高3.0～3.8cm。殆ど完形で、内面はナデの後ミガキbを施し、コテ当て痕も確認できる。29は内面に傷が多い。外面は摩滅が目立つ。

瓦器

椀（32）　口縁端部内面に沈線を巡らし、内外面とも小刻みなミガキcを施し、光沢がある。胎土は精製されている。

須恵質土器

鉢（33）　胎土は淡灰色で、2mm以下の淡灰色や黒灰色の砂粒を含み、全体にスサ痕が残る。外面ナデ調整で、内面は使用のためか磨滅している。

朝鮮系無釉陶器

甕（34）　底部付近で、外面は叩きの後小刻みなナデ、内面は回転ナデ、体部下半とナデを底部外面

は施す。外面灰黒色、断面茶褐色を呈する。

236-1SD180出土遺物（Fig.32）

土師器

小皿a（1） 復元口径9.0cm、口縁端部内面に僅かに煤が付着する。

黒色土器A類

椀c（2） 復元高台径8.2cm、内外面とも摩滅するが、内面に僅かにミガキが残る。

236-1SD180黒灰色土出土遺物（Fig.32）

土師器

小皿a（3） 小破片で、調整は摩滅し不明。

瓦類

瓦玉（4） 大きさは2.2×2.3×1.5㎝。片面に布目痕が残る。

236-1SD185出土遺物（Fig.32）

土師器

小皿a（5～8） 復元口径9.4～9.6cm、器高0.8～1.2cm。全て摩滅し調整不明。

椀c（9） 若干歪みがあるが、復元高台径7.2cm。高台端部は外側に屈曲する。

236-1SD185茶灰色土出土遺物（Fig.32）

須恵器

脚付盤（10） 脚部先端は欠損する。胎土は2mm以下の白色砂粒を少量含むが精製されている。焼成は良好だが、還元が若干悪く、色調は灰白色を呈する。体部内面はヨコナデ、脚部接合部がヨコナデ、脚部はナデ調整である。

236-1SD220出土遺物（Fig.32）

土師器

皿a（11） 復元口径11.8cm。底部回転ヘラ切り、他は摩滅し調整不明。

坏a（12～15） 12は底部が丸く不安定。13～15は体部と底部の境は若干丸味を帯びる。

甕（16） 復元口径26.0cm。胎土は粗く3mm以下の白色砂粒を多く含み、内面明茶褐色、外面黒灰色を呈する。体部内面はヘラケズリ。口縁端部と外面は摩滅し調整不明。

黒色土器A類

椀c（17） 復元口径16.6cm。胎土は2mm以下の白色砂粒を含み、焼成は不良で内面にはミガキcが明瞭に残るが、外面は摩滅する。

236-1SD250出土遺物（Fig.32）

土師器

小皿a（18） 復元口径10.2cm。内外面とも摩滅し調整不明。

灰釉陶器

椀×皿（19） 三角形の高台を貼付し、復元高台径7.0cm。胎土は明灰色で精製され、体部内面に僅かに明灰緑色の釉を施し、内面底部は釉がなく平滑。外面は無釉で回転ナデ。

瓦類

瓦玉（20） 大きさは2.5×2.3×1.7cm。

236-1SD260茶色土出土遺物（Fig.32）

土師器

小皿a（21） 復元口径11.0cm。外面底部回転ヘラ切り。内面底部不定方向のナデ。

器台（22） 脚部で外面にナデ痕跡を残す。

236-1SD260茶灰色土出土遺物（Fig.32）

土師器

小皿a（23） 復元口径10.4cm。内外面とも摩滅し調整不明。

丸底坏a（24） 外面に指頭圧痕が残り、中位で僅かに屈曲し口縁部はやや薄く仕上げる。

236-1SD270出土遺物（Fig.32）

土師器

小皿a（25） 小破片で、全面摩滅している。

黒色土器A類

椀c（26） 体部外面はヨコナデ。内面と外面底部は摩滅し調整不明。

236-1SD335暗茶色土出土遺物（Fig.32）

緑釉陶器

椀（27） 方形の高台を貼付し、高台畳付には僅かに段がある。内面底部に浅い沈線が巡る。内外面とも淡明緑色釉が薄く綺麗に掛かっている。須恵質。復元高台径8.9㎝。

236-1SD335灰色土出土遺物（Fig.32）

黒色土器A類

椀c（28） 口縁端部が僅かに外反する。内面ミガキcが残る。

井戸

236-1SE025暗灰色土出土遺物（Fig.33）

須恵器

甕（1） 二重口縁で、内面はカキ目、外面は回転ナデ。焼成良好、還元不良。

石製品

磨石（2） 大きさ4.9×3.9×2.8cmの円球で、全面を磨り痕や敲打痕が残る。花崗岩。

236-1SE025灰褐色土出土遺物（Fig.33）

須恵器

蓋3（3） 復元口径14.8cm。外面上部はヘラケズリで平坦をなす。内面頂部ナデ、他は回転ナデ。口縁端部は僅かにつまみ出している。焼成・還元良好。

坏c（4） 底部端に高台を貼付する。焼成・還元良好。

土師器

坏a（5・6） 体部と底部の境が僅かに丸味を帯びる。5は外面黄白色、6は淡橙灰色を呈する。

黒色土器A類

椀c（7・8） 磨滅も目立ち、内面ミガキcだが単位不明瞭。7は外面下半ヘラケズリのような痕跡がある。

土製品

土玉（9） 大きさは2.0×2.1×1.3cmで、色調は茶灰色で焼成は良好。表面ナデ調整。

236-1SE025暗灰色粘土出土遺物（Fig.33）

土師器

坏a（10・11） 底部回転ヘラ切り。色調は茶灰色を呈する。10は内面に炭化物が付着。

黒色土器A類

椀c（12） 内面ミガキcだが、一部煤が厚く付着している。外面は回転ヘラケズリ。

236-1SE025茶灰色土出土遺物（Fig.33）

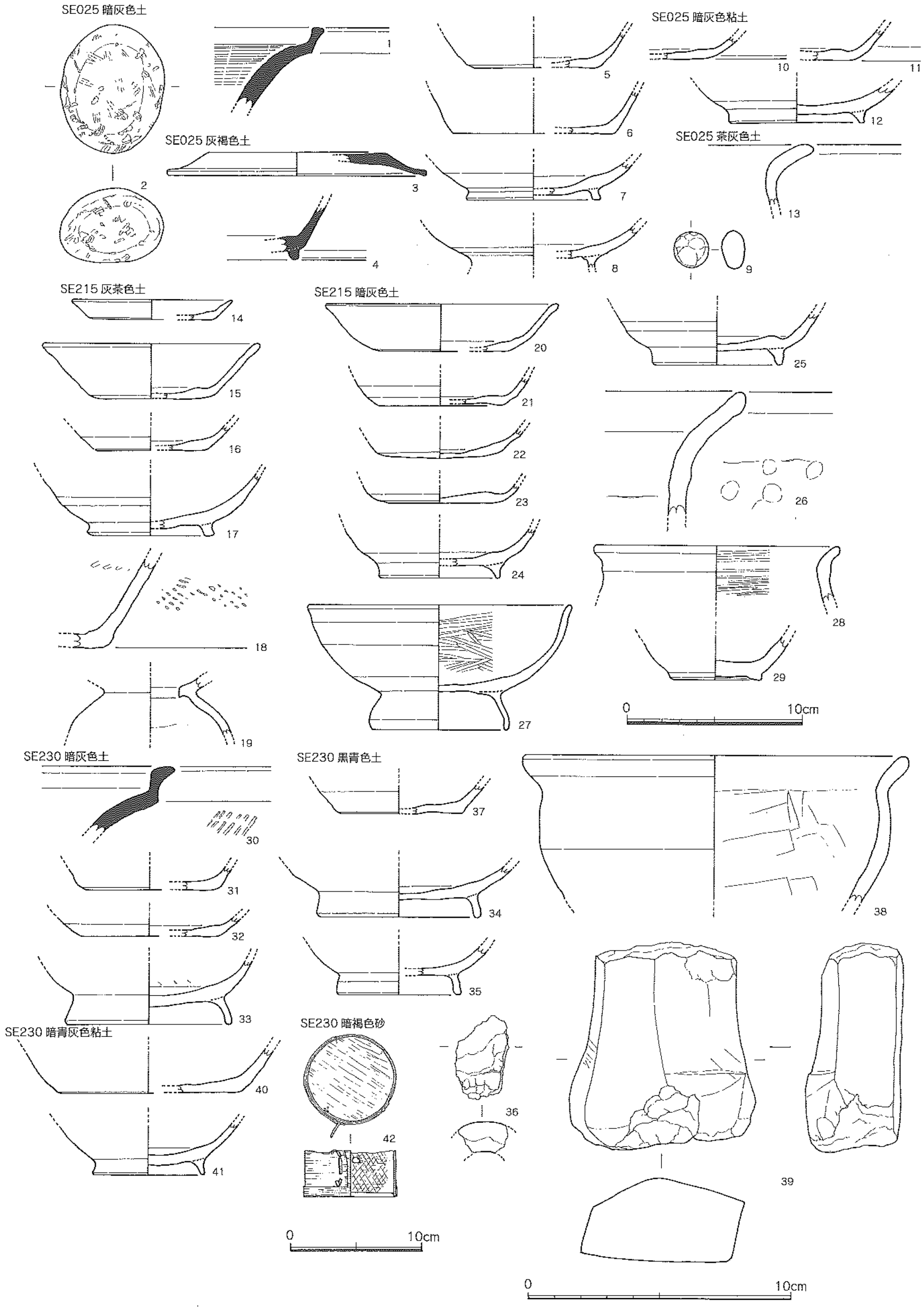


Fig.33　SE025・215・230出土遺物実測図（1/3、2・39は1/2、42は1/8）

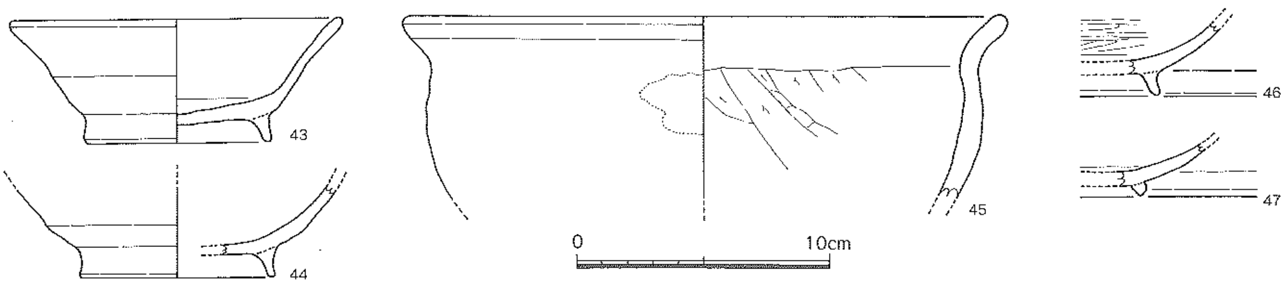


Fig.34　SE230暗青灰色土出土遺物実測図（1/3）

土師器

甕（13）　胎土は粗く、1mm以下の白色砂粒と角閃石を少量含む。焼成やや不良。外面ヨコナデ、その他は磨滅し不明。

236-1SE215灰茶色土出土遺物（Fig.33）

土師器

小皿a（14）　復元口径9.1cm、底部回転ヘラ切り。

坏a（15・16）　底部回転ヘラ切り。色調は黄灰白色を呈する。15は復元口径12.3cm。

黒色土器A類

椀c（17）　復元高台径7.2cm。焼成は不良で、全体的に磨滅する。

朝鮮系無釉陶器

甕（18）　胎土は精製され、外面暗灰褐色、内面暗灰色、断面茶色を呈する。体部外面は叩きの後ヨコナデ、内面ヨコナデで、当て具痕のようなものが残る。底部外面は未調整。

越州窯系青磁

唾壺（19）　胎土は精製され、明橙灰色から灰白色を呈する。釉は淡灰緑色の透明釉で光沢があり、細かい貫入が入る。体部内面の上部が無釉。

236-1SE215暗灰色土出土遺物（Fig.33）

土師器

坏a（20～23）　復元底径7.0～7.6cm。20は復元口径13.2cm。焼成は不良で黄灰白色を呈する。

椀c（24・25）　復元高台径6.8cmと7.4cm。

甕（26）　胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや瓦質気味になっている。口縁端部は内外面ヨコナデ、その他内面はナデ、外面は指頭圧痕が残る。内外面に粘土紐痕が残る。

黒色土器A類

椀c（27）　復元口径15.0cm。高い高台を貼付し、口縁端部を僅かに外反させる。内面ミガキc、外面は磨滅している。

小甕(28)　胎土は1mm以下の砂粒を若干含む。色調は外面が灰色～茶褐色を呈する。内面はミガキc、外面には炭化物が付着する。

越州窯系青磁

小壷（29）　復元高台径5.2cm。胎土は黒色粒を含むが精製され、灰白色や淡橙色を呈する。釉は明るい緑色で細かい貫入が入る。内外面施釉され、高台畳付は釉を拭き取っている。

236-1SE230暗灰色土出土遺物（Fig.33）

須恵器

甕（30）　色調は暗灰色を呈する。外面の一部に叩き痕が残る。内外面とも回転ナデ。

土師器

坏a（31・32） 底部回転ヘラ切り。復元底部径7.9cm。色調は全体として黄白色を呈する。

椀c（33・34） 若干高い高台を貼付する。33は内面にコテ当て痕が残り、炭化物も付着する。色調は淡黄橙色を呈する。

黒色土器A類

椀c（35） 磨滅が目立ち、内面にはミガキ痕だけ残る。

土製品

鞴羽口（36） 胎土は4mm以下の砂粒と角閃石を含み、熱により表面は若干亀裂が入り暗灰色、灰褐色、茶灰色に変色する。断面も外側から暗灰色、淡赤灰色を呈する。

236-1SE230黒青色土出土遺物（Fig.33）

土師器

坏a（37） 底部回転ヘラ切り。色調は茶灰色を呈する。

甕（38） 復元口径22.0cm。胎土は3mm以下の白色砂粒を多く含み、色調は淡褐色や茶褐色を呈する。焼成不良で外面は磨滅し、体部内面はヘラケズリ。

石製品

砥石（39） 大きさは7.9×6.3×3.6cmで、上下以外側面部分5面を使用している。砂岩製。

236-1SE230暗青灰色土出土遺物（Fig.34）

土師器

椀c（43・44） 43は復元口径13.2cm。茶灰色を呈する。44は全体的に磨滅するが、内面にミガキのような痕跡もみられる。

甕（45） 復元口径24.0cm。胎土は3mm以下の白色砂粒を多く含み、明茶褐色を呈する。体部内面は斜め方向のヘラケズリ、その他はヨコナデで、外面には炭化物が付着する。

黒色土器B類

椀c（46） 胎土は精製されている。焼成はやや不良で、内面はミガキが確認できる。

灰釉陶器

皿（47） 胎土は灰色で、白色砂粒と黒色粒を含む。釉は灰緑色で、外面下半と内面底部は施釉されていない。

236-1SE230暗青灰色粘土出土遺物（Fig.33）

土師器

坏a（40） 復元底径10.4cm、内面には炭化物が付着する。

椀c（41） 高台径6.4cm、底部内外面はナデ、その他はヨコナデ。

236-1SE230暗褐色砂出土遺物（Fig.33）

木製品

曲物（42） 潰れた状態で出土したが、底板を基準に復元図化した。径13.8×14.1cm、高さ7.0cm。下方にはタガを巡らせ、側板と底板は5ヶ所で留められていたみられる。

236-1SE300灰色粘土出土遺物（Fig.35）

緑釉陶器

皿（1） 復元高台径7.0cm。高台に僅かに段を有する。底部は糸切りのような痕跡も見える。胎土は淡橙灰色で精製されている。釉は明黄緑色で細かい貫入が入り、一部釉が剥げている。

236-1SE300褐色粘土出土遺物（Fig.35）

土師器

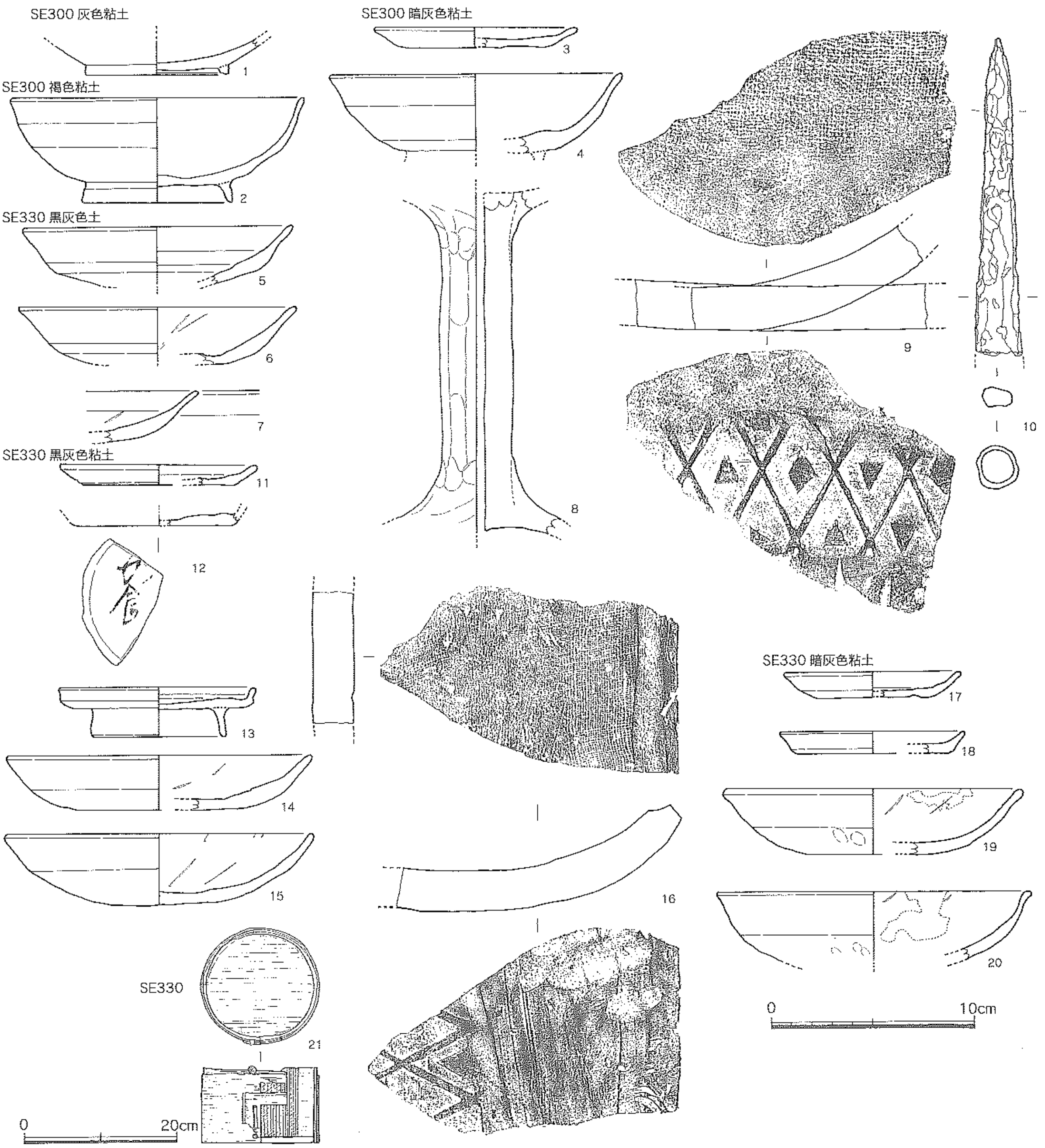


Fig.35　SE300・330出土遺物実測図（1/4、21は1/8）

椀c（2）　復元口径14.4cm。高台部はヨコナデ、他は摩滅。口縁端部僅かに外反する。

236-1SE300暗灰色粘土出土遺物（Fig.35）

土師器

小皿a（3）　復元口径10.0cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。

椀c（4）　復元口径14.4cm。高台は欠損する。口縁端部僅かに外反する。

236-1SE330黒灰色土出土遺物（Fig.35）

土師器

丸底坏a（5～7）　内面はミガキbで、底部はヨコナデ。体部中位が厚く、5・7は外面下半が回転ヘラ切り後ナデ、6は指押さえがみられる。

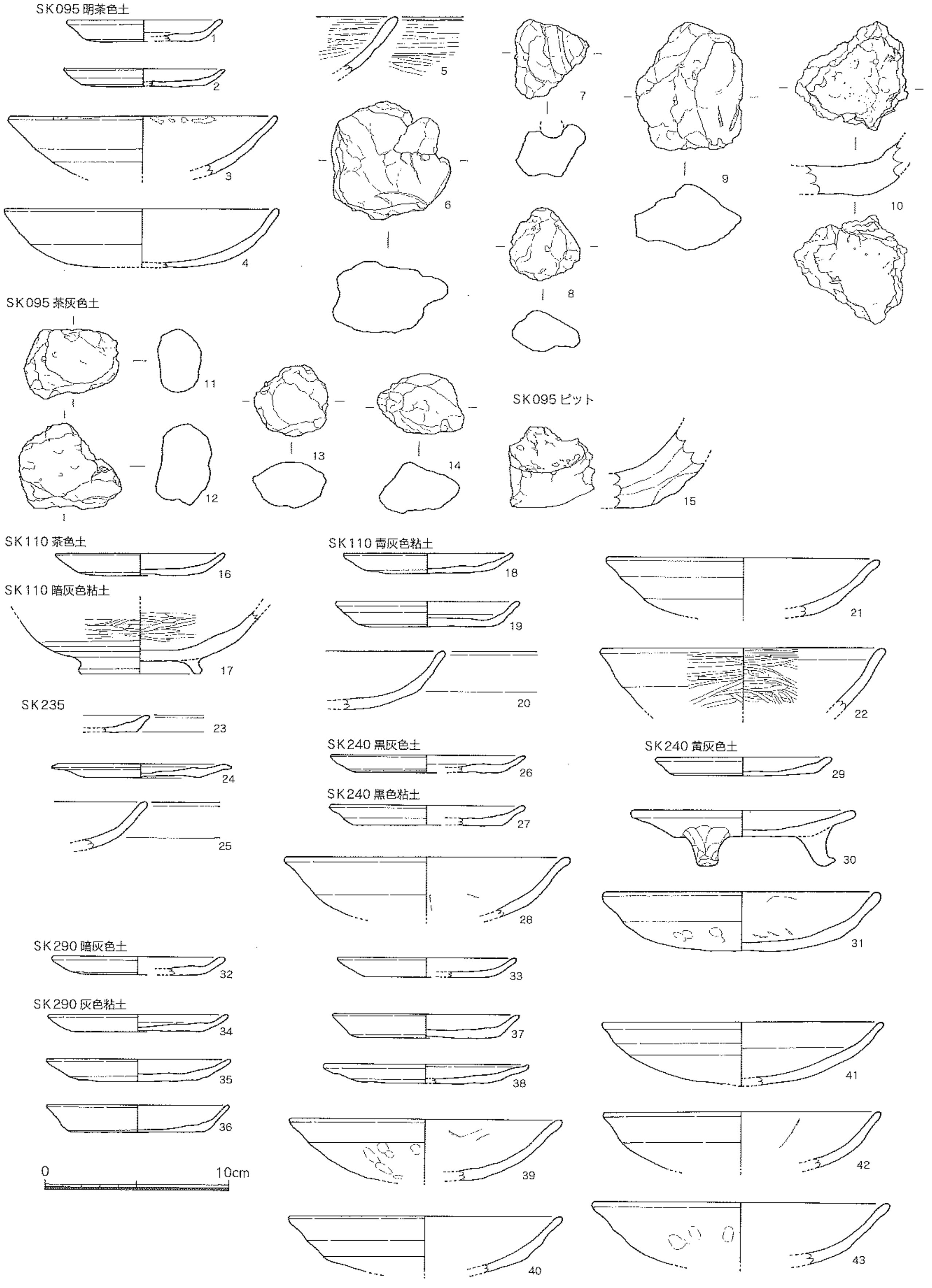


Fig.36　SK095・110・235・240・290出土遺物実測図（1/3）

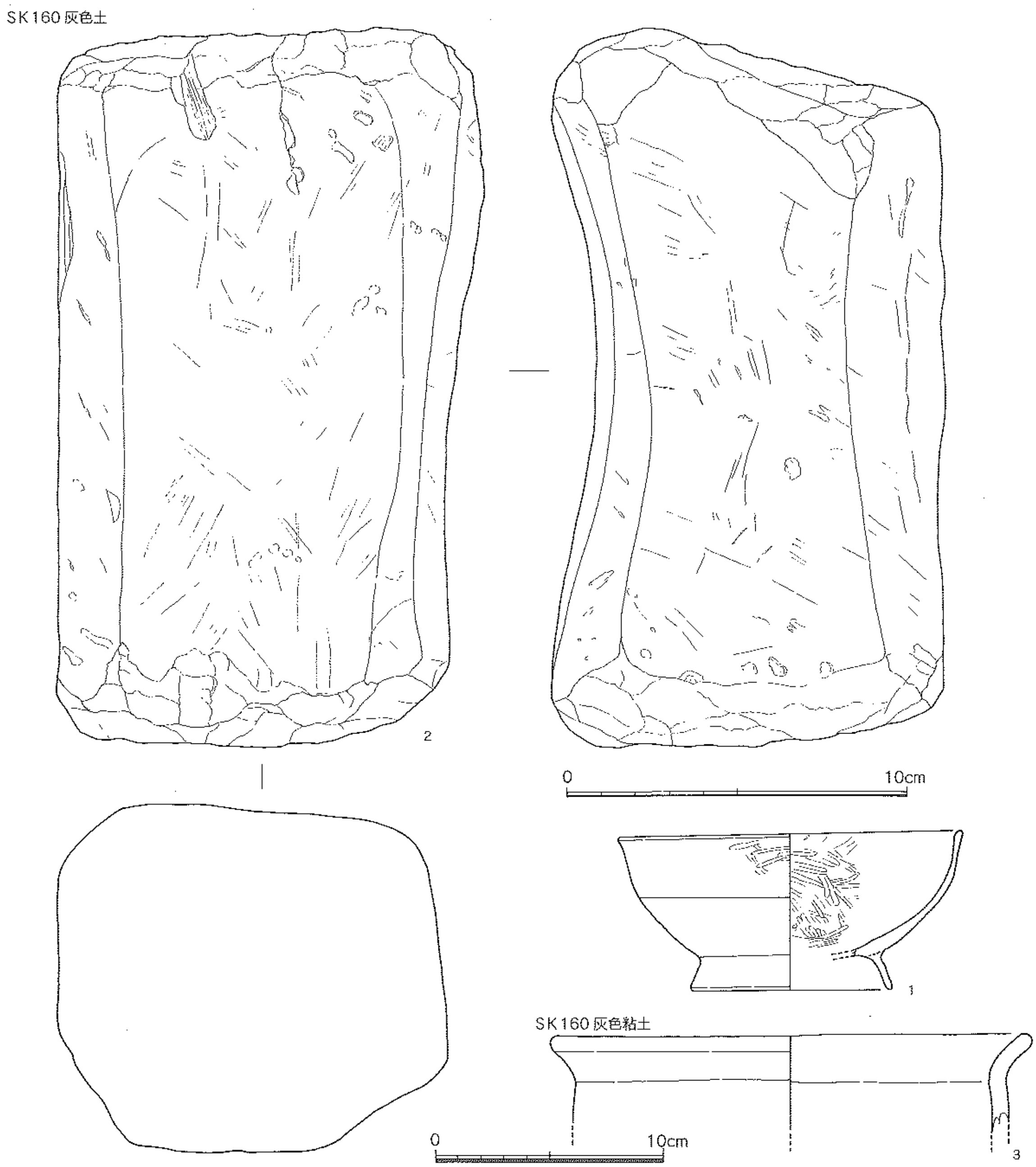


Fig.37　SK160出土遺物実測図（1/3、2は1/2）

器台（8）　外面縦方向のナデで、脚部両端が指押さえやナデである。

瓦類

平瓦（9）　外面は大きな斜格子と三角形を組み合わせた叩きを施す。

金属製品

鉄矛（10）　長さ15.5cm、最大径2.35cmの円錐状をなす。表面は錆で覆われている。内部は筒状になっていて、木片が見つかっている。

236-1SE330黒灰色粘土出土遺物（Fig.35）

土師器

小皿a（11・12）　底部回転ヘラ切りで、12の底面には墨書があり、実測図のような2文字と記されているが、詳細は判別できない。

小皿c（13）　口径9.6cm、器高2.4cm。内面底部はナデ、外面底部は回転ヘラ切りと板状圧痕が残る。

丸底坏a（14・15） 内面ミガキbで当て具痕が残り、外面底部には板状圧痕が残る。
瓦類
平瓦（16） 外面は大きな斜格子と三角形を組み合わせたの叩きとナデ調整。

236-1SE330暗灰色粘土出土遺物（Fig.35）
土師器
小皿a（17・18） 17は底部回転ヘラ切り、18は底部糸切りである。
丸底坏a（19・20） 復元口径14.8cmと15.6cm。内面はミガキbで一部煤が付着する。

236-1SE330出土遺物（Fig.35）
木製品
曲物（21） 調査では側面が潰れた状態で出土したため、底板を基準に復元図化を行った径15.2×15.4cm、高さ9.9cm。側板は4ヶ所を木釘で留めていて、そのうち2本が残存する。側板の一部に方形孔と円孔が開けられている。口縁部の一部がすれて削られている。

土坑

236-1SK095明茶色土出土遺物（Fig.36）
土師器
小皿a（1・2） 復元口径8.6cmと8.8cm。底部回転ヘラ切り。
丸底坏a（3・4） 復元口径14.8cmと15.0cm。3は口縁部内面に炭化物が付着する。
瓦器
椀（5） 胎土は精製され、内外面ともミガキcを施し、銀色味を帯びた暗灰色を呈する。
土製品
焼土塊（6～9） 胎土は5mm以下の白色砂粒を多く含み、淡赤茶色～茶灰色を呈し、6には石が混ざっている。7には棒状痕跡が、9にはスサ痕が確認できる。
トリベ（10） 厚さ1.8cm程で、内面は灰色や暗灰色を呈し、部分的に黒色や青緑色の付着物がみられる。

236-1SK095茶灰色土出土遺物（Fig.36）
土製品
焼土塊（11～14） 胎土は5mm以下の白色砂粒を多く含み、スサ痕もみられる。色調は淡赤茶色～淡灰褐色を呈する。

236-1SK095ピット出土遺物（Fig.36）
土製品
トリベ（15） 厚さ2.3cmほどで、内側から明灰色、暗灰色、茶白色、明灰色に変色する。内面は硬化し赤茶色や黒色の付着物がみられる。

236-1SK110茶色土出土遺物（Fig.36）
土師器
小皿a（16） 復元口径9.2cm。外面底部に板状圧痕が残る。

236-1SK110暗灰色粘土出土遺物（Fig.36）
黒色土器B類
椀c（17） 胎土は精製され、体部内外面はミガキで、体部下半は回転ヘラケズリ。

236-1SK110青灰色粘土出土遺物（Fig.36）
土師器
小皿a（18・19） 復元口径9.2cmと10.0cm。底部回転ヘラ切り。19は内面不定方向のナデ。

丸底坏a（20・21） 内面ミガキb、外面下半は回転ヘラ切り痕が残る。

黒色土器B類

椀（22） 復元口径15.6cm。内外面にミガキcを施す。

236-1SK160灰色土出土遺物（Fig.37）

黒色土器A類

椀c（1） 口径15.2cm、器高6.7～6.95cm。内外面ともミガキcを施す。底部は欠損するが意図的打ち欠いた可能性もある。

石製品

砥石（2） 大きさは21.1×12.5×10.2cm。側面を殆ど使用し、一部火を受け黒色に変色または煤が付着している。砂岩製。

236-1SK160灰色粘土出土遺物（Fig.37）

土師器

甕（3） 復元口径21.2cm。胎土は3mm以下の白色・茶色砂粒を多く含んでいる。内外面ヨコナデで、外面には煤が付着する。接合しないが同一個体とみられる長胴な体部片がある。

236-1SK235出土遺物（Fig.36）

土師器

小皿a（23） 小破片である。内面ヨコナデ。

小皿a2（24） 復元口径9.8cm、器高0.7cm。口縁端部に浅い沈線が巡る。

丸底坏（25） 外面下半は回転ヘラ切り。その他は磨滅し不明。

236-1SK240黒灰色土出土遺物（Fig.36）

土師器

小皿a（26） 復元口径10.6cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SK240黒色粘土出土遺物（Fig.36）

土師器

小皿a（27） 復元口径10.6cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏（28） 復元口径15.4cm。内面ミガキb、外面上半はヨコナデ。

236-1SK240黄灰色土出土遺物（Fig.36）

土師器

小皿a（29） 復元口径9.6cm。底部回転ヘラ切り。内面底部はナデ、その他はヨコナデ。

脚付小皿（30） 復元口径12.2cm、器高3.0cm。脚部は三脚あったと推測される。底部回転ヘラ切り。内面底部は不定方向のナデ。色調は茶白色を呈する。

丸底坏a（31） 復元口径15.2cm、内面ミガキbでコテ当て痕も残る。外面下半に指頭圧痕や板状圧痕が残る。

236-1SK290暗灰色土出土遺物（Fig.36）

土師器

小皿a（32・33） 復元口径9.4cmと9.8cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SK290灰色粘土出土遺物（Fig.36）

土師器

小皿a（34～37） 復元口径9.4～10.2cm。底部回転ヘラ切り。

小皿a2（38） 復元口径11.2cm。口縁端部内面に僅かに段を巡らす。底部回転ヘラ切り。

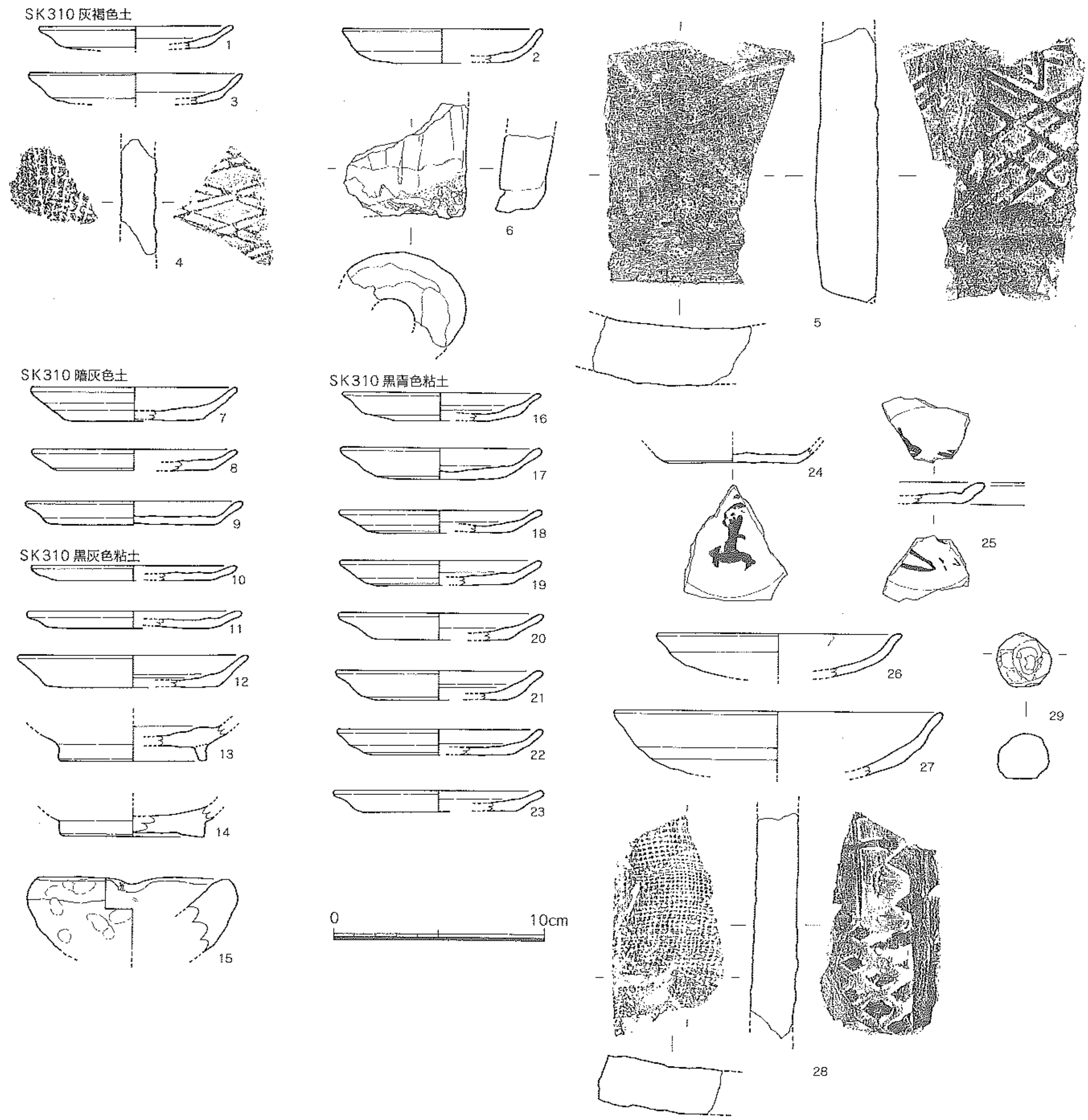


Fig.38　SK310出土遺物実測図（1/3）

丸底坏a（39～43）　復元口径14.8～16.2cm。内面にコテ当て痕がみられる。

236-1SK310灰褐色土出土遺物（Fig.38）

土師器

小皿a（1～3）　復元口径9.2～10.2cm。底部は回転ヘラ切り。

瓦類

平瓦（4・5）　4は二重格子叩き。5は斜格子叩きに「安楽之寺」の一部である「寺」がみえる。

土製品

鞴羽口（6）　先端部で気泡が多数ある付着物（鉱滓）があり、一部融解して黒色のガラス質や緑灰色をなしている。

236-1SK310暗灰色土出土遺物（Fig.38）
土師器
小皿a（7～9） 復元口径9.8～10.4cm。底部回転ヘラ切り。
236-1SK310黒灰色粘土出土遺物（Fig.38）
土師器
小皿a（10～12） 復元口径9.8～11.0cm。底部回転ヘラ切り。
椀c（13） 復元高台径7.0cm。
緑釉陶器
椀（14） 高台削り出し。胎土は白色砂粒を若干含み、淡橙色～灰色を呈する。須恵質。釉は濁った緑灰色で薄く施釉する。高台内面は無釉でナデ、畳付は釉を拭き取っている。内面施釉。
土製品
トリベ（15） 復元口径10.0cm。口縁部に注ぎ口の窪みがある。内面は茶褐色・黒灰色・暗緑灰色の付着物がみられる。
236-1SK310黒青色粘土出土遺物（Fig.38）
土師器
小皿a（16～25） 復元口径9.4～10.0cm。底部回転ヘラ切り。24は底部外面に墨書があり、薄い墨字と濃い墨字が重なっているが文字は判読できない。25も内外面底部に墨書があるが、破片のため詳細不明。
小丸底坏a（26） 復元口径11.6cm。内面ミガキb、外面下半回転ヘラ切り後ナデ調整。
丸底坏（27） 復元口径15.6cm。内面ミガキb、外面下半は回転ヘラ切り後ナデ調整。
瓦類
平瓦（28） 斜格子叩きが陰文で、「平井」の一部がみえる。
瓦玉（29） 大きさ2.4×2.6cm、厚さ2.1cm。
236-1SK315出土遺物（Fig.39）
須恵器
坏c（1・2） 1は焼成・還元やや不良。2は内面不定方向のナデ。
大椀c（3） 外面下半は回転ヘラケズリ、内面底部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。
土師器
皿a(4) 復元口径19.6cm。胎土は白色砂粒を少量含み、色調は橙色を呈する。外面底部回転ヘラケズリ、内外面回転ヘラミガキだが、内面は磨滅している。
大皿a（5） 全体的に磨滅している。胎土は白色砂粒を少量含み、色調は橙色を呈する。
大皿c（6） 全体的に磨滅する。胎土は白色砂粒を少量含み、色調は橙灰色を呈する。
瓦類
平瓦（7） 正格子に近い斜格子叩きを施す。
236-1SK315灰褐色土出土遺物（Fig.39）
須恵器
皿a（8） 復元口径19.9cm。焼成・還元良好で淡灰色を呈する。外面底部ヘラ切り未調整、内面底部はナデで、やや研磨している。その他は回転ナデ。
土師器
甕（9） 胎土は2.5mm以下の白色砂粒や金雲母を多く含み、淡茶白色を呈する。口縁部はヨコナデ、

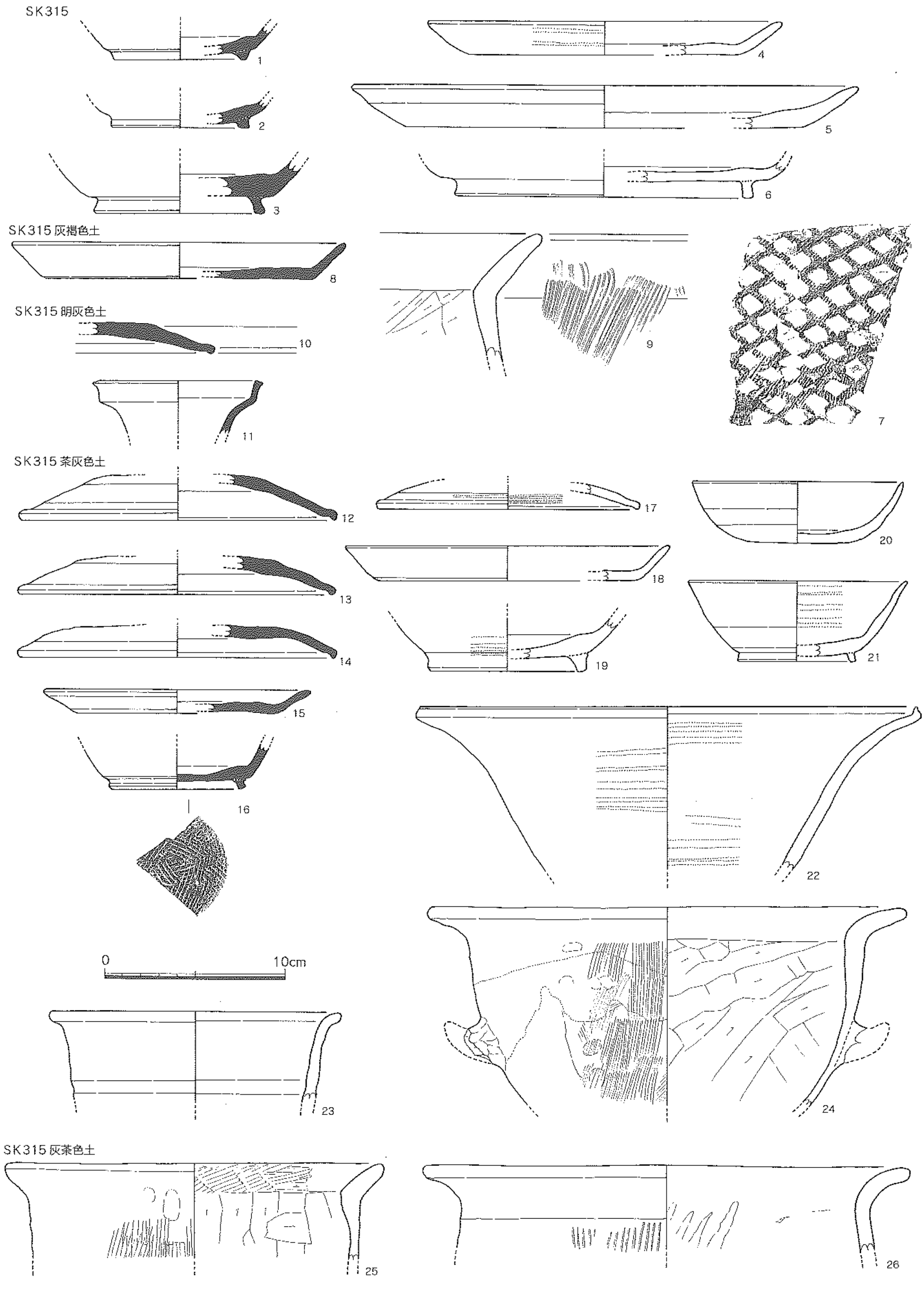


Fig.39　SK315出土遺物実測図（1/3）

体部外面はタテハケ、体部内面はヘラケズリである。

236-1SK315明灰色土出土遺物（Fig.39）

須恵器

蓋3（10） 外面上半部は回転ヘラ切り後ナデ。内面上半部不定方向のナデ。他は回転ナデ。

広口壺（11） 復元口径7.4cm。全面回転ナデで、外面には自然釉が掛かる。

236-1SK315茶灰色土出土遺物（Fig.39）

須恵器

蓋3（12～14） 復元口径は17.6～17.7cm。12・13は上半部が回転ヘラ切り後ナデ調整。14は外面上半部が回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ。

皿a（15） 復元口径14.8cm。全面回転ナデだが、内面底部は滑らかになっている。

坏c（16） 外面底部はハケ調整されている。

土師器

蓋3（17） 復元口径14.6cm、外面は回転ヘラ削りのあとミガキa、内面もミガキaが残る。

皿a（18） 復元口径17.9cm。色調は橙茶色を呈する。外面下半から底部は回転ヘラケズリ。

椀c（19） 胎土は白色砂粒や雲母を少量含み、焼成はやや不良で、淡灰茶色を呈する。外面に僅かにミガキaが残る。内面はヨコナデ。

坏d（20） 口径11.7cm。内面は磨滅。外面下半は回転ヘラケズリ、上半部はヨコナデ。

坏c（21） 内面はミガキaが残るが、外面は磨滅し、ミガキのような痕跡を残す程度である。その他はヨコナデ。色調は淡灰茶色を呈する。

鉢（22） 復元口径28.0cm。口縁端部を僅かに上方に折り曲げる。胎土は若干白色砂粒が含まれるが精製され、橙灰色を呈する。内外面とも磨滅気味だが、回転ヘラミガキが確認できる。

甕（23） 復元口径16.2cm。口縁部を外側に曲げる。胎土は白色砂粒を多く含み、橙茶色を呈する。内外面ともヨコナデ。

把手付甕（24） 復元口径26.6cm。胎土はやや粗く3mm以下の白色砂粒を多く含む。口縁部はヨコナデ、体部内面はヘラケズリ、体部外面は粗いタテハケとナデで中位に炭化物が付着する。把手は破損しているがナデ調整。

236-1SK315灰茶色土出土遺物（Fig.39）

土師器

甕（25・26） 25は復元口径21.0cm。胎土は白色砂粒を多く含み、口縁部内面はヨコハケ、外面はヨコナデ、体部内面はヘラケズリ、外面はタテハケを施す。26は復元口径27.0cm。胎土には角閃石を少量含む。口縁部はヨコナデ、体部外面はぼんやりとタテハケが残る。体部内面はヨコナデとナデ調整である。

畑状遺構

236-1SX640

畑状遺構であるSX640は、調査時には溝として遺構番号を付して調査しているため、その遺構番号毎に報告する。

236-1SX026出土遺物（Fig.40）

須恵器

坏c（1） 内面底部ナデ、その他は回転ナデ。焼成は良好で、色調は暗青灰色を呈する。

236-1SX036出土遺物（Fig.40）

土師器

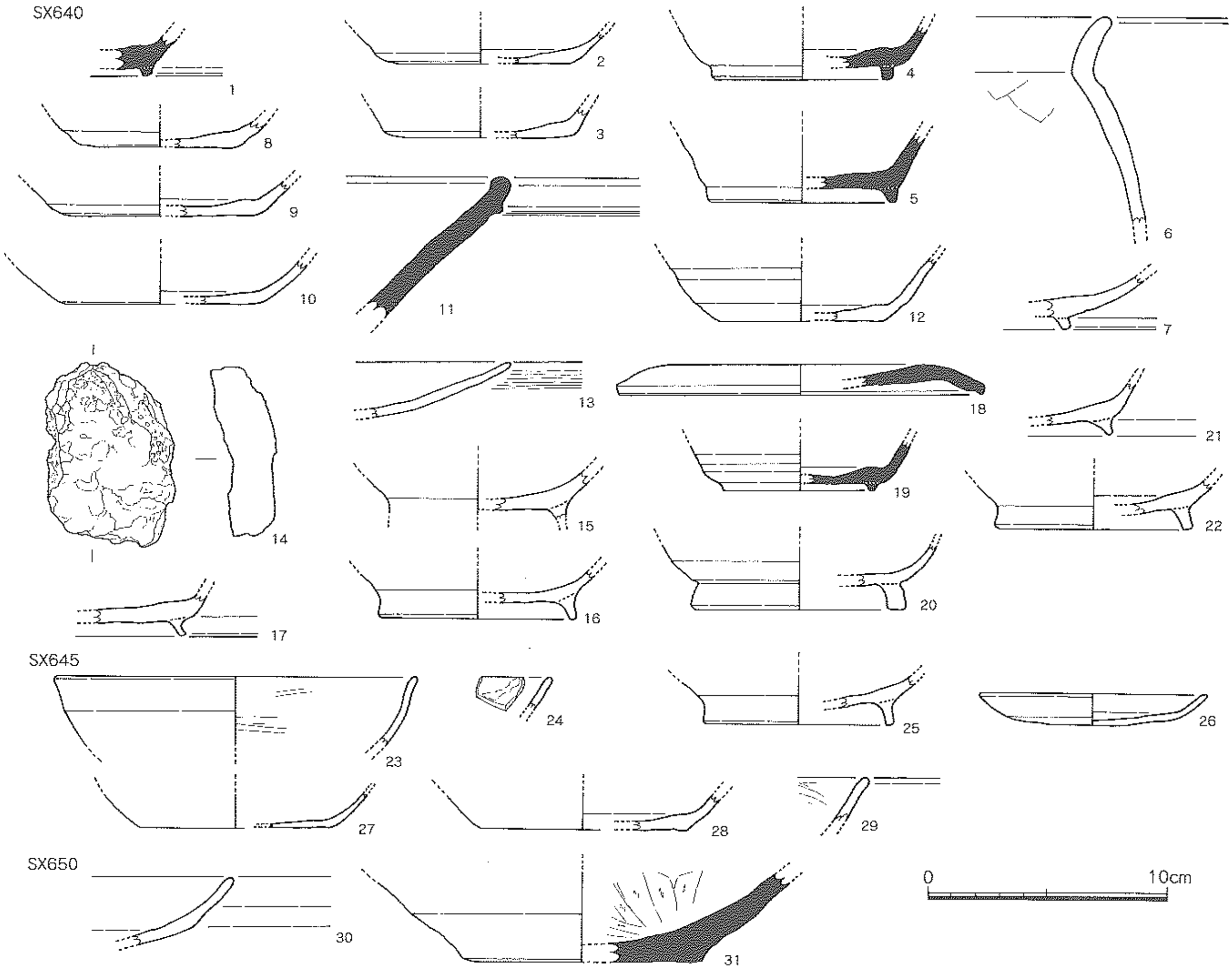


Fig.40　畑状遺構（SX640・645・650）出土遺物実測図（1/3）

坏a（2・3）　復元底径7.6cmと8.1cm。全面磨滅している。

236-1SX058出土遺物（Fig.40）

須恵器

坏c（4・5）　焼成は不良で灰白色を呈する。全体的に磨滅している。

土師器

甕（6）　胎土は6mm以下の白色砂粒を多く含み、橙色を呈する。外面は磨滅、体部内面はヘラケズリ。

緑釉陶器

皿（7）　全面施釉されているが、釉は殆ど剥落し、光沢だけが残っている。土師質。

236-1SX060出土遺物（Fig.40）

土師器

坏a（8～10）　復元底径6.6～8.4cm。底部回転ヘラ切りとみられるが殆ど磨滅している。色調は8が橙灰色のほかは黄灰色を呈する。

236-1SX085出土遺物（Fig.40）

須恵器

甕（11）　口縁端部は若干肥厚させる。内外面とも回転ナデ。色調は黒灰色を呈する。

土師器

坏a（12）　復元底径6.8cm。色調は橙灰色で全面磨滅している。

緑釉陶器

皿（13）　胎土は精製され、黄灰色を呈する。釉は淡い緑黄色を呈するが、殆どは剥落し、口縁端部外面にヘラミガキが残る。須恵質。

236-1SX086出土遺物（Fig.40）

金属製品

鉱滓（14）　橙灰色で部分的に暗灰色をなす。大きさは7.7×5.3cm、厚さ2.8cm。

236-1SX163出土遺物（Fig.40）

黒色土器A類

椀c（15）　底部外面ナデ、外面ヨコナデ、内面は磨滅するがミガキか。

236-1SX187出土遺物（Fig.40）

土師器

椀c（16）　復元高台径8.4cm。全面磨滅し調整不明。

236-1SX199出土遺物（Fig.40）

土師器

椀c（17）　細く低い高台を貼付する。内外面磨滅し調整不明。

236-1SX204出土遺物（Fig.40）

須恵器

蓋3（18）　口縁端部は僅かに摘む程度。外面上半部は回転ヘラ切り後、一部ナデ調整。その他内面上部以外回転ナデ。

小坏c（19）　低い高台を貼付する。復元高台径6.4cm。底部外面回転ヘラ切りで板状圧痕残る。内外面回転ナデ。

土師器

椀c（20～22）　20は安定感のある高台で、底部は欠損していて意図的に打ち欠いた可能性も考えられる。21は内外面磨滅。22は磨滅しているが、部分的にヨコナデが見える。色調は淡橙色を呈する。

236-1SX645

236-1SX246出土遺物（Fig.40）

黒色土器A類

椀（23）　口縁端部を僅かに外反させる。摩滅が目立ち内面に僅かにミガキが残る。

緑釉陶器

椀（24）　口縁端部の小破片で、胎土は茶灰色の土師質。内外面に明黄緑色の釉を施し、その上に緑彩を施す。

236-1SX342出土遺物（Fig.40）

土師器

椀c（25）　復元高台径8.0cm。底部回転ヘラ切り、外面ヨコナデ、内面は磨滅する。

236-1SX378出土遺物（Fig.40）

土師器

小皿a（26）　復元口径9.6cm。

236-1SX379出土遺物（Fig.40）

土師器

坏a（27）　復元底径8.0cm。底部ヘラ切りか。内外面ヨコナデ。

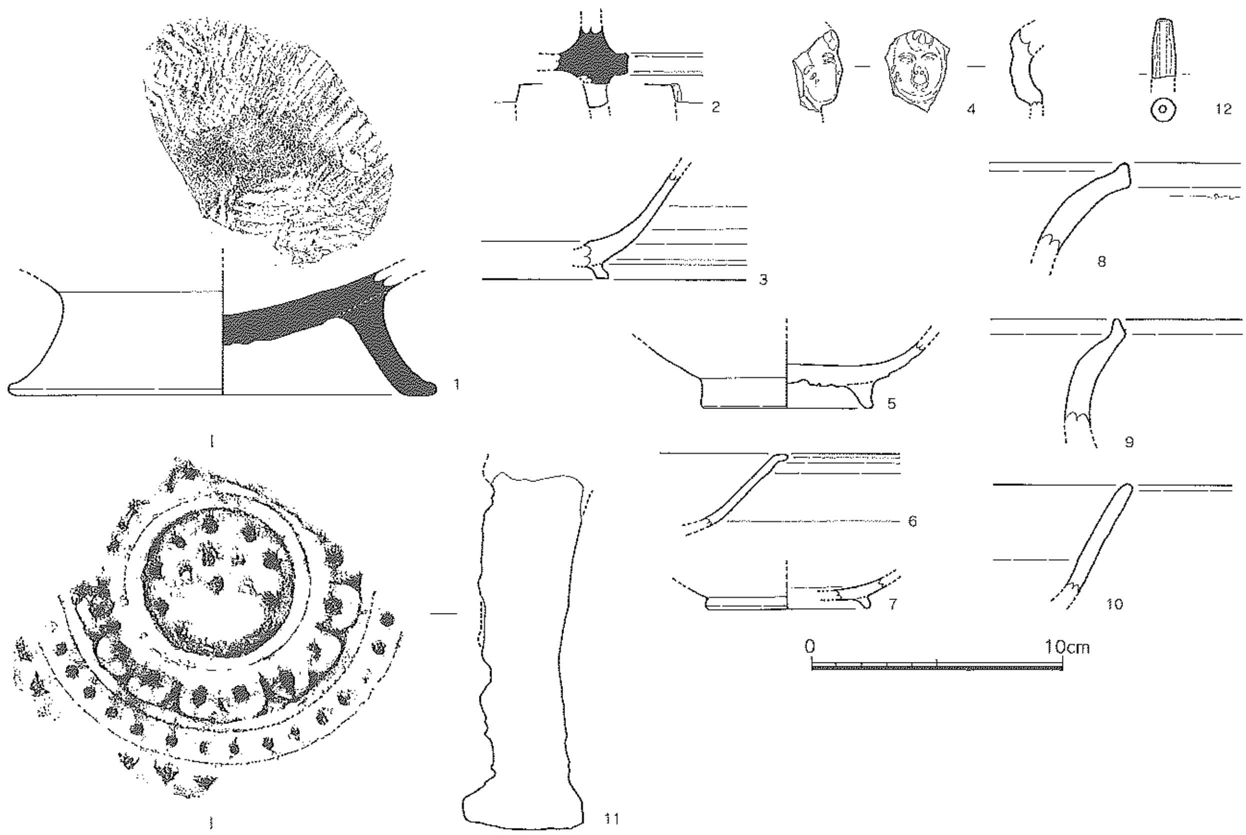


Fig.41　第1調査面その他の出土遺物実測図①（1/3）

236-1SX382出土遺物（Fig.40）

土師器

坏a（28）　復元底径8.6cm。底部回転ヘラ切り。

黒色土器B類

椀（29）　口縁端部で内面はミガキcが確認できるが、外面は不明瞭。

236-1SX650

236-1SX140出土遺物（Fig.40）

土師器

丸底坏a（30）　体部中位で僅かに屈曲する。全面磨滅し調整不明。

須恵質土器

捏鉢（31）　復元底径10.0cm。胎土は2mm以下の白色砂粒や茶色粒を多く含み、色調は紫色を帯びた明茶色を呈する。内面はタテや斜め方向のナデで、使用によって滑らかになっている。底部外面は回転糸切りとみられる。体部外面はヨコナデ。

第1調査面その他の出土遺物（Fig.41・42）

須恵器

壺（1）　外開きの高い高台を貼付し、外面には自然釉が掛かる。底部内面は当て具痕が残り、一部ナデ消している。底部外面は叩きの後ナデで、一部に自然釉が掛かる。S-551より出土。

円面硯（2）　小破片で、透かし部分と形成する脚部の断面が欠損のままではなく、滑らかになっており、二次加工されたものとみられる。S-202より出土。

緑釉陶器

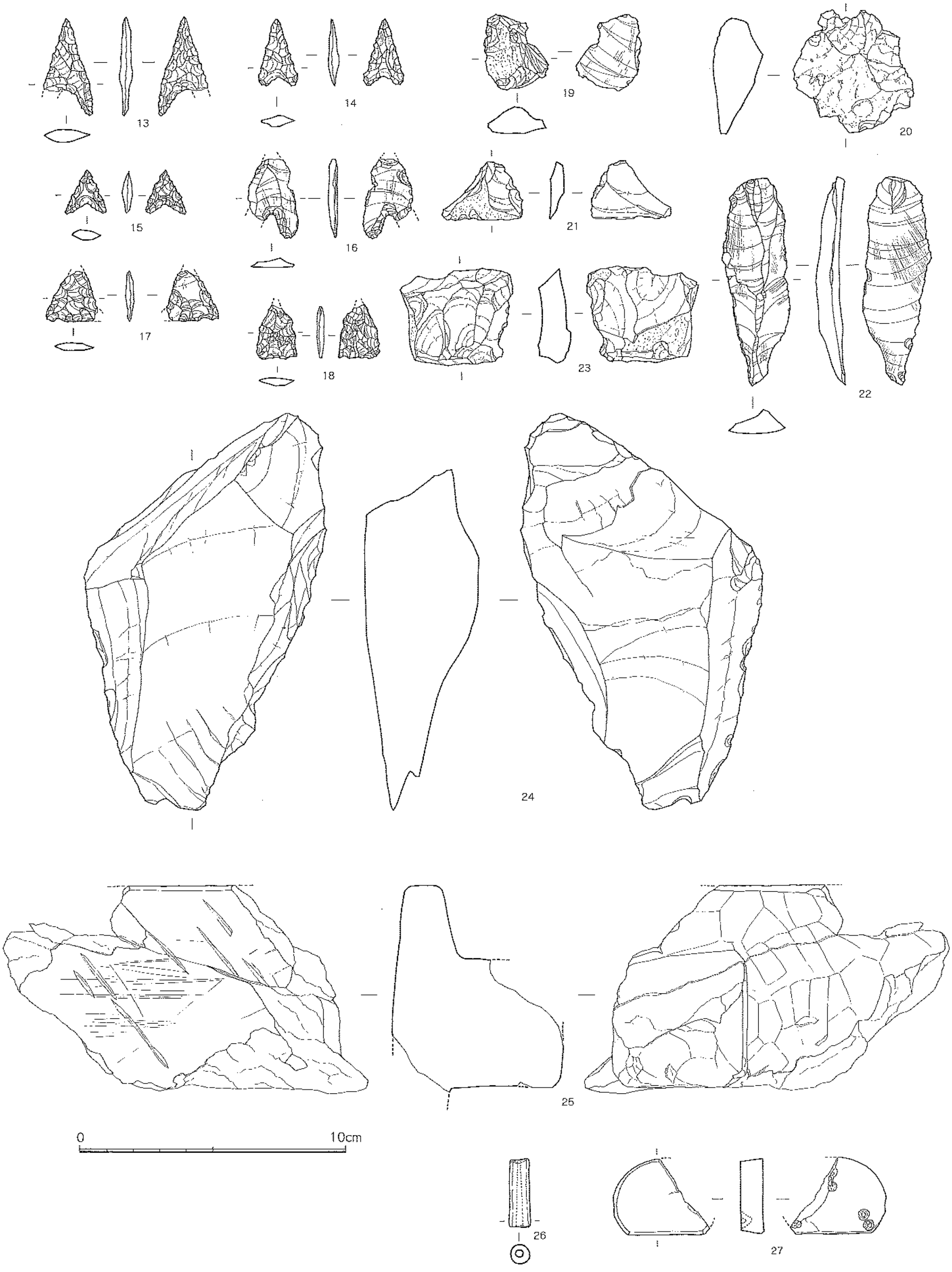


Fig.42　第1調査面その他の出土遺物実測図②（1/2）

椀（3） 内面底部には段を有する。胎土は黒茶色粒を少量含み、色調は淡灰色を呈し、全面に緑灰色の釉を薄く掛ける。須恵質。S-587より出土。

青白磁

燭台（4） 胎土は乳白色で水色味の透明釉で光沢がある。燭台の一部とみられる。S-77より出土。

灰釉陶器

椀（5・6） 5は高台径6.8cm。内面の上半部に緑灰色釉を掛け、まだらに残る。その他内外面は回転ナデで、内面底部は使用によって滑らかになっている。S-213より出土。6は胎土が灰色で、内面のみ淡灰緑色の釉が薄く掛かる。外面は回転ナデで、外面下半は回転ヘラケズリを施す。S-552より出土。

皿（7） 胎土は精製され灰白色を呈する。内面底部と高台付近は回転ナデで、体部上半部に灰緑色の釉が掛かる。S-402より出土。

壺（8・9） 2点とも外側に湾曲した後、口縁端部を上方に折り曲げている。8は内外面とも緑灰色の釉が掛かるが内面は殆ど剥落。S-55より出土。9は内面に灰緑色の釉が掛かる。外面は回転ナデで釉はない。小破片だがおよそ口径15cmである。S-333より出土。

鉢（10） 直線的に外反する。胎土は灰白色で、内外面とも回転ナデを施し、内面に光沢のある灰緑色釉を薄く掛ける。S-167より出土。

瓦類

軒丸瓦（11） 欠落部分も多いが、中房の蓮子は1+6+10とみられ、花弁は若干短い。S-537より出土。

土製品

土錘（12） 現存長2.3cm、径1.0cm。色調は淡茶灰色を呈する。S-351より出土。

石製品

石鏃（13～18） 13は長さ3.7cm、幅1.85cm、厚さ0.5cm。安山岩製。S-88より出土。14は長さ2.5cm、幅1.5cm、厚さ0.4cmで、全体的にやや風化している。安山岩製。S-5より出土。15は大きさが1.65cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm。黒曜石製。S-150eより出土。16は先端を欠損し、現存長3.0cm、幅1.0cm、厚さ0.35cm。黒曜石製。S-164より出土。17は端部を欠損し、現存長1.9cm、幅1.9cm、厚さ0.3cm。S-46より出土。18は先端欠損する。現存長2.1cm、幅1.6cm、厚さ0.3cm。黒曜石製。S-187より出土。

剥片（19～22） 19～21は一部自然面が残る。19は黒曜石で、S-89より出土。20は玄武岩で、S-20暗灰色土より出土。21は安山岩で、S-110暗灰色粘土より出土。22は黒曜石の縦長剥片で長さ7.8cm、幅2.6cm、厚さ1.1cm。S-290茶褐色粘土より出土。

石核（23・24） 23は自然面も残るが、細かく剥離させている。大きさは3.7×4.3×1.2cm。安山岩製。S-392より出土。24は大きさ14.9×9.1cm、厚さ4.3cmの安山岩で、S-602より出土。

石鍋（25） 外面細かくケズリ整形する。内面には斜めにキズが入っている。S-401より出土。

管玉（26） 長さ3.6cm、径0.8cm。中央に0.2cm程の円孔を穿つ。S-5より出土。

石帯丸鞆（27） 1/3 ほど欠損しているが、現存長2.85×3.6cm、厚さ0.85cmで裏面に紐穴が3ヶ所彫られている。石材は黒灰色で粘板岩か。S-120より出土。

○第1調査面基盤層

236-1SX345出土遺物（Fig.43）

土師器

小皿a（1～10） 完形が多く、口径9.1～10.0cm、器高0.9～1.7cm。確認できるものは全て底部回転ヘラ切りで、内面は不定方向のナデ。7は内面に煤が付着する。

皿a（11）　復元口径14.4cm、器高1.45cm。底部は回転ヘラ切り後ナデ。

丸底坏a（12～22）　完形が多く、口径14.0～16.55cm、器高3.0～4.35cm。体部中位で僅かに屈曲し、その周辺に指頭圧痕を残すものもある。内面は摩滅も目立つが、ミガキbやコテ当て痕を残すものもある。16・22は内外面に煤が付着する。

器台（23）　脚部はナデだが、磨滅が著しい。脚部径約3.3cm。

緑釉陶器

椀×皿（24）　高台は2段で、復元高台径6.8cm。胎土は精製され、暗灰色を呈する。内外面ともやや濃い緑色の釉を施す。内面には浅い沈線が巡り、重ね焼きのハリ痕がみられる。須恵質。

236-1SX345暗灰色土出土遺物（Fig.43）

土師器

小皿a（25）　復元口径11.2cm、器高1.0cm。底部には板状圧痕残るが、切り離し不明。

皿a（26）　復元口径14.0cm、底部はやや丸味を帯び、体部中位で屈曲し外反する。

坏a（27～36）　復元口径12.5～14.0cm、器高3.1～4.2cm。底部内面は全て不定方向のナデ。色調は黄灰白色や淡灰色を呈する。体部と底部の境は僅かに丸味を帯びるが、29・30のように底部全体がやや丸味を帯びるものもある。27は体部の外反が小さい器形を呈する。

椀（37）　復元口径14.4cm、口縁端部を僅かに外反させる。内外面ともヨコナデ。

椀c（38）　方形の高台を貼付する。内外面ともヨコナデ、底部内面の一部はナデ。

丸底坏a（39）　口径15.2cm、内面にはミガキbを、外面中位に指頭圧痕を残す。

小壺（40）　復元口径14.0cm。体部外面には煤が付着している。

黒色土器A類

椀（41・42）　口縁部はあまり内湾しない。内面ミガキ、外面回転ナデ。

緑釉陶器

椀(43)　底部は削り出し高台。白色砂粒を少量含み、明灰色を呈する。全面に灰緑色の釉が薄く掛かる。内面底部には浅い沈線が巡る。また、使用により若干研磨されている。須恵質。洛西産。

石製品

砥石（44）　4面研磨されていて、端部に0.4cm程の円孔を穿つ。長さ6.5cm、幅2.9×1.7cm。砂岩製。権として使用した可能性も考えられる。

236-1SX345黒茶色土出土遺物（Fig.44）

土師器

小皿a（1～4）　口径9.15～9.6cm、器高0.8～1.1cm。底部回転ヘラ切り。

皿a（5）　復元口径14.7cm、器高1.8cm。底部回転ヘラ切り。

坏a（6～10）　6は他と異なり時期が下るもので、中位に僅かな屈曲がある。体部と底部の境が9は明瞭に屈曲、その他3点は僅かに丸味を帯びる。色調は、全体として黄灰色を呈する。

椀c（11）　復元高台径9.0cm、底部外面はナデ。

灰釉陶器

皿（12・13）　12は復元口径16.8cm、器高2.9cm、復元高台径8.2cm。三日月状の高台を貼付する。胎土は白色砂粒を若干含むが精製され、明灰色を呈する。内面上半部のみに淡い灰緑色の釉を施す。内面下半はナデで、平滑になっている。外面は回転ナデ。K-90窯様式。13は胎土が白色砂粒を若干含むが精製され、灰白色を呈する。内面と口縁端部に淡灰緑色の釉を施す。外面は回転ナデ。

段皿（14）　胎土が白色砂粒を若干含むが精製されている。内面底部に段を有する。内面と外面の上

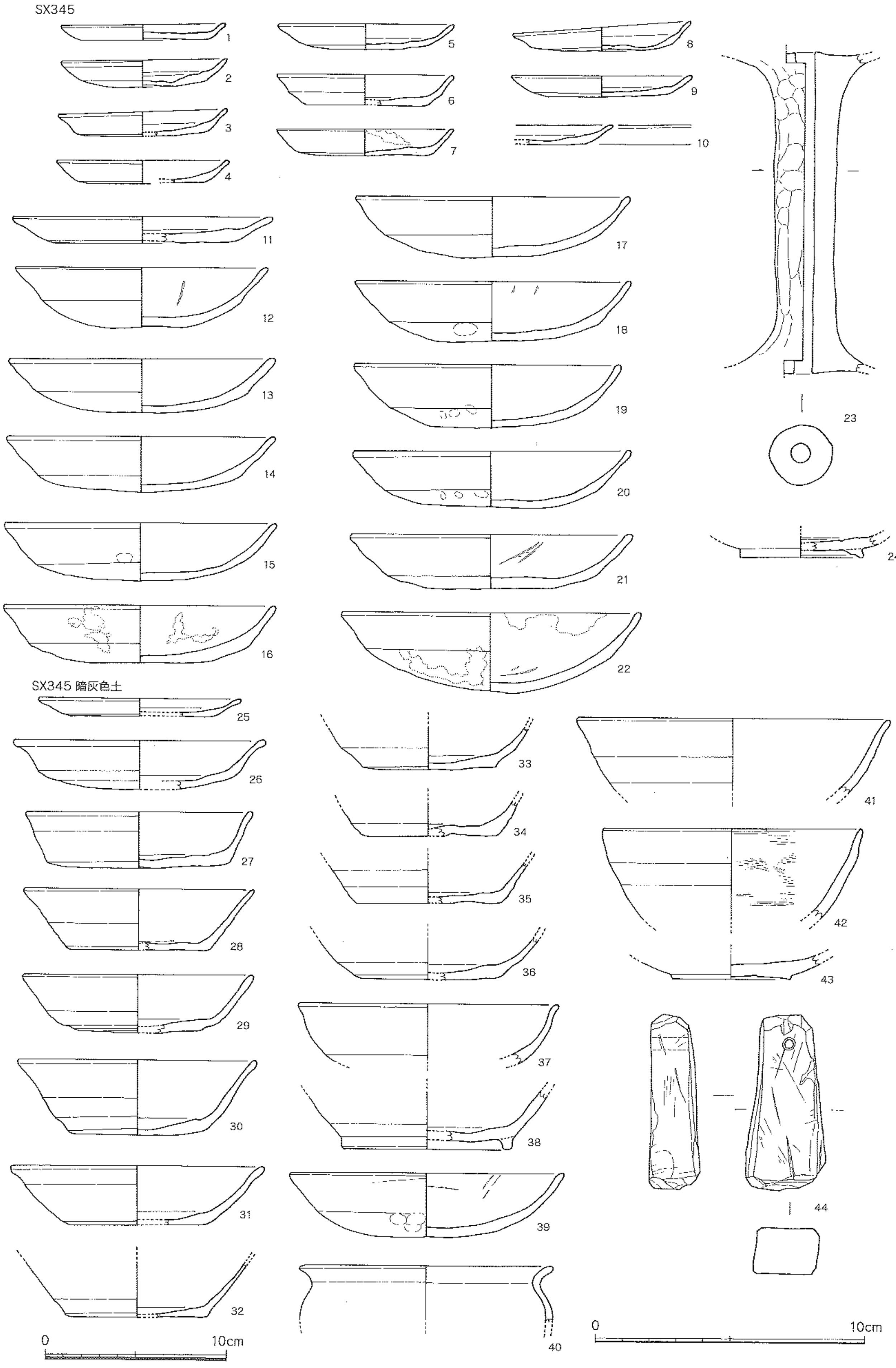


Fig.43　第1面基盤層(SX345・345暗灰色土)出土遺物実測図（1/3、44は1/2）

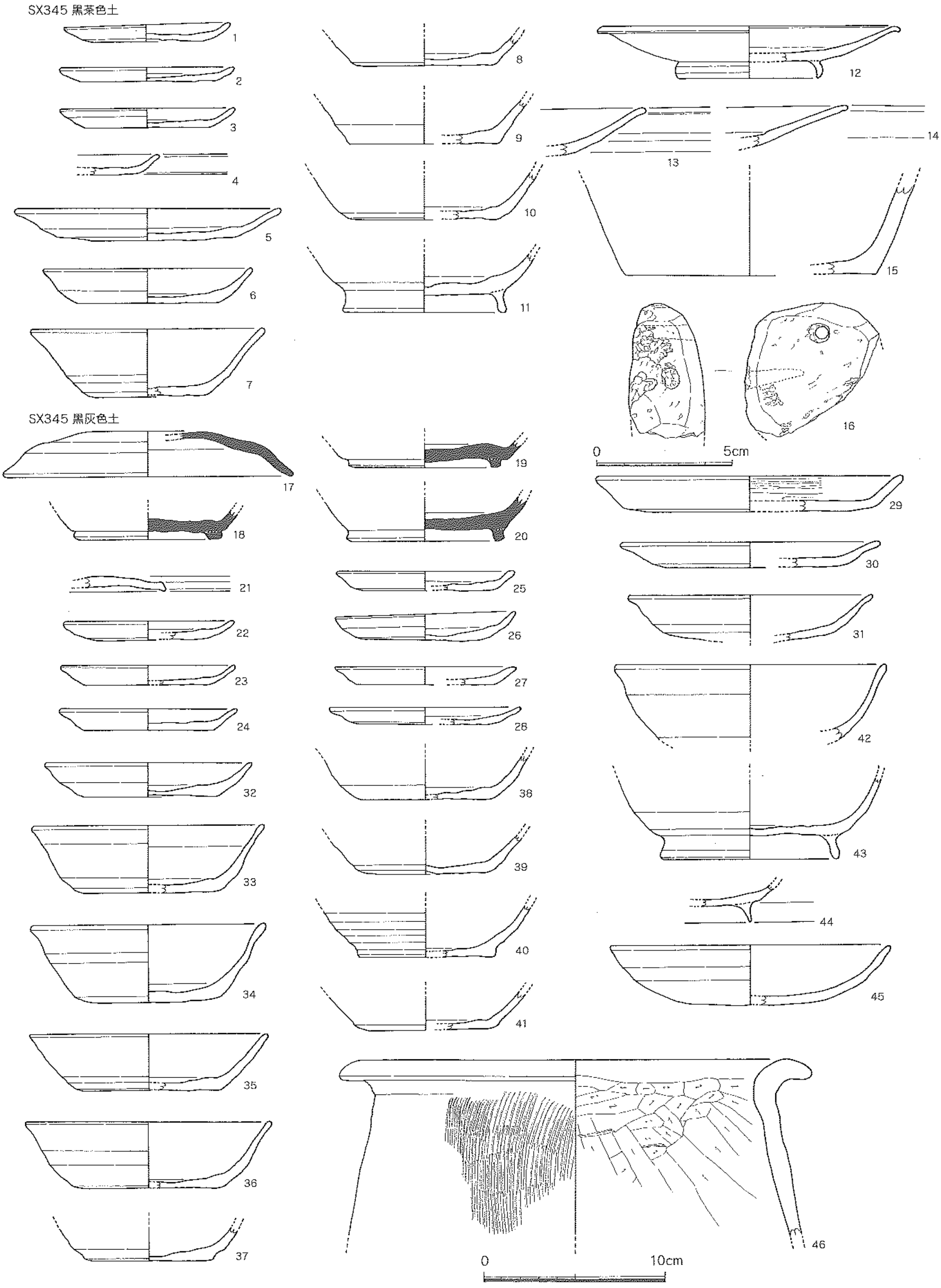


Fig.44　第1面基盤層(SX345黒灰色土)出土遺物実測図①（1/3、16は1/2）

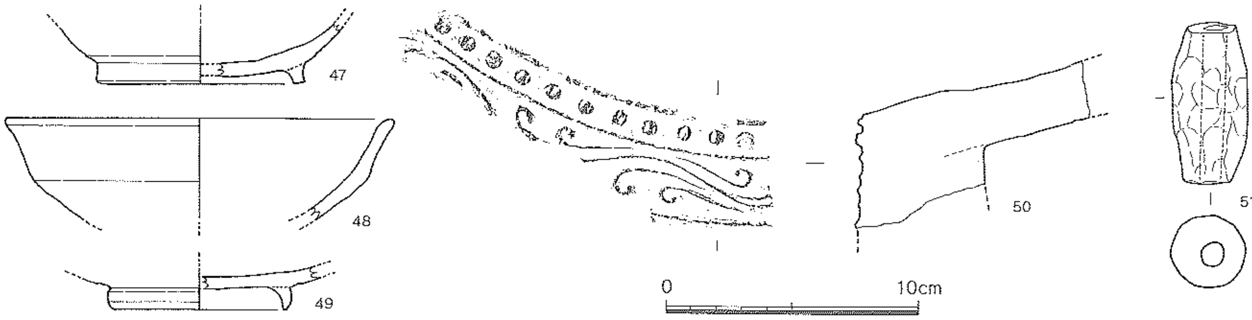


Fig.45　第1面基盤層(SX345黒灰色土)出土遺物実測図②（1/3）

半部に淡灰緑色の釉を施す。釉はハケ塗りとみられる。K14もしくはK90窯様式である。

土師質土器

鉢（15）　復元底径14.0cm。0.1cm以下の砂粒を若干含み、外面淡橙茶色、内面淡灰褐色を呈する。内面と底部は磨滅するが外面は回転ヘラケズリが確認できる。

石製品

用途不明製品（16）　石材は軽石で、径0.5cm程の円孔とそれと同じくらいだが貫通していない穴がある。表面も整形されているがその用途は不明である。現存長5.0×5.0cm、厚さ2.85cm。

236-1SX345黒灰色土出土遺物（Fig.44・45）

須恵器

蓋4（17）　外面は回転ヘラ切りの後回転ナデ。内面は回転ナデの後、上半部には一部不定方向のナデを施す。また、重ね焼き痕も残す。頂部にヘラ記号のようなものがある。

坏c（18～20）　復元高台径8.1～8.7cm。内面底部は不定方向のナデ。底部外面は回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

土師器

蓋3（21）　外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面はナデ調整。

小皿a（22～28）　口径9.4～10.6cm、器高0.9～1.4cm。底部は全て回転ヘラ切り。

皿a（29～31）　29は内面にミガキaを施し、外面底部は回転ヘラケズリ。30は底部回転ヘラ切り。31は底部回転ヘラ切りで、底部は若干丸味がある。

坏a（32～41）　復元口径12.8～13.6cm。体部と底部の境が、35は明瞭に屈曲し体部は直線的に外反する。40も屈曲するが、体部は丸味を帯びる。その他7点の体部と底部の境は僅かに丸味を帯びる。

椀（42）　復元口径15.0cm。外面ヨコナデ調整。

椀c（43・44）　43は復元高台径9.9cm。内外面ヨコナデ、内面底部ナデ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整。44は全体的に磨滅し調整不明。

丸底坏a（45）　復元口径15.6cm。全体的に磨滅し調整不明。

甕（46）　口縁部は若干肥厚し丸味を持って外反する。体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリ。復元口径は26.0cm。

黒色土器A類

椀c（47）　方形の高台を貼付し、復元高台径8.2cm。内面磨滅するがミガキを施す。

黒色土器B類

椀（48）　復元口径15.4cm。全体的に磨滅するが、内面はミガキ痕が確認できる。

灰釉陶器

皿（49）　三日月状の丸味のある高台を貼付する。復元高台径7.2cm。胎土は若干粗く灰白色を呈する。

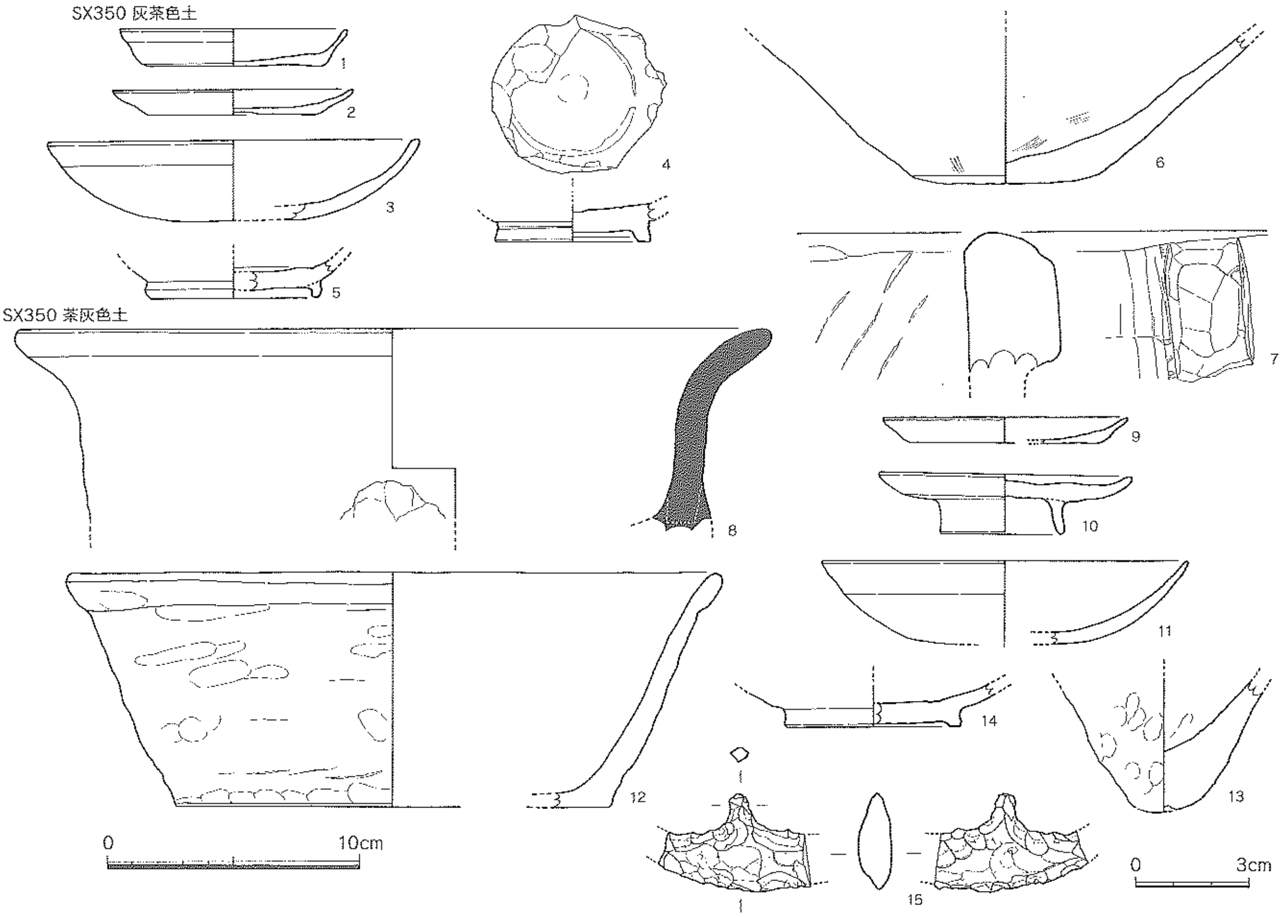


Fig.46　第1面基盤層(SX350)出土遺物実測図（1/3、15は1/2）

釉は明灰緑色で、内面底部には釉がなく、平滑である。また、重ね焼き痕も残る。現存範囲では外面に釉はない。

瓦類

軒平瓦（50）　左行きの偏行唐草文である。焼成はやや不良で、白灰色を呈する。

土製品

土錘（51）　長さ6.4cm、径2.9×3.0cm。白色砂粒を多く含み、白灰色～暗茶灰色を呈する。

236-1SX350灰茶色土出土遺物（Fig.46）

土師器

小皿a（1・2）　1は復元口径9.0cm、底部回転糸切り。2は磨滅し調整不明。

丸底坏a（3）　復元口径14.8cm、全体的に摩滅が目立つ。

緑釉陶器

椀（4）　削り出し高台で復元高台径6.2cm。胎土は淡灰色～淡茶色の須恵質で、釉は光沢のある淡緑色で全体的に薄く掛かる。体部は意図的に打ち欠いたようにも見える。京都産。

灰釉陶器

椀（5）　内面は僅かに浅い沈線が巡る。内面は沈線より上部に明灰緑色釉が薄く掛かり、その他は内外面とも露胎。復元高台径7.0cm。

弥生土器

壺（6）　やや丸い底部で内外面に僅かにハケ目が残る。胎土は茶灰色で、白色砂粒を多く含む。

石製品

石鍋（7）　把手部分で、内外面削り出され、外面に煤が付着する。

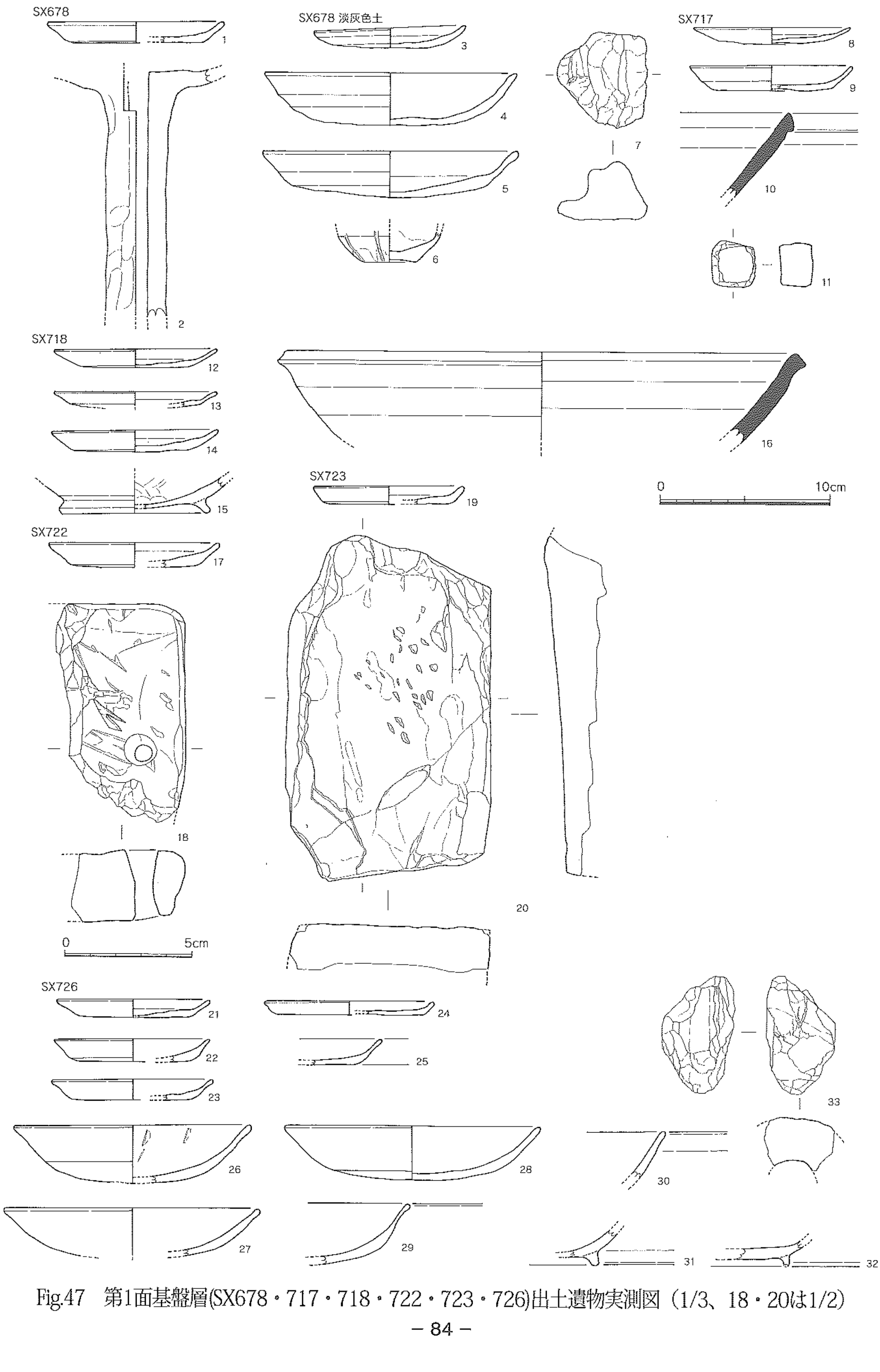


Fig.47　第1面基盤層(SX678・717・718・722・723・726)出土遺物実測図（1/3、18・20は1/2）

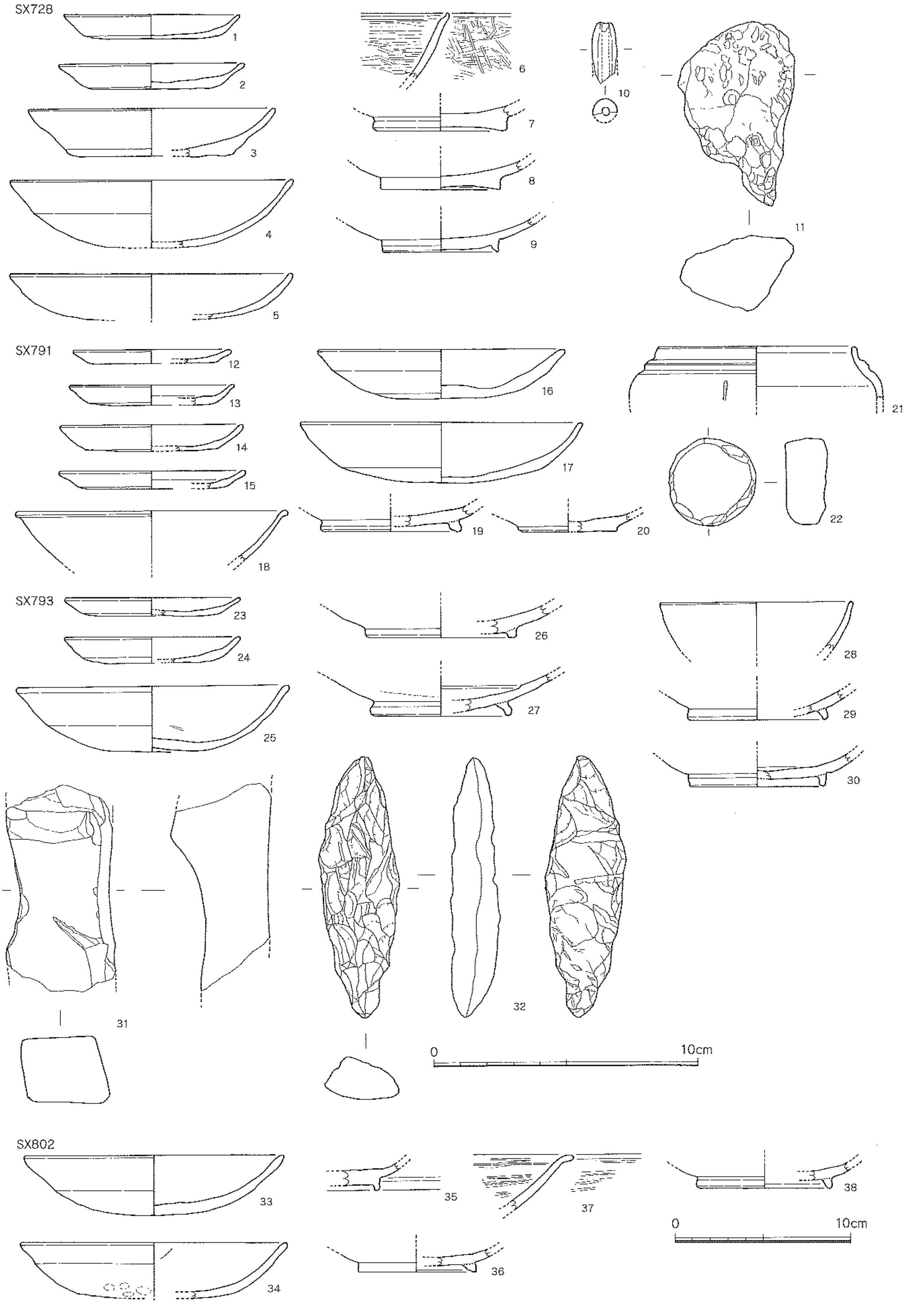


Fig.48　第1面基盤層(SX728・791・793・802)出土遺物実測図（1/3、11・31・32は1/2）

236-1SX350茶灰色土出土遺物（Fig.46）

須恵器

脚付盤（8） 復元口径30.0cm、口縁部を大きく外反させる。体部下半に脚部を貼付した痕跡を残す。内外面ヨコナデ調整。胎土は精製されているが、0.3cm以下の白色砂粒を多く含む。焼成・還元は良好で、色調は灰色～暗灰色を呈する。

土師器

小皿a（9） 復元口径9.8cm。外面底部には板状圧痕を残す。

小皿c（10） 口径10.0cm、器高2.4cm。焼成は不良で口縁端部は磨滅する。

丸底坏a（11） 復元口径14.6cm。全体的に磨滅する。

盤（12） 復元口径26.0cm、器高9.25cm、復元底径17.3cm。胎土は精製され、明橙灰色を呈し、焼成は不良。内外面ナデ調整で、外面下半に粘土紐痕跡を残す。

製塩土器

焼塩壺（13） 胎土は粗く白色砂粒を多く含み、赤褐色を呈する。内面はヘラ状工具痕があり、外面はナデ調整。

緑釉陶器

皿（14） 高台削り出しで、復元高台径7.0cm。胎土は精製され、灰色～淡灰褐色を呈する。釉は淡い灰緑色釉で、全面に薄く施し高台畳付は釉を拭き取る。底部外面には僅かに回転糸切りが残り、内面には幅広の浅い沈線が巡る。また、内面は平滑である。須恵質。

石製品

石匙（15） 両端が欠損し、大きさは上下2.6cm、左右4.1cm、厚さ0.9cm。安山岩製。

236-1SX678出土遺物（Fig.47）

土師器

小皿a（1） 復元口径10.4cm。底部回転ヘラ切り。

器台（2） 脚部径約3.5cm。脚部はナデ調整。

236-1SX678淡灰色土出土遺物（Fig.47）

土師器

小皿a（3） 口径8.9cm。全面磨滅し調整不明。

丸底坏a（4・5） 4は復元口径14.8cm。外面底部に板状圧痕。5は復元口径15.0cm回転。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。内面不定方向のナデ。

白磁

小壺（6） 底部は回転ヘラケズリで、径3.1cm。体部には縦沈線が6本ある。胎土は灰白色で、僅かに灰緑色味を帯びた透明釉を施す。細かい貫入が入る。外面底部は露胎、内面は底部のみ施釉。

土製品

焼土塊（7） 白色砂粒やスサを含む。棒状痕跡がみられる。

236-1SX717出土遺物（Fig.47）

土師器

小皿a（8・9） 復元口径9.2cmと9.6cmで、外面底部に板状圧痕残る。

須恵質土器

鉢（10） 全面回転ナデで、淡青灰色を呈する。

瓦類

瓦玉（11） 大きさは2.1×2.3cm、厚さ2.0cm。格子叩きと布目痕が残る。

236-1SX718出土遺物（Fig.47）

土師器

小皿a（12～14） 復元口径9.6～9.8cm、底部回転ヘラ切り。

黒色土器A類

椀c（15） 内面ミガキ、底部外面ナデ、体部は回転ナデである。

須恵質土器

鉢（16） 復元口径31.0cm。口縁端部を僅かに外反させる。胎土は白色砂粒や黒色粒を含み、色調は淡青灰色を呈する。内外面とも回転ナデ。

236-1SX722出土遺物（Fig.47）

土師器

小皿a（17） 復元口径10.0cm。底部回転ヘラ切り。

石製品

滑石加工品（18） 側面の1/2が欠損していて、残存部は削り面取りしている。また、径約1.3cmの円孔が穿たれている。大きさは8.0×4.7cm、厚さ2.75cm。表面にはキズが多く付いている。

236-1SX723出土遺物（Fig.47）

土師器

小皿a（19） 復元口径8.8cm、器高1.05cm。底部回転ヘラ切り。

石製品

砥石（20） 大きさは13.5×8.0×2.0cm。残存する側面は面取りされている。使用面は1面で、小刻みなキズが付いている。

236-1SX726出土遺物（Fig.47）

土師器

小皿a（21～25） 復元口径9.0～10.0cm、器高0.8～1.3cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（26～29） 復元口径14.0～15.0cm、体部中位の屈曲は少ない。

緑釉陶器

椀（30・31） 30は須恵質で灰緑色釉を全面に薄く施釉する。31は須恵質で、内面と体部外面は灰緑色釉を全面に薄く施釉するが外面は殆ど剥落する。底部外面は露胎である。

灰釉陶器

皿（32） 胎土は淡灰色で、内面のみ灰緑色釉を薄く施釉するが、殆ど剥落する。

土製品

鞴羽口（33） 胎土は白色砂粒や赤褐色粒を多く含む。内外面磨滅する。外面は黄灰色、黒灰色、灰白色に変色する。

236-1SX728出土遺物（Fig.48）

土師器

小皿a（1・2） 復元口径10.0cmと10.6cm。底部回転ヘラ切り。

坏a（3） 復元口径14.0cm、内外面とも磨滅している。口縁部は歪んでいる。

丸底坏a（4・5） 体部に屈曲なく丸味を持っている。全面磨滅している。

黒色土器B類

椀（6） 口縁端部内面に僅かに段差を付ける。内外面にミガキcを施す。

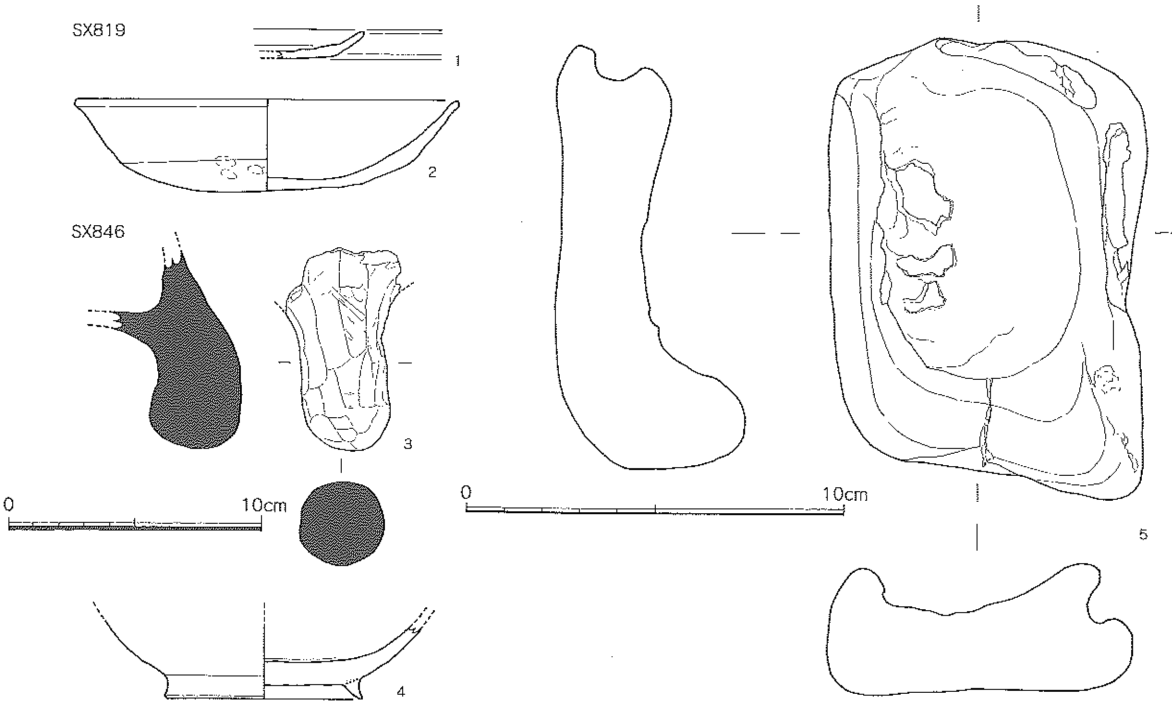


Fig.49　第1面基盤層(SX819・846)出土遺物実測図（1/3、5は1/2）

緑釉陶器

椀×皿（7～9）　7は削り出し高台で、内面に緑黄灰色の釉を施すが、所々剥落している。胎土は淡橙色の土師質である。復元底径7.6cm。京都産。8は削り出し高台で、内面は薄く施釉されているが、剥落も目立つ。須恵質。復元高台径6.8cm。洛西産。9は削り出し高台とみられる。外面底部は露胎で、内外面は緑黄灰色の釉をとても薄く施す。復元高台径6.6cm。

土製品

土錘（10）　一部欠損するが、現存長3.5cm、径1.4cm。焼成は不良で茶褐色を呈する。

石製品

軽石（11）　大きさは6.95×4.4×2.9㎝。

236-1SX791出土遺物（Fig.48）

土師器

小皿a（12～15）　復元口径9.0～10.6㎝。磨滅も目立つが、底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（16・17）　復元口径14.0cmと16.0㎝。磨滅し調整不明瞭。

緑釉陶器

椀（18･19）　18は復元口径15.4cm、口縁端部を折り曲げる。胎土は黄白色の土師質で、内外面に点々と淡い黄緑色の釉が残っている。19は復元高台径8.0cm、胎土は暗灰色の須恵質で、全面にうっすら淡い緑灰色の釉が残る。

椀×皿（20）　復元底径5.6cm。胎土は黄白色の土師質で、内面のみに淡黄緑色の釉が部分的に剥落した状態で残る。底部外面は回転糸切り。

越州窯系青磁

壺（21）　復元口径10.3cm。短い頸部で、頸部下に凸帯が巡る。体部に篦押圧縦線を施す。胎土は淡灰色で精製され、釉は淡緑灰色でI類系の質である。

瓦類

瓦玉（22）　大きさは4.9×4.9×2.4㎝。側面を打ち欠く。片面にナデが残る。

236-1SX793出土遺物（Fig.48）

土師器

小皿a（23・24）　2点とも復元口径10.0㎝。

丸底坏a（25）　復元口径10.0㎝、磨滅が目立つが内面にコテ当て痕が僅かに残る。

緑釉陶器

椀×皿（26）　胎土は淡灰色の須恵質で、内外面に淡緑灰色の釉を施す。復元高台径8.6cm。

灰釉陶器

段皿（27）　復元高台径8.0cm。内面は淡緑灰色の釉を施し、重ね焼き痕を残す。外面下半には殆ど釉はない。

椀（28～30）　28は復元口径11.0cm。胎土が淡灰色で精製されている。釉は全く残っていない。29は胎土が白灰色で、釉は全く残っていない。内面は平滑である。復元高台径8.0cm。30は胎土が淡灰色を呈し、釉は全く残っていない。内面は平滑である。復元高台径7.8cm。

石製品

砥石（31）　大きさは7.85×4.1×3.8㎝の長方形で、4面使用している。

三稜尖頭器（32）　縦9.85cm、横3.0cm、厚さ1.6cm。全面風化が目立ち、細かい剥離状況がわかりづらい状態である。安山岩製。

236-1SX802出土遺物（Fig.48）

土師器

丸底坏a（33・34）　33は磨滅が目立つ。34は内面コテ当て、外面下半に指頭圧痕残る。

緑釉陶器

椀×皿（35・36）　35は高台削り出しで、内面には浅い沈線を巡らす。胎土は微細な白色砂粒を含むが精製されている。焼成は須恵質で、黄色味を帯びた暗緑色の釉を内外面に施す。畳付は釉を拭き取っている。36は内面に浅い沈線を巡らす。胎土は微細な白色砂粒を含むが精製され、焼成は須恵質で、明緑色の釉を内外面に施す。復元高台径6.6cm。

椀（37）　胎土は明灰色でやや粗く、焼成は須恵質。釉は淡い黄緑色を呈する。

灰釉陶器

椀×皿（38）　胎土は灰白色で、微細な白色砂粒を若干含む。残存部分に釉は確認できない。復元高台径7.8cm。

236-1SX819出土遺物（Fig.49）

土師器

小皿a（1）　底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（2）　口径15.3cm。外面下半は回転ヘラ切り後ナデで、指頭圧痕も残る。

236-1SX846出土遺物（Fig.49）

須恵器

脚（3）　盤のようなものから剥落した痕跡が窺える。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を少量含み、焼成は良好で灰白色を呈する。全面ナデ調整。

灰釉陶器

椀（4）　復元高台径7.8cm。胎土は白色砂粒を若干含み灰色を呈する。内面上部のみ淡い灰緑色釉が施釉されているが、斑になっている。内面底部は露胎で回転ナデ、外面は回転ナデ、底部は回転糸切り後回転ナデ調整。

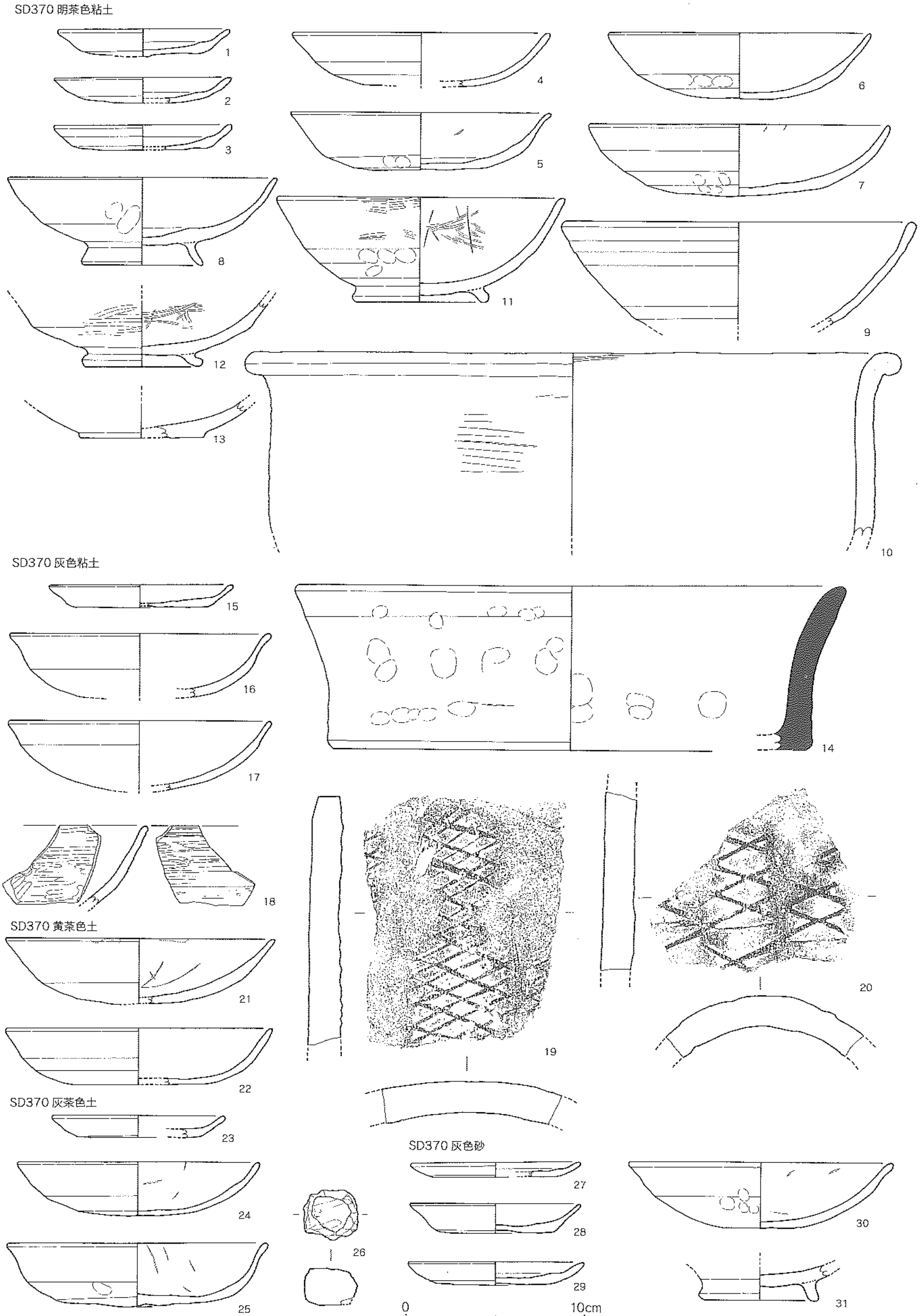


Fig.50　SD370出土遺物実測図（1/3）

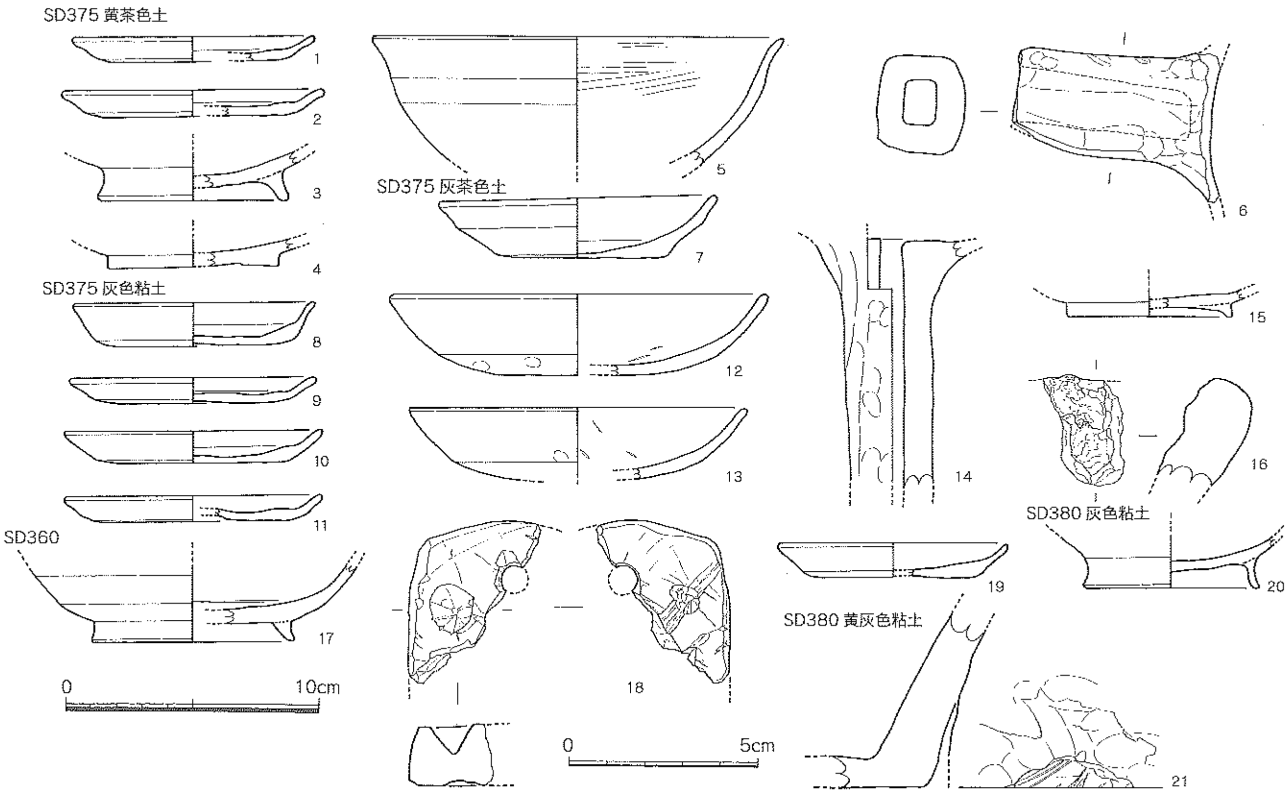


Fig.51　SD360・375・380出土遺物実測図（1/3、18は1/2）

石製品

用途不明製品（5）　大きさ12.3cm×8.5cm、厚さ5.0cmで、全体的に平坦であるが、端部が丸みを持ち、人為的に研磨されたような痕跡を残す。内面は窪んでいるが、加工したものか自然のものかの判別は難しい。

○第2調査面

溝

236-1SD360出土遺物（Fig.51）

灰釉陶器

椀（17）　三角形の高台を貼付し、復元高台径8.0cm。胎土は白色・黒色粒を少量含む。内面底部には浅い沈線があり、それを境に底部は露胎で、上半には淡灰緑色の釉が薄く掛かっている。

石製品

滑石加工品（18）　欠損しているが、0.7cm程の円孔と貫通はしていないものの同様の円孔も彫り込まれている。その他条痕もみられる。用途不明である。

236-1SD370明茶色粘土出土遺物（Fig.50）

土師器

小皿a（1 ～ 3）　口径9.7 ～ 10.0cm。確認できるものは底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（4 ～ 7）　復元口径14.6 ～ 17.0cm。磨滅するが内面ミガキb、外面下半に指頭圧痕が残る。

丸底坏c（8）　復元口径15.2cm。外面中位に指頭圧痕が残る。

椀（9）　復元口径20.0cm。外面ヨコナデ、内面磨滅し調整不明。

甕（10）　復元口径37.0cm。口縁端部を丸く折り曲げている。胎土は0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、黒茶色を呈する。外面は粗いヨコハケ、内面はナデ。

黒色土器B類

椀c（11･12） 外開きの低い高台を貼付し､内外面にミガキcを施す。11は外面下半に指頭圧痕が残り､内面にはミガキbのコテ当て痕も確認できる。

緑釉陶器

皿（13） 高台削り出しで、蛇の目高台をなす。胎土は淡灰色の須恵質で、内外面に淡緑白色の釉を薄く施釉するが、一部剥落する。京都産。

236-1SD370灰色粘土出土遺物（Fig.50）

須恵器

盤（14） 復元口径31.0cm、器高9.2cm、復元底径27.3cm。内面下半と外面に指頭圧痕の後ナデ調整。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含む。焼成はやや不良で灰白色～黒灰色を呈する。

土師器

小皿a（15） 復元口径10.3cm。板状圧痕が残るが、全体的に磨滅する。

丸底坏a（16・17） 復元口径14.7cmと14.8cm。全体的に磨滅し調整不明瞭。

黒色土器B類

椀（18） 内外面ミガキcを施し、口縁部外面に細い沈線が巡る。

瓦類

平瓦（19） 菱形の格子叩きで、内面には布目痕が残る。

丸瓦（20） やや大きい菱形の格子叩きで、内面には布目痕が残る。

236-1SD370黄茶色土出土遺物（Fig.50）

土師器

丸底坏a（21・22） 体部は屈曲なく丸く仕上げる。21は内面がミガキbで端部に煤が付着する。22は全面磨滅し調整不明。

236-1SD370灰茶色土出土遺物（Fig.50）

小皿a（23） 復元口径9.8cm。底部回転ヘラ切り、内面底部不定方向のナデ。

丸底坏a（24・25） 24は磨滅が目立つが、内面に当て具痕が残る。25は体部中位で丸く屈曲し、その下に指頭圧痕が残る。部分的に一次焼成で黒色を呈し、内面はミガキbで当て具痕が残る。

瓦類

瓦玉（26） 大きさは2.8×3.1cm、厚さ2.1cm。表面に叩き痕と布目痕が残る。

236-1SD370灰色砂出土遺物（Fig.50）

土師器

小皿a（27～29） 復元口径9.6～9.8cm、器高0.8～1.6cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（30） 復元口径15.0cm、内面はミガキbでコテ当て痕が残り、外面中位には指頭圧痕が残る。

黒色土器B類

椀c（31） 高台径6.8cm。内面ミガキcで、外面ヨコナデ。

236-1SD375黄茶色土出土遺物（Fig.51）

土師器

小皿a（1・2） 復元口径9.6cmと10.4cm。

把手（6） 長さは7.8cm。形状は方形で、内部は空洞である。外面はナデ調整。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を少量含み、茶灰色や淡褐色を呈する。

黒色土器B類

椀c（3） 復元口径7.6cm。

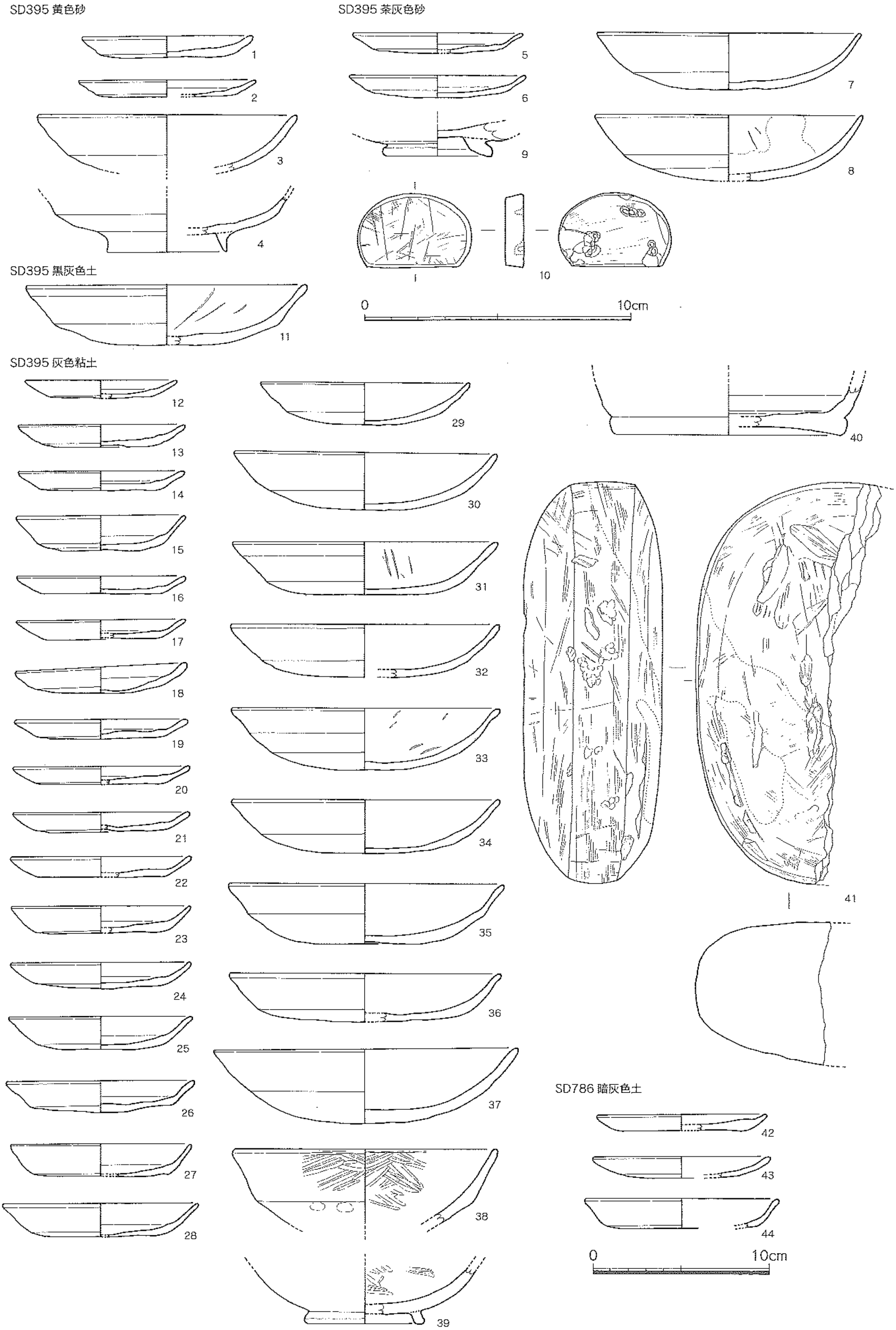


Fig.52　SD395・786出土遺物実測図（1/3、10・41は1/2）

緑釉陶器

皿（4） 高台削り出しの蛇ノ目高台で、復元口径6.8cm。胎土は黄白色で土師質。釉は緑黄色で全面に施釉するが殆ど剥落している。洛北産。

椀（5） 復元口径16.3cm。釉は灰緑色で内面ミガキ、外面回転ナデのあと施釉するが、口縁部以外殆ど剥落している。須恵質で洛西もしくは篠窯産。

236-1SD375灰茶色土出土遺物（Fig.51）

土師器

坏a（7） 口径11.0cm、体部中に僅かに屈曲がある。底部回転ヘラ切り後ナデ、内面底部は不定方向のナデ、その他はヨコナデ。

236-1SD375灰色粘土出土遺物（Fig.51）

土師器

小皿a（8～11） 復元口径9.6～10.2cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（12・13） 内面ミガキbでコテ当て痕も残る。12は口縁内部に煤が付着する。

器台（14） 0.9cm程の孔が開き、外面はナデ調整。上部は粘土接合部で剥落する。

灰釉陶器

皿（15） 復元高台径6.6cm。胎土は白色砂粒を含むが精製され、灰白色を呈する。釉は現存範囲では確認できない。外面底部は回転糸切り、内面は平滑である。O-53窯様式とみられる。

土製品

トリベ（16） 胎土は0.2cm以下の白色砂粒を若干含むが精製され、灰色を呈する。内面は溶解し赤茶色や暗灰色になり、青緑色や黒茶色物質が付着する。

236-1SD380出土遺物（Fig.51）

土師器

小皿a（19） 復元口径9.2cm、器高1.4cm。内外面磨滅し調整不明。

236-1SD380灰色粘土出土遺物（Fig.51）

土師器

椀c（20） 復元高台径7.0cm。内面ナデ調整。

236-1SD380黄灰色粘土出土遺物（Fig.51）

瓦質土器

脚付鉢（21） 胎土は0.2cm以下の白色･黒色砂粒を多く含み、色調は淡灰色を呈する。内外面はヨコナデ、底部外面は削りで、脚部が剥落した痕跡を残す。

236-1SD395黄色砂出土遺物（Fig.52）

土師器

小皿a（1・2） 復元口径9.6cmと10.0cm。磨滅し調整不明。

丸底坏a（3） 復元口径14.6cm。磨滅し調整不明。

椀c（4） 復元高台径6.7cm。体部は磨滅し調整不明。

236-1SD395茶灰色砂出土遺物（Fig.52）

土師器

小皿a（5・6） 復元口径9.6と10.0cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（7・8） 復元口径15.0cmと15.2cm。12は内面に煤が付着する。

黒色土器B類

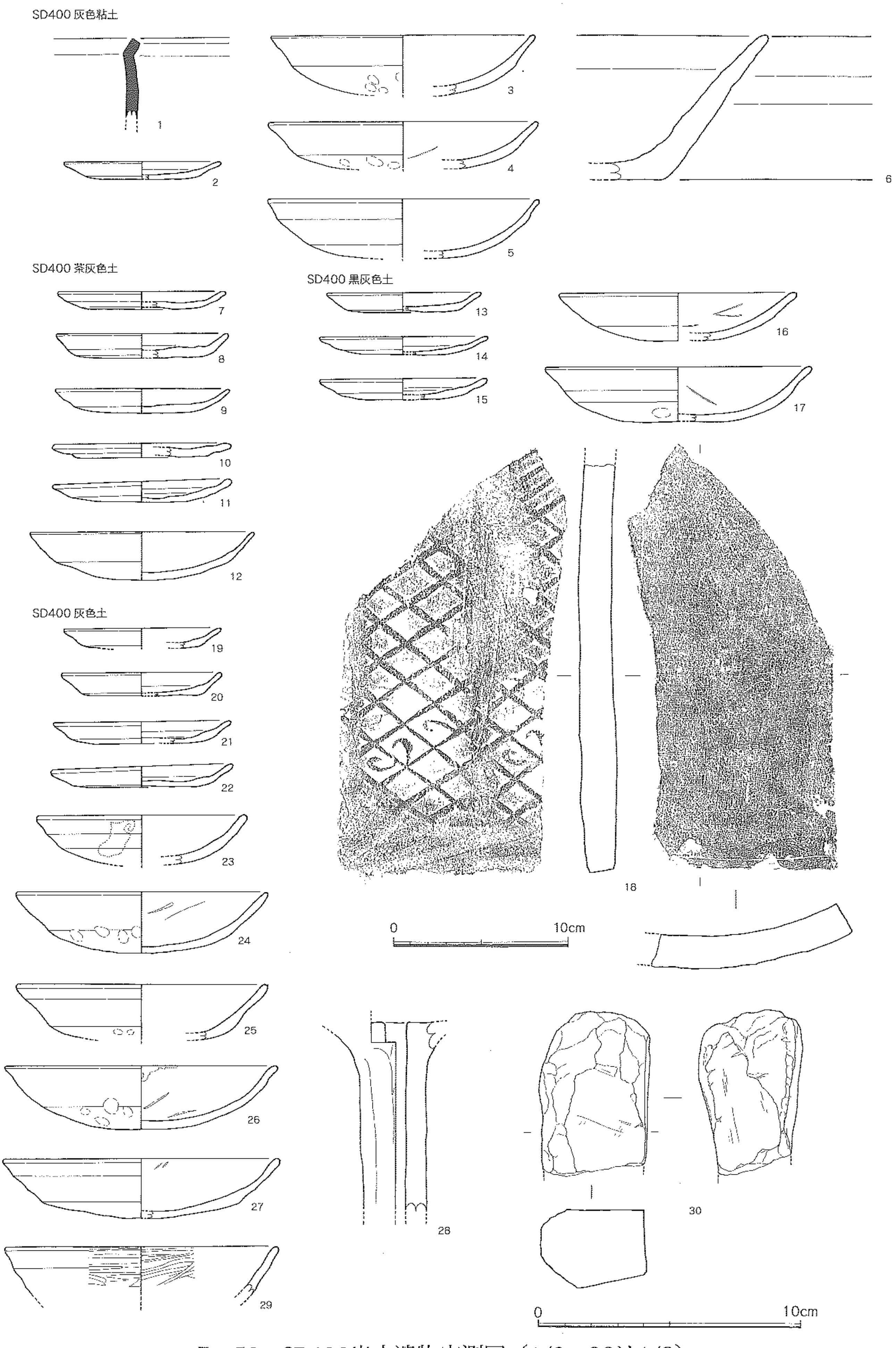


Fig.53　SD400出土遺物実測図（1/3、30は1/2）

椀c（9） 高台径6.2cm。内面ミガキcが残る。

石製品

石帯丸鞆（10） 大きさは縦2.8cm、横4.3cm、厚さ0.7cm。石材は粘板岩のようなもので、色調は灰黒色を呈し、表面は光沢がある。裏面には3ヶ所6個の穴が開いている。

236-1SD395灰色粘土出土遺物（Fig.52）

土師器

小皿a（12～28） 復元口径8.6～11.1cm、器高1.0～2.0cm。底部回転ヘラ切り。

小丸底坏a（29） 復元口径11.8cm、外面底部に回転ヘラ切り痕と板状圧痕が残る。

丸底坏a（30～37） 復元口径15.0～17.2cm、外面中位で僅かに屈曲するものもあるが全体的に丸い。全体的に磨滅するが、内面にミガキb、外面に板状圧痕が残る。

黒色土器B類

椀（38） 復元口径15.0cm、内外面ともミガキcで、外面中位に指頭圧痕が残る。

椀c（39） 復元高台径6.8cm、外面下半は回転ヘラケズリで、内面はミガキc。

長沙窯系青磁

水注（40） 復元底径13.4cm。胎土は明灰色を呈し、釉は淡い灰緑色で外面に薄く施す。内面回転ナデ、外面底部はナデである。

石製品

磨石（41） 大きさは15.1cm、厚さ5.4cmで楕円形をなしていたと見られる。全体的に薄く煤が付く。用途について砥石の可能性も考えられる。

236-1SD786暗灰色土出土遺物（Fig.52）

土師器

小皿a（42～44） 復元口径9.6～11.0cm、42は若干口縁部が歪む。

236-1SD400灰色粘土出土遺物（Fig.53）

須恵器

短頸壺（1） 口縁部を屈曲させる。内外面とも回転ナデ。胎土は微細な白色砂粒や黒色粒を僅かに含み、灰白色を呈する。

土師器

小皿a（2） 復元口径9.0cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（3～5） 復元口径15.0～15.4cm。3は内面が薄く剥落。

盤（6） 胎土は精製されているが、0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、茶灰色や茶褐色を呈する。焼成は不良。全面磨滅が著しい。

236-1SD400茶灰色土出土遺物（Fig.53）

土師器

小皿a（7～11） 復元口径9.6～10.2cm、器高0.8～1.4cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（12） 復元口径12.8cm。

236-1SD400黒灰色土出土遺物（Fig.53）

土師器

小皿a（13～15） 復元口径8.8～9.6cm、器高1.05～1.2cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（16・17） 復元口径13.6cmと15.2cm。内面ミガキbでコテ当て痕も残る。

236-1SD400灰色土出土遺物（Fig.53）

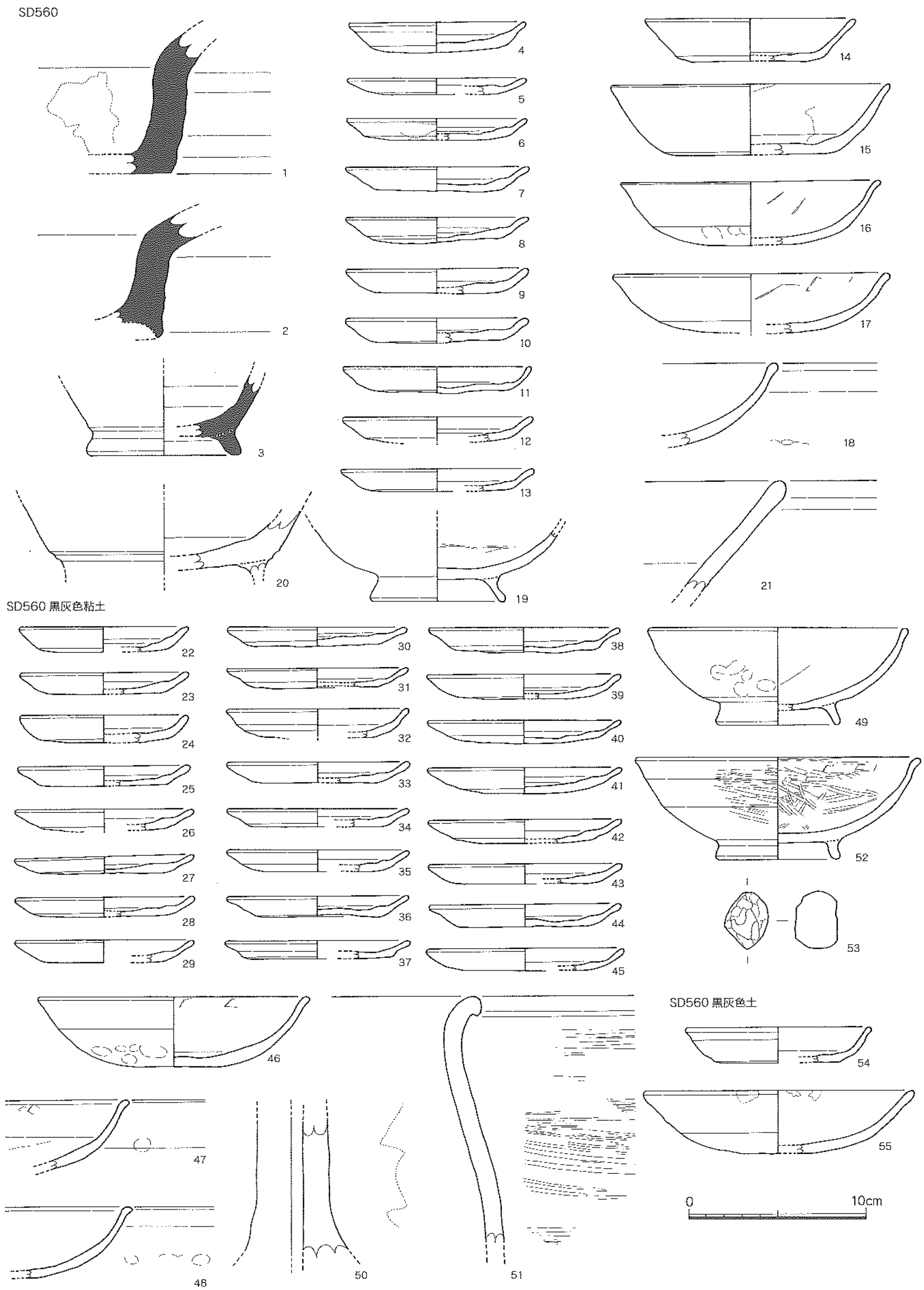


Fig.54　SD560出土遺物実測図（1/3）

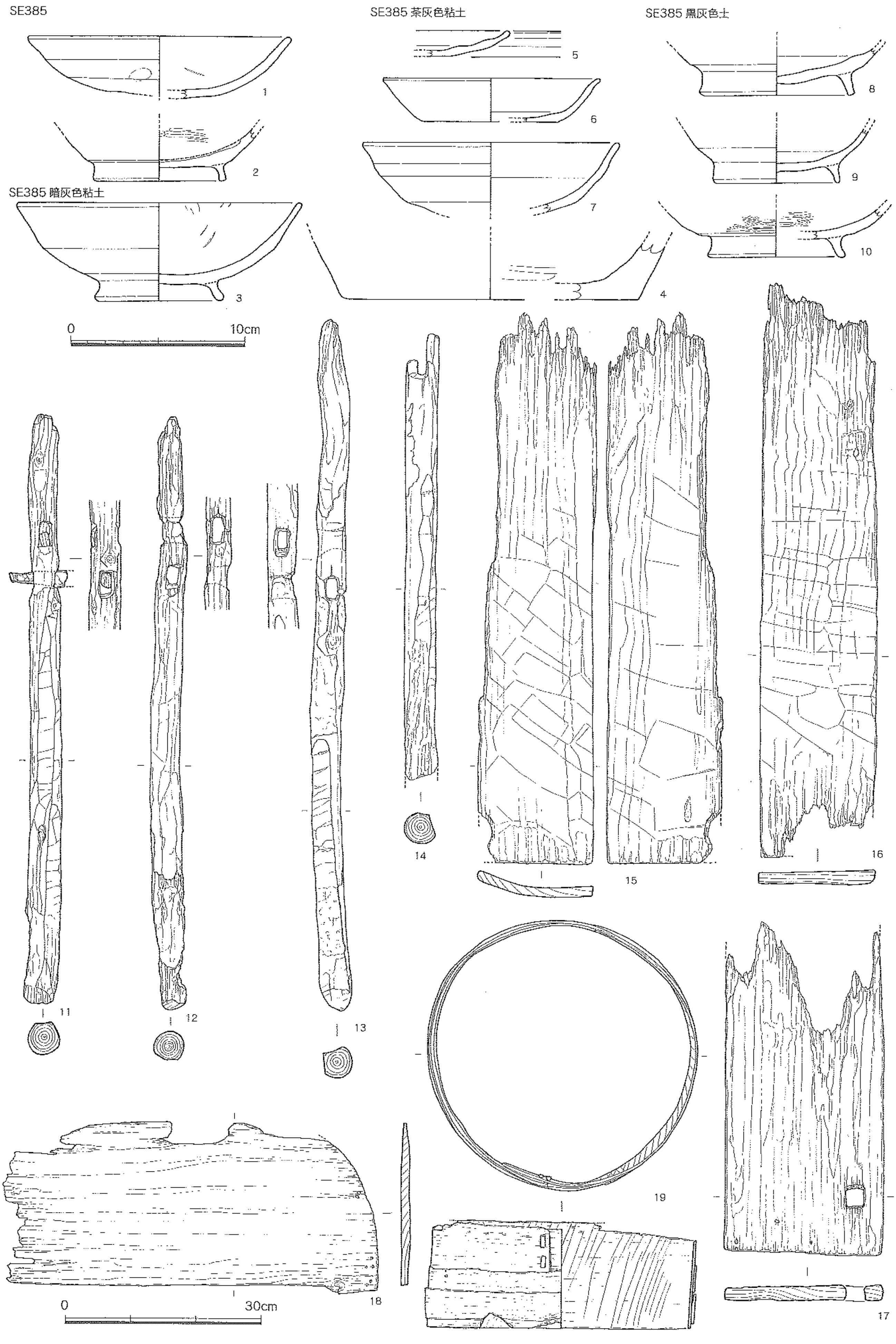


Fig.55　SE385出土遺物実測図（1/3、11 ～ 19は1/8）

土師器

小皿a（19～22） 復元口径9.0～10.4cm、器高1.1～1.3cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（23～27） 復元口径14.4～15.8cm、体部中位に若干屈曲し指頭圧痕が残る。23の外面と26の内面の一部に煤が付着する。

器台（28） 脚部で径約3.7cm。外面はナデ調整。

黒色土器B類

椀（29） 復元口径15.6cm。内外面ミガキcを施す。

石製品

砥石（30） 大きさは6.2×4.25×3.0cm。使用面は3面で砂岩製である。

236-1SD560出土遺物（Fig.54）

須恵器

盤（1・2） 1は胎土が0.4cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、焼成は不良で白灰色～淡黄褐色を呈する。内外面ともヨコナデ。2は胎土が0.5cm以下の白色砂粒を含み、焼成は不良で灰色～淡灰褐色を呈する。内面には煤が付着している。外面底部ナデ、その他はヨコナデ。

壺（3） 復元高台径8.6cm。内面はやや平滑である。外面回転ナデ、内面の一部がヘラケズリのような痕跡を残す。

土師器

小皿a（4～13） 口径9.9～10.8cm、器高0.9～1.7cm。6は外面に煤が付着する。

坏a（14・15） 復元口径11.5cmと15.6cm。15は底部回転ヘラ切りで、内面に煤が付着する。

丸底坏a（16～18） 復元口径14.6～15.5cm。内面はミガキbで、外面下半には底部押し出しの指頭圧痕が残る。

椀c（19） 高台径7.5cm。内面はミガキbであるが黒色化できていない。

壺（20） 胎土は白色砂粒や赤色砂粒を少量含むが精製され、色調は白褐色を呈する。外面底部は回転ヘラ切り、内外面は磨滅するが回転ナデとみられる。

鉢（21） 胎土が0.4cm以下の白色砂粒を含む。焼成は良好で、内外面回転ナデで、外面下半にヘラケズリのような痕跡もみえる。

236-1SD560黒灰色粘土出土遺物（Fig.54）

土師器

小皿a（22～45） 復元口径9.4～11.0cm、器高1.0～1.6cm。底部回転ヘラ切り、内面底部は一方向のナデ。29は内面の一部に付着物がある。

丸底坏a（46～48） 口縁端部が若干平坦部を有する。内面ミガキb。46は復元口径15.2cm。

丸底坏c（49） 復元口径14.6cm。内面にミガキb、外面に指頭圧痕が残る。

器台（50） 脚部で、径は約3.2cmで、孔の径は1.15cm。外面ナデ調整。

甕（51） 口縁部を緩く外反させる。胎土は0.7cm以下の白色砂粒や金雲母を含む。内面は斜め方向のナデ、外面は粗いヨコハケで一部ナデ調整。外面全体に煤が多く付着し、内面にも部分的に煤が付着する。

黒色土器B類

椀c（52） 口縁部を僅かに外反させる。復元口径16.0cm、内面はミガキbのあとミガキcを施す。

瓦類

瓦玉（53） 大きさは2.45×3.2×2.35cm。両面に布目と叩き痕が残る。

236-1SD560黒灰色土出土遺物（Fig.54）

土師器

小皿a（54） 復元口径10.4cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（55） 復元口径15.2cm。口縁端部の内外面に煤が付着する。

井戸

236-1SE385出土遺物（Fig.55）

土師器

丸底坏a（1） 口径15.2cm。内面ミガキb、外面中位に指頭圧痕が残る。

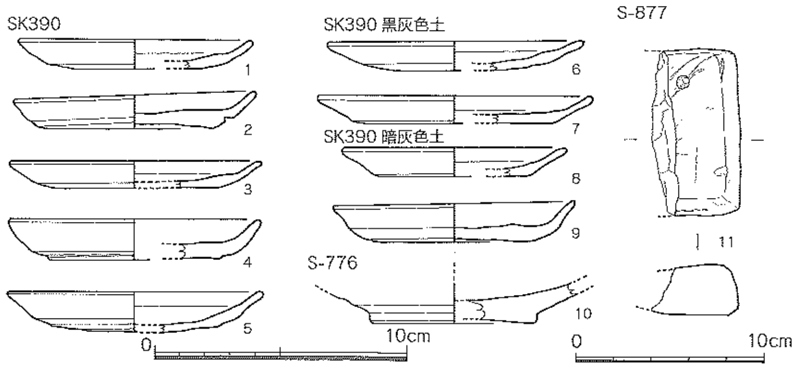


Fig.56 SK390・第2面その他の遺構出土遺物実測図（1/3、11は1/2）

黒色土器A類

椀c（2） 復元高台径7.6cm。内面ミガキcだが、内面底部は器面が広く剥離している。

236-1SE385暗灰色粘土出土遺物（Fig.55）

黒色土器A類

椀c（3） 復元口径16.4cm。内面はコテ当て痕とミガキcが残る。外面下半はナデ。

緑釉陶器

鉢（4） 復元底径17.0cm。胎土は0.1cm以下の白色砂粒をやや多く含み、色調は灰黒色を呈する。外面はナデ、内面は強いナデで、褐色を帯びた灰緑色の釉を薄く掛ける。

236-1SE385茶灰色粘土出土遺物（Fig.55）

土師器

小皿a（5） 底部回転ヘラ切り。内面底部不定方向のナデ。

坏a（6） 復元口径12.4cm。外面底部は回転糸切りのようにもみえる。内面に一部付着物がある。

丸底坏a（7） 復元口径14.8cm。内面下半はミガキb、上半はヨコナデ。

236-1SE385黒灰色土出土遺物（Fig.55）

土師器

椀c（8・9） 復元高台径は9.0cmと7.4cm。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ。

黒色土器B類

椀c（10） 復元高台径8.0cm。内外面ミガキc。

236-1SE385出土木製品（Fig.55）

木製品

隅柱（11～14） 11は現存長90.6cm、径5.4×5.0cm。表面は部分的に加工を施すが樹皮も残っている。下方はケズリの後劣化している。上部に方形のホゾ穴が、4cm程の間隔を開けてねじれの位置で穿たれ、下段の方には横桟が嵌った状態で検出された。12は現存長90.8cm、径4.9×4.3cm。表面は部分的に加工を施すが、樹皮を残している所もしくは樹皮が剥げただけの部分が多い。上部に方形のホゾ穴が、4cm程の間隔を開けてねじれの位置で穿たれている。13は現存長105.8cm、径5.0×4.8cm。表面は一部加工を施すが、殆どが樹皮を残す所と樹皮が剥げただけの状態である。方形のホゾ穴が4cm程の間隔を開けてねじれの位置で穿たれている。14はホゾ穴部分で欠損し、現存長68.4cm、径5.0×4.6cm。表面は一部加工を施すが、殆どが樹皮を残す所と樹皮が剥げただけの状態である。

井戸枠材（15～17） 15は現存長84.6cm、幅18.1cm、厚さ1.7cmである。両面ともカンナ削り痕が残る。16は現存長88.2cm、幅18.1cm、厚さ2.2cmである。両面にカンナ削り痕があり、1ヶ所穴が貫通している。

17は現存長51.3cm、幅24.8cm、厚さ2.5cmである。表面の加工痕は残っていないが、下方に3.1×3.5cmの方形孔が穿たれ、下端に0.4cm前後の円孔が4ヶ所穿たれている。

板材（18） 現存長58.0cm、幅26.3cm、厚さ1.4cmである。端部に0.5cm前後の円孔が7ヶ所穿たれており、何かを留めていた穴とみられる。表面に加工痕は残っていない。

曲物（19） 径41.4×41.6cm、高さ16.5cm。タガが2本巡っているが、上部の方はズレ落ちた状態と推測される。上部端には0.2cm前後の多くの円孔が穿たれており、当初桶底があったものを再利用した可能性が考えられる。内面には斜め方向に細かい刻み目を施す。

土坑

236-1SK390出土遺物（Fig.56）

土師器

小皿a（1～5） 復元口径9.4～10.2cm、器高1.1～1.6cm。2は回転糸切り。4は底部糸切りか。その他は底部回転ヘラ切り。

236-1SK390黒灰色土出土遺物（Fig.56）

土師器

小皿a（6・7） 復元口径10.2cmと11.0cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SK390暗灰色土出土遺物（Fig.56）

土師器

小皿a（8・9） 8は復元口径9.0cm、磨滅し底部調整不明。9は口径9.6cm、底部回転糸切り。

第2遺構面その他の遺構出土遺物（Fig.56）

緑釉陶器

椀×皿（10） 底部削り出し。胎土は黄灰白色の土師質で、内外面に淡黄緑色の釉を施すが、底部外面は磨滅している。復元底径6.6cm。S-776より出土。

石製品

権（11） 縦4.4cm、横2.4cm、厚さ1.3cmで、一側面欠損する。表裏のみ研磨されている。また、0.3cmの円孔が穿たれている。重さ21.2g。泥岩製。S-877より出土。

○第2調査面基盤層

第236-1次調査灰色土出土遺物（Fig.57・58）

須恵器

坏a（1） 復元口径13.2cm、底部外面はヘラ切り後ナデ。内面底部はナデ。色調は白灰色を呈する。

坏c（2～4） 復元高台径6.6～7.6cm。3・4は底部端に貧弱な高台を貼付する。

小壺（5） 復元高台径5.8cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。内外面回転ナデ。

壺（6） 方形の高台を貼付する。色調は淡青灰色で焼成は良好。内外面とも回転ナデ。

土師器

坏a（7～16） 復元口径は7が12.2cm、8が12.8cmで底部が丸い。復元底径5.8～7.2cm。底部回転ヘラ切り。

小皿c（17） 復元口径11.9cm、器高2.85cm、高台径7.0cm。全面磨滅し調整不明。

椀（18） 復元高台径7.2cm。底部には径0.8cm程の穿孔がある。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や赤色粒を含み、色調は橙褐色を呈する。

椀c（19・20） 復元高台径8.0cmと8.6cm。内外面磨滅し調整不明。

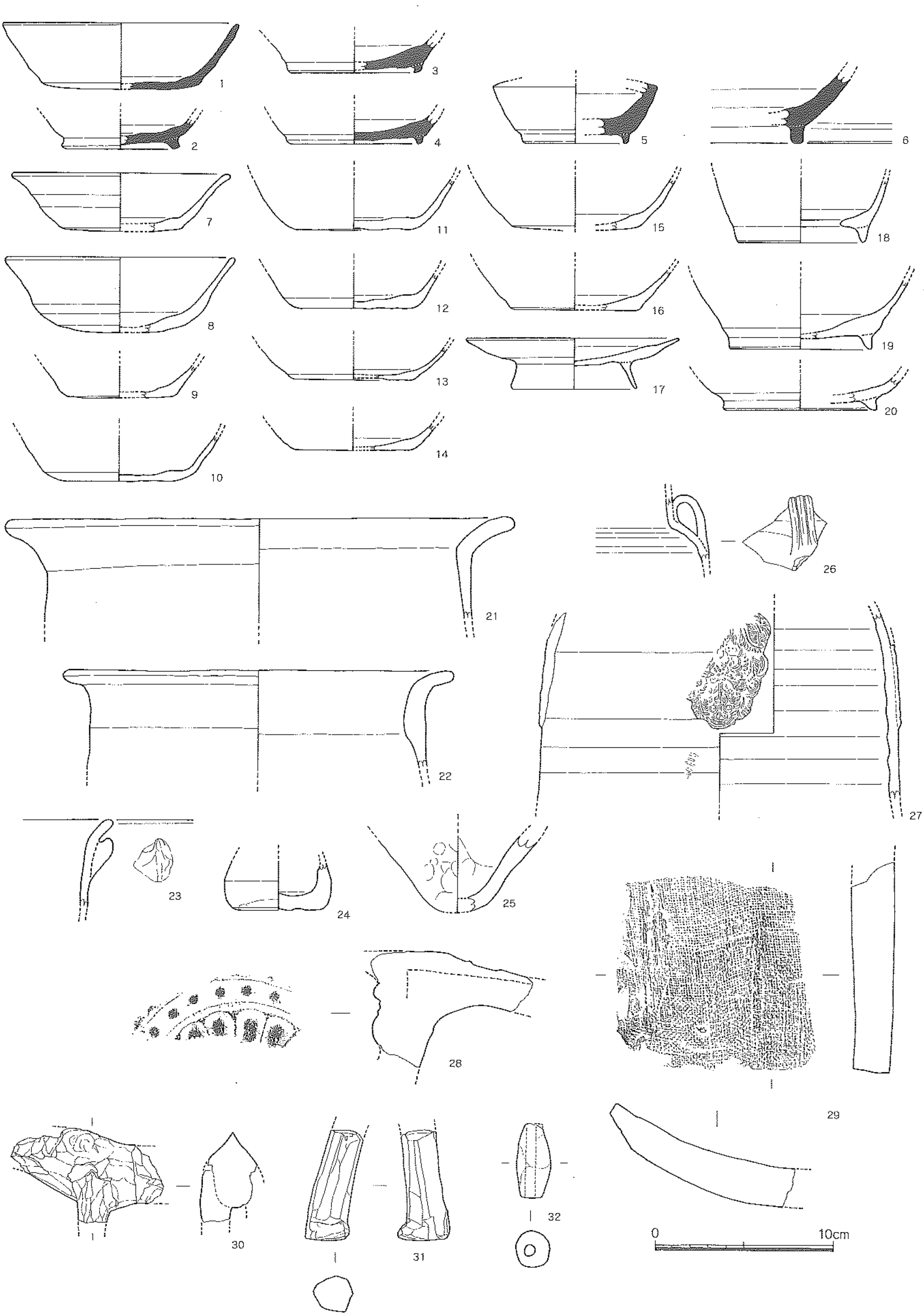


Fig.57　第2面基盤層(灰色土)出土遺物実測図①（1/3）

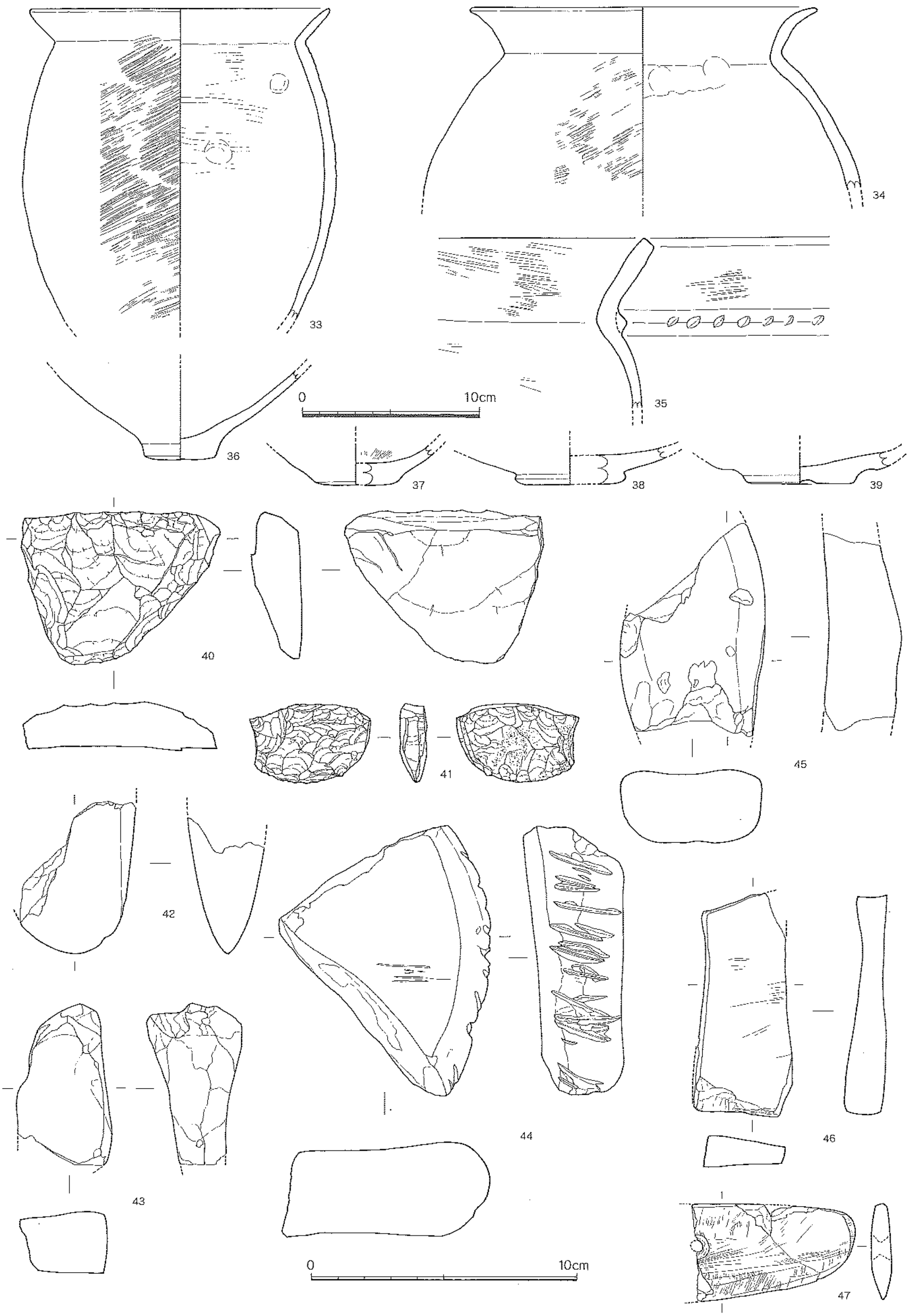


Fig.58　第2面基盤層(灰色土)出土遺物実測図②（1/3、40 ～ 47は1/2）

甕（21・22） 21は口径28.4cm。胎土は0.8cm以下の白色砂粒や赤色粒を含み、外面橙褐色、内面白褐色や淡黄褐色を呈する。体部内面ヘラケズリだが殆ど磨滅。22は復元口径21.8cm。口縁部に黒斑がある。体部内面はヘラケズリ。

甕×甑（23） 外面に小さな把手が付く。胎土は砂粒を含むが精製され、橙褐色を呈する。口縁部に黒斑がある。

小壺（24） 復元底径は5.2cm。手捏ねで内面には漆のようなものが残る。胎土は0.4cm以下の白色砂粒や赤色粒を含み、橙灰色を呈する。

製塩土器

焼塩壺（25） 胎土は0.4cm以下の白色砂粒を含む。内面簡単なヨコナデ、外面指頭圧痕が残る。

褐釉陶器

水注（26） 耳の部分で、胎土は黒色砂粒を含むが精製されている。外面には淡緑灰色や緑褐色の釉が掛かり、内面は頸部まで釉が掛かり、その下位は回転ナデで露胎である。

長沙窯青磁

水注（27） 胎土は白色砂粒を少量含み、淡い黄褐色を呈する。内外面回転ナデで体部には釉はみられない。外面に型押文を貼り付け、その一部に淡緑灰色の不透明釉が僅かに残る。

瓦類

軒丸瓦（28） 複弁で周囲には珠文があり、鋸歯文が巡る。

平瓦（29） 内面は布目痕が残り、外面は丁寧にヘラケズリを行っている。

土製品

土馬（30） 胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。焼成は良好で須恵質である。胴部はナデで、脚部はヘラケズリで、胴部上部はつまみ出して、背中部分を表現している。

獣脚（31） 形状から土馬の脚部の可能性があり、土製品に分類したが、色調は淡青灰色で、焼成は須恵質である。外面はヘラケズリとナデ、足先の接地面はナデである。

土錘（32） 縦4.15cm、径1.9～2.0cm。色調は黒灰色を呈する。胎土は0.1cm以下の白色砂粒や雲母を含む。

古式土師器

甕（33） 古墳時代の土師器で、復元口径17.0cm。胴部外面は斜め方向の平行叩きで、下半には煤が付着する。内面は磨滅し当て具痕や指頭圧痕が僅かに残る。

弥生土器

甕（34・35） 34は復元口径19.6cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、白褐色から淡橙褐色を呈する。胴部外面は斜め方向の平行叩きで下半に煤が付着する。35はくびれ部に刻み目突帯を巡らす。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、白褐色から黄褐色を呈する。口縁部は外面が粗いヨコハケ、内面が細かいヨコハケ。胴部は磨滅するが内面はハケ目が僅かに残る。

壺（36～39） 僅かに丸味のある底部で、36は胎土が0.4cm以下の白色砂粒などを含み、外面淡黄褐色を呈する。37は胎土が0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、外面淡黄褐色を呈する。内面はハケで炭化物が付着する。38は胎土が0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、外面淡黄褐色を呈する。内外面磨滅する。39は底部外面に葉脈痕のようなものが残る。

石製品

礫核石器（40） 縦5.8cm、横7.5cm、厚さ1.9cm。片面を細かく剥離調整する。安山岩。

スクレイパー（41） 大きさは縦3.0cm、横4.6cm、厚さ1.0cm。表面は小刻みに打ち欠くが、一部自

然面も残る。全体的に風化している。黒曜石製。

磨製石斧（42） 全面研磨されている。石材は片岩。

砥石（43～46） 43は砂岩製で4面使用。44は表裏2面が研磨され、側面に刃先を削り込んだような多数のキズが付いている。砂岩製。45は泥岩製で4面使用。46は砂岩製で長辺の4面と短辺の1面が使用されている。部分的に条痕がみられる。

石包丁（47） 半分ほど欠損し、現存長6.1cm、幅3.7cm、厚さ0.7cm。全面に細かい傷が付く。赤紫灰色の溶結凝灰岩製。

第236-1次調査SX525出土遺物（Fig.59）

須恵器

壺（1） 体部屈曲部に三角形の突帯が付く。内外面回転ナデ。

土師器

坏a（2～4） 復元底径6.0～7.6cm。全体的に磨滅し調整不明。

椀c（5） 高台は欠損する。内面が白褐色、外面が淡黄褐色を呈する。内外面とも磨滅する。

甕（6） 外面には煤が付着する。

灰釉陶器

壺×甕（7） 胎土は0.1cm以下の白色砂粒を含み、淡青灰色や白灰色を呈する。内外面回転ナデで外面に灰緑色の釉を施す。

越州窯系青磁

坏（8） II類。内面には目跡が残る。内面と外面上半部は施釉され、下半は回転ナデ、底部外面はヘラケズリである。釉は光沢のある淡緑灰色である。復元口径15.1cm、器高4.0cm。復元底径6.0cm。

瓦類

平瓦（10・11） 10は正格子叩きで、文字のような文様が刻まれているが欠損していることもあり、詳細は不明である。叩きが重なっているため不可解な形になっている可能性もある。11は横長の斜め格子叩き。

土製品

獣脚（9） 0.4cm以下の砂粒を多く含み、暗灰色や淡黄灰色を呈する。焼成は不良。

石製品

石鍋（12） 復元口径24.2cm。口縁端部外側は欠落が目立つ。内外面は削りで、内面に煤のようなものが付着する。

第236-1次調査茶褐色土出土遺物（Fig.59）

土師器

坏a（13・14） 13は復元口径14.0cm、14は復元底径9.4cm。全面磨滅し調整不明。

椀c（15） 復元高台径8.6cm。全面磨滅し調整不明。

甕（16） 胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、色調は淡橙色や白褐色などである。磨滅が目立つが、外面にヨコハケが確認できる。

器台（17） 脚部径3.3cmほどで、中央の円孔は径1.0cm。外面は縦方向の削りである。

第236-1次調査黒色土出土遺物（Fig.59）

土師器

坏a（18～22） 復元底径6.4～7.4cm。底部は回転ヘラ切り。

椀c（23・24） 復元高台径は7.0cmと7.6cm。外面底部回転ヘラ切り。

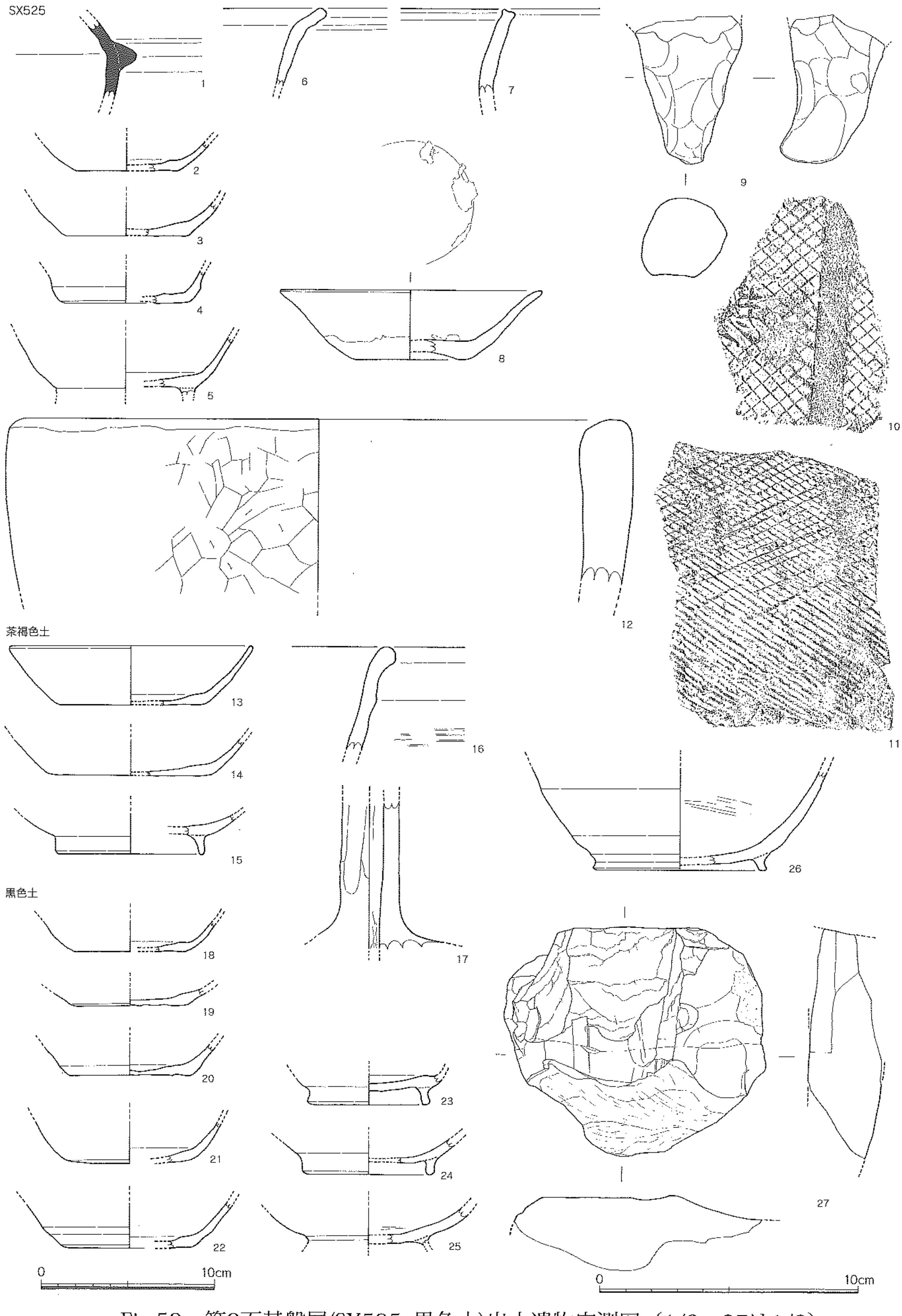


Fig.59　第2面基盤層(SX525・黒色土)出土遺物実測図（1/3、27は1/2）

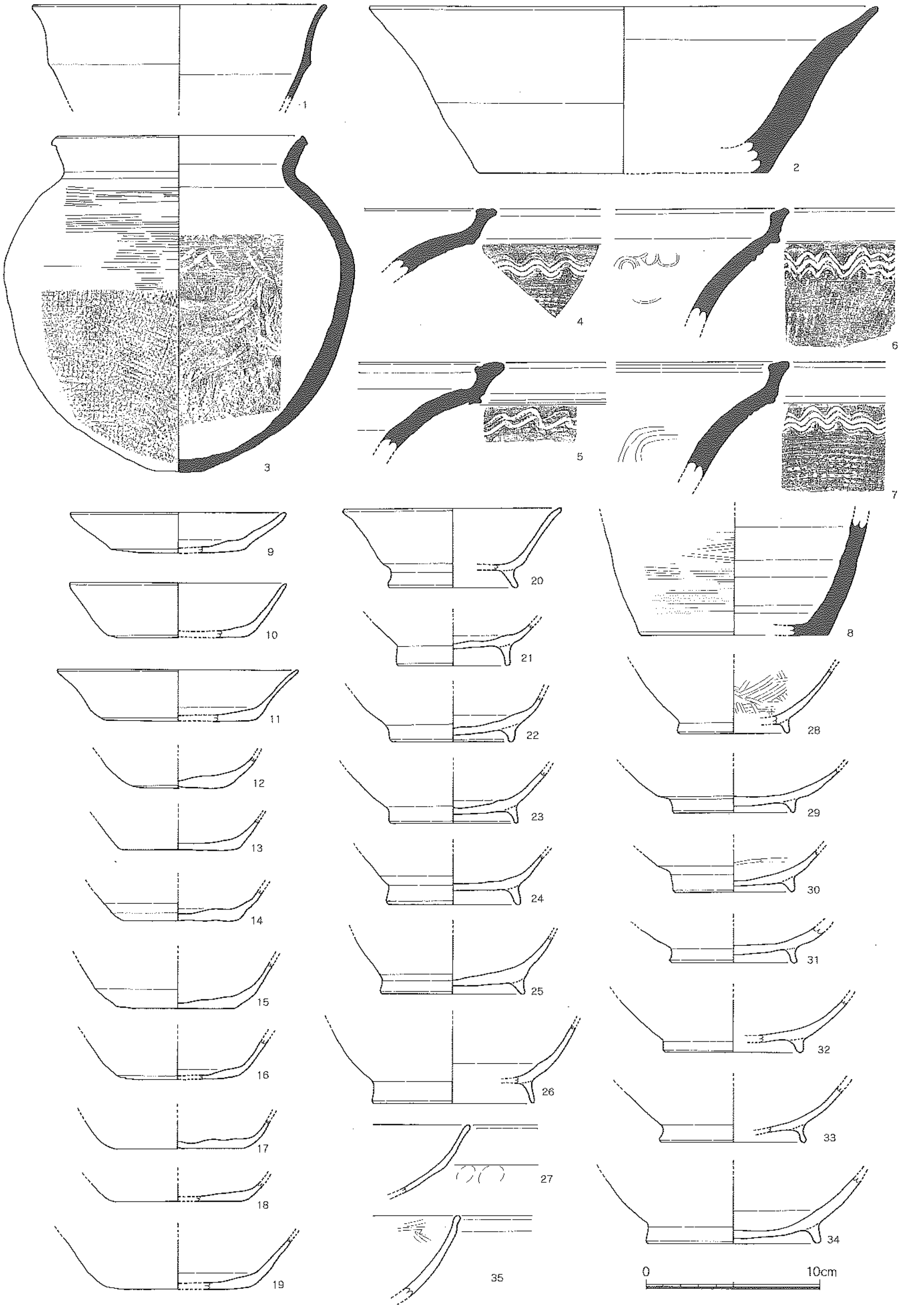


Fig.60　第2面基盤層(黒茶色土)出土遺物実測図①（1/3）

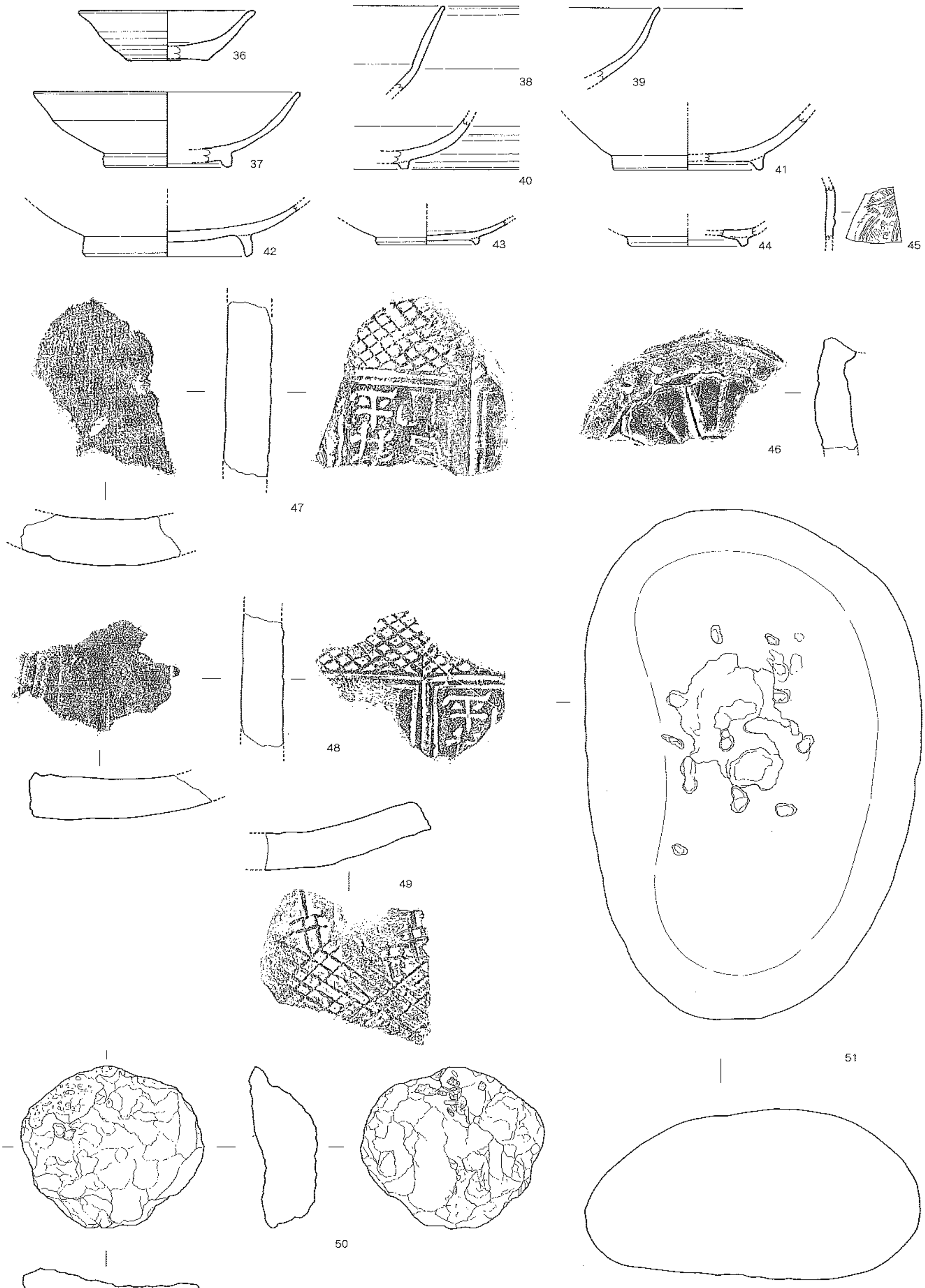


Fig.61　第2面基盤層(黒茶色土)出土遺物実測図②（1/3、51は1/2）

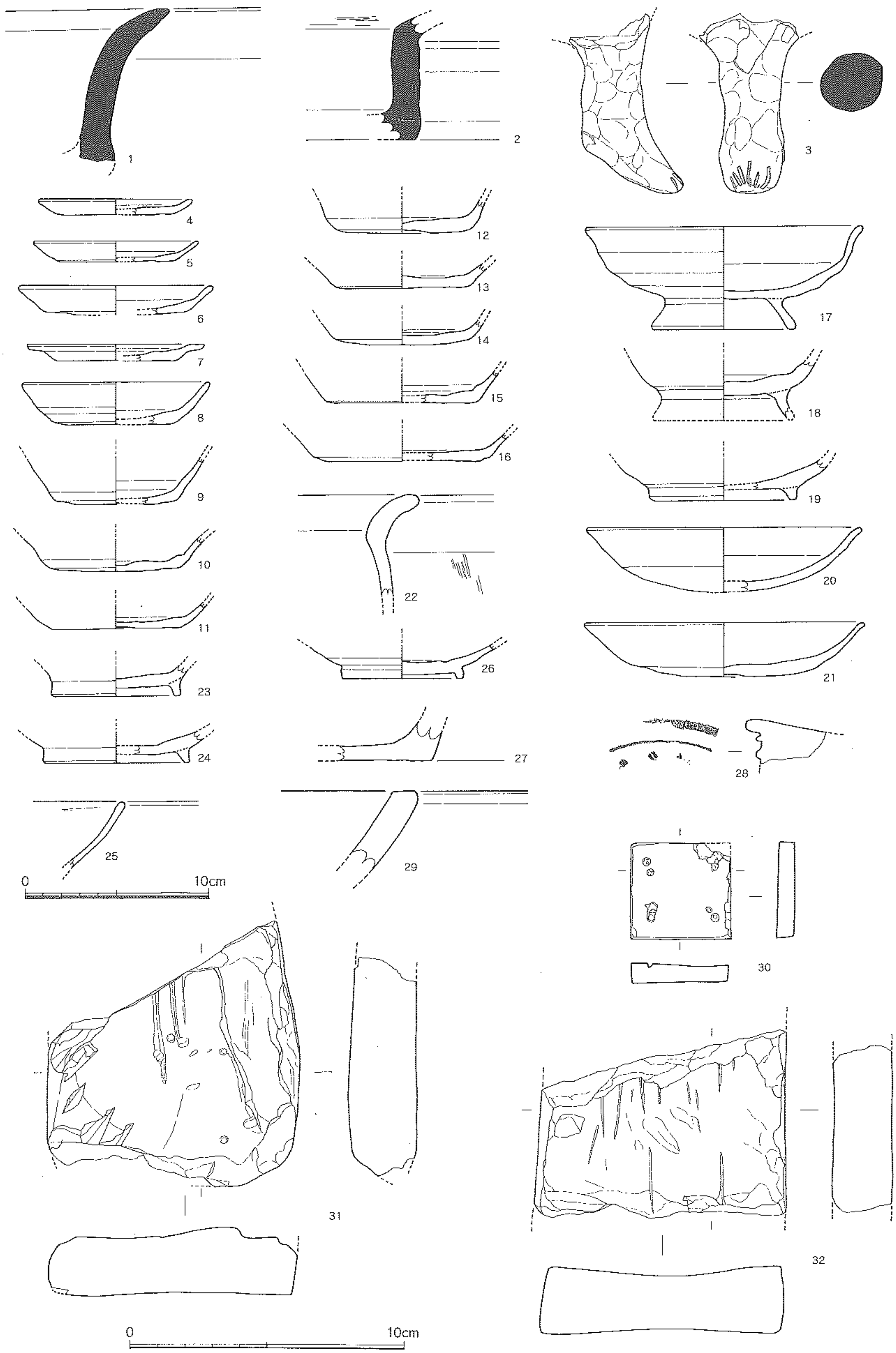


Fig.62　第2面基盤層(淡灰色土)出土遺物実測図（1/3、29～32は1/2）

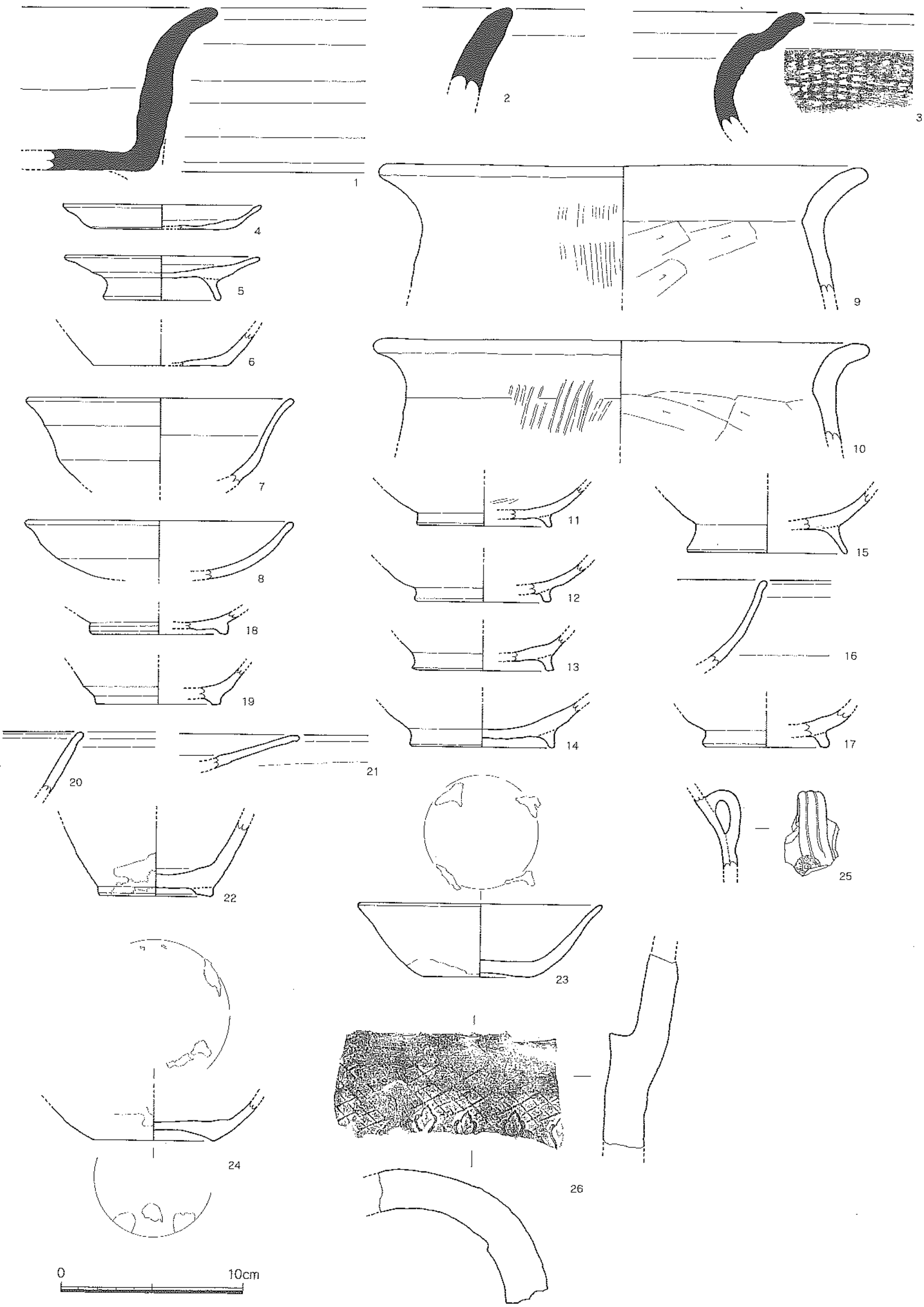


Fig.63　第2面基盤層(茶灰色粘土)出土遺物実測図①（1/3）

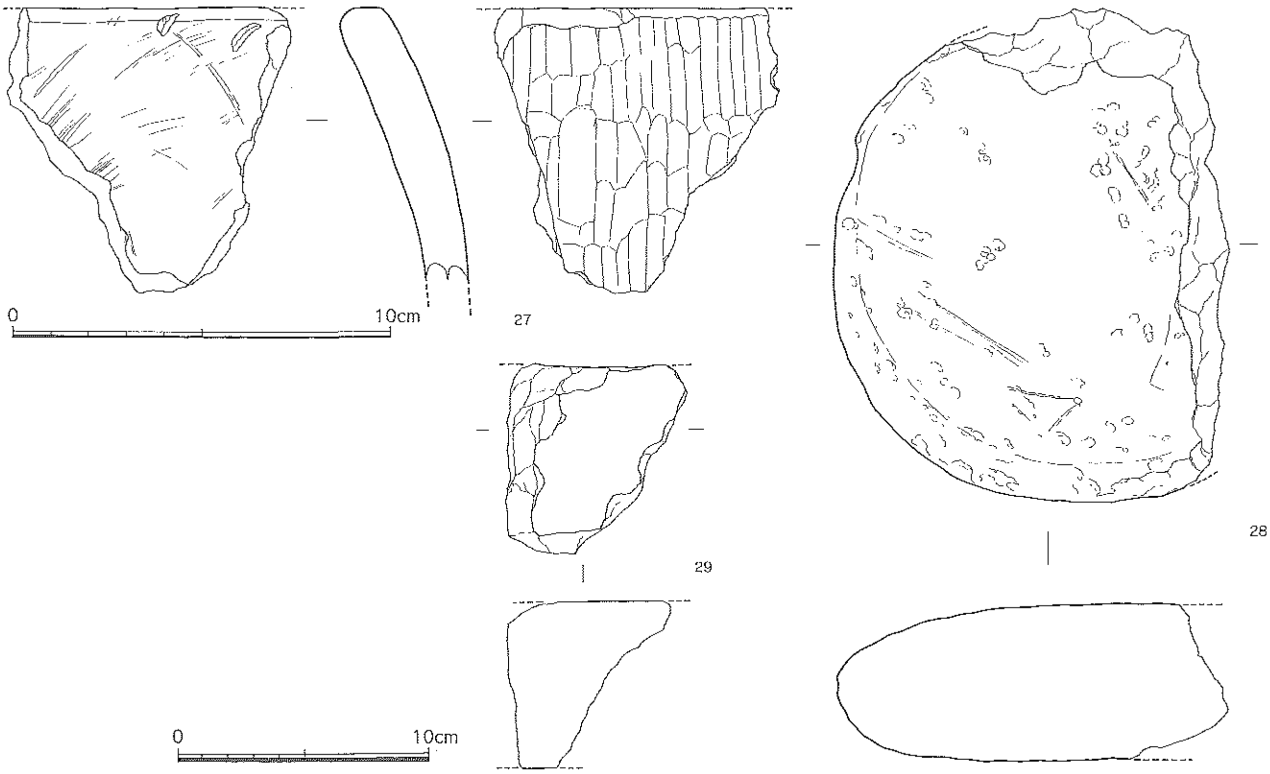


Fig.64　第2面基盤層(茶灰色粘土)出土遺物実測図②（29は1/3、1/2）

黒色土器A類

椀c（25）　全体的に磨滅するが内面に僅かにミガキcが残る。

大椀c（26）　復元高台径10.0cm。胎土は白色砂粒や金雲母などを含み、淡黄褐色を呈する。全体的に磨滅するが内面に僅かにミガキcが残る。

石製品

砥石（27）　8.9×10.15×2.8㎝。表面の剥離が目立つが約2面研磨されている。石材は3片に割れていた。安山岩。

第236-1次調査黒茶色土出土遺物（Fig.60・61）

須恵器

椀（1）　稜椀と呼ばれるもので、復元口径16.8cm。0.1cm以下の細砂粒を多く含み、淡灰色を呈する。

盤（2）　復元口径29.0cm、器高9.5cm、復元底径16.6cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や黒色粒を多く含み、内面淡灰色、外面灰黄褐色を呈する。外面は回転ナデだが、強いナデで中位はやや凹んでいる。内面不定方向のナデ、底部外面ヘラケズリ。

甕（3）　復元口径14.6cm、器高19.1cm、復元底径2.4cm。胴部上半にカキ目を施し、下半に叩きを施す。内面同心円の当て具痕があり、上部はその後回転ナデ。

大甕（4～7）　二重口縁を有するもので、口縁部の下に叩きのあと波状文を巡らす。6･7は内面に当て具痕が残る。色調は5が暗茶褐色で、他は概ね灰褐色である。

壷（8）　復元底径11.0cm。内面回転ナデで若干平滑である。外面はカキ目のあとヘラケズリを施す。

土師器

坏a（9～19）　復元口径12.3～13.8cm。復元底径5.6～9.0cm。底部はヘラ切りで板状圧痕を残すものもある。

椀c（20～26）　20は復元口径12.4㎝、その他は底部付近で、全体的に磨滅が目立ち、21で板状圧痕が、22で回転ヘラ切りが確認できる程度である。

丸底坏a（27）　破片だが、体部中位に指頭圧痕がある。混入の可能性が考えられる。

黒色土器A類

椀c（28～34） 全体的に磨滅が目立ち、28は内面にミガキcが確認できるが、その他は僅かに確認できる程度である。復元高台径6.4～10.0㎝。

黒色土器B類

椀（35） 口縁端部外面に窪み状の沈線が巡る。

緑釉陶器

皿（36） 復元口径9.6cm、器高2.7cm、復元底径4.6cm。底部外面は糸切りで、内面および外面上半部に緑灰色釉を施す。須恵質。

椀（37～41） 37は復元口径14.6cm、器高4.05cm、復元高台径7.0cm。高台は削り出し。胎土は青灰色の須恵質で光沢のある暗緑灰色釉を全面に施す。内面底部に不規則に沈線が巡る。38は内面中位で浅い段を持って屈曲する。39は須恵質で、内外面に暗緑灰色釉を厚く施す。40は須恵質で全面に明緑灰色釉を施すが、高台畳付部分は使用によって釉が剥げている。洛西産。41は復元高台径8.2cm。胎土は微細な砂粒を含むが精製された土師質である。明黄緑釉がうっすら残り、内外面の所々に黄色斑点がみられる。

灰釉陶器

皿（42・43） 42は復元高台径9.2cm、胎土が0.1cm以下の細砂粒を含む白灰色で、内面上半と外面上半に淡い緑灰色釉を施すが、かなり剥げている。また内面には重ね焼き痕跡も残す。H-72×虎渓山1窯様式とみられる。

椀×皿（44） 復元高台径9.6cm。胎土は灰白色を呈し、現存範囲には釉は確認できない。

長沙窯系青磁

水注（45） 胎土は淡灰褐色で、葡萄文のような型押しで、褐色釉を施す。

瓦類

軒平瓦（46） 瓦当部分が取れたもので、珠文は殆ど欠損する。複弁で中房は不明。

平瓦(47～49) 47・48は二重の方形枠に中に「平井瓦屋」の陰刻左字がある。細かい格子叩き。49は「平井」の文字銘がある。

金属製品

鉱滓（50） 大きさ8.9×9.85cm、厚さ最大4.0cm。いわゆる椀型滓で、表面は暗赤褐色の錆色で部分的に木炭が付いている。

叩き石（51） 縦18.5㎝、横12.3㎝、厚さ6.2㎝。両面中央付近に敲打痕が残る。

第236-1次調査淡灰色土出土遺物（Fig.62）

須恵器

盤（1・2） 1は胎土が0.4cm以下の白色砂粒や黒色砂粒と赤色粒を少量含み、灰色を呈する。口縁部はヨコナデ、内外面下半はヨコナデとナナメナデである。底部は接合面で剥離している。2は中位で屈曲し外反する。胎土は0.6cm以下の白色砂粒を含み、白灰色を呈する。口縁部内面にはカキ目のような痕跡を残す。その他内外面は回転ナデ。

獣脚（3） 盤のようなものから剥離した状態で、全面ナデ調整され、先端は溝が彫られ指先を表現している。胎土は0.4cm以下の白色砂粒や黒色砂粒を少量含み、色調は淡青灰色を呈する。

土師器

小皿a（4～6） 復元口径8.4～10.6cm。内外面殆ど磨滅し調整不明瞭。

小皿a2（7） 復元口径9.7cm。口縁端部の沈線は殆ど磨滅し、平坦になっている。

坏a（8～16）　復元底径6.4～9.4cm。底部回転ヘラ切り。
椀c（17～19）　17・18は高い高台で、17は口縁部を若干外反させる。
丸底坏a（20・21）　復元口径15.0cmと15.3cm。内外面は殆ど磨滅する。
甕（22）　胎土は白色砂粒などを含み橙褐色や灰褐色を呈する。磨滅が目立つが体部外面はタテハケ。
黒色土器A類
椀c（23・24）　復元底径7.1cmと8.0cm。磨滅するが、内面ミガキcが残る。
椀（25）　磨滅するが、内面に僅かにミガキcが残る。
緑釉陶器
皿（26）　高台は削り出しで、復元高台径6.6cm。胎土は精製され、青灰色を呈する。釉は緑灰色で光沢があり、全面に施釉する。内面底部には浅い沈線が巡る。洛西産。
灰釉陶器
壺（27）　胎土はやや暗い灰色で、底部外面は回転ヘラ切りとみられ釉はない。釉は緑灰色で、内面は回転ナデのあと薄く施釉、外面も厚く施釉する。
瓦類
軒丸瓦（28）　珠文部分。
石製品
石鍋（29）　口縁端部を平坦に作り、内外面に横方向の擦痕がある。滑石製。
石帯巡方（30）　3.5cm×3.65cm、厚さ0.7cm。裏面には紐通しの穴がある。蛇紋岩製で質が悪く非常に汚い状態である。
砥石（31・32）　31は上下欠損するが4面研磨されている。表面にはキズも見られる。32は上下欠損するが4面研磨されている。表面には条痕も見られる。

第236-1次調査茶灰色粘土出土遺物（Fig.63・64）

須恵器
脚付盤（1）　底部端に脚部が剥落した痕跡を残す。胎土は白色砂粒を多く含み、灰色から暗灰色を呈する。内面下半と外面底部はナデ、その他はヨコナデ。
盤（2）　口縁端部で、胎土は白色砂粒を多く含み、灰色から暗灰色を呈する。内面磨滅、外面ヨコナデ。
甕（3）　二重口縁で、頸部外面は叩きでそれ以外は内外面とも回転ナデ。
土師器
小皿a（4）　復元口径11.0㎝。磨滅し調整不明。
小皿c（5）　復元口径10.8㎝。
坏a（6）　復元底径7.4㎝。磨滅し調整不明。
椀（7）　復元口径14.8㎝。磨滅し調整不明。
丸底坏a（8）　復元口径14.8㎝。磨滅し調整不明。
甕（9・10）　9は復元口径27.0cm。胎土は粗く、茶灰色や茶褐色を呈する。外面タテハケ、内面ヘラケズリ。10は復元口径27.3cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を少量含み、橙灰色や茶褐色を呈する。外面タテハケ、内面ヘラケズリ。
黒色土器A類
椀c（11～15）　11～14は復元高台径7.4～8.0cm。15は高い高台で、復元高台径8.8cm。全体的に磨滅し、内面の磨きは僅かに確認できる程度である。
黒色土器B類

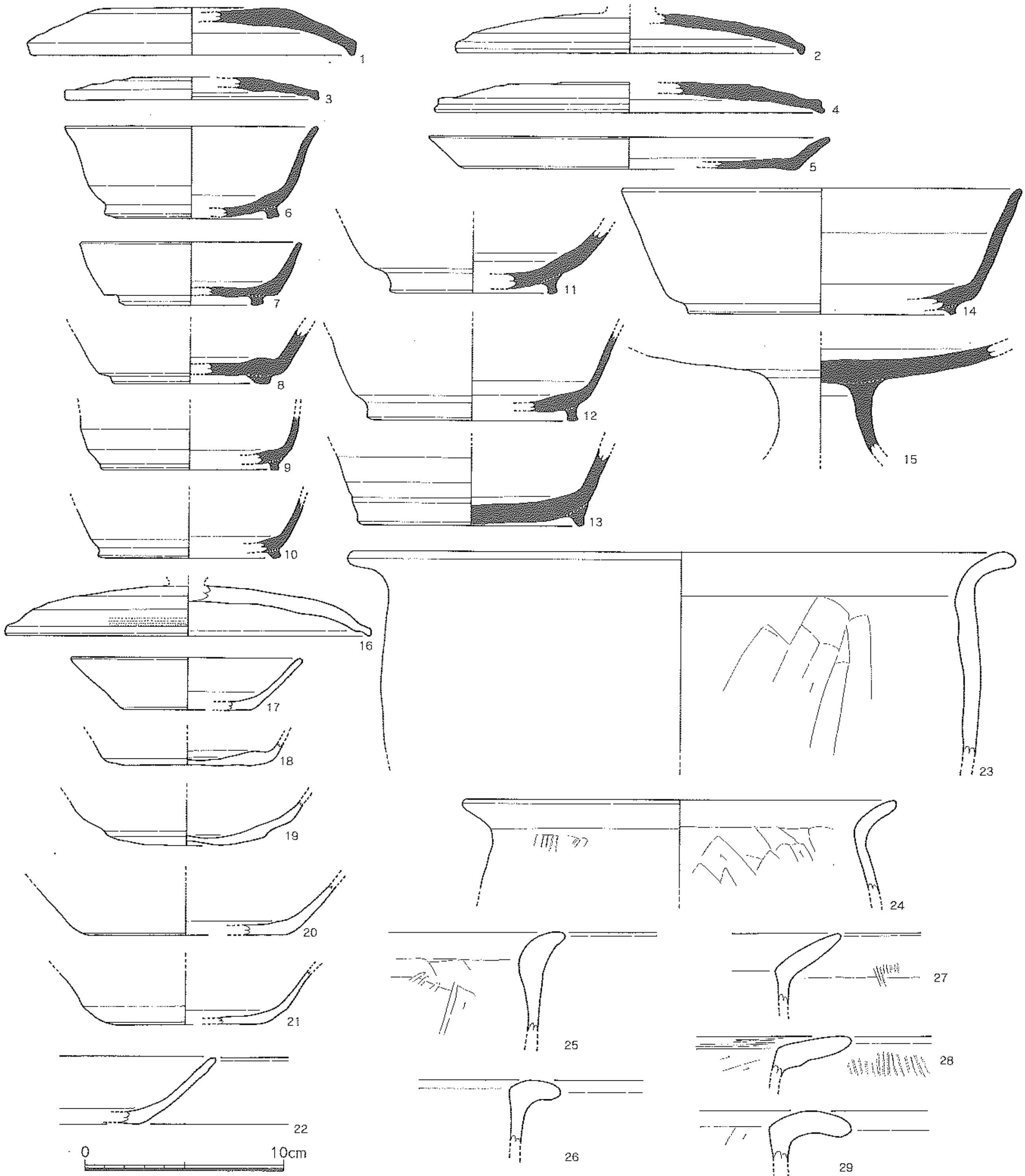


Fig.65　第2面基盤層(暗灰色粘土)出土遺物実測図①（1/3）

椀（16）　内外面磨滅する。

椀c（17）　復元高台径7.0cm。内面ミガキcを施す。

緑釉陶器

椀×皿（18）　復元高台径7.6cm。釉は淡黄緑色で光沢があり、内外面に薄く施釉する。高台と外面底部は露胎。須恵質。洛西産。

椀（19･20）　19は高台削り出しで、復元高台径6.9cm。釉は暗緑色で光沢がある。内外面とも施釉し、

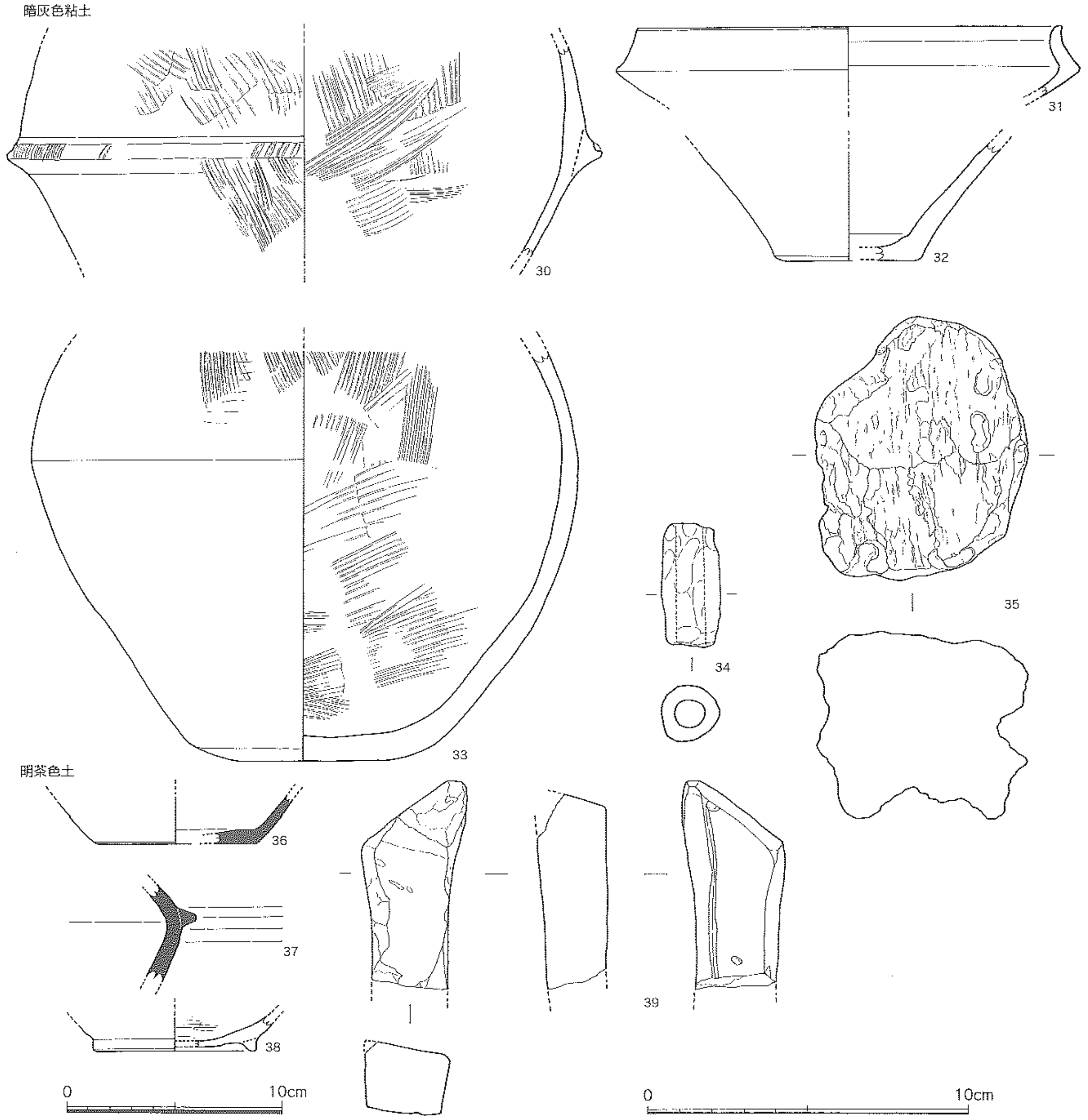


Fig.66　第2面基盤層(暗灰色粘土②、明茶色土)出土遺物実測図①（1/3、35・39は1/2）

高台部は釉を拭き取っている。須恵質。洛西産。20は胎土が精製され、色調は灰色で、釉は茶色味を帯びた緑色である。須恵質。

灰釉陶器

段皿（21）　僅かに段が確認できる。胎土は明灰黄色で、明灰緑色の釉を施す。外面回転ヘラケズリでそれ以外は全面施釉する。

壺（22）　復元高台径6.4cm。胎土はやや粗い明灰色で、釉は緑灰色で光沢がある。内面底部には釉が溜まっている。外面底部は回転ナデで、体部外面は釉が溶解できずに部分的に溜まっている。

越州窯系青磁

坏（23・24）　Ⅱ類。底部は上げ底状態である。胎土は黒色粒を多く含み、緑灰色や茶緑色の釉を薄めに施す。内面に目跡があり、外面底部端にも目跡が残るが削られている。外面下半と底部は露胎である。23は復元口径13.4cm、器高4.0cm、底径5.9cm。24は底径6.6cm。

長沙窯系青磁

水注（25）　耳部分で、胎土は精製され、黄灰色を呈する。釉は淡い黄白色でその上に褐釉を掛けている。一部剥落する。内面回転ナデで露胎である。

瓦類

丸瓦（26）　外面は小さい格子叩きとナデ調整。内面に布目痕が残る。

石製品

石鍋（27）　内面はケズリ、外面は横方向に細かく削る。

磨石（28）　欠損していて、現存する大きさは13.2×10.5cm、厚さ4.2cmの円形をなす。礫岩。

土製品

塼（29）　胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、焼成は不良である。

第236-1次調査暗灰色粘土出土遺物（Fig.65・66）

須恵器

蓋a3（1）　外面上部はヘラ切り未調整、外面中位の屈曲部は回転ヘラケズリ。内面上半部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。復元口径16.2cm。

蓋c3（2）　ツマミは欠落するが、ツマミ接合のための回転ナデが残る。外面は回転ナデ、内面上半部はナデ。復元口径17.4cm。

蓋3（3・4）　3は小型で復元口径12.6cm。外面上半部は回転ヘラケズリ。4は外面上半部が粗いナデで、頂部はヘラ切り未調整。復元口径19.6cm。

皿a（5）　底部外面はヘラ切り、内面はナデ、その他は回転ナデである。復元口径20.2cm。

坏c（6～14）　復元高台径7.2～13.6cmで、10や14のように低い貧弱な高台を貼付する。内面底部は不定方向のナデ、外面底部はヘラ切り未調整、その他は回転ナデ。色調は概ね淡灰色を呈する。

高坏（15）　坏部外面回転ヘラケズリ、内面不定方向のナデ。脚部は内外面とも回転ナデ。焼成・還元はやや不良で淡灰白色を呈する。

土師器

蓋c（16）　ツマミは欠損するが、接合の回転ナデが残る。外面ヘラケズリのあとミガキaを施す。復元口径18.4cm。

坏a（17～22）　残存しているものは底部がヘラ切り、底部内面はナデである。

甕（23～29）　概ね胎土は白色砂粒や金雲母を多く含む。焼成はやや不良である。体部内面ヘラケズリ。口縁端部ヨコナデである。23は復元口径33.6cm、24は復元口径21.8cm、淡茶色を呈する。外面ハケで、くびれ部分には煤が付着する。25は口縁部を肥厚させる。27はくびれ部にハケ目が確認できる。色調は橙灰色を呈する。28は口縁部内面がヨコハケ、外面タテハケ。29の色調は灰白色を呈する。

弥生土器

壷（30・31）　30は胴部中位に刻み目突帯を巡らす。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、灰黒色や灰白色を呈する。外面ハケ、下半にはやや煤が付着する。内面は細かいハケ調整。31は複合口縁で、胎土は粗く、灰白色を呈する。内外面ヨコナデ。

甕（32・33）　32は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡茶灰色を呈する。内外面は磨滅し調整不明。黒斑がある。33は胎土がやや粗く0.3cm以下の白色砂粒を多く含む。底部は平坦だが、体部との境は丸い。外面は磨滅するが上部に細かいタテハケが残る。内面は上半部が細かいハケ、下半が粗いハケ調整である。色調は淡茶灰色である。

土製品

土錘（34） 縦5.75cm、径2.7×2.6cm。0.1cm以下の白色砂粒を僅かに含む。須恵質。

石製品

軽石（35） 大きさは8.2×6.15×5.8cm。

第236-1次調査明茶色土出土遺物（Fig.66）

須恵器

坏c（36） 底部ヘラ切り未調整。その他は回転ナデ。

壺e（37） 胴部の突帯部分。内外面とも回転ナデで、外面には灰かぶりや自然釉が掛かる。

黒色土器A類

椀c（38） 復元高台径7.6cm、内面ミガキcである。

石製品

砥石（39） 大きさ6.5×3.0×2.2cmの方形。4面で研磨が見られ、一部に刃物痕が残る。

○第3調査面

掘立柱建物

236-1SB040h出土遺物（Fig.67）

須恵器

蓋1（1） 内外面回転ナデ調整。

236-1SB040k出土遺物（Fig.67）

木製品

柱材（2） 掘り方に遺存していた柱痕の底部である。全体的に腐食し、三角錐の形状をなしている。下端には腐食しているが、方形孔が穿たれている。大きさは高さ40.5cm、径21.9×17.2cm。

236-1SB420a黄色土出土遺物（Fig.67）

須恵器

坏c（3） 端部は僅かに摘まみ出す。上半部がナデ、その他内外面は回転ナデ。

土師器

盞3（4） 外面上半部がヘラケズリ、その他は回転ナデ。

236-1SB420b茶灰色土出土遺物（Fig.67）

須恵器

蓋3（5） 内外面回転ナデ。

大椀c（6） 復元高台径12.0cm。内面底部がやや平滑になっている。

236-1SB480c出土遺物（Fig.67）

木製品

柱材（7） 掘り方に遺存していた柱痕の底部である。腐食が目立ち、内部は空洞になっている部分も多い。また、表面も残る部分は殆どないが、僅かに削ったような痕跡が下端に残る。そして、下端には腐食が目立つが方形状の削り込みが確認できる。大きさは高さ32.7cm、径22.5×18.5cm。

236-1SB480f出土遺物（Fig.67）

木製品

柱材（8） 掘り方に遺存していた柱痕の底部で、今回の調査で最も保存が良好であった建築部材である。中心部は空洞化している。大きさは高さ59.2cm、径22.0×19.5cm。

236-1SB480h柱痕出土遺物（Fig.67）

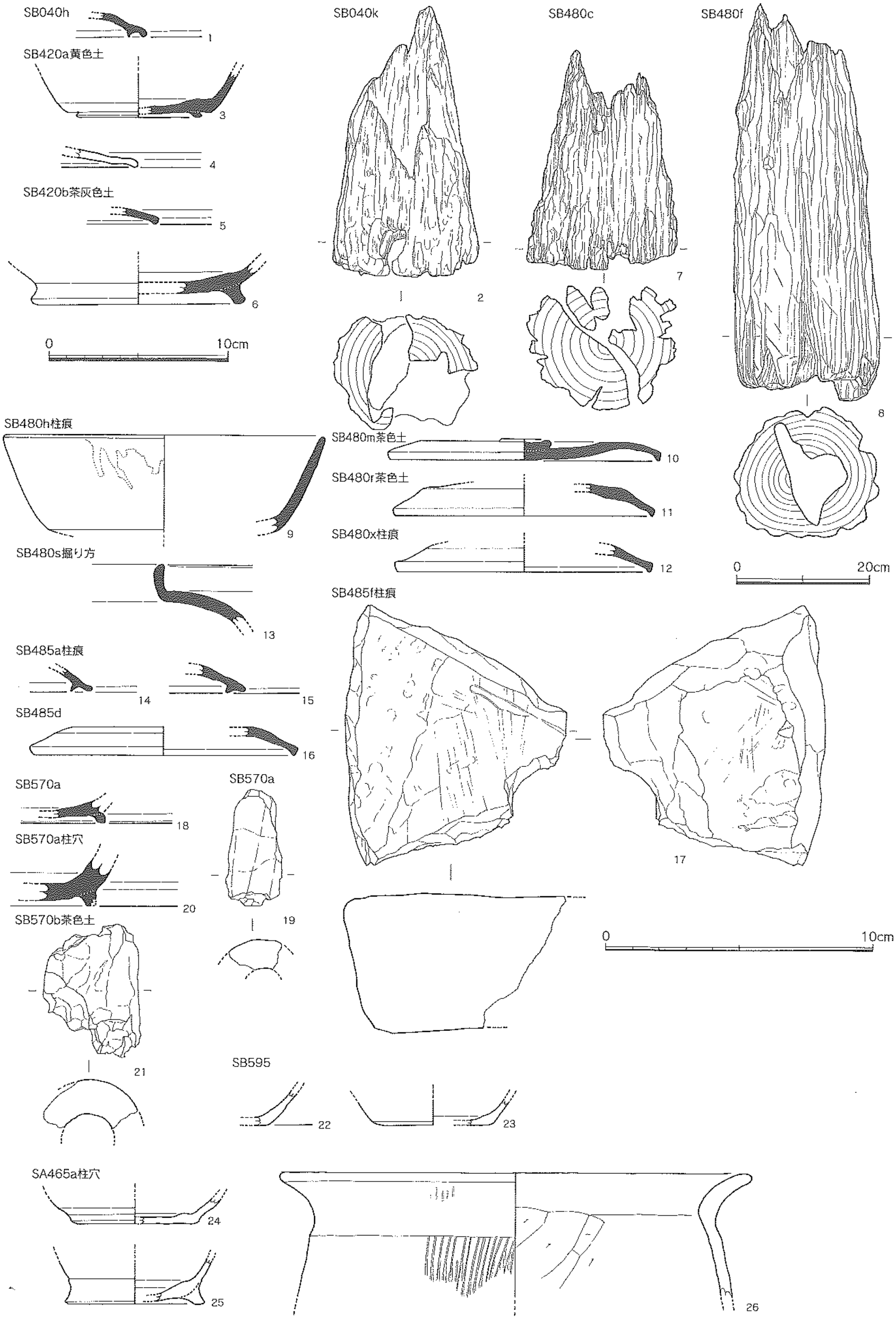


Fig.67　第3調査面掘立柱建物・柵列出土遺物実測図（1/3、17は1/2、2・7・8は1/8）

須恵器

大椀（9） 復元口径18.0cm。内面全面に濃茶色の漆がベットリ付着する。口縁部外面にも漆が垂れている。

236-1SB480m茶色土出土遺物（Fig.67）

須恵器

蓋c3（10） 復元口径15.2cm。外面中位部分が回転ヘラケズリ、その両側は回転ナデ。内面半分が不定方向のナデで、墨が部分的に付着し、硯に転用されたものと考えられる。

236-1SB480r茶色土出土遺物（Fig.67）

蓋3（11） 復元口径14.6cm。外面上半部が回転ヘラケズリ。内面一部不定方向のナデ。内面がやや研磨されている。転用硯の可能性がある。

236-1SB480x柱痕出土遺物（Fig.67）

蓋3（12） 復元口径14.4cm。外面上半部が回転ヘラケズリ。

236-1SB480s掘り方出土遺物（Fig.67）

須恵器

短頸壺（13） 内外面とも回転ナデで、口縁端部を丸く仕上げる。

236-1SB485a柱痕出土遺物（Fig.67）

須恵器

蓋1（14・15） 現存範囲では内外面とも回転ナデ。15は還元悪く、淡茶灰色を呈する。

236-1SB485d出土遺物（Fig.67）

蓋3（16） 復元口径15.0cm。上半部が回転ヘラケズリで、その他内外面回転ナデ。

236-1SB485f柱痕出土遺物（Fig.67）

石製品

砥石（17） 2面が研磨され、一部敲打痕もみられる。大きさは9.7×8.3×5.2cm。砂岩。

236-1SB570a出土遺物（Fig.67）

須恵器

坏c（18） 方形の高台を貼付し、底部内面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り。

土製品

鞴羽口（19） 胎土は0.4cm以下の白色砂粒や雲母を含み、外面は熱によって青灰色や白褐色などに変色する。厚さは1.7cmほどである。

236-1SB570a柱穴出土遺物（Fig.67）

須恵器

壺（20） 体部外面ヘラケズリ、内面回転ナデ。焼成は良好で青灰色を呈する。

236-1SB570b茶色土出土遺物（Fig.67）

土製品

鞴羽口（21） 胎土は0.4cm以下の白色砂粒や雲母を含み、外面は熱によって橙褐色や白褐色などに変色する。厚さは1.9cmほど。

236-1SB595出土遺物（Fig.67）

土師器

坏a（22・23） 2点とも内外面磨滅し調整不明。23は復元高台径7.0cm。S-996より出土。

柵列

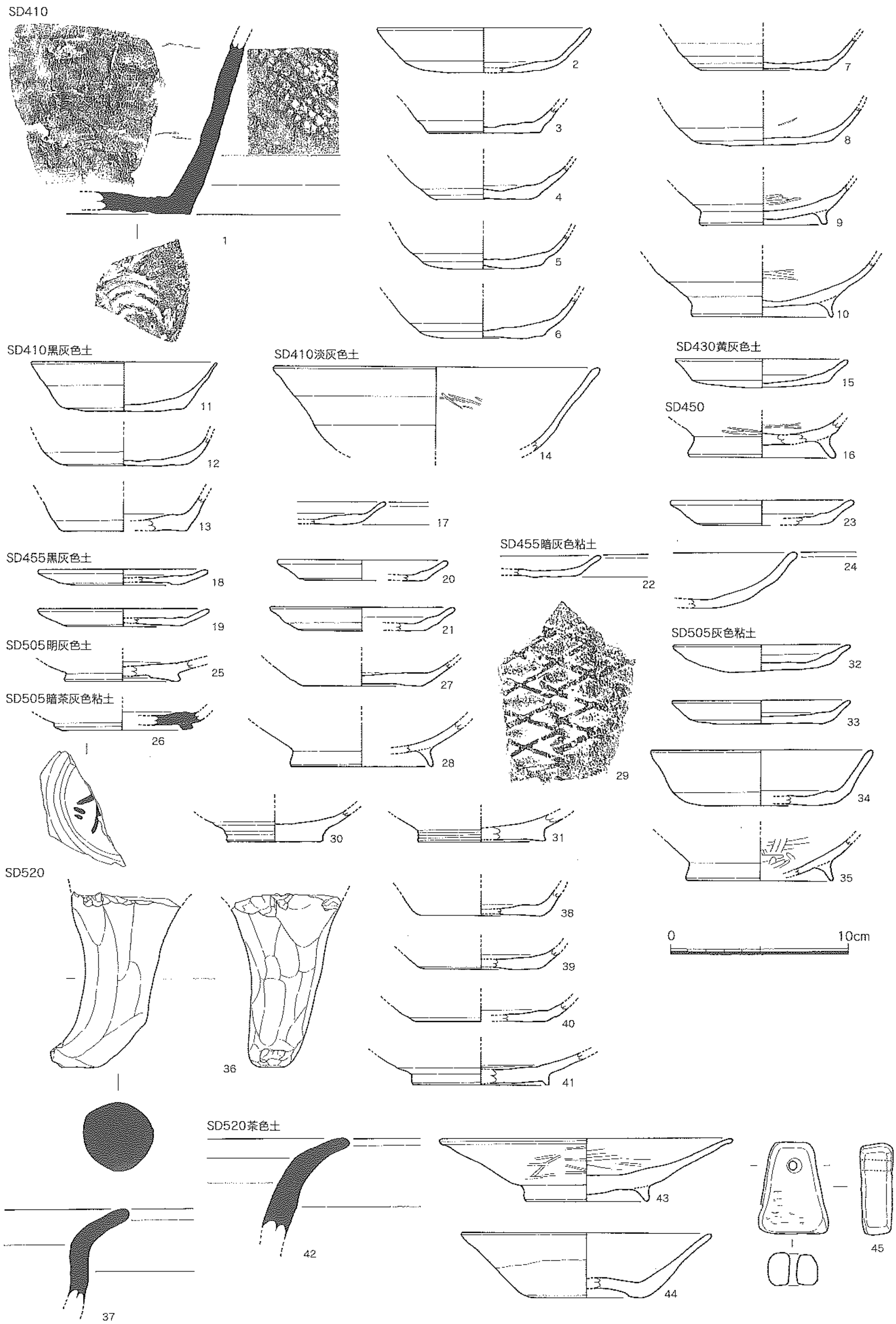


Fig.68　SD410・430・455・505・520出土遺物実測図（1/3）

236-1SA465a柱穴出土遺物（Fig.67）

土師器

坏a（24）　復元底部径7.2cm。底部回転ヘラ切り、内面底部不定方向のナデ。色調は灰白色を呈する。

椀c（25）　高台を体部下半に貼付する。復元高台径7.8cm。内面底部不定方向のナデ。

甕（26）　復元口径26.4cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒と金雲母を多く含む。口縁部はヨコナデ、体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリである。

溝

236-1SD410出土遺物（Fig.68）

須恵器

壺（1）　焼成・還元良好で、内面黒灰色、外面明灰色を呈する。体部下端は回転ヘラケズリ、その上は叩き、内面はナデである。底部外面には同心円の当て具痕があり、一部自然釉が掛かる。

土師器

坏a（2～8）　復元底径6.4～8.0cm。底部回転ヘラ切り。2は復元口径12.0cm。色調は全体的に黄白色を呈する。

黒色土器A類

椀c（9・10）　復元高台径7.2cmと8.0cm。内面にミガキcが僅かに確認できる。

236-1SD410黒灰色土出土遺物（Fig.68）

土師器

坏a（11～13）　復元底径6.8～7.2cm。底部回転ヘラ切り、内面底部不定方向のナデ。色調は12が淡茶灰色で他は黄白色を呈する。

236-1SD410淡灰色土出土遺物（Fig.68）

黒色土器A類

椀c（14）　復元高台径18.4cm、磨滅目立つが内面ミガキc、外面ヨコナデ。

236-1SD430黄灰色土出土遺物（Fig.68）

土師器

小皿a（15）　口径9.7cm。外面底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。

236-1SD450出土遺物（Fig.68）

黒色土器B類

椀c（16）　復元高台径8.3cm、内外面に僅かにミガキcが確認できる。

236-1SD455黒灰色土出土遺物（Fig.68）

土師器

小皿a（17～21）　復元口径9.4～10.4cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SD455暗灰色粘土出土遺物（Fig.68）

土師器

小皿a（22・23）　22は磨滅しているが、底部に板状圧痕が残る。23は復元口径10.2cm、外面底部ナデ調整する。

丸底坏（24）　外面下半回転ヘラ切り痕残す。

236-1SD505明灰色土出土遺物（Fig.68）

緑釉陶器

皿（25）　復元底径6.4cm、高台削り出しで、内面底部と高台畳付に浅い沈線が巡る。内外面にやや光

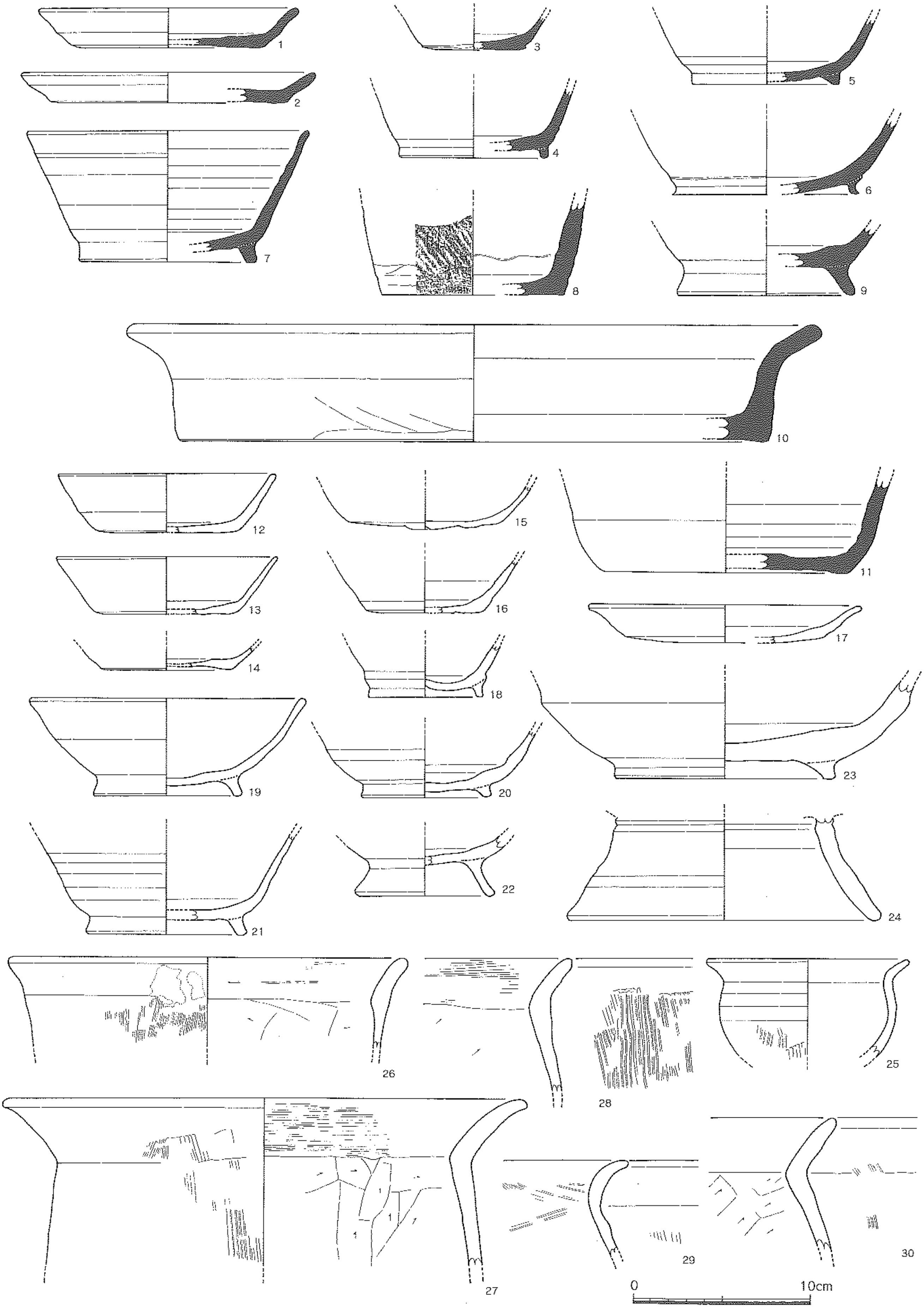


Fig.69　SD515出土遺物実測図①（1/3）

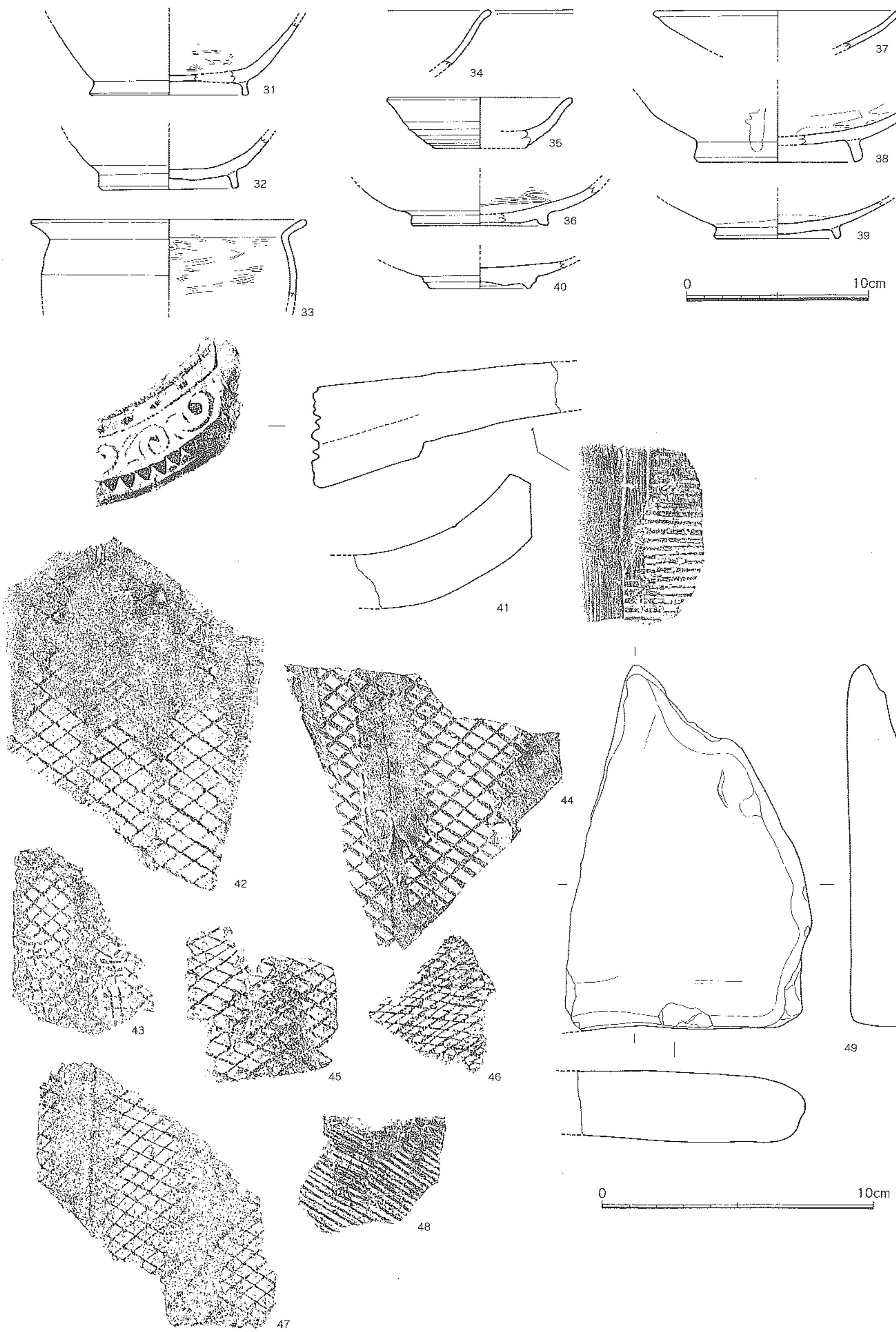


Fig.70　SD515出土遺物実測図②（1/3、49は1/2）

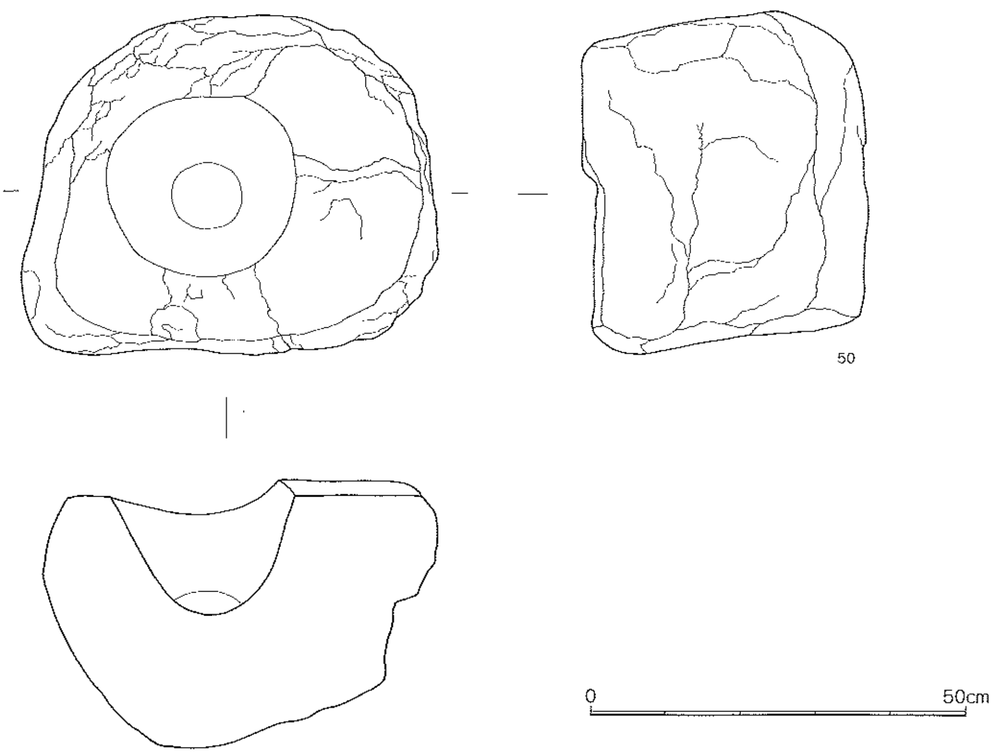


Fig.71　SD515出土遺物実測図③（1/10）

沢のある緑灰色釉を薄く施釉する。胎土は淡灰色で須恵質。京都産。

236-1SD505暗茶灰色粘土出土遺物（Fig.68）

須恵器

坏c（26）　復元高台径7.8cm。底部外面に墨書があるが、欠損し文字は読めない。

土師器

小皿a（27）　復元底径7.0cm。磨滅目立つが底部に板状圧痕を残す。

椀c（28）　復元高台径8.0cm。磨滅で調整不明。

瓦類

平瓦（29）　横長の格子叩き。

緑釉陶器

椀×皿（30・31）

2点とも円盤高台で、30は須恵質で、回転糸切りの削り出し高台で、底径5.4cm。外底以外に光沢のある濃い緑色釉をきれいに施す。31は高台削り出しで、復元底径7.2cm。須恵質だが胎土は茶橙色をなす。全面に薄い光沢のある透明釉を施す。

236-1SD505灰色粘土出土遺物（Fig.68）

土師器

小皿a（32・33）　復元口径10.0cm、底部回転ヘラ切り。

坏a（34）　復元口径12.4cm、底部回転ヘラ切り。

黒色土器A類

椀c（35）　復元高台径8.3cm、内面ミガキc。

236-1SD515出土遺物（Fig.69～71）

須恵器

皿a（1・2）　1は底部ヘラ切り後未調整。その他は回転ナデ。2は底部に一部板状圧痕が残る。内面底

部ナデ、焼成はやや不良で白灰色を呈する。

小坏a（3） 底部外面回転ヘラ切り、内面不定方向のナデ。色調は青灰色を呈する。

坏c（4～6） 復元高台径8.4～10.4cm。5は体部下半回転ヘラケズリ。6は細い高台を貼付する。内面底部ナデ、外面底部回転ヘラ切り。

大椀c（7） 内面不定方向のナデ、その他は回転ナデ。色調は淡青灰色を呈する。

壺（8･9） 8は胎土が白色砂粒や黒色粒を含み、白灰色～青灰色を呈する。外面下端が回転ヘラケズリ、その上は平行叩き、内面はヨコナデ。復元底径10.2cm。9は復元高台径10.0cm。内外面とも回転ナデ。

盤（10） 復元口径39.0cm、器高6.6cm、復元底径33.0cm。胎土は0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色を呈する。外面底部は不定方向のナデ。外面下端がヘラケズリ、その上が斜め方向の強いナデ、その他はヨコナデである。

鉢b（11） 復元底径14.0cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を含み、淡青灰色を呈する。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面底部はナデ、その他は回転ナデ。

土師器

坏a（12～16） 復元底径6.6～8.5cm。底部回転ヘラ切り。12は復元口径12.2cm。内面と外面底部に漆が薄く付着していて、口縁部内面には漆を取る際に削ったような痕跡を残す。13は復元口径12.4cm。色調は全体的に黄白色を呈する。

皿a（17） 復元口径13.4cm。底部は歪み、磨滅も目立つ。

坏c（18） 胎土は0.3cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み粗い。内面には明橙褐色に塗られているが、かなり剥げている。復元高台径6.4cm。

椀（19） 復元口径15.5cm。内外面磨滅し調整不明。

椀c（20～22） 22は高い高台を貼付する。復元高台径7.8cm。

鉢（23） 復元高台径12.4cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を含み、淡い橙白色を呈する。外面中位で屈曲する。全体的に磨滅し調整不明。

脚付鉢（24） 5.7cm程の脚部で、復元高台径17.6cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や赤色粒を含み、白褐色や淡黄褐色を呈する。

小甕（25） 復元口径11.4cm。磨滅が著しいが体部下半にタテハケが確認でき、その他は回転ナデ。胎土は多くの砂粒を含み、外面は黄褐色～灰褐色を呈する。

甕（26～30） 概ね口縁部内面ヨコハケ、体部内面ヘラケズリ、外面はタテハケを施す。橙褐色を呈する。26は復元口径22.4cm。口縁部外面に炭化物が付着する。27は復元口径29.4cm、胎土は0.4cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、口縁部内面はヨコハケのあとナデを行う。

黒色土器A類

椀c（31・32） 31は復元高台径8.8cmで、底部に漆が残る。外面の色調は橙灰色を呈する。32は復元高台径7.7cmで、外面底部に板状圧痕が残る。外面の色調は黄灰色を呈する。

甕（33） 復元口径15.2cm、内面ミガキcで炭化物が僅かに付着している。外面は磨滅する。外面の色調は橙色や淡茶色などを呈する。

緑釉陶器

椀（34～36） 34は胎土が淡い青灰色の須恵質で、全面に暗緑灰色の釉を掛ける。35は復元口径10.2cm、器高2.8cm、復元底径5.1cm。胎土は須恵質で、その他は回転ナデのあと光沢のある灰緑色釉を全面施釉、しかし、外面底部は露胎である。36は高台削り出しで、復元高台径7.6cm。胎土は淡灰色で精製され、全面光沢のある淡緑灰色釉を施し、内面はミガキの後施釉する。須恵質。

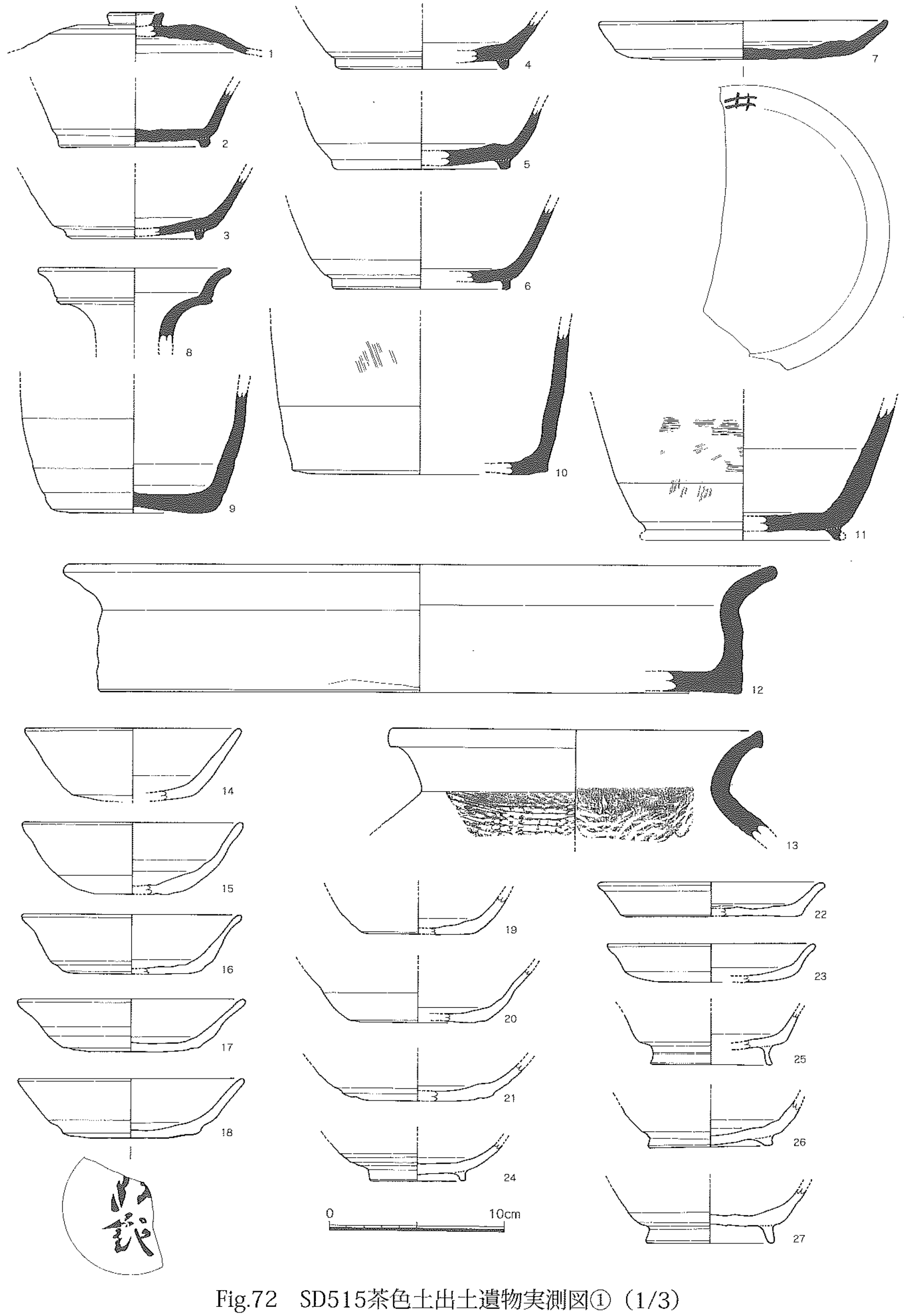


Fig.72　SD515茶色土出土遺物実測図①（1/3）

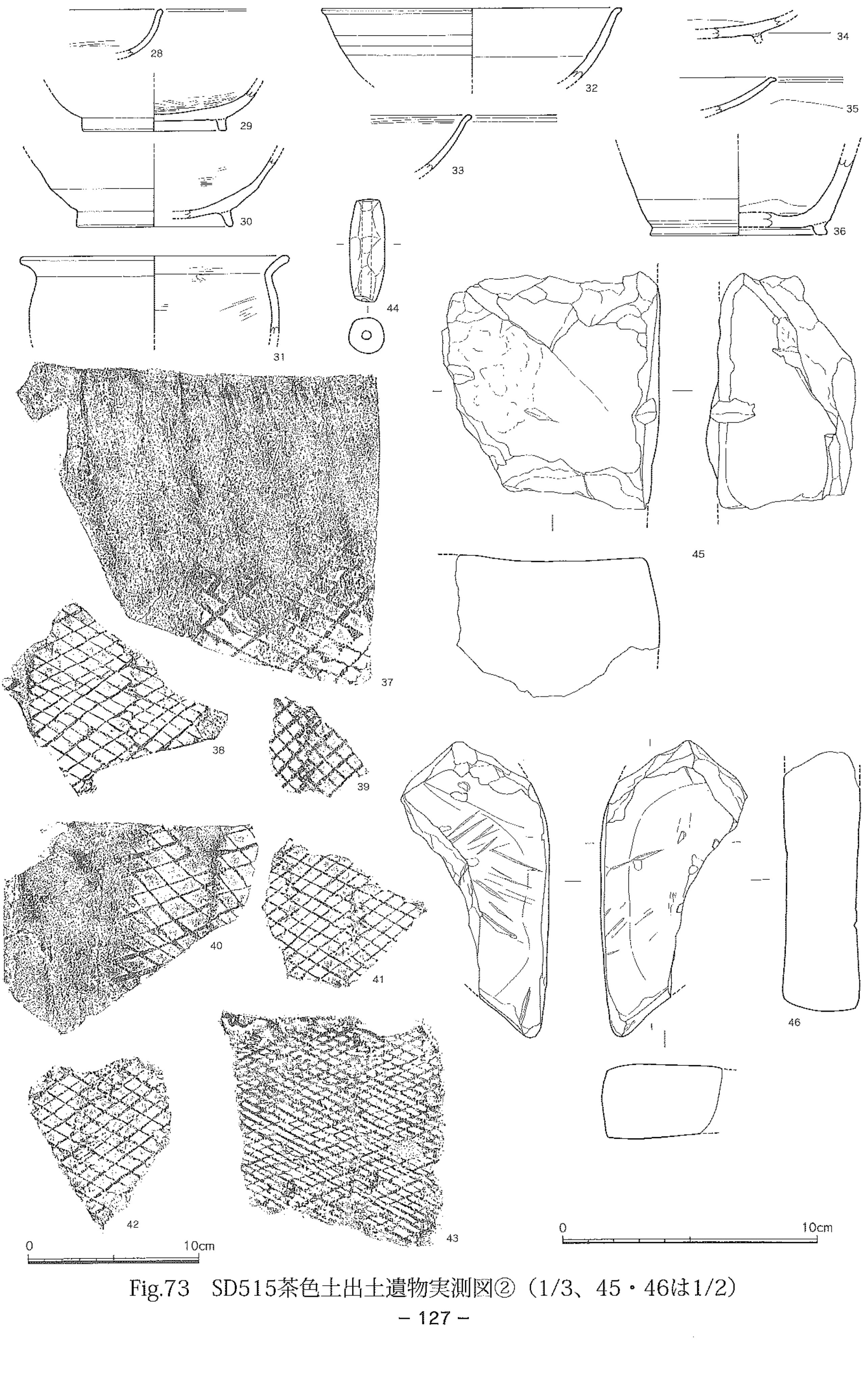


Fig.73　SD515茶色土出土遺物実測図②（1/3、45・46は1/2）

灰釉陶器

皿（37） 復元口径13.8cm。胎土は白灰色を呈し、釉は淡灰緑色で、回転ナデのあと施釉される。外面は薄く透明、内面はやや緑色が濃い。

椀（38・39） 38は復元高台径9.3cm。胎土は白灰色を呈し、釉は淡灰緑色で、内面は回転ナデのあと部分的に施釉される。外面も部分的に施釉される。H-72×虎渓山１窯様式。39は復元高台径7.0cm。釉は淡緑灰色で内外面とも中位まで薄く施釉する。内面底部は平滑である。

越州窯系青磁

椀（40） 底部は削り出しで、復元高台径5.6cm。高台の形状が2段になっている。釉は淡い緑褐色で、高台畳付以外全面施釉。I類。

瓦類

軒平瓦（41） 均整唐草文で、瓦当の上下はヘラケズリで、凹面はヘラケズリの後ナデ。凸面は平行叩きで、一部にぼんやり赤色顔料が残る。凹面は布目痕。

丸瓦（42・43） 格子叩きで、43は「平井」の文字瓦。

平瓦（44 ～ 48） 44 ～ 47は斜格子叩き。46はやや小さい斜格子叩き。48は平行叩き。

石製品

砥石（49） 平らな砂岩製で、使用面は3面である。残存長13.5×9.1cm、厚さ2.7cm。

礎石（50） 検出時は穴を下にした状態で出土した。大きさは55.0×45.0cm、厚さ34.0cm。中央に径23.5 ～ 24.5cm、深さ15cmの穴が彫られている。表面は平坦であるが人為的なものかの判別は難しい。この石の用途は難しいが、軸受け部分の礎石である可能性が考えられる。

236-1SD515茶色土出土遺物（Fig.72・73）

須恵器

蓋b（1） 外面頂部は回転ヘラケズリ、内面回転ナデのあと一部不定方向のナデ、その他は回転ナデ。ツマミ径3.2cmで、端部に段が巡る。色調は淡灰白色を呈する。

坏c（2 ～ 6） 焼成は良好で、灰色または青灰色を呈する。内面底部は不定方向のナデ。2は外面底部ヘラ切り未調整、その他は回転ナデ。5は体部外面ヘラケズリ、僅かに自然釉がみられる。6は内面に漆のような付着物がある。

皿a（7） 復元口径16.6cmで、底部回転ヘラ切り未調整。体部外面に「井」の墨書が書かれている。色調は淡灰色を呈する。

壺（8 ～ 11） 8は複合口縁部分で、復元口径11.0cm。屈曲部は明瞭に稜を作り出している。内外面とも回転ナデで赤褐色や紫灰色を呈する。9は復元底径9.4cm、内面回転ナデ、外面下端が回転ヘラケズリ。底部外面ヘラ切り後ナデ。10は復元底径14.6cm、内面粗いナデ、外面は叩きの後ナデ、体部下半は回転ヘラケズリ。11は先端を欠損するが、外開きの低い高台を貼付する。内面回転ナデ、外面叩きのあとナデ。外面下半は回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切りのあと粗いナデ。復元高台径約11.8cm。

盤（12） 復元口径40.8cm、器高7.3cm、復元底径36.8cm。外面下端は回転ヘラケズリ、底部外面は不定方向のナデ、その他内外面回転ナデ。口縁部は大きく外反させる。

甕（13） 復元口径21.4cm。頸部外面は叩きの後回転ナデ、体部外面は格子叩き、同心円当て具痕を残す。

土師器

坏a（14 ～ 21） 復元口径12.4 ～ 13.0cm。底部回転ヘラ切り。14・17・18は内面底部が不定方向のナデ。15・17は内面底部回転ナデで、一部不定方向のナデ。16は回転ナデ。色調は全体的に黄白色だが、14

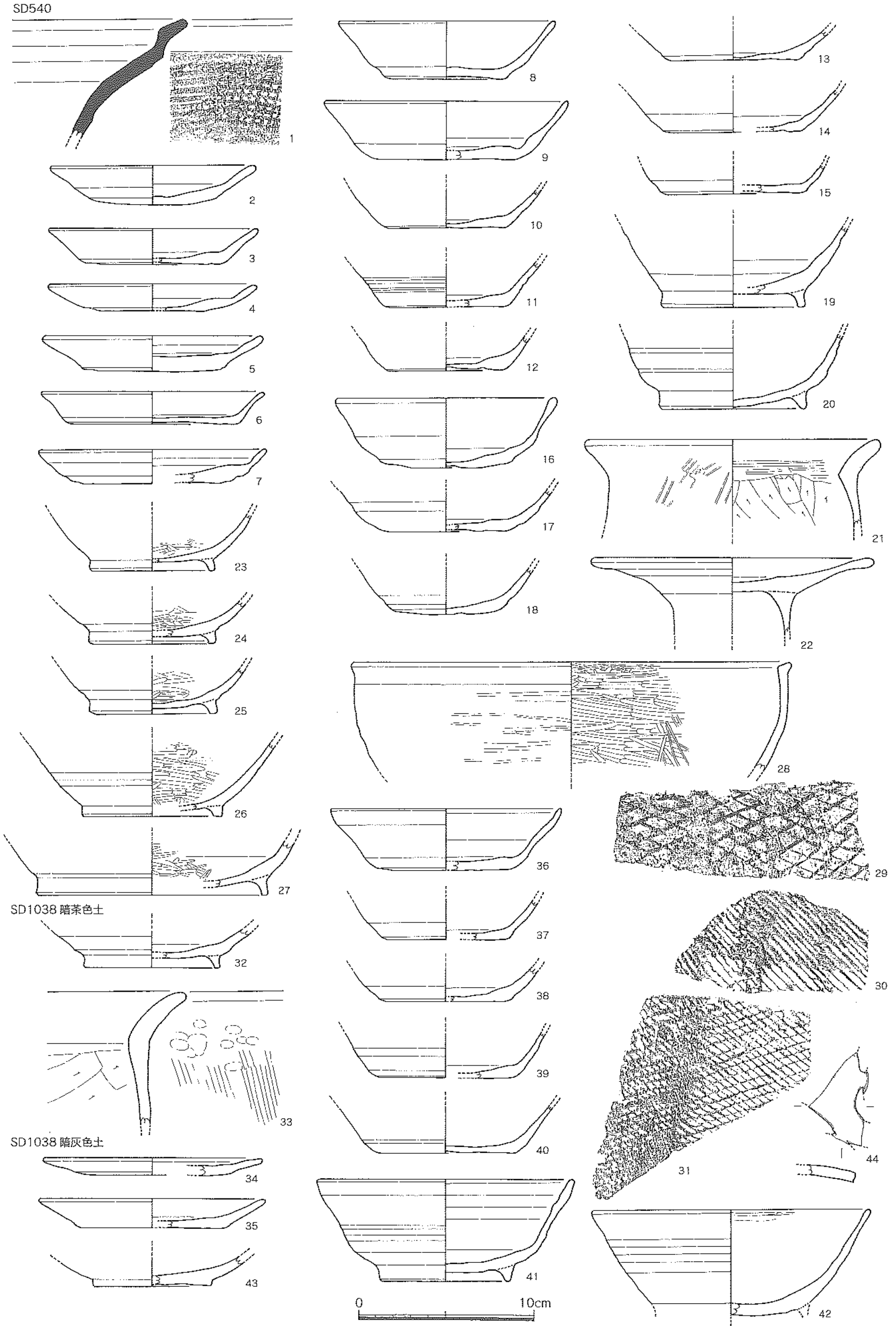


Fig.74　SD540・1038出土遺物実測図（1/3）

が橙褐色、15・17・20が若干黄色味や橙色を帯びている。18は底部外面に墨書があるが全体的に薄く、途切れている部分もあり、その内容は不明である。

皿a（22・23） 復元口径12.0cm。22は外面底部回転ヘラケズリ後ナデ。23は外面底部回転ヘラ切り、底部内面は不定方向のナデ。

椀c（24～27） 復元高台径5.5～7.4cm。色調は黄白色で14のみ橙色である。25は細く高い高台を貼付する。26はやや歪んでいる。

黒色土器A類

椀（28） 磨滅するが底部内面付近にミガキが残る。

椀c（29） 高台径8.4cm。底部外面には板状圧痕が残る。内面ミガキc。外面の色調は橙黄色を呈する。

黒色土器B類

椀c（30） 復元高台径9.2cm。内面には僅かにミガキcが残り、外面は茶灰色や暗橙色を呈する。黒色化が甘い。

甕（31） 復元口径15.8cm。磨滅しているが、僅かに内面にミガキが確認できる。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を含み、焼成はやや不良で、外面橙褐色を呈する。

緑釉陶器

椀（32・33） 32は復元口径17.6cm。胎土は淡灰色で、土師質である。釉は淡い黄緑色で、内外面に施釉するが、かなり剥げ落ちている。また、内外面とも黄色の斑点がある。33は全面に淡灰緑色の釉を薄く掛ける。須恵質。

灰釉陶器

皿（34） 内面に薄く淡灰緑色釉が薄く掛かる。外面は露胎で、回転ナデ。

椀（35） 口縁端部を外に屈曲させる。胎土は白灰色で精製され、釉は淡緑色で内面と外面上半部に薄く施釉する。

壺（36） 復元高台径10.4cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み淡灰色を呈する。釉は緑灰色で、外面は高台外側まで施釉し、外面底部は露胎。内面は回転ナデのあと施釉、内面底部は露胎。

瓦類

平瓦（37～43） 斜格子叩きの平瓦で、37は格子が不規則に組み合わさり、格子の中に一部三角形を作っている。43は細かい斜格子叩き。

土製品

土錘（44） 長さ5.95cm、径2.05cm、孔径0.54cm。胎土は淡黄褐色～淡黒灰色を呈する。

石製品

砥石（45・46） 45は2面で使用が認められる。46は4面で使用が認められ、表裏面には条痕が残る。

236-1SD520出土遺物（Fig.68）

須恵器

獣脚（36） 胎土は0.5cm以下の白色砂粒や黒色砂粒を多く含む。色調は灰色を呈する。外面ナデで、接地面は使用により擦れている。

盤（37） 胎土は0.5cm以下の白色砂粒や橙色粒を多く含む。口縁部および外面は強いヨコナデ。焼成は良好で、色調は淡黄灰色を呈する。

土師器

坏a（38～40） 復元高台径7.0～7.6cm。色調は黄白色や暗黄白色で、全体的に磨滅している。40は底部ヘラ切り。

緑釉陶器

皿（41）　高台削り出しで、復元高台径7.6cm。外面底部に糸切り痕のようなものが僅かに確認できる。内面には沈線が巡り、やや平滑である。釉は緑灰色で全面施釉。須恵質。

236-1SD520茶色土出土遺物（Fig.68）

須恵器

盤（42）　胎土は0.3cm以下の白色砂粒を含み、淡い青灰色を呈する。外面強いヨコナデ、内面ナデ。

黒色土器B類

皿（43）　復元口径16.4cm。内外面ミガキcが残る。

越州窯系青磁

坏（44）　II類。復元口径14.1cm、器高3.6cm、底径7.0cm。外面底部ヘラケズリ、内面には目跡が残る。胎土は黒色粒や白色粒を多く含む。釉は灰白色～こげ茶色で、剥離が著しい。

土製品

権（45）　長さ5.0cm、幅3.9cm、厚さ1.8cmの台形をなす。須恵器甕を転用したとみられ、叩き痕が残る。上部に径0.8cmの円孔を穿つ。

236-1SD540出土遺物（Fig.74）

須恵器

甕（1）　二重口縁で外面叩き、内面回転ナデ。

土師器

皿a（2～7）　復元口径11.8～13.0cm。色調は全体的に黄白色を呈する。内面底部ナデ、底部外面は回転ヘラ切り。2は底部ヘラ切り後ナデ。4は底部外面ナデ。色調は全体的に黄白色を呈する。

坏a（8～18）　復元底径6.2～8.4cm。底部回転ヘラケズリ。色調は8が暗茶褐色、16は一部が橙色や黄灰色を呈する以外は、全体的に黄白色を呈する。8～15は底部が平坦で、16～18は底部が若干丸味を持っている。8と9は復元口径12.4cmと14.0cm。

椀c（19・20）　復元高台径8.2cmと8.4cm。19は色調が暗茶褐色。20は外面下半が雑なナデ。内面不定方向ナデで、黄白色を呈する。

甕（21）　復元口径17.0cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や雲母を多く含み、色調は淡橙色を呈する。外面タテハケ、内面は上方向のヘラケズリ、口縁部内面ヨコハケ。

高坏（22）　復元口径16.2cm。脚部径は6.6cm。全体的に磨滅する。

黒色土器A類

椀c（23～27）　復元高台径7.2～13.2cm。内面がミガキcで、外面は回転ナデ。色調は黄茶白色を呈する。

鉢（28）　復元口径25.2cm。内面はミガキcで光沢がある。外面は回転ナデのあと一部にミガキcを施す。

瓦類

丸瓦（29・30）　29は斜格子叩き、30は平行叩き。

平瓦（31）　小さい斜格子叩き。

236-1SD1038暗茶色土出土遺物（Fig.74）

土師器

椀c（32）　復元高台径7.8cm。

甕（33）　胎土は0.25cm以下の白色砂粒を多く含み、橙色や赤茶色を呈する。口縁部外面は指頭圧痕が多くみられ、内面ヨコハケ、体部外面タテハケ、内面ヘラケズリ。

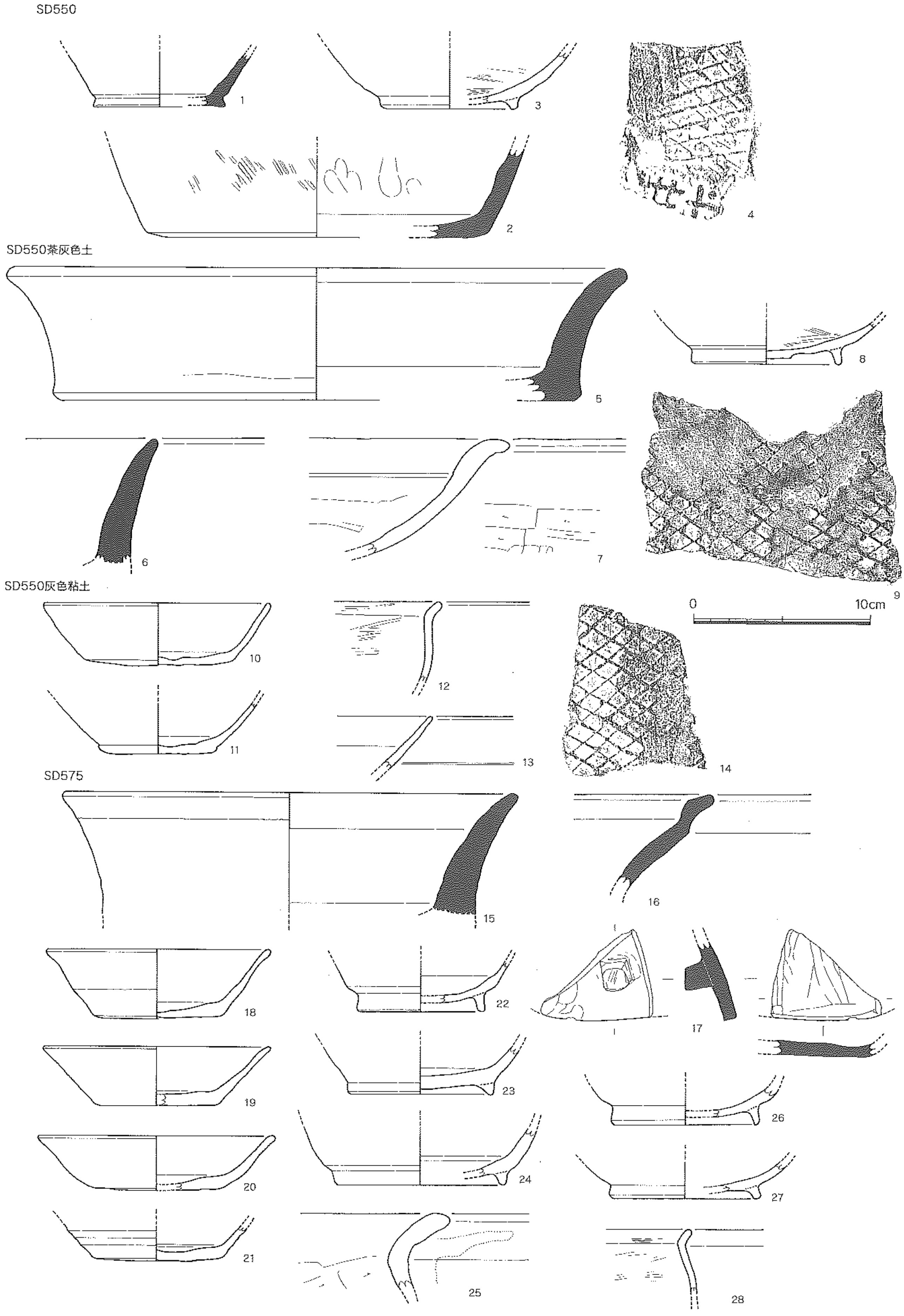


Fig.75　SD550・575出土遺物実測図（1/3）

236-1SD1038暗灰色土出土遺物（Fig.74）

土師器

皿a（34・35） 復元口径12.6cmと13.0cm。34は全体が磨滅。35は外面底部ナデ調整。

坏a（36～40） 全体的に磨滅。底部回転ヘラ切り。外面ヨコナデ。復元底径7.4～8.0cm。36が淡橙灰色や灰茶色のほかは全体として黄白色を呈する。

椀c（41） 復元口径14.8cm。底部内外面ともナデ。その他はヨコナデ。

黒色土器A類

椀c（42） 復元口径14.8cm。外面下半回転ヘラケズリ、内面はミガキだが殆ど磨滅する。色調は淡橙灰色を呈する。

緑釉陶器

皿（43） 復元底径6.8cm。釉は淡い黄緑色で、外面を中心に剥落が著しい。土師質。

越州窯系青磁

香炉（44） 小破片で、香炉の蓋部分と推測され、この破片でも開口部分が4ヶ所確認できる。胎土は0.1cm以下の白色砂粒や黒色粒を僅かに含むが精製されている。色調は淡灰白色を呈する。釉は灰緑色でやや粗い貫入が入る。I類。

236-1SD550出土遺物（Fig.75）

須恵器

壺（1・2） 1は復元底部径7.5cm。底部外面は糸切りで、その他は回転ナデ。篠窯か。2は復元底径19.2cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を含み、灰白色を呈し、焼成は不良で摩滅が目立つ。外面下端はヘラケズリとみられ、その上は叩き、内面は指頭圧のあとヨコナデ。

黒色土器A類

椀c（3） 復元高台径7.8cm。摩滅し内面ミガキcが僅かに確認できる。

瓦類

平瓦（4） 斜格子叩きで「平井」銘がある。

236-1SD550茶灰色土出土遺物（Fig.75）

須恵器

盤（5・6） 5は復元口径35.0cm、器高7.5cm、復元高台径28.9cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒などを含み、焼成はやや不良で、灰色～白褐色を呈する。外面下端が強いヨコナデで、その下がヘラケズリで面取りしている。底部はナデでその他はヨコナデである。6は0.7cm前後の白色砂粒や黒色砂粒を含むが、概ね0.3cm以下の砂粒を含み、焼成はやや不良で白灰色～淡黒灰色を呈する。全面ヨコナデで、下端欠損部には底部との粘土接合面が確認できる。

土師器

鉢（7） 内面に浅い沈線が巡る。胎土は0.5cm以下の砂粒を含み、橙褐色や淡灰褐色を呈する。磨滅が目立つが外面下半はヘラケズリでナデ調整も行っているようにみえる。内面下半はヘラケズリのあと不定方向のナデか。

黒色土器A類

椀c（8） 高台径8.5cm。内面にミガキc、外面は磨滅も目立つが底部に板状圧痕が残る。外面の色調は橙灰色を呈する。

瓦類

丸瓦（9） やや凹凸が浅い格子叩き。

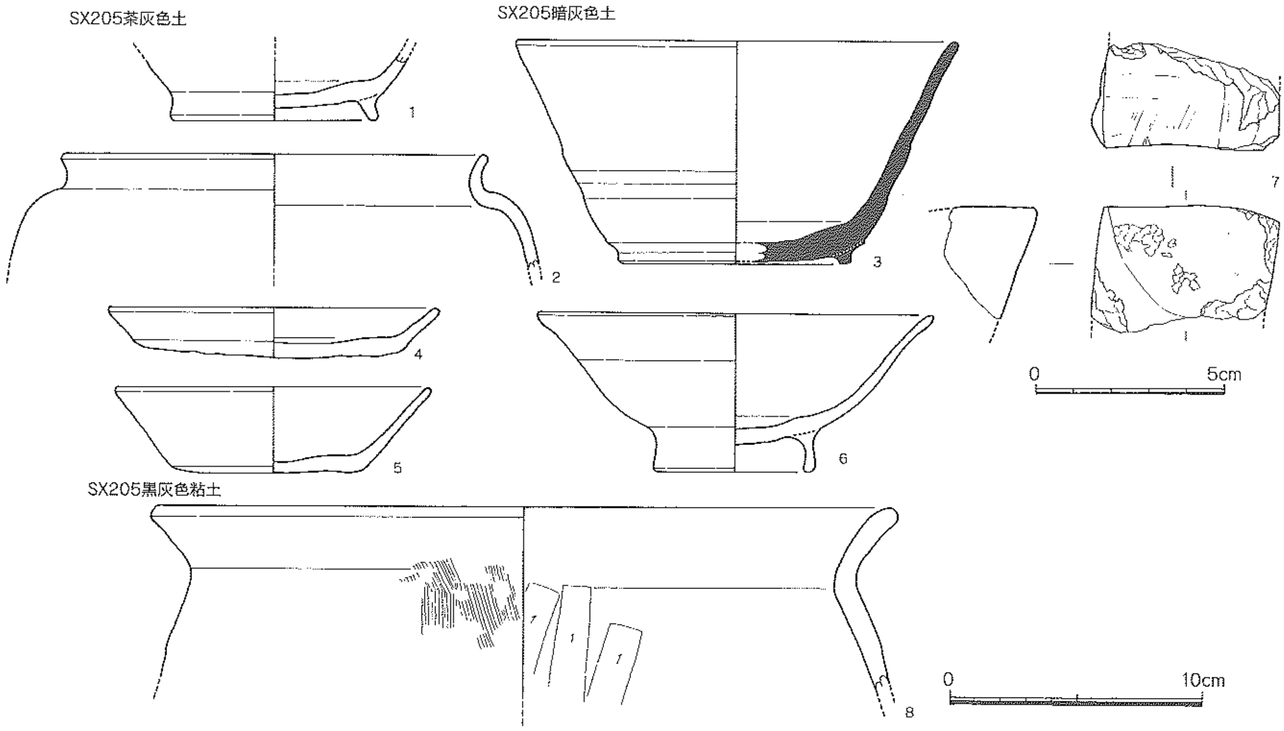


Fig.76　SE205出土遺物実測図（1/3、7は1/2）

236-1SD550灰色粘土出土遺物（Fig.75）

土師器

坏a（10・11）　底部回転ヘラ切り。色調は10が暗灰茶色、11は黄白色を呈する。

黒色土器A類

小甕（12）　内面ミガキc、外面回転ナデ。

緑釉陶器

椀（13）　胎土は精製され、須恵質。釉は淡緑色で光沢があり、ミガキの後全面施釉。

瓦類

丸瓦（14）　凸面は斜格子叩き。

236-1SD575出土遺物（Fig.75）

須恵器

盤（15）　復元口径25.6cm、粘土接合部で欠損する。胎土は0.6cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、淡黒灰色～淡灰色を呈する。内外面ヨコナデ。

甕（16）　二重口縁で口縁部および内面は回転ナデ、外面は叩きのあと回転ナデ。

硯（17）　内面はナデ調整で、部分的に墨が付着する。脚部は貼付後ケズリ調整される。

土師器

坏a（18～21）　復元口径12.7～13.4cm。全体的に磨滅が目立つ。色調は全体的に黄白色だが、18・19はやや黄灰色を呈する。

椀c（22～24）　復元高台径7.2～9.7cm。全体的に磨滅が目立つ。色調は全体的に黄白色を呈する。

甕（25）　胎土は0.5cm以下の砂粒を含み、灰褐色～橙褐色を呈する。体部内面はヘラケズリ、外面には煤が付着する。

黒色土器A類

椀c（26・27）　26は復元高台径8.4cm。全面磨滅する。27は復元高台径8.6cm。全面磨滅するが、内

面はミガキｃが確認できる。

小甕（28） 磨滅が目立つが、内面ミガキc、外面回転ナデが残る。

井戸

236-1SE205茶灰色土出土遺物（Fig.76）

土師器

椀c（1） 高台径8.3cm。体部内外面ヨコナデ。

越州窯系青磁

壷（2） 復元口径17.0cm。胎土は明灰色で精製されている。釉は灰緑色で光沢があり、内外面に施釉する。

236-1SE205暗灰色土出土遺物（Fig.76）

須恵器

大椀c(3) 復元口径17.6cm。底部端に低い高台を貼付する。胎土は白色砂粒を多く含み、焼成は良好で、暗灰青色を呈する。内面底部はナデ、その他は回転ナデ。

土師器

皿a（4） 復元口径13.1cm。底部回転ヘラ切り。色調は黄白色を呈する。

坏a（5） 復元口径12.6cm。底部回転ヘラ切り。内面磨滅、外面ヨコナデ。色調は淡橙黄色を呈する。

椀c（6） 復元口径15.8cm。若干高い高台を貼付する。全体的に磨滅する。

石製品

砥石（7） 大きさは3.3×5.0×2.4cm。3面が研磨されている。

236-1SE205黒灰色粘土出土遺物（Fig.76）

土師器

甕（8） 復元口径29.2cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、橙白色を呈する。口縁部はヨコナデ、体部内面はヘラケズリで煤が付着する。外面はタテハケで煤が付着する。

236-1SE510茶灰色土出土遺物（Fig.77）

須恵器

盤（1・2） 1は復元口径38.8cm、器高10.7cm、復元底径27.4cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、暗灰色～淡灰色を呈する。底部外面ヘラケズリ、口縁部内外面と外面はヨコナデ、内面下半は強いナデ。2は復元口径32.0cm、胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、暗灰色～灰褐色を呈する。内外面ヨコナデ。下部は粘土接合面で欠落する。

壷（3） 復元口径17.2cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、青灰色や暗灰色を呈する。頸部外面は稜線が明瞭に付くほどの強いヨコナデで、内面はナデ。体部外面は叩きで、内面は同心円の当て具痕を残す。

土師器

坏a（4） 復元底径9.0cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。色調は暗黄灰色を呈する。

甕（5） 口径28.4cm。胎土は0.5cm以下の砂粒を多く含み、淡い橙灰色～黒灰色を呈する。口縁部ヨコナデ、体部外面は粗いタテハケ、内面はヨコハケのあとヘラケズリ。

瓦類

丸瓦（6） 凸面に斜格子の叩き。

平瓦（7～10） 7は長方形の格子が不規則に組み合わさり、格子の中に一部三角形を作っている。8は正格子。9は細かい正格子で、欠損しているため方形二重枠内に「大国」の一部である「国」が残る。

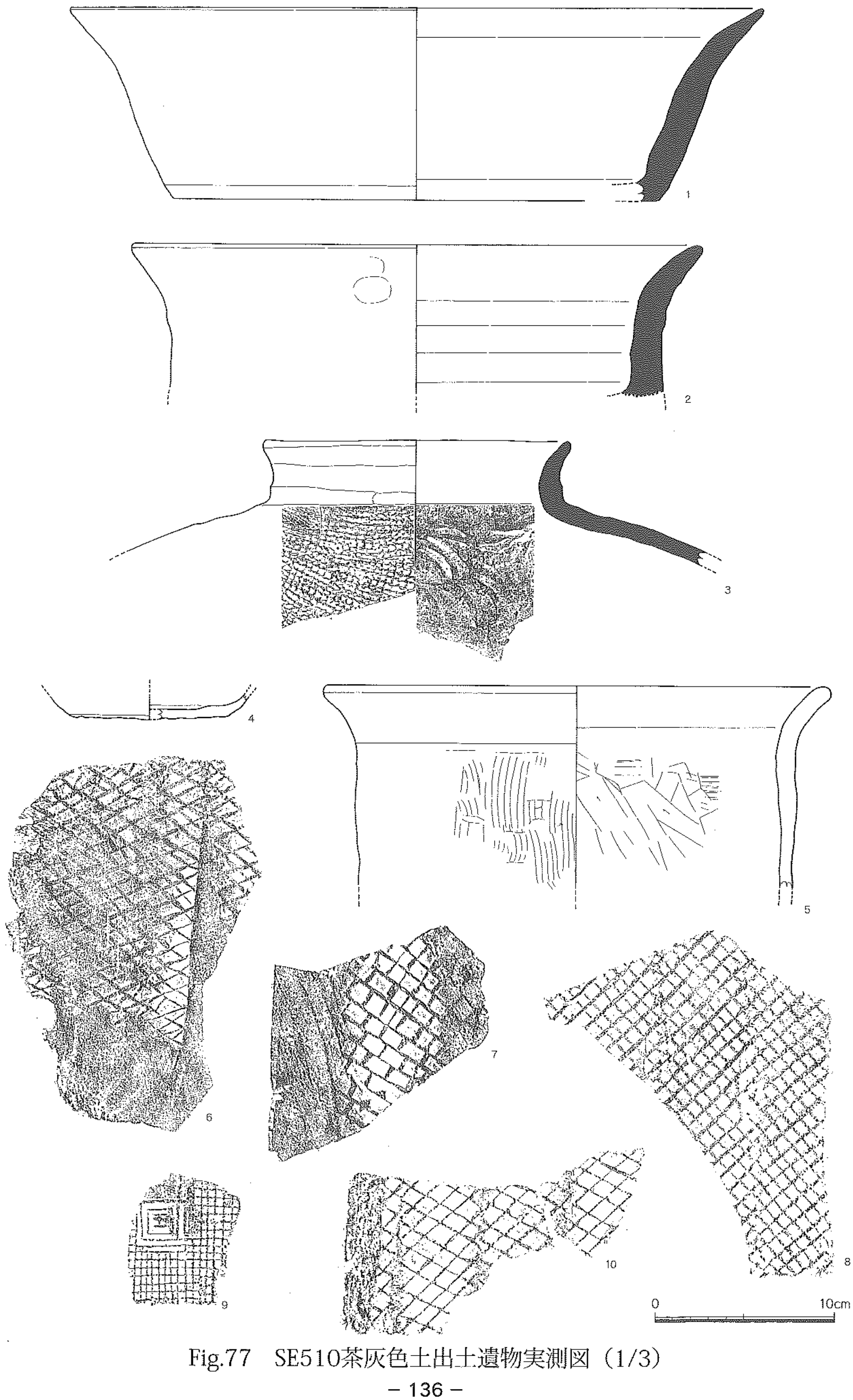


Fig.77　SE510茶灰色土出土遺物実測図（1/3）

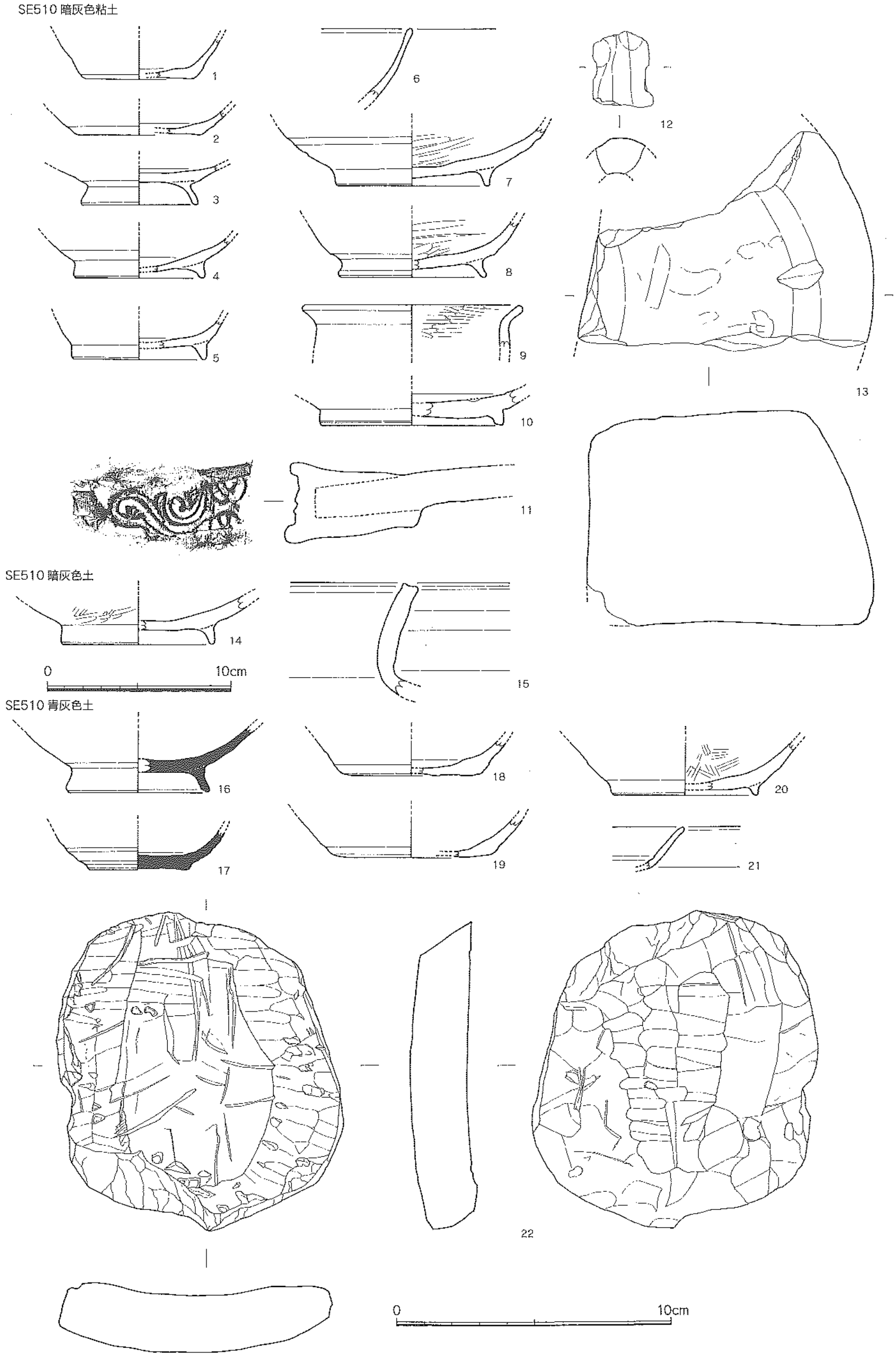


Fig.78　SE510暗灰色粘土・暗灰色土・青灰色土出土遺物実測図（1/3、13・22は1/2）

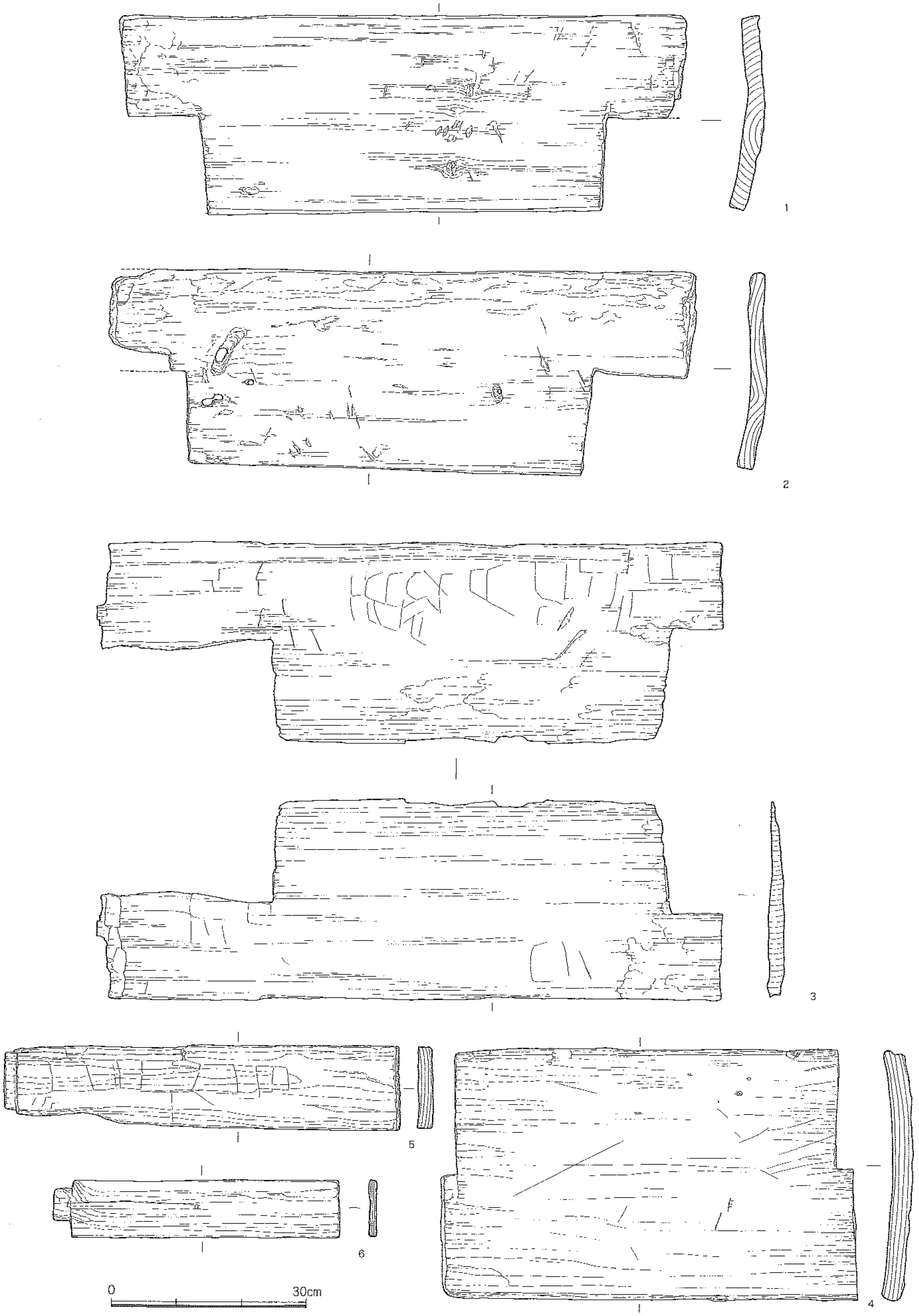


Fig.79　SE510出土木製品実測図①（1/8）

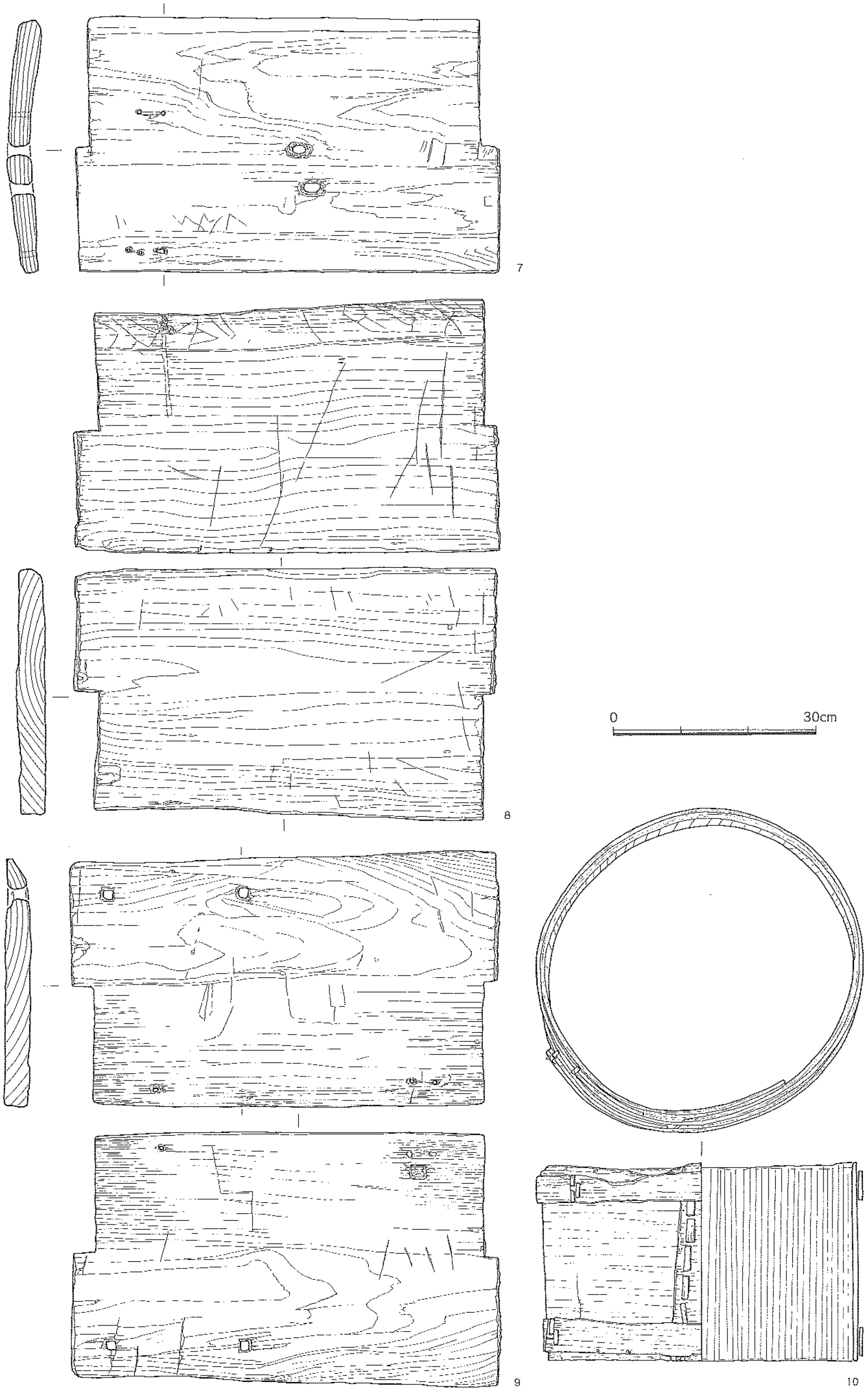


Fig.80　SE510出土木製品実測図②（1/8）

10は斜格子。

236-1SE510暗灰色粘土出土遺物（Fig.78）

土師器

坏a（1・2） 復元口径6.4cmと7.0cm。色調は黄白色を呈する。

小皿c（3） 復元高台径6.4cm。内面底部ナデ。色調は淡橙色を呈する。

椀c（4・5） 復元高台径7.2cmと7.4cm。内面は回転ナデとナデ。色調は黄白色を呈する。

椀（6） 内外面回転ナデ調整。

黒色土器A類

椀c（7・8） 7は外面が回転ヘラケズリ、内面ミガキc。外面の色調は暗茶灰色を呈する。8は外面回転ナデ、内面ミガキcを施す。外面の色調は暗橙灰色を呈する。

小甕（9） 復元口径12.0cm、内面ミガキc、外面回転ナデ。

緑釉陶器

椀×皿（10） 高台削り出しで、復元高台10.0cm。底部内外面に浅い沈線が巡る。胎土は暗灰色で須恵質。釉は淡緑黄色で全面に施釉し、白黄緑色の斑点が点在する。

瓦類

軒平瓦（11） 均整唐草文の端部だが、欠落が目立つ。顎部は内外面ともヨコナデ。凸面は格子叩きである。

土製品

鞴羽口（12） 胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含む。外面ナデで、淡黄灰色～暗灰色を呈する。

石製品

砥石（13） 欠損し全形が掴めないが、断面台形を成し、側面は面取り風の研磨やケズリが行われ、表裏面は研磨されている。上面には工具痕もみられ、一部焼けている。現状では砥石として報告するが他の用途も考えられる。

236-1SE510暗灰色土出土遺物（Fig.78）

黒色土器B類

椀c（14） 内外面とも磨滅するが、外面はミガキcが確認できる。復元高台径8.4cm。

灰釉陶器

壺（15） 頸部で、口縁端部内面に浅い沈線が巡る。胎土は精製され灰色を呈する。回転ナデのあと緑灰色の釉を薄く掛ける。

236-1SE510青灰色土出土遺物（Fig.78）

須恵器

椀c（16） 高い高台を貼付する。復元高台径7.8cm。内外面回転ナデで、内面は平滑になり、一部墨のような痕跡もみられ、転用硯と推測される。

椀（17） 底部外面が回転糸切りで、底径6.0cm。内外面とも回転ナデ。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や橙色粒を含む。焼成は良好で淡橙色を呈する。篠窯産。

土師器

坏a（18・19） 2点とも内面に漆が付着する。体部の色調は黄白色を呈する。19は外面底部に一部にも漆が付着する。

黒色土器B類

椀c（20） 外面は磨滅するが、内面はミガキcが確認できる。外面底部はナデ調整。

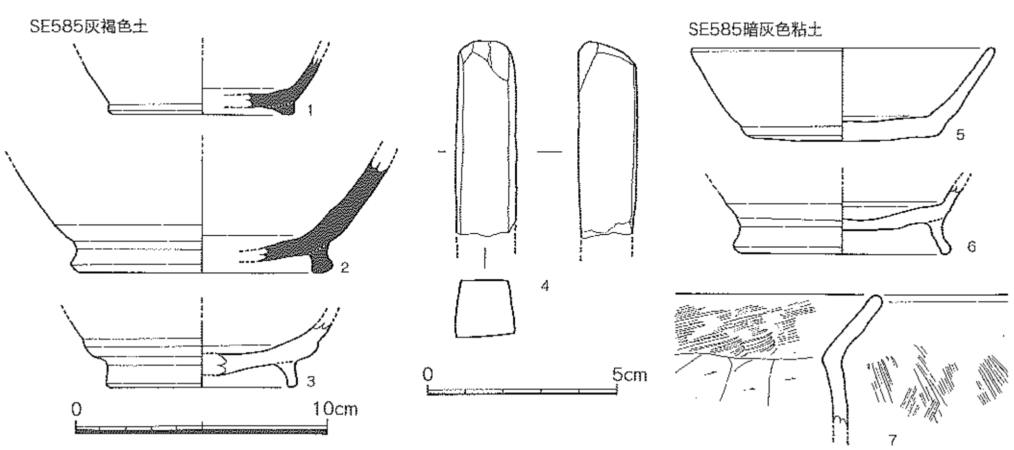


Fig.81　SE585出土遺物実測図（1/3、4は1/2）

緑釉陶器

皿（21）　釉は淡黄緑色で光沢があり、内外面とも綺麗に施釉される。須恵質。

石製品

滑石加工品（22）　11.6×10.6cm、厚さ2.4cmの楕円形。若干丸みがあり、石鍋の体部の一部を利用したものと推測される。内外面とも細かいケズリを施している。用途については不明。

236-1SE510出土遺物（Fig.79・80）

木製品

井戸枠材（1～9）　1は縦30.5cm、横87.0cm、厚さ3.0cm。両小口は劣化が目立つ。一部窪みがあり炭化している。2は縦31.5cm、横90.1cm、厚さ2.5cm。表面には調査時の傷が多い。5ヶ所不定形な穴が貫通している。3は縦31.0cm、横95.7cm、厚さ2.5cm。両面ともぼんやりカンナ痕が残り、側面は粗く削っている。4は縦38.6cm、横63.9cm、厚さ3.0cm。上下両端は丸味を帯びている。5は長さ60.8cm、幅13.0cm、厚さ2.4cm。両面に僅かにカンナ痕残る。小口は途中まで刻みを入れ折っている。もう一方の小口は断面凸型に加工されている。6は長さ44.05cm、幅8.8cm、厚さ1.2cm。片側が凸状に加工されている。この部分は両側が削られ薄くなっている。7は縦38.0cm、横63.1cm、厚さ3.7cm。中央付近に2.5×1.5cmほどの楕円形の穴が2個、その他1cm前後の穴が5ヶ所穿たれている。表面加工の残りは非常に悪い。8は縦37.6cm、横63.4cm、厚さ4.4cm。端に0.7cm前後の穴が3ヶ所あり、1つは貫通している。凸の下辺は断面が丸味を帯びる。9は縦38.0cm、横69.3cm、厚さ4.0cm。2cm四方の方形孔が2ヶ所あり、1cm程の円孔が3ヶ所、方形状の窪みが1ヶ所彫られている。長辺の側面はケズリである。

各材にみられた孔は井戸検出時では機能を持っておらず、これらが転用材であったと推測される。

曲物（10）　径は48.0～48.8cm、高さ29.5cm。桜皮の留め具は幅0.9～1.3cmである。上端は凸凹になっていて、設置時に上面からの落下物によるものと推測される。内面には細かい刻みが施されている。タガは上下2段あり、上が幅4.3cm、下が幅5.0cmである。タガの厚さは0.4～0.5cmでタガは木釘で留められているが、曲物そのものまで貫通していない。保存状態は極めて良好で、近代に使われていた民俗資料のような雰囲気を保っている。

236-1SE585灰褐色土出土遺物（Fig.81）

須恵器

坏c（1）　低い高台を貼付する。外面底部ナデで板状圧痕残る。その他は回転ナデ。

壺（2）　復元高台径10.4cm。外面は回転ヘラケズリ、内面ヨコナデ、外面底部回転ヘラ切り。

土師器

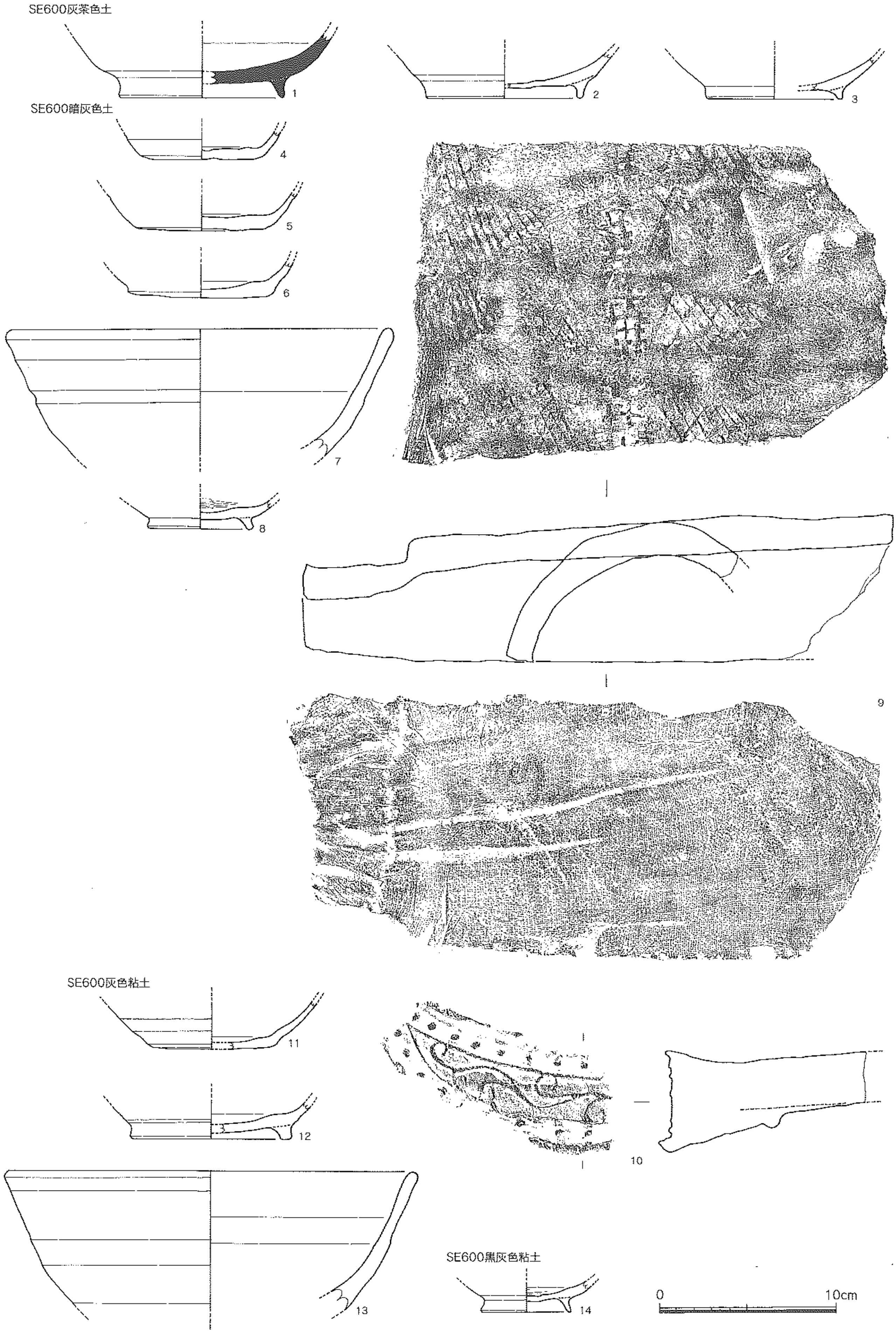


Fig.82　SE600出土遺物実測図（1/3）

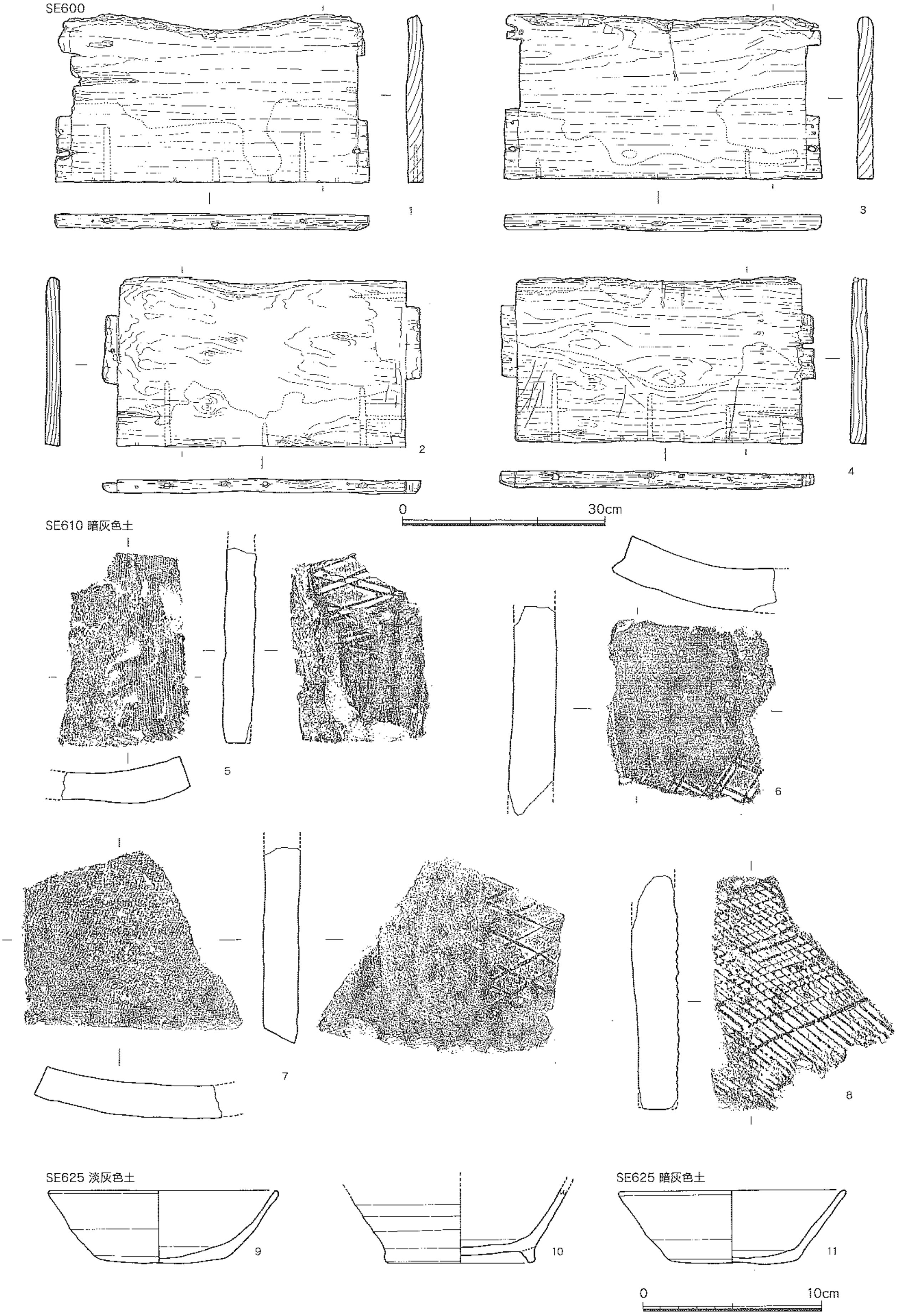


Fig.83　SE600出土木製品・610・625出土遺物実測図（1/3・1～4は1/8）

椀c（3）　復元高台径7.6cm。磨滅目立つ。色調は黄褐色を呈する。

石製品

砥石（4）　大きさは5.2×1.6×1.5cmの方形柱で、4面が研磨されている。

236-1SE585暗灰色粘土出土遺物（Fig.81）

土師器

坏a（5）　口径12.0cm。底部外面回転ヘラ切り。内面不定方向のナデ。色調は黄褐色を呈する。

椀c（6）　やや高い高台を底部端に貼付する。底部外面は回転ヘラ切り後回転ナデ。高台内面に淡褐色の付着物がみられる。色調は黄褐色を呈する。

甕(7)　胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、淡褐色～黒褐色を呈する。体部内面ヘラケズリ、その他はハケ。

236-1SE600灰茶色土出土遺物（Fig.82）

須恵器

椀c（1）　三角形の高い高台を貼付する。復元高台径9.4cm。外面底部ナデ、内外面回転ナデ、内面底部は使用により平滑である。

黒色土器A類

椀c（2・3）　復元高台径8.8cmと7.8cm。全体磨滅し調整不明。

236-1SE600暗灰色土出土遺物（Fig.82）

土師器

坏a（4～6）　復元底径7.0～8.3cm。底部回転ヘラ切り。色調は黄白灰色や明灰色などを呈する。

鉢（7）　復元口径22.0cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、灰褐色を呈する。内面には炭化物が付着している。内外面とも回転ナデ。

黒色土器A類

椀c（8）　内面ミガキc、外面ヨコナデ。復元高台径6.0cm。

瓦類

丸瓦（9）　凸面は細長の斜格子叩きとナデ調整で、それに混じって「平井」銘も中央付近に見えるが重なりあって、明瞭ではない。

軒平瓦（10）　唐草文で外縁は全て珠文である。顎部はナデ。凹面は布目痕があり、凸面には格子叩きを施す。

236-1SE600灰色粘土出土遺物（Fig.82）

土師器

坏a（11）　底部回転ヘラ切り、底部内面ナデ、その他は回転ナデ。色調は淡白灰色を呈する。

椀c（12）　復元高台径9.2cm。底部回転ヘラ切り。色調は淡橙色を呈する。

鉢（13）　復元口径23.4cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒や黒色粒を多く含み、白灰色～淡茶灰色を呈する。

236-1SE600黒灰色粘土出土遺物（Fig.82）

椀c（14）　高台径5.1cm。底部外面がナデ、その他内は外面回転ナデ調整。

236-1SE600出土遺物（Fig.83）

木製品

井戸枠材（1～4）　4枚は組み合って木枠をなし、それぞれを木釘で留めていたとみられ、各材にその痕跡を認めることができる。また、上面は使用時の落下物等により劣化している。内面の下半は表面が黒色を呈している。1は上下25.0cm、幅46.8cm、厚さ2.4cm。小口は左右とも凹型で、小口面に木釘

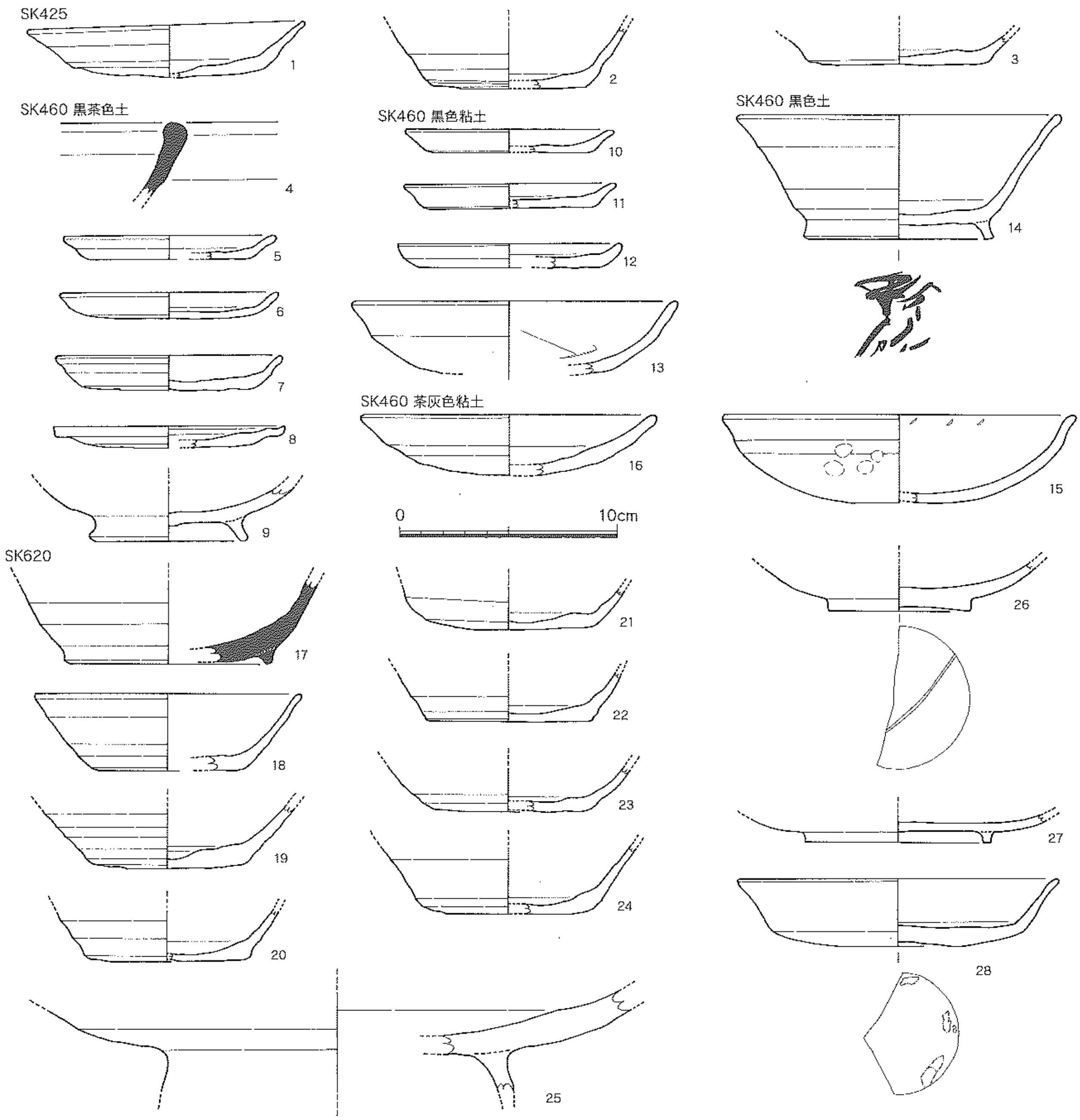


Fig.84　SK425・460・620出土遺物実測図（1/3）

穴が穿たれている。下辺には径1cm前後、深さ3.5～8.5cmの穴が3ヶ所穿たれ、その間に1個づつ4ヶ所に木釘が打ち込まれている。2は上下25.3cm、幅46.6cm、厚さ2.3cm。小口は左右とも凸型で、小口には深さ8cmほどの穴や木釘が穿たれている。下辺には径1cm前後、深さ1.05～9.6cmの穴が4ヶ所穿たれ、木釘が2ヶ所打ち込まれている。穴のひとつは小口に穿たれた穴と繋がっている。3は上下24.5cm、幅47.35cm、厚さ2.4cm。小口は左右とも凹型で、小口上部に穴が穿たれていた痕跡を残すが腐食している。下辺には径0.5cm前後、深さ3～4.3cmの穴や木釘が合わせて5ヶ所穿たれている。裏面には炭化した窪みがある。4は上下24.9m、幅46.7cm、厚さ2.3cm。小口は左右とも凸型で、その凸部に木釘穴が2ヶ所づつ穿たれている。下辺には径1cm前後、深さ1.5～10cmの穴が4ヶ所穿たれ、その間に5ヶ所木釘が打ち込まれている。穴のひとつは小口に穿たれた穴と繋がっている。

それぞれ下辺に穿たれた穴や木釘が、何の用途を持っていたかは不明である。

236-1SE610暗灰色土出土遺物（Fig.83）

瓦類

平瓦（5～8） 5･6は二重の斜格子叩き。7は斜格子叩き。8は細長斜格子と小さい斜格子を組み合わせた叩きである。

236-1SE625淡灰色土出土遺物（Fig.83）

土師器

坏a（9） 復元口径12.8cm。底部回転ヘラ切り。色調は黄白色を呈する。

椀c（10） 高台径8.25cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。台形の高台を貼付する。色調は黄白色を呈する。

236-1SE625暗灰色土出土遺物（Fig.83）

土師器

坏a(11) 口径12.65cm。底部回転ヘラ切り､内面底部ナデ。板状圧痕が残る。色調は黄白色を呈する。

土坑

236-1SK425出土遺物（Fig.84）

土師器

皿a（1） 復元口径12.3cm。底部外面は回転ヘラ切り、内面底部は不定方向のナデ。

坏a（2・3） 底径7.2cmと8.4cm。底部外面回転ヘラ切り、内面は2が回転ナデ、3が不定方向のナデ。色調は2が薄い橙白色を呈する。

236-1SK460黒茶色土出土遺物（Fig.84）

須恵器

鉢（4） 色調は淡灰色を呈する。内外面回転ナデで口縁部を丸く仕上げる。篠窯産。

土師器

小皿a（5～7） 復元口径9.8～10.4cm。外面底部回転ヘラ切り。

小皿a2（8） 復元口径10.6cm。外面底部回転ヘラ切り。口縁部内面に若干の窪みが巡る。

椀c（9） 全体的に磨滅するが、内面はミガキのような痕跡がみえる。

236-1SK460黒色粘土出土遺物（Fig.84）

土師器

小皿a（10～12） 復元口径9.6～10.2cm。外面底部回転ヘラ切り。内面底部ナデ。

丸底坏a（13） 外面下半は回転ヘラ切り後ナデ。内面ミガキbでコテ当て痕残る。

236-1SK460黒色土出土遺物（Fig.84）

土師器

椀c（14） 底部外面に墨書があり、字体の動きから幾つか文字が異なる方向から書かれているが、詳細な文字は不明である。

丸底坏a（15） 外面下半は回転ヘラ切り後ナデ、外面中位には指頭圧痕も残る。内面ミガキbでコテ当て痕残る。

236-1SK460茶灰色粘土出土遺物（Fig.84）

土師器

丸底坏a（16） 外面ヘラ切り、内面底部はナデでその他は回転ナデ、ミガキbは確認できないが、形状から丸底坏とみられる。

236-1SK545黒茶色土出土遺物（Fig.85）

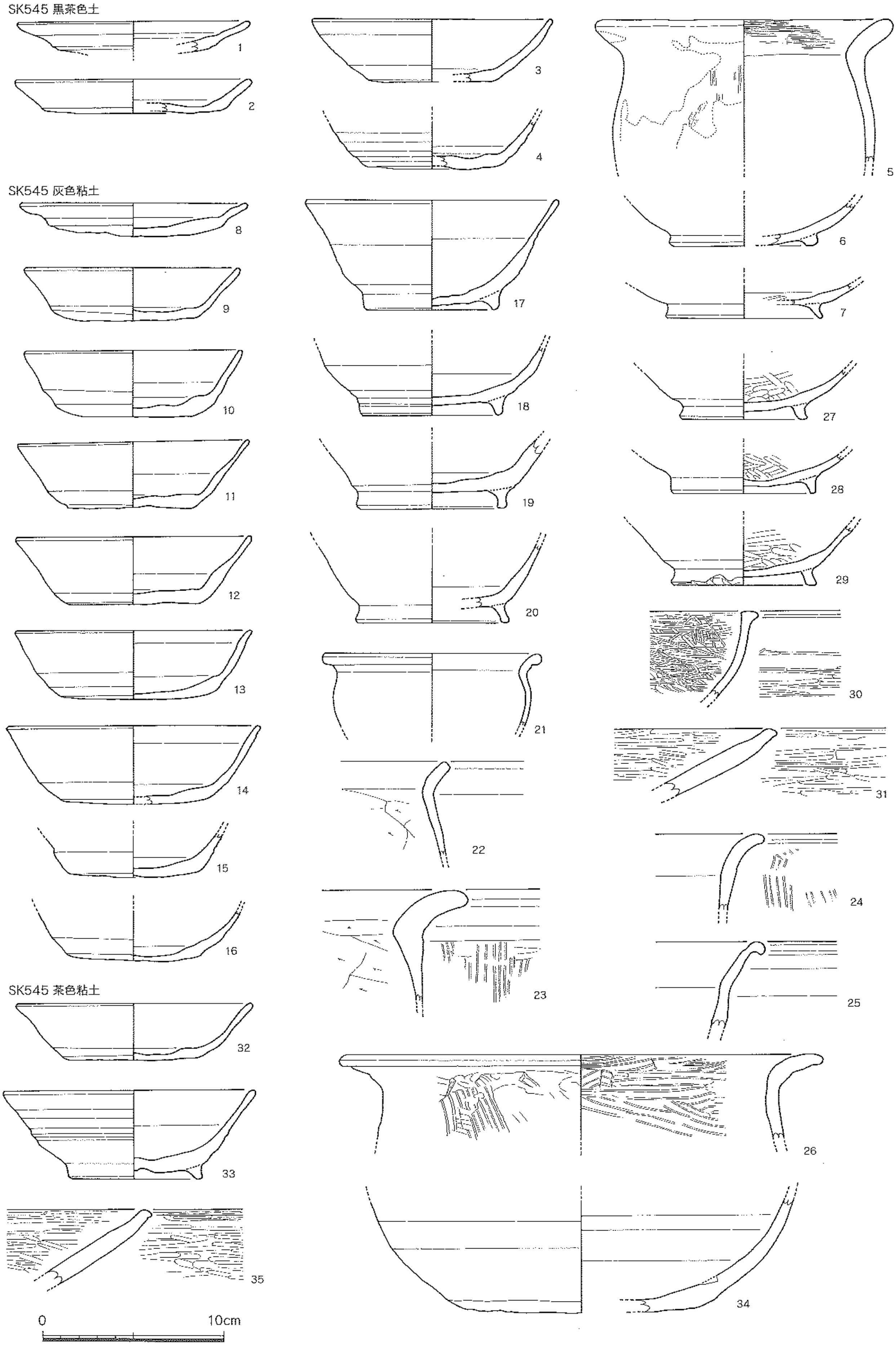


Fig.85　SK545出土遺物実測図（1/3）

土師器

皿a（1・2） 復元口径12.8cmと13.0cm。2は底部ヘラ切り後ナデ。色調は黄白灰色を呈する。

坏a（3・4） 底部回転ヘラ切り。色調は黄白灰色を呈する。

甕（5） 復元口径16.4cm。全体がやや歪んでいる。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を含み、橙灰色や黒色を呈する。口縁部内面はヨコハケ、体部外面はハケ。内外面とも煤が厚く付着している。

黒色土器A類

椀c（6・7） 復元口径8.2cmと8.6cm。6は磨滅が目立ち、7は内面ミガキcが確認できる。

236-1SK545灰色粘土出土遺物（Fig.85）

土師器

皿a（8） 口径12.5cm。外面底部はヘラ切り未調整。内面不定方向のナデ。

坏a（9～16） 復元口径11.9～14.0cm。底部回転ヘラ切り。全体として色調は黄白灰色を呈する。

椀c（17～20） 復元高台径7.4～8.4cm。内面底部ナデ、外面回転ナデ。色調は黄白灰色を呈する。

甕（21～26） 21は口径12.0cm、体部内面ナデ、その他回転ナデ。22は内面ヘラケズリ。23は口縁部ヨコナデ、外面タテハケで煤が付着する。内面ヘラケズリ。24は外面タテハケで煤が厚く付着する。25は内外面回転ナデ。口縁部がやや丸味を帯びその下に煤が付着する。26は口径26.6cm、内面横方向のハケ、口縁部はヨコナデで、外面はハケで若干煤が付着する。

黒色土器A類

椀c（27～29） 高台径7.0～8.0cm。底部は回転ヘラ切り。内面はミガキcが残り、外面回転ナデ。29は高台に工具痕が残る。

小甕（30） 口縁部を平坦にして、外側に肥厚させる。内面は細かいミガキcが施されている。外面は黒化されていないが、回転ナデのあと一部ミガキcが施されている。

黒色土器B類

皿（31） 口縁部だが、全形がわからない。口縁部の厚みからやや大きめの器種とみられ、皿や高坏のようなものと推測される。内面は細かいミガキc、外面はヘラケズリのあとミガキcが施されている。胎土は0.2cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、淡灰色を呈する。黒化処理が不完全だが、丁寧にミガキが施されており、ここでは黒色土器として報告する。搬入品か。

236-1SK545茶色粘土出土遺物（Fig.85）

土師器

坏a（32） 復元口径13.0cm、底部回転ヘラ切り。

椀c（33） 復元口径13.9cm、内面底部ナデ、外面回転ナデ。色調は暗茶褐色を呈する。

鉢（34） 復元底径13.8cmで板状圧痕が残る。胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、灰褐色を呈する。内面下半はミガキもしくは使用によって平滑になっている。体部内外面は回転ナデで、体部下半は回転ナデのあと一部ナデ調整。

黒色土器B類

皿（35） 口縁部だが、全形がわからない。口縁部の厚みからやや大きめの器種とみられ、皿や高坏のようなものと推測される。内外面とも細かいミガキが施されている。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や赤褐色粒を含み、灰褐色を呈する。黒化処理が不完全だが、丁寧にミガキが施されており、ここでは黒色土器として報告する。搬入品か。

236-1SK620出土遺物（Fig.84）

須恵器

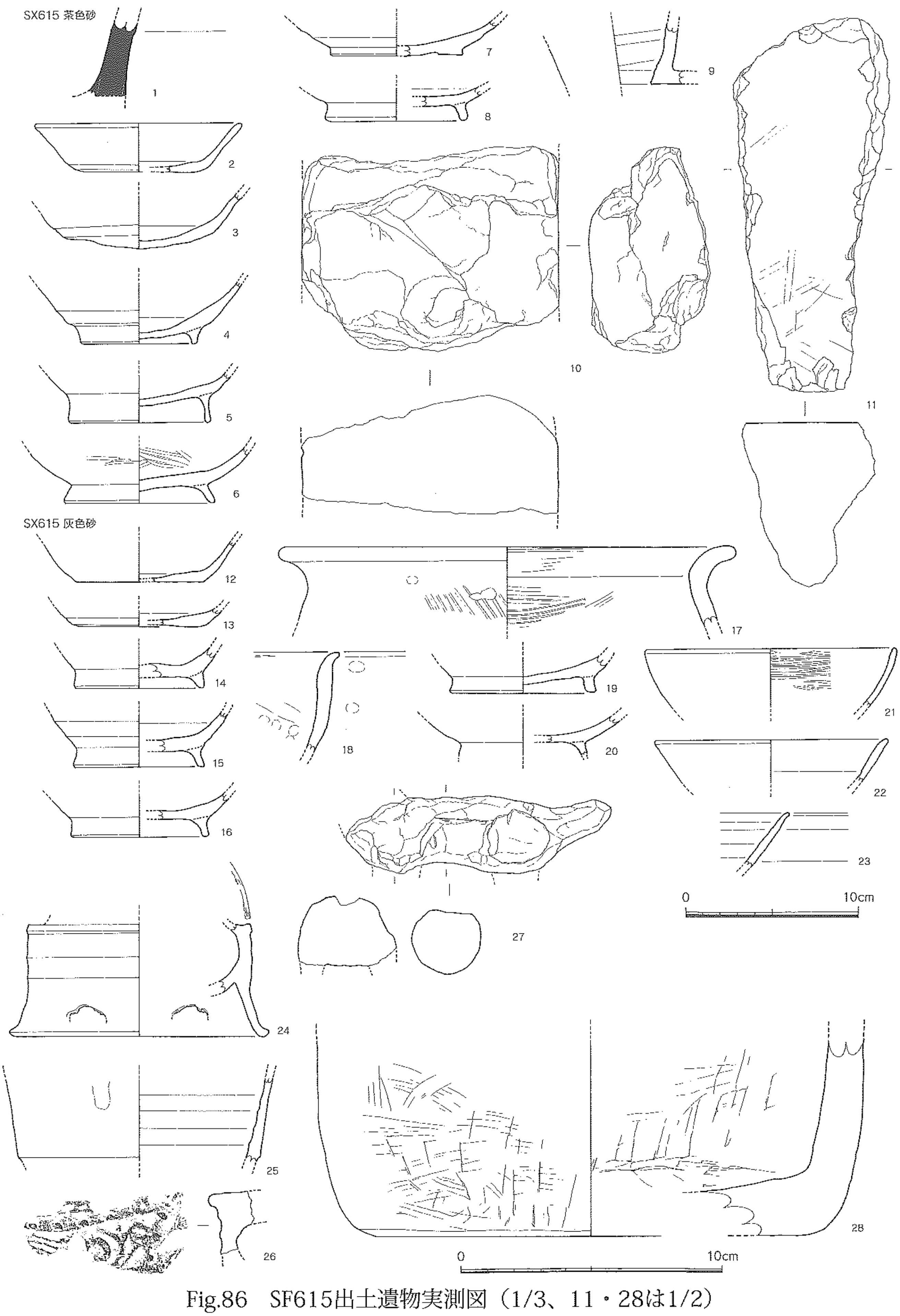


Fig.86　SF615出土遺物実測図（1/3、11・28は1/2）

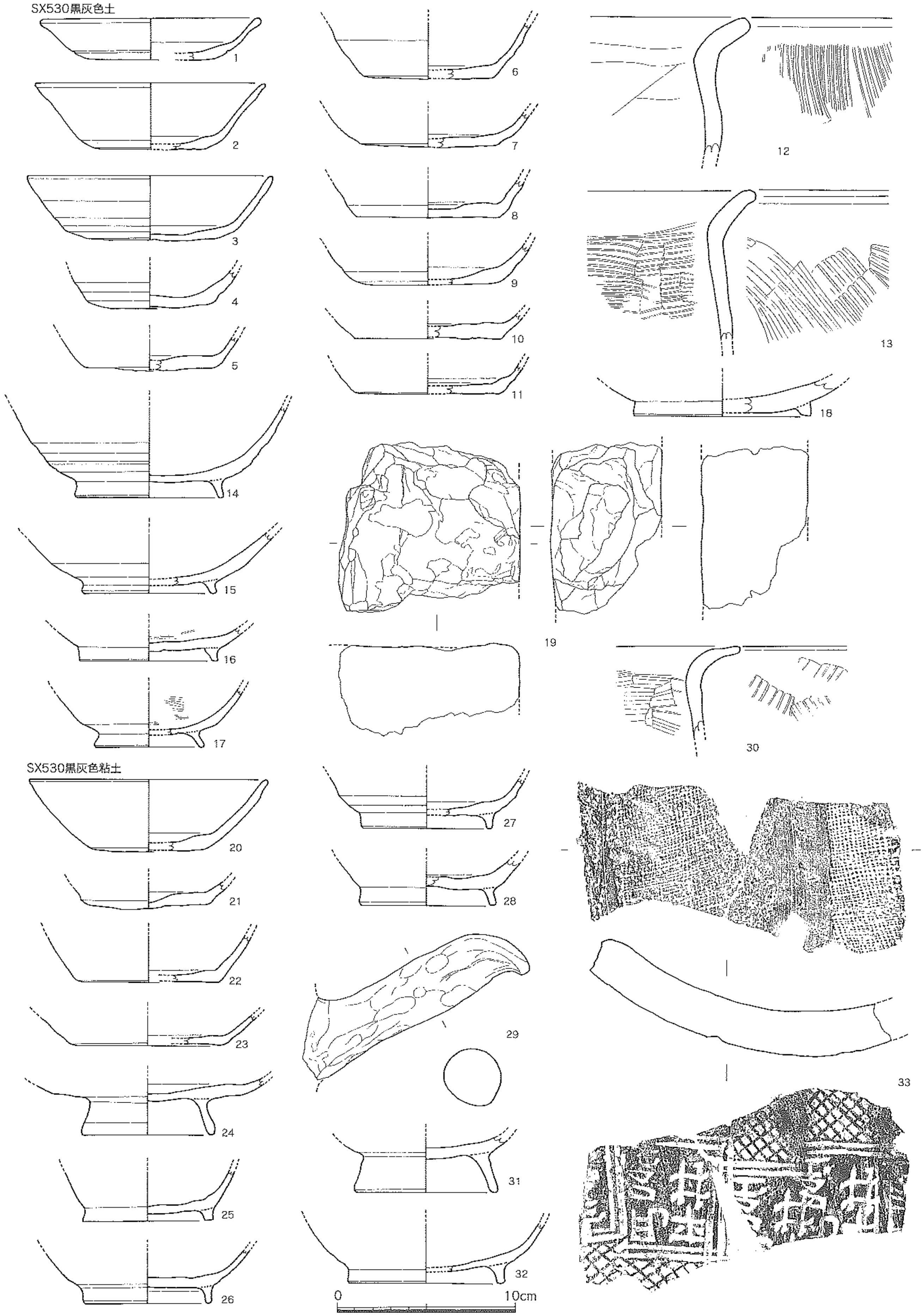


Fig.87　第3面窪み（SX530）出土遺物実測図（1/3）

椀c（17） 底部は丸味があり、高台は低い。内面底部は不定方向のナデで、平滑になっている。外面に銅のような付着物がみられる。

土師器

坏a（18～24） 底部復元径6.9～8.0cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ、体部内外面ヨコナデ。色調は全体的に黄白色を呈する。

大皿c（25） 高台は高く、径は16cm以上。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み粗い。内面底部は不定方向のナデ、外面回転ヘラケズリ。

緑釉陶器

皿（26・27） 26は底部が円盤高台で復元径6.6cm。外面に線刻がある。胎土は白色砂粒を若干含むが精製されている。釉は淡い緑灰色で薄く施釉され、剥落しているところが多い。27は復元高台径8.6cm。胎土は灰白色の土師質である。釉は淡い黄緑色で光沢があり、内外面施釉するが剥落が目立つ。底部は回転糸切りで内面には重ね焼き痕跡を残す。

越州窯系青磁

皿(28) 復元口径14.8cm、器高3.0cm。胎土は灰白色を呈し、釉は暗緑灰色で光沢があり全面施釉する。外面底部端には白い目跡が残る。I類。

第3調査面その他の遺構

236-1SF615茶色砂出土遺物（Fig.86）

須恵器

盤（1） 粘土接合部で欠損する。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み、焼成はやや不良で、黒灰色を呈する。内外面はヨコナデ。

土師器

坏a（2・3） 底部回転ヘラ切り。3は底部がやや丸味がある。色調は黄白色を呈する。

黒色土器A類

椀c（4・5） 全体的に磨滅し調整不明瞭。5は細く高い高台を貼付する。

黒色土器B類

椀c（6） 復元高台径8.7cm。内外面はミガキc。

緑釉陶器

椀×皿（7） 高台削り出しで、復元底径7.6cm。釉はやや濁った緑灰色で全面に薄く施す。内面はミガキのあと施釉する。胎土は灰色で精製されている。須恵質。京都産。

灰釉陶器

椀（8） 復元高台径8.2cm。胎土は灰色で細砂粒を含むが精製されている。釉は灰緑色で内面に薄く施釉する。内面底部は露胎で平滑である。外面は回転ナデ。

平提（9） 頸部付近で、胎土は灰白色で精製されている。内面回転ナデ、外面は黄茶色味を帯びた透明釉を施すがやや剥落気味である。

土製品

塼（10） 両端は欠損するが、幅は14.8cmで表面はナデ調整。焼成はやや不良で、色調は茶灰色、灰色、暗灰色を呈する。

石製品

砥石（11） 使用面は1面。

236-1SF615灰色砂出土遺物（Fig.86）

土師器

坏a（12・13） 復元底部径7.4cmと7.7cm。底部回転ヘラ切り。色調は12が淡橙色、13は黄灰白色。

椀c（14～16） 復元高台径7.5～8.0cm。内面底部ナデ。色調は淡茶灰色を呈する。

甕（17） 復元口径26.4cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を少量含み、橙色や茶灰色を呈する。内面はヨコハケ、外面は口縁部がヨコナデ、体部がタテハケでくびれ部には指頭痕がある。

小甕（18） 内面はヨコナデとナデ、外面は指頭圧痕が残り、二次焼成で赤茶色になっている。内面は黒色化する。

黒色土器A類

椀c（19・20） 19は復元高台径8.4cm。20は磨滅し僅かにミガキが確認できる。

椀（21） 復元口径14.6cm。外面ヨコナデ、内面にミガキcを施す。

緑釉陶器

椀（22・23） 22は復元口径13.6cm、内面中位に段を有する。胎土は灰色で精製され、光沢のある明緑色釉を全面に施す。須恵質。23は胎土が暗灰色で精製され、光沢のある暗緑色釉を薄く施す。須恵質。

越州窯系青磁

香炉（24） 復元高台径15.0cm。高台には透かしが設けられている。胎土は黄灰色で精製され、釉はオリーブ色で光沢があり、全面施釉するが、上面は釉を拭き取り、目跡が残っている。

長沙窯系青磁

壺（25） 胎土は黒色粒を僅かに含むが精製され、黄灰色を呈する。内面は回転ナデで露胎。外面は灰色味を帯びた黄色釉で光沢があり、細かい貫入が入る。釉は剥落気味。体部下位に褐釉が垂下する。

瓦類

軒平瓦（26） 欠損が目立ち詳細は不明瞭だが、唐草文の周囲には珠文がある。

土製品

土馬（27） 胴部で脚部や頭部は欠損している。胎土は白色砂粒を若干含み橙色を呈する。全面ナデ調整される。

石製品

石鍋（28） 復元底径18.2cm。内外面とも工具による削りで整形している。滑石製。

236-1SX530黒灰色土出土遺物（Fig.87）

土師器

坏a（1～11） 復元口径12.4～13.8cm、底径6.4～9.3cm。全体的に磨滅し、底部ヘラ切り、底部内面は不定方向ナデが確認できる。色調は全体的に黄白色で、3が橙灰色を呈する。

甕（12・13） 胎土は0.3cm以下の白色砂粒や黒色粒を少量含む。12は体部内面ヘラケズリ、外面タテハケ。13は体部内面ヨコハケ、外面粗いタテハケ。

黒色土器A類

椀c（14～17） 高台径は6.2～8.4cm。磨滅しているが内面ミガキcが僅かに残る。外面の色調は14が淡橙黄色、15が淡橙灰色、17が橙灰色を呈する。

緑釉陶器

椀（18） 復元高台径10.0cm。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を少量含んだ土師質。釉は淡緑灰色で全面施釉され、斑点状に淡黄緑色の部分がある。部分的に釉が剥落する。

土製品

塼（19） 胎土は0.5cm以下の白色砂粒や黒色砂粒を含み、白灰色を呈する。表面の欠落も目立つ。厚

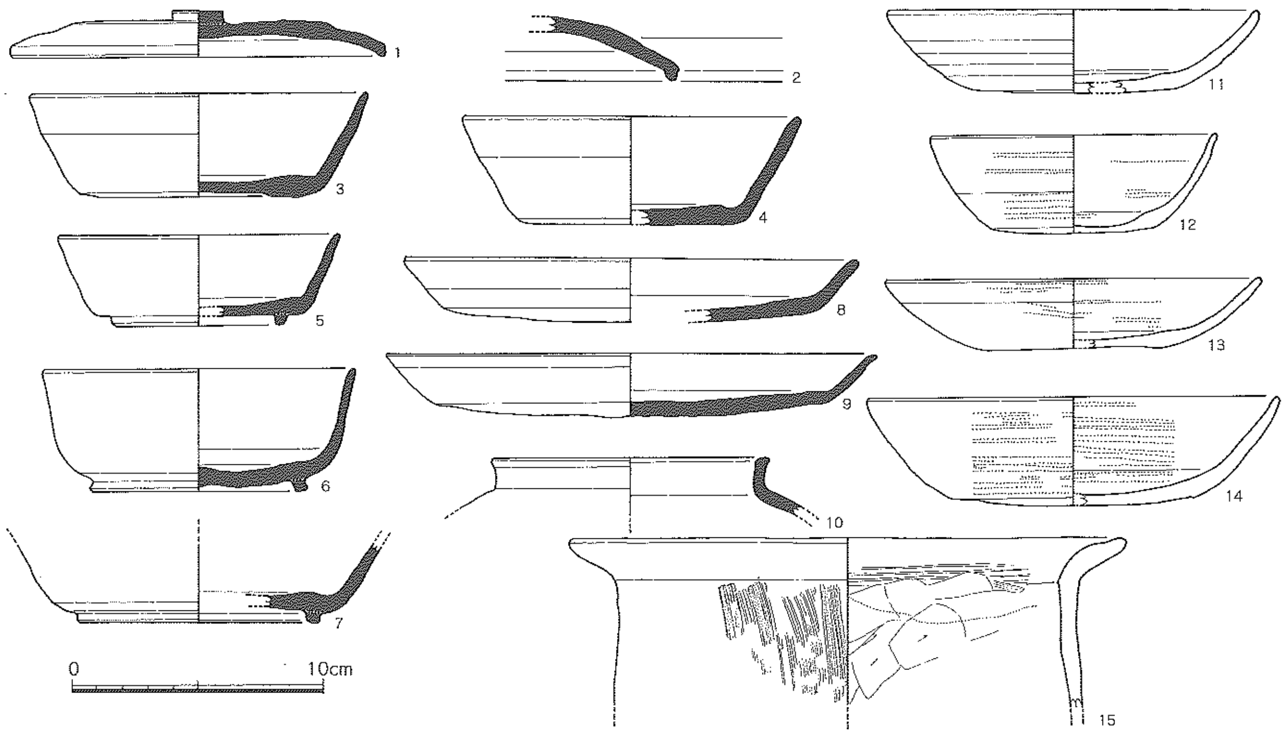


Fig.88　第3調査面窪み（灰色粘土）出土遺物実測図（1/3）

さは6.2cm。

236-1SX530黒灰色粘土出土遺物（Fig.87）

土師器

坏a(20～23)　復元底径6.6～8.8cm。底部回転ヘラ切り。色調は部分的に暗灰色のところもあるが、全体として黄白色を呈する。

椀c（24～28）　高台径7.2～7.7cm。24は高い高台を貼付する。色調は全体として黄白色を呈する。

把手（29）　長さ12.7cm、径3.35cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や黒色粒や赤色粒を含み、淡橙褐色や灰褐色を呈する。全面ナデ調整。

甕（30）　口縁部内面ヨコナデ、その他内外面はハケ調整である。

黒色土器A類

椀c（31・32）　31は復元高台径8.0cm。高い高台を貼付する。32は復元高台径8.8cm、磨滅するが内面にミガキcが残る。

瓦類

平瓦（33）　裏面は細かい格子叩きに二重線に囲まれ「平井瓦屋」の銘がある。

236-1灰色粘土出土遺物（Fig.88）

須恵器

蓋c3（1）　外面上半部回転ヘラケズリ。内面上半部ナデ。扁平なボタン状のツマミを貼付する。復元口径14.9cm。

蓋3（2）　外面上半部回転ヘラケズリ。内面上半部ナデ。

坏a（3・4）　外面底部は回転ヘラ切り後粗いナデ、内面底部不定方向のナデ、他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。復元口径12.4cmと15.4cm。

皿a（8・9）　8は外面底部回転ヘラ切り。内面底部は一部不定方向のナデ、他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。9は外面底部回転ヘラ切り後粗いナデ。内面底部は回転ナデのあと一部不定方向のナデ、他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。

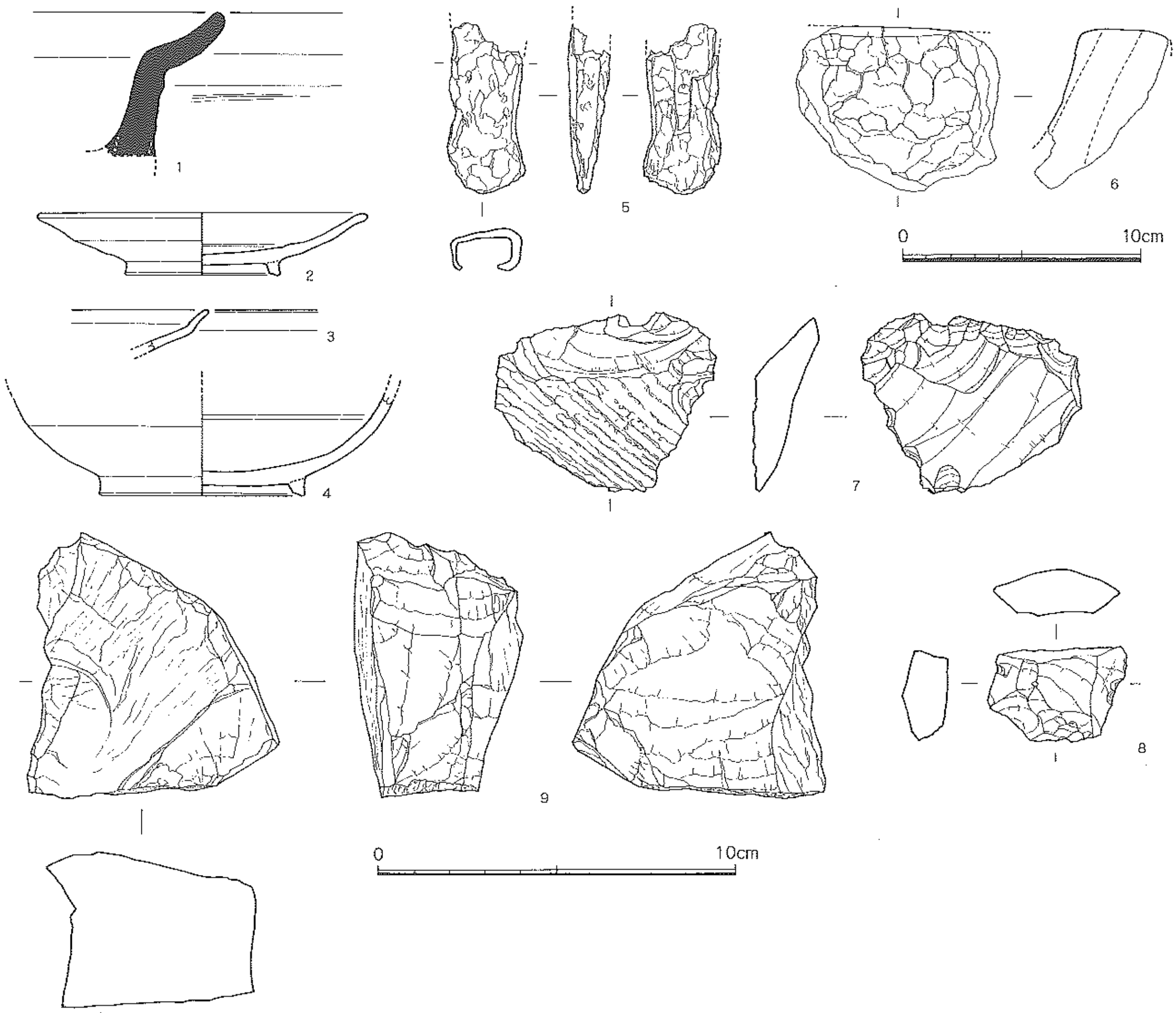


Fig.89　第3面その他の遺構出土遺物実測図（1/3、7～9は1/2）

坏c（5～7）　5･7は低い方形高台を貼付。5はやや歪んでいる。内面回転ナデ。6は方形高台をやや外開きに貼付する。内面底部は回転ナデのあとナデ。7の内面底部は不定方向のナデ。

短頸壺（10）　復元口径11.0cm。内外面ナデ調整。

土師器

坏a（11）　外面底部回転ヘラケズリ、その他内外面とも回転ナデ。

坏d（12～14）　外面底部回転ヘラケズリ、内外面は回転ナデのあとミガキaを施す。

甕（15）　復元口径22.0cm。口縁部内面粗いヨコハケ、体部内面ヘラケズリ、外面細かいタテハケ。内面に煤が付着する。

236-1第3遺構面その他の出土遺物（Fig.89）

須恵器

盤（1）　体部中位で屈曲する。0.2cm以下の白色砂粒を少量含み、暗灰色を呈する。外面下半はナデ。その他はヨコナデ。S-1011より出土。

緑釉陶器

皿（2・3）　2は復元口径13.8cm、器高2.6cm、復元高台径6.5cm。内面に沈線が巡り、高台には段が巡る。釉は光沢のある濃緑色で、全面に厚く施釉され細かい貫入が入る。高台畳付は釉を拭き取っている。須恵質。S-1073より出土。3は光沢のある緑灰色釉を内外面に施すが、外面は少々剥げている。須恵質。

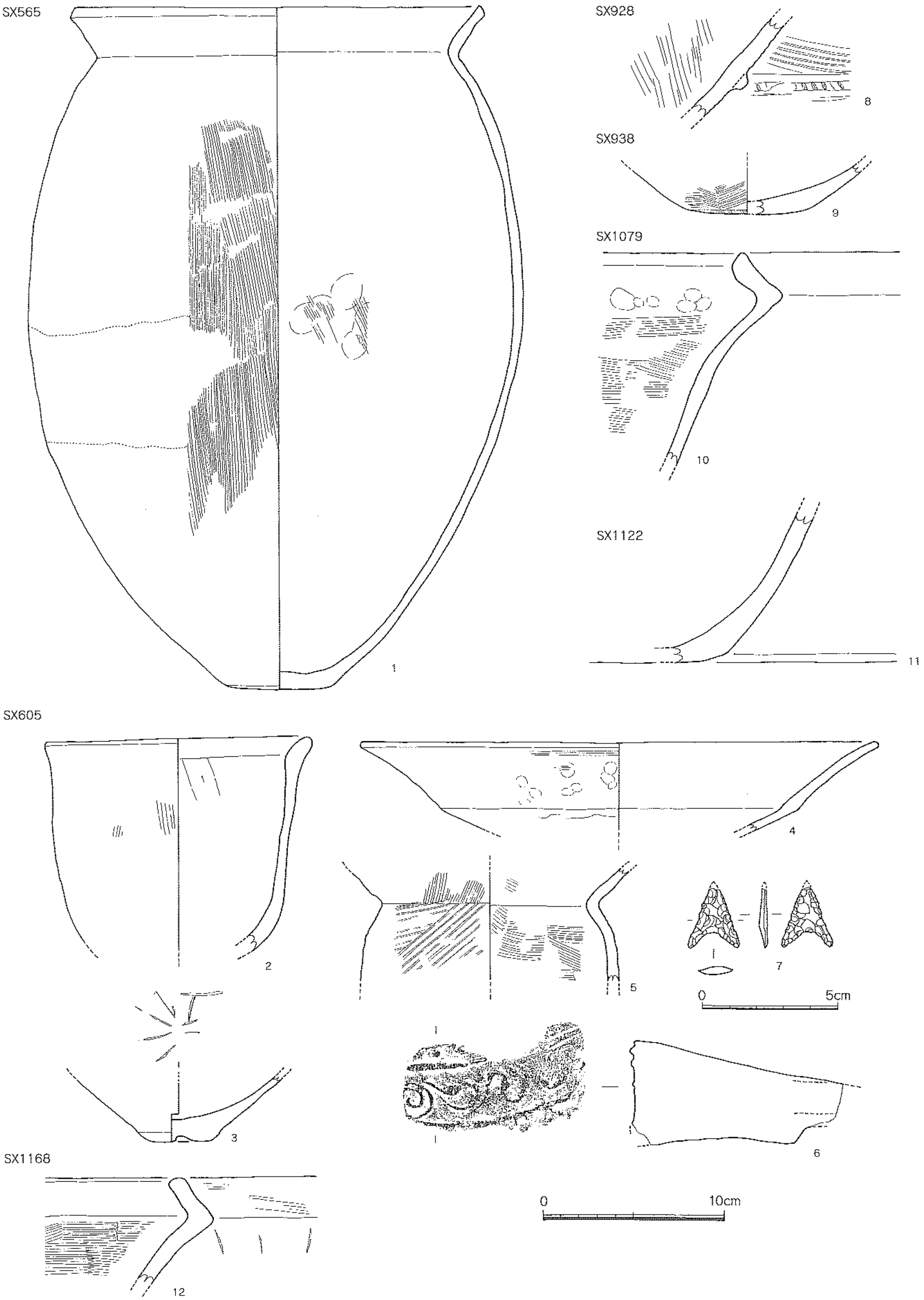


Fig.90　第3調査面基盤層出土遺物実測図（1/3、7は1/2）

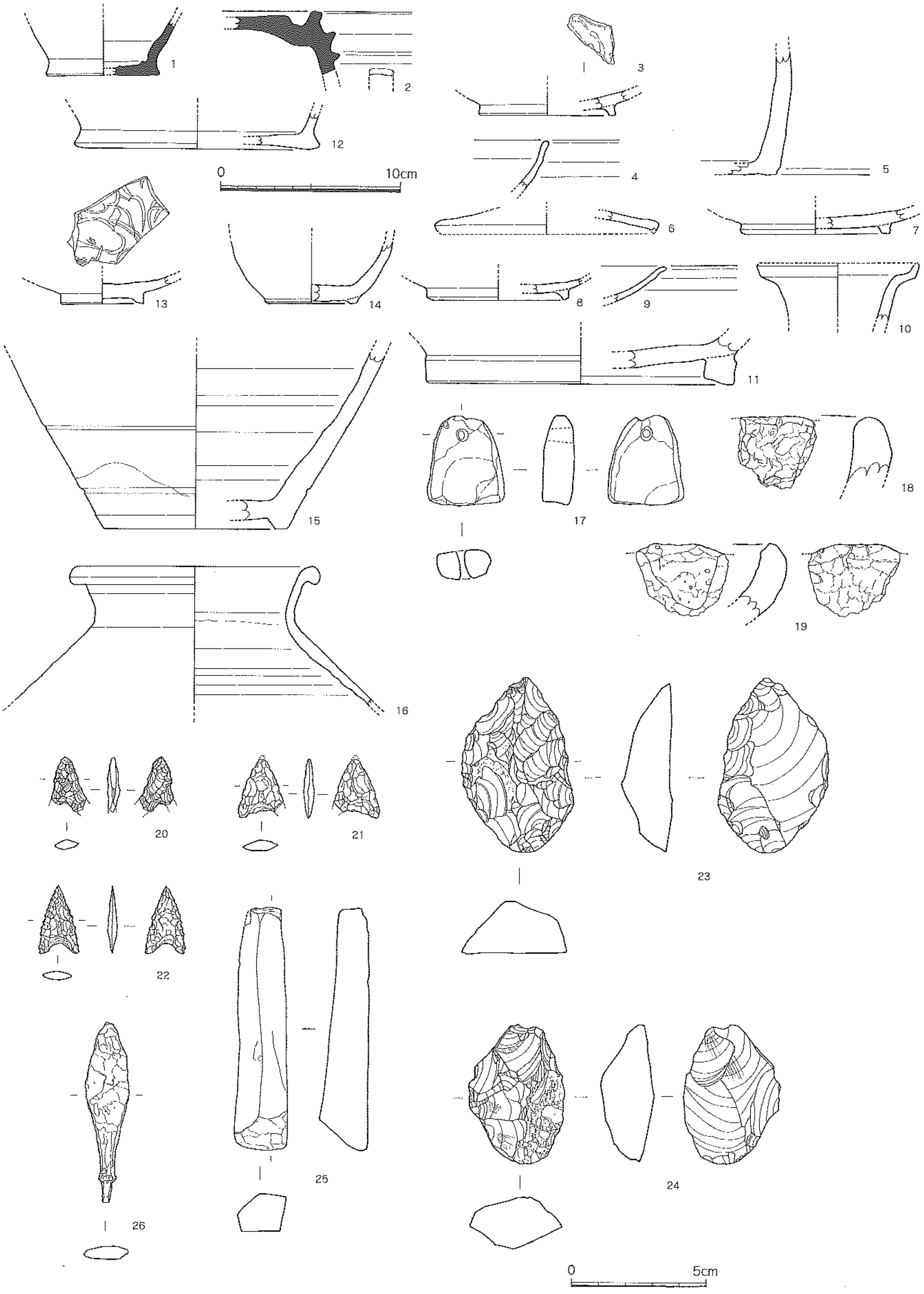


Fig.91　灰褐色土出土遺物実測図（1/3、20 ～ 25は1/2）

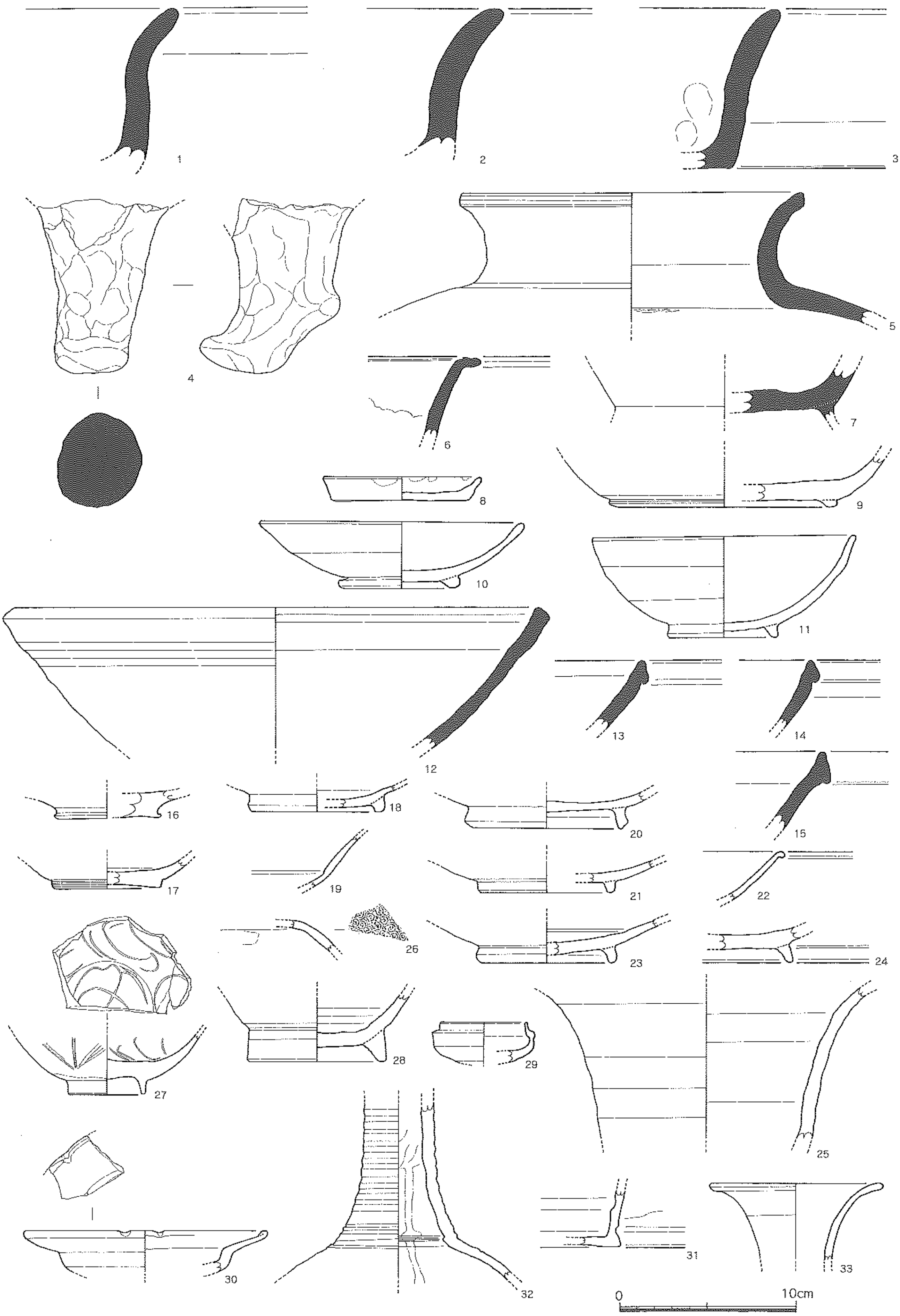


Fig.92　灰茶色土出土遺物実測図①（1/3）

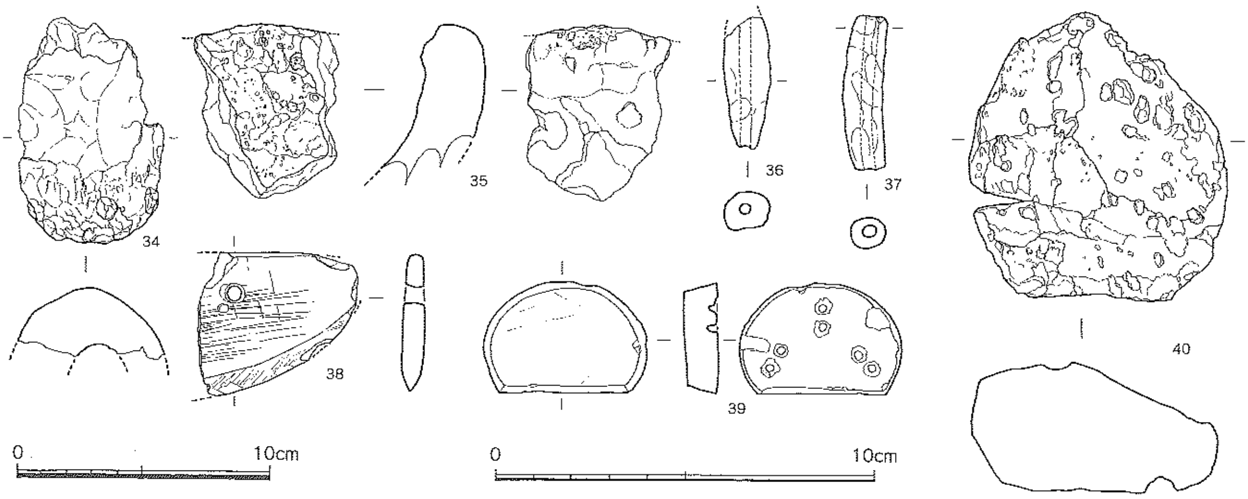


Fig.93　灰茶色土出土遺物実測図②（1/3、38～40は1/2）

S-1107より出土。

椀（4）　復元高台径8.6cm。体部は丸味があり、体部内面に浅い沈線が巡る。胎土は微細な砂粒を僅かに含み、明灰色～橙色を呈し、土師質。釉は光沢のある明黄緑色である。S-1041より出土。

金属製品

鉄斧（5）　長さ7.1cm、幅3.25cmで内部は空洞である。全面錆が覆う。S-1012より出土。

土製品

炉壁（6）　0.6cm以下の白色砂粒を含み、内側から青灰色、白褐色、淡橙褐色を呈する。内面にはヒビが細かく入る。S-568より出土。

石製品

剥片（7・8）　7は大きさ5.1×6.2cm、厚さ1.8cm。自然面も残す。安山岩製。S-40fより出土。8は大きさ2.6×3.9cm、厚さ1.3cm。安山岩製。S-1037より出土。

石核（9）　大きさは7.45×4.75cm、厚さ4.3cm。安山岩製。S-515茶色土より出土。

○第3調査面基盤層

236-1SX565出土遺物（Fig.90）

弥生土器

甕（1）　復元口径22.8cm、器高37.5cm、底径5.9cm。底部は僅かに丸味を帯びる。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、淡橙灰色を呈する。口縁部はヨコナデ、胴部外面はタテハケで、中位に帯状に煤が付着する。内面は磨滅しているがハケやナデ痕が僅かに確認できる。

236-1SX605出土遺物（Fig.90）

土師器

小甕（2）　口径14.8cm。口縁部を肥厚させる。内面ヘラケズリ、外面は僅かにタテハケが残る。全体的に二次焼成で橙褐色を呈する。

弥生土器

壺（3）　胎土は粗く赤褐色で、底部外面には窪みがある。内面底部にはナデの工具痕が残る。

高坏（4）　復元口径28.6cm。口縁端部外面にはヨコハケがあり、煤が付着する。外面には指頭圧痕が残る。

甕（5）　胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、茶灰色を呈する。胴部外面は平行叩き、頸部および内面はハケ調整である。

瓦類

軒平瓦（6） 均整唐草文の端部で、顎部はナデ調整。

石製品

石鏃（7） 大きさは長さ2.2cm、幅1.9cm、厚さ0.3cmでやや風化している。不純物が多い黒曜石。

236-1SX928出土遺物（Fig.90）

弥生土器

甕（8） 内外面ハケで、刻み目の突帯を巡らす。

236-1SX938出土遺物（Fig.90）

弥生土器

甕×壺（9） 胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み橙色を呈する。外面は細かいハケ調整。

236-1SX938出土遺物（Fig.90）

弥生土器

複合口縁壺（10） 胎土は粗く白色砂粒を多く含む。口縁部ヨコナデ、頸部は内面ヨコハケだが外面磨滅し調整不明。

236-1SX1122出土遺物（Fig.90）

弥生土器

甕×壺（11） 内外面磨滅し調整不明。胎土は粗く茶灰白色を呈する。

236-1SX1168出土遺物（Fig.90）

弥生土器

複合口縁壺（12） 0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡茶灰色を呈する。口縁部外面ヨコハケ、内面ナデ。頸部外面ナデ、内面ヨコハケ。

第236-1次調査その他の土層

第236-1次調査灰褐色土出土遺物（Fig.91）

須恵器

壺（1） 復元底径6.2cm。底部外面は回転糸切り。内外面回転ナデ。篠窯産。

円面硯（2） 方形透かし孔が一部確認できる。硯面は若干滑らかになっている。

緑釉陶器

椀×皿（3） 復元高台径7.6cm。胎土は0.05cm以下の砂粒を僅かに含み、灰白色を呈する。釉は淡緑色で薄く施釉され、内面には部分的に暗緑色の釉が掛かる。土師質。

椀（4） 胎土は僅かに細砂粒を含み、暗灰色を呈する。釉は濃い緑灰色で、部分的に剥落している。須恵質。

壺（5） 胎土は0.1cm以下の白色砂粒や黒色粒を多く含み、白灰色を呈する。土師質。釉は明淡緑色で光沢がある。内外面とも施釉されるが欠落が目立ち、内面下半は薄く掛かっている。

灰釉陶器

蓋（6） 胎土は灰白色で、釉は灰緑色で外面に厚く施釉され、内面は回転ナデ。

椀（7） 復元高台径8.3cm。釉は淡緑色で光沢があり、内外面施釉されるが、かなり剥落している。

椀×皿（8） 復元高台径7.8cm。胎土は白色・黒色の細砂粒を含み、白灰色を呈する。内面にごく僅かに釉が残る。

皿（9） 釉は緑灰色で、内面施釉、外面下半は回転ヘラケズリで一部施釉される。

壺（10・11） 10は口縁端部を僅かに欠損するが復元口径9.0cm。釉は灰緑色で、内外面とも回転ナデのあと施釉され、内面は剥落が目立つ。11は復元高台径17.0cm。高台は内側がやや浮いた状態。胎

土は0.3cm以下の砂粒を多く含み、淡灰色を呈する。釉は濃緑色で光沢があり、内面と高台外面の一部に施釉する。

長沙窯系青磁

水注（12） 底部外面ヘラ切り、そのほか内外面は回転ナデ。復元底径13.6cm。

白磁

皿（13） 復元高台径4.6cm。胎土は白色粒などの細砂粒を含み、白灰色を呈し、化粧土が掛かる。釉は黄白灰色で光沢がある。内面にはヘラ描きの草花文が施されている。広東系。

壺（14・15） 14は低い高台が貼付され、復元高台径5.1cm。胎土は0.15cm以下の白色・黒色粒を含み淡灰色を呈する。釉は淡緑灰色で光沢があり細かい貫入が入る。内外面施釉するが底部は若干剥げている。15は高台が体部と同じ角度で、回転ヘラケズリで台形に仕上げている。外面は沈線まで施釉し、内面は強いヨコナデの後施釉し、底部は釉が厚く溜まる。高台畳付に付着物がある。胎土は0.05cm以下の黒色粒を含み、白灰色を呈する。復元高台径10.4cm。

中国陶器

壺（16） 復元口径13.8cm。口縁端部は丸く曲げられる。胎土は0.1cm以下の白色粒や赤褐色粒を含み淡灰色を呈する。釉は暗緑色で光沢があり、貫入も入る。内面は胴部が回転ナデで露胎、内面口縁部と外面は回転ナデのあと施釉。

土製品

権（17） 上部に径0.8cmの円孔が穿たれている。大きさは縦4.95cm、幅4.2cm、厚さ1.65cm。全体が磨滅するが、瓦を転用したものとみられる。重さは37.6gである。

トリベ（18・19） 胎土は2点とも軟質で、18は内側から淡紫色、灰白色に変色している。内面は茶褐色部分もある。19は内面に緑色や淡紫色部分がある。

石製品

石鏃（20～22） 20は縦2.0cm、幅1.45cm、厚さ0.35cm。黒曜石製。21は両端を欠損し、現存長2.15cm、幅1.65cm、厚さ0.4cm。黒曜石製。22は縦2.5cm、幅1.5cm、厚さ3.5cm。安山岩製。

尖頭器（23） 縦6.45cm、幅4.1cm、厚さ1.9cm。一部自然面が残る。黒曜石製。

石核（24） 縦5.15cm、幅3.5cm、厚さ2.0cm。一部自然面が残る。黒曜石製。

砥石（25） 縦9.0cm、厚さ1.95×1.35cmと細長く、側面全体に研磨痕が残る。

金属製品

鉄鏃（26） 縦9.95cm、最大幅2.45cm、厚さ0.7cm。良好に遺存しているが、全面厚いサビに覆われる。柳葉形で鏃身部中央付近に最大幅がある。

第236-1次調査灰茶色土出土遺物（Fig.92・93）

須恵器

盤（1～3） 1は胎土が0.35cm以下の白色砂粒を多く含み、焼成・還元良好で淡灰色を呈する。内外面ともヨコナデ。2は全体的に磨滅していて、下部は粘土接合部で欠損する。胎土は0.4cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、淡灰色や淡暗灰色を呈する。3は胎土が0.25cm以下の白色砂粒を含み、焼成は不良で淡灰色や黒灰色を呈する。内外面回転ナデで、外面底部には板状圧痕を残す。

獣脚（4） 0.4cm以下の白色砂粒を含み、白灰色や暗灰色を呈する。焼成は不良で、指頭圧痕は残るが磨滅が目立つ。

甕（5） 復元口径19.6cm。体部内面は叩きの後ナデ。その他はヨコナデ。

甕×壺（6） 破片で全容が掴めない。口縁端部は屈曲させ、つまみ出した突起が巡る。内外面とも回

転ナデ。

壺（7）　胎土は0.35cm以下の白色砂粒や黒色粒を少量含み、淡赤灰色を呈する。底部外面はヘラ切りで、内面底部の一部が粗いナデ、その他は回転ナデ。肥後荒尾産と推測される。

土師器

小皿a（8）　口径9.05cm。外面底部は回転糸切り。口縁部内外面に部分的に煤が付着する。

大椀c（9）　低い高台を貼付し、復元高台径13.0cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、淡橙色を呈する。外面は磨滅するが、内面には漆が付着する。

丸底坏c（10）　全体的に磨滅しているが、内面に僅かにミガキｂが残る。高台は丸味のある低い高台を貼付する。口径15.0cm。

瓦器

椀c（11）　口径14.95cm、全面磨滅しているが、内面に僅かにミガキ痕跡が残る。

須恵質土器

鉢（12～15）　12は復元口径31.0cm。内外面回転ナデで、内面下半は不定方向のナデ。13･14は口縁端部を僅かに肥厚させ、外面に沈線状の段が巡る。15は口縁端部を三角形状に肥厚させる。

緑釉陶器

椀（16～19）　16は底部糸切り。板状圧痕も残る。胎土は淡灰色で、釉は緑灰色で光沢があり、内面に薄く掛かり、外面に僅かに残る。須恵質。17は削り出し高台で復元底径6.3cm。胎土は淡灰色を呈し、全面に光沢のある緑灰色釉を薄く施す。須恵質。18は復元高台径7.8cm。胎土は黒色粒を含み、淡灰色を呈する。釉は全く残ってないが、器面は磨いたようにも見える。須恵質。京都産。19は内面に段を有する。胎土が淡茶灰色で土師質だが焼成は良好。釉は灰緑色で剥落も目立つ。

灰釉陶器

皿（20～22）　20は復元高台径9.2cm。釉は淡緑灰色で内面上部に施釉され、内面底部は露胎で平滑である。外面は回転ナデで露胎。21は復元高台径7.8cm。現存範囲は露胎で、内面底部は回転ナデのあと不定方向のナデで平滑である。内外面回転ナデ。22は回転ナデのあと緑灰色釉を薄く施す。

段皿（23）　復元高台径8.0cm。胎土は淡灰色を呈し、釉は光沢のある淡緑灰色で、内面底部に部分的に釉が掛かる。外面底部は一部釉が掛かる。

椀（24）　胎土は0.15cm以下の砂粒を含み、淡灰色を呈する。内外面回転ナデで、内面底部が平滑である。現存範囲に釉はない。

壺（25）　内外面とも回転ナデのあと光沢のある淡灰白色釉を薄く施釉。内面に釉は残る。

新羅土器

壺（26）　小破片で、胎土は0.05cm以下の白色砂粒を僅かに含み、淡灰色や灰白色を呈する。外面は同心円スタンプを施す。

白磁

椀（27）　復元高台径4.4cm。やや細く高い高台を貼付する。釉は灰緑色で細かな貫入が入る。化粧土はない。高台や底部外面は露胎。内外面にヘラ描き文が施されている。

壺（28）　釉は光沢のある淡緑色で貫入が入る。全面回転ナデで、内面および底部外面と高台畳付は露胎。復元高台径7.9cm。

越州窯系青磁

合子（29）　復元口径4.9cm。釉は光沢のある緑灰色で内外面とも回転ナデのあと薄く施釉する。

唾壺（30）　復元口径13.8cm、体部中位で外側に屈曲させ、口縁端部は内側に折り曲げ丸く仕上げる。

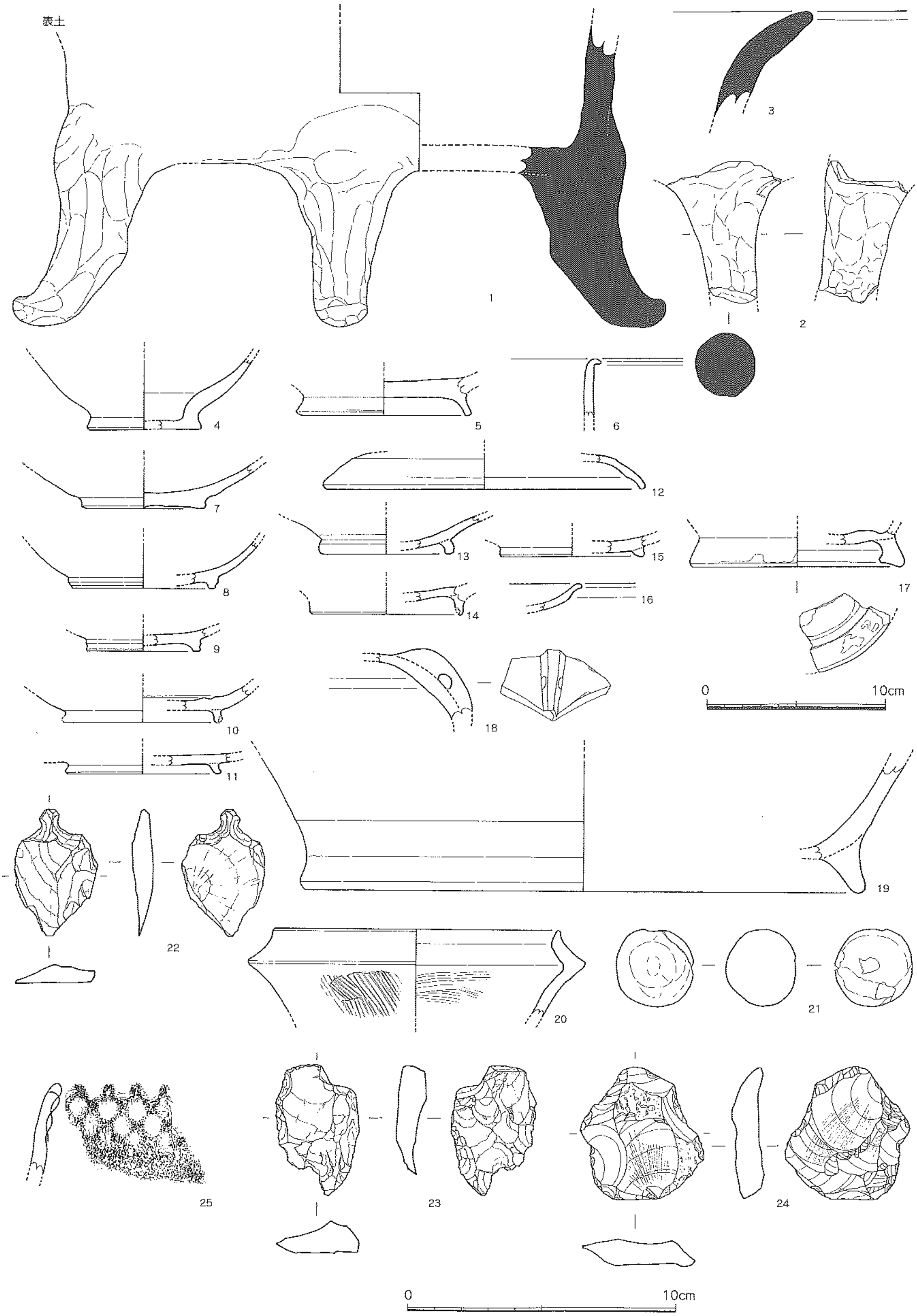


Fig.94　表土その他出土遺物実測図（1/3、22 ～ 24は1/2）

端部には輪花状の凹みを付けている。胎土は精製され、緑灰色釉を施釉する。I類。

長沙窯系青磁

水注（31） 外面の一部が淡緑灰色の釉を施釉されるが、その他は回転ナデのあと露胎。

青白磁

壺（32） 釉は光沢のある淡青白色で、外面は施釉され、内面は上部に釉が掛かり、下方へ垂れている。頸部全体に条を巡らす。頸部と胴部の繋ぎ目は内外とも若干の段が付いている。

黒釉陶器

壺（33） 復元口径9.9cm。胎土は僅かに白色や黒色粒を含み、淡灰色を呈する。釉は緑灰色や暗緑灰色で、内外面とも回転ナデのあと施釉される。口縁端部はやや劣化している。

土製品

鞴羽口（34） 外面は溶解または変色し、先端部には鉱滓が付着する。

トリベ（35） 内面と外面上部は溶解し、暗赤色の鉱滓が付着し、内面に緑色粒がみえる。

土錘（36・37） 2点とも焼成は不良で、36は端部が欠損し、磨滅するが僅かに指頭圧痕が残る。径1.4～1.85cm。37は磨滅するが僅かに指頭圧痕が残る。縦6.05cm、径1.2～1.4cm。

石製品

石包丁（38） 1/3ほどの残片で、円孔が穿たれている。石材は溶結凝灰岩。

石帯丸鞆（39） 大きさは縦2.9cm、横4.3cm、厚さ0.9cm。裏面には2個づつ3ヶ所の穴が開く。石材は黒色で粘板岩とみられる。

軽石加工品（40） 大きさは7.7×6.85×3.4cm。表面は研磨され、平坦面を作り出している。

第236-1次調査表土出土遺物（Fig.94）

須恵器

脚付盤（1・2） 1は盤に脚部が貼付され、盤の底部分で復元底径36.5cm。脚数は不明である。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色から暗灰色を呈する。盤の内外面がヨコナデ、脚部はナデ。3と同一個体である可能性が高い。2は脚部で、盤の接合部で欠損する。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡青灰色から白灰色を呈する。

盤（3） 盤の口縁部で内外面ヨコナデ。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色から淡茶灰色を呈する。

土師器

椀（4） 復元底部径6.4cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒などを含み、白黄褐色を呈する。外面底部は回転糸切りで、内面底部はナデ、その他は磨滅し調整不明。

越州窯系青磁

椀（5） 復元高台径9.8cm。胎土は僅かに微砂粒を含むが精製されている。釉は灰緑色で高台畳付は露胎、その他は全面施釉。III類。

施釉陶器

壺（6） 口縁部を外側に屈曲させる。全形が掴みにくいが、壺のようなものとみられる。内外面とも回転ヘラケズリで、全面化粧土がある。

緑釉陶器

椀（7～9） 7は復元高台径7.0cm。全体的に磨滅が目立ち、淡緑灰色釉が僅かに残る。土師質で底部は円盤高台。洛北産。8は復元高台径8.0cm、全面に緑灰色釉が掛かり、光沢があり綺麗である。須恵質。洛西産。9は復元高台径6.4cm、高台ケズリ出し。底部外面に釉はなく内面底部と外面には淡緑灰色の釉

が薄く掛かる。京都産。

椀×皿（10） 胎土は淡灰色で須恵質。内外面に淡緑灰色釉が薄く掛かる。東海産か。

皿（11） 外開きの低い高台を貼付し、灰緑色釉を全面に掛ける。土師質。防長産。復元高台径8.7cm。

灰釉陶器

蓋（12） 復元口径14.8cm。外面上部が回転ヘラケズリでその他は回転ナデ。外面は灰緑色釉が斑に残り、内面は研磨されている。

椀×皿（13～15） 13は復元高台径7.6cm。内面には重ね焼き痕が残る。胎土は0.1cm以下の砂粒を含み、淡灰色を呈する。釉は淡緑灰色で、内面底部と外面底部は露胎。14は復元高台径8.6cm。釉は淡灰色で、内面を施釉するが剥離が著しい。東山72×虎渓山1か。15は復元高台径8.0cm。胎土は白灰色で内面のみ灰緑色釉が施される。外面底部は回転ヘラケズリ。

皿（16） 胎土は0.3cm以下の砂粒を僅かに含み、灰白色を呈する。釉は灰緑色で内外面回転ナデのあと内面だけ施釉する。

壷（17） 復元高台径12.0cm、高台畳付の外側部分が接するような傾きである。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色や明灰色を呈する。釉は緑灰色で、内外面施釉され、高台外面は釉が厚く残る。内面底部と高台畳付に目跡が残る。

耳付壺（18） 肩部に貼付されたもの。胎土は0.1cm以下の砂粒を含み、白灰色を呈する。釉は光沢のある暗緑色で、内面は回転ナデで露胎である。

弥生土器

甕（19） 復元高台径31.6cm。胎土は0.6cm以下の砂粒を多く含み、淡橙色を呈する。全面磨滅する。

壷（20） 二重口縁壺で復元口径16.0cm。口縁部はヨコナデ、頸部内外面はハケ調整である。

土製品

丸玉（21） 4.3×3.85cmの球体で、胎土には角閃石が少量含まれるが精製されている。色調は暗灰色～白灰色を呈する。

石製品

石匙（22） 縦4.75cm、幅3.1cm、厚さ0.8cm。安山岩製。

剥片（23・24） 23は大きさ4.85×3.1cm、厚さ1.15cm。チャート製。24は大きさ5.0×4.65cm、厚さ1.2cm。やや風化し稜が取れている。二次加工あり。黒曜石製。

第236-1次調査出土遺物（Fig.94）

縄文土器

深鉢（25） 口縁端部と外面に刻み目などを施文する。胎土は赤褐色で細かい滑石粉を多く含む。阿高系。整理段階の手違いで出土遺構が不明になった。

2、第236-2次調査

(1) 調査に至る経過

県道観世音寺二日市線及び市道新設に伴う調査で、詳細は第236-1次調査の項で前述したとおりである。調査は遺構密度が大きい太宰府線より北側を第236-1次調査とし、南側を第236-2次調査として調査を行った。第236-2次調査地は太宰府市朱雀2丁目340-1である。

調査費用については、県道部分を福岡県が負担し、その他市道部分は市費で行った。第236-2次の発掘調査は2005（平成17）年1月26日から2005（平成17）年6月8日にかけて実施した。調査は宮崎亮一と柳智子が担当した。調査面積は1705m^{2}である。

(2) 基本層位

地表から約0.6～1mほどは西鉄関連の撹乱層で、この撹乱は一部が地山付近まで達する部分もみられた。その下に耕作土と床土があり、包含層を挟んで整地層に達する。この層位は基本的に北側の第236-1次調査の層位と同様である。地山は柔らかい黄灰色土と黄灰色砂質土で、黄灰色土には上面の整地層が凸凹に食い込んで検出される。この食い込んでいる灰茶色土層（凹凸は遺構番号を付して取り上げている）は第236-1次調査で確認されていた1面目の基盤層と同じとみられ、第236-1次調査南端部ではその基盤層直下に3面目が検出されていたため、この第236-2次調査でも同様であった。

なお、遺構検出時の遺物は茶色土で取り上げている。

(3) 検出遺構

掘立柱建物

236-2SB060（Fig.96）

調査区南端付近で検出され、西側は調査区外へと続いていて、2005年に行った第251次調査で、その延長部を確認し、南北3間×東西2間の総柱の建物であることが確定した。振れはN-2°17′-E。柱間は南北が約1.88～2.08m、東西が約2.36mを測る。掘り方は一辺0.8～1mほどの方形を呈し、深さは0.3mほど残っている。掘り方jには径0.2～0.3mの柱痕が高さ0.3mほど残存していた。この柱痕は分析を行い、詳細な分析結果は第V章のとおりである。

溝

236-2SD005

調査区を南北に走る溝。方位はN-3°42′-Wであるが、埋土は灰色土で遺物から近代以降のもので、

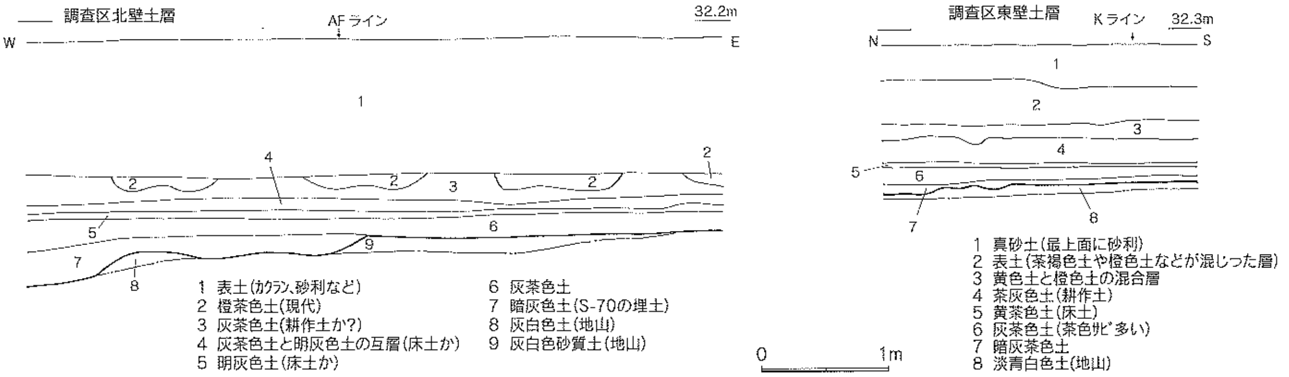


Fig.95 第236-2次調査区土層実測図（1/60）

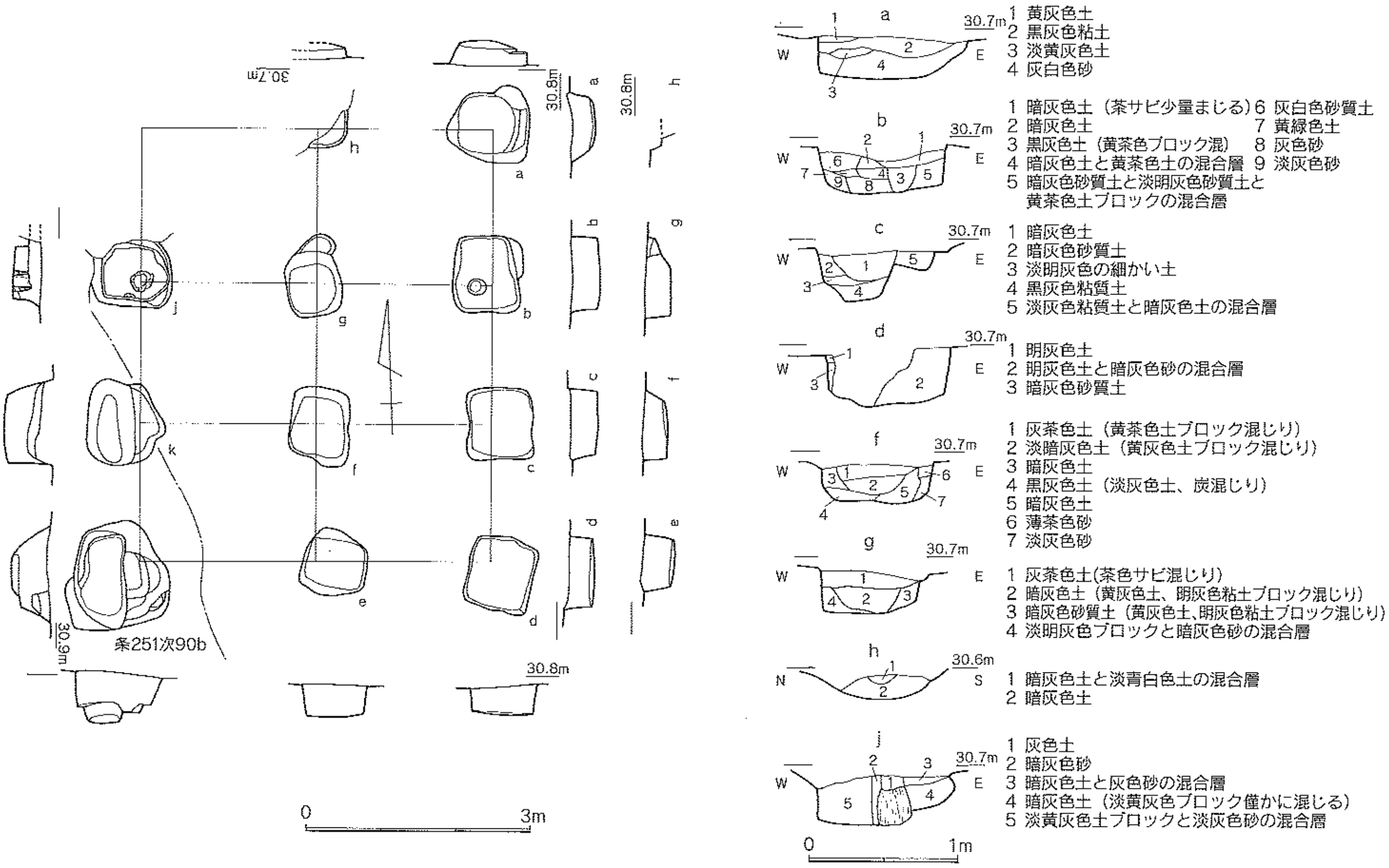


Fig.96　236-2SB060遺構実測図（1/100、土層図1/50）

操車場建設直前まであった南北道路の側溝か。検出長34m、深さは約0.1mのU字形を呈する。

236-2SD035

方位はE-0° 29′ -Sの東西溝で、調査区西端であるため、検出長は4.4m、深さは約0.2mで、底面はやや凸凹している。

236-2SD080

方位は約N-8° 30′ -Wのやや西向きの南北溝で、検出長は約11.5m、深さは約0.15mを測る。

井戸

236-2SE001（Fig.97）

大きさは東西1.15m、南北1.15m、深さ1.25mを測り、丸味のある方形をしている。井戸枠などの施設は残っていなかった。埋土は全体的に炭が混じり、最下層の灰茶色粘土には木片や腐食土がみられ、獣骨も混じっていた。

236-2SE030（Fig.97）

径0.8mの隅丸方形を呈し、深さは0.85mだが、深さ0.46mで中段があり、その底に径0.36mほどの円形掘り込みがあり、湧水はみられないが、曲物の痕跡である可能性が考えられる。

236-2SE050（Fig.97）

掘り方は径1.2m、深さ1.08mの隅丸方形である。遺構検出時点で井戸枠の方形プランと隅柱が確認された。井戸枠は大きさの不統一な縦板が使用され、東側6枚、西側4枚、南側約4枚、北側3枚あり、現存している範囲では上下2段分の横桟によって押さえられていた。上部の横桟は径0.02mほどでかなり腐食した状態であった。下段の横桟は方形に加工された角材で、それぞれホゾで組まれ、その内法は0.63～0.68mであった。中央には径0.41～0.43mの曲物が2段組で据えられていた。曲物周囲は平瓦が立てた状態で敷き詰められていた。平瓦は欠損は少ないものの、変形が目立つため、不良品が用いられたもの

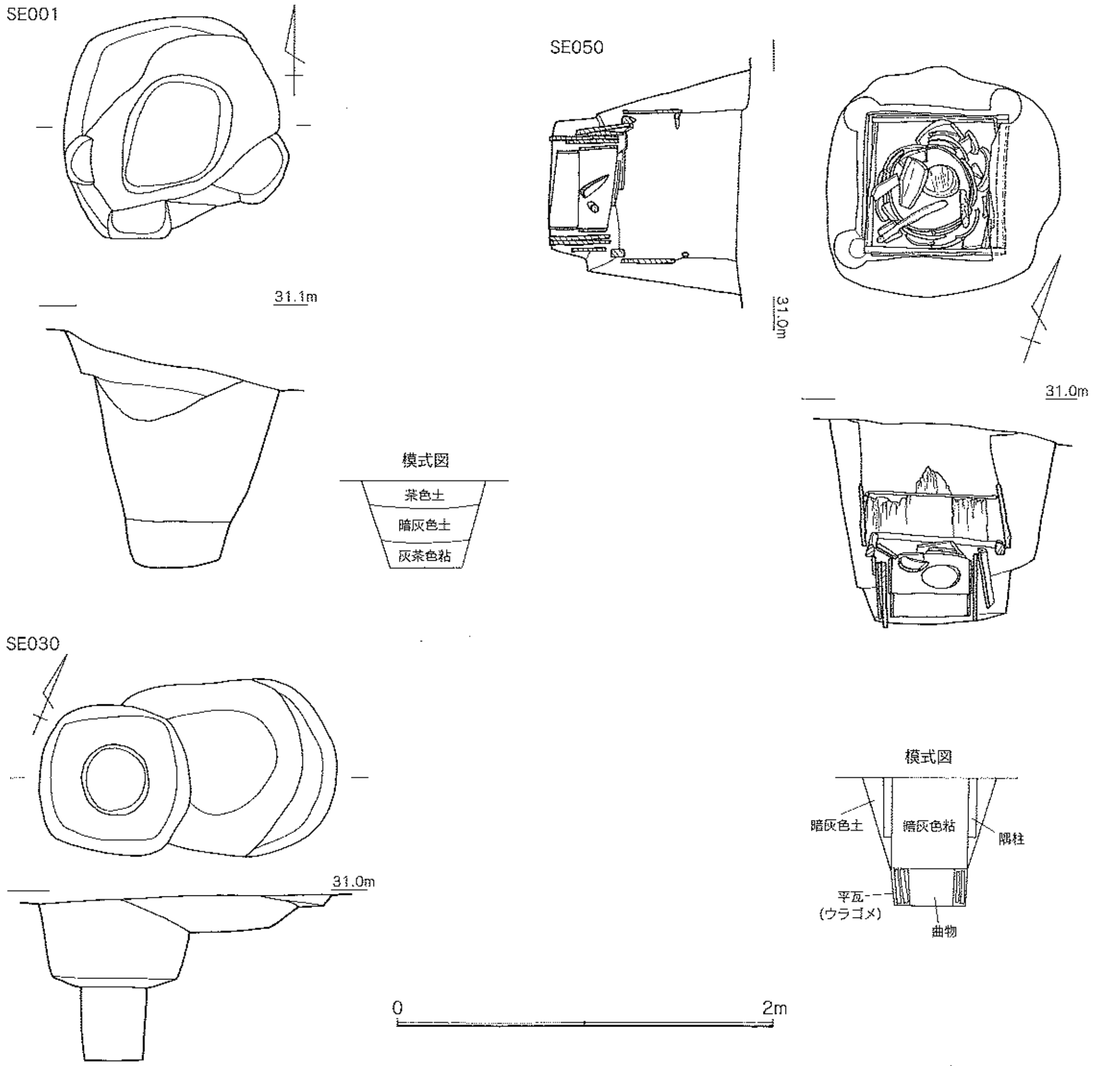


Fig.97　第236-2次調査井戸実測図（1/40）

と推測される。曲物内からは汲み上げ用とみられる曲物が出土し、曲物検出面のレベルから滑石製石塔の残欠が出土した。

土坑

236-2SK010（Fig.98）

大きさ1.6×1.8m、深さ0.5mの円形の土坑である。埋土はほぼ単層だが、下層がやや砂質である。

236-2SK015（Fig.98）

大きさ2.1×1.6m、深さ0.73mの楕円形の土坑である。埋土は大きく2層で下層に奈良時代の遺物が多く、上層にはXII期前後の遺物が多く出土する。

236-2SK025（Fig.98）

大きさ1.6×1.4m、深さ1.07mの円形の土坑である。トレンチによって切られている。埋土の中央の土質が異なっており、堆積中の沈み込みが窺える。形状から井戸の可能性も考えたが、雨水等の染み込みが速く、とても湧水または貯水は不可能とみられ、土坑として報告する。

236-2SK040

東西1.58m、南北2.05m、深さ0.25mの楕円形の土坑である。埋土は暗灰色土で底面には埋土がやや凸凹に食い込んでいた。

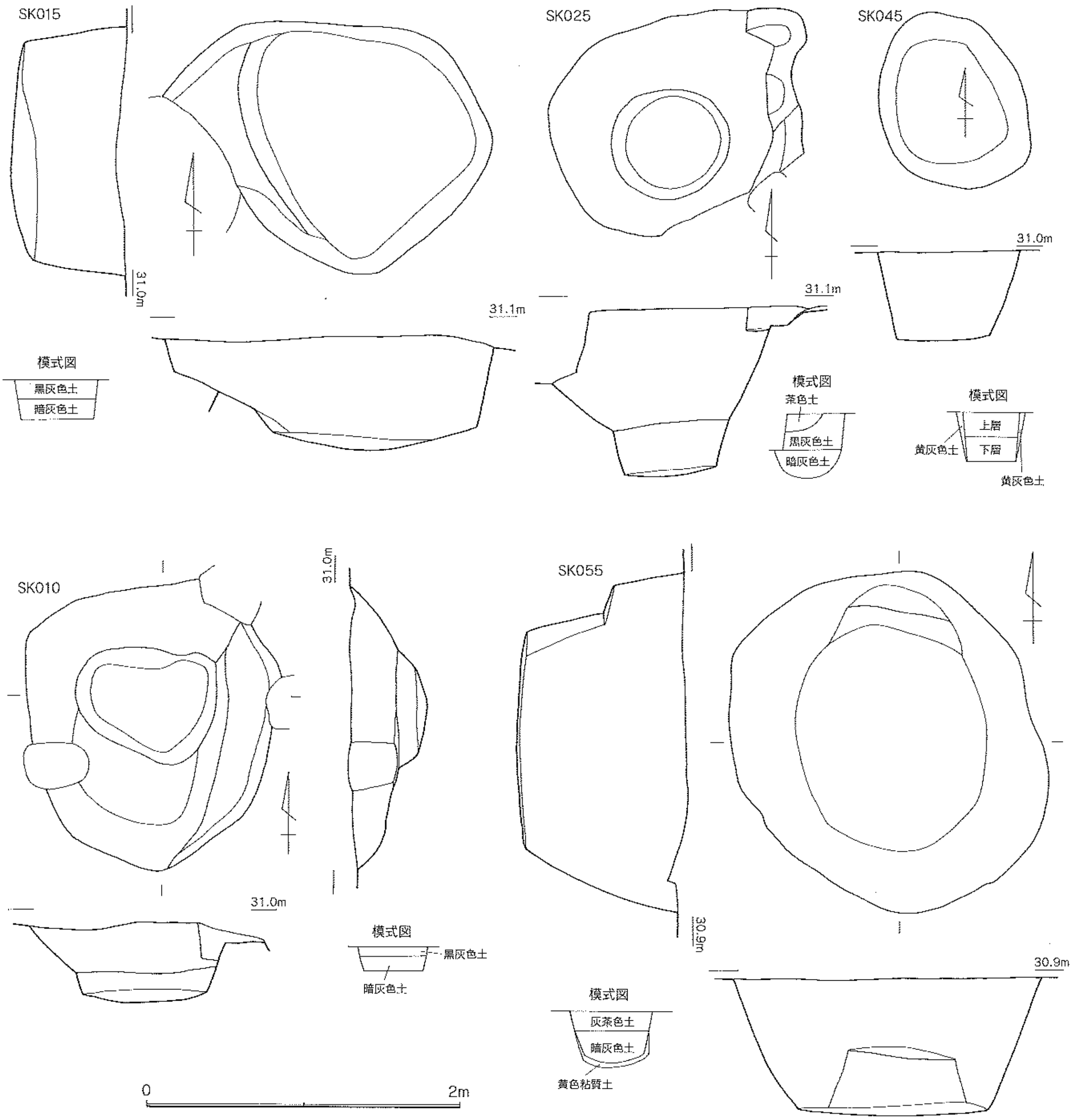


Fig.98　第236-2次調査土坑実測図（1/40）

236-2SK045（Fig.98）

東西0.96m、南北1.15m、深さ0.68mの楕円形の土坑である。埋土は暗灰色粘質土で、地山との境に黄灰色土があり、調査時はきれいに捲れる状態であった。埋土中に木片が少量出土したため、井戸の可能性も考えられる。

236-2SK055（Fig.98）

大きさ2.0×2.2m、深さ0.88mの楕円形の土坑である。遺構検出時は井戸とみられたが、井戸枠などの残骸すら出土しないこと、壁際に地山と似ている埋土が自然堆積した状況とみられるから井戸ではなく、土坑と推測される。

236-2SK085

東西2.6m、南北3.05m、深さ0.7mの不定形の土坑で、SD080との切り合いが不明瞭である。埋土はほぼ暗灰色土の単層である。

その他の遺構

236-2SX070

調査区北西隅で検出されたが、上面は表土剥ぎの段階で、重機によって除去している。底面はかなり凸凹していて、暗灰色粘質土で埋まっていた。南北幅約20m、深さは約0.8mを測る。大きさや部分的に粘土層が残っていることから、土取りの跡と推測される。

236-2SX032

大きさは0.5～0.52m、深さ0. 5mの円形ピットである。

236-2SX034

大きさは0.66～0.68m、深さ0.25mの円形ピットである。

236-2SX038

大きさは0.26～0.3m、深さ0.4mの円形ピットである。

236-2SX020

南北6.0m、東西3.0m以上で、西側は調査区外に続く。深さ0.05～0.15mと浅く、土坑というより窪みのような状況である。埋土は灰色土である。

その他にも同様の埋土で、不定形な土坑が調査区中央付近の軟弱地盤を中心に検出された。

(4) 出土遺物

溝

236-2SD005出土遺物（Fig.99）

龍泉窯系青磁

椀（1） IV類。

肥前系磁器

椀（2～5） 青色で文様を施した染付である。2は復元高台径5.5cm。3は高台畳付が露胎。復元高台径3.9cm。4は高台畳付と高台内面に付着物がある。5は内面露胎。

国産陶器

急須（6） 茶漉し穴が3つ開けられている。外面は乳白色の釉を施すがかなり剥落している。

236-2SD035出土遺物（Fig.99）

須恵器

坏c（7） 灰白色の胎土で、体部はやや丸味があり、内面は不定方向のナデを施す。

土師器

甕（8） 口縁部内面はハケ、体部は内面ヘラケズリ、外面タテハケ。口縁部との境は明瞭な稜線を有する。

236-2SD080灰茶色土出土遺物（Fig.99）

土師器

小皿a（9） 内外面とも摩滅が著しい。

丸底坏（10・11） 口縁部を僅かに外反させる。

黒色土器

椀（12・13） 12は体部下半に指頭圧痕が、内面にはミガキが残る。復元口径14.0cm。13はやや外

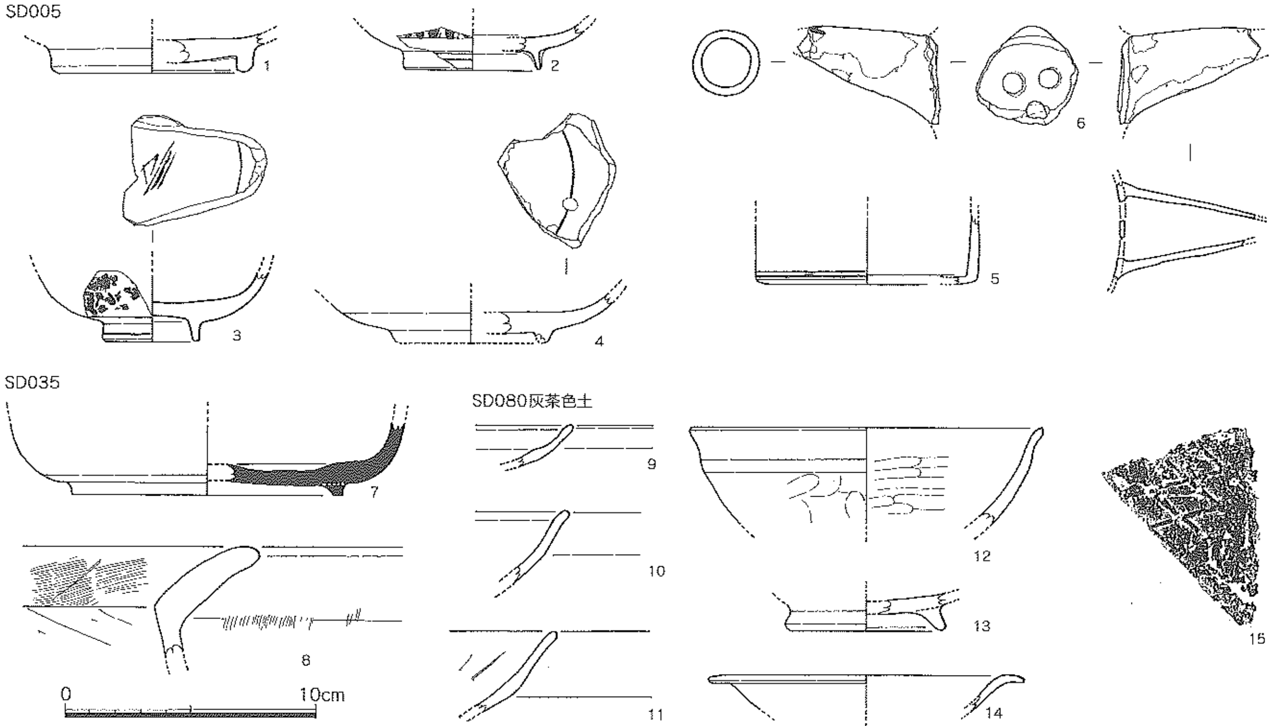


Fig.99　第236-2次調査溝出土遺物実測図（1/3）

開きの高台を貼付する。復元高台径6.3cm。

白磁

椀（14）　胎土は淡白灰色で、やや緑がかった淡灰白色釉を施す。口縁部は大きく外反する。復元口径12.5cm。

瓦類

破片（15）　菱形の斜格子。

井戸

236-2SE001茶色土出土遺物（Fig.100）

土師器

小皿a（1～7）　口径9.8～10.8cm。器高1.2～1.8cm、底径7.5～8.8cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a（8）　口径15.0cm、器高4.1cm。内面ミガキbで、上部にコテ当て痕残る。

黒色土器

椀c（9）　復元口径16.2cm、器高5.3cm、高台径6.9cm、内外面に細かいミガキ。B類。

236-2SE001暗灰色土出土遺物（Fig.100）

土師器

小皿a（10～17）　口径9.4～10.4cm。器高1.0～1.3cm、底径5.8～8.8cm。確認できるものは全て底部回転ヘラ切り。

丸底坏（18～20）　全体的に磨滅が目立つが、体部中位でやや屈曲し外反している。

黒色土器

椀ｃ（21）　三角形状の低い高台を貼付し、内外面にミガキcを施す。高台径6.2cm。

236-2SE001灰茶色粘土出土遺物（Fig.100）

土師器

小皿a（22・23）　口径10.6cmと9.6cm。底部は回転ヘラ切り。

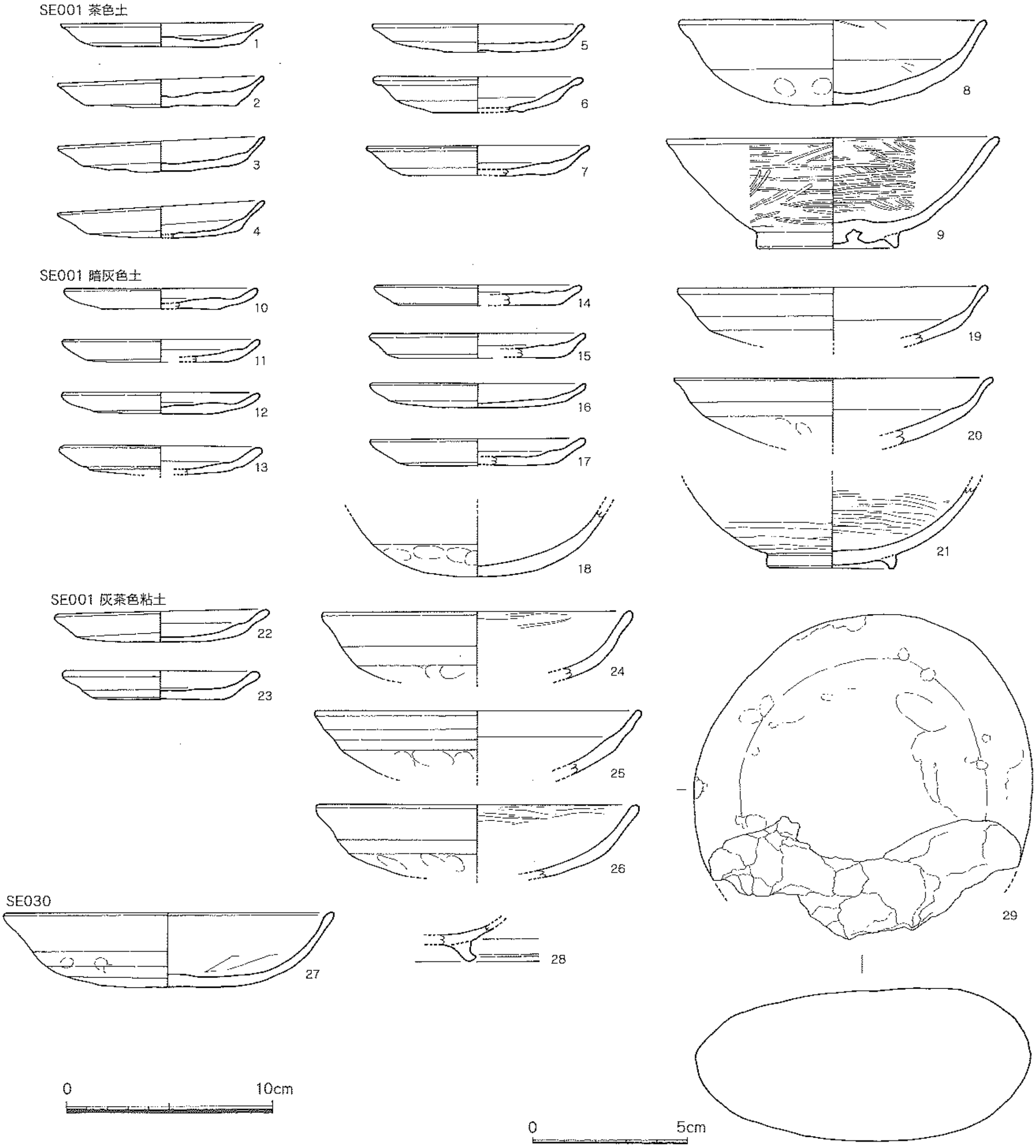


Fig.100　236-2SE001・030出土遺物実測図（1/3、29は1/2）

丸底坏（24～26）　体部下半に指頭圧痕が残る。内面下半を中心にミガキbが確認できる。

236-2SE030出土遺物（Fig.100）

土師器

丸底坏a（27）　全体的に丸味があり、内面にミガキbを施す。復元口径16.0cm、器高3.6cm。

黒色土器

椀c（28）　高台は端部を外側に跳ね上げている。

石製品

磨石（29）　大きさは10.8cm×10.3cm、厚さ4.8cmの円形で、一部欠損している。部分的に火を受けて黒色に変色している。石材は礫岩。

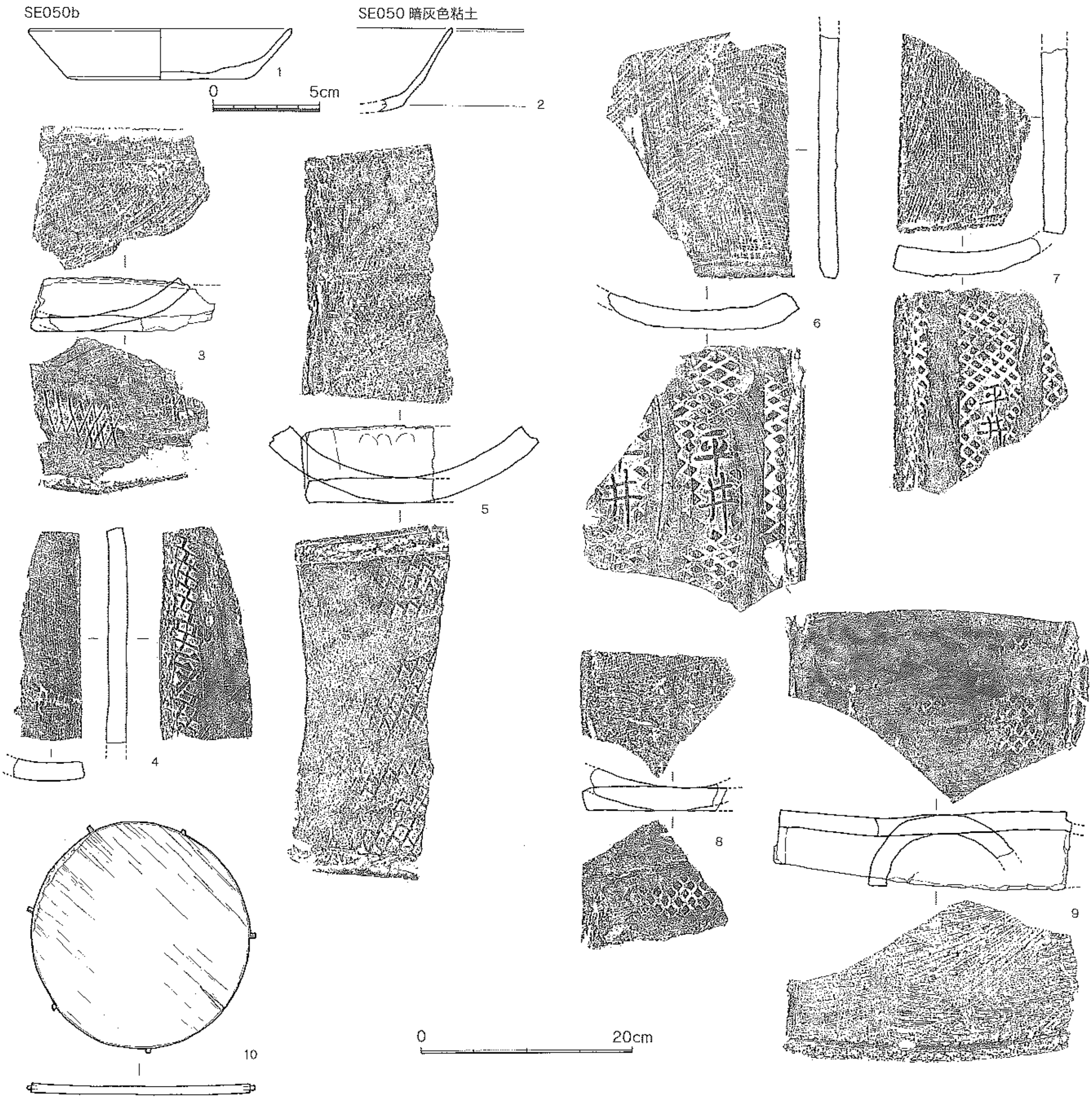


Fig.101　236-2SE050出土遺物実測図（1・2は1/3、1/6）

236-2SE050b出土遺物（Fig.101）

土師器

坏a（1）　復元口径12.3cm、器高2.4cm。

236-2SE050暗灰色粘土出土遺物（Fig.101・102）

土師器

坏a（2）　全体的に磨滅が目立つが、底部がやや出っ張っている。色調は淡黄色を呈する。

瓦類

平瓦（3～8）　3は横長の格子叩きで一部二重になっている。4・5はウラゴメに使用された平瓦と同じく不整合な格子と三角形を組み合わせた叩き。6～8は斜格子が陰文で、6・7は「平井」銘がある。

丸瓦（9）　斜格子が陰文。内面には布目痕と弓切痕が残る。

木製品

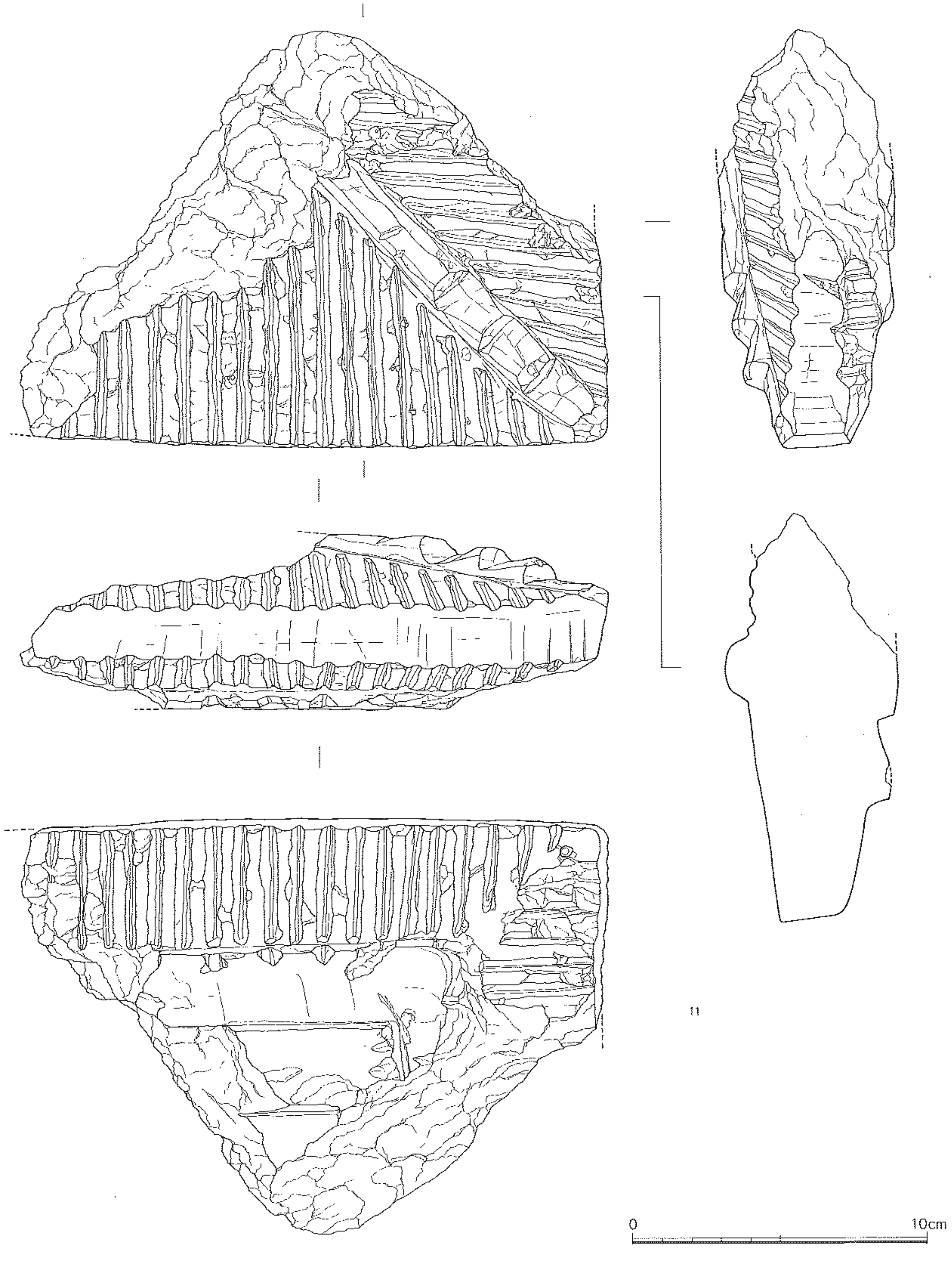


Fig.102　236-2SE050暗灰色粘土出土遺物実測図（1/2）

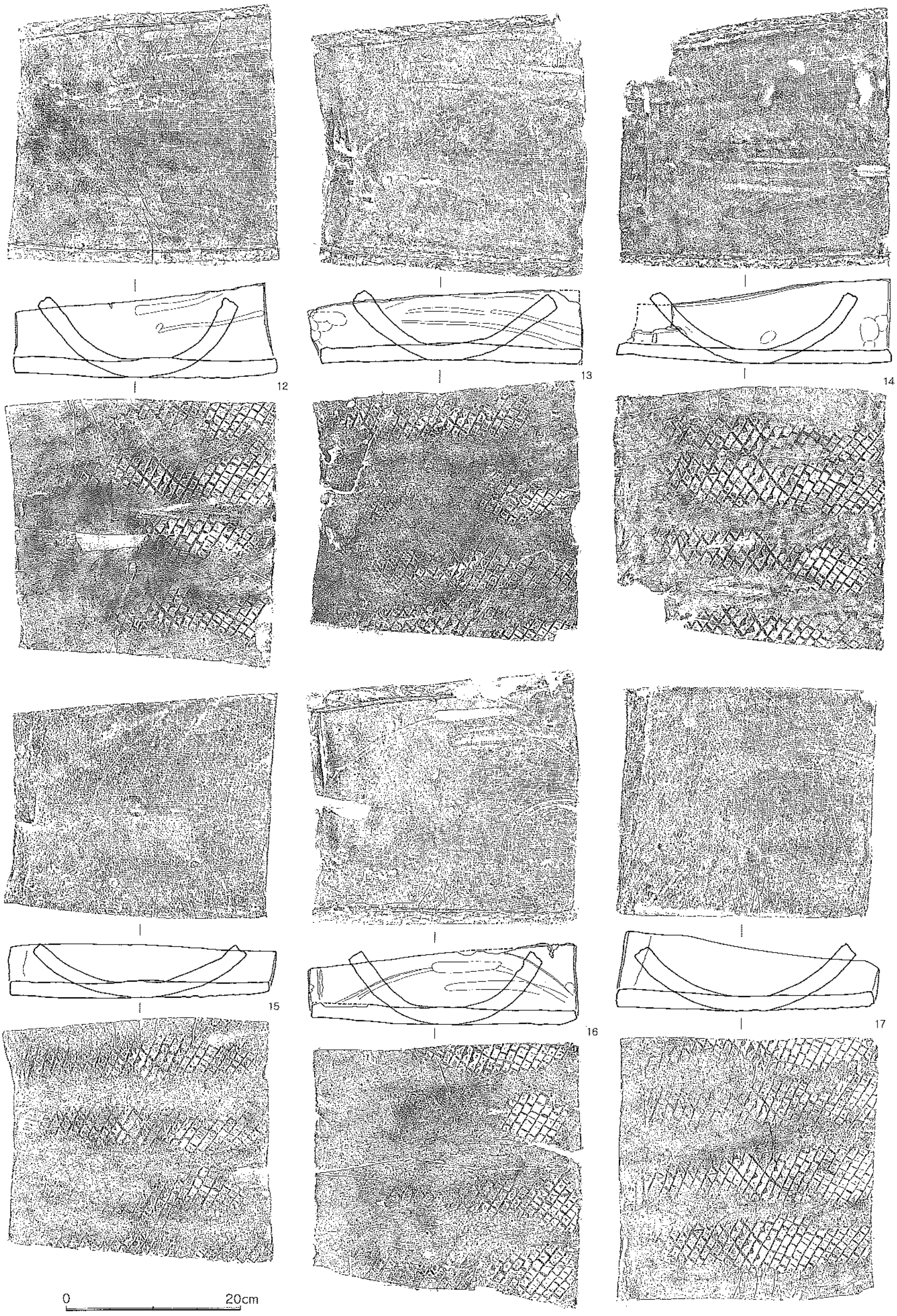


Fig.103　236-2SE050ウラゴメ出土遺物実測図①（1/6）

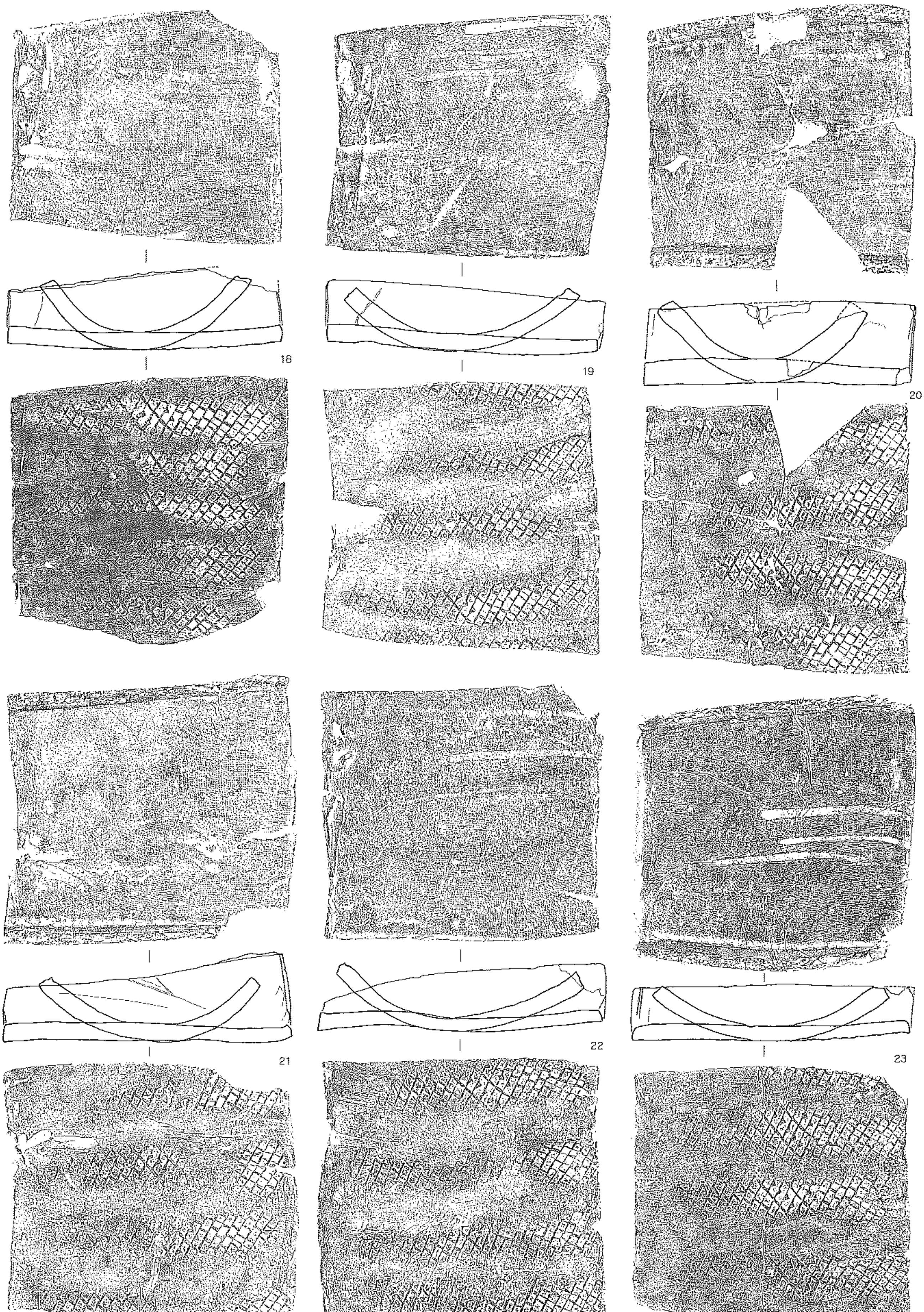


Fig.104　236-2SE050ウラゴメ出土遺物実測図②（1/6）

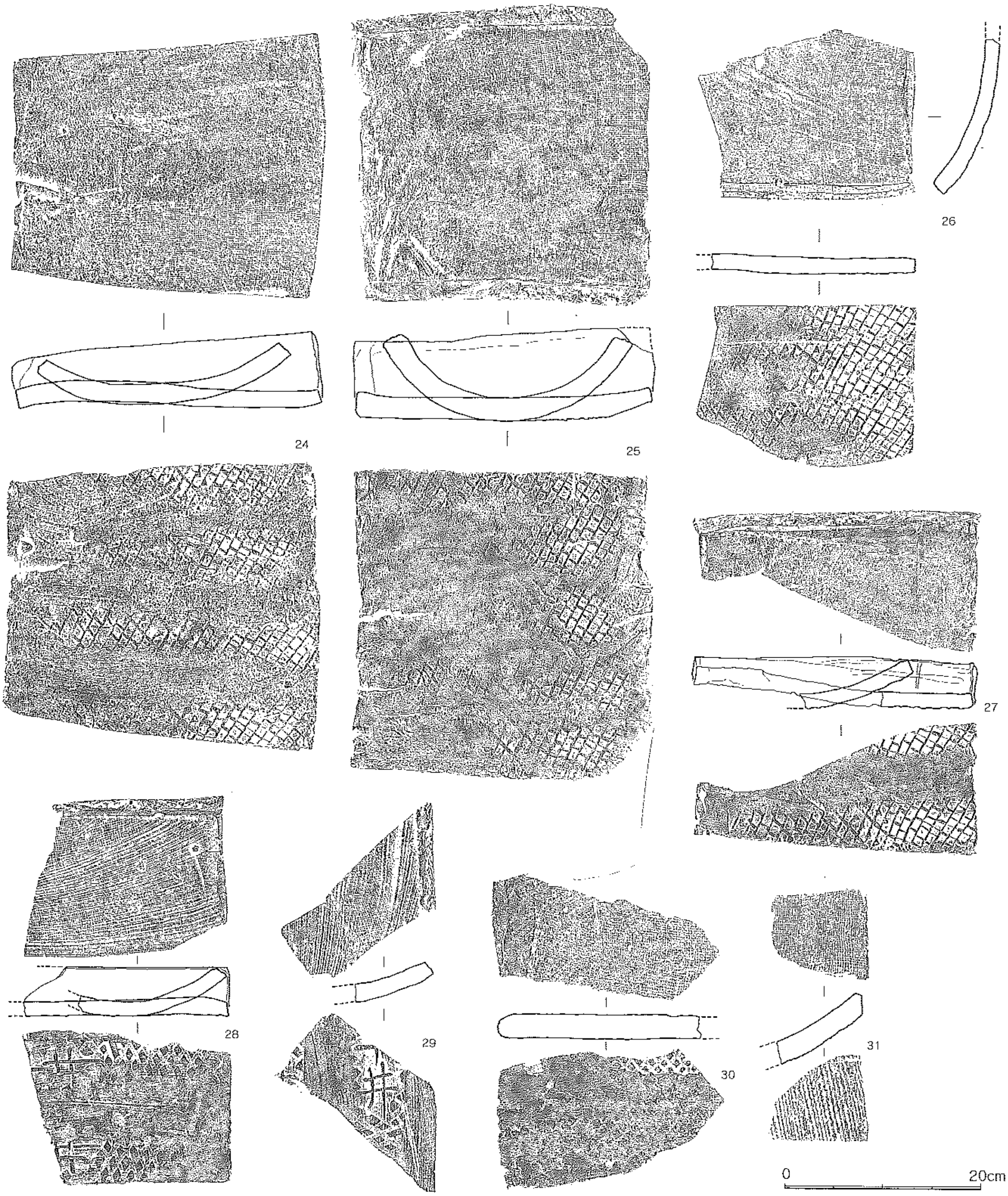


Fig.105　236-2SE050ウラゴメ出土遺物実測図③（1/6）

曲物底板（10）　曲物の側板を留める7ヶ所（6ヶ所に木釘残存）の木釘穴がある。径21.8cm。

石製品

滑石製屋蓋（11）　屋蓋の隅棟部分の破片で、大きさは19.8cm×14.0cm、高さ5.8cmで、石材は淡い緑色を帯びた滑石製である。

屋根は緩い傾斜で作られ、約1cm間隔で溝を掘り、断面台形状に丸瓦を表現しているが、瓦塔などで見るような瓦一枚毎を表現した削り出しはなく、平瓦の表現も全くない。また、軒先瓦の表現も全くなく、

平坦に仕上げている。屋根の降棟には鬼瓦を模した3段の段差が作られている。側面から見ると降棟の先端部に向かって若干上方に反りが認められる。

裏側は屋根と同じく約1cm間隔で溝を掘り、断面台形状に垂木を表現している。垂木は平行（平行垂木）に並んでいる。先端部分には風鐸などを嵌め込むための径0.4cm、深さ1cmの円孔が彫られている。垂木の内側にある桁のような部分には1.9cm間隔で刻み目がみられる。

この遺物以外に破片の出土はなく、残存部分からも全体形状を復元することは困難である。表面に残るケズリなどの加工痕は明瞭に確認でき、風雨に晒された感じは受けないため、製作後早い段階で破棄されたか、屋内にあった可能性が考えられる。

236-2SE050ウラゴメ出土遺物（Fig.103～105）

瓦類

平瓦（12～31） 12～27は殆どが完形に近く、焼成も良好であるが、歪んでいるものが多く、不良品であったとみられる。大きさは、縦31cm前後、横25cm前後、厚さ2cm前後である。外面の叩きは長方形を組み合わせたもので、長辺方向には並んでいるが、短辺方向には並んでいない不統一な叩き目を示す。格子の中に一部三角形を作っている。28～30は斜格子が陰文で、30は正格子に近い。28･29は「平井」銘がある。31は縄目叩き。

土坑

236-2SK010黒灰色土出土遺物（Fig.106）

須恵器

蓋c3（1） つまみは欠損。外面天井部回転ヘラケズリ、その内面はナデ。復元口径14.6cm。

蓋3（2） 外面は口縁部近くまで回転ヘラケズリ。

椀c（3） 体部に丸味があり、やや外開きの高台を貼付する。内面底部付近は粗いナデ。

皿a（4） 小片であり、口径復元にはやや無理があるが、20.0cmを測る。全面回転ナデ。

土師器

甕（5） 体部内面はヘラケズリ、外面タテハケ、口縁部は内外面ともヨコナデを施す。胎土には金雲母を含み、色調は外面茶褐色、内面暗茶黒色を呈する。

236-2SK010暗灰色土出土遺物（Fig.106）

須恵器

高坏（6） 酸化し茶褐色を呈する。内外面とも回転ナデ。復元底径は7.4cm。

236-2SK015黒灰色土出土遺物（Fig.106）

土師器

小皿a（7～10） 復元口径8.7～9.5cm、器高0.7～1.7cm。底部ヘラ切りで、内面はナデ。

丸底坏a（11） 外面は器面がやや荒れている。下半に僅かに指頭圧痕が残る。内面にミガキbを施す。

黒色土器

椀（12） 外面は器面が荒れていてミガキの残りは悪い。内面はミガキc。

236-2SK015暗灰色土出土遺物（Fig.106）

須恵器

坏（13） 内外面とも回転ナデ。

高坏（14） 脚部は内外面とも回転ナデ。坏部内面はナデを施す。焼成はやや不良である。

土師器

坏（15） 内外面とも丁寧な回転ナデを施す。胎土は砂粒を僅かに含み橙褐色を呈する。

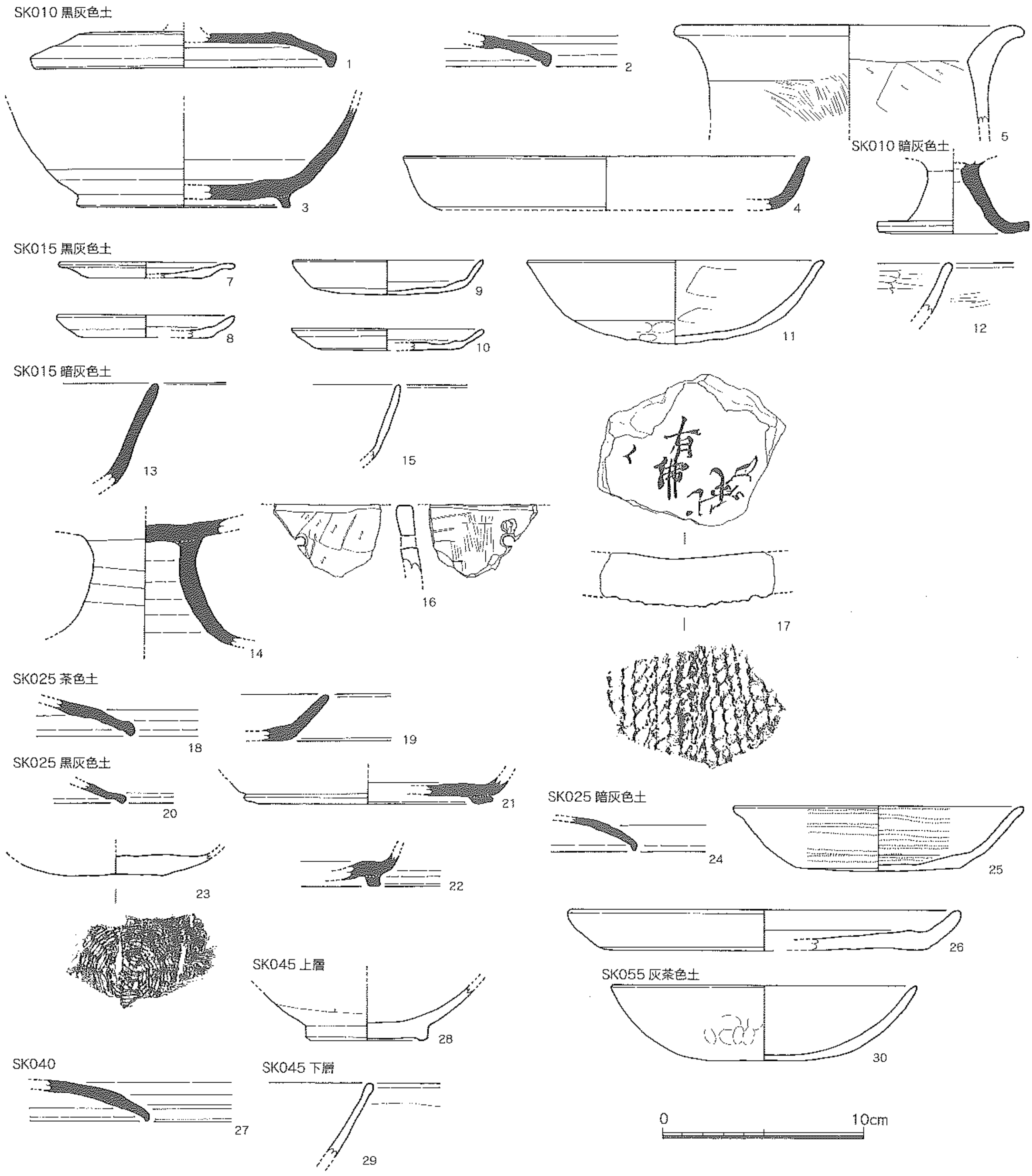


Fig.106　第236-2次調査土坑出土遺物実測図①（1/3）

甕（16）　小片のため全形が不明瞭だが、甕の一部と判断した。径0.5cmの円孔を穿ち、その上に同じ大きさの穴があるが貫通はしてない。そして、横方向のキズもみられる。内面はヘラケズリ、外面は細かいハケ。胎土は白色砂粒を含み茶褐色を呈する。

瓦類

平瓦（17）　表に墨書があり、「有佛」のほかに「イ」のような文字、そして、もう1ヶ所文字が書かれているが、重なり合っているため、詳細は不明である。一部文字として認識し難い部分があるため、習書や筆慣らしである可能性も考えられる。裏面は縄目叩きである。焼成は不良で白灰色を呈する。

236-2SK025茶色土出土遺物（Fig.106）

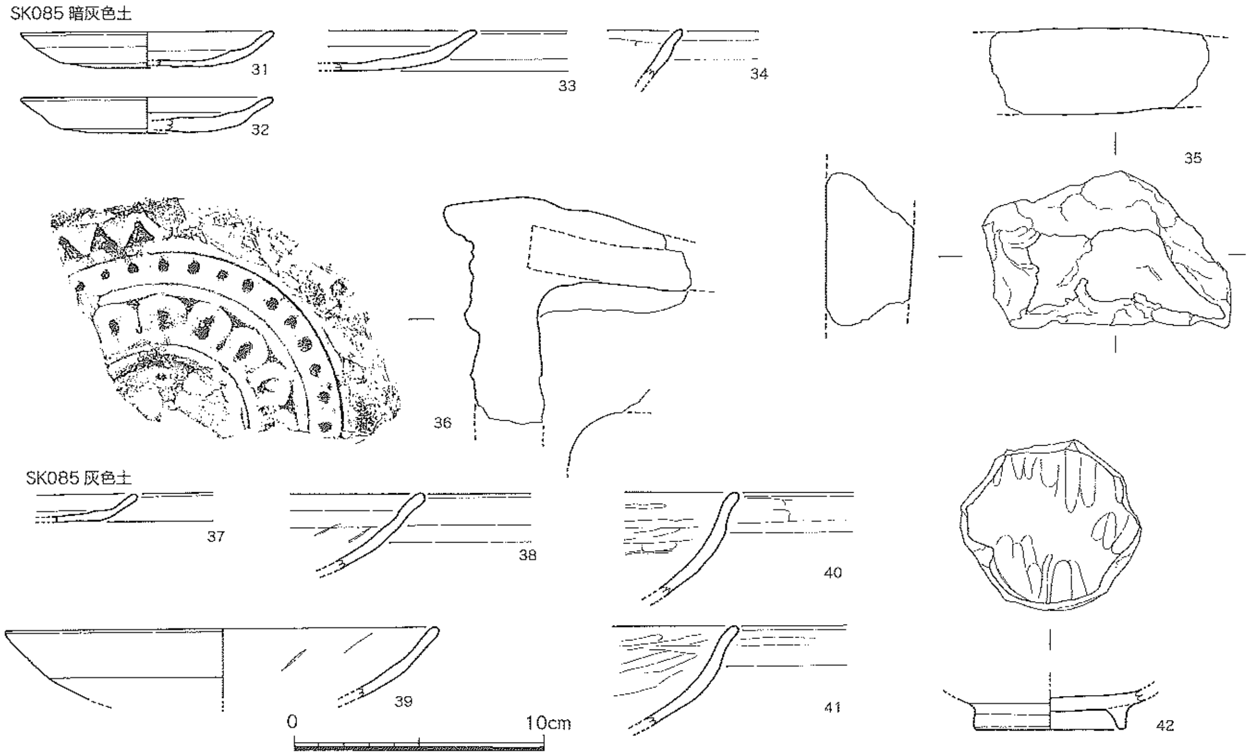


Fig.107　第236-2次調査土坑出土遺物実測図②（1/3）

須恵器

蓋3（18）　外面の上半部にはヘラケズリの後未調整。

皿a（19）　全面回転ナデ。

236-2SK025黒灰色土出土遺物（Fig.106）

須恵器

蓋3（20）　口縁端部は三角形状につまむ簡単な成形している。

坏c（21・22）　21は還元焼成が不良で、つぶれた高台を貼付する。22は方形の高台を貼付する。

縄文土器

壷？（23）　砂粒を含むが比較的精製されていて、橙褐色を呈する。網目籠に粘土を押し込んで作ったとみられる土器である。焼成がよく縄文土器ではない可能性もある。

236-2SK025暗灰色土出土遺物（Fig.106）

須恵器

蓋3（24）　体部上半部は回転ヘラケズリの後ナデ調整。

土師器

坏d（25）　内外面とも回転ナデの後ミガキaを施す。底部は回転ヘラケズリ。

皿a（26）　内面底部はミガキ気味の強いナデ。外面底部はヘラ切りの後ナデ調整。

236-2SK040出土遺物（Fig.106）

須恵器

蓋3（27）　口縁端部が僅かに三角形状につまんで成形している。外面上部は口縁部近くまで、回転ヘラケズリが施されている。内面はヘラケズリと対応して不定方向のナデを施す。

236-2SK045上層出土遺物（Fig.106）

白磁

椀（28）　IV-1a類。

236-2SK045下層出土遺物（Fig.106）

灰釉陶器

椀（29） 淡灰緑色の釉が薄く掛かり、非常に細かい貫入が入る。

236-2SK055灰茶色土出土遺物（Fig.106）

土師器

丸底坏a（30） 全体的に磨滅しているが、体部下半に指頭圧痕が残る。

236-2SK085暗灰色土出土遺物（Fig.107）

土師器

小皿a（31～33） 全て底部は回転ヘラ切り。口径は31が10.0cm、32が10.1cm。

灰釉陶器

椀（34） 口縁端部で僅かに外反する。内面に釉がみられるが端部は露胎。

土製品×瓦類（35） 表面が劣化しているため、全容が不明だが、塼か瓦の残片かもしれない。胎土は灰茶白色で砂粒を多く含む。内外面には工具によるナデ痕と布目痕が残る。厚さ3.5cm。

瓦類

軒丸瓦（36） 複弁で内縁に珠文、外縁は鋸歯文で、中房は剥落して不明瞭。

236-2SK085灰色土出土遺物（Fig.107）

土師器

小皿a（37） 内面に不定方向ナデ。

丸底坏（38・39） 体部は明瞭な内面にミガキbのコテ当て痕が残る。

黒色土器

椀（40・41） 2点とも口縁端部を外反させる。回転ナデのあとミガキc。B類

椀c（42） 内面底部に手持ちのヘラミガキを施す。高台径6.0cm。

その他の遺構

土取り遺構

236-2SX070出土遺物（Fig.108）

白磁

椀（1・2） 1はII類。2はIV類。

同安窯系青磁

皿（3） I類。復元口径12.8cm。小片のため復元径がやや正確性に欠ける。

緑釉陶器

皿（4） 須恵質で、削り出しの円盤高台。底部外面は削り出し後丁寧なナデ、内面も丁寧にナデられている。釉は全く残っていない。復元底径6.4cm。京都系。

瓦類

平瓦（5・6） 5は斜格子が陰文で、大きめの「平井」銘がみられる。6は細長い不規則な格子叩き。

ピット

236-2SX032出土遺物（Fig.108）

土師器

小皿a（7～11） 全体的に磨滅が目立つ。復元口径8.8～10.4cm、器高0.9～1.2cm、復元底径5.9～7.8cm。

丸底坏a（12～16） 12～15は体部中位に屈曲は殆どみられない。内面ミガキb。外面下半は底部押し出しで指頭圧痕が残る。復元口径14.8～16.6cm。

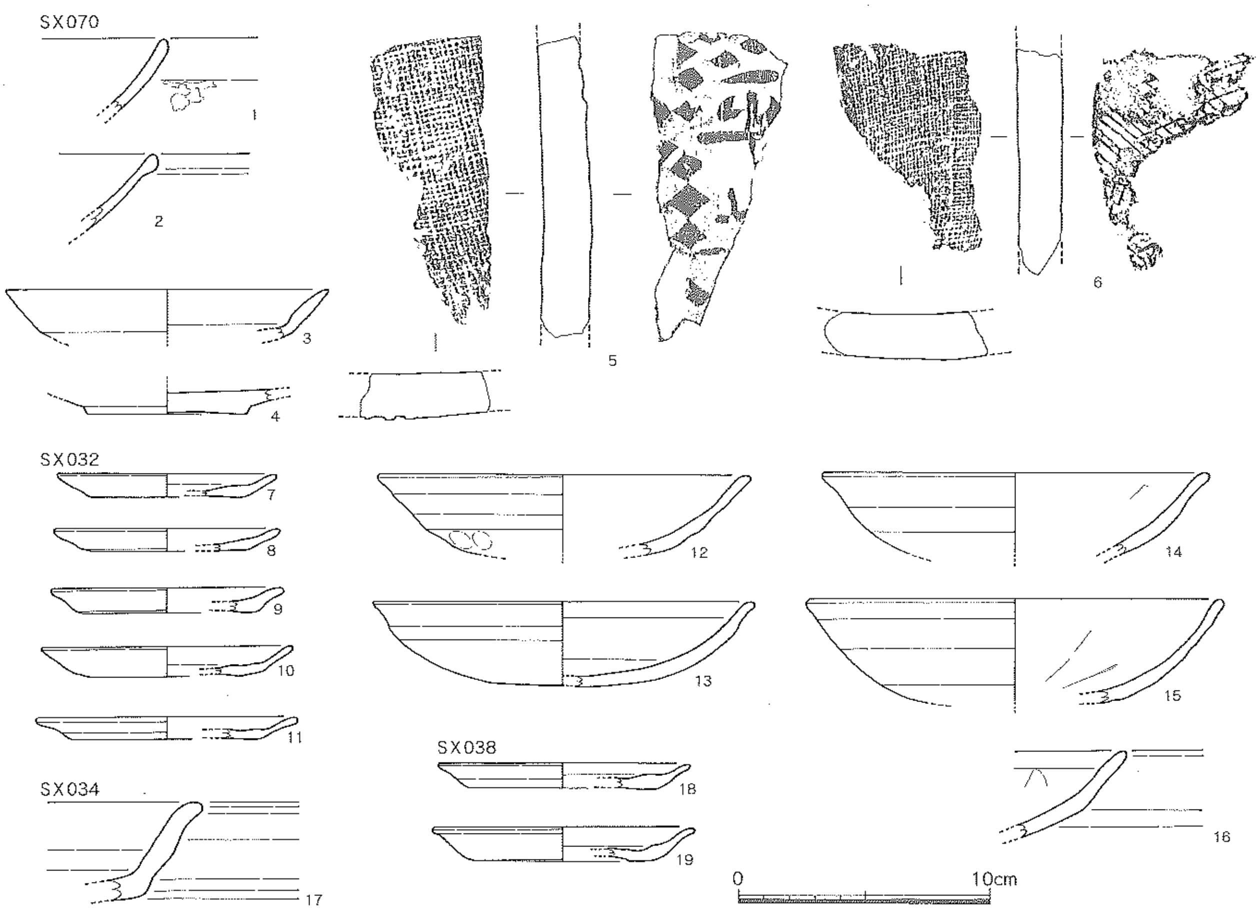


Fig.108　第236-2次調査その他の遺構出土遺物実測図①（1/3）

236-2SX034出土遺物（Fig.108）

土師器

盤（17）　小片で全形が掴めないが、盤のような形状をしていたものとみられる。外面下半はナデ、底部内面は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。口縁端部は黒色を呈する。

236-2SX038出土遺物（Fig.108）

土師器

小皿a（18・19）　18は底部回転糸切り。復元径10.0cm。19は回転ヘラ切り。復元径10.4cm。

窪み

調査区の中央付近で不定形な窪みが多く確認され、それぞれに遺構番号を付して調査を行った。よって、遺物の時期も微妙に異なるため、統一番号を付けずに調査時のまま報告する。

236-2SX020暗灰色土出土遺物（Fig.109）

須恵器

坏c（20）　底部外面は回転ヘラ切り後未調整。その中央付近に同心円の墨書が見られる。

土師器

丸底坏a（21）　体部中位に指頭圧痕がみられ、底面に板状圧痕が残る。

236-2SX041出土遺物（Fig.109）

須恵器

坏c（22～25）　方形の低い高台で復元高台径7.6～10.0cm。25は底部端近くに高台を貼付する。

236-2SX049出土遺物（Fig.109）

須恵器

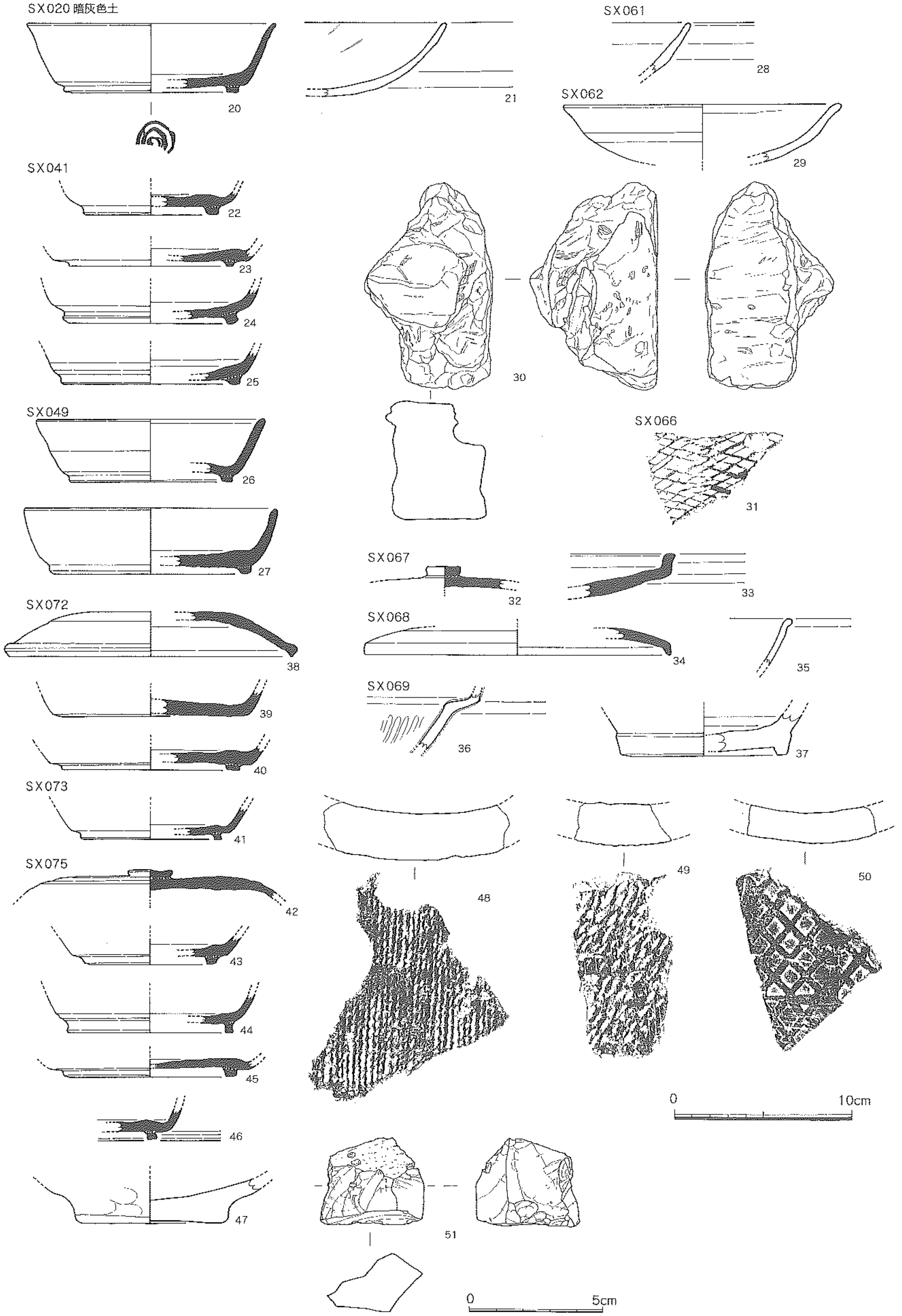


Fig.109　第236-2次調査その他の遺構出土遺物実測図②（1/3、51は1/2）

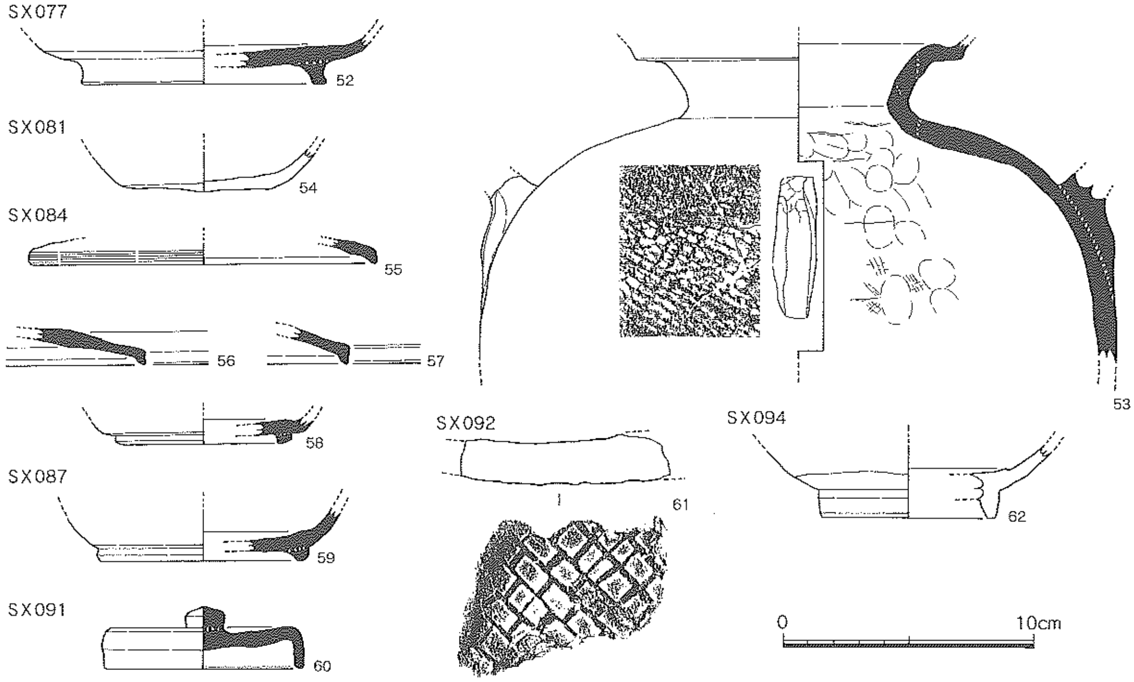


Fig.110　第236-2次調査その他の遺構出土遺物実測図③（1/3）

坏c（26・27）　復元口径12.8cmと14.2cm。底部端近くに高台を貼付する。

236-2SX061出土遺物（Fig.109）

土師器

丸底坏（28・29）　体部中位で僅かに屈曲する。29は屈曲部分から下位に指頭圧痕が残る。

236-2SX062出土遺物（Fig.109）

土製品

土塊（30）　全体的に籾やスサ痕跡がみられ、一部棒のようなものがあった痕跡が残る。胎土は0.3～0.5cmの砂粒も含むが、全体的に精製されている。色調は黄橙色を呈する。平坦面もあり、土壁であった可能性が考えられる。

236-2SX066出土遺物（Fig.109）

瓦類

平瓦（31）　斜格子。

236-2SX067出土遺物（Fig.109）

須恵器

蓋c（32）　ボタン状のツマミが貼付され、内面ナデ、外面回転ヘラケズリ。

高坏b（33）　坏部外面下半は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。

236-2SX068出土遺物（Fig.109）

須恵器

蓋3（34）　外面上部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。

白磁

椀（35）　V-3類。

236-2SX069出土遺物（Fig.109）

龍泉窯系青磁

盤（36）　III類。

中国陶器

壷（37） Ⅳ-3b類。

236-2SX072出土遺物（Fig.109）

須恵器

蓋3（38） 口縁端部は三角形を呈し、外面頂部は回転ヘラケズリ、それ以外は回転ナデ。

坏a（39） 底部外面は粗いナデで、粘土紐痕跡が残る。内面はナデ。復元底径11.0cm。

坏c（40） 低い高台を貼付し、底部は内外面とも丁寧なナデを施す。復元高台径9.9cm。

236-2SX073出土遺物（Fig.109）

須恵器

坏c（41） 底部内面は粗いナデ。復元高台径7.9cm。

236-2SX075出土遺物（Fig.109）

須恵器

蓋c（42） 外面上部は回転ヘラケズリ、内面はヘラケズリに対応してナデがみられる。

坏c（43～46） 復元高台径7.4～9.6cm。43の体部は外開きになる様子が窺える。44は細い高台で、底部内外面ともナデ。45も底部内外面ともナデ。46は方形高台を簡単に貼付する。

弥生土器

甕（47） 復元底部径8.6m。全体に器面はかなり荒れている。部分的に指頭圧痕や一次焼成の変色が見られる。

瓦類

平瓦（48～50） 48は細かい縄目叩き。49は粗い縄目叩き。50は正方形のやや太い格子叩き。

石製品

剥片（51） 大きさは3.2×3.8×2.2cmで、一部自然面が残る。安山岩製。

236-2SX077出土遺物（Fig.110）

須恵器

坏c（52） 復元高台径9.8cm。内面は平行ナデ。

壷（53） 口縁部は屈曲し二重になっていて、端部を欠損する。耳部が1ヶ所残存する。外面は叩きの後ナデ、内面は雑なナデで、布目痕が残る。全体的に器面が荒れている。

236-2SX081出土遺物（Fig.110）

土師器

坏a（54） 全体的に磨滅している。底径5.3cm。

236-2SX084出土遺物（Fig.110）

須恵器

蓋3（55～57） 55は復元口径13.8cm。56は上面が回転ヘラ切りのあと雑なナデ。

坏c（58） 高台は方形で外側を若干上げている。復元高台径7.0cm。

236-2SX087出土遺物（Fig.110）

須恵器

坏c（59） やや丸味のある体部で、その端部に高台を貼付する。内面ナデ。復元高台径8.4cm。

236-2SX091出土遺物（Fig.110）

須恵器

壷蓋（60） 口縁端部を内側に斜めに作っている。径8.0cm、器高2.4cm。

236-2SX092出土遺物（Fig.110）

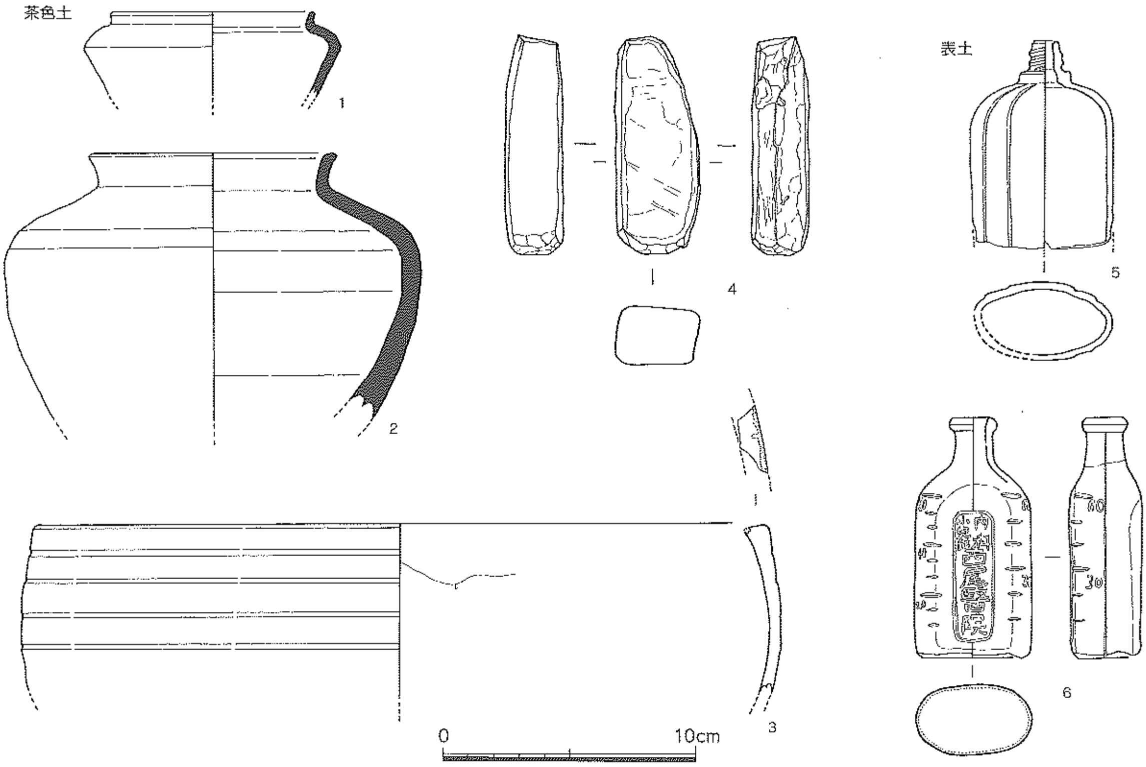


Fig.111　第236-2次調査茶色土・表土出土遺物実測図（1/3）

瓦類

平瓦（61）　不整合で形が不統一な格子叩きである。

236-2SX094出土遺物（Fig.110）

白磁

椀（62）　V類。

第236-2次調査茶色土出土遺物（Fig.111）

須恵器

短頸小壺（1）　復元口径8.0cm。内外面とも回転ナデ。

壺a（2）　復元口径9.8cm。内外面とも回転ナデ。内外面の一部には自然釉がみられる。

輸入陶磁器

鉢（3）　広東系白磁もしくは長沙窯系青磁。口縁部内面上部が露胎。口縁部上面に目跡が残る。外面に条痕を巡らす。胎土は少量の黒粒が入り、釉はやや黄色味を帯びた白色で、細かく貫入が入る。口縁部内面上部が露胎。復元口径28.8cm。

土製品

棒状土製品（4）　長さ8.6cm、幅3.3cm、厚さ2.3cm。側面に接合痕がみられる。全体はナデで、焼成は硬質。

第236-2次調査表土出土遺物（Fig.111）

国産磁器

瓶（5）　白色の陶器で、薬瓶とみられる。

ガラス製品

瓶（6）　薬瓶で、表面に「内科 小児科　西尾醫院」と刻まれている。

第236-2次調査撹乱出土遺物（Fig.112）

礎石（1）　大きさは105×67cm、厚さ59cm。表面には柱座が彫られていて、下端径65cm、上端径

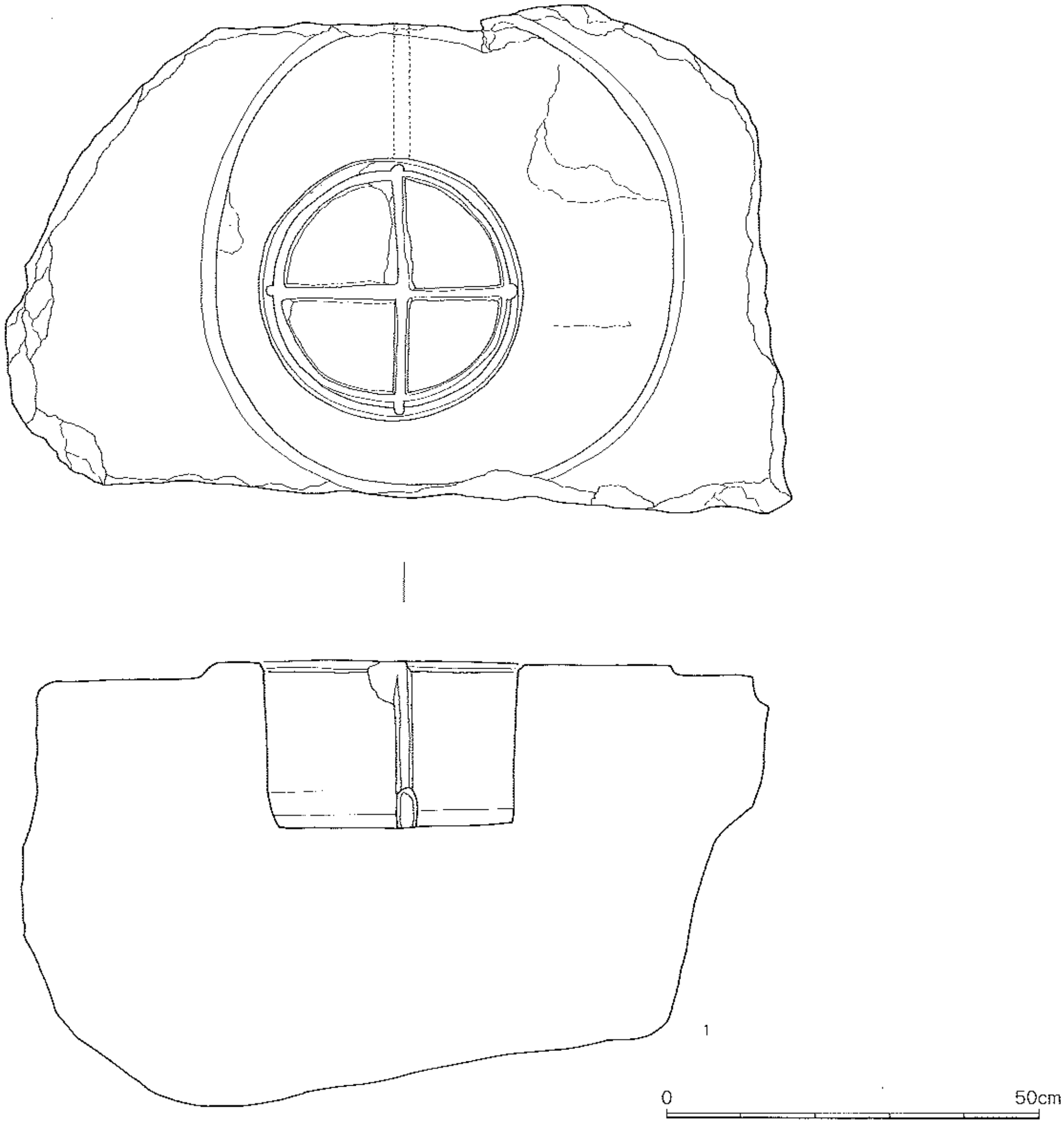


Fig.112　第236-2次調査撹乱出土遺物実測図（1/10）

62cm、高さ2cm前後を測る。柱座の中央付近には径34.5×35.5cmの穴が彫り込まれている。穴の上面は0.7cm程の段が巡らされている。穴の底には幅1.5cm、深さ1cm前後の溝が十字に彫られ、側面にも伸びている。そして、下端の１ヶ所に幅2.5cm、高さ5cmの楕円形の孔が穿たれ、13.5cmで貫通している。花崗岩製。柱座の大きさは筑前国分寺など市内で確認できる礎石と同規模である。中央の穴は近代以降に何かの柱を立てるために掘られたものと推測され、孔は水抜きの機能を持っていたと推測される。よって、これは礎石の転用と推測される。

第236-2次調査地表土採集遺物

この調査地において、近現代の撹乱が多く見られたが、その撹乱や表土からガラス製のラムネ瓶が3個表採され、現在筑紫野市在住の個人が所有されている。ラムネ瓶には「登録　飛梅　商標」「此容器他二使用或ハ賣買ヲ禁ズ」底面に「古沢」と刻まれている。このラムネを販売していたラムネ工場は、現在の五条1丁目の五条交差点の北西角に、戦後すぐまであり、白木原や雑餉隈など近隣地域に馬車や三輪車で販売に行っていた。その後工場はなくなり、金物屋や衣料品店などに変わったが、縦長の建物だけは交差点拡幅工事が行われる平成14年まで残っていた。このラムネは当時この地の住人が廃棄したものであろう。

V、第236次調査の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

【1】自然科学分析その1

大宰府条坊跡236次調査では、掘立柱建物跡や井戸跡等の遺構が検出されている。これらの中には柱、礎板、井戸枠等の建築部材が残存しているものがある。

本報告では、これらの木質遺物を対象として、遺構の構築年代を明らかにするための放射性炭素年代測定と、木材利用に関する資料を得るための樹種同定を実施する。

1.試料

(1) 放射性炭素年代測定

試料は、S-570から出土した礎板と考えられる木材2点(①,②)、S-480eの柱痕と考えられる木材1点、S-60jから出土した柱痕1点の合計4点である。S-570①とS-480eの2点は炭化物であり、残る2点は生木であった。

(2) 樹種同定

試料は、S-60jの柱痕、S-600の井戸枠2点(②,③)、S-40mの柱痕と礎板(①,②)、S-40bの柱痕と礎板(②,③)、S-385の井戸横桟の8点である。年代測定のみを実施する、S-570から出土した礎板と考えられる木材2点(①,②)、S-480eの柱痕と考えられる木材1点の3点についても樹種等の由来確認を行う。したがって、合計点数は11点となる。

2.分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HCｌにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCｌによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO^2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO^2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に$^{13}C/^{12}C$の測定も行うため、この値を用いて$\delta^{13}C$を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

(2) 樹種同定

生木試料については、剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール,アラビアゴム粉末,グリセリン,蒸留水の

混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。一方、炭化物2点については、実体顕微鏡で組織構造の有無を確認し、組織構造が認められた場合には、組織構造の特徴から種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林(1991)、伊東（1995,1996,1997,1998,1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3.結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表1、暦年較正結果を表2に示す。各試料の同位体効果の補正を行った年代値は、S-570c①は1,240±30BP、S-570c②は1,240±30BP、S-480eは1,500±30BP、

表1．放射性炭素年代測定結果

地区	遺構	番号	種類	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.
AG-12	S-570	①	炭化物	1,240± 30	-29.86±0.57	1,320± 30	IAAA-62512
AG-12	S-570	②	生木	1,240± 30	-27.74±0.52	1,280± 30	IAAA-62513
W-16	S-480e		炭化物	1,500± 30	-24.80±0.55	1,500± 30	IAAA-62514
F-6	S-60j		生木	1,590± 30	-30.84±0.55	1,680± 30	IAAA-62515

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表2．暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)		暦年較正年代(cal)		相対比	Code No.
236-1次 S-570 ①	1,244± 29	σ	cal AD 689 - cal AD 752	cal BP 1,261 - 1,198	0.668	IAAA-62512
			cal AD 761 - cal AD 781	cal BP 1,189 - 1,169	0.207	
			cal AD 791 - cal AD 806	cal BP 1,159 - 1,144	0.124	
		2σ	cal AD 683 - cal AD 870	cal BP 1,267 - 1,080	1.000	
236-1次 S-570 ②	1,239± 28	σ	cal AD 692 - cal AD 749	cal BP 1,258 - 1,201	0.577	IAAA-62513
			cal AD 763 - cal AD 782	cal BP 1,187 - 1,168	0.199	
			cal AD 789 - cal AD 810	cal BP 1,161 - 1,140	0.179	
			cal AD 847 - cal AD 855	cal BP 1,103 - 1,095	0.045	
		2σ	cal AD 687 - cal AD 871	cal BP 1,263 - 1,079	1.000	
236-1次 S-480e	1,500± 28	σ	cal AD 546 - cal AD 598	cal BP 1,404 - 1,352	1.000	IAAA-62514
		2σ	cal AD 442 - cal AD 453	cal BP 1,508 - 1,497	0.013	
			cal AD 461 - cal AD 483	cal BP 1,489 - 1,467	0.038	
			cal AD 533 - cal AD 638	cal BP 1,417 - 1,312	0.948	
236-2次 S-60j	1,586± 32	σ	cal AD 428 - cal AD 464	cal BP 1,522 - 1,486	0.375	IAAA-62515
			cal AD 482 - cal AD 533	cal BP 1,468 - 1,417	0.625	
		2σ	cal AD 410 - cal AD 546	cal BP 1,540 - 1,404	1.000	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用

2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である

5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

S-60jは1,590±30BPを示す。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。いずれも炭化材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

測定誤差をσとして計算させた結果、S-570c①はcalAD689-806、S-570c②はcalAD692-855、S-480eはcalAD546-598、S-60jはcalAD428-533である。

(2) 樹種同定

樹種同定結果を表3に示す。木材は、針葉樹1種類（スギ）、広葉樹6種類（ヤマグワ・クスノキ・クスノキ科・ヒサカキ・イスノキ）に同定された。なお、炭化物2点については、組織構造が認められず、種類・由来等は不明である。同定された各種類の解剖学的特徴等を記す。

表3. 樹種同定結果

地区	遺構	推定時期	番号	種類	器種	樹種
AG-12	S-570	～8世紀末	①	炭化物	礎板	不明
AG-12	S-570	～8世紀末	②	生木	礎板	ヤマグワ
W-16	S-480e	～9世紀前半		炭化物	柱？	不明
236-2次	S-60j			生木	柱痕	クスノキ科
AQ-19	S-600	平安前期	②	生木	井戸枠	クスノキ
AQ-19	S-600	平安前期	③	生木	井戸枠	スギ
I-6	S-40m	～平安前期	①	生木	柱痕	イスノキ
I-6	S-40m	～平安前期	②	生木	礎板	クスノキ科
J-7	S-40b	～平安前期	②	生木	礎板	イスノキ
J-7	S-40b	～平安前期	③	生木	礎板	クスノキ科
AQ-14	S-385	～11世紀	②	生木	井戸横桟	ヒサカキ

・スギ（*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヤマグワ（*Morus australis* Poiret）　クワ科クワ属

環孔材で,孔圏部は3-5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部ではほじめ単独で配列し、後2-4個が塊状または接線方向に複合して配列し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

・クスノキ（*Cinnamomum camphora* (L.) Presl）　クスノキ科クスノキ属

散孔材で、道管径は比較的大径、管壁は薄く、横断面では楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-10細胞高で、やや階層状に配列する。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞には油細胞が顕著に認められる。

・クスノキ科（Lauraceae）

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

道管径が異なることから、上記クスノキを除くクスノキ科のいずれかと考えられるが、クスノキ以外のクスノキ科は組織がよく似ており、同定に至らなかったためにクスノキ科とした。

・ヒサカキ（Eurya japonica Thunberg）　ツバキ科ヒサカキ属

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、単独または2-3個が複合して散在し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高で、単列の組織が多い。

・イスノキ（Distylium racemosum Sieb. et Zucc.）　マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

4.考察

S-570cの礎板2点は、生木と炭化物が各1点であり、生木はヤマグワ、炭化物は由来不明であるが、年代値は補正年代が2点とも1,240±30BPとなり、暦年較正値もcalAD689-806とcalAD692-855でほぼ同年代を示す。ヤマグワは、強度や耐朽性が比較的強い材質を有しており、材質を考慮した木材選択が推定される。また、S-480eの柱痕と考えられる炭化物も組織が観察できず由来は不明である。補正年代値は1,500±30BP、暦年代はcalAD546-598でS-570よりも古い年代を示す。

S-60jの柱痕は、補正年代が1,590±30BP、暦年代がcalAD428-533を示し、今回年代測定を実施した案化でも最も古い年代を示す。柱痕はクスノキ科に同定されたが、本地域に生育するクスノキ科の中で柱材に利用できる強度・大きさを有する種類としては、タブノキ属やヤブニッケイ等が考えられる。本試料には、クスノキ科によくみられる交錯木理が確認できることから加工性は低いが、クスノキ科の木材は全般的に樟脳を含んでおり、耐水性や防虫性がある。

一方、S-40は総柱の掘立柱建物跡であり、柱穴bの礎板2点と、柱穴mの柱痕と礎板について樹種同定を実施した。その結果、柱痕がイスノキ、礎板3点がクスノキ科2点、イスノキ1点に同定された。イスノキは日本産木材としては極めて重硬・緻密で強度が高く、加工は困難である。S-40では、礎板にクスノキ科とイスノキ、柱にイスノキが利用されていたことが推定される。S-40では、このほか柱穴dと柱穴kからも部材が出土していることから、これらの部材についても樹種同定を実施して今回と同様の結果が得られるのか確認したい。

なお、イスノキは、遺跡出土品では、櫛としての事例が多く、柱材に利用された例は少ないが、過去に建築材、柱材、杭材等に出土した例は全て九州地方である（山田,1993）。これは、イスノキが暖温帯常緑広葉樹林の構成種であり、現在の分布の中心が九州にあることから、他地域よりも入手しやすい条件が関係していると考えられる。

S-600の井戸枠は、スギとクスノキが認められ、少なくとも2種類の木材が利用されていたことが推定される。スギは木理が通直で割裂性が高く、加工が容易であり、芯材であれば耐水性も高い。一方、クスノキは、交錯木理がみられ、加工性は低いが、耐水性は比較的高い。井戸枠は使用期間中ずっと水中にあるか、水には浸からないものの湿度の高い環境に置かれることが予想され、耐水・耐湿性のある木材を選択したことが推定される。一方、同じく井戸であるS-385の横桟は、ヒサカキに同定され、S-600とは異なる樹種が認められた。ヒサカキは重硬で強度が高いが、クスノキやスギのような大径木になる種類ではない。

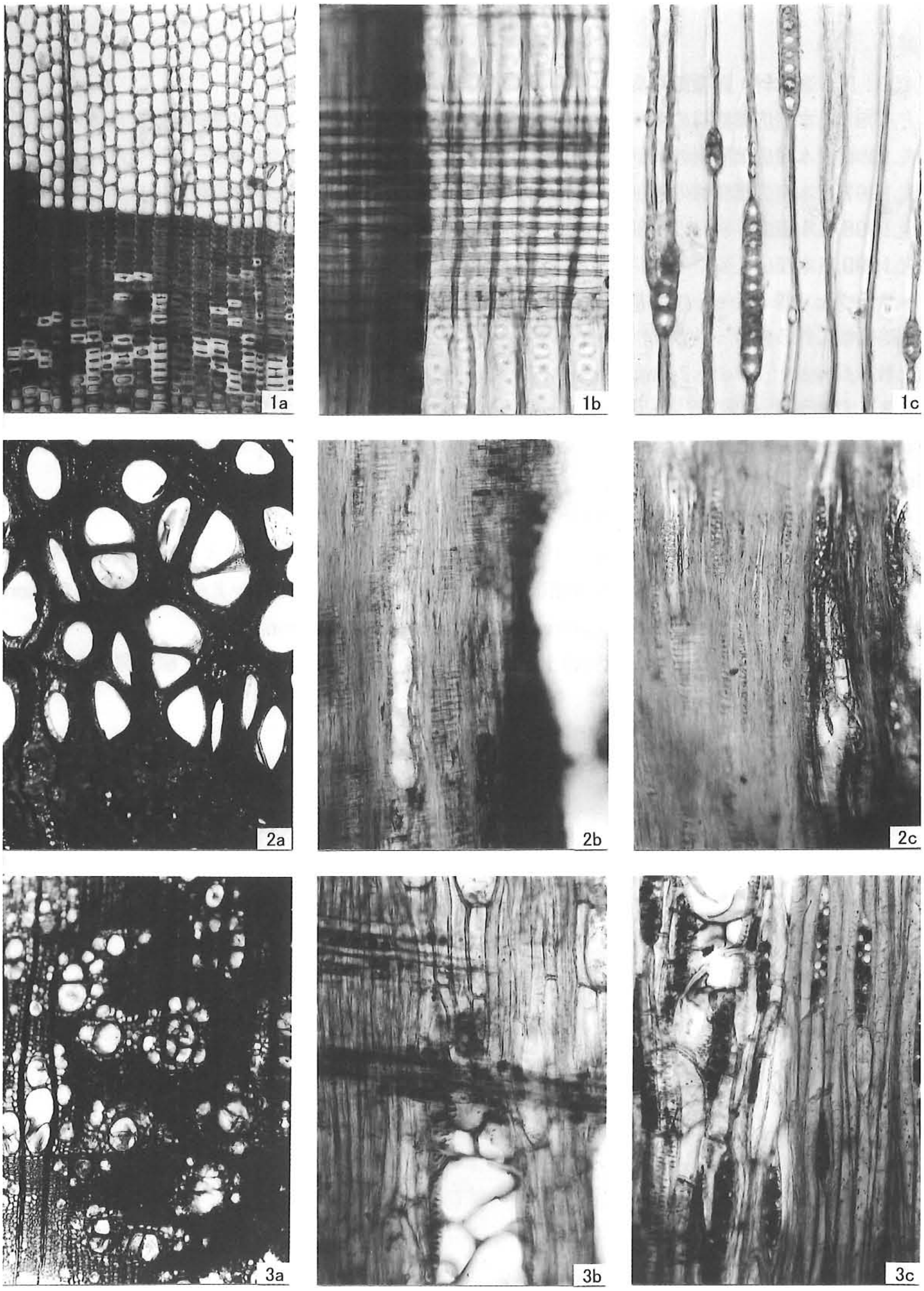
大宰府条坊跡では、BG38区の平安時代とされるS-490でも井戸部材の樹種同定を実施している（パリノ・サーヴェイ株式会社,2004）。その結果では、立板と横板がスギ、横木がサカキとユズリハ属で、部位によって樹種が異なる結果が得られている。この結果を考慮すれば、今回の同一井戸内や異なる井戸での樹種の違いも部位の違いが関係している可能性がある。また、S-600が平安前期であるのに対し、

S-385は11世紀以前とされていることから、時期の違い等も影響している可能性がある。

引用文献

林昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
パリノ・サーヴェイ株式会社,2004,樹種同定.「太宰府市の文化財第69集　大宰府条坊跡22　－御垣野・隈野線道路拡幅に伴う調査－」,太宰府市教育委員会,221-222
Richter　H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　ＩＡＷＡによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.
山田昌久,1993,日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成　－用材から見た人間・植物関係史.植生史研究特別第1号,植生史研究会,242p.

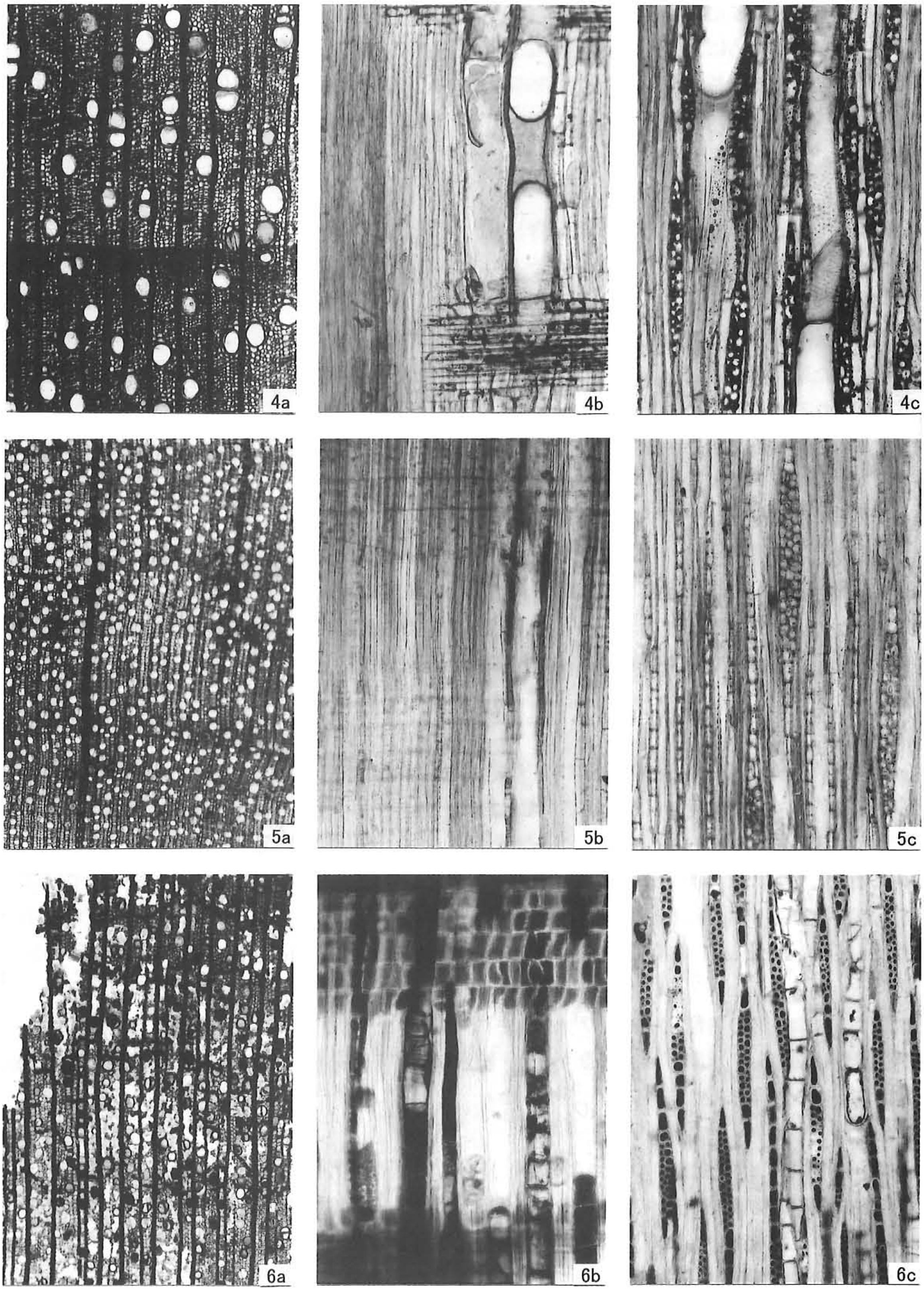
写真1



1. スギ(S-600;③)
2. ヤマグワ(S-570c;②)
3. クスノキ(S-600;②)
a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm:2-3a
200 μm:1a・2-3b,c
100 μm:1b,c

写真2



4. クスノキ科(S-40m;②)
5. ヒサカキ(S-385;②)
6. イスノキ(S-40m;①)
a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm:a
200 μm:b,c

【2】自然科学分析その2

今回の大宰府条坊跡236次調査に伴う自然科学分析は、次のような目的で実施する。S-315遺構の年代観に関する情報を得るために、放射性炭素年代測定を実施する。黒色粘土の成因を検討するために、放射性炭素年代測定、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、鉱物分析、土壌理化学分析、軟X写真撮影観察を実施する。S-85遺構内堆積物の古植生を検討する目的で、花粉分析を実施する。土器内炭化物の由来を知る目的で、樹種同定を実施する。

1.試料

放射性炭素年代測定用は、S-315遺構の炭化物と黒色土の2点を分析する。珪藻分析、植物珪酸体分析、土壌理化学分析は、黒色土上部、黒色土下部の2点を分析する。花粉分析は、珪藻分析を行った2点に加え、S-85遺構内堆積物2点（N7、N8）も分析する。鉱物分析は、地山と黒色土上部の2点を分析する。軟X線写真撮影は、柱状に採取された黒色土1点である。樹種同定用試料は、W16区S-170の土器群中の土器底部に付着していた炭化物4点（1-4）である。No.2を除く3点は微細な炭化物が僅かに認められ、繊維状の構造が認められることから木材等が炭化した可能性がある。No.2は、黒色の炭化物様の物質が認められるが、いずれも微細で保存状態も悪く、繊維構造等は認められない。

2.分析方法

（1）放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、AMS法で実施する。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

（2）珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer & Lange-Bertalot（1986,1988,1991a,1991b）などを参照する。

同定結果は、淡水生種の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。

（3）花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）よる有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表ととして示す。

（4）植物珪酸体分析

湿重5ｇ前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム,比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、およびこれらを含む珪化組織片を近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生について検討するために、植物珪酸体群集の産状を図化した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

（5）樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

（6）鉱物分析

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96）により重液分離、重鉱物と軽鉱物をそれぞれ250粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定する。重鉱物の同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とした。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は、「その他」とした。「その他」は軽鉱物中においても同様である。また、火山ガラスは、便宜上軽鉱物組成に入れ、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は厚手平板状あるいは比較的大きな気泡持つ塊状、軽石型は小気泡を非常に多く持つ塊状および繊維束状のものとする。

（7）土壌理化学分析

腐植含量をチューリン法で実施する（土壌環境分析法編集委員会,1997）。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mmϕのふるいを全通させる（微粉砕試料）。

微粉砕試料0.100～0.500ｇを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Ｎクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2％フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2Ｎ硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの腐植含量量（Org-C乾土％）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（％）を算出する。

（8）堆積物軟X線写真撮影

地層断面より採取したブロック状の試料から、幅7cm、長さ20cm、厚さ1cmの板状の試料をプラスチックケース内に分離、成形して軟Ｘ線写真の撮影を行った。撮影は東都文化財研究所の協力を得た。

3.結果

（1）放射性炭素年代測定

結果を表4、5に示す。同位体補正を行った測定年代は、S-315が1,250±40BP、黒色土が10,840±70BPである。暦年較正を行った値は、慣例上10年単位で表すが、暦年較正曲線や較正プログラムが改

正された際に、再計算や比較を行いやすくするため、1年単位で表記している。その結果は、S-315がcalAD686-802、黒色土がcalBC.10,928-10,867である。

表4. 放射性炭素年代別測定結果

試料名	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code.No.
S-315	1,250± 40	-27.28±0.58	1,290± 40	IAAA-42457
黒色土	10,840± 70	-28.60±0.69	10,900± 70	IAAA-42458

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表5. 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)		相対比	Code No.
S-315	1,251± 36	cal AD 686 - cal AD 799	cal BP 1,264 - 1,151	0.936	IAAA-42457
		cal AD 793 - cal AD 802	cal BP 1,157 - 1,148	0.064	
黒色土	10,841± 67	cal BC 10,928 - cal BC 10,867	cal BP 12,878 - 12,817	1.000	IAAA-42458

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を使用
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

(2) 珪藻分析

結果を表6に示す。上層・下層とも珪藻化石の産出が少ない。また、産出種は溶解している。少量ながら産出する珪藻化石は、上層・下層とも近似している。産出種は淡水生で、沼沢湿地付着生種群(安藤, 1990)のEunotia flexuosa、Eunotia praerupta var. bidens、Pinnularia viridis等が産出する。また、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻A群(伊藤・堀内,1991)のHantzschia amphioxys、Navicula mutica等も産出する。沼沢湿地付着生種群とは、水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や湿地で優勢な出現の見られる種群のことである(安藤, 1990)。

(3) 花粉分析

分析の結果、いずれの試料も花粉化石はマツ属やイネ科などが検出されるが、保存が悪く検出数も少ない。シダ類胞子は、比較的多くみれらる(表7)。

(4) 植物珪酸体分析

結果を表8、Fig.113に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。黒色粘土の上部と下部では同様な産状が見られ、ヨシ属の産出が目立ち、タケ亜科やウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが検出される。

(5) 樹種同定

同定結果を表9に示す。S-170No.2は組織構造が観察できず、炭化物の種類や由来は不明である。その他の試料は全て炭化材で、2種類の木材組織が観察できる。いずれも道管が認められることから広葉樹材で、No.1,4の2点はシャシャンボ、No.3はツゲ近似種に同定される。各種類の解剖学的特徴等を記す。

表6. 珪藻分析結果

種　　類	生態性			環境指標種	黒色粘土	
	塩分	pH	流水		上部	下部
Eunotia flexuosa (Breb.)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1	2
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O	1	5
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		10	5
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	2	1
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	2	1
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	1
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	1	1
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		6	3
Synedra spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-
珪藻化石総数					25	19

凡例

H.R.:塩分濃度に対する適応性	pH:水素イオン濃度に対する適応性	C.R.:流水に対する適応性
Ogh-ind　:貧塩不定性種	al-il　:好アルカリ性種	l-ph　:好止水性種
Ogh-hob　:貧塩嫌塩性種	ind　:pH 不定性種	ind　:流水不定性種
Ogh-unk　:貧塩不明種	ac-il　:好酸性種	unk　:流水不明種
	unk　:pH 不明種	

環境指標種群

O:沼沢湿地付着生種(安藤, 1990)

S:好汚濁性種, U:広域適応性種, T:好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995)

R:陸生珪藻(RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内, 1991)

表7. 花粉分析結果

種　類　　　　試料番号	黒色土 上部	下部
木本花粉		
マキ属	2	3
ツガ属	2	-
マツ属	-	2
スギ属	1	1
クマシデ属ーアサダ属	-	-
ブナ属	-	1
コナラ属コナラ亜属	-	-
コナラ属アカガシ亜属	1	1
ニレ属ーケヤキ属	-	-
草本花粉		
イネ科	2	1
サナエタデ節ーウナギツカミ節	1	1
ソバ属	1	-
アカザ科	-	-
バラ科	-	-
ヨモギ属	-	-
不明花粉	1	-
シダ類胞子		
ヒカゲノカズラ属	-	-
イノモトソウ属	1	1
他のシダ類胞子	136	62
合　計		
木本花粉	6	8
草本花粉	4	2
不明花粉	1	0
シダ類胞子	137	63
総計(不明を除く)	147	73

表8. 植物珪酸体分析結果

種　　類　　　　試料番号	黒色粘土 上部	下部
イネ科葉部短細胞珪酸体		
タケ亜科	3	3
ヨシ属	58	79
ウシクサ族コブナグサ属	5	1
ウシクサ族ススキ属	25	14
イチゴツナギ亜科	3	-
不明キビ型	23	14
不明ヒゲシバ型	6	5
不明ダンチク型	7	11
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
タケ亜科	9	9
ヨシ属	101	98
ウシクサ族	17	18
不明	14	6
合　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	130	127
イネ科葉身機動細胞珪酸体	141	131
総　計	271	258

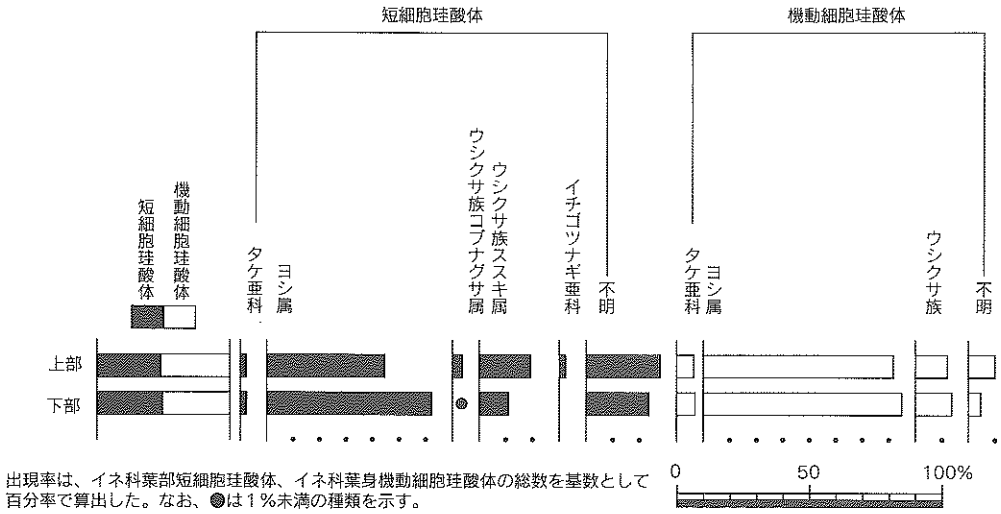


Fig.113　黒色粘土の植物珪酸体群集

表9．樹種同定結果

地区	遺構番号	試料の状態	番号	樹種
W16	S-170	土器低部付着炭化物内	1	シャシャンボ
			2	不明
			3	ツゲ近似種
			4	シャシャンボ

・シャシャンボ（Vaccinium bracteatum Thunb.）　ツツジ科スノキ属

散孔材で、道管はほぼ単独で散在し、その分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、単列で10細胞高前後のものと5-7細胞幅、30-60細胞高のものがある。

・ツゲ近似種（cf. Buxus microphylla Sieb. et Zucc. var. japonica（Muell.Arg.）Rehd.et Wils）
ツゲ科ツゲ属

散孔材で、道管径は極めて小径、管壁は厚～中庸で、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。観察範囲が狭く、保存状態も悪いために、らせん肥厚の有無や壁孔の形態等が観察できず、近似種とした。

(6) 鉱物分析

分析結果を表10、Fig.114に示す。2点の試料は、重鉱物組成・軽鉱物組成ともにほぼ同様の組成を示す。重鉱物組成は、斜方輝石が最も多く、50～60%程度を占め、次いで角閃石が20～30程度を占める。他に10%程度の不透明鉱物と微量の単斜輝石が含まれる。軽鉱物組成では、長石が最も多く、50～60%を占め、風化粒の「その他」を除くと、少量の石英とバブル型火山ガラスを伴う組成である。

(7) 土壌理化学分析

結果を表11に示す。分析の結果、2点とも腐植含量は高く、6-7%程度を示す。

(8) 堆積物軟X線写真撮影

結果については考察において併せて述べる。

表10. 重軽鉱物分析結果

試料名	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	ザクロ石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
地山	145	3	60	0	2	0	1	30	9	250	10	0	1	26	136	77	250
黒色土上部	134	4	67	0	0	1	1	37	6	250	10	0	4	16	165	55	250

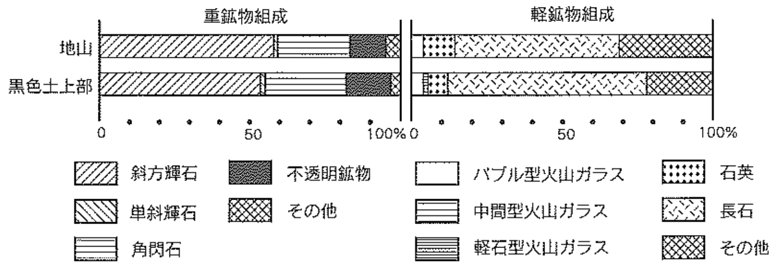


Fig.114　重軽鉱物組成

表11. 土壌理化学分析結果

試料名	土性	土色	腐植含量(%)	備考
黒色土　上部	HC	N2/0　黒	6.91	
黒色土　下部	HC	N2/0　黒	5.93	

土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修, 1967)による。
土性：土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編, 1984)の野外土性による。
　HC・・・重埴土(粘土45～100%、シルト0～55%、砂0～55%)

4.考察

(1) S-315出土炭化材の年代値

S-315から出土した炭化物の年代観は、測定年代で1,250±40BP、較正年代でcalAD686-802であり、奈良時代前後の年代観を示している。

(2) 黒色土について

黒色土の由来に関して、鉱物分析では、地山と黒色土を分析して比較し、無機質な部分の由来について検討する。磯（2001）による地形分類図によれば、今回の調査区は、沖積段丘面の上に位置する。地山とされた試料は、この段丘面を構成する堆積物と判断される。磯（2001）では、沖積段丘面より上位に位置する河成段丘の低位段丘Ⅰ面の表層に姶良Tn火山灰（AT:町田・新井,1976）を含む厚さ1m程度のレス（風成土壌）が形成されていると述べている。一方、太宰府市を取り巻く基盤の地質は早良花崗岩と呼ばれる粗粒な黒雲母アダメロ岩（日本の地質「九州地方」編集委員会,1992）であるから、地山における斜方輝石の卓越する重鉱物組成は、その母材が早良花崗岩に由来するものではないことを示している。以上のことから、地山試料に含まれる重軽鉱物の多くは、阿蘇4火砕流およびATに由来すると考えられる。実際に地山試料の軽鉱物中には火山ガラスも認められている。今回の分析の対象とされた

黒色粘土は、重軽鉱物組成が地山と一致することから、その母材は地山に由来すると考えられる。すなわち、地山を構成している土壌の表面に植物が被覆したため、土壌中に腐植が供給され、黒色土が形成されたと考えられる。

次に黒色土を構成する腐植の由来について、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、土壌理化学分析の結果から検討する。黒色土は腐植含量が6-7%と比較的高いが、分解が進んでおり、肉眼で観察可能な植物遺体は検出されない。珪藻化石は保存が悪く、検出量が少ない。珪藻化石を構成するシリカは、温度が高いほど、流速が早いほど、水素イオン濃度が高いほど溶解度が大きくなり溶けやすいことが実験により推定されている（千木良,1995)。また、珪藻殻とおなじ化学組成を持つ植物珪酸体は、pH値が高い場所や乾湿を繰り返すような場所では、風化が進みやすいと考えられている（江口,1994；1996)。産出する珪藻化石は、沼沢湿地付着生種群と乾いた好気的環境に生育する陸生珪藻が検出されることから、弱酸性を呈した湿地と乾燥した状況を繰り返していたと推測される。また花粉化石は保存が悪く、シダ類胞子が比較的多く見られる程度であるが、花粉化石は好気的環境による風化に弱く、かつシダ類胞子は花粉化石と比べて風化に強いことから（徳永・山内、1971)、珪藻化石から推定される結果と調和的である。植物珪酸体分析からみると、湿潤な場所に生育するヨシ属の産出が目立った。そのため、黒色粘土は黒ボク土に見られるようなネザサ節やススキ属などの腐植の蓄積ではなく、湿潤な場所に堆積する泥炭が、乾湿を繰り返す状況の分解して生成される黒泥土に近いものであったと考えられる。なお、年代測定を行った際に測定したδ13Cの値が-28.60±0.69である。δ13Cの値は、光合成の様式の違いにより同位体分別の効果が異なるため、植物により異なる。大部分の植物はC3植物であり、δ13Cの値は-25前後に収まることが多いが、ススキ属などのC4植物では-13前後の値である。今回得られた数値からみると、腐植の大部分はC3植物に由来（ヨシ属もC3植物）すると考えられるが、これは植物珪酸体分析結果と比較しても調和的である。なお、植物珪酸体組成中のC3植物とC4植物の比率と、腐植中の13Cの値には相関が認められ、土壌中の腐植の由来を調査する際には、これらの分析が有効であることが、指摘されている（井上ほか,2001)。

なお、黒色土の下位には、流路ないし氾濫堆積物と判断される粗粒砂～細礫層が存在している。粗粒砂～細礫層から黒色土の層相変化および上記の分析結果をふまえると、粗粒砂～細礫層形成後、本調査区では堆積環境が安定し、植物が繁茂するようになり、地表面上において腐植が蓄積されていくような離水没を繰り返すような湿地の堆積環境となったことが推定される。黒色土の上位では、流路堆積物の累重が認められず、包含層をなす泥混じり砂によって覆われる。このような層相変化は、本調査区周辺において、黒色土形成以降に新たな流路堆積物や顕著な氾濫堆積物が累重しなくなったことを示している可能性がある。調査区が立地する沖積段丘面は、山口川と宝満川の河川争奪によって完新世に離水した地形面であるとされる（磯,2001)。黒色土を構成する腐植からは、10,840±70BPの放射性炭素年代値が得られた。この年代値および調査区で認められた層序や堆積層の層相変化は、沖積段丘面の形成および離水といった遺跡周辺の地形発達史に大きく関係していることが予想される。今回得られた分析結果については、今後の周辺での調査事例をふまえ、本地域の地形発達史との関連において、さらに検討していくことが必要と判断される。

(3) 古植生について

S-85を分析した結果、花粉化石はほとんど検出されなかった。これは先にも述べたように、好気的環境下における風化が原因と考えられる。当社が太宰府市内の遺跡で行った結果をもとにすると、遺跡周辺の山地には、シイ・カシ類からなる照葉樹林が存在していたと考えられる。また、クスノキ科の花粉化石は膜が弱いため化石としてはほとんど残らないが、照葉樹林の代表的な樹木であるタブノキやクス

ノキなどクスノキ科も多く生育していたと思われる。一方、奈良・平安時代以降になると、マツ属が周辺に分布を拡大したと考えられる。マツは、開発による伐採地に先駆的に生育し二次林を形成することが多い種類であり、このような特性から植林されることもしばしばある。このことから、奈良・平安時代の古植生は、大宰府周辺の開発が進むにしたがって、マツの二次林や植林が増加し、山地で優勢であった照葉樹林が減少してきた可能性を指摘している。このような植生変遷は、九州地方の花粉化石群集をまとめた成果にも同様に現れている（Hatanaka,1985;畑中ほか，1998)。

（4）土器付着炭化物

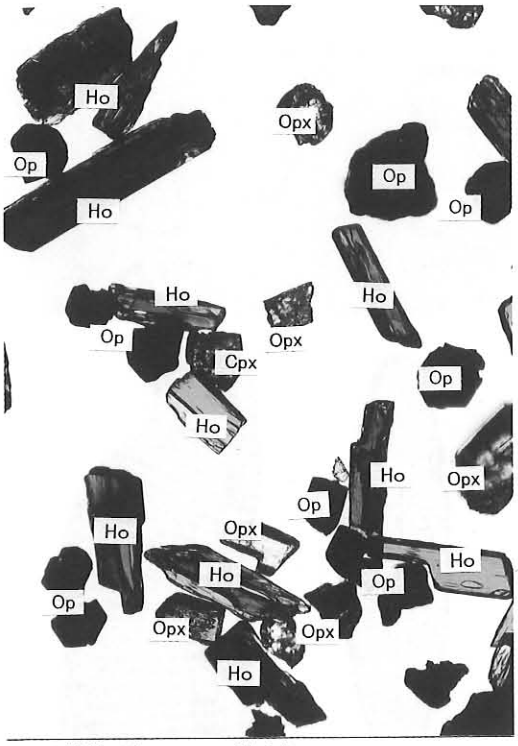
土器付着の炭化物は、4点中3点が広葉樹の炭化材であり、2種類が認められた。いずれも重硬で強度の高い材質を有する。シャシャンボやツゲは、暖温帯常緑広葉樹林に生育する種類であり、シャシャンボについては現在でも周辺の丘陵地に生育している（井上,2001)。したがって、炭化材は遺跡周辺で入手可能な木材が利用されていることが推定される。

引用文献

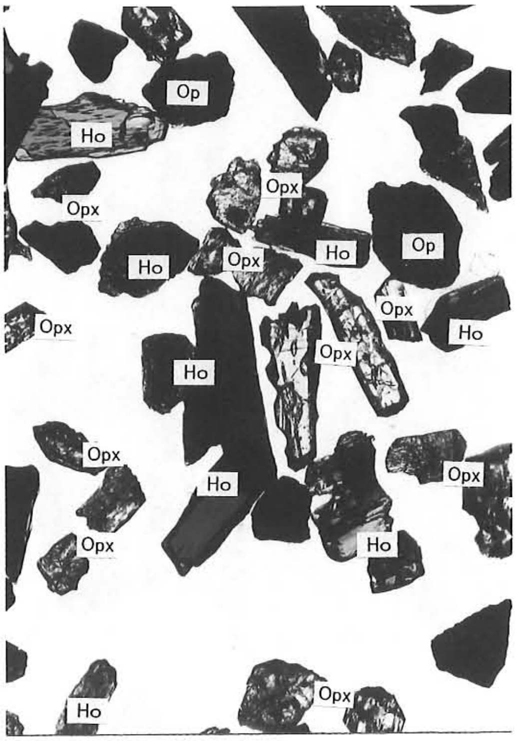
安藤一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.
千木良雅弘,1995,風化と崩壊.近未来社,204p.
江口誠一,1994,沿岸域における植物珪酸体の分布　千葉県小櫃川河口域を例にして.植生誌研究,2,19-27.
江口誠一,1996,沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物のpH値.ペトロジスト,40,81-84.
原口和夫・三友清史・小林弘,1998,埼玉の藻類　珪藻類.埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.
Hatanaka Ken'ichi,1985,Palynological stadies on the vegetational succession the Wurm Glacial Age in Kyusyu and adjacenet areas.Journal of the faculty of Literature,Kitakyusyu UniveraSity（Series B）,18,29-71.
畑中健一・野井英明・岩内明子,1998,九州地方の植生史.図説　日本列島植生史,安田喜憲・三好教夫編,朝倉書店,151-161.
伊藤良永・堀内　誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.
井上晋,2001,植物と植生.太宰府市史編集委員会（編）「太宰府市史　環境資料編」,太宰府市,107-135.
井上弦・米山忠克・杉山真二・岡田英樹・長友由隆,2001,都城盆地の累積性黒ボク土における炭素・窒素安定同位体自然存在比の変遷—植物珪酸体による植生変遷との対応.第四紀研究,40,307-318.
磯望,2001,第1編　太宰府市の地形と地質.太宰府市史環境資料編,太宰府市,7-104.
近藤錬三・佐瀬隆,1986,植物珪酸体分析,その特性と応用.第四紀研究,25,31-64.
Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae,Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae,Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritsche Ergaenzungen zu Navicula（Lineolatae）und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4. Gustav

Fischer Verlag,248p.
町田洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰ー姶良Tn火山灰の発見とその意義ー.科学,46,339-347.
日本の地質「九州地方」編集委員会,1992,日本の地質9　九州地方,共立出版,371p.
徳永重元・山内輝子,1971,花粉・胞子.化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.

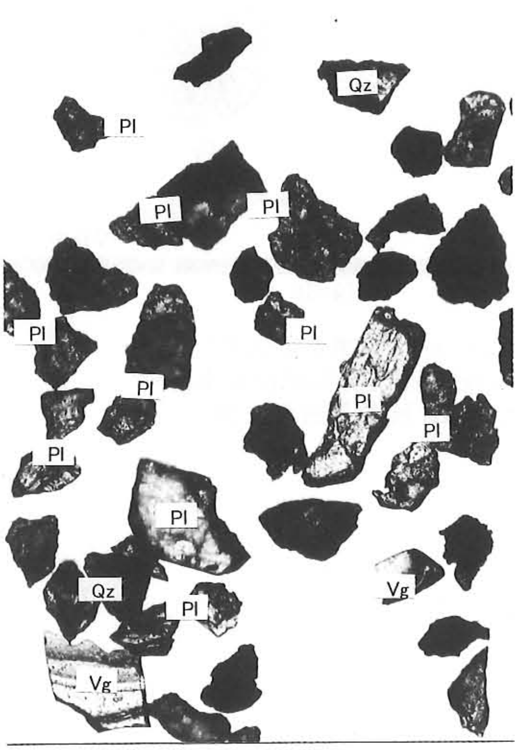
写真3　重軽鉱物



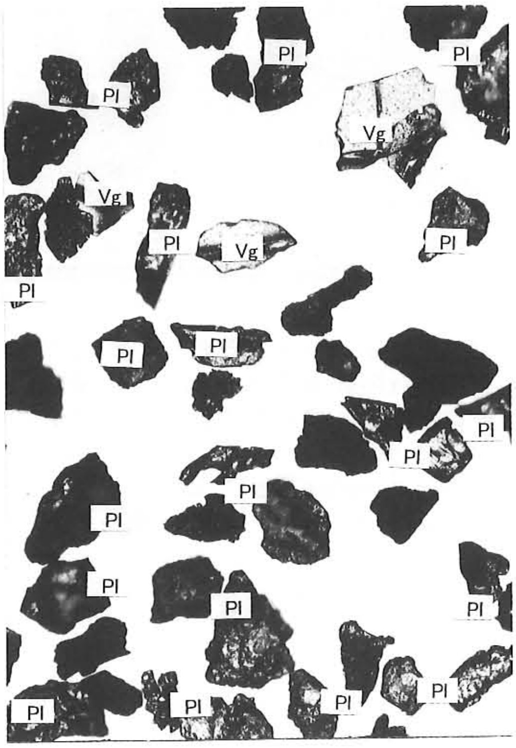
1. 重鉱物(条236-1　地山)



2. 重鉱物(条236-1　黒色土上部)



3. 軽鉱物(条236-1　地山)

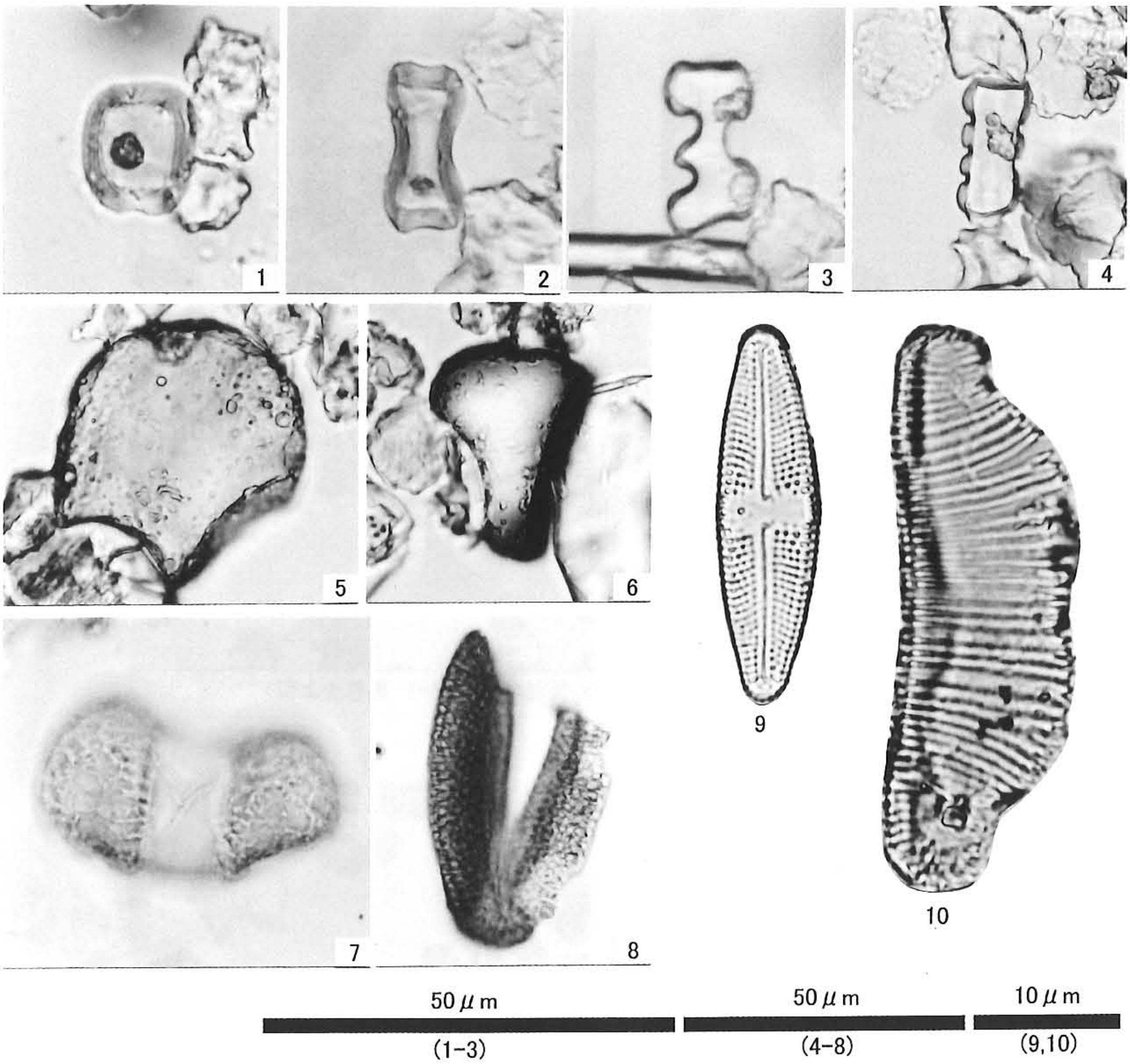


4. 軽鉱物(条236-1　黒色土上部)

Qz:石英　Pl:斜長石　Opx:斜方輝石　Cpx:単斜輝石　Ho:角閃石　Op:不透明鉱物
Vg:火山ガラス

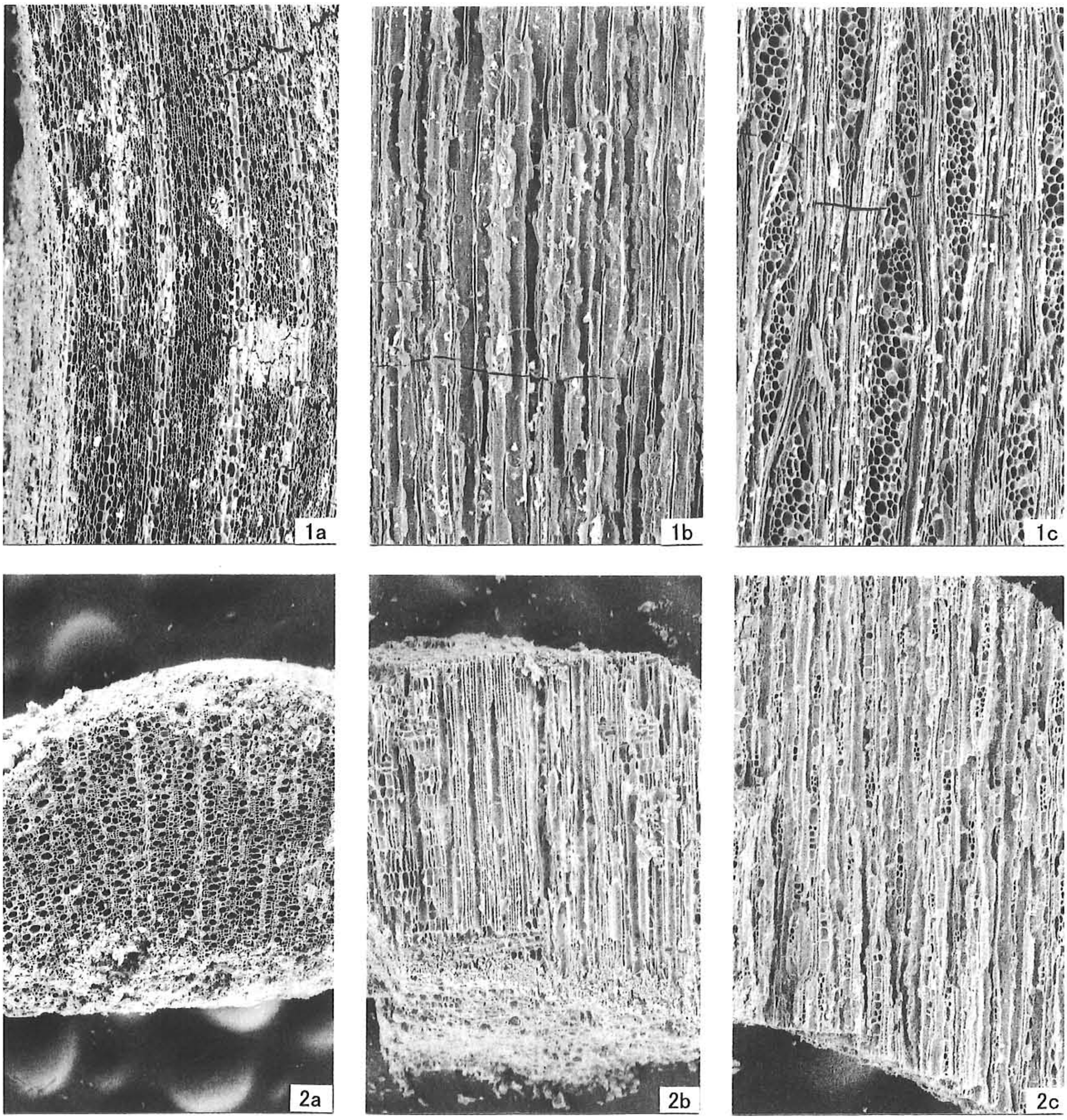
0.5mm

写真4　植物珪酸体・花粉化石・珪藻化石



1．ヨシ属短細胞珪酸体(黒色土;下部)
2．コブナグサ属短細胞珪酸体(黒色土;上部)
3．ススキ属短細胞珪酸体(黒色土;上部)
4．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(黒色土;上部)
5．ヨシ属機動細胞珪酸体(黒色土;下部)
6．ウシクサ族機動細胞珪酸体(黒色土;上部)
7．マキ属(黒色土;上部)
8．ソバ属(黒色土;上部)
9．*Navicula mutica* Kuetzing(黒色土;上部)
10．*Eunotia praerupta* var. *bidens* Grunow(黒色土;下部)

写真5　炭化材



1. シャシャンボ（W16区S170;No.1）
2. ツゲ近似種（W16区S170;No.3）
a：木口，b：柾目，c：板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

写真6　軟X線写真

Ⅵ、調査まとめ

今回の調査の特筆すべき所見を列挙すると以下のとおりである。

・条坊の土地利用の変遷が明瞭
・東西道路の検出
・畑状遺構の検出
・桁行16間（29.6m）におよぶ大型掘立柱建物の検出
・土取り遺構の検出
・須恵器の脚付盤が多数出土
・滑石製屋蓋の出土

遺構の変遷について

遺構の検討は、調査済みの隣接地の調査所見（第251・255・257次）や現在調査中の第267次調査を若干加味したものの、県道部分の調査所見をもとに検討を行った。今後西鉄操車場跡地で現在も続けられている隣接地の調査成果を踏まえ、総合的な検討・評価が必要である。

今回の調査地は調査面・遺構面とも4面であったが、後世の削平はもちろん、上面の掘り残しや掘り下げすぎなどによって、遺構面と調査面が必ずしも一致しているとは限らない。よって、異なった調査面で同じ時期の遺構も存在している。遺構や遺物量をみた場合、8世紀前半～中頃、9世紀後半～ 10世紀前半、11世紀中頃～ 12世紀初頭の3時期に目立った出土量を示しており、それを踏まえ順にまとめてみる。

○7世紀以前（縄文時代～ 7世紀初め）

第236-1次調査の北半部で、第3調査面の下に黒色土や黒色粘土が南北に逆S字状に蛇行している。この黒色土は第Ⅴ章で記したように、流路もしくは氾濫原が安定し、植物が繁茂するようになり、地表面上において腐植が蓄積されていくような離水没を繰り返す湿地環境となったことが推測されている。その後、この地形を大きく変化させるような自然事象を確認することはできず、現在みるような安定した地盤が形成されたものと推測される。その時期については黒色土の放射性炭素年代でBC10900年前後の数値が得られており、縄文時代草創期もしくは後期旧石器時代に遡るものと推測される。

旧石器・縄文時代については、遺構は確認されていないものの、縄文土器が1点のほか旧石器をはじめ縄文時代の石器も少量出土する状況である。これは条坊内で縄文土器や石器類が散見される状況と同じである。この調査地に関しては、前述したように離水没を繰り返す環境にあったことは理解でき、流されてきた可能性が十分考えられる。また、前述の黒色土が掘立柱建物の掘り方の埋土に使用されている状況からすると、古代以前の生活面は、大宰府成立後の条坊内が整備されていく中で削平された可能性は十分に考えられる。

7世紀より古い土器で、最も多く出土しているのは、弥生時代後期から古墳時代初めの土器である。しかし、土坑や住居などの遺構は確認していない。第3調査面で確認したアメーバ状の窪みにこの時期の遺物が多く出土するが、古代の須恵器が一緒に見つかることが多く、アメーバ状の窪みが弥生時代のものと明確に言い切れる根拠に乏しい。しかし、北隣の第168次調査（太宰府市の文化財第69集）で弥生時代後期の流路や土坑が検出されており、今回は遺構こそ明瞭ではないものの、土器の分布状況から付近一帯で僅かながらも人の活動があったことが窺える。

古墳時代については、須恵器が数点出土する状況で、太宰府市の西部にあたる大佐野地区の京ノ尾遺跡（太宰府市の文化財第85集）等で住居跡が集中し、遺物が多量に出土する状況に比べると、極端に少ない状況であり、後世の削平の有無に関係なく、明らかに人の活動がなかった状況を示している。

○7世紀後半～9世紀初頭（大宰府編年IA期～VIA期）

大宰府土器型式のIA期（7世紀後半）頃の遺物が各遺構から散見され、弥生時代終末前後から400年間確認できなかった人の活動が、大宰府が成立することによって、この付近でも始まったことを物語っている。

この時期の遺物が出土している遺構の中で、第236-1次調査の南端部で検出されたSD015の下層（暗灰色土）から、このIB期の須恵器蓋1などがまとまって出土している。このSD015では上下2層が明瞭に分層でき、上層は8世紀中頃の遺物を含んでいる。このSD015の最終埋没は8世紀中頃と言えるのだが、下層に7世紀末頃の遺物が占めている状況は、周辺にその時期の遺構が展開し、8世紀中頃にそれらの遺構から遺物が流れ込んだ可能性と埋没過程の中で7世紀末に近い時期にSD015が半分ほど埋没し、その後8世紀中頃に再び埋没したという大きく2通りの埋没過程が想定できる。後者の場合、大宰府成立当初にこの溝、つまり東西路が設計されたことになるのだが、溝という遺構の埋没環境の特性上明言すること難しく、その可能性のひとつとして今後の課題とする。

このSD015と平行してSD020が検出された。北側のSD015を境に遺構密度が極端に少なくなるため、その2条に囲まれた幅3.5～4m（溝心々距離約5m）が道路（SF665）と考えられる。SD020はSD015と異なり、7世紀の遺物は少なく、8世紀前半頃の埋没と推測される。この道路の東側延長上には般若寺丘陵があり、7世紀後期～末頃の溝や掘立柱建物が確認されており（太宰府市の文化財第90集）、何らかの関係があったのかもしれない。

大宰府条坊案については鏡山猛氏をはじめ様々な案が出されてきたが、今回の調査地で検出した道路にほぼ合致する案を出している井上信正氏の案を今回は採用することとし、SF665を15条路、後述するSF615付近を14条路として報告する。

14条路については、平安時代前期～後期にかけて掘り直しや僅かな場所の移動が行われている。その中で最も古い道路は、出土遺物からVIB～VII期頃に埋没している。これ以前の奈良時代に道路が存在したかどうかについては、調査所見からは言及できない。

そのほか奈良時代の遺構は、さほど多くなく、北西部のSK315とその付近のピットや窪みと後述する方形掘り方を持つ掘立柱建物5棟と柵列だけで、井戸は未確認である。

第3遺構面で確認した掘立柱建物のうち、南北に長い大型掘立柱建物が1棟検出された。隣接する第257次調査でも1棟検出され、2棟は東側の柱筋を合わせて南北に並ぶことが確認され、下記のような数値が得られている。

・236-1SB480（北棟）：南北16間（29.6m、小尺100尺、柱間約1.85m）×東西3間以上（6m以上）
報告書作成中に第267次調査が行われていて、SB480の西側が見え隠れしていて、全体として東西4間（約8.6m）になる可能性が高い。

・257SB300（南棟）：南北11間（23.6m、小尺80尺、柱間約2.15m）×東西5間（8.6m、小尺29尺）

・2棟の建物間は10.4m（小尺35尺）　　※小尺29.6cm

このように南北に長大な建物が並ぶ例は、官衙遺構が数多く確認されている大宰府でも大宰府政庁以外になく、全国的に見てもこのような遺構は官衙の中でも国庁クラスのものでしか見ることはなく、これらの遺構は国庁に相当する建物と言って遜色ないであろう。時期が明確ではないものの、須恵器の脚

付盤など、条坊内の他の調査では出土しない遺物があるのも他と異なる地域であったことを補足できるだろう。SB480は数少ない出土遺物から、8世紀第3四半期頃に廃絶したと推測される。建築年代は掘り方の遺物から8世紀第2四半期頃と推測される。また、SB480eの柱痕の放射性炭素年代の測定を行ったところ、546 ～ 598年という測定結果が出されている。第257次調査SB300でも同様の測定を行ったところ、SB300の中でも柱痕で3世紀中頃～ 5世紀前半、礎板が6世紀中頃～ 7世紀初という測定結果が出されており、同一遺構内でも大きな年代差があることになり、単純に古墳時代の建築とか古材の転用などとは言い切れない測定値である。材の遺存状況によっては内側の年輪ほど古い年代を示すともいわれていることから、この測定値がそのまま遺構年代と直接結びつけるには、さらなる検証が必要であり、今回は分析結果の提示だけに留めたい。

SB570は、SB480より大きな掘り方を持ち、東西棟になるとみられる。西側には14.0mの間隔をおいてSB480が存在する。同時期に存在していた場合、SB480が南北棟に対し、SB570が東西棟の配置をとるため、それぞれ脇殿・正殿を想像させるが、SB570が西辺の柱列のみ確認されただけであるため、今後行われるであろう周辺の調査結果踏まえ検討していかなかればならない。

15条路の北側に掘立柱建物が3棟（SB040・485・500)、柵列1条（SA490）が確認されている。この4遺構については重複しているが方位がほぼ同じであるため、近接した時間内で建て替えが行われた可能性が高い。しかし、隣接する15条路や大型掘立柱建物（SB480・570）とは方位が若干異なっている。遺物が少ないため詳細な時期は不明であるが、平安時代の遺物が混入していないため、奈良時代以前と推測される。SB480・570と併存したかどうかは不明であるが、隣接する第257次調査では、切り合いから大きな掘立柱建物→小さな掘立柱建物の変遷が確認されており、この調査地も同じ変遷であった可能性が高い。

SB040やSB500などの掘立柱建物が切り込むアメーバ状の凸凹は、弥生土器などに混じって、少量ながらも奈良時代の遺物が含まれており、これらが掘立柱建物の伴う整地である可能性が考えられる。第236-2次調査でもアメーバ状の凸凹が検出され、8世紀代の凸凹もあり、調査地全体にこのような遺構が広がっていたことがわかる。

○9世紀前半～ 10世紀中頃（大宰府編年VIB期～ IX期)

この時期には14条路が明瞭に確認でき、14条路関連の遺構（SD515・520・550・575）からはVIB ～ VII期の遺物が出土し、この上を10世紀代の茶灰色粘土が覆っている。そして、14条路の南側SD415付近（AIライン）から15条路北側溝（SD015）にかけて灰色土を主とした整地が広がっている。これは、第3遺構面を覆う整地で、出土遺物からおよそVII ～ VIII期（9世紀中～ 10世紀前半）頃で、その中でも9世紀後半頃と推測される。時期的には灰色土の整地が行われた時期と14条路が同時期に埋没したような状況を示しており、全体的に土地の改変があったことが想定される。その茶灰色粘土部分が10世紀代に道路として利用されていたかどうかは、詳細な観察を怠ったため不明瞭である。

また、15条路については、切り合いや出土遺物等から、この時期に存在したかどうかは明確に言い切れない。

この時期の遺構は、多くはないものの14・15条路それぞれに近い位置に展開する。井戸などから出土する遺物は、この灰色土の整地に近い時期のものが多く、遺構の切り合いや遺物の時期から、明らかに灰色土の整地以前と考えられる遺構はSE205・SA635・SB630だけで、そのほか同時期のSE025・230・385・585などは整地以降の遺構と考えられる。また、平安時代初頭前後の遺物も少ないため、人の動きは活発ではなかったと考えられる。

その後灰色土には畑状遺構とする格子状の溝や南北溝が展開する。畑状遺構（SX640・645）は、時期判断が難しいが、整地層に切り込んでおり、その整地層より若干新しいVIII期前後の埋没と推測される。畑状遺構と推測している溝で東西・南北の溝の切り合いのほか、いくつかの切り合いが確認され何度か掘り返されていることがわかる。また、畑状遺構（SX640・645）を確認した範囲は、SX645の南北溝を主とする畑状遺構が、SD415やSD657の東西溝付近を北端としている。そして、その付近から北側は整地があって、2面目が展開している。SX640と645の境界については、調査区中央付近にある大撹乱付近とみられる。その南側に格子状に広がるSX640は15条路を南端としている。東側は現時点では未調査部分が多いが、調査区内においては4ライン付近で途切れているように見える。西側は第257次調査で西端が確認できたことから、現状ではSX640の東西幅は約45m、南北幅は約36m確認されている。途中の大撹乱で不明瞭な部分があるが、SX640・645を合わせた南北幅は約80mである。整地として報告している灰色土であるが、その確認した範囲と畑状遺構の範囲が大方一致している。西側の第257次調査でも格子状に広がる溝の検出範囲と灰色土の範囲はほぼ一致する。これは灰色土に切り込む同時期の建物が検出されていない状況から、単純に灰色土＝耕作土と考えられるが、全く別の地盤整備遺構の可能性も完全に否定はできない。このような溝の遺構は長岡京水垂地区や出雲国府宮の後地区でも確認されており、今後調査事例の増加と詳細な検討によって、明らかにしていかなければならない。

この時期の井戸のうち、SE585は灰色土に掘り込まれ、その埋土に畑状遺構が切り込んでいる。最終的に畑状遺構が切り込んでいるものの、ある時期には畑のための井戸であったという見方もできる。

第236-2次調査地は丘陵裾という現場環境から、山裾が削平された状態が検出されるとみられたが、VII期埋没のSE050などが丘陵裾に存在することが確認され、井戸の深さも第236-1次調査より若干浅いものの大きな違いはないため、当時すでに現況に近い地形であったことがわかった。

この時期の出土遺物のうち、VII期頃埋没の236-2SE050の井戸から出土した滑石製屋蓋は、軒先が表現されていないなど細部に至る表現は見られず、写実的ではないが、屋根の勾配が緩い点は、古代的な様相と言える。このような形状の遺物として瓦塔が知られているが、九州では現在瓦塔の出土例は16例あり、瓦葺の表現が、熊本県から出土している瓦塔と近似していることから、時期や形状から瓦塔と同様の意味を持つ種類のひとつと捉えることは可能で、肥後との関連も指摘されている。しかし、石製のものの出土は知られておらず、非常に珍しい遺物である。また、破片であるが故に塔か堂か判断も難しく、同様の出土例が知られていない現段階では、踏み込んだ検討が出来ず、今後の類例の増加を待ちたい。

○10世紀中頃～ 11世紀前半（大宰府編年IX ～ X期）

この時期の遺構は少なく、明瞭な遺構はSK160のみで、僅かに時期が被る遺構にSE215やSD505があるのみで、生活痕跡のない空地のような状況を想像してしまう。しかし、10世紀にこの地で目立った生活痕跡がなかった場合、10世紀代の遺物が混入することは少なくなるため、出土する遺物の時期からVIII ～ IX期頃とみている畑状遺構が、11世紀まで存在していた可能性も考えられる。

9世紀代の14条路の北側で2条の溝（SD505・560）があり、埋没時期はX ～ XI期で溝間は約4mを測る。東側はSD410付近で途切れているが14条路の可能性が考えられる。

○11世紀中頃～ 12世紀前半（大宰府編年XI ～ XIII期）

この時期の道路であるが、14条路は平安時代前期から後期まで、SD415 ～ 560間の幅24mの範囲で側溝の掘り直しが行われており、この範囲が道路などの土地境として認識されていたものと考えられる。しかし、単純に道路側溝が土地境というのではなく、その外側に緩衝地帯を設け、土地利用が行われた

ことも想定できる。中央大路（推定朱雀大路）においても、第220次調査で道路側溝の外側に同規模の側溝が掘られていた例があり、今後の事例をもとに検証していかなければならない。

15条路は奈良時代までの側溝が明瞭に確認できたにもかかわらず、平安時代の道路痕跡が調査段階では不明瞭であったが、西隣の第257次調査によって、平安時代の平行する2条の溝（S-2・15）が確認され、その延長上に位置していた236-1SD042・041が道路側溝であることがわかり、同位置に道路が存在していたことがわかった。しかし、その側溝も途切れていて、その先に蛇行するSD001やSD017が存在し、あたかも道路が曲がっているような状況を示している。この部分は遺構の埋没が条坊廃絶の前後のどちらなのかが不明瞭のため今後隣接地の調査で明らかになるであろう。

また、条路に伴う溝以外にも、土地区割りに関係するような溝が多く存在する。時期は異なるのだが、SD395の南端が畑状遺構の北端と一致している。それぞれの遺構の時期が2世紀程の開きがあるにもかかわらず、ほぼ同じ場所を土地境としてきたことを示している。また、SD400・395・786とSD070は遺構間が23m以上離れているが、南北に並んでいる。その他にもSD335・260・250と続く南北溝と第257次調査のS-40が、約59.5mの間隔があるが、ほぼ南北に並んでいる。また、それらを結ぶ南北ラインで東西溝であるSD210が途切れている。そして、大撹乱によって詳細は不明だが、前述の南北溝（SD250・070）の断絶部分や前代の畑状遺構のSX640とSX645の境界付近にSD130・210の東西溝が存在している。前述してきたとおり、個別の遺構間の規則性は見出されるが、全体的に見るとその規則性が重なり合って、逆に不透明な状況を生み出している。これは、調査ではわからない用途の違いや若干の時期差があると考えられる。検討範囲が狭いため、詳細な検討はここでは行わず、周辺の調査成果が得られてから詳細に検討した方が良いであろう。

第236-2次調査の北端で検出したSX070は、粘質の地盤が掘り取られているため、土取り跡と推測される。その埋土に同安窯系青磁や龍泉窯系青磁などの遺物が僅かながら含まれていたことから、最終埋没は12世紀中～後半頃と考えられる。第236-2次調査地に隣接して10世紀代の般若寺瓦窯があり、その材料となる粘土の入手先と考えられたが、残されている遺物では時期差があり直接結びつけることできない。同様の遺構が隣接する第251次調査で確認され、その埋没後に掘立柱建物が建てられている。SX070に関しては粘土質で埋まっていたことから、人為的に埋めた可能性が高い。

出土遺物や掘り方の規模などから平安時代後期以降と考えられる掘立柱建物は9棟あるが、遺物からは大きな時期差を見出せない。条路や区画溝に切り込んだ建物（SB100・655・275）があり、条坊廃絶後に建物が存在したことは明瞭なのだが、条坊廃絶直前に建物が存在したか否かを明確に証明する所見がなく言及できない。今回の調査地で、底部切り離しが糸切りであった土師器は極めて少なく、6つの遺構、1つの整地で僅かに数点出土しているだけである。それらはSB275周辺の整地（SX350）や近くのSE330、SK390、SD400で出土しており、この調査区北端付近での生活痕跡が窺える。また、南側のSD130・170の溝でも出土し、当時の区画溝として存在していたことが窺える。また、同時期の土器や陶磁器が出土することが極端に少ないことから、12世紀に入って早い段階で生活の場ではなくなったことが窺える。大宰府政庁が廃された後、観世音寺や安楽寺（太宰府天満宮）などの有力寺社の庇護によって町が形成されていくため、遺構の分布も条坊の北東部に移っていく傾向があり、この付近は居住地として利用されなかった可能性が高い。表土観察でも第1遺構面上に包含層があって、その上は耕作土と操車場の整地となっているため、平安時代末期から大正時代に西鉄操車場ができるまでの800年間は田圃であったと推測される。

今回の調査は、撹乱や時間的な制約等により、正確な所見が得られない状況もあった中で、様々な可能性を含め、遺構の変遷を追ってみた。今まで述べてきたように、第236次調査を終えた後の整理作業

期間中も周囲の発掘調査は進み、情報が増加していたものの、その詳細な整理検討が進んでいないため、今回の報告では調査時の所見を若干参考にしたに過ぎない。現在進行中の発掘調査においても興味深い発見が続いており、今回不明瞭だった遺構や調査所見についても明確な回答が得られると思う。今後周囲の発掘調査を整理していく中で、第236次調査も再検討し、総合的な考察を行わなければならないだろう。

参考文献

鏡山猛『大宰府都城の研究』風間書房1968年

小田富士雄「瓦塔の検討」『豊前・トギバ窯跡の調査－古代須恵器・瓦塔に関する研究－』2007年

井上信正「大宰府の街区割りと街区成立についての予察」『条里制・古代都市研究 通巻17号』 2001年

吉岡伸「長岡京地の土地利用－水垂地区の小溝群について－」『文化財学論集』文化財学論集刊行会1994年

「史跡出雲国府跡発掘調査通信　意宇の杜－現地説明会資料－」 島根県埋蔵文化財センター　2007年

『大宰府条坊跡21』太宰府市の文化財61集　太宰府市教育委員会　2002年

『大宰府条坊跡22』太宰府市の文化財69集　太宰府市教育委員会　2004年

『大宰府条坊跡32』太宰府市の文化財90集　太宰府市教育委員会　2007年

『太宰府市史　考古資料編』 太宰府市　1992年

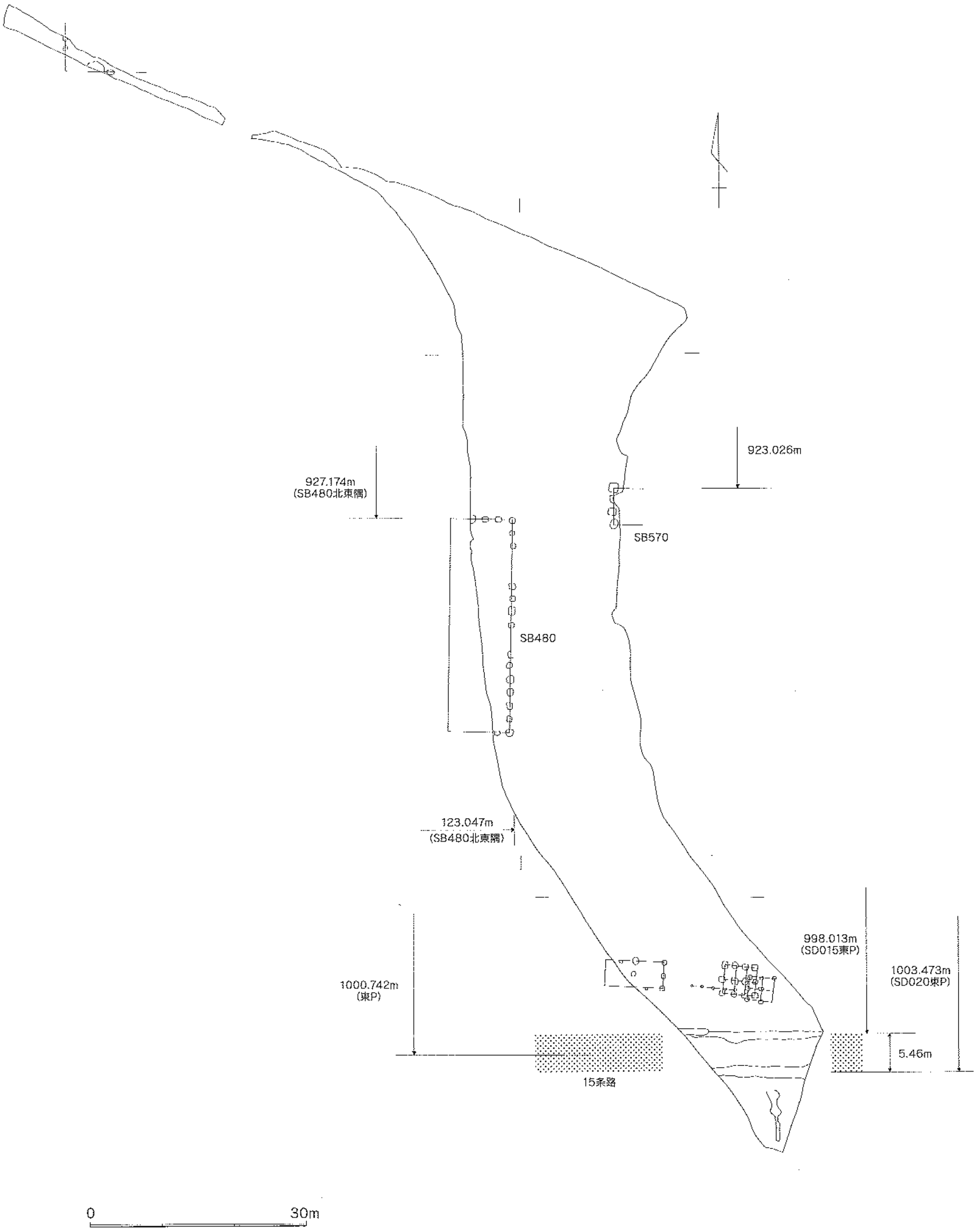


Fig.115　奈良時代の主要遺構

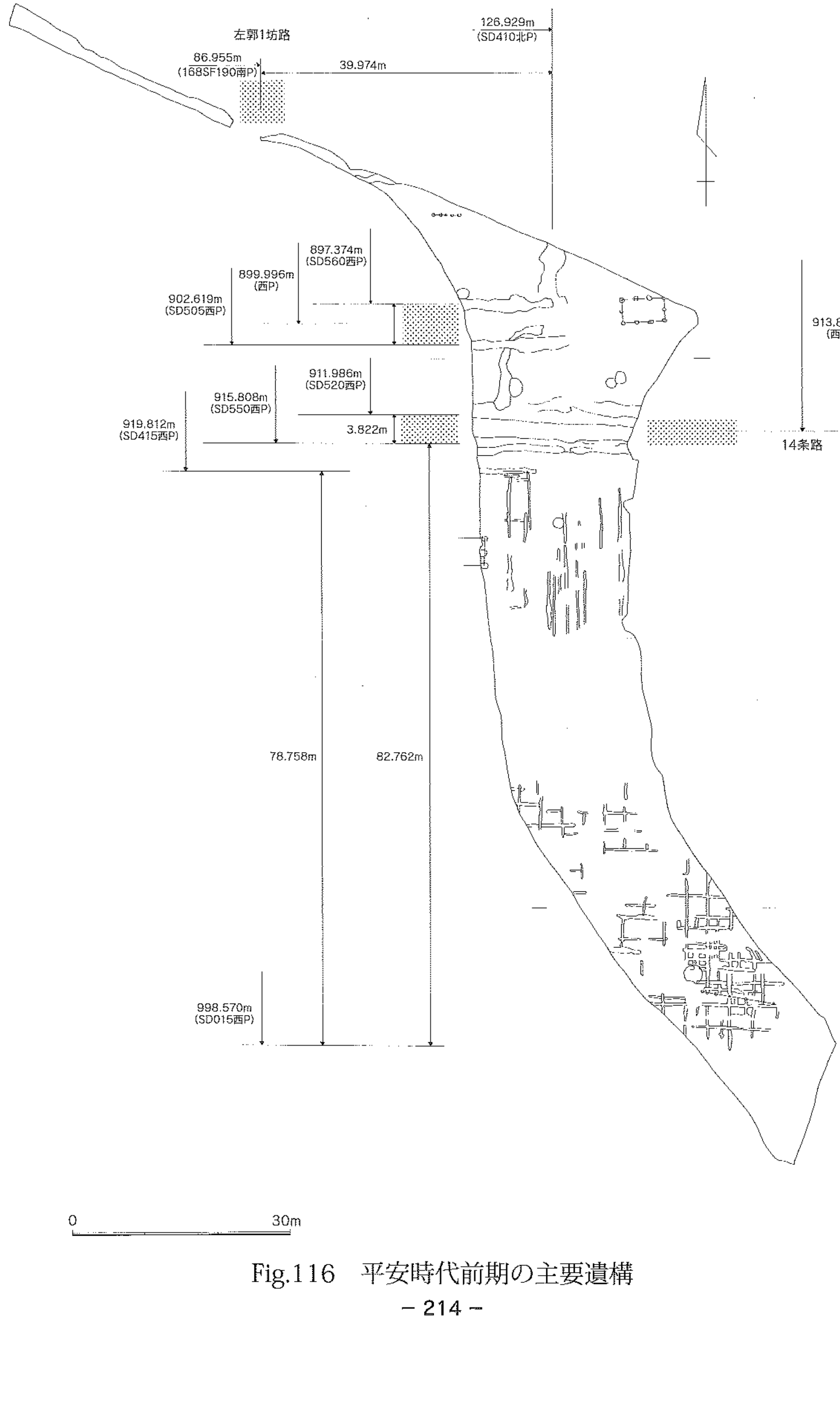


Fig.116　平安時代前期の主要遺構

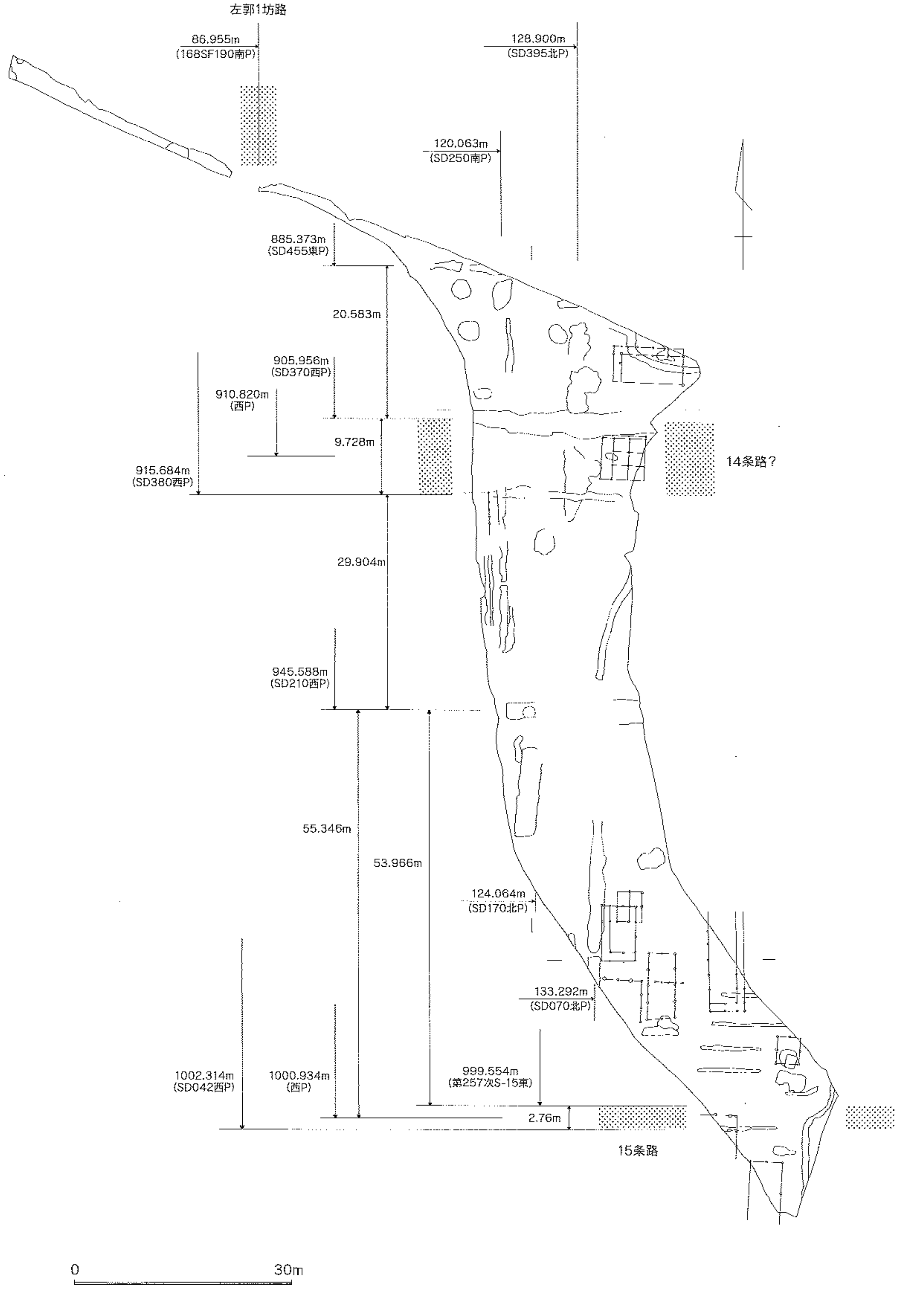


Fig.117　平安時代後期の主要遺構

表12　条坊関連遺構任意中点座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向（m）	Y方向（m）	
236-1SD015	東P	55709.530	-44664.391	-998.013	166.334	E-1°42′17″-N
	西P	55708.636	-44678.401	-998.570	152.329	
236-1SD020	東P	55703.618	-44666.954	-1003.473	163.825	W-1°49′37″-N
	西P	55703.964	-44677.801	-1003.235	152.975	
236-1SD015・020間	東P	55706.336	-44665.672	-1000.742	165.080	E-0°9′57″-N
	西P	55706.300	-44678.101	-1000.903	152.652	
236-1SD035	東P	55709.367	-44681.448	-997.870	149.274	W-1°39′37″-N
	西P	55709.387	-44683.183	-997.867	147.539	
236-1SD041・042	東P	55705.011	-44672.666	-1002.137	158.100	E-0°48′45″-N
	西P	55704.907	-44679.998	-1002.314	150.769	
236-1SD065	北P	55716.263	-44669.020	-990.849	161.633	N-7°7′30″-E
	南P	55714.367	-44669.257	-992.748	161.415	
236-1SD070・075	北P	55741.050	-44697.114	-966.345	133.292	N-2°22′49″-E
	南P	55727.169	-44697.691	-980.231	132.854	
236-1SD080	北P	55738.964	-44701.527	-968.475	128.900	N-5°49′5″-W
	南P	55734.430	-44701.065	-973.004	129.408	
236-1SD170	北P	55754.860	-44706.205	-952.626	124.064	N-5°2′23″-E
	南P	55745.233	-44707.054	-962.261	123.311	
236-1SD180	北P	55783.231	-44711.490	-924.310	118.495	N-0°6′39″-E
	南P	55773.923	-44711.508	-933.617	118.570	
236-1SD220	北P	55776.745	-44698.350	-930.664	131.699	N-7°4′43″-E
	南P	55773.105	-44698.802	-934.308	131.284	
236-1SD250・260・335	北P	55792.227	-44710.248	-915.302	119.647	N-0°36′23″-W
	南P	55772.012	-44710.034	-935.513	120.063	
236-1SD370・375	東P	55801.111	-44693.592	-906.251	136.213	W-1°31′12″-N
	西P	55801.586	-44711.493	-905.956	118.308	
236-1SD380	東P	55791.278	-44697.832	-916.126	132.072	W-3°3′10″-N
	西P	55791.823	-44708.051	-915.684	121.848	
236-1SD395	北P	55797.400	-44700.943	-910.036	128.900	N-0°5′49″-W
	南P	55788.530	-44700.928	-918.905	129.003	
236-1SD400	北P	55806.601	-44700.199	-900.828	129.552	N-13°3′21″-W
	南P	55802.983	-44699.360	-904.437	130.427	
236-1SD415	東P	55787.778	-44705.603	-919.704	124.336	E-0°58′31″-N
	西P	55787.710	-44709.597	-919.812	120.343	
236-1SD560	東P	55810.294	-44704.663	-897.180	125.051	E-0°28′19″-N
	西P	55810.206	-44715.344	-897.374	114.371	
236-1SD001	北P	55702.773	-44668.496	-1004.333	162.292	N-0°43′29″-E
	南P	55697.161	-44668.567	-1009.946	162.277	
236-1SD130	東P	55761.772	-44691.392	-945.567	138.807	W-1°49′32″-N
	西P	55761.847	-44693.745	-945.515	136.453	
236-1SD130	東P	55761.772	-44691.392	-945.567	138.807	W-0°30′6″-N
236-1SD210	西P	55761.927	-44709.090	-945.588	121.108	
236-1SD270	北P	55782.366	-44705.295	-925.112	124.698	N-5°19′7″-E
	南P	55776.297	-44705.860	-931.187	124.194	
236-1SD410	北P	55816.527	-44702.722	-890.928	126.929	N-17°27′50″-E
	南P	55812.077	-44703.622	-895.386	126.074	
236-1SD430	東P	55827.867	-44725.422	-879.815	104.117	W-4°43′1″-N
	西P	55828.219	-44729.688	-879.506	99.848	
236-1SD455	東P	55822.172	-44711.759	-885.373	117.836	W-9°23′40″-N
	西P	55822.513	-44713.820	-885.053	115.772	
236-1SD505	東P	55805.558	-44700.868	-901.877	128.893	E-2°35′1″-N
	西P	55804.951	-44714.320	-902.619	115.448	
236-1SD520	東P	55794.191	-44692.177	-913.569	137.697	W-3°37′15″-N
	西P	55795.582	-44714.158	-911.986	115.703	
236-1SD540	北P	55803.270	-44709.683	-904.253	120.101	N-1°41′18″-W
	南P	55798.249	-44709.535	-909.273	120.300	
236-1SD550	東P	55790.740	-44694.396	-916.630	135.513	W-3°42′13″-N
	西P	55791.712	-44709.412	-915.808	120.488	
236-1SD575	東P	55790.611	-44697.700	-916.793	132.210	W-0°33′0″-N
	西P	55790.718	-44708.846	-916.796	121.064	
236-1SD370・380間	東P	55796.194	-44695.712	-911.189	134.142	W-2°4′39″-N
	西P	55796.704	-44709.772	-910.820	120.078	
236-1SD505・560間	東P	55807.926	-44702.766	-899.529	126.971	E-1°38′50″-N
	西P	55807.579	-44714.832	-899.996	114.909	
236-1SD520・550間	東P	55792.406	-44693.287	-914.893	136.605	W-3°39′11″-N
	西P	55793.647	-44711.785	-913.897	118.096	
236-1SB480	北東隅	55780.322	-44707.077	-927.174	122.937	N-0°21′32″-E
	南東隅	55750.794	-44707.262	-956.703	123.047	
236-1SB570	北端	55784.350	-44693.060	-923.026	136.913	N-1°11′45″-E
	南端	55779.540	-44693.160	-927.817	136.861	
257　S-15	東P	55707.704	-44683.592	-999.554	147.147	
236-1SD042西P・257S-15間		55706.306	-44681.795	-1000.934	148.958	

政庁中軸線方位＝N-0°34′24″-E　　南門中点座標＝X=56708.68　Y=-44820.73

表13　第236-1次調査　遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土・切合いほか	調査面（遺構面）	時期	地区
1	236-1SD001	溝	茶褐色土　S-15・20→1	1	XII～XIII期頃	2・3ライン
2		土坑	灰色粘質土	1		I3
3		溝	灰色土	1		H2
4		土坑	灰色土と黄色土の混合層	1		F2
5	236-1SX650	溝	灰色土	1	XII～XIII期	Kライン
6		溝		1		FG3
7		ピット群	S-15→7	1		G3
8		土坑	灰色土	1	XII期前後	E4
9		土坑	灰色土	1	古代	I5
10	236-1SX650	溝	灰色土	1	平安時代	L5・6・7
11		土坑群	灰色土と黄色土混じり、浅い	1	古代	E4
12		土坑	黄褐色土、深さ5cm程	1	XII期前後	H4
13		土坑（窪み）	黄色土	1		E5
14		土坑	灰茶色粘質土	1	平安時代後期	I4
15	236-1SD015	溝	暗灰色土　S-38との境不明瞭	1（3）	8世紀中頃	Gライン
16		土坑	灰色土の単一層、床面僅かに凸凹　S-25黄褐色土→S-16	1	XII期前後	H3・4
17	236-1SD017	溝	灰色土　S-16→17	1	XII期前後	H3
18		土坑	やや黄色味の灰色土　S-20→18	1	古代	EF2・3
19		ピット群		1	古代	GH2
20	236-1SD020	溝	暗灰色土　S-20→1	1（3）	8世紀前半	Fライン
21		土坑	暗灰色土	1		I3
22		窪み	S-15→22　深さ5cmほど	1	XII期前後	G4
23		ピット	S-15→22→23	1	XII期前後	G4
24		窪み		1		I3・4
25	236-1SE025	井戸		1	VIII～IX期	H4・5
26	236-1SX640	溝	灰色土　S-26→14	1		I4・5
27	236-1SX640	溝	灰色土	1		IJ5
28		ピット群		1		GH5
29		ピット群		1		JK4
30	236-1SB030	掘立柱建物	2×2間	1	10～11世紀	IJ4
31		ピット群		1	VII～VIII期？	J5
32		溝	灰色土と黄灰色土の混じり、底面近くは暗灰色粘質土混じり	1	8世紀後半	C～E4
33		ピット群	灰色土　底面はS-32のような埋土	1	平安時代	D3・4
34	236-1SX650	溝	明灰色土	1	X～XII期	Iライン
35	236-1SD035	溝	明灰色土　東側は深いが埋土は同じ	1		G7・8
36	236-1SX640	溝	明灰色土　S-58と同じ　S-25→36	1	VI期頃	H5～8
37		溝	明灰色土	1		H5
38		窪み	暗灰色土　S-15との境不明瞭	1	平安時代後期	G3・4
39		土坑	明灰色土	1	奈良時代？	H4
40	236-1SB040	掘立柱建物	明灰色粘質土	3	7世紀末	IJ5
41	236-1SD041	溝	東西溝　明灰色土　平安期の条路？	1		F5
42	236-1SD042	溝	東西溝　明灰色土　S-20→42　平安期の条路？	1		F6
43		溝	SX640か？　S-15→43	1		G7
44	236-1SX640	溝		1		HI7
45	236-1SB045	掘立柱建物		1	平安時代中期～	L～O6・7
46		ピット群		1		J4
47		ピット群		1		H5
48		ピット群		1		HI5
49		ピット群		1		L6
50	236-1SK050	土坑	調査中に崩壊	1	平安時代後期	I4
51		溝		1	平安時代	L6
52		ピット群		1	平安時代	N7
53		土坑		1	平安時代	N8
54		撹乱		1		K7
55		溝×土坑	茶錆色土	1	XII期～	J9・10
56		溝	S-15と似た埋土	1		G6・7
57		ピット群	暗灰色土	1		G7
58	236-1SX640	溝	灰色土　S-60の下層もある　S-15→58	1	9世紀前半	G～J6
59	236-1SB655	ピット		1		F6
60	236-1SX640	溝	明灰色土	1	VI期	I6～K6
61		ピット群		1		E・F6
62		土坑群	暗灰色粘質土　周囲も粘質土	1		B3
63	236-1SB660	ピット群	暗灰色土（黄色土混じり）　一部がSB660	1	平安時代？	C5
64		ピット群		1	平安時代	M12
65	236-1SD065	溝	暗灰色土の単一層　S-65→30	1		I3
66		ピット群	茶色土	1	平安時代	M12
67		ピット群	一部SB100f	1	XII期～	N12
68		ピット群		1		M13
69		ピット群	茶色土	1		L12
70	236-1SD070	溝	S-75と同一遺構。S-155・190とも同一か	1	XII期	13ライン
71		凹み		1		K12
72		凹み	灰色土	1		J11
73		土坑		1		I10
74		ピット群		1	11世紀後半～	I10
75	236-1SD075	溝	S-70と同一遺構	1	XII期	13ライン
76		ピット群	灰色土	1		J10
77		撹乱		1		O13

78		ピット群	灰色土	1		NO13・14
79		ピット群	灰色土	1		O12
80	236-1SD080	溝	暗灰色土	1	VIII期頃	Q14・15
81		ピット群	S-15の底面	1		G6
82		ピット群		1		L11
83		土坑	青色土	1		N12
84		土坑群	一部SX640か？	1		P10
85	236-1SX640	溝	S-60と同一遺構？	1	VII期	MN7・8・9
86	236-1SX640	溝	灰色土	1	平安時代前期	P10
87		ピット群		1		P10
88		ピット群		1		P9・10
89		ピット群	黒灰色土（黄色土ブロック混じり）	1		QR9
90		溝	明灰色土　S-640→90	1		L7・8
91		ピット群		1		T10
92		土坑群（撹乱）	青灰色土と黄灰色土	1		P13
93	236-1SX640	溝		1		O13
94		土坑	底面から掘立柱穴、埋土中に切り込んでいたかも。	1		O12
95	236-1SK095	土坑	炭と黄色土混じり、一見撹乱のような埋土	1	XII～XIII期	R10
96	236-1SB100	ピット群	黒灰色土	1	XII期～	O12
97		ピット群	黒灰色土　3個の内西のものに遺物が多い。	1	XII期～	T10
98		ピット群	黒灰色土	1	平安時代後期	U10
99		ピット群		1		T10
100	236-1SB100	掘立柱建物	S-70→100	1	XII～XIII期	NOP11・12
101		ピット群	黒灰色土	1	平安時代後期	S10
102		ピット群	黒灰色土	1		Q10
103		ピット群	黄灰色土ブロック混じり	1		P10
104		ピット群	黒灰色土	1	平安時代	U11
105	236-1SA105	柵列		1	平安時代後期	JKL11
106		ピット群		1	平安時代後期	K10
107		ピット群		1		K11
108		土坑		1		J10
109		ピット群	S-108の底面	1		J10
110	236-1SK110	土坑		1	XII期前後	O10
111		ピット群		1		H6
112		ピット群		1		H6
113		溝群		1		L11
114		ピット群		1		J9
115		溝	灰色土	1	9世紀代	L11・12
116		ピット群		1		I7
117		土坑	S-293→117	1		R16
118		溝？		1		T17
119		凹み		1		P8
120		溝×たまり		1	平安時代	K10・11
121		土坑群		1		O11
122		土坑	黒灰色土　S-70→122	1	XII期～	R13
123		土坑		1		N11
124		土坑	青灰色土	1		N12
125	236-1SD125	溝	細かい淡灰色土	1	XII～XIII期	N14
126		土坑		1	奈良時代	N7
127		溝		1		N7
128		土坑		1	平安時代後期	O8
129		凹み		1		O7・8
130	236-1SD130	溝		1	XII～XIII期	Y11
131		溝		1		P11
132		溝	SX640か？	1		Q11
133		ピット群	一部がSB145	1	XII期～	N9・10
134		土坑		1		M11
135		土坑	炭混じり　S-34との切り合い不明瞭	1	XII期～	HI7
136		凹み		1		M6
137		溝群		1		N9
138	SK095ピット	ピット群	S-95の底面で検出	1		R10
139		ピット群		1		P11
140	236-1SX650	溝	灰茶色土	1	XII期～	Jライン
141		ピット群	現代の杭	1	現代	S14
142		ピット群		1		SR14
143		ピット群		1		QR11
144		ピット群		1		Q14
145	236-1SB145	掘立柱建物		1	XII期	K～W・9・10
146		ピット群		1	平安時代後期	R11・12
147		ピット群		1		T12
148	236-1SX640	溝	遺物にS-70の遺物あり	1		R11・12
149		土坑	明青色土	1		R11
150	236-1SA150	柵列		1	XII期前後	L9・10
151	236-1SX640	溝		1		S11
152		ピット群	黒灰色土（黄色土ブロック混じり）	1		S11
153	236-1SX640	溝	淡灰色土　S-153→125	1		N13
154		ピット群		1		V10
155	236-1SD155	溝	S-190と同一遺構。遺物量少ない	1	XII～XIII期	ABAC12
156		ピット群	S-130→156	1	XII期～	X11
157		ピット群		1	XII期	AA11・12

158		ピット群		1		AA12
159		ピット群	灰色粘質土	1		AE12
160	236-1SK160	土坑	S-160→155	1	IX～X期頃	AB12
161	236-1SX640	溝	S-161→30	1		J4
162		ピット群		1	平安時代後期	QR11
163	236-1SX640	溝	灰色土	1		Q14
164		くぼみ		1		Q14
165	236-1SB165	掘立柱建物		1	XII期前後	P11
166		土坑	茶色土と茶灰色土	1	平安時代後期	AA・AB11
167		土坑	茶色土	1		AB11
168	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代	AC～AG11
169		溝	明茶色土	1		AA12
170	236-1SD170	溝		1	XII～XIII期	TUVW16
171		ピット群		1		AD11
172		窪み	S-120と同一遺構	1	XI期頃	K9・10
173		溝	明灰色土	1		N10・11
174		溝	明灰色土	1		M10
175		土坑	灰褐色土	1	平安時代	AC17
176	236-1SX640	溝	淡明灰色土　最下層は灰色粘質土	1		M10・11
177	236-1SX640	溝群		1		L9・10
178		土坑		1		M9
179	236-1SX640	溝		1		K10
180	236-1SD180	溝	黒灰色土	1	XII期前後	AD・AE17
181		たまり		1	XII期	K10
182		溝		1		H7
183	236-1SX640	溝		1		J6
184	236-1SX640	溝	S-161と同一溝	1		J6
185	236-1SD185	溝	茶灰色土	1	11世紀後半頃	AD・AE18
186	236-1SX640	溝	S-184との切り合い不明瞭	1		J5
187	236-1SX640	溝	S-188との切り合い不明瞭　茶褐色土	1		K5
188	236-1SX640	溝	茶褐色土	1		K5
189		溝	明灰色土	1		K5
190	236-1SD190	溝	遺物量少ない	1	XII～XIII期	AE11・12
191		溝	明灰色土	1		L5・6
192		ピット		1		K5
193		ピット		1		K5
194		ピット		1		J6
195		溝		1		S16
196		土坑？	淡青色土	1		M8
197		溝	S-70の混入あり？	1	平安時代	Q12
198		土坑	炭まじり黒灰色土	1	平安時代前期	R14
199	236-1SX640	溝		1	平安時代前期	R14
200		溝	茶灰色土	1		TU14
201	236-1SX640	溝		1		R13
202		ピット群		1	平安時代後期	S15
203		ピット		1		T12
204	236-1SX640	溝	明灰色土	1	9世紀前半	L8
205	236-1SE205	井戸	明灰色土　　一面で井戸枠部分陥没確認	3	VIB～VII期	K8
206	236-1SX640	溝	明灰色土	1		K8
207	236-1SX640	溝	明灰色土	1	平安時代	K8
208	236-1SX640	溝		1		LM11
209		ピット	川原石含む	1		P9
210	236-1SD210	溝	茶灰色土　　S-130と同一遺構？　遺物少ない	1	平安時代後期	Y16
211		ピット	黒灰色土（炭混じり）	1	平安時代後期	R9
212		土坑		1	11世紀後半	K10
213		包含層		1	平安時代後期	AA14
214		ピット群		1		M11・12
215	236-1SE215	井戸	灰茶色土　S-246・367→215	1	VIII～IX期	AC14
216		ピット群		1		L10
217	236-1SX640	溝	茶褐色土	1		I9
218	236-1SX640	溝		1		I9
219		溝		1		J9
220	236-1SD220	溝	茶灰色土（埋土はほぼ単層）	1	VII＜VIII期	AC・AD13
221		ピット	S－218の下	1		I9
222		ピット群		1		K10
223		ピット群		1		P11・12
224		ピット群		1		L9
225		溝	暗灰色土	1	XII期前後	AF18
226		ピット群		1		K11
227		ピット群	茶灰色土　　S-180→227	1	平安時代後期	AE17
228		ピット群	茶灰色土　　S-250→228	1		AD17
229		撹乱	黄色土	1	近現代	AD18
230	236-1SE230	井戸	暗灰色土	1	VIII期前後	AC15
231		ピット群	灰色土	1		AD18
232		ピット群	灰色粘質土	1		AD17
233		ピット群	灰色粘質土	1		ADAE17
234		ピット群	灰色粘質土	1		AE18
235	236-1SK235	土坑	黒灰色土	1	11世紀	BF39
236		ピット群	灰色土	1		AE17
237		ピット群	茶灰色土	1		AA15

238		溝	淡灰色土	1		AB17
239		たまり	茶褐色土	1	平安時代後期	T15
240	236-1SK240	土坑	第168次調査SK440と同一遺構	1	XI～XII期	AX27
241		ピット群	灰色粘質土	1		AA14
242		ピット群	黒灰色土	1		AB16
243		溝	灰色砂	1		AB16
244		撹乱	青灰色粘質土　S-210→244	1	XII期	Y16
245		たまり	灰色砂→灰色粘質土	1	XII～XIII期	AA・AB16
246	236-1SX645	溝	茶色土	1	VIII期前後	AA14
247		溝	茶色土	1		AA14
248		溝	茶灰色土	1	平安時代後期	AA15
249		溝	茶灰色土	1		AA15
250	236-1SD250	溝	灰茶色土　S-260と同一遺構	1	11世紀	17ライン
251	236-1SX640	溝	黒灰色土	1		JK7
252		溝	黒灰色土	1		J7
253		溝	茶褐色土	1	平安時代前期	I9・10
254		溝	茶灰色土	1		R16
255		溝	茶褐色土	1	平安時代後期	AC16
256		土坑	茶灰色土	1		R16
257		土坑	黒灰色土	1		R16
258		溝	茶灰色土	1		S16
259		土坑		1		I8
260	236-1SD260	溝	S-250と同一遺構	1	X～XI期	AF～AG17
261	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代	ABAC13
262	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		ABAC13
263		ピット	黒灰色土	1		AB13
264		ピット	黒灰色土	1		AB13
265		土坑	黒灰色土	1	11世紀前半～中頃	BD39
266		ピット	黒灰色土	1		AB14
267		土坑	黒灰色土	1	平安時代後期	AB14
268		ピット	黒灰色土　S-269→268	1	平安時代中頃～後期	AB14
269	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		AA・AB14
270	236-1SD270	溝	淡灰色土	1	X期前後？	AD～AH15
271		溝		1		R15
272	236-1SX640	溝		1		QR15
273		ピット群		1	XII期	R15
274		土坑？	S-272→274	1	11世紀	R16
275	236-1SB275	掘立柱建物		1	XII期前後	AL10・11・12
276		溝	灰色土	1		S15
277		溝	茶灰色土	1	平安時代後期	W17
278		ピット群	黒灰色土	1		W17
279		ピット	黒灰色土	1	平安時代後期	V17
280	236-1SA280	柵列a～c	灰色粘質土	1	平安時代後期	AL10・11・12
281	236-1SX640	溝		1		I8
282		溝		1		I8
283		ピット群	黒灰色土	1	平安時代	P13
284		ピット群	黒灰色土	1		P14
285	236-1SB285	掘立柱建物	炭混じり、柱痕は灰色粘質土混じり	1	XII～XIII期	AOAP9～11
286		ピット		1		T15
287		ピット群		1		ST15
288		溝	灰茶色土	1		T14
289		ピット		1		T14
290	236-1SK290	土坑		1	XII期前後	AS17
291		土坑	茶灰色土	1		T14・15
292		ピット		1		U15
293	236-1SX640	溝	灰色土	1		R15・16
294		ピット群		1		HI9
295		欠番		1		
296		ピット群		1		HI8
297		たまり	茶灰色土	1		Q15
298		ピット群		1		AA17
299		溝		1		Y17
300	236-1SE300	井戸		1	X期頃	AS15・16
301		たまり		1	平安時代後期	AA17
302		溝		1	平安時代後期	AA17
303		ピット		1		AA16
304		ピット	黒灰色土	1	平安時代	AB15
305		溝	茶灰色土	1	11世紀	AB16
306		土坑		1	11世紀～	AB17
307		溝	暗灰色土	1		AB15
308		溝	茶灰色土	1		AB15
309		ピット		1		V14
310	236-1SK310	土坑		1	XII～XIII期	AYBA32
311		土坑		1		UV15
312		欠番		1		
313		ピット		1		V16
314		ピット		1		V15
315	236-1SK315	土坑	暗灰色土	1	8世紀後半～末	BB35
316		ピット	暗灰色土	1		K7
317		ピット群	灰色土	1		H7

318		溝	黒灰色土	1	平安時代後期	W16
319		溝		1	平安時代後期	V16
320		たまり		1	XII～XIII期	AN13・14
321		溝	茶灰色土	1		VW16
322		ピット		1		R14
323		ピット		1		R16
324		窪み		1		T13
325	236-1SA325	柵列	2間のみ	1	平安時代	AP16
326		ピット		1		AC13
327		土坑	黒灰色土	1		AC14
328		ピット		1		AC14
329		溝	茶灰色土　S-329→180	1	11世紀	AD17
330	236-1SE330	井戸	暗灰色粘質土	1	XII～XIII期	AQ18・19
331		ピット群		1		AF11
332		ピット		1		AE11
333		溝		1		AB16
334		ピット群		1		AC16
335	236-1SD335	溝	暗茶色土（黄色土混じり）	1	平安時代	AI・AJ17
336		ピット群	灰茶色土　S-250の底面	1		AC16・17
337		ピット群	S-250→337	1		AD17
338		ピット群		1		AD16
339		ピット群	明灰色土	1		AG13
340	236-1SB340	掘立柱建物	第267次調査で西側確認	1	平安時代前期	AI・AJ17
341		ピット群		1	平安時代前期	AD13
342	236-1SX645	溝	明灰色土　浅い　S-346の延長上	1		AG12
343		ピット		1		AD17
344		土坑	茶灰色土←灰色粘質土	1	平安時代	ACAD16
345	236-1SX345	整地　包含層？		1基盤	下層VII／上層XII	
346	236-1SX645	溝	S-342と同一遺構	1	平安時代前期	AE12
347		土坑		1	平安時代前期	AF11
348		溝	褐灰色土	1		AC12
349		ピット群		1	平安時代前期	AX28
350	236-1SX350	整地	茶灰色土（濃い鉛色土混じり）	1基盤	XII～XIII期	AO・AQ8～14
351		ピット群		1	奈良時代	AX26・27
352		ピット群		1		AW25
353		ピット群		1	平安時代	AW25・26
354		ピット		1		AH11
355	236-1SD355	溝	S-350の下層の溝　灰茶色土、最下層は灰色土	2	XII～XIII期	AO8・9
356		溝	茶灰色土	1	平安時代後期	AH11
357		たまり		1		AHAI11
358	236-1SX645	溝	茶褐色土	1		AE13
359		ピット群	灰色土	1		AD14
360	236-1SD360	溝	S-350の下層の溝　暗灰色土	2	11世紀～	AO・AP10～12
361		溝	茶灰色土	1	平安時代	AD14
362	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		AE14
363		ピット群	灰色土　S-180→363	1		AC17
364		ピット	灰色土	1		AF17
365	236-1SD365	溝	灰茶色土	2	平安時代	AP10
366		ピット群	灰色土	1		AG17
367	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代	AC～AE14
368		ピット群		1	平安時代	AE14
369	236-1SX645	溝	灰色土	1		AE14
370	236-1SD370	溝	S-375と同一遺構	2	XII期	AMライン
371		ピット群		1	XI～XII期	AE13
372		たまり	茶灰色土	1		AH12・13
373		たまり	灰色粘質土	1		AH13
374		ピット群	茶灰色土	1		AH13
375	236-1SD375	溝	S-370と同一遺構	2	XII期	AMライン
376		たまり	灰色土	1		AF14
377		溝	灰色土	1		AF13
378	236-1SX645	溝	茶灰色土　小皿は混入か？	1	平安時代後期？	AEAF14
379	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	VIII期	AC14
380	236-1SD380	溝	灰色粘質土	2	XII期	AJ13
381	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		AC14
382	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	VIII期？	AC15
383		ピット群		1		AC15
384	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代前期	AF16
385	236-1SE385	井戸		2	XII期頃	AQ14・15
386		溝	灰色土　畑状遺構	1		AF16
387	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代	AGAH16
388		ピット群		1	平安時代後期	AFAG16
389		ピット	茶色土	1		AE14
390	236-1SK390	たまり	茶灰色粘質土	2	XII～XIII期	ANAO13
391		ピット群		1		AH14
392		ピット	灰色土（礎石入り）	1		AG16
393		ピット群		1		BD39
394		ピット群		1		BD39
395	236-1SD395	南北溝	S-395→380	2	XII期頃	AI～AK14
396		土坑	暗灰色土	1		BD39
397		ピット群	暗灰色土	1		BD38

398		ピット群	暗灰色土	1		BC38
399		ピット（柱穴）		1		AE16
400	236-1SD400	南北溝	灰色粘質土→茶灰色土　S-395に対応か	2	XII～XIII期	AN13
401		ピット群	灰色土	1		AG15
402		たまり	茶灰色土	1		AF15
403		溝	灰色土	1		AGAH14
404		ピット		1		AE16
405	236-1SK405	土坑	S-390の底面	2	XII～XIII期	AO13
406		ピット	灰色土	1		AF17
407		ピット群	灰褐色土	1		AF17
408		ピット	灰色粘質土	1		AF17
409		窪み	灰色土　S-411と平行する溝	1		AG15
410	236-1SD410	南北溝	黒灰色土　2面目で確認	3 (2)	VII～VIII期	AP～AR14・15
411		溝	灰色土	1		AG15
412		ピット群	暗灰色土	1	XII～XIII期	AG17
413		ピット群		1		AG16
414		窪み	茶灰色土	1	平安時代前期～中期	AG・AH17
415	236-1SD415	溝	灰色土　浅い　畑状遺構の北端？	2	平安時代	AH16・17・18
416		ピット群		1		AF17
417		土坑	褐色土	1	平安時代後期	AH15
418		たまり×整地層	茶灰色土	1	平安時代後期	AG・AH15
419		たまり×整地層	茶灰色土	1		AF15
420	236-1SB420	掘立柱建物	黄色土ブロック茶色土　第168次S-250と同一遺構	3	8世紀第3四半期	BB・BC35・36
421		ピット群		1	平安時代	AF15
422		ピット	S-419の下	1		AF15
423		ピット群	暗灰色土	1	平安時代	AK11
424		ピット群	暗灰色土　一部S-275j	1		AK12
425		土坑	暗灰色土　S-425→345　遺物はVII期前後	3	XII期	AUAV22・23
426		ピット群	暗灰色土	1	古代	BC36
427		ピット群	暗灰色土	1	8世紀後半	BC37
428		ピット	暗灰色土	1	11世紀～	BC37
429		ピット群	暗灰色土	1	平安時代中期？	BC37・38
430	236-1SD430	溝	黄灰色土←灰色粘質土　S-430→425→345	3	XII期	AV22
431		ピット群	暗灰色土	1		BC37
432		ピット	暗灰色土	1		AK11
433		ピット群	暗灰色土	1		AI11
434		ピット群		1	XII期	AJ11
435		たまり	暗灰色粘質土	3	古代	Sライン
436		溝	茶灰色土単一層　黄茶色土の真砂土のような埋土も混じる	1		AI13
437		溝状	暗茶色土	1	11世紀～	AK11
438		溝	灰色土	1		AB14
439		ピット群	暗茶色土	1		AB14
440		たまり		3	奈良時代	BC37
441		ピット	暗茶色土	1		AD15
442		整地層	茶色粘質土	1	XII期	AK11・12
443		たまり	暗灰色土	1		AJ11
444		土坑	茶色土	1		AE16
445		たまり		3	奈良時代？	BB35
446		ピット	茶色土	1		AD15
447	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		AEAF16
448		溝	灰色土	1		AE16
449		ピット群	灰色土	1		AK12
450		溝	暗灰色粘質土　S-430の下	3	平安時代	AV22
451		たまり	茶色土　S-451→270	1		AD15
452		ピット群	茶灰色土	1	平安時代	AF16
453	236-1SX645	溝	茶色土	1		AF～AH16
454		ピット群		1		AJ13・14
455	236-1SD455	溝	黒灰色土	3 (2)	XI～XII期	AT18
456		ピット群		1		AI14・15
457		ピット群	根石？あり	1		AG16
458		ピット群		1		AG16
459		ピット		1		AF16
460	236-1SK460	土坑		3 (2)	XII期	AS19
461		溝	茶色土	1		AE16
462		ピット	灰色粘質土	1	平安時代後期	AL11
463		ピット群	暗茶色土	1		AL11
464		ピット群	暗茶色土	1		AM11
465	236-1SA465	ピット列		3	VI～VII期	AT19・20
466		ピット	暗茶色土	1	平安時代後期	AJ12
467		ピット	茶灰色土	1		AH16
468		たまり	茶色土	1		AI14
469		ピット群	茶灰色粘質土	1	平安時代後期	AN12
470		たまり	茶色土　S-470→460	3	VI期	ASAT19
471		ピット群		1		ALAM13
472		溝状	茶灰色土	1	11世紀～	AM13
473		溝状	茶灰色土	1		AL・AM13
474		ピット群		1		AL12
475		ピット群		3	VIB～VII期	AU19・20
476		ピット群		1	平安時代後期	AQ11
477		土坑		1		AP11

478		ピット群		1		AP11
479		ピット群		1		AOAP9・10
480	236-1SB480	掘立柱建物		3	8世紀第3四半期	I6ライン
481		ピット群		1	平安時代後期	AO8
482		ピット群		1	XII～XIII期	AQ13・14
483		たまり	黄褐色土	1		AR13
484		たまり	黄褐色土	1	11世紀後半～	AR・AQ14
485	236-1SB485	掘立柱建物	S-40→485	3	8世紀前半	IJ4・5
486		ピット群	柱痕あり	1	平安時代後期	AP9
487		ピット群		1	平安時代後期	AK14
488		たまり	灰色粘質土	1	平安時代後期	AK14
489		ピット	炭と橙色土ブロック混じり	1	11世紀後半～	AO8
490	236-1SA490	柵列		3	奈良時代？	I6・7
491		溝	茶灰色土	1		AH16
492		溝	茶灰色土	1		AH16
493		土坑	黄褐色土混じり	1	平安時代後期～	AR16
494		ピット	黄褐色土混じり	1	平安時代後期～	AR15
495		掘立柱建物	SB500の一部	3	奈良時代？	JJ9・10
496		ピット群	暗灰色土	1		AS16
497		ピット群	暗灰色土	1		AS17
498		ピット群	暗灰色土	1	奈良時代	AS18
499		ピット群	灰色粘質土（炭化物が若干混入）	1		AM14
500	236-1SB500	掘立柱建物		3	奈良時代？	IJ9～11
501		ピット	暗茶色土	1	11世紀～	AM14
502		ピット群		1	平安時代後期	AN12・11
503		ピット群	灰色粘質土（炭化物が若干混入）	1	平安時代後期	AN11
504		ピット		1	XII～XIII期	AN12
505	236-1SD505	溝		3	X期頃	AN14～18
506		ピット群		1	平安時代後期	AOAP10
507		ピット群		1	XII～XIII期	AP12
508		ピット群		1	平安時代	AP13
509		ピット群	暗灰色土	1		BA33・34
510	236-1SE510	井戸		3	VIII～IX期	AN11・12
511		ピット群	暗灰色土	1	平安時代前期	AY30・31
512		ピット群	暗灰色土	1		AX30
513		土坑	暗灰色土	1		AY30
514		ピット群	暗灰色土	1		BB35
515	236-1SD515	溝（整地）	厚さ20cm	3	VIB～VII期	AKライン
516		ピット群	暗灰色土	1		BB34
517		ピット群	暗灰色土	1		BB35
518		柱穴	第168次調査S-95	1	平安時代前期	BB35
519		ピット	S-518の下	1		BB35
520	236-1SD520	溝	厚さ30cm	3	9世紀代？	AKライン
521		ピット	S-518の下	1		BB35
522		土坑	暗灰色土	1	平安時代中期	AY30
523		土坑	暗灰色土	1		AX29
524		ピット群		1		AS18
525	236-1SX525	整地	厚さ10cm	3	平安時代前期	AJ14～18
526		溝		1		AN11
527		ピット群		1	11世紀～	AN11
528		たまり		1	XII～XIII期	AN12
529		溝		1	平安時代	AN12
530	236-1SX530	整地×窪み	黒灰色土	3	VIB～VII期	AL16・17
531		ピット群		1		AN12
532		たまり	暗灰色土	1		AR14
533		ピット	暗灰色土	1	VII～VIII期	BB36
534		ピット	S-533の下	1		BB36
535	236-1SK535	土坑	黒灰色土	3	平安時代中期？	AL18
536		ピット		1		BB36
537		土坑	灰色土　S-537→538	1		AK17
538		土坑	黄灰色土	1		AK17
539		ピット群	灰色土	1	11世紀	AL17
540	236-1SD540	溝	黒茶色土　S-1038と同一遺構か　S-540→545→530	3	VII期前後	AL・M17
541		溝	灰色砂質土	1	平安時代	AM17
542		ピット群	灰色土	1	9世紀代	AM17
543		ピット		1	11世紀～	AM18
544		土坑	黒色土	1	XII～XIII期	AM17
545	236-1SK545	土坑	灰色粘質土　S-545→530	3	VIB～VII期	AL17
546		ピット群		1		AL16
547		溝	黄灰色土	1		AL16
548		ピット群		1	11世紀～	AL15
549		ピット群		1		AR16
550	236-1SD550	溝	茶褐色土	3	VIB～VII期	AJライン
551		ピット		1		AR16
552		ピット		1	VII期前後	AR16
553		土坑		1	VI～VII期	BB36
554		ピット群		1	XII～XIII期	AU19
555		溝	S-615のこと	3		AJ12～
556		ピット群	灰色土	1	平安時代後期？	AN18
557		ピット群	灰色粘質土（柱痕あり）	1		AN18

558		溝	黄茶色土	1	平安時代前期	AN18
559		ピット群	茶色土	1	XII～XIII期	AM16
560	236-1SD560	溝		2	XI期	APライン
561		ピット		1	11世紀中頃？	AS17
562		ピット群		1		AS20
563		ピット群		1	XII～XIII期	AT20
564		ピット群		1		AT20
565		土坑				AP12
566		ピット群		1		AT・AU21
567		ピット		1	平安時代後期	AL18
568		ピット		1		AK17
569		溝	茶灰色土　S-569→571	1		AK18
570	236-1SB570	掘立柱建物		3	8世紀第3四半期	AF～AH11
571		ピット群	茶色土（黄色土混じる）	1		AK18
572		ピット		1	X期	AV23
573		ピット群		1	平安時代	AU22
574		土坑		1	X期	AU22
575	236-1SD575	溝	茶褐色土　S-550→575	3	VI～VII期	AIライン
576		ピット群		1		AU21
577		ピット		1	IX期	AU21
578		溝		1		AQ16
579		ピット群		1	平安時代後期	AQ16
580	236-1SD580	溝	茶褐色土　S-550→580	3		AJライン
581		土坑		1	平安時代後期	AQ16
582		ピット群		1	XII期	AL14
583		溝	茶灰色土（炭化物混じり）	1		AO13
584		ピット群		1	平安時代後期	AN13
585	236-1SE585	井戸	1面目で確認、3面目で調査	3（1）	VII期	AF14
586		ピット群	茶灰色土	1	平安時代	AN14
587		ピット群	茶灰色土	1	平安時代中期～後期	AN14
588		ピット群	茶灰色土	1		AO14
589		ピット群		1	平安時代後期～	AK15
590	236-1SK590	土坑	S-417・418の掘り残しか？	3（1）	XII～XIII期	AG・AH15
591		ピット群	茶灰色土	1	平安時代	AQ17
592		ピット群		1		AQ17
593		土坑	茶灰色土	1		AQ17
594		溝	茶色土	1	XII～XIII期	APAQ17
595	236-1SB595	掘立柱建物	S-996・997・1066。整理中に判明。	3	平安時代前期	AP10・11
596		ピット		1		AM13
597		溝		1	平安時代前期	AR16
598		溝	茶褐色土（黄色土・炭混じり）	1	XI～XII期	AT19・20
599		ピット群	暗灰色土（小さな黄色土混じる）	1	11世紀前半～中頃	AT19
600	236-1SE600	井戸		3	VII期前後	APAQ19
601		ピット群		1	11世紀？	AU21
602		ピット		1	平安時代前期	AT19
603		土坑	S-460の落ち込み埋土	1	XII期	AS19
604		ピット群		1	11世紀～	AN15
605		たまり	灰色砂質土	3	弥生～奈良時代	I～P6～12
606		たまり	茶灰色土	1	XII期	AO14
607		ピット	暗灰色土	1	11世紀～	AO14
608		ピット群	黒灰色土	1	平安時代後期～	AJ16
609		土坑	灰色土	1		AQ16
610	236-1SE610	井戸	暗灰色土　S-480→610→210	3（1）	平安時代中～後期	Y16
611		溝	茶灰色土	1		AQ16
612		土坑	黒灰色土	1		AQ16
613		溝	暗灰色土	1		AQ17
614		土坑	灰色土	1	平安時代後期	AR17
615	236-1SF615	溝　道路遺構	灰白色砂・茶色砂　S-520と550との間	3	VI～VII期	AJライン
616		ピット		1	平安時代前期	AR19
617		ピット		1	平安時代前期？	AS19
618		ピット群		1		AR19
619		ピット群	灰色粘質土	1	平安時代	ARAS20
620		土坑	茶灰色砂質土　S-620→525→615	3	VIB～VII期	AK18
621		ピット群	暗灰色土	1		AR20・21
622		ピット群	暗灰色土	1		AS20
623		ピット群	暗灰色土	1	平安時代前期	AS19
624		ピット群	暗灰色土	1	平安時代前期	AS20
625	236-1SE625	井戸	S-625→510	3	VIB～VII期	AL12
626		溝	S-594の下	1	平安時代	AP16
627		ピット群	暗灰色土	1		AO15
628		たまり	茶灰色土	1	11世紀後半	AN16
629		ピット	S-629→634	1	11世紀	AJ18
630	236-1SB630	掘立柱建物	整理時に変更。旧S-480V・W・X	3	9世紀代	AD・AE18
631		ピット群	茶灰色土	1		AI・AJ18
632		ピット	灰色粘質土　S-632→633	1		AJ18
633		ピット	灰色粘質土	1		AJ18
634		ピット	黒灰色土	1		AJ18
635	236-1SA635	柵列	整理時に確認。S-490→635	3	平安時代前期	I4～8
636		ピット群	茶灰色土	1		AJ18
637		ピット群	茶灰色土	1	平安時代後期～	AK17

638		たまり	黒灰色土	1	平安時代後期～	AK17
639		たまり	灰色粘質土	1	平安時代後期～	AK17
640	236-1X640	畑状遺構	格子状の溝の統一番号	1	VIII期前後	
641		たまり	黒灰色土	1		AJ18
642		溝	黄灰色土	1		AJ18
643		ピット群	暗灰色土	1	平安時代後期～	AP15・16
644		ピット群	暗灰色土	1		AP17
645	236-1SX645	畑状遺構	南北溝の統一番号	1	VIII期前後	
646		ピット	黒灰色土	1		AP16
647		ピット群		1	9世紀代	AS18・AR19
648		ピット群	撹乱の下から検出	1		AR18
649		ピット	暗灰色土	1		AP16
650	236-1SX650	畑状遺構	S-5・10・34・140	1	VIII期前後	
651		溝	黄灰色土	1		AJ18
652		溝	暗灰色土	1		AJ18
653		溝	灰色粘質土	1		AJ18
654		溝	灰色土	1		AJ18
655	236-1SB655	掘立柱建物	第257次調査で残り（S-5）を確認。	1		F6・7
656		ピット		1		
657	236-1SD657	溝	茶灰色土	1		AH16・17
658		溝	茶灰色土	1		AH16・17
659		ピット群		1		AO18
660	236-1SB660	掘立柱建物	第255次調査で残りを確認。	1		B～D4・5
661		たまり	黄色土混じり	1		AP18
662		ピット群	暗灰色土	1		APAQ18
663		ピット	柱痕（灰色粘土）あり	1		AP12
664	236-1SB285m	ピット	柱痕なし　SB2851	1	XII～XIII期	AP11
665	236-1SF665	道路	SD015と020との間	1	奈良時代	F・Gライン
666		ピット		1	平安時代後期	AO9
667		ピット	柱痕らしきものあり	1	平安時代後期	AP9
668		ピット群	浅い。窪みかも	1	平安時代後期	AO8
669		土坑		1	平安時代	AS20
671		ピット群		1	V期	AR20
672		ピット群		1		AS19
673		ピット		1		AS19
674		ピット群		1		ASAT18
676		ピット群		1		AR17
677		溝×凹み	灰色粘土	1	XII～XIII期	AP17
678		土坑×たまり	暗灰色土	1	XII～XIII期	AP17・18
679		溝	黒黄色土	1		AJ18
681		ピット群	暗灰色土	1		AJ11
682		ピット群		1		ABAC15
683		ピット		1		AD14
684		ピット		1		AE16
686		ピット		1		AG14
687		ピット		1		AI12
688		ピット		1		AK12
689		ピット		1		AK14
691		ピット		1	平安時代後期	AN13
692		ピット	灰色粘質土（柱痕らしきものあり）、焼土塊多い	1		AM17
693		溝	茶灰色土	1		AL18
694		ピット		1		AF12
696		ピット		1		AF17
697	236-1SB285m	ピット	S-285の続き	1	XII期～	AO9
698		ピット		1		AR15
699		たまり		1	平安時代後期～	AN17・18
701		溝	茶灰色土	1		AR16
702		ピット		1		AX27
703		ピット群(撹乱)	第168次調査分	1		BD38
704		ピット群		1	平安時代後期	BC37
706		ピット群	柱痕らしきものあり、灰色粘質土	1		AU20・21
707		ピット群	柱痕らしきものあり、灰色粘質土	1	平安時代後期	AT21
708		ピット群	柱痕らしきものあり、灰色粘質土	1	平安時代後期	AT20
709		ピット群	S-180の下	1		AF17
711		ピット	灰色粘質土	1	平安時代後期	AP8
712		ピット		1		AO15
713		ピット群	暗灰色土	1	11世紀～	APAQ14・15
714		ピット	灰色粘質土	1		AQ15
716		ピット	新しいか？	1		BD39
717	236-1SX717	整地	茶褐色土（黄色土混じり）　深さ約5cm	1基盤	XII期前後	AQAR15
718	236-1SX718	整地	暗灰色土（少々黄色土含む）	1基盤	XII期前後	AV22・23
719	236-1SX719	整地	灰茶色土	1基盤	XII期前後	AO・AP10～15
721		土坑		1	XII～XIII期	AO12
722	236-1SX722	整地	灰茶色土（錆色土）　深さ約5cm	1基盤	XII期頃	AR14
723	236-1SX723	整地	黄色土（若干白色土混じり）　遺物あまりない 出土遺物は下の層から	1基盤	平安時代後期	AQ17
724	236-1SX724	整地	灰茶色土	1基盤		AP・AO17
726	236-1SX726	整地	灰茶色土（錆色土含む）、東ほど明るい土。 S-370検出段階の土層	1基盤	XII期前後	AM・AN10～15
727	236-1SX727	整地	黄色土と白色土と茶色土の混合層（真砂土にも似ている）	1基盤		AN16
728	236-1SX728	整地	灰茶色土（錆色土、黄色土含む）S-375検出段階の土層	1基盤	XII～XIII期	AM16～18
729		整地	黒灰色土	1基盤	XII期前後	AT21

731		ピット群	灰茶色土	2		AP・AQ12
732		ピット群	灰茶色土　　S-360の下	2		AP11
733		ピット群	灰茶色土　　S-355・360の下	2	11世紀～	AP10
734		ピット	灰茶色土	2		AQ12
736		溝	灰茶色土	2	11世紀～	AP9・10
737		溝	灰茶色土	2		AP9
738		土坑	灰茶色土	2	X期？	AP8
739		ピット群	撹乱の下から	2		ARAS20
741		ピット	S-736の下	2	11世紀～	AP10
742		ピット群		2	X期前後	AP11
743		ピット群		2		AP9
744		ピット群		2		AP9
746		ピット群		2		AP8
747		ピット群（柱痕あり	灰色土	2		AU21
748		ピット群（柱痕あり	灰茶色土	2		AS20
749		ピット群（柱痕あり	灰茶色土	2		AS20
751		ピット	暗灰色土	2		AS20
752		ピット群		2		AT20
753		ピット		2		AT20
754		ピット群		2		AT21
756		ピット群		2		AT21
757		ピット群		2		AU20
758		ピット群		2		AU20
759		ピット群	暗茶色土	2		AU19
761		溝	暗茶色土	2		AT19
762		たまり	茶灰色土	2		AT20
763		ピット群	暗茶色土	2		AT20
764		ピット	暗茶色土	2	平安時代	AT20
766		ピット群	暗茶色土	2		AT20
767		ピット群	暗茶色土	2		AT18
768		ピット群	暗茶色土	2	11世紀～	AT19
769		ピット群	暗茶色土	2		AS19
771		ピット群	暗茶色土	2		AT18
772		ピット	暗灰色土	2	XII期前後	AS19
773		ピット群	柱痕あり	2		AT20
774		ピット群		2		AU19
776		ピット	柱痕あり	2		AT19
777		ピット	暗茶色土	2		AS19
778		ピット		2	平安時代	AT21
779		ピット群	暗茶色土	2		ATAS18
781		溝	黒灰色土	2	XII期前後	AT18
782		ピット群	暗茶色土	2		AS17
783		ピット群	暗茶色土	2		AT17
784		ピット群		2		AQ12・13
786	236-1SD786	たまり×溝	灰茶色土と黄色土との混じり土	2	11世紀後半頃	APAQ13
787		ピット	暗茶色土	2		AR19
788		ピット群	暗茶色土	2		AR18
789		溝	灰茶色土と黄色土ブロックの混じり	2		AR18
791	236-1SX791	整地	淡明灰色土　灰色土上を検出した土色	1基盤	平安時代中期	AQ・AS16～18
792		ピット群	暗茶色土	2		AR17
793	236-1SX793	整地	灰茶色土（部分的に明茶色土）、土器細かく混じる	2	XII期	AO・APライン
794		溝	灰白色土	2	XII～XIII期	AR16・17
796		たまり	茶色土	2	奈良時代	AS16
797		ピット群	暗灰色土　S-370の底面	2		AM11
798		ピット群	暗灰色土	2		AR16
799		ピット群		2		ARAQ16
801		ピット群		2	VIII期前後	AR16
802	236-1SX802	整地	S-370の南側のひと下げ、明瞭な整地層ではない。	1基盤	XII～XIII期	AMラインより南側
803		ピット群		2	平安時代前期	AQ19
804		ピット群	灰色粘質土	2		AK11
805				2		
806		たまり	橙灰色粘質土	2	平安時代後半	AK12
807		たまり	茶色土	2	11世紀～	AK12
808		たまり	黄茶色土	2		AJ11・12
809		ピット群	S-793の下	2	平安時代	AO11・12
810				2		
811		溝	橙灰色粘質土	2	11世紀～	AK11
812		土坑	灰色土	2	XII～XIII期	AR14
813		ピット群		2		AO9・10
814		ピット群		2		AM17
816		土坑	S-375→816	2	XII期～	AM17
817		凹み	S-370の上にのっている。	2		AL15
818		たまり	灰色砂質土	2	平安時代後半	AK13
819	236-1SX819	窪み	茶色砂質土　S-395→819　S-395の窪み	2	XII期～	AJ13
821		ピット群	茶色砂質土　S-370の底面	2		AM12
822		ピット		2		AQ14
823		たまり	茶灰色土　S-786→823→793	2	11世紀後半～	AP12
824		ピット群		2		AP12
826		土坑	茶灰色粘質土　S-786の下	2		AP13
827		ピット群		2		AQ17

828		整地（窪み）	灰茶色土　深さ約5cm	2	平安時代後半	AN15
829		整地		2	平安時代後半	AO14
831		整地×くぼみ		2	12世紀代	AO13
832		ピット群	撹乱の底面	2		AK13
833		ピット群		2		AN12
834		ピット群		2	平安時代中期	AO・AP13
836		ピット群		2		AO11・12
837		ピット群		2	11世紀代	AR13
838		ピット群		2	11世紀	AN13
839		土坑群		2		AN12
841		土坑	黒茶色土　底面ピットより白磁I類・緑釉出土	2		AN12
842		溝	黒茶色土	2		AN12
843		溝	黒茶色土	2		AN13
844		土坑	黒茶色土	2		AN13
846	236-1SX846	たまり	茶灰色土　　S-410→846	2	XII～XIII期？	AR15
847		たまり	黄灰色土	2	平安時代	AQ15
848		たまり	暗灰色土	2	XII～XIII期	AO14
849		ピット	灰色粘質土　S-848→849	2		AO14
851		たまり	暗灰色土	2		AN14
852		たまり	黄灰色土	2		AN14
853		溝	灰色土	2		AQ17
854		たまり	茶灰色粘質土　　S-727→854	2	XII～XIII期	AO16
856		土坑	黒色土	2	平安時代前期	AN15
857		ピット	暗灰色土　　S-857→849→847	2		AQ16
858		ピット群		2		ANAO18
859		ピット群	トレンチ内	2		AP14・15
861		溝	黄茶色土	2		AP16
862		ピット群	茶色土	2		APAQ16・17
863		ピット	黄色粘質土	2		AP18
864		溝	黄色粘質土	2		AP18・19
866		溝	黄灰色粘質土（黄色土ブロック多く入る）	2		AP18
867		ピット群		2		AOAP18
868		ピット群		2		AK15
869		溝	黒茶色土　　S-380→869	2		AJ16
871		溝	暗灰色粘質土	2		AJ17
872		土坑	暗灰色土	2		AI16
873		ピット群		2		AI17
874		溝	灰茶色土	2		AI17・18
876		溝	茶色土	2	平安時代後期～	AI17
877		土坑	暗灰色土	2	8世紀末～9世紀	AIAH18
878		溝	灰色土　　S-878→877	2		AJ18
879		ピット群	S-879→877	2		AIAH18
881		ピット	S-340の掘立柱建物の掘り残し	2(1)		AJ18
882		土坑	茶灰色土	3	11世紀後半～	AW25
883		ピット群	灰色土	3	奈良時代	AW25
884		ピット群		3		AVAW24
886		ピット	暗灰色土	3		AV24
887		ピット	暗灰色土	3		AV24
888		ピット群		3		AY30
889		土坑	暗灰色粘土と黄色土の混合層	3		AY30・31
891		土坑		3		AY31
892		ピット群		3		BB36
893		ピット群		3		BA33
894		ピット群		3		BC36
896		土坑	黄色土	3	奈良時代	BB36
897		土坑	黄色土	3		BC37
898		土坑		2	平安時代前期	AQ19
899		ピット群	S-375の下	2		AM18
901		ピット		2		AL14
902		ピット				AO13
903		ピット群		3		BD39
904		土坑	暗灰色土	3	奈良時代	BC38
906		ピット群		3		BC38
907		ピット群		3		BD38
908		ピット群		3		BA32
909		ピット	暗灰色土（黄色土ブロック混じる）	3		BC36
911		ピット	暗灰色土	3		BC36
912		土坑	暗灰色土（黄色土ブロック混じる）	3		BC37
913		土坑	暗茶色土	3	奈良時代	BD39
914		土坑		3		AY30
916		ピット群		3	平安時代	AU22
917		ピット群		3		AU22
918		ピット		2		AU22
919		ピット		3		O13
921		ピット	灰色砂	3	弥生時代？	P12
922		ピット		3		V15
923		たまり	暗灰色粘質土	3		T15
924		たまり	暗灰色粘質土	3		U14
926		土坑	暗灰色土	3		T11
927		ピット		3		R12

928		たまり	灰色土	3	弥生時代	ST13・14
929		ピット群		3		S15
931		たまり	灰色土	3	弥生時代後期	R12
932		たまり	灰色砂	3	弥生時代	OP12
933		たまり	灰色砂	3		P11・12
934		たまり	灰色土	3		PQ11
936		たまり	灰色土	3		P11
937		たまり	灰色土	3		O11
938		たまり	灰色土、灰色砂	3		P～R10・11
939		たまり	灰色土、灰色砂	3	弥生時代？	RQ13・14
941		たまり	灰色粘土	3		R15・16
942		溝	S-942→495	3		J11
943		ピット		3		K10
944		ピット		3		M11
946		ピット		3		N10
947		たまり	灰色土	3		O8
948		たまり	灰色砂	3		N7
949		ピット	灰色粘土	3		M7
951		たまり	灰色土	3	古墳時代？	LM7
952		ピット群		3		AD11・12・13
953		溝	茶褐色砂（しまっている）	3		AA11・12
954		溝	茶色土　1面の掘り残し	3(1)		AA11
956		溝	茶色土　1面の掘り残し？	3(1)		AA11
957		溝	灰色土	3		ADAE11
958		ピット	S-958→445	3	奈良時代	BB35
959		ピット	S-959→445	3		BB34
961		ピット	茶灰色土（黄色土ブロック混じり）	3		AW25
962		ピット群	S-962→430	3		AV23
963		ピット群		3		AV23
964		ピット群		3		AT19・20
966		ピット	灰色土	3		AT20
967		ピット群		3		AT19
968		土坑	黒色土	3		AU20
969		土坑	茶灰色土	3	8世紀後半	AU20
971		ピット群		3		AU21
972		ピット群	S-972→455	3		AT18
973		溝	黒色土　S-973→460	3		AR19
974		ピット群	黒色土	3		AR19
976		ピット群		3		AR19
977		ピット群	暗灰色砂質土　S-410の底面	3	平安時代前期	AP14
978		たまり群	黒色粘土に入り込む埋土	3		AN12
979		ピット群		3	奈良時代	AOAP9
981		ピット		3		AU21
982		ピット		3		AU21
983		土坑	黒色土	3	平安時代前期	AU21
984		ピット群		3		AU20
986		ピット群		3		AT20・21
987		ピット		3		AS21
988		ピット群		3	奈良時代	AT19
989		土坑	黄色土、下層は淡灰色土（S-699の掘り残し）	3(2)	XI～XII期	AN18
991		土坑群		3		AP9・10
992		ピット群		3		AO10
993		ピット群		3		AO11
994		土坑		3		AQ11
996	236-1SB595	ピット群	S-595の一部	3	平安時代前期	AO10
997	236-1SB595	ピット群	S-595の一部	3		AP10
998		ピット群		3	平安時代	AP10・11
999		ピット群とたまり	灰色土	3		AAAB14～16
1001		ピット	灰色土	3		AS18
1002		溝	黒色土	3		AU21
1003		ピット群		3		AT21・22
1004		ピット	黒色土	3	奈良～平安時代前期	AU21
1006		たまり	灰色土	3		AN16
1007		たまり	暗灰色粘土　S-505→1007→1006	3		AN15
1008		土坑	暗灰色土	3		AO15
1009		ピット群		3		AO14・15
1011		たまり	黒色土　2つ番号だぶる	3		AL11、AJ17・18
1012		ピット	灰色砂質土	3		AL11
1013		ピット群		3		AL11・12
1014		ピット	灰色砂質土	3		AL11
1016		たまり	S-505の上面	3(2)	11世紀代	AN14・15
1017		溝	黒色土	3		AL10
1018	236-1SE510	土坑	茶色土　S-510の最上層	3	平安時代	AL11
1019		ピット群	黒茶色土　S-1019→1001	3	VIII～IX期	AL11
1021		たまり	茶色土	3		AN16
1022		たまり	茶色土	3	平安時代前半	AN15
1023		ピット群		3		AM15
1024		ピット群		3		AL18
1026		溝	茶灰色粘質土	3	平安時代	AL18
1027		ピット		3	平安時代	AL17

1028		ピット		3		AL17
1029		ピット		3		AL17
1031		ピット	黒茶色土　S-540→1031	3	平安時代前期	AK17
1032		たまり	茶灰色土　S-1038→505→1032	3	VII期頃	AN16
1033		たまり	淡灰色砂質土　S-505→1033	3		AN14
1034		ピット群		3		AN14・AO14
1036		たまり	茶色土　S-1036→1011　厚さ約30cm	3	平安時代前期	AL11・12
1037		溝	黒灰色土	3	9世紀代	AO15・16
1038	236-1SD1038	溝	暗茶色土　S-540と同一溝か	3	VII期前後	AO15・16
1039		溝	茶灰色のサクサクした土	3		AN18
1041		溝	黄灰色土	3		AN18
1042		ピット群	灰色粘質土　S-530の底	3		AL16
1043		溝	黒茶色土　S-530の底	3	平安時代前期	AL16
1044		ピット群		3		AN16・17
1046		ピット群		3		AL17
1047		溝	茶褐色粘質土	3		AK18
1048		ピット		3		AK17
1049		たまり	灰茶色粘土　S-1047→525	3	平安時代前期	AO14・15
1051		ピット群		3		AE13・14
1052		ピット群		3		AD15
1053		ピット		3		
1054		ピット		3		
1056		ピット群		3	奈良時代	I9・J10
1057		ピット群		3	古代	HI7
1058	236-1SA635	ピット群	一部SA635	3	古代	IJ6
1059		ピット群		3	古代	I5・6
1061		ピット群		3	古代	J4・5
1062		たまり	灰色土、灰白色土ブロック、灰茶色土の混合層	3		AP12・13
1063		ピット群		3		AP12
1064		ピット群	灰色土	3		AO12
1066	236-1SB595	ピット群	灰白色土と灰色土と灰茶色土の混合層　S-595の一部	3		AP11
1067		たまり	灰白色土と灰色土と灰茶色土の混合層	3		AP・AQ14
1068		ピット群		3		AP10・11
1069		たまり	灰白色土ブロックと灰色土と灰茶色土の混合層	3	弥生時代後期	AQ12・13
1071		ピット群		3	平安時代	AP12
1072		たまり		3		AP12
1073		たまり		3		AI12
1074		たまり		3		AH12
1076		たまり	灰白色土ブロックと灰色土と灰茶色土の混合層	3		AFAG12～14
1077		ピット群		3		AF12
1078		ピット群	灰白色土ブロックと灰色土と灰茶色土の混合層	3		AG13
1079		たまり	灰白色土ブロックと灰色土と灰茶色土の混合層	3	奈良時代	ACAD14・15
1081		ピット群		3		AS16・17
1082		土坑	灰色土	3		AF15
1083		ピット群		3		AE15
1084		ピット群		3		AS18
1086		ピット群		3		AR15
1087		土坑	灰色土	3		AS17・18
1088		土坑	灰色土	3		AR17
1089		土坑群		3	古代	AR16・17
1091		土坑		3	古墳時代	AR16
1092		たまり	黒灰色土　S-1092→560	3	平安時代中期？	AQ17
1093		土坑	灰茶色土（黄色土ブロック混じり）	3		AQ17
1094		ピット群		3		AQ15・16
1096		ピット群		3		AE14
1097		ピット群	灰茶色土　S-1092の底	3	平安時代	AQ17
1098		溝	黒灰色土	3	平安時代前期？	AO17
1099		溝	黒灰色土	3		AO16
1101		土坑		3	平安時代前期	AJ17
1102		土坑		3	平安時代前期	AQ17
1103		たまり	黒灰色土	3	平安時代前期	AO17・18
1104		ピット群		3	平安時代	AO16
1106		ピット群		3		AP16
1107		土坑		3	平安時代	AO17
1108		土坑	S-1103の底	3	9世紀	AO17
1109		ピット群	S-1107の底	3		AO17
1111		ピット群		3	平安前～中期	AO18
1112		土坑		3	平安時代中期	AP18
1113		ピット		3		AN18
1114		土坑	灰色粘質土（黄色土ブロック混じる）	3	古代	L8・9
1116		ピット	灰色土	3		O8
1117		ピット	S-1117→948	3		N7
1118		ピット	黒色土	3		J8
1119		ピット群		3		AF15
1121		ピット群		3		AE15
1122		土坑	茶灰色土	3	平安時代後期	AD・AE15
1123		ピット		3		AI15
1124		ピット群		3		AFAG17
1126		ピット		3		AB16
1127		ピット		3		AD14

1128		ピット		3		AF14
1129		ピット		3		AD16
1131		ピット		3		AD17
1132		ピット		3		T16
1133		ピット	S-590の下	3		AG15
1134		ピット群		3		AQ12
1136		ピット		3		AO12
1137		ピット	灰色粘質土	3		T16
1138		ピット	灰色粘質土	3		T16
1139		ピット		3		S16
1141		ピット		3		S16
1142		ピット	茶色砂質土	3	平安時代後期	V17
1143		ピット		3		AH13
1144		ピット		3		AO18
1147		ピット群		3		AD～AF17
1148		ピット群		3		AY23
1149		溝		3		AL14・15
1151		たまり		3	平安時代後期	AL14・15
1152		整地	茶色粘土	3	奈良～平安時代前期	AO14・15
1153		たまり	灰色土	4		AT21
1154		たまり	灰色土	4		AU20
1156		ピット群		4		AUAT20・21
1157		ピット群		4		AS19・20
1158		ピット群		4		AS16
1159		ピット群		4		AQ15
1161		ピット群		3		AL11
1162		たまり		3		AL11
1163		ピット群		3		AL14・15
1164		ピット群		3	平安時代前期	AL13
1166		ピット群		4		AW25・26
1167		たまり		4		AX28
1168		たまり	灰白色粘土　　黒色粘土に入る凸凹	4	弥生時代後期	ARAQ16・17
1169		たまり	灰白色粘土	4	弥生時代後期	AS15
1171		ピット		4		AS17
1172		ピット		4		AP16
1173		ピット群		4		BC38
1174		ピット群		4		BD39
1176		ピット群		4		AE～AG15～17
1177		ピット		4		AR15
1178		ピット	杭あり	3		AR14
1179		ピット群	黒色粘土除去後に検出したが、上層の掘り残し	3		AN12
1181		たまり	灰色砂質土	3		AL10
1182		ピット	灰色土	3		H2
1183		ピット	灰色土	3		I3
1184		たまり	灰色土　　黒色粘土にめり込む土	3	弥生時代	AH12
	灰茶色土	第1面覆土	第1調査面遺構検出時の土色（AKラインより北）		XII期～	
	灰褐色土	第1面覆土	第1調査面遺構検出時の土色（AKラインより南）		XII期～	
	茶灰色粘土	第2面基盤層	S-520付近の検出時の土色		10世紀代	
	淡灰色土	第2面基盤層	淡灰色土除去面にX期前後の遺構あり。上層の掘残しあり		X期頃	
	黒茶色土	第2面基盤層			VIII期前後	AN12、ALライン
	黒色土	第2面基盤層			VII期前後	AQ18付近
	明茶色土	第2面基盤層			9世紀代	AN～AR・8～14
	灰色土	第2面基盤層			VII～VIII期頃	
	暗灰色粘土	第2面基盤層	黒色土の下。暗灰色土・灰色粘土・黒色ブロック混じり		平安時代前期	AQ18付近
	灰色砂質土	第3面基盤層			奈良時代	
	灰色粘土	第3面基盤層	S-505と560の間		8世紀後半	
	黒色粘土	第3面基盤層	暗灰色粘土の下。蛇行する流路		縄文時代草創期	

表14　第236-1次調査　出土遺物一覧表

S-1茶褐色土

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、甕、破片
瓦類	平瓦
金属製品	鉱滓
石製品	碁石

S-1灰色土

須恵器	蓋1、蓋3、坏c、甕、大甕、壺
土師器	坏、坏a、小皿a、破片
白磁	椀；IV(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、破片)
石製品	丸石
土製品	鋳型?、鞴羽口

S-2

土師器	破片
石製品	剥片(黒曜石)

S-3

土師器	坏

S-4

須恵器	坏
土師器	坏

S-5

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕、壺×鉢
土師器	坏、坏a、椀c、甕
緑釉陶器	須恵質：破片(1)、土師質：破片(1)
白磁	皿；VI×VII(1)　　破片(2)
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片(格子叩、破片)
石製品	石鏃、剥片、管玉
土製品	焼土塊

S-6

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-7

須恵器	坏、破片
土師器	甕、破片
瓦類	破片

S-8

須恵器	壺、壺×鉢、破片
土師器	坏、丸底坏、破片
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)　、丸瓦(破片)

S-9

須恵器	蓋1、蓋3、坏c、甕
土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(格子叩、縄目叩)

S-10

須恵器	蓋3、坏c、甑
土師器	坏a、丸底坏?、椀c、甕
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(破片)

S-11

須恵器	坏a、甕
土師器	破片
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦破片
石製品	剥片(黒曜石)、丸石

S-12

須恵器	坏c、破片
土師器	破片

S-13

土師器	破片

S-14

須恵器	坏、甕、壺×鉢
土師器	丸底坏、破片
瓦類	丸瓦(無文)、軒平瓦
石製品	剥片

S-15暗灰色土

須恵器	蓋c、蓋1、蓋a1、蓋c1、坏、高坏、甕、円面硯、ツマミ
土師器	坏、坏c、高坏、甕
金属製品	鉱滓
石製品	滑石、碁石、剥片
土製品	鞴羽口

S-15淡灰色土

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏a
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-15茶褐色土

須恵器	蓋1、蓋3、甕
土師器	坏、甕、破片

S-16

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、椀c、甕、破片
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	滑石、剥片

S-17

須恵器	蓋1、甑
土師器	坏、丸底坏
瓦類	破片(格子叩)
石製品	丸石

S-18

須恵器	蓋c、坏、坏c
土師器	坏、甕

S-19

須恵器	蓋、甕
土師器	甕、破片
瓦類	破片

S-20淡灰色土

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕
土師器	坏c、甕
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-20暗灰色土

須恵器	坏、坏a、坏c
土師器	蓋1、甕、破片
石製品	剥片
土製品	鞴羽口

S-21

土師器	破片

S-22

須恵器	蓋1、高坏、甕
土師器	坏、丸底坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-23

須恵器	坏
土師器	坏、破片

S-24

須恵器	蓋1、坏、壺×鉢
土師器	甕
瓦類	破片

S-25黄褐色土

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏、破片
白磁	皿；II-1(1)、V-a(1)
瓦類	丸瓦、破片

S-25暗灰色土

須恵器	蓋3、坏、坏a、甕
土師器	蓋、坏、椀c、甕、破片
黒色土器A	破片
白磁	破片；広東系(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)
石製品	剥片、すり石

S-25灰褐色土

須恵器	蓋3、坏a、坏c、壺×鉢
土師器	蓋、坏a、甕、甑
黒色土器A	椀c、破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(無文)
土製品	丸玉

S-25暗灰色粘土

須恵器	甕、大甕
土師器	坏、坏a(ヘラ)、甕
黒色土器A	椀c
白磁	破片；広東系(1)
瓦類	丸瓦(縄目叩)、平瓦(破片)
石製品	砥石

S-25茶灰色土

須恵器	蓋1、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-25黒灰色粘土

須恵器	蓋1、坏a、坏c、甕
土師器	坏、坏a、坏c、甕
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩)

S-26

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、高坏、甕、破片

S-27

須恵器	甕、破片
土師器	坏、破片

S-28

土師器	甕、破片

S-29

須恵器	蓋1
土師器	坏

S-30a掘方

土師器	破片
金属製品	鉱滓

S-30b掘方

須恵器	破片
土師器	破片

S-30d掘方

須恵器	破片
土師器	破片

S-30d

土師器	甕

S-30e

土師器	破片
その他	炭

S-30f

須恵器	坏
土師器	坏

S-30g

土師器	破片

S-30g暗茶色土

瓦類	平瓦(格子叩)

S-31

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、椀c、甕、破片

S-32

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕、破片
土師器	坏、坏a、甕

S-33

須恵器	甕
土師器	坏、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-34

須恵器	蓋4、甕、壷、破片
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、甕、把手
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	壷;II(1)
白磁	破片;広東系(3)
瓦類	平瓦(格子叩)、平瓦(破片)、丸瓦(破片)
石製品	丸石
その他	炭

S-35

須恵器	甕、破片
土師器	坏a、甕
瓦類	平瓦(格子叩、無文)

S-36

須恵器	蓋、蓋1、坏、甕、壷
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
白磁	椀;I-1(1)
瓦類	平瓦(破片)

S-37

須恵器	甕
土師器	甕
瓦類	破片

S-38

須恵器	蓋1
土師器	甕
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器

S-39

須恵器	破片
土師器	破片
瓦類	破片

S-40f柱痕

土師器	甕
石製品	剥片(安山岩)

S-40h

須恵器	蓋1

S-40k

木製品	柱痕

S-40θ柱痕

土師器	破片

S-41

土師器	破片

S-43

須恵器	坏c、破片
土師器	甕

S-44

須恵器	坏、破片
土師器	坏、坏a、破片
瓦類	破片

S-45a柱穴

土師器	破片

S-45a掘方

土師器	坏a
黒色土器A	破片

S-45b

土師器	破片
瓦類	破片

S-45b柱穴

土師器	破片

S-45b掘方

土師器	坏

S-45c

土師器	破片

S-45c掘方

須恵器	破片

S-45d

土師器	甕、破片

S-45d柱穴

土師器	破片

S-45d掘方

土師器	破片

S-45e

土師器	破片

S-45e掘方

土師器	破片

S-45e柱穴

土師器	破片

S-45f

須恵器	破片
土師器	破片

S-45f柱穴

土師器	破片

S-45f掘方

土師器	破片

S-45g

須恵器	坏
土師器	坏

S-45g掘方

土師器	破片

S-45h

須恵器	坏
土師器	坏、破片

S-45h柱穴

土師器	破片

S-45h掘方

土師器	甕、破片

S-45i掘方

須恵器	坏
土師器	坏

S-45i柱穴

土師器	破片

S-45j

土師器	坏、破片

S-45s

土師器	甕、破片

S-45s掘方

瓦類	破片

S-45t

土師器	甕

S-45t柱穴

土師器	破片

S-45t掘方

須恵器	坏
土師器	坏

S-45u

土師器	坏、椀c、甕?

S-45u掘方

土師器	破片

S-45u柱穴

土師器	破片

S-45v

須恵器	破片

S-45v掘方

土師器	破片

S-45v柱穴

土師器	破片

S-45w

土師器	破片

S-45w柱穴

土師器	破片

S-45x

須恵器	甕
土師器	破片

S-45x掘方

須恵器	甕
土師器	破片

S-45x柱穴

須恵器	坏
土師器	坏

S-46

須恵器	蓋3
土師器	破片
石製品	剥片

S-47

須恵器	蓋1、甕、破片
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片

S-48

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、甕

S-49

須恵器	蓋1、甕
土師器	皿a、甕

S-50

須恵器	甕、壺×甕、破片
土師器	坏、破片
白磁	椀；XI(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	破片(格子叩)
石製品	剥片(黒曜石)
金属製品	鉱滓

S-51

須恵器	甕
土師器	破片

S-52

土師器	坏、甕
瓦類	平瓦

S-53

土師器	坏
瓦類	平瓦(無文)

S-54

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕

S-55

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕、壺×鉢
土師器	丸底坏a、小皿a、甕
須恵質土器	鉢
灰釉陶器	壺(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)
石製品	砥石、硯

S-56

土師器	坏、椀c

S-57

土師器	坏、甕

S-58

須恵器	蓋1、蓋3、坏a、坏c、甕
土師器	坏、甕
緑釉陶器	土師質：椀c(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	剥片

S-59

土師器	破片

S-60

須恵器	蓋4、甕、壺
土師器	坏、甕、破片
瓦類	破片

S-60①

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、坏d?、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)、平瓦(破片)

S-60②

須恵器	蓋、甕
土師器	坏、坏a、甕
石製品	剥片(安山岩)

S-60③

須恵器	蓋、蓋3、坏、坏c、甕、壺
土師器	坏a、坏c、椀c、甕
瓦類	平瓦(破片)
石製品	珪化木

S-61

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏
瓦類	丸瓦

S-62

須恵器	甕
土師器	坏、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-63

須恵器	破片
土師器	破片

S-64

須恵器	坏、壺、破片
土師器	坏、破片

S-65

須恵器	蓋1
土師器	甕

S-66

須恵器	破片
土師器	坏、破片

S-67

土師器	甕、坏
瓦類	破片

S-68

須恵器	破片
土師器	坏、破片

S-69

須恵器	破片
土師器	坏、坏a、甕

S-70茶色土

須恵器	甕、壺×鉢
土師器	坏、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕、破片
瓦類	破片

S-70暗灰色土

須恵器	蓋c、甕
土師器	丸底坏a、小皿a、甕、器台
白磁	椀；IV(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)
土製品	焼土塊

S-70灰茶色土

須恵器	蓋3、蓋b3、蓋c、坏、坏c、甕
土師器	蓋、坏a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、椀c、甕、破片
黒色土器B	椀、椀c
越州窯系青磁	壺；I(1)
龍泉窯系青磁	破片?(1)
緑釉陶器	須恵質：椀×皿京都(1)
白磁	椀；IV(6)、V(1)、破片(1)、広東系(1)
	皿；広東系(1)　　破片(5)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
弥生土器	壺
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(格子叩)、破片(格子叩)、瓦玉
石製品	剥片
土製品	鞴羽口
金属製品	不明銅製品

S-70暗灰色粘土

須恵器	蓋3、坏c、椀、甕
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、高坏、甕、器台
黒色土器B	椀c
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)　　破片I?(1)
白磁	水注(1)　　破片；(1)、広東系(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、平瓦(破片)、瓦玉
金属製品	鉱滓
石製品	磨り石、滑石製品、剥片(黒曜石)
土製品	鞴羽口

S-70灰色粘土

須恵器	坏、甕、破片
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、器台
黒色土器B	椀c
灰釉陶器	甕×壺(1)
弥生土器	破片?
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(破片)、破片、瓦玉

S-71

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕

S-72

須恵器	蓋、大甕、破片
土師器	坏、甕、破片
瓦類	破片

S-73

土師器	破片
石製品	剥片(黒曜石)

S-74

須恵器	蓋、坏、破片
土師器	坏、丸底坏、破片
瓦類	破片

S-75暗灰色粘土

須恵器	坏c、皿a
土師器	丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	壺(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-75灰茶色土

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕、壺×鉢
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片(格子叩)
金属製品	鉱滓
石製品	砥石

S-75灰色粘土

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、小皿a、甕、把手
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-76

須恵器	蓋3
土師器	坏、小皿a、甕、破片

S-77

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、甕、器台、破片
青白磁	燭台
瓦類	平瓦(無文)

S-78

土師器	坏、椀c、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-79

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、小皿a、甕

S-80

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏a、甕、破片
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	破片
石製品	丸石

S-80灰色土

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	破片

S-81

土師器	甕

S-82

須恵器	破片
土師器	坏、破片
瓦類	破片

S-83

土師器	破片

S-84

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-85①

須恵器	坏
土師器	坏、坏a、甕
石製品	丸石

S-85②

須恵器	甕、破片
土師器	坏d、椀c、甕
緑釉陶器	須恵質：椀(1)
瓦類	破片

S-85③

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a、甕

S-85④

須恵器	蓋、甕
土師器	坏、椀c、皿c、破片

S-85⑤

須恵器	甕、鉢、破片
土師器	坏a、甕、破片
金属製品	鉄釘

S-85⑥

土師器	甕、破片

S-85⑦

須恵器	甕
土師器	坏c、甕、破片

S-85⑧

須恵器	坏、壺
土師器	坏、破片

S-85⑨

須恵器	坏、破片
土師器	坏、椀c、甕

S-86

須恵器	蓋3、坏a、甕
土師器	坏、坏a、坏c、小皿a、甕
瓦類	丸瓦(破片)、破片
金属製品	鉱滓

S-87

須恵器	坏
土師器	坏a、甕
土製品	焼土塊

S-88

土師器	坏、丸底坏、甕
石製品	石鏃
土製品	焼土塊

S-89

須恵器	蓋c、坏、坏c
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	剥片

S-90

須恵器	破片
土師器	甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-91

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-92

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(破片)、破片

S-93

土師器	坏

S-94

土師器	坏、甕
土製品	焼土塊

S-95明茶色土

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕
瓦器	椀
白磁	椀；Vタテクシ(1)
瓦類	破片
金属製品	鉱滓
土製品	焼土塊、とりべ

S-95茶灰色土

須恵器	坏c
土師器	坏a、丸底坏a、椀c
白磁	椀；II-5(1)、IV(1)、V(1)、Vタテクシ(2)
瓦類	平瓦(無文)、破片(縄目叩)、破片
土製品	焼土塊

S-96

土師器	坏
土製品	焼土塊

S-97

須恵器	壺×鉢
土師器	坏、丸底坏a、甕

S-98

須恵器	坏
土師器	坏a、小皿a、甕

S-99

須恵器	破片
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-100a

土師器	坏a、坏c、甕

S-100a掘方

土師器	坏、破片

S-100a柱痕

須恵器	甕
土師器	甕、破片

S-100b

土師器	坏、破片

S-100c

土師器	破片

S-100c掘方

土師器	坏

S-100c柱痕

土師器	破片

S-100d

土師器	坏、甕
土製品	焼土塊

S-100e

須恵器	坏c
土師器	坏、小皿a(ヘラ)

S-100g

土師器	小皿a(ヘラ)、破片
瓦類	破片
土製品	焼土塊

S-100i

土師器	坏、破片

S-100j

土師器	坏a、破片
土製品	焼土塊

S-100j掘方

土師器	破片

S-100j柱痕

須恵器	蓋3

S-100k

土師器	坏
土製品	焼土塊

S-100q

須恵器	甕
土師器	坏、破片
瓦類	破片

S-100r掘方

土師器	甕

S-100r柱痕

土師器	破片

S-101

須恵器	坏、甕
土師器	坏、小皿a、甕

S-102

土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(破片)

S-103

土師器	坏、破片

S-104

須恵器	坏c
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀
石製品	剥片

S-105b

須恵器	破片
土師器	坏、丸底坏a、甕

S-105c

須恵器	破片
土師器	坏

S-105c柱痕

土師器	坏、丸底坏a

S-105d

土師器	破片

S-105d柱痕

土師器	破片

S-105e

土師器	破片

S-105g

土師器	破片

S-105g掘方

土師器	破片

S-105g柱痕

土師器	甕

S-105f掘方

土師器	坏、甕

S-105f柱痕

土師器	破片

S-106

須恵器	蓋、破片
土師器	坏a、丸底坏a、甕

S-107

土師器	破片

S-108

須恵器	甕
土師器	坏、破片

S-109

須恵器	甕
土師器	甕、破片

S-110茶灰色土

須恵器	甕
土師器	坏、坏a
瓦類	破片(格子叩)、破片

S-110灰茶色土

須恵器	蓋3、坏a、坏c、蓋×鉢
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、鉢
黒色土器B	椀c
白磁	椀；I-1(1)、IV(2)　皿；VII(1)
瓦類	丸瓦、破片(格子叩)

S-110茶色土

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏、丸底坏、小皿a、甕
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)、瓦玉
石製品	砥石

S-110暗灰色粘土

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
白磁	椀；IV(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)
石製品	剥片、碁石
土製品	輔羽口、焼土塊

S-110青灰色粘土

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、小皿a(ヘラ)
黒色土器B	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)
金属製品	鉱滓
石製品	砥石、剥片

S-111

須恵器	破片
土師器	坏、破片

S-112

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-113

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-114

須恵器	甕
土師器	坏、甕、破片
国産磁器	破片

S-115

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	破片

S-116

須恵器	坏a、甕、破片
土師器	坏、甕、破片

S-117

須恵器	坏
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	丸瓦(縄目叩)

S-118

土師器	甕

S-118

土師器	丸底坏a、破片

S-120

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
石製品	丸鞆、滑石片、丸石

S-121

須恵器	皿a
土師器	坏、甕

S-122

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a
白磁	椀；IV(1)
金属製品	鉱滓

S-123

須恵器	坏
土師器	坏、破片

S-124

須恵器	甕

S-125

須恵器	坏、甕
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
白磁	皿；IV(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	砥石
土製品	焼土塊

S-126

須恵器	壺
土師器	蓋、甕、破片

S-127

土師器	坏、甕

S-128

須恵器	坏、鉢
土師器	坏、坏a、丸底坏、甕
黒色土器B	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)
土製品	焼土塊

S-129

須恵器	坏、甕
土師器	甕、破片

S-130淡灰色土

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、甕
白磁	破片；広東系(1)

S-130明灰色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、鉢?、破片
越州窯系青磁	椀；I-2ァ(1)
白磁	椀；IV-1b(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片

S-130黒灰色土

須恵器	蓋3、甕、壺、破片
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕、破片
越州窯系青磁	破片I(1)
白磁	椀；I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土師質土器	鉢?
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(破片)

S-130黒茶色土

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏(小)、甕、破片
黒色土器B	破片
瓦類	破片(格子叩)

S-130茶灰色土

須恵器	壺
土師器	坏、丸底坏、甕

S-130灰茶色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-130灰色土

須恵器	甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c

S-131

須恵器	坏
土師器	甕、破片

S-132

須恵器	坏a
土師器	椀c、甕

S-133

須恵器	甕
土師器	坏、破片
瓦類	破片

S-134

須恵器	坏、甕
土師器	甕、破片

S-135茶色土

須恵器	蓋3、鉢
土師器	丸底坏a、小皿a、甕、破片
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)
金属製品	鉱滓

S-135灰茶色土

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a、甕

S-136

須恵器	蓋1、甕
土師器	破片
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-137

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-138

土師器	坏、甕
土製品	不明土製品、とりべ

S-139

須恵器	蓋、甕
土師器	椀c、破片
土製品	焼土塊

S-140

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、丸底坏a、甕、破片
須恵質土器	捏鉢
白磁	椀；破片(1)　破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-141

須恵器	坏、甕
土師器	坏

S-142

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩、破片)
金属製品	鉱滓

S-143

須恵器	甕
土師器	坏、甕、破片

S-144

須恵器	蓋3
土師器	坏、破片
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-145b

須恵器	坏、破片
土師器	破片
製塩土器	破片

S-145c

土師器	破片

S-145c柱痕

須恵器	坏c
土師器	破片

S-145d

須恵器	蓋3
土師器	丸底坏a、甕、破片

S-145e

土師器	坏、破片

S-145f

須恵器	坏
土師器	甕、破片

S-145f柱痕

須恵器	蓋

S-145f掘方

土師器	坏

S-145g

土師器	坏a、丸底坏a

S-145h

土師器	坏、甕

S-145j

土師器	坏

S-145k

須恵器	甕
土師器	坏a、破片

S-145m

須恵器	破片
土師器	破片
黒色土器A	破片

S-145n掘方

土師器	破片

S-146

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a、甕、破片
緑釉陶器	土師質；破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-147

須恵器	坏、破片
土師器	坏、甕

S-148

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	剥片

S-149

土師器	破片

S-150a

土師器	坏、甕
石製品	剥片(黒曜石)

S-150b

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-150c

土師器	甕

S-150e

土師器	小皿a、破片
石製品	石鏃

S-151

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-152

須恵器	坏、甕
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-153

土師器	坏、甕

S-154

須恵器	蓋3
土師器	坏

S-155茶褐色土

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a、甕
白磁	椀；IV-1a(1)、皿；VII(1)
瓦類	平瓦(無文)

S-155茶灰色土

須恵器	蓋1、甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-155灰茶色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕

S-156

須恵器	破片
土師器	坏、丸底坏、椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)

S-157

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a、甕
白磁	椀；IV(1)

S-158

須恵器	坏
土師器	坏

S-159

土師器	坏、破片
金属製品	鉱滓

S-160明茶色土

須恵器	蓋1、蓋c、坏c、甕
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
緑釉陶器	土師質：破片(1)
瓦類	平瓦(無文)

S-160灰色土

須恵器	甕、瓶
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
白磁	水注×壺(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	砥石

S-160灰色粘土

須恵器	蓋4、蓋×坏、甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片(縄目叩)

S-161

須恵器	蓋1、破片
土師器	坏a、甕

S-162

須恵器	坏c
土師器	坏、椀c、小皿a
白磁	椀；IV(1)
土製品	焼土塊

S-163

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	破片

S-164

須恵器	破片
土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(無文)
石製品	剥片(黒曜石)、石鏃

S-165a

土師器	坏、甕

S-165a柱痕

土師器	坏、甕

S-165a掘方

須恵器	坏
土師器	坏
土製品	焼土塊

S-165d

土師器	坏a、破片

S-165d柱痕

土師器	小皿a
土製品	焼土塊

S-165d掘方

土師器	坏a、破片
瓦類	破片(縄目叩)

S-165f

土師器	坏
土製品	焼土塊

S-165f柱痕

土師器	破片
土製品	焼土塊

S-165f掘方

須恵器	甕
土師器	破片

S-165h

土師器	坏
土製品	焼土塊

S-165h柱痕

土師器	坏、丸底坏a

S-165h掘方

土師器	坏、丸底坏a

S-165i

土師器	坏
土製品	焼土塊

S-165i柱痕

須恵器	甕
土師器	破片

S-165i掘方

土師器	坏

S-166

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
石製品	丸石

S-167

須恵器	甕
土師器	坏
灰釉陶器	鉢(1)

S-168

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
瓦類	軒平瓦

S-169

須恵器	坏、甕
土師器	坏
瓦類	丸瓦(破片)、平瓦(破片)

S-170黒灰色土

須恵器	坏、坏c、皿a、甕、瓶
土師器	坏、坏a、丸底坏a、丸底坏c、椀c、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)
白磁	水注×壺(1)　　破片；広東系(1)
青白磁	破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(無文)、瓦玉
石製品	滑石片
土製品	焼土塊、鞴羽口

S-170茶灰色土

須恵器	蓋、蓋1、蓋3、坏、甕、壺
土師器	坏、坏a、丸底坏a、丸底坏c、椀c、小皿a、甕、器台?
黒色土器B	椀c、小皿a、破片
越州窯系青磁	椀；III-1(1)　壺；I(1)
長沙窯系青磁	水注×壺(2)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)
白磁	椀；I-1(1)、II-1(1)、IV(2)、XI(1)
	皿；II-1(1)、XI-4(1)　破片；(5)、広東系(2)
灰釉陶器	壺(1)
輸入須恵器	朝鮮無釉陶器；甕
瓦類	丸瓦(格子叩、縄目叩、破片)、平瓦(縄目叩、無文)
石製品	チャート、碁石、滑石片
土製品	トリベ、焼土塊

S-170灰色粘土

須恵器	甕
土師器	坏
瓦類	破片(格子叩)

S-170灰茶色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏a(ヘラ)、丸底坏a、丸底坏c、小皿a(ヘラ)、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
瓦器	破片
須恵質土器	鉢
輸入須恵器	朝鮮無釉陶器；甕
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、破片(格子叩)

S-171

土師器	丸底坏a、甕、破片

S-172

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏、坏c、丸底坏a、甕
白磁	破片；広東系(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、破片

S-173

須恵器	鉢×壺
土師器	甕

S-174

須恵器	甕
土師器	坏、破片

S-175

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(格子叩)、瓦玉

S-176

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-177

須恵器	坏、甕、破片
土師器	坏
土製品	焼土塊

S-178

土師器	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-179

須恵器	蓋3
土師器	甕、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-180黒灰色土

須恵器	坏、坏c、甕、瓶
土師器	坏、椀c、小皿a、甕、ツマミ
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(無文)、瓦玉

S-180

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、小皿a、甕、破片
黒色土器A	椀c、破片
白磁	椀；IV-c(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-181

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、丸底坏a、甕
瓦類	破片

S-182

須恵器	坏
土師器	破片

S-183

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、甕

S-184

須恵器	蓋、坏c、甕
土師器	坏、坏c、甕

S-185茶灰色土

須恵器	蓋3、坏a、甕、壺、盤、破片
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a、甕、器台
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	椀；II-2(1)
中国陶器	破片(2)
弥生土器	甕
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)、破片
石製品	滑石製品

S-185

須恵器	坏、甕、壺
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-186

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
白磁	椀；広東系(1)
瓦類	平瓦(格子叩、破片)

S-187

須恵器	甕、破片
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	破片
石製品	石鏃

S-188

須恵器	坏c、甕
土師器	椀c、破片
瓦類	破片
金属製品	鉄滓
石製品	石鏃
土製品	焼土塊

S-189

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	破片

S-190茶灰色土

須恵器	坏
土師器	坏

S-190

須恵器	甕、壺×鉢、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c、甕
緑釉陶器	須恵質；破片(1)
白磁	椀；IV(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩、無文)

S-191

須恵器	坏、破片
土師器	坏、椀c、甕
越州窯系青磁	椀；I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)、軒丸瓦、破片

S-192

須恵器	蓋4
土師器	坏a、甕

S-193

須恵器	坏
土師器	坏、甕
瓦類	破片(縄目叩)

S-194

須恵器	破片
土師器	破片

S-196

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、坏c、甕

S-197

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、破片
白磁	椀；IV(1)

S-198

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕

S-199

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-200

須恵器	甕
土師器	甕

S-201

須恵器	甕
土師器	甕、破片

S-202

須恵器	円面硯、破片
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕、破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-203

土師器	破片
黒色土器A	破片

S-204

須恵器	蓋、蓋3、坏c、小坏c、甕
土師器	坏、坏c、椀c、皿a、甕
石製品	剥片

S-205暗灰色土

須恵器	坏、大椀c、甕、鉢
土師器	坏、坏a(ヘラ)、坏c、皿a(ヘラ)、甕、破片
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(縄目叩)
石製品	砥石

S-205黄灰色土

須恵器	坏、甕、破片
土師器	坏a、坏c、甕
越州窯系青磁	破片I(2)
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-205黒灰色粘土

須恵器	蓋3、坏、坏c、皿a、甕、盤b
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)

S-205灰茶色土

須恵器	蓋、甕
土師器	坏、椀c、甕、破片

S-205茶灰色土

須恵器	蓋、蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
越州窯系青磁	盌；破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-205灰色粘土

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏、甕、破片

S-205曲物内

土師器	坏

S-206

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏c

S-207

須恵器	蓋3、坏、坏a、甕
土師器	坏c、甕、破片
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	破片

S-208

須恵器	破片
土師器	破片

S-209

土製品	焼土塊

S-210茶灰色土

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕、器台、破片
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)
その他	炭

S-210暗灰色土

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、甕
越州窯系青磁	破片I(1)
白磁	破片；広東系(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-211

土師器	丸底坏a
石製品	碁石

S-212

須恵器	坏、甕
土師器	坏、丸底坏a、甕
瓦類	破片

S-213

須恵器	坏、甕
土師器	丸底坏a、小皿a、甕
灰釉陶器	椀百代寺?(1)、瓶(1)、破片(1)
黒色土器A	破片

S-214

土師器	坏、高坏、甕

S-215暗灰色土

須恵器	蓋、坏、甕、壺×鉢
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、破片
黒色土器A	椀、椀c、小甕
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀；I(2)、II(1)　壺(唾壺?)(2)　破片；I(2)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	碁石

S-215灰茶色土

須恵器	坏、坏c、皿a、甕、獣脚?
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、小皿a(ヘラ)、高坏、甕
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	壺；唾壺(1)　破片；II(1)
輸入須恵器	朝鮮無釉陶器；甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-215暗灰色粘土

土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	土師質：破片(1)
灰釉陶器	破片(1)

S-216

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、破片

S-217

須恵器	蓋、甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片(縄目叩、格子叩)

S-218

須恵器	甕
土師器	甕、破片

S-219

須恵器	甕
土師器	破片

S-220

須恵器	甕、壺×鉢、破片
土師器	坏、坏a(ヘラ)、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片；II(1)
緑釉陶器	土師質：破片防長(1)
瓦類	破片

S-221

須恵器	甕、破片
土師器	坏

S-222

土師器	坏a、甕

S-223

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-224

須恵器	坏
土師器	坏、坏a、甕
石製品	剥片(安山岩)

S-225

須恵器	蓋3、甕、破片
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-226

須恵器	坏
土師器	坏

S-227

須恵器	坏
土師器	坏

S-229

土師器	坏、甕
国産陶器	甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-230暗青灰色粘土

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、皿a、甕
黒色土器A	椀、椀c
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-230暗灰色土

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、軒丸瓦、破片(格子叩)
土製品	焼土塊、鞴羽口

S-230暗青灰色土

須恵器	大椀c、皿a、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-2ｪ(1)　破片；I(1)
灰釉陶器	皿(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-230暗褐色土

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	椀；II-2b(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-230暗褐色砂

木製品	曲物

S-230黒青色土

須恵器	甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、甕
黒色土器A	椀c、破片
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	砥石

S-231

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、甕

S-232

土師器	丸底坏、甕、破片

S-233

土師器	坏、甕

S-234

土師器	坏、丸底坏、甕

S-235

須恵器	蓋3、坏c、高坏、甕
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、小皿a2、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-236

須恵器	破片
土師器	坏、椀c、破片
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	破片

S-237

土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-238

土師器	坏a、小皿a、甕
黒色土器A	破片

S-239

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、椀c
白磁	椀；XI-4(1)　水注×壺(1)
瓦類	丸瓦(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-240暗灰色土

須恵器	蓋、坏、坏c、高坏、甕
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	破片

S-240黒灰色土

須恵器	坏a、坏c、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器A	破片

S-240黄灰色土

土師器	丸底坏a、小皿a(ヘラ)、三脚付皿、破片

S-240黒色粘土

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器B	破片
白磁	破片(1)

S-241

須恵器	甕
土師器	坏、甕、破片

S-243

須恵器	甕
土師器	甕、破片
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)

S-244

土師器	丸底坏a、小皿a
越州窯系青磁	破片；I(2)
白磁	椀；IV(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-245灰色砂

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-245

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片
灰釉陶器	椀×皿百代寺?(1)
白磁	椀；IV(1)、XII-1b(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)、破片(無文)

S-246

須恵器	坏、坏c、甕、壺?
土師器	坏a、埦c、甕、把手
黒色土器A	埦
越州窯系青磁	埦；I-2x(1)　　破片II(1)
緑釉陶器	土師質：破片(1)
縄文土器	破片

S-247

土師器	埦c、小皿a、破片

S-248

土師器	丸底坏a、甕、破片
越州窯系青磁	破片；I(1)

S-249

須恵器	甕
土師器	坏

S-250

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、埦c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	破片；I(1)
灰釉陶器	埦百代寺?(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(無文、破片)、瓦玉、破片(格子叩)
土製品	焼土塊

S-250茶色土

須恵器	甕
土師器	坏
黒色土器A	埦、破片
瓦類	平瓦

S-251

須恵器	甕
土師器	坏a、破片

S-252

土師器	坏
金属製品	鉱滓

S-253

須恵器	坏
土師器	坏a、甕

S-254茶灰色土

土師器	坏

S-255

須恵器	蓋、甕、大甕、壺×甕
土師器	坏a、埦c、小皿a、把手
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	破片；I(1)、II(4)
瓦類	平瓦、丸瓦(格子叩)
金属製品	鉄片

S-256茶灰色土

須恵器	蓋3
土師器	坏、破片

S-257黒灰色土

須恵器	埦c
土師器	蓋、坏a、甕

S-258茶灰色土

須恵器	坏

S-259

土師器	破片

S-260茶色土

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏c、甕、鉢
土師器	坏、坏a、埦c、小皿a(ヘラ)、甕、器台
黒色土器A	埦c、破片
越州窯系青磁	破片I?(1)
白磁	皿；V-2b(1)　　破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	ﾁｬｰﾄ

S-260茶灰色土

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏、坏a、丸底坏a、小皿a、甕、破片
黒色土器A	埦
瓦類	平瓦(格子叩)

S-261

須恵器	蓋3、甕
土師器	埦c、甕、破片
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	破片

S-262

須恵器	坏、坏c
土師器	坏、坏a、甕

S-263

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、埦c、甕

S-264

須恵器	甕
土師器	坏

S-265

須恵器	蓋3、蓋c、坏c、甕
土師器	坏、埦c、小皿a、皿a、甕
黒色土器A	埦c
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-266

土師器	坏、甕

S-267

土師器	坏、坏a、埦c、甕
白磁	破片(1)
瓦類	破片(格子叩)

S-268

土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-269

土師器	坏、埦c、破片
黒色土器A	破片

S-270

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、丸底坏a、埦c、小皿a、甕
黒色土器A	埦c
黒色土器B	埦c、破片
越州窯系青磁	破片；I(1)、II(2)
瓦類	平瓦(格子叩)、破片

S-271

須恵器	甕
土師器	甕

S-272

須恵器	坏、破片
土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-273

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a
白磁	埦；II-1(1)

S-274

須恵器	坏c、甕、破片
土師器	坏、坏a、丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器B	埦c
瓦類	破片(縄目叩、無文)

S-274黒灰色土

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、埦c、甕
瓦類	破片

S-275a

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、小皿a(ヘラ)、破片
白磁	埦；破片(1)
金属製品	鉱滓
土製品	焼土塊

S-275b

須恵器	甕
土師器	甕
黒色土器A	埦c
瓦類	平瓦(無文)
土製品	焼土塊

S-275c

土師器	坏、破片

S-275d

土師器	坏
土製品	焼土塊

S-275e

土師器	坏、甕

S-275e柱痕

土師器	坏

S-275g

須恵器	甕
土師器	坏a、埦c
瓦類	軒丸瓦

S-275h

須恵器	甕
土師器	坏a、埦c、甕
黒色土器A	甕
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
土製品	焼土塊

S-275i

土師器	坏

S-275i柱痕

土師器	坏

S-275k

土師器	坏、甕
土製品	焼土塊

S-275k柱痕

土師器	坏

S-276

土師器	破片

S-277

須恵器	坏
土師器	坏、小皿a

S-278

土師器	坏、甕

S-279

須恵器	甕
土師器	椀c、坏、小皿a、甕
越州窯系青磁	破片;II(1)

S-280a

土師器	坏
白磁	椀;II-1(1)
瓦類	平瓦
金属製品	鉱滓
土製品	焼土塊

S-280b

土師器	坏、甕

S-280c

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
土製品	焼土塊

S-281

須恵器	坏
土師器	坏、甕、破片

S-282

須恵器	坏

S-283

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	剥片(黒曜石)

S-284

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-285a

須恵器	破片
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器B	椀
白磁	椀;II-1(3)、広東系(1)
土製品	焼土塊

S-285a柱痕

土師器	坏
白磁	水注×蓋(1)
土製品	焼土塊

S-285a掘り方

土師器	坏

S-285b

須恵器	坏
土師器	坏、小皿a(ヘラ)
土製品	焼土塊

S-285b掘り方

土師器	破片
白磁	椀;V(1)
土製品	焼土塊

S-285c

須恵器	甕、破片
土師器	坏、小皿a
黒色土器B	椀c
須恵質土器	鉢
土製品	焼土塊

S-285c掘り方

土師器	坏、丸底坏a
須恵質土器	鉢

S-285c柱痕

土師器	坏、小皿a
須恵質土器	鉢
白磁	椀;II-1(1)

S-285d

土師器	坏、椀c
土製品	焼土塊

S-285d掘り方

白磁	皿;II-1a(1)
土製品	焼土塊

S-285d柱痕

土師器	坏、小皿a
白磁	破片(1)

S-285e

須恵器	坏
土師器	坏、坏a
土製品	焼土塊

S-285e柱痕

土師器	坏

S-285e掘り方

土師器	坏、小皿a
白磁	椀;II-1(1)

S-285f

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器A	破片
白磁	破片;広東系(1)
土製品	焼土塊

S-285g

須恵器	甕
土師器	坏
白磁	破片(1)

S-285g柱痕

須恵器	坏
土師器	坏
土製品	焼土塊

S-285h

土師器	坏

S-285h掘り方

土師器	坏

S-285i

土師器	坏、甕

S-285j

須恵器	坏
土師器	坏
土製品	焼土塊

S-285k

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、破片

S-285k掘り方

土師器	坏

S-286

土師器	坏、甕

S-287

須恵器	坏、甕
土師器	坏、丸底坏
黒色土器B	破片
瓦類	丸瓦

S-288

須恵器	甕
土師器	坏、甕、破片
白磁	皿(1)

S-289

土師器	甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-290暗灰色土

須恵器	蓋、蓋3、坏、坏a、坏c、甕、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)
土製品	焼土塊

S-290茶灰色土

須恵器	蓋1、坏、坏a、坏c、甕
土師器	蓋、坏、坏a、甕
黒色土器A	椀c、破片
弥生土器	甕
その他	炭

S-290灰色粘土

須恵器	蓋c、坏、甕、壷
土師器	坏、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、小皿a2、甕
黒色土器A	椀、椀c
緑釉陶器	須恵質:破片(1)
白磁	椀;XII-1a(1)、破片(1)
瓦類	丸瓦(縄目叩、格子叩)、平瓦(無文)
石製品	碁石
土製品	丸玉

S-290茶褐色粘土

須恵器	坏c、甕、破片
土師器	坏、椀c、甕
越州窯系青磁	破片;I(1)
白磁	椀;IV(1)
石製品	碁石、剥片

S-291

土師器	甕

S-292

須恵器	甕

S-293

須恵器	坏a、甕
土師器	椀c、甕

S-294

須恵器	蓋3
土師器	坏、甕

S-295

金属製品	鉄釘

S-296

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(縄目叩)

S-297

須恵器	甕
土師器	甕

S-298

須恵器	坏
土師器	坏

S-299

須恵器	坏
土師器	椀c、甕

S-300茶色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕、把手
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-300灰色粘土

須恵器	蓋3、坏、坏c、椀c、甕
土師器	坏、丸底坏、甕
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	土師質：皿；京都(1)、破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)

S-300暗灰色土

須恵器	蓋、坏a、坏c、甕、甑
土師器	坏、坏a、椀c、甕
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-300褐色粘土

須恵器	皿a、甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-300茶褐色土

須恵器	蓋3、破片
土師器	坏、坏a、椀c
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	破片
石製品	碁石

S-300暗灰色粘土

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、椀c、丸椀、小皿a(ヘラ)、甕
白磁	皿；VII(1)
瓦類	破片

S-301

須恵器	鉢、破片
土師器	坏、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩)

S-302

須恵器	坏c、甕
土師器	丸底坏、破片

S-303

土師器	坏
黒色土器B	破片

S-304

須恵器	甕
土師器	椀c、甕、破片
黒色土器A	椀c

S-305茶灰色土

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏、小皿a、甕、器台
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-306灰色砂

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-306黒茶色土

須恵器	甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片
土製品	焼土塊

S-306暗灰色土

須恵器	甕
土師器	坏
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、軒丸瓦
石製品	滑石
土製品	焼土塊

S-307

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕

S-308

須恵器	坏、甕、壺
土師器	坏、坏c、甕

S-309

土師器	甕

S-310灰褐色土

須恵器	坏c、椀a、甕、破片
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、竈
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	蓋；I(1)、II(1)　　破片；I(1)、II(1)、III(1)
灰釉陶器	壺?(1)
白磁	椀；IV-1b(1)　　破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(無文)、破片
石製品	滑石
土製品	焼土塊、鞴羽口

S-310暗灰色土

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕
白磁	椀(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、破片
石製品	砥石

S-310黒灰色粘土

須恵器	蓋c、坏c、高坏、甕
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a(ヘラ)、把手
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	椀；I-1b(1)、III-1(1)
緑釉陶器	須恵質：椀京都(1)
白磁	椀；I(1)、I-1(1)　　皿；VI-2b(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	滑石
土製品	トリベ

S-310黒青色粘土

須恵器	蓋、蓋1、坏a、坏c、甕
土師器	坏a、坏a(墨書あり)、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器A	椀
越州窯系青磁	破片；II(1)、III(1)
白磁	椀；XI-1(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、瓦玉
石製品	剥片(黒曜石)

S-311

土師器	破片

S-313

土師器	破片

S-314

土師器	甕

S-315

須恵器	蓋、蓋1、蓋3、坏、坏a、坏c、大椀c、甕、壺、鉢
土師器	蓋、椀c、皿a、大皿a、大皿c、甕
製塩土器	破片
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	碁石

S-315灰褐色土

須恵器	蓋1、蓋c、坏、坏c、甕
土師器	蓋、坏a、坏d、皿a、甕、鉢
製塩土器	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)
土製品	焼土塊

S-315明灰色土

須恵器	蓋、蓋3、坏、壺、鉢
土師器	坏、甕

S-315茶灰色土

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、皿a、高坏、甕
土師器	蓋、坏d、椀a、椀c、甕、鉢
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)
土製品	焼土塊

S-315灰茶色土

須恵器	甕
土師器	坏、甕、ツマミ、破片
瓦類	破片

S-316

須恵器	破片
土師器	坏、破片

S-317

須恵器	坏a
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(縄目叩)

S-318

須恵器	甕、破片
土師器	坏a、椀c、小皿a
瓦類	破片
石製品	丸石

S-319

土師器	坏、小皿a

S-320茶褐色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、小皿c、甕
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	破片I(1)
白磁	椀；IV-1a(1)、IV(2)、V-1a(1)、V(1)、破片(1)
	V-4×VIII-3(1)　　破片；(1)、広東系(4)
	皿；広東系(1)、VI-2b(1)、VI(1)、VI-2(1)、VI-1a(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩、縄目叩)
土製品	焼土塊

S-320灰色粘土

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a
黒色土器A	破片
白磁	椀(1)
瓦類	丸瓦(無文)、軒平瓦、破片

S-321

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-322

須恵器	坏a

S-323

土師器	坏、甕

S-324

土師器	丸底坏a
瓦類	丸瓦

S-325b

土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片

S-325c

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-326

土師器	坏

S-327

土師器	坏、甕

S-328

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c、甕

S-329茶灰色土

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)

S-329

須恵器	高坏、甕
土師器	坏a、甕、破片
瓦類	破片

S-330暗灰色粘土

須恵器	椀c、皿a、甕
土師器	坏a、丸底坏、椀c、小皿a （イト、ヘラ）、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)
白磁	椀；V-1a(1)、V(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)
石製品	碁石

S-330黒茶色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-330黒灰色粘土

須恵器	蓋4、坏c、甕、甑
土師器	坏a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、小皿c
瓦類	丸瓦(格子叩、縄目叩)、平瓦(縄目叩、無文)
石製品	鉱物

S-330黒灰色土

須恵器	蓋c、坏a、坏c、甕、壺×鉢
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕、器台
黒色土器A	椀c、破片
灰釉陶器	破片(1)
白磁	椀；IV(1)　　破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、縄目叩、無文)、平瓦(格子叩、縄目叩)
金属製品	用途不明鉄製品
その他	木炭

S-330灰茶色土

須恵器	坏a、坏c、破片
土師器	坏、椀c、小皿a、高坏、破片
白磁	椀；IV(2)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	滑石製品

S-330木製品⑥

須恵器	破片
土師器	破片
木製品	曲物

S-331

須恵器	破片
土師器	坏
白磁	破片(1)

S-332

土師器	坏

S-333

土師器	破片
灰釉陶器	壺(1)
瓦類	破片

S-334

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	破片
土製品	焼土塊

S-335

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c、破片
越州窯系青磁	椀；I(1)
中国陶器	破片(1)

S-335暗茶色土

須恵器	蓋3、坏a、椀c、甕、高坏
土師器	坏a、椀c、甕、ツマミ
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片;I(2)
緑釉陶器	須恵質：椀東海?(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、破片(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-335茶灰色土

須恵器	坏c、高坏、甕、壺、破片
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	坏；II(1)
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、破片(格子叩)

S-335灰色土

須恵器	坏、高坏、甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-336

須恵器	破片
土師器	坏、椀c、甕

S-337

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-338

須恵器	甕
土師器	坏

S-339

須恵器	鉢×壺
土師器	坏、甕
黒色土器B	破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-340a

須恵器	甕

S-340a

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏a、破片
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩)

S-340b柱痕

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、坏a、椀c
瓦類	平瓦(格子叩)

S-340c柱痕

土師器	坏

S-340c

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c、甕、破片
緑釉陶器	土師質：皿防長(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-340d

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-340d柱痕

土師器	甕

S-340e

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片

S-340f

須恵器	甕
土師器	椀c、甕
黒色土器A	椀

S-340f柱痕

土師器	甕、破片

S-340g

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀
越州窯系青磁	破片；III(1)
瓦類	破片

S-341

須恵器	甕
土師器	坏a、甕

S-342

土師器	椀c

S-343

土師器	坏、破片

S-344茶灰色土

土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	破片

S-344灰色粘土

土師器	甕、破片

S-345

須恵器	蓋3、蓋c、坏a、坏c、椀a、椀c、甕、壺、壺a、鉢
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、皿a(ヘラ)、器台、甕
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)、II(1)
緑釉陶器	須恵質:椀×皿近江(1)、土師質:椀防長(1)、破片防長(1)
灰釉陶器	破片(1)
白磁	椀；破片(1)、皿；V-1a(1)、水注×壺(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)
石製品	碁石
土製品	焼土塊

S-345暗灰色土

須恵器	蓋3、蓋4、坏、坏c、皿a、高坏、甕、壺、壺b、鉢×壺、ツマミ、破片
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、小皿a、高坏、甕、小壺、器台、把手
製塩土器	焼塩壺
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-2ア(1)、II-2(1)、II-2d(1)　　蓋?(1)　破片I(1)
緑釉陶器	須恵質：椀×皿京都(1)
灰釉陶器	破片(1)
白磁	椀；破片(2)
瓦類	丸瓦(縄目、無文)、破片(縄目、無文)、平瓦(縄目、格子、無文)
石製品	砥石、碁石、チャート、礫

S-345黒茶色土

須恵器	蓋、蓋3、蓋c3、坏、坏a、坏c、皿a、高坏、甕、小壺a
	壺、壺a、壺×鉢
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、小皿a(ヘラ)、皿a(ヘラ)、甕、鉢、把手、破片
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	破片；I(2)
土師質土器	鉢
灰釉陶器	皿K90(1)、段皿(1)、椀(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩、格子叩)
石製品	軽石、碁石
土製品	焼土塊

S-345黒灰色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋4、蓋c、坏、坏a、坏c、皿a、高坏、甕、壺、ツマミ、破片
土師器	蓋、坏a(ヘラ)、坏d(ヘラ)、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、破片
製塩土器	焼塩壺
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	破片；I(1)
灰釉陶器	皿K90×053(1)
白磁	椀；IV(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(縄目叩、格子叩)、軒平瓦
石製品	碁石、石炭
土製品	焼土塊、土錘

S-346

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、椀c、甕

S-347

土師器	破片

S-348

須恵器	甕

S-349

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀
金属製品	鉱滓

S-350灰茶色土

須恵器	蓋、蓋3、蓋c、坏c、甕、壺、鉢、盤、破片
土師器	坏、坏a、丸底坏a、丸椀、椀c、小皿a、小皿a(イト)、甕、破片
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	椀;I(3)　壺;(1)　破片;I(6)
緑釉陶器	須恵質：椀;京都(1)、破片(3)
灰釉陶器	椀×皿(1)、破片(1)
白磁	椀；IV(3)、IV-1b(1)、IV-c(1)、V(1)、V-3(1)
	XI-4(1)、破片(4)
	皿；II-1a(1)、広東系(1)　　破片(1)
弥生土器	壺
瓦類	丸瓦(格子、無文)、破片(格子、無文)、平瓦(縄目、格子、無文)
石製品	丸石、石鍋

S-350茶灰色土

須恵器	蓋、蓋3、蓋c、坏c、皿a、高坏、甕、壺、ツマミ、把手、盤
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、小皿c、甕、鉢、器台、甑、盤、破片
製塩土器	焼塩壺
黒色土器A	椀、破片
越州窯系青磁	椀；I-2ア(1)、I-2エ(1)、I-b(1)　　破片I(4)
長沙窯系青磁	水注(1)
緑釉陶器	須恵質：椀×皿京都(1)、破片(1)
白磁	椀；破片(3)、I-1(1)、IV(5)、IV-1a(2)、V(1)
	XIII(1)、XIII-1b(1)、XIII-2b(1)
	皿；V(1)、VII-1a(1)　　破片(3)
青白磁	破片(1)
中国陶器	破片(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩、格子叩)、軒丸瓦、瓦玉
金属製品	鉱滓、鉄釘、刀子
石製品	滑石製品、石鍋、石匙
土製品	焼土塊

S-350

須恵器	坏、高坏、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c
白磁	椀；IV-1a(1)、破片(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(縄目叩)

S-351

須恵器	蓋3、坏a、坏c、高坏、甕、壺
土師器	坏c、甕
製塩土器	焼塩壺
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦
石製品	碁石
土製品	土錘

S-352

須恵器	蓋3、坏c
土師器	坏a、把手、破片
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-353

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	壺耳(1)　　破片；I(3)、II(1)
瓦類	丸瓦(縄目叩、無文)
石製品	剥片(安山岩)

S-354

土師器	破片

S-355

須恵器	坏c、甕、壺
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕
灰釉陶器	壺(1)
白磁	椀；II(1)、II-1(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、瓦玉

S-356

土師器	小皿a、甕

S-357

土師器	椀c、小皿?、破片

S-358

土師器	破片

S-359

須恵器	甕
土師器	椀c、甕

S-360茶灰色土

土師器	坏、坏a

S-360灰茶色粘土

土師器	坏

S-360灰茶色土

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a、甕

S-360

須恵器	蓋3、甕、破片
土師器	坏、坏a、小皿a、甕、破片
越州窯系青磁	椀；I-2エ(1)
灰釉陶器	椀(1)
白磁	椀；I-1(1)
瓦類	破片(格子叩)
石製品	滑石製品、砥石、碁石

S-361

土師器	椀c、破片

S-362

須恵器	坏c
土師器	甕

S-363

土師器	丸底坏a、甕

S-364

土師器	甕

S-365

須恵器	坏
土師器	坏、坏a、椀c、甕×瓶
黒色土器B	椀c
瓦類	破片(縄目叩)

S-366

土師器	坏、甕
越州窯系青磁	椀；II-2(1)
瓦類	破片

S-367

須恵器	蓋3、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕

S-368

須恵器	蓋、坏、甕
土師器	坏、坏a、小皿a、甕
瓦類	破片
石製品	碁石

S-369

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-370灰色粘土

須恵器	坏、坏c、坏身、甕、壺×鉢、盤
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a、器台、甕
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-2ゥ(1)　　破片；II(1)
白磁	椀；VI(1)　　破片；(2)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)、瓦玉
石製品	碁石、石鍋
土製品	土塊

S-370明茶色粘土

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕、甑
土師器	坏、坏a、丸底坏a、丸底坏c、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、鉢
黒色土器A	椀、破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	坏；II(1)　　破片；I(1)、II(1)
緑釉陶器	須恵質：椀×皿京都(1)
白磁	椀；IV-1b(1)、IV(1)、V-1a×VIII-2(1)、破片(2)
	皿；破片(1)　　破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩、無文)
石製品	チャート、碁石、石鍋

S-370灰茶色土

須恵器	坏、坏c、甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	坏;I-2(1)　　破片;I(3)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(無文)、瓦玉

S-370灰色砂

須恵器	坏、坏c、甕、大甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片；I(3)、II(2)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	砥石

S-370黄茶色土

須恵器	甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、小皿a
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	椀；I-1b(1)　　破片I(1)
白磁	椀；IV-1b(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)

S-370茶灰色土

須恵器	甕、大甕、破片
土師器	坏、丸底坏、小皿a、椀c
瓦類	平瓦(無文)
土製品	焼土塊

S-370灰茶色粘土

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏、小皿a、破片
黒色土器A	破片
緑釉陶器	須恵質：破片(2)
瓦類	破片(格子叩)

S-371

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c
黒色土器A	椀c
土製品	焼土塊

S-372

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕

S-373

須恵器	坏c
土師器	坏、甕

S-374

須恵器	甕
土師器	破片

S-375黄茶色土

須恵器	坏、坏c、皿a、甕、壺×鉢
土師器	坏、坏a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕、把手
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	耳壺I(1)　　破片；I(1)、II(1)
緑釉陶器	須恵質：椀東海?(1)、破片(1)　　土師質：椀×皿洛北(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩、縄目叩、無文)
石製品	滑石

S-375灰色粘土

須恵器	坏、坏c、高坏、椀c、甕、大甕、壺
土師器	坏、坏a、丸底坏、椀c、小皿a(ヘラ)、器台
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀;I(1)、坏;I-1(1)、破片;I(4)、II(2)
長沙窯系青磁	椀(1)
緑釉陶器	須恵質：破片京都(1)
灰釉陶器	皿(1)
白磁	皿;II-1a(1)、破片(1)
中国陶器	破片(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、軒丸瓦
石製品	滑石製品、碁石
土製品	焼土塊、トリベ

S-375灰茶色土

須恵器	坏、坏c、椀c、甕、壺×鉢
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、甕、器台
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	破片；II(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩、無文)
石製品	滑石

S-375灰色砂

須恵器	坏、坏c、椀c、皿、甕、壺×鉢、盤
土師器	坏、坏a、丸底坏、小皿a、椀c
黒色土器A	椀
越州窯系青磁	壺；破片(1)
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)

S-376

須恵器	坏
土師器	丸底坏、甕

S-377

土師器	甕、破片

S-378

須恵器	坏c、甕
土師器	小皿a、甕
越州窯系青磁	椀；II-2d(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-379

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c、甕
石製品	丸石

S-380

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-5(1)　　破片II(1)
白磁	椀；破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	碁石

S-380灰色粘土

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-380黄灰色粘土

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、椀c、破片
黒色土器A	椀、破片
瓦質土器	鉢
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩)
金属製品	鉱滓
石製品	砥石

S-381

土師器	坏

S-382

須恵器	坏、破片
土師器	坏a(ヘラ)、甕、破片
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀

S-383

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、坏a

S-384

須恵器	坏、坏c
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)

S-385

須恵器	蓋3、蓋c、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、丸底坏c、椀c、甕
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	合子I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)
木製品	井戸枠部材
その他	炭

S-385茶灰色粘土

須恵器	甕
土師器	坏a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩)

S-385暗灰色粘土

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
緑釉陶器	鉢(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)
石製品	滑石製品

S-385茶褐色粗砂

土師器	坏、甕

S-385曲物内

土師器	丸底坏、甕

S-385黒灰色土

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片I(1)
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)

S-386

土師器	坏a、破片
黒色土器A	破片

S-387

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-388

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器A	椀、椀c、破片

S-389

須恵器	椀
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-390

須恵器	蓋3、坏、甕、壺
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	椀、椀c
白磁	椀；IV(4)、V-1×VIII-2(1)、破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-390黒灰色土

須恵器	蓋3、甕、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a(ヘラ)
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片I(3)
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)

S-390暗灰色土

須恵器	甕、甑、破片
土師器	坏、丸底坏a、小皿a (イト) 、甕
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	破片II(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-391

須恵器	甕、破片
土師器	破片

S-392

須恵器	蓋3
土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	椀c
石製品	石核、碁石

S-393

須恵器	蓋3
土師器	坏、甕

S-394

須恵器	坏、高坏、破片
土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(縄目叩)

S-395黄色砂

須恵器	高坏、甕、破片
土師器	坏a、丸底坏a、丸底坏c、小皿a、器台、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I-5(1)
石製品	石鍋、碁石

S-395茶灰色粘土

須恵器	甕、甑
土師器	坏、丸底坏a、小皿a
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)

S-395茶灰色砂

須恵器	坏、坏c、高坏、甕、破片
土師器	坏、坏a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕、破片
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-2ァ(1)、II-2(1)　　破片I(3)
灰釉陶器	破片(1)
白磁	椀；IV(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、縄目叩)、平瓦(格子叩、破片)
石製品	石帯

S-395灰色粘土

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏c、甕、壺、破片
土師器	坏、坏a、丸底坏a、丸底坏、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、鉢、器台
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	椀c、破片
越州窯系青磁	椀；I(1)　　破片I(3)
長沙窯系青磁	壺×水注(1)
灰釉陶器	瓶(1)
瓦類	平瓦(格子、縄目、無文)、丸瓦(格子、無文)、破片
石製品	砥石

S-395黒灰色土

須恵器	甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、椀c
黒色土器B	椀
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(無文)

S-396

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	椀c、甕
瓦類	破片

S-397

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(無文)
金属製品	鉱滓
石製品	碁石

S-398

須恵器	蓋3、坏、椀、甕、大甕
土師器	蓋、椀、甕
製塩土器	焼塩壺
瓦類	丸瓦(無文)
土製品	焼土塊

S-399掘り方

土師器	坏、甕

S-399柱痕

土師器	坏、甕
瓦類	破片(格子叩)

S-400灰色粘土

須恵器	坏、坏c、甕、鉢、破片
土師器	坏a、坏a(イト)、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、鉢、盤
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀；I-2ァ(1)
白磁	皿；II-1(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(格子叩)、瓦玉
石製品	丸石

S-400黒灰色土

須恵器	坏、高坏、鉢×壺
土師器	坏、丸底坏、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、椀c、甕
瓦類	平瓦 (格子叩、無文)

S-400茶灰色土

須恵器	蓋3、高坏、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、小丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	椀；II(1)　　破片I(1)
中国陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)
石製品	石鍋

S-400灰色土

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、丸底坏a、小丸底坏a、小皿a(ヘラ)、皿c、甕、器台
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀；I-5(1)
中国陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(無文)
石製品	砥石

S-401

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、甕
石製品	石鍋

S-402

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
灰釉陶器	皿(1)

S-403

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	破片(縄目叩)
金属製品	鉱滓

S-404

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-405黒灰色土

須恵器	甕
土師器	小皿a、破片

S-406青灰色土

土師器	坏、甕
瓦類	破片(縄目叩、格子叩)

S-406

土師器	坏a、甕

S-407

須恵器	破片
土師器	坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	破片

S-408

土師器	坏、甕

S-409

須恵器	甕、破片
土師器	坏、破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-410黒灰色土

須恵器	蓋3、蓋c、椀、甕、壺×鉢
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、小皿a、高坏?、甕
黒色土器A	椀c、破片
中国陶器	破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片(無文)

S-410淡灰色土

須恵器	蓋c、坏、坏a、坏c、甕、壺、壺×鉢
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c、破片
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩)、破片(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-410

須恵器	蓋c、坏、坏a、甕、壺、壺b
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	壺?I(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦 (格子叩、無文)
石製品	砥石?

S-411

須恵器	甕
土師器	椀c、破片
土製品	焼土塊

S-412

須恵器	坏c
土師器	坏、椀c
白磁	椀；IV(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-413

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、椀c、甕

S-414

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	椀；I-2(1)、破片；II(1)
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-415

須恵器	蓋3、甕、壺b
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	破片；II(1)
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)

S-416

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-417

須恵器	蓋3、坏c、甕、破片
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	破片

S-418

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c、破片
瓦類	丸瓦(無文)、破片(格子叩)

S-419

須恵器	蓋、蓋1、坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
越州窯系青磁	破片；I(1)
緑釉陶器	須恵質：破片(1)、土師質：破片(1)
瓦類	平瓦(無文)

S-420a黄色土

須恵器	坏c、破片
土師器	蓋3、甕

S-420b茶灰色土

須恵器	蓋3、大椀c、破片
土師器	坏、甕
石製品	碁石
土製品	焼土塊

S-420b灰色粘土

土師器	破片

S-420b黄色土

土師器	坏、破片

S-420c黄灰色土

須恵器	蓋1

S-421

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片

S-422

土師器	甕

S-423

須恵器	甕
土師器	椀c、小皿a
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片II(1)
土製品	焼土塊

S-424

土師器	坏、椀、小皿a、甕
瓦類	丸瓦

S-425

須恵器	蓋、蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a(ヘラ)、坏d、椀c、皿(ヘラ)、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(無文)、丸瓦(格子叩)

S-426

須恵器	蓋1、蓋3、坏a、高坏、甕
土師器	坏、甕
製塩土器	焼塩壺
瓦類	瓦玉、破片
石製品	碁石

S-427

須恵器	蓋c、坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
瓦類	破片(縄目叩)

S-428

須恵器	坏
土師器	坏、丸底坏a、甕

S-429

須恵器	蓋3、蓋c、坏、高坏、甕、壺×鉢
土師器	坏、椀c、甕
製塩土器	焼塩壺
石製品	碁石

S-430灰色粘土

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、丸底坏?、椀c、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	破片;I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩) 、破片

S-430黒色土

須恵器	蓋、破片
土師器	坏、甕

S-430黄灰色土

須恵器	甕
土師器	椀c、小皿a(ヘラ)、甕
白磁	椀；IV-1b(1)

S-431

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、椀c、甕、破片

S-432

土師器	坏、甕

S-433

土師器	椀c、甕
瓦類	破片(縄目叩)

S-434

須恵器	破片
土師器	坏、丸底坏a、小皿a
瓦類	平瓦(無文)

S-435

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-436

須恵器	蓋c、甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	丸瓦(無文)
石製品	砥石

S-437

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、甕

S-438

土師器	坏、坏a、甕

S-439

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a、甕

S-440

須恵器	甕
土師器	坏a、破片

S-441

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏、椀c、甕

S-442

須恵器	坏c、甕、鉢×壺
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	破片；I(1)、II(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩)
石製品	チャート

S-443

須恵器	甕、蓋
土師器	甕

S-444

須恵器	坏
土師器	坏a、甕

S-445

須恵器	甕
土師器	坏a、甕

S-446

須恵器	破片
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-447

須恵器	蓋、甕
土師器	坏a、椀c、甕

S-448

土師器	破片

S-449

須恵器	蓋×甕
土師器	坏a、甕

S-450

須恵器	蓋、坏、甕
土師器	甕、破片
黒色土器B	椀c
緑釉陶器	土師質：破片防長(1)
瓦類	破片(格子叩)

S-451

土師器	坏
瓦類	破片(格子叩、無文)
土製品	丸玉

S-452

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
灰釉陶器	壺(1)

S-453

須恵器	坏、甕、壺×甕
土師器	坏、坏a、甕

S-454

土師器	坏、坏a、甕、器台

S-455黒灰色土

須恵器	蓋2、蓋3、高坏、甕、壺
土師器	坏、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片

S-455暗灰色粘土

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器B	椀c
白磁	椀;II(1)
瓦類	破片 (格子叩)

S-455黄灰色土

須恵器	坏
土師器	坏、椀c、甕

S-456

須恵器	破片
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-457

須恵器	蓋×鉢
土師器	坏、甕
越州窯系青磁	椀；I-2x(1)
石製品	碁石

S-458

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-459

土師器	坏、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-460黒色土

須恵器	蓋3、坏、坏c、皿a
土師器	丸底坏a、椀c、甕
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)

S-460暗灰色粘土

須恵器	坏c、破片
土師器	坏a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	丸石

S-460黒色粘土

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀、椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(格子叩)

S-460黒茶色土

須恵器	坏、坏c、甕、壺b、鉢
土師器	蓋、坏、坏a、坏d、小皿a、皿a、甕
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	椀；III-1b(1)
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
白磁	椀；IV(1)、XI?(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、破片)、丸瓦(格子叩、無文)

S-460茶灰色粘土

須恵器	蓋、坏、椀c、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	破片(格子叩)

S-461

土師器	甕
金属製品	鉄釘

S-462

須恵器	蓋3
土師器	坏、椀c、甕
白磁	小椀;V-1b(1)

S-463

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-464

須恵器	甕、蓋、破片
土師器	坏a、破片

S-465a柱穴

須恵器	坏、壺
土師器	坏a、椀c、甕

S-465a掘方

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏

S-465b柱穴

須恵器	坏
土師器	坏a、甕

S-465b掘方

土師器	破片

S-465c柱穴

須恵器	坏
土師器	坏、破片

S-465c掘方

須恵器	蓋3、破片
土師器	坏、甕

S-465d柱穴

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、椀c、甕

S-465e柱穴

須恵器	蓋1、坏
土師器	甕、破片
石製品	碁石

S-466

土師器	坏

S-467

須恵器	坏
土師器	坏、椀c、器台
越州窯系青磁	破片;II(1)

S-468

須恵器	甕
土師器	坏、坏a

S-469

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、小皿a、甕
瓦類	破片

S-470

須恵器	坏a、坏c、高坏、甕、壺、壺×鉢、鉢
土師器	坏、坏a、坏d、椀c、甕
瓦類	丸瓦(縄目叩、無文)、平瓦(縄目叩)

S-471

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、甕、破片
瓦類	平瓦(格子叩)、破片(格子叩)

S-472

土師器	坏、小皿a、甕

S-473

須恵器	甕
土師器	坏、甕
越州窯系青磁	椀；I-5(1)

S-474

須恵器	甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-475a

土師器	蓋、坏a、鉢?、破片

S-475b掘方

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
瓦類	破片(縄目叩)

S-475b柱穴

須恵器	坏、甕
土師器	甕

S-475c柱穴

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、椀c、甕

S-475c掘方

須恵器	坏
土師器	坏a、甕、破片

S-476

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、破片

S-477

須恵器	蓋3、坏a
土師器	坏、椀c
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	破片I(1)
金属製品	鉱滓

S-478

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器B	破片

S-479

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-480c柱痕

土師器	坏a

S-480e茶色土

土師器	甕

S-480e掘方

土師器	甕、破片

S-480f柱痕

土師器	坏

S-480f柱木

土師器	坏

S-480h柱痕

須恵器	坏

S-480j柱痕

土師器	坏
土製品	焼土塊

S-480k掘方

須恵器	破片

S-480m茶色土

須恵器	蓋c3(転用硯)、甕×鉢

S-480p茶色土

土師器	甕

S-480q茶色土

土師器	破片

S-480r柱痕

須恵器	蓋3

S-480r茶色土

須恵器	蓋、蓋3
土師器	破片

S-480s茶色土

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-480s掘方

須恵器	壺a
土師器	甕、破片

S-480v掘方

土師器	坏

S-480v柱痕

須恵器	破片
土師器	甕

S-480x柱痕

須恵器	蓋3

S-480x掘方

土師器	椀c

S-481

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、甕
越州窯系青磁	破片I(1)

S-482

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片
灰釉陶器	壺(1)
白磁	椀；IV(1)、四耳壺(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、破片

S-483

須恵器	坏
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀

S-484

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、丸底坏、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-485a

石製品	剥片(黒曜石)

S-485a柱痕

須恵器	蓋1

S-485b

須恵器	坏
土師器	破片

S-485b掘方

須恵器	破片

S-485d

須恵器	蓋3

S-485d柱痕

土師器	破片

S-485e柱痕

須恵器	坏

S-485f柱痕

須恵器	破片
石製品	砥石

S-485掘方

須恵器	坏

S-485g柱痕

須恵器	蓋1、坏
土師器	甕

S-486

土師器	坏、小皿a
金属製品	鉱滓

S-487

土師器	坏

S-488

土師器	坏、椀c

S-489

須恵器	坏c、破片
土師器	坏a、丸底坏a
土製品	焼土塊

S-490a柱痕

須恵器	甕
土師器	甕

S-490a掘方

土師器	破片

S-490b掘方

土師器	坏

S-490b柱痕

須恵器	壺?
土師器	破片

S-490c掘方

土師器	破片

S-490c

須恵器	甕
土師器	椀c、破片

S-490c柱痕

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-490d柱痕

土師器	甕

S-490e柱痕

土師器	甕、破片

S-491

須恵器	甕×壺
土師器	坏、坏a、椀c、甕

S-492

須恵器	坏
土師器	坏
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片(格子叩)

S-493

須恵器	蓋、甕
土師器	坏、丸底坏、甕
瓦類	平瓦(無文)

S-494

土師器	坏、甕

S-495b柱痕

土師器	破片

S-496

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)
石製品	碁石
土製品	焼土塊

S-497

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-498

須恵器	坏c、高坏?、破片
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-499

土師器	坏
黒色土器A	椀c

S-500c柱痕

土師器	破片

S-500c掘方

石製品	剥片(安山岩)

S-501

土師器	坏、丸底坏、小皿a

S-502

須恵器	坏c、甕
土師器	丸底坏a、椀c

S-503

須恵器	甕
土師器	坏、甕、把手
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、破片

S-504

土師器	丸底坏a、小皿a、破片

S-505明灰色土

須恵器	蓋1、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀、甕
緑釉陶器	須恵質：皿京都(1)
瓦類	破片

S-505淡灰色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、椀c

S-505灰色粘土

須恵器	蓋3、坏、坏c、皿a、甕
土師器	坏a(ヘラ)、小皿a(ヘラ)、椀c
黒色土器A	椀、椀c
緑釉陶器	須恵質：破片京都?(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩、格子叩)、破片(縄目叩)

S-505暗茶灰色粘土

須恵器	蓋c、坏、坏a、坏c、坏c(墨書)、甕
土師器	坏a、椀c、小皿a、高坏、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	椀；I-5(3)　破片；I(2)、II(1)
緑釉陶器	須恵質：椀篠(1)、椀×皿京都(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	碁石

S-506

須恵器	蓋、坏
土師器	蓋、坏、破片
黒色土器A	破片
白磁	椀；II(1)　破片；広東系(1)
その他	炭

S-507

須恵器	坏、坏c
土師器	坏、坏a、丸底坏、甕
黒色土器A	椀、椀c
白磁	椀；V(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-508

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏、椀c、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-509

須恵器	蓋1、蓋3、坏、甕
土師器	坏、甕
越州窯系青磁	破片；I(1)
緑釉陶器	土師質：破片(1)
土製品	焼土塊

S-510茶灰色土

須恵器	甕、甑、甕×鉢、鉢、盤
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、甕、器台
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片；II(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩、縄目叩、無文)
石製品	焼石
土製品	坩堝?

S-510青灰色粘土

土師器	椀、甕
黒色土器A	椀
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片(縄目叩)

S-510淡灰色粗砂

須恵器	甕
土師器	甕
黒色土器A	椀
瓦類	軒平瓦

S-510暗灰色土

須恵器	甕、鉢
土師器	椀c、甕
黒色土器A	椀c
灰釉陶器	壺(1)
瓦類	丸瓦(縄目叩、格子叩、無文)、平瓦(格子叩、無文)

S-510暗灰色粘土

須恵器	甕、壺?
土師器	坏a、坏c、小皿c、椀、椀c、甕
黒色土器A	椀c、小甕、破片
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-1b(1)
緑釉陶器	須恵質：椀×皿京都(1)
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、軒平瓦
土製品	鞴羽口
石製品	砥石

S-510青灰色土

須恵器	蓋3、蓋c、坏a、椀c、椀、甕、壺
土師器	坏、坏a(ヘラ)、甕
製塩土器	焼塩壺
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片I(2)
緑釉陶器	須恵質：皿(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(格子叩)、破片(格子叩)
石製品	丸石、チャート、滑石加工品
土製品	焼土塊

S-511

須恵器	蓋1、蓋3、坏、坏c
土師器	椀c、甕
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)

S-512

須恵器	蓋3、甕
土師器	椀c、甕
瓦類	丸瓦(無文)

S-513

須恵器	坏、鉢?
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	丸瓦(無文)

S-514

須恵器	坏、坏c
土師器	坏、甕
土製品	焼土塊

S-515茶色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、坏蓋、坏a、坏c、坏身、椀c、皿a、高坏
	甕、大甕、壺、壺b、壺e、盤
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、皿a、甕、ツマミ、把手
黒色土器A	椀c、甕
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、II-2(1)　破片I(3)
緑釉陶器	須恵質:椀(3)、土師質:椀(1)
灰釉陶器	皿(2)、壺(2)
白磁	椀；I-1(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)
金属製品	鉱滓
石製品	砥石、石核(安山岩)、碁石
土製品	焼土塊、土錘

S-515

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏c、椀c、皿a、甕、壺、壺a、鉢、鉢b、盤、大椀c、小坏a
土師器	坏a(ヘラ)、椀c(ヘラ)、皿a、小甕、甕、脚付鉢、把手
黒色土器A	椀、椀c、甕
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-1a(2)、I-2ア(2)　破片；I(5)、II(1)
緑釉陶器	須恵質:椀京都(1)、椀(2)　土師質:破片(1)、椀×皿(1)
灰釉陶器	椀H72×虎渓山1(1)、皿K90(1)、皿(2)、破片(1)
白磁	椀;I-1(1)、II-1(1)
瓦類	丸瓦(格子、縄目、無文)、平瓦(格子、縄目、無文)、軒平瓦
石製品	砥石、剥片(黒曜石)、チャート、礫石
その他	炭

S-516

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
土製品	焼土塊

S-517

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、椀c
土製品	焼土塊

S-518

須恵器	蓋1、坏、坏c、甕
土師器	坏a、甕
石製品	碁石

S-519

土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-520茶色土

須恵器	蓋3、坏、坏c、椀c、高坏、甕、壺×鉢、盤、破片
土師器	坏、椀c、甕、把手
黒色土器B	皿c
越州窯系青磁	椀；I(1)　坏；II(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)
石製品	焼石、チャート
土製品	棺

S-520茶灰色粘土

須恵器	坏c、甕、壺
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	椀；I-1a(1)　破片；I(1)、II(2)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)、軒丸瓦
石製品	滑石

S-520

須恵器	坏蓋?、坏c、甕、盤、獣脚
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、甕、把手
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)
緑釉陶器	須恵質：皿京都(1)
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)

S-521

須恵器	蓋
土師器	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-522上層

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、丸底坏c、甕
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	土師質：椀(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(格子叩)、軒丸瓦
土製品	焼土塊

S-522下層

須恵器	蓋1、蓋3、坏c
土師器	甕
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)

S-523

須恵器	坏、坏c
土師器	丸底坏a、小皿a
黒色土器A	椀
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(無文)、破片(格子叩)

S-524

須恵器	蓋3、蓋c、坏
土師器	坏、丸底坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
金属製品	鉱滓

S-525

須恵器	蓋、蓋3、蓋c、坏、坏c、椀c、高坏、甕、壺、壺×鉢、獣脚、破片
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、甕、把手、獣脚
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-5(2)、II-2a(1)　坏;II(1)　破片；I(3)、II(1)
灰釉陶器	壺×甕(1)、破片(1)
瓦類	丸瓦(格子)、平瓦(格子、縄目、無文)、軒丸瓦、瓦玉
金属製品	鉱滓
石製品	石核、石鍋、チャート
土製品	丸玉

S-526

須恵器	壺
土師器	坏
土製品	焼土塊

S-527

土師器	坏、小皿a
瓦類	破片
土製品	焼土塊

S-528

須恵器	破片
土師器	坏、坏a、小皿a、甕
黒色土器A	破片
白磁	皿;II(1)
瓦類	平瓦(無文)

S-529

須恵器	破片
土師器	坏、丸底坏、椀c

S-530黒灰色土

須恵器	坏、坏a、坏c、甕、壺?、壺b、壺d
土師器	蓋、坏、坏a(ヘラ)、椀c、脚付椀、甕
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	椀；II-2d(1)　蓋;I(1)　破片;I(5)
緑釉陶器	土師質：椀防長(1)、破片防長(1)
白磁	椀；II-1(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)、セン?
金属製品	鉱滓
石製品	碁石
土製品	セン

S-530黒灰色粘土

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、皿a、甕、把手
黒色土器A	椀c、甕、破片
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)
石製品	丸石

S-531

土師器	坏、丸底坏a

S-532

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-533上層

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕

S-533下層

須恵器	蓋、蓋3、蓋c、坏c、甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	椀；I-1a(1)　破片I(4)
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	碁石

S-534

須恵器	蓋c
土師器	坏

S-535

須恵器	坏、甕、瓶
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I-1a(1)、I(1)　破片I(1)
白磁	椀;I(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-536

須恵器	坏、壺
土師器	坏a、甕

S-537

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	椀；I-2ア(1)
瓦類	軒丸瓦、破片

S-538

須恵器	椀c、皿a
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(無文)

S-539

須恵器	蓋3、蓋c、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(格子叩、無文)

S-540

須恵器	蓋3、坏c、甕、大甕、壺×鉢
土師器	坏、坏a(ヘラ)、皿a(ヘラ)、椀c、甕、高坏
黒色土器A	椀、椀c、鉢
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	丸瓦(縄目、格子、無文)、 平瓦(縄目、格子、無文)
金属製品	鉱滓

S-541

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	破片II(1)
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-542

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
金属製品	鉄鏃?

S-543

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、小皿a、甕
越州窯系青磁	椀；I-2エ(1)
瓦類	破片(格子叩)
土製品	焼土塊

S-544

須恵器	甕、壺×鉢
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a、甕
白磁	椀；V-1×VIII-2(1)　破片(1)
瓦類	平瓦(無文)

S-545黒茶色土

須恵器	蓋、坏a、甕、破片
土師器	坏、坏a(ヘラ)、皿a(ヘラ)、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c
白磁	椀；I-1(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)

S-545灰色粘土

須恵器	坏、甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、皿a(ヘラ)、甕、鉢?
越州窯系青磁	破片I(2)
緑釉陶器	須恵質：椀(2)
黒色土器A	椀c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)

S-545茶色粘土

須恵器	甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、甕、鉢
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)
その他	木炭

S-545①

土師器	坏a、甕

S-546

須恵器	坏、甕、鉢×壺
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(無文)
石製品	滑石

S-548

須恵器	坏、甕
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a、甕
緑釉陶器	須恵質：壺(1)
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	破片(縄目叩、無文)

S-549

須恵器	甕
土師器	坏a、甕

S-550

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏c、甕、壺×鉢
土師器	坏a、椀c、甕、把手
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-2(2)　　破片I(1)
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)
土製品	焼土塊

S-550灰色粘土

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a(ヘラ)、高坏?、甕
黒色土器A	椀、椀c、甕
越州窯系青磁	壺I(1)
緑釉陶器	須恵質：椀京都(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)
金属製品	鉱滓
石製品	丸石、石鍋
土製品	焼土塊

S-550茶灰色土

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕、盤
土師器	坏、坏a、椀c、甕、把手、鉢
黒色土器A	椀、椀c
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)
石製品	石鍋、砥石

S-551

須恵器	甕、蓋
土師器	椀c、ツマミ
瓦類	平瓦(格子叩)

S-552

須恵器	坏a
土師器	坏a、甕、破片
灰釉陶器	椀(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(縄目叩)

S-553

須恵器	蓋3、坏、坏a、高坏、甕、蓋
土師器	坏、坏a、小皿a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-554

須恵器	坏、皿a、甕
土師器	坏、坏a、甕
白磁	椀；II(1)

S-556

須恵器	甕、破片
土師器	坏、椀c、小皿a、甕、破片
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	椀；I-5(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-557

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片

S-558

須恵器	坏、甕
土師器	坏a
越州窯系青磁	椀；II-2(1)
瓦類	破片

S-559

須恵器	坏c、甕、破片
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀
白磁	皿；VII-1b(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-560黒灰色土

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片I(2)
灰釉陶器	椀×皿(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(無文)、瓦玉

S-560

須恵器	蓋3、坏c、高坏、甕、壺、盤
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、皿、甕、鉢
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-1b(1)、I-2エ(1)　　破片I(2)、II(1)
灰釉陶器	壺(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(無文)、セン

S-560黒灰色粘土

須恵器	坏c、甕、壺、破片
土師器	坏、丸底坏a、丸底坏c、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、把手
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-5(2)、II-2d(1)
白磁	椀：破片(1)　皿；II-1(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩、格子叩)、瓦玉
石製品	砥石、焼石

S-561

土師器	小皿a

S-562

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-563

須恵器	壺×鉢、把手
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a
黒色土器A	椀
白磁	椀；IV(1)　　破片(1)
瓦類	丸瓦(無文)

S-564

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、坏a、甕
製塩土器	破片

S-565

土師器	甕

S-566

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	丸瓦(無文)

S-567

須恵器	甕、壺
土師器	丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c

S-568

土師器	椀c、甕
瓦類	破片
土製品	土錘、鋳型

S-569

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕

S-570a

須恵器	坏c
土師器	甕
土製品	鞴羽口

S-570a茶色土

その他	炭

S-570a柱穴

須恵器	坏c、壺?
土師器	甕
土製品	鞴羽口

S-570a掘方

土師器	甕

S-570b茶色土

土師器	甕
土製品	鞴羽口

S-570c

土師器	甕

S-570c茶色土

須恵器	甕

S-570d柱痕

土師器	破片

S-570d

須恵器	壺?

S-571

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏、甕

S-572

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕

S-573

須恵器	坏、坏c、皿a
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	椀c

S-574

須恵器	破片
土師器	椀c、小皿a、甕
瓦類	平瓦(無文)

S-575

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕、大甕、壺?、鉢、盤、硯
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、甕、把手
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-1a(1)、I-2ウ(1)　破片;I(1)
白磁	破片(1)
中国陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(縄目叩、格子叩)、軒丸瓦
金属製品	鉱滓

S-576

須恵器	蓋3、坏a
土師器	坏a、甕
瓦類	破片(縄目叩)

S-577

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-578

土師器	坏、甕

S-579

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c
瓦類	平瓦(格子叩)

S-580

須恵器	坏a、甕
土師器	坏a、甕
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	丸瓦(無文)

S-581

須恵器	坏
土師器	坏a、丸底坏、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-582

須恵器	坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-583

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a
黒色土器A	破片
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	破片(格子叩)

S-584

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、甕
越州窯系青磁	破片;II(1)
白磁	椀；II(1)

S-585灰褐色土

須恵器	蓋3、坏、椀c、甕、壺
土師器	坏、坏a、椀c、甕
石製品	砥石

S-585暗灰色土

土師器	坏a

S-585茶色土

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
石製品	丸石

S-585暗灰色粘土

須恵器	坏、甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、甕
石製品	碁石

S-586

須恵器	坏c、破片
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-587

土師器	坏、丸底坏
緑釉陶器	須恵質：破片近江(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-588

須恵器	坏c
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀
石製品	碁石

S-589

須恵器	破片
土師器	椀c、甕
黒色土器A	破片
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)

S-590暗灰色土

須恵器	蓋1、蓋3、坏、甕、転用硯?
土師器	丸底坏a、椀c、甕、把手
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	椀；I-5(1)
白磁	椀；IV-1a(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩、縄目叩)

S-591

須恵器	坏
土師器	坏、坏a、甕
石製品	剥片(黒曜石)

S-592

土師器	坏

S-593

須恵器	坏、坏c、蓋
土師器	坏、甕
黒色土器B	椀c

S-594

須恵器	甕
土師器	坏a、丸底坏、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片I(1)
白磁	椀；V-1×VIII-2(1)、IV(1)、V(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、破片
土製品	鞴羽口?

S-596

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-597

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏a、椀c
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)
石製品	軽石
土製品	焼土塊

S-598

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕、把手
黒色土器B	椀c
白磁	椀；IV(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(無文)
石製品	丸石

S-599

須恵器	蓋、蓋3、坏、甕、小壺
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕
瓦類	丸瓦(無文)

S-600暗灰色土

須恵器	蓋c、坏a、甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、甕、鉢
黒色土器A	坏a、椀、鉢
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-5(1)　破片;I(2)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)、軒平瓦
石製品	焼石

S-600灰茶色土

須恵器	蓋3、椀c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
製塩土器	破片
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、II-2(1)　破片;I(1)、II(2)
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(無文)

S-600黄灰色砂

土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-600黒灰色粘土

須恵器	破片
土師器	坏、椀c、破片
瓦類	平瓦(格子叩、無文)

S-600灰色粘土

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、甕、鉢
黒色土器A	椀
白磁	椀；I-1(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)
石製品	焼石

S-601

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a、甕

S-602

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、甕、把手
黒色土器A	破片
緑釉陶器	須恵質：皿京都(1)
石製品	石核(安山岩)

S-603黄灰色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-603灰茶色土

須恵器	蓋3、蓋c、坏a、坏c、甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a
黒色土器A	破片
白磁	椀；II-1(1)　皿;XI-7(1)、破片(2)　　破片(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(縄目叩)、セン?
石製品	剥片(黒曜石)、滑石製品
土製品	焼土塊
金属製品	鉛板

S-604

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器B	椀c
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)

S-605

須恵器	坏
土師器	甕、脚付椀、破片
越州窯系青磁	椀；I-2ア(1)、I-2ウ(1)
弥生土器	高坏、甕、壺
金属製品	鉱滓
石製品	石鏃、剥片(黒曜石)

S-606

須恵器	坏、甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、甕

S-607

須恵器	甕
土師器	椀c、小皿a、甕
瓦類	平瓦(無文)

S-608

土師器	破片
越州窯系青磁	破片I(2)

S-609

須恵器	坏a
土師器	坏、丸底坏c、甕
越州窯系青磁	椀；I-2ウ(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(格子叩)

S-610暗灰色土

須恵器	甕、大甕
土師器	坏、小皿a、甕
越州窯系青磁	椀；I(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(格子叩)

S-610暗灰色粘土

土師器	丸底坏?
黒色土器B	椀c
瓦類	平瓦(格子叩、無文)

S-610灰色砂

須恵器	坏c
土師器	坏
瓦類	破片(無文)

S-610淡灰色粗砂

土師器	甕

S-611

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-612

土師器	坏

S-613

須恵器	蓋1、蓋3、坏c、高坏、甕
土師器	坏、丸底坏、椀c、甕、器台
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片

S-614

須恵器	坏、甕
土師器	坏、丸底坏、小皿a、甕
白磁	椀；IV(1)、破片(1)

S-615茶色砂

須恵器	蓋3、蓋c、蓋、坏、坏a、坏c、高坏、甕、壺、壺a、壺b、壺×鉢
	盤、把手、破片
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、高坏、甕、破片
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	椀、椀c
越州窯系青磁	椀；I(4)、I-1b(1)、I-2エ(2)、I-1a×I-3(2)、I-5(1)、II(2)、II-2b(1)
	皿；II(1)　　　破片;I(6)
緑釉陶器	須恵質：破片(2)
灰釉陶器	平瓶(1)、皿(1)、破片(1)
白磁	破片(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(格子叩、無文)、軒平瓦、破片
金属製品	鉱滓
土製品	セン
石製品	剥片(黒曜石)、碁石、砥石

S-615黄灰色砂

須恵器	蓋3
土師器	坏

S-615灰色砂

須恵器	蓋c、坏、坏c、高坏、甕、壺d
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、甕、把手
黒色土器A	椀c、椀
越州窯系青磁	椀；I(4)、I-1a(2)、I-2ア(1)、I-2ウ(1)、I-5(2)
	II(1)、II-2b(2)　　　香炉(1)　　破片I(5)、II(1)
長沙窯系青磁	壺類(1)
緑釉陶器	須恵質：椀京都(2)、破片(1)
灰釉陶器	破片(1)
白磁	椀；I-1(2)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)、軒平瓦
金属製品	鉱滓
石製品	石鍋、碁石、丸石
土製品	土馬

S-616

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏a、甕
灰釉陶器	破片(1)

S-617

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀c

S-618

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、甕
弥生土器	甕

S-619

須恵器	坏c
土師器	坏、甕

S-620

須恵器	蓋3、蓋c、坏c、椀c、高坏、甕、大甕、壺
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、高坏、甕
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-1a×I-3(1)　皿；未分類(1)　破片;I(1)
緑釉陶器	須恵質：皿京都(1)、破片京都(1)　　　土師質:防長(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)
金属製品	鉱滓

S-621

須恵器	蓋、坏
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-622

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、甕
土製品	焼土塊

S-623

須恵器	蓋c、坏、甕
土師器	蓋、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-624

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c

S-625淡灰色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏a(ヘラ)、椀c、椀、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	丸石

S-625茶灰色土

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-625暗灰色土

須恵器	坏c
土師器	坏a(ヘラ)、甕
その他	炭

S-626

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、小皿a、甕

S-627

須恵器	破片
土師器	坏

S-628

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏a
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-629柱痕

土師器	破片

S-629掘方

須恵器	蓋c、甕
土師器	小皿a、甕
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器

S-631

須恵器	坏
土師器	坏、小皿a、甕
瓦類	丸瓦(無文)、破片(格子叩)

S-632

須恵器	破片
土師器	椀c、甕

S-633

須恵器	甕
土師器	坏、椀c

S-634

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	破片

S-636

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)、瓦玉

S-637

須恵器	坏、甕
土師器	椀c、甕
黒色土器A	椀c
白磁	破片;広東系(1)

S-638

須恵器	坏
土師器	坏
瓦類	平瓦(無文)

S-639

須恵器	蓋3
土師器	坏a、椀c、甕
越州窯系青磁	椀；I-2ア(1)

S-641

須恵器	蓋3
土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-643

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片(無文)

S-644

土師器	丸底坏、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片

S-646

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	丸瓦(縄目叩)、破片

S-647

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)
土製品	焼土塊

S-648

須恵器	甕
土師器	坏、坏a

S-649

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-651

須恵器	壺?
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片

S-652

須恵器	坏
土師器	坏、坏a

S-653

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-654

土師器	坏、椀c

S-657

須恵器	蓋2
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	破片

S-658

土師器	椀c

S-659

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c

S-662

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、甕
瓦類	破片

S-663

土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(無文)

S-664

土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
瓦類	破片、瓦玉

S-666

土師器	丸底坏

S-667

須恵器	坏c
土師器	坏
瓦類	破片
土製品	焼土塊

S-668

須恵器	壺
土師器	坏、甕

S-669

須恵器	坏、甕
土師器	蓋、坏a、小皿a、甕

S-671

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、皿a、甕
瓦類	破片

S-672

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏
黒色土器A	椀

S-674

須恵器	坏a、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-676

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	鉢?

S-677

須恵器	蓋3、蓋c、甕
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a、甕
白磁	椀；Ⅳ(1)、破片(1)　皿;Ⅴ(1)　破片(1)
石製品	石鍋

S-677暗灰色土

須恵器	坏a、坏c、甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片(格子叩、無文)

S-678淡灰色土

須恵器	坏c、甕
土師器	丸底坏、丸底坏a、椀c、小皿a、高坏
越州窯系青磁	椀；I-5(1)
白磁	椀；Ⅴ(3)、Ⅴ-1b(1)、Ⅴ-2b(1)　皿;破片(1)　小壺(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)、破片(無文)
石製品	丸石
土製品	焼土塊

S-678

須恵器	蓋c、坏c、甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、器台
白磁	椀；Ⅴ-1a(2)　破片(2)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(無文)、破片
石製品	碁石
土製品	焼土塊

S-679

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-681

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕

S-682

土師器	坏、甕

S-683

土師器	破片

S-684

土師器	坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c、破片

S-686

須恵器	坏
土師器	坏

S-687

土師器	坏、甕

S-688

須恵器	破片
土師器	甕

S-689

須恵器	坏、甕
土師器	坏

S-691

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a

S-692

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏、甕
黒色土器B	破片

S-693

須恵器	蓋3
土師器	坏、甕

S-694

土師器	坏

S-696

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-697

須恵器	坏、坏c
土師器	坏、丸底坏a
瓦類	瓦玉
土製品	焼土塊

S-698

須恵器	甕
土師器	坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(無文)

S-699

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c
白磁	椀；I-1(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)

S-701

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	椀c

S-702

須恵器	蓋3
土師器	破片

S-703

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕

S-704

須恵器	蓋1、蓋3、坏、坏c、皿a、高坏、甕
土師器	坏、坏a、小皿a
黒色土器A	破片
土製品	焼土塊

S-706

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕
黒色土器A	鉢

S-707

須恵器	坏c、甕
土師器	丸底坏、甕

S-708

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、丸底坏a、小皿a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-709

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-711

土師器	小皿a、破片
白磁	椀；破片(1)

S-712

須恵器	盤
土師器	坏
瓦類	丸瓦

S-713

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(無文)
石製品	碁石

S-714

須恵器	破片
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-716

須恵器	坏
土師器	破片

S-717

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
須恵質土器	鉢
白磁	椀；II-1(2)、V-2b(1)、破片(1)
	皿；VII-b(1)、破片(1)　　破片：広東系(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、破片(縄目叩、無文)、瓦玉
石製品	石鍋

S-718

須恵器	蓋c、坏、坏c、皿a、甕、鉢
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、器台
黒色土器A	椀c、破片
緑釉陶器	須恵質：椀×皿京都(1)
白磁	椀；II(1)、破片(1)　　壺破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)
石製品	碁石、滑石

S-719

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
白磁	椀；II(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)、破片

S-721

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏
白磁	椀；V(1)

S-722

須恵器	坏c、高坏、甕
土師器	坏a、丸底坏、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
越州窯系青磁	椀；I-2ｂ(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	滑石製品、剥片(安山岩)

S-723

須恵器	蓋3、坏、甕、壺
土師器	坏、坏a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕、把手
黒色土器B	椀c
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)
石製品	砥石

S-724

須恵器	甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-726

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、高坏、甕、甑、甑耳
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、器台
黒色土器A	椀、脚付椀、破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-1b(1)、II(1)　破片；I(7)、II(3)
緑釉陶器	須恵質：椀(1)、椀×皿(1)、破片(2)
灰釉陶器	皿(1)、破片(1)
白磁	椀；II-1(3)、IV-1b(1)、IV(7)、V(1)、V-1×VIII-2(1)、破片(3)
	皿；広東系(1)　　水注×壺(1)　　破片(2)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(格子叩、無文)
	軒丸瓦、破片(縄目叩)、瓦玉
石製品	碁石、丸石
土製品	鞴羽口

S-727

須恵器	坏、坏a、坏c、甕、鉢?
土師器	蓋、坏、坏a、丸底坏、椀c、甕、ツマミ
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-1a(1)　　破片；I(1)、II(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)

S-728

須恵器	蓋3、蓋4、蓋c、坏、坏a、坏c、坏身、高坏、甕、甑
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、盤
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I-1b(1)、I-5(1)　　破片；I(5)、I輪花(1)
緑釉陶器	須恵質：椀×皿京都(2)、皿(1)
白磁	椀；IV(1)、破片(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)
石製品	石鍋、砥石、滑石
土製品	丸玉、土錘

S-729

須恵器	蓋3、坏a、坏c、壺?
土師器	坏a、丸底坏、椀c、甕
瓦類	破片(縄目叩、格子叩)

S-731

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-732

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	破片

S-733

土師器	小皿a、甕、破片

S-734

須恵器	甕
土師器	破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩)

S-736

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、埦c、小皿a
灰釉陶器	鉢(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	碁石

S-737

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-738

須恵器	坏c、甕、壺
土師器	坏a、埦c、甕、鉢、破片
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(無文)

S-739

須恵器	坏、甕
土師器	坏、埦c、甕

S-741

須恵器	甕
土師器	坏
土製品	鞴羽口

S-742

須恵器	甕
土師器	埦c、小皿a、甕
黒色土器A	破片

S-743

須恵器	坏、甕
土師器	坏、小皿a
白磁	埦；II(1)、II-1(1)

S-744

土師器	坏
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-746

須恵器	壺?
土師器	破片

S-747

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、坏a、埦c、甕

S-748

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a、埦c、甕
黒色土器A	破片
瓦類	破片(格子叩、無文)

S-749

須恵器	坏、坏c
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-751

須恵器	蓋4、坏
土師器	坏、丸底坏
金属製品	鉱滓
土製品	焼土塊

S-753

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-754

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、甕

S-756

須恵器	坏
土師器	坏、坏a、甕
土製品	焼土塊

S-757

須恵器	坏
土師器	甕

S-758

須恵器	蓋3、坏、壺×鉢
土師器	坏a、甕

S-759

須恵器	蓋2、甕
土師器	坏、坏a、甕、把手

S-761

須恵器	蓋3、坏、坏a
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-762

須恵器	坏、坏a、坏c
土師器	坏、甕
黒色土器A	埦

S-763

須恵器	蓋3、甕、壺
土師器	坏、甕

S-764

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	埦c、甕
黒色土器A	埦
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)

S-766

須恵器	坏、甕
土師器	蓋、小皿a、甕

S-767

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、埦c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-768

須恵器	甕
土師器	坏a、小皿a、甕、破片

S-769

須恵器	蓋、鉢
土師器	坏a、甕
瓦類	破片

S-771

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏a、甕

S-772

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、埦c、甕
黒色土器B	埦c
瓦類	破片

S-773

須恵器	蓋、蓋3、蓋c、坏c、甕
土師器	蓋、坏、甕

S-774

須恵器	甕
土師器	坏、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)

S-776

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a
緑釉陶器	土師質：皿×埦京都(1)
製塩土器	焼塩壺

S-777

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-778

須恵器	蓋1、蓋3、甕
土師器	坏、甕
黒色土器B	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-779

須恵器	坏、壺
土師器	坏、甕、破片

S-781

須恵器	坏
土師器	丸底坏a、甕

S-782

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏a、甕

S-783

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-784

須恵器	壺×鉢
土師器	坏、坏a、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、軒平瓦

S-786

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏、埦c、小皿a、甕
黒色土器A	埦、埦c
越州窯系青磁	破片II(1)
灰釉陶器	埦(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-786暗灰色土

須恵器	坏、坏c、甕、壺
土師器	丸底坏、埦c、小皿a、甕
越州窯系青磁	破片I(2)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-787

須恵器	坏
土師器	坏

S-788

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏、甕

S-789

須恵器	蓋3
土師器	坏、甕

S-791

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器A	椀c、大椀?、破片
越州窯系青磁	椀；I-5(1)、II-2a(1)　壺(1)　破片I(1)
緑釉陶器	須恵質：椀×皿(1)、土師質：椀(1)、椀京都(1)
白磁	皿;XI(1)　破片(2)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(格子叩、無文)、瓦玉
金属製品	鉱滓
石製品	石鍋、碁石、砥石
土製品	焼土塊

S-792

土師器	坏、甕

S-793

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、皿a、甕、壺
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a、高坏?、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I-2ゥ(1)　坏;II(1)　破片;I(4)
緑釉陶器	須恵質：坏×皿京都(1)、破片(2)
灰釉陶器	椀(4)、段皿(1)、段皿K90(1)、椀×皿(1)、破片(2)
白磁	椀；I-1(1)、IV(1)、XIII-b(1)、破片(2)　破片；(3)、広東系(1)
中国陶器	破片(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)、瓦玉
石製品	砥石、碁石、石鍋、三稜尖頭器

S-794

須恵器	蓋3、坏、甕、破片
土師器	坏、坏a、丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
長沙窯系青磁	水注耳(1)
白磁	椀；IV(1)　皿；VII-1b(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(縄目叩)
金属製品	鉄釘

S-796

須恵器	坏、高坏、壺
土師器	坏、坏a、坏c、甕

S-797

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏、破片

S-798

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	石匙
土製品	焼土塊

S-799

須恵器	坏
土師器	坏a、甕、破片
瓦類	破片(縄目叩)

S-801

須恵器	坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	椀、椀c
瓦類	丸瓦(無文)
土製品	焼土塊

S-802

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、坏、坏c、甕、大甕、壺
土師器	坏、坏a、丸底坏、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)、I-2(1)、II-2b(1)、I-5(1)　破片；I(11)、II(1)
緑釉陶器	須恵質：椀×皿近江(1)、京都(2)、破片(4) 土師質：破片(1)、防長(1)
灰釉陶器	椀×皿(2)、破片(2)
白磁	椀；II-1(1)、破片(1)　破片(2)
瓦類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(格子、無文)、破片
金属製品	用途不明鉄製品

S-803

須恵器	坏、甕
土師器	蓋、坏、坏a、椀c、甕
瓦類	破片

S-804

須恵器	甕、破片
土師器	坏
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
瓦類	破片

S-806

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、丸底坏、甕
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	破片

S-807

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a
黒色土器B	椀c
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	丸瓦(無文)

S-808

須恵器	甕
土師器	破片

S-809

須恵器	甕、壺
土師器	坏、椀c、小皿a、甕

S-811

須恵器	甕
土師器	小皿a、甕、破片
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)、II(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、破片

S-812

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏a、丸底坏a、小皿a、甕
白磁	椀；V(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)
石製品	焼石

S-813

土師器	坏

S-814

須恵器	坏c
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	破片(格子叩)

S-816

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(縄目叩)

S-817

須恵器	甕、壺?
土師器	坏、坏a、甕
緑釉陶器	須恵質：破片(3)
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-818

須恵器	甕、壺
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、甕、器台
瓦類	丸瓦(無文)

S-819

須恵器	蓋、坏a、甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕
越州窯系青磁	椀；I-1b(1)　破片;I(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片

S-821

須恵器	蓋、坏a、甕
土師器	坏、甕
越州窯系青磁	破片；I(2)、II(1)
石製品	丸石

S-822

須恵器	甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片(縄目叩)

S-823

須恵器	蓋3、坏a、甕、壺
土師器	丸底坏a、甕、破片
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-824

須恵器	破片
土師器	坏

S-826

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、甕、ツマミ
越州窯系青磁	椀；II-2(1)
瓦類	平瓦(無文)

S-827

須恵器	蓋3、坏、破片
土師器	坏a、坏、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(無文)
石製品	滑石
土製品	焼土塊

S-828

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	丸瓦(無文)、破片(縄目叩)

S-829

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、丸底坏a、椀c、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-831

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a(イト、ヘラ)
黒色土器A	椀c、破片
瓦類	破片

S-832

須恵器	甕、破片
土師器	坏
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-833

須恵器	甕
土師器	坏、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-834

須恵器	甕
土師器	椀c、高坏?、甕
黒色土器A	椀c
灰釉陶器	破片(1)

S-836

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏
黒色土器A	破片
瓦類	破片(格子叩)

S-837

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、丸底坏a
白磁	破片(1)
土製品	焼土塊

S-838

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、小皿a、甕
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	破片(縄目叩)

S-839

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c、甕

S-841

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
緑釉陶器	土師質：破片；防長(1)
白磁	椀；I-1(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)

S-842

須恵器	坏、甕
土師器	椀c、甕
石製品	砥石

S-843

須恵器	坏、甕
土師器	椀c、甕
瓦類	破片

S-844

土師器	破片

S-846

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕、獣脚、盤
土師器	坏、坏a、甕、把手
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；II-2a(1)
灰釉陶器	椀(1)
白磁	椀；IV-1a(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)
石製品	砥石?
土製品	焼土塊

S-847暗灰色土

須恵器	坏
土師器	坏a、甕

S-847黄灰色土

須恵器	坏c
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	丸瓦(無文)、破片(格子叩、無文)
土製品	焼土塊

S-848

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
越州窯系青磁	椀；I(1)
白磁	皿；II-1(1)　　破片；(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)
金属製品	鉱滓
その他	炭

S-849

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-851

須恵器	甕、大甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c

S-852

須恵器	破片
土師器	坏a、甕
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	丸瓦(無文)

S-853

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-854

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	鉢?、椀
白磁	椀；IV(1)、水注×壺(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-856

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(無文)、破片

S-857

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	焼石

S-858

須恵器	蓋2、壺
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	丸瓦(無文)

S-861

須恵器	坏
土師器	坏a、甕、破片
石製品	砥石

S-862

須恵器	蓋c、坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片
緑釉陶器	須恵質：破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-863

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-864

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、甕
白磁	水注×壺(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-866

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片；I(2)
瓦類	破片(縄目叩)

S-867

須恵器	破片
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、甕

S-868

須恵器	甕
土師器	破片
黒色土器A	椀c

S-869

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片；I(1)
瓦類	破片
土製品	焼土塊

S-871

須恵器	蓋、坏、甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-872

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏a、椀c
越州窯系青磁	椀；I-2ウ(1)

S-873

須恵器	蓋3
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	破片

S-874

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-876

須恵器	甕
土師器	甕
白磁	破片(1)

S-877

須恵器	蓋c、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
越州窯系青磁	椀；II-2b(1)　　破片；I(1)、II(2)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)
石製品	砥石、權?

S-878

須恵器	椀c、甕
土師器	甕
黒色土器A	椀

S-879

須恵器	甕
土師器	坏、甕
石製品	碁石

S-881

土師器	坏、甕
緑釉陶器	須恵質：椀×皿(1)

S-882

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
白磁	椀；II(1)、II-5(1)
瓦類	軒平瓦、破片(縄目叩)

S-883

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、甕
製塩土器	破片?
黒色土器A	破片
土製品	焼土塊

S-884

須恵器	蓋、坏、坏c、甕
土師器	坏、甕、鉢
石製品	碁石

S-886

須恵器	坏c
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀c

S-887

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、甕

S-888

須恵器	高坏
土師器	坏a、甕
瓦類	破片

S-889

須恵器	蓋
土師器	甕

S-891

須恵器	坏
土師器	甕
石製品	碁石

S-893

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	甕

S-894

須恵器	蓋1、蓋3、坏c、甕
土師器	坏a、甕
瓦類	平瓦(無文)

S-896

須恵器	蓋c、蓋c1、坏c、水注
土師器	坏、甕
土製品	焼土塊

S-897

須恵器	甕
土師器	甕

S-898

須恵器	坏a、皿a、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
土製品	焼土塊

S-899

土師器	丸底坏a

S-901

須恵器	坏
土師器	坏a、椀c、甕

S-902

土師器	甕
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-903

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	甕

S-904

須恵器	蓋1、蓋c、坏c、甕
土師器	甕
瓦類	破片(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-906

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、甕

S-907

須恵器	蓋1、坏c、蓋?
土師器	坏、甕

S-908

須恵器	蓋1、甕
土師器	甕
土製品	焼土塊

S-909

土師器	蓋、甕

S-911

須恵器	坏c、坏
土師器	坏、甕

S-912

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、坏a、皿c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)
金属製品	鉱滓

S-913

須恵器	蓋3、甕
土師器	皿a、甕

S-914

須恵器	坏、甕
土師器	椀c、甕

S-916

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	丸瓦(無文)

S-917

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、甕
瓦類	破片

S-918

須恵器	蓋3、坏c
土師器	椀c、甕
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩)

S-919

土師器	破片
黒色土器A	破片

S-921

弥生土器	壺

S-922

土師器	破片

S-923

土師器	破片

S-924

土師器	破片
弥生土器	破片

S-926

須恵器	甕
土師器	破片

S-927

土師器	坏、甕

S-928

須恵器	坏a
土師器	坏、甕
弥生土器	甕

S-931

弥生土器	甕?

S-932

土師器	坏、甕

S-933

弥生土器	破片

S-934

土師器	甕

S-936

石製品	剥片(安山岩)

S-937

石製品	剥片(黒曜石)

S-938

土師器	破片
弥生土器	甕×壺

S-939

弥生土器	甕

S-941

須恵器	甕
土師器	破片

S-942

土師器	甕

S-943

土師器	破片

S-944

土師器	甕

S-946

土師器	丸底坏a

S-947

土師器	甕

S-948

土師器	破片

S-949

土師器	高坏、甕

S-951

土師器	甕

S-952

土師器	甕

S-953

土師器	坏、甕

S-954

須恵器	甕
土師器	坏
黒色土器A	椀

S-956

須恵器	甕
土師器	坏

S-957

土師器	破片

S-958

土師器	破片

S-959

土師器	古式土師器甕

S-961

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	椀c、甕

S-962

須恵器	破片
土師器	椀、甕

S-963

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕

S-964

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、椀c、皿a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-966

須恵器	蓋、坏、甕
土師器	坏、甕

S-967

須恵器	蓋、坏c、甕
土師器	坏、坏a、甕

S-968

須恵器	坏a、坏c
土師器	椀c、甕、把手

S-969

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏a、甕

S-971

須恵器	蓋3、蓋c、坏c
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
瓦類	破片(縄目叩)

S-972

須恵器	蓋3、坏、坏a
土師器	坏、甕

S-973

須恵器	破片
土師器	破片

S-974

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕

S-976

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
金属製品	鉄滓

S-977

須恵器	坏、坏c、甕、壺
土師器	坏a、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)
石製品	碁石

S-978

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕

S-979

土師器	坏a、椀c、甕
越州窯系青磁	破片I(1)

S-981黒色土

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、甕

S-981茶灰色土

土師器	甕

S-982灰色粘土

土師器	坏、甕

S-982黒色土

須恵器	破片
土師器	坏a、甕

S-983

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	蓋、坏a、皿a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-984

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	蓋、坏、坏a
瓦類	平瓦(格子叩)

S-986

須恵器	蓋2、坏、甕
土師器	坏、甕
製塩土器	破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-987

須恵器	壺、破片
土師器	坏、坏a、甕

S-988

須恵器	蓋4、坏a
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-989

須恵器	甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-991

須恵器	甕
土師器	甕

S-992

土師器	破片

S-993

須恵器	坏c
土師器	坏、甕

S-994

須恵器	甕

S-996

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏a

S-997

須恵器	坏、甕
土師器	蓋、坏、椀c、甕、破片

S-998

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
石製品	碁石

S-999

須恵器	甕
土師器	坏
瓦類	破片(無文)

S-1001

土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-1002

須恵器	坏c
土師器	椀c、甕

S-1003

須恵器	蓋3、坏、坏c
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片

S-1004

須恵器	蓋3、坏a
土師器	坏a、皿a、甕
土製品	焼土塊

S-1006

須恵器	蓋3、坏c、甕、破片
土師器	坏、椀c、甕、把手
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片(格子叩)

S-1007

須恵器	甕
土師器	坏a、甕

S-1008

須恵器	破片
土師器	坏、高坏、甕

S-1009

須恵器	甕
土師器	小皿a、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(無文)

S-1011

須恵器	坏c、甕、盤
土師器	坏a、椀c、甕、把手
黒色土器A	椀、椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩)
金属製品	鉱滓

S-1012

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
金属製品	鉄斧

S-1013

須恵器	甕、壺
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片

S-1014

須恵器	甕
土師器	坏、坏a
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	砥石

S-1016

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺、壺耳、盤
土師器	椀c、小皿a、甕、竃
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片;II(1)
白磁	破片;I(1)　広東系(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)
石製品	碁石

S-1017

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c、甕

S-1018

須恵器	甕、大甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
灰釉陶器	破片(2)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、縄目叩)

S-1019

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
白磁	椀;I-1(1)

S-1021茶色土

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-1022茶色土

須恵器	甕
土師器	坏a
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	丸石

S-1023

須恵器	坏
土師器	甕、破片

S-1024

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)、破片(縄目叩)
金属製品	銅滓

S-1026

須恵器	蓋d
土師器	坏a、甕
瓦類	丸瓦

S-1027茶色土

須恵器	蓋、甕
土師器	椀c、甕
黒色土器A	椀c

S-1027灰色粘土

須恵器	蓋1、甕
土師器	坏、坏a
黒色土器A	椀

S-1028茶灰色粘土

黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)

S-1028茶色土

須恵器	蓋c、破片
土師器	破片

S-1029灰色粘土

土師器	坏、破片

S-1029灰色土

須恵器	坏a
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-1031

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	坏a、椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)

S-1032

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
越州窯系青磁	椀;I(1)　破片;I(1)
灰釉陶器	壺(1)
白磁	皿;XI-3(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(無文)

S-1033

須恵器	坏
土師器	坏a、甕

S-1034

須恵器	蓋c
土師器	坏a、破片

S-1036

須恵器	坏a、坏c、椀c、甕
土師器	坏a
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	土師質：椀×皿(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)

S-1037

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺
土師器	坏a
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	椀；II-2c(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩、無文)
石製品	剥片
土製品	焼土塊

S-1038

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、坏a、甕

S-1038暗灰色土

須恵器	蓋3、坏、坏c、椀c、甕
土師器	坏、坏a(ヘラ)、椀c、皿a
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	香炉(1)
緑釉陶器	土師質：皿;京都(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-1038暗茶色土

須恵器	蓋3、蓋4、坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-1039

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	軒丸瓦

S-1041

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、甕、把手
黒色土器A	椀
緑釉陶器	須恵質：椀;京都(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-1042

須恵器	蓋3
土師器	坏、甕

S-1043

須恵器	坏a、甕、壺
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	土師質：破片;防長(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(格子叩)

S-1044

須恵器	蓋c、壺
土師器	坏a
黒色土器A	椀

S-1046

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
灰釉陶器	破片(1)

S-1047

須恵器	甕、破片
土師器	甕

S-1048

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
白磁	椀；I-2(1)

S-1049

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、壺
土師器	坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	破片
弥生土器	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(格子叩)

S-1051

須恵器	坏c
土師器	破片

S-1052

須恵器	坏
土師器	甕、破片
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-1056

須恵器	蓋2、甕
土師器	坏、坏a、甕
白磁	椀；I-1(1)

S-1057

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕、破片

S-1058

須恵器	坏
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片

S-1059

須恵器	坏c
土師器	坏a、甕、破片

S-1061

須恵器	蓋1、破片
土師器	椀c、甕
黒色土器A	破片

S-1062

須恵器	皿a
土師器	椀c、甕
金属製品	鉱滓

S-1063

須恵器	坏c
土師器	坏a、甕
瓦類	破片(縄目叩)

S-1064

土師器	小皿a

S-1066

須恵器	甕
土師器	椀c

S-1067

土師器	甕

S-1068

須恵器	坏、甕
土師器	坏

S-1069

須恵器	甕
土師器	甕
弥生土器	甕
瓦類	破片

S-1071

須恵器	坏a、坏c
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c
灰釉陶器	破片(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-1072

須恵器	破片
土師器	坏、破片

S-1073

土師器	坏a、甕
緑釉陶器	須恵質：皿;近江(1)

S-1074

土師器	破片

S-1076

須恵器	甕
土師器	甕、把手
黒色土器A	破片
弥生土器	破片?

S-1077

須恵器	甕
土師器	破片
黒色土器A	破片

S-1078

土師器	甕

S-1079

須恵器	蓋3、坏c
土師器	椀c
黒色土器A	破片
弥生土器	二重口縁壺

S-1081

須恵器	坏c
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-1082

須恵器	甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片(格子叩)

S-1083

須恵器	甕
土師器	坏a、破片

S-1084

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕

S-1086

須恵器	甕
土師器	坏a、甕

S-1087

土師器	古式土師器?甕

S-1088

須恵器	甕?
土師器	破片

S-1089

須恵器	蓋3、坏c、壺
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c

S-1091

弥生土器	破片

S-1092

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I-5(1)
瓦類	平瓦(縄目、無文)、丸瓦(無文)、破片(格子)、瓦玉
石製品	砥石

S-1093

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-1094

須恵器	蓋3、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)

S-1096

須恵器	坏、甕
土師器	坏
瓦類	平瓦

S-1097

須恵器	坏a、坏c、甕
土師器	坏a、甕、器台
越州窯系青磁	椀；I-2ウ(2)

S-1098

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏a、甕
越州窯系青磁	破片;II(1)

S-1099

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、椀c、甕

S-1101

須恵器	蓋、坏、甕、壺?
土師器	椀c、甕、破片
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)

S-1102

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-1103

須恵器	坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片;I(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(無文)

S-1104

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	破片(縄目叩)

S-1106

須恵器	破片
土師器	坏a、甕
黒色土器A	破片

S-1107

須恵器	蓋、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；II-2(1)
緑釉陶器	須恵質：皿;京都(1)

S-1108

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-1109

土師器	小皿a、甕、破片

S-1111

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)

S-1112

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c

S-1113

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-1114

須恵器	坏
土師器	甕

S-1116

土師器	破片

S-1117

土師器	坏、甕

S-1118

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀

S-1119

土師器	坏、甕

S-1121

須恵器	甕、壺
土師器	坏、坏a
瓦類	平瓦(格子叩)

S-1122

須恵器	蓋?、坏c、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏、椀c、甕
弥生土器	甕
瓦類	平瓦(格子叩)、破片

S-1123

土師器	坏、甕

S-1124

須恵器	坏
土師器	坏、甕、破片

S-1126

土師器	坏

S-1127

須恵器	甕
土師器	甕
金属製品	鉱滓

S-1128

須恵器	坏
土師器	甕

S-1129

土師器	甕

S-1131

土師器	破片

S-1132

土師器	坏、破片

S-1133

土師器	甕

S-1134

須恵器	甕
土師器	坏

S-1136

土師器	坏、甕

S-1137

須恵器	甕
土師器	破片

S-1138

土師器	坏、坏a

S-1139

土師器	丸底坏a、破片

S-1141柱痕

土師器	坏a、破片
瓦類	破片

S-1142

須恵器	坏
土師器	丸底坏

S-1142灰色土

土師器	坏
石製品	丸石

S-1142茶色土

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、椀c
瓦類	破片

S-1144

須恵器	坏
土師器	坏、破片

S-1147

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕

S-1148

須恵器	壺
土師器	甕、破片

S-1149

須恵器	蓋c
土師器	椀c、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(無文)

S-1151

須恵器	高坏、甕
土師器	坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c、破片
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩)

S-1152

須恵器	蓋3、坏a、皿a、甕、壺
土師器	坏、椀c、甕、破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-1153

須恵器	椀c
土師器	甕、破片
瓦類	破片

S-1154

土師器	甕

S-1156

須恵器	坏、破片
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)
金属製品	鉱滓

S-1157

須恵器	坏
土師器	椀c、甕

S-1158

土師器	坏、甕

S-1159

土師器	坏
瓦類	破片

S-1161

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕

S-1162

須恵器	甕、大甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)、破片

S-1163

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c

S-1164

須恵器	坏、壺
土師器	坏a、甕
瓦類	平瓦(無文)
土製品	焼土塊

S-1166

須恵器	坏、破片
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-1167

須恵器	坏、甕
土師器	甕

S-1168

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	椀
弥生土器	二重口縁壺
瓦類	丸瓦(無文)

S-1169

土師器	坏、甕、破片
弥生土器	甕

S-1171

須恵器	破片
土師器	甕

S-1172

土師器	破片

S-1173

須恵器	蓋1、甕
土師器	坏、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-1174

須恵器	破片
土師器	破片
石製品	丸石

S-1176

須恵器	坏
土師器	甕

S-1177

弥生土器	甕

S-1178

土師器	坏

S-1179

土師器	坏
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-1181

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕

S-1184

弥生土器	甕

暗灰色粘土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、蓋a3、椀c、坏、坏a、坏c、皿a、高坏
	甕、壺、壺b、破片
土師器	蓋、坏、坏a(ヘラ)、坏c×皿c、椀、高坏、甕、把手
黒色土器A	破片
白磁	椀；II-5(1)
弥生土器	壺、二重口縁壺、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(無文)、破片
金属製品	鉱滓、円盤状鉄製品
土製品	土錘
石製品	剥片、石炭、軽石

黒茶色土

須恵器	蓋3、坏身、坏c、椀、椀×鉢、甕、大甕、鉢、壺、盤
土師器	坏、坏a、椀、椀c、小皿a、皿c、高坏、甕、甑、手捏ね土器
黒色土器A	椀、椀c、鉢?
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀；I(9)、I-1b(1)、I-2(1)、I-2ア(1)、I-2ウ(1)、I-5(3)
	I輪花(3)、II(2)　皿×杯;I(1)　破片；I(23)、II(7)
長沙窯系青磁	水注(1)
緑釉陶器	須恵質：椀;京都(3)、篠(1)、破片(1)　破片(5)
	土師質：椀(1)
灰釉陶器	皿(2)、椀×皿(1)、椀H72×虎渓山1(1)、破片(6)
白磁	椀;I(1)　破片;広東系(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)、軒丸瓦
金属製品	鉱滓
石製品	石、碁石、砥石?、磨石、滑石製品、丸石、軽石、敲き石
土製品	焼土塊

灰茶色土

須恵器	蓋、蓋1、蓋3、蓋4、蓋c、坏、坏a、坏c、大椀、皿a、高坏
	高坏b、甕、小壺、瓶、瓶b、壺×鉢、鉢、把手、獣脚
	盤、鉢(篠窯系)　、耳付壺
土師器	坏a、丸底坏、丸底坏a、丸底坏c、椀c、小皿a、大椀
	小皿a(ｲﾄ)、小皿c、皿c、高坏、甕、鉢、把手、器台
黒色土器A	椀、椀c、破片
黒色土器B	椀c
瓦器	椀c
越州窯系青磁	椀；I(11)、I-2ア(1)、I-2aウ(1)、I-2ウ(3)、I-5(3)
	II(5)、II-1b(1)、II-2(3)
	坏；I(1)、I-1(1)、I-2A(1)
	唾壺(1)、壺I(1)、水注I?(1)、合子I(1)
	破片；I(17)、II(8)、III(1)
長沙窯系青磁	水注(1)、椀(1)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)、破片(1)　破片(1)
同安窯系青磁	椀；I(1)
高麗青磁	椀；I(1)
須恵質土器	鉢、こね鉢
緑釉陶器	須恵質：椀;京都(3)、蓋京都?(1)、篠(1)、破片(8)
	土師質：皿；防長(1)、椀；防長?(1)　壺；防長(1)
灰釉陶器	皿(5)、皿K90(1)、段皿K90(1)、椀×皿(1)
	椀H72?(1)、瓶(2)、破片(3)
国産陶器	擂鉢、甕、破片
国産磁器	椀(現代)
白磁	椀；I(2)、I-1(2)、II(22)、II-1a(1)、II-1(23)、II-3×4(1)
	II-3×4b(1)、II-4(1)、II-5(5)、広東系(15)、IV-1(1)
	IV(41)、IV-1a(2)、IV-1b(3)、IV-2(1)、IV-2a(6)、V(20)
	V-1(2)、V-1a(1)、V-1b(1)、V-2(2)、V-2b(1)、V-2c(1)
	V-3a(1)、V-3(2)、V-4a(1)、V-1～4(1)、IV×V(1)、V櫛目(1)
	V-2×4(1)、VII-1a(2)、V縦櫛(2)、V-1×VIII-2(9)
	VII-c(1)、縦櫛(1)、V～VII(3)、V×VIII(1)、VII(1)
	VIII(1)、XI(1)、XI-1(2)、XI-4(1)、XII-1(1)、XIII?(1)
	玉縁(1)、小椀(2)、椀II×皿VI-1b(1)、破片(69)
	皿；II-1(1)、II-1a(2)、II×III(1)、II-1a×III-2(1)
	III(1)、V(6)、V-1a(2)、V-a(2)、V-2a(1)、V×VI(2)
	VI(1)、VI-b(1)、VI-1(1)、VI-2a(2)、VI-2b(1)
	IV×V(2)、VI-1b(12)、VI×VII(1)、VII-1b(1)、V～VII(7)
	VII(2)、VI～VIII(2)、広東系(7)、破片(7)
	その他；四耳壺(1)、壺(1)、水注×壺(25)、水注広東系(1)
	破片広東系(40)、破片(46)
青白磁	壺(3)、破片(2)
中国陶器	耳壺破片(1)、耳壺III(1)、　破片(11)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器、新羅土器片
黒釉陶器	壺(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文、破片)、瓦玉、燻瓦
	丸瓦(格子叩、縄目叩、無文)、破片(格子叩)
金属製品	鉱滓、用途不明鉄製品、鉄釘、火打金、用途不明銅製品、
石製品	碁石、石鍋、滑石、石鏃、石帯、石核、石包丁、砥石、剥片
	軽石、石炭
土製品	焼土塊、トリベ、鞴羽口、棒状土製品、丸玉、土錘

灰褐色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋4、蓋c、坏a、坏c、大椀c、皿a、甕、大甕、壺
	壺b、壺e、鉢×壺、円面硯、鉢、破片
土師器	蓋c、坏、坏a、丸底坏、椀c、小皿a、小皿a2、小皿b、高坏、甕
	甕(角閃石入)、器台、竈、破片
製塩土器	焼塩壺
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀；I(13)、I-1(1)、I-1b(4)、I-2(2)、I-5(3)、II(4)、II-1(1)
	II-2(2)、III-1b(1)　大椀;I(1)
	破片；I(20)、II(6)　合子;I(2)
長沙窯系青磁	水注(3)、椀(1)
同安窯系青磁	皿；I(1)、I-1b(1)
緑釉陶器	須恵質：破片(5)、近江?(1)
	土師質：椀×皿(1)、壺防長(1)
灰釉陶器	瓶(1)、椀×皿(3)、皿(1)、椀(1)、蓋(1)
国産陶器	土管
白磁	椀；I-1(1)、II(4)、II-1(5)、II-5(3)、IV(25)、IV-1a(3)、V(1)
	IV-1b(2)、XI-4(1)、XII-1b(2)、XIII-2b(1)、破片(9)
	皿；I-1(1)、II-1(2)、II-a(1)、II-1a(3)、V-2(2)、VI-1a(1)
	VI-1(1)、VI-2b(2)、V×VI(1)、破片(1)、広東系(1)
	鉢(2)、壺(2)、水注×壺(3)、破片；(29)、広東系(4)
中国陶器	壺(1)、水注×壺(1)、破片(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)
	軒平瓦、瓦玉、燻瓦
金属製品	鉱滓、用途不明銅製品、金具、鉛塊、鉄鏃、
石製品	砥石、剥片、丸石、石核、穿孔石製品、石棒、石鍋、碁石、尖頭器
土製品	焼土塊、トリベ、権

黒色土

須恵器	蓋3、甕、瓶、破片
土師器	坏、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀、椀c、甕、把手、破片
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	椀;I(1)　破片;II(1)
白磁	水注×壺(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(格子叩、縄目叩、無文)
石製品	石鍋、石核(安山岩)、砥石
土製品	焼土塊

明茶色土

須恵器	蓋、蓋3、坏、坏a、坏c、甕、鉢×瓶、瓶e
土師器	坏、坏a、坏c、椀c、高坏×器台
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片;I(1)
白磁	椀；II(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩)、破片(格子叩)
石製品	碁石、砥石

茶褐色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、坏、坏c、甕、鉢
土師器	坏、坏a、椀c、甕、器台
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I-5(1)　破片;I(1)、II(4)
灰釉陶器	瓶?(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(格子叩、縄目叩、無文)

灰色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋a1、蓋c、蓋c3、坏、坏a、坏c、椀c、皿a、高坏、甕
	壺蓋a、壺b、壺×鉢、円面硯、壺、破片
土師器	蓋3、坏、坏a(ヘラ)、坏c、坏d、小皿a、皿a、皿c、椀、高坏、甕
	把手、小壺、瓶×小甕、破片
製塩土器	焼塩壺
越州窯系青磁	椀；I(5)、I-2(1)、II(1)　皿；I-1(1)、水注？(1)
長沙窯系青磁	水注(2)
龍泉窯系青磁	椀；I(1)
緑釉陶器	土師質:壺(1)
白磁	椀；II(1)、IV-1b(1)
弥生土器	甕、壺、二重口縁壺
瓦類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(縄目、無文)、軒丸瓦、瓦玉、破片
石製品	砥石、剥片(黒曜石)、碁石、剥片(安山岩)、礫核石器
	石核、石包丁、丸石、滑石、磨製石斧、ｽｸﾚｲﾊﾟｰ、石炭
土製品	焼土塊、鞴羽口、土錘、獣脚?、土馬
金属製品	鉄釘、金具、
その他	貝殻

淡灰色土

須恵器	蓋3、蓋c、坏a、坏c、高坏、甕、壺、壺a、鉢×壺、獣脚、盤、破片
土師器	坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、小皿a2、高坏、甕、器台
	竈、破片
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；I(2)、I-2(1)、I-2ア(1)、I-2ウ(1)、I-5(1)、II(4)、輪花(1)
緑釉陶器	須恵質：皿;京都(1)、破片(1)
灰釉陶器	壺(1)、椀(1)
白磁	椀；破片(3)
瓦類	丸瓦(縄目叩、無文、破片)、平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、軒丸瓦
金属製品	鉱滓
石製品	砥石、石鍋、碁石、石帯(巡方)
土製品	焼土塊

黒色粘土

須恵器	甕
土師器	坏、甕、古式土師器甕

灰色粘土

須恵器	蓋c、蓋c3、蓋3、坏a、坏c、皿a、高坏、甕、壺蓋、壺、壺a、短頸壺
土師器	坏a、坏d、椀c、高坏、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)
金属製品	鉱滓

灰色砂

須恵器	蓋1、坏c
土師器	甕
黒色土器A	破片?
瓦類	平瓦(縄目叩)

茶灰色粘土

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、高坏、甕、大甕、甕×鉢、瓶、瓶b、瓶e
	鉢、盤、破片
土師器	蓋3、坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、小皿c、皿c、高坏、甕、甑、破片
黒色土器A	椀、椀c、破片
黒色土器B	椀、椀c
越州窯系青磁	椀；I-5(1)、II(1)、II-2(3)　坏；II(2)　破片；I(18)、II(4)
長沙窯系青磁	水注(4)、椀(1)
緑釉陶器	須恵質：椀京都(2)、破片：(5)、京都(1)
	土師質：破片；(3)、防長(1)、蓋?(1)
灰釉陶器	段皿(1)、壺(1)、破片(3)
白磁	破片(2)
中国陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、軒丸瓦、丸瓦(格子叩、無文)
金属製品	鉱滓
石製品	磨り石、滑石、石鍋、碁石、セン
土製品	焼土塊

Z（出土地不明）

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、甕、破片、古式土師器甕
黒色土器A	破片
瓦質土器	鉢?
白磁	椀；V-1×VIII-2(1)
縄文土器	深鉢
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)
石製品	剥片(黒曜石)

表土

須恵器	蓋1、蓋2、蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、坏d、椀c、皿a
	高坏、高坏b、甕、大甕、瓶、瓶b、盤、鉢×壺、獣脚、破片
土師器	蓋c、坏、坏(漆付)、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、小皿a
	皿a、高坏、甕、鉢、器台、ツマミ、盤
黒色土器A	椀c、大椀c
黒色土器B	蓋?、椀、破片
瓦器	破片?
越州窯系青磁	椀；I(6)、I-1(1)、I-2(1)、I-2ア(3)、I-2イ(2)、I-2ウ(2)
	I-2b(1)、I-5(2)、大椀I-2ウ(1)、II(1)、II-2(1)、III(1)
	破片；I(7)、II(6)
龍泉窯系青磁	椀；I(1)、坏；III(1)
須恵質土器	鉢?、獣脚
緑釉陶器	須恵質：椀×皿；京都(1)、東海?(1)
	椀；洛西?(1)、破片；(5)、京都(1)
	土師質：皿；洛北(1)、防長(1)、破片；防長(3)
灰釉陶器	蓋(1)、椀×皿(2)、(H72×虎渓山1)(1)、皿(1)、瓶(1)、壺耳(1)
国産陶器	甕、土管
国産磁器	破片
肥前系陶磁器	椀
白磁	椀；II(2)、II-1(2)、II-3×4(1)、II-5(1)、IV-1(2)、IV-1a(1)
	IV(13)、V(1)、V-2a(1)、小椀2b(1)、V-1×VIII-2(2)
	V-4×VIII-1×3(1)、広東系(2)、破片(13)
	皿；XI(1)、VI-1(1)、VI-1b(1)、VI-2b(1)、XI-3(1)
	水注×壺(2)、水注(1)、破片；(5)、広東系(5)
青白磁	皿(1)、破片(2)
中国陶器	破片(3)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
弥生土器	甕、二重口縁壺
瓦類	丸瓦(格子叩、縄目叩、無文)、熨瓦、瓦玉
	平瓦(格子叩、縄目叩、無文、破片)、軒丸瓦
金属製品	鉱滓、鉄釘、鉋刃?、用途不明鉄製品
石製品	砥石?、石核(黒曜石)、剥片、碁石、石鍋、石炭、焼石
	チャート、珪化木、石臼?、石鏃、石匙
土製品	焼土塊、レンガ、丸玉

表15　第236-1次調査　須恵器・土師器・黒色土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	－	R-001	Fig. 28-1	(9.6)	1.1	(7.4)	－	○

S-15茶褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋1	－	R-001	Fig. 28-3	(13.6)	1.1+α		－	－
	蓋1	－	R-002	Fig. 28-4	－	1.9+α		－	－
	蓋1	－	R-003	Fig. 28-5	－	1.8+α		－	－

S-15暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋a1	ヘラ	R-001	Fig. 28-9	(16.6)	2.5		－	－
	蓋c	－	R-002	Fig. 28-10	－	1.5+α		○	－
	蓋c1	－	R-011	Fig. 28-11	(17.8)	4.6		○	－
	蓋1	－	R-003	Fig. 28-13	(16.0)	2.3+α		－	－
	蓋1	－	R-004	Fig. 28-16	－	2.0+α		－	－
	蓋1	－	R-005	Fig. 28-19	－	1.5+α		－	－
	蓋1	－	R-006	Fig. 28-15	－	1.9+α		－	－
	蓋1	－	R-007	Fig. 28-17	－	1.7+α		－	－
	蓋1	－	R-008	Fig. 28-20	－	1.6+α		－	－
	蓋1	－	R-009	Fig. 28-18	－	1.3+α		－	－
	蓋1		R-010	Fig. 28-12	(17.0)	1.5+α			
	蓋1	－	R-012	Fig. 28-14	－	2.0+α		－	－
	坏c	ヘラ	R-014	Fig. 28-21	－	1.6+α	(10.2)	○	

S-15淡灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3		R-001	Fig. 28-6	(15.0)	1.3+α			
	坏c	－	R-002	Fig. 28-7	－	2.4+α	(8.8)	○	－
	坏c		R-003	Fig. 28-8	－	1.8+α	－		

S-20淡灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3		R-001	Fig. 28-23	－	0.6+α	－		

S-25灰褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c		R-006	Fig. 33-4	－	+α	－		
	蓋3		R-007	Fig. 33-3	(14.8)	1.8+α	(10.0)		
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig. 33-6	－	2.4+α	(9.2)	－	－
	坏a	－	R-004	Fig. 33-5	－	1.9+α	(7.6)	－	－
黒色土器A	椀c	〃	R-002	Fig. 33-7	－	2.1+α	(9.6)	－	－
	椀c		R-003	Fig. 33-8	－	2.2+α	－		

S-25暗灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig. 33-10	－	1.2+α	－	－	－
	坏a	〃	R-002	Fig. 33-11	－	1.8+α	－	○	
黒色土器A	椀c	－	R-003	Fig. 33-12	－	2.0+α	(7.8)	－	－

S-26

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c		R-001	Fig. 40-1	－	1.6+α	－		

S-36

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	－	R-001	Fig. 40-2	－	1.9+α	(7.6)	－	－
	坏a	－	R-002	Fig. 40-3	－	1.3+α	(8.1)	－	

S-40h

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋1		R-001	Fig. 67-1	－	1.35+α	－		

S-55

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig. 28-28	(14.5)	3.0		－	－
	丸底坏a	〃	R-002	Fig. 28-29	(14.6)	3.0+α		－	－

S-58

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	－	R-003	Fig. 40-5	－	2.3+α	(7.9)	－	－
	坏c	－	R-004	Fig. 40-4	－	2.2+α	(7.6)	－	－

S-60(1)

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏d?	－	R-001	Fig. 40-10	－	1.8+α	(8.4)	－	－

S-60(2)

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig. 40-8	－	1.2+α	(6.6)	－	－

S-60(3)

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ?	R-001	Fig. 40-9	－	1.45+α	(8.1)	－	－

S-70暗灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-005	Fig. 30-34	9.6	1.6	6.5	×	×
	小皿a	〃	R-006	Fig. 30-25	(9.2)	1.5	6.8	－	○
	小皿a	－	R-007	Fig. 30-30	(9.4)	1.15	(7.0)	○	－
	小皿a	ヘラ	R-008	Fig. 30-27	(9.2)	1.15	(6.8)	－	○
	小皿a	－	R-009	Fig. 30-22	(9.0)	1.2	(6.4)	－	－
	小皿a	ヘラ	R-019	Fig. 30-32	(9.4)	1.4	(7.3)	○	○
	小皿a	〃	R-020	Fig. 30-24	(9.0)	1.0	(6.3)	－	－
	小皿a	－	R-026	Fig. 30-35	(9.8)	1.1	(7.9)	－	－
	小皿a	－	R-027	Fig. 30-33	9.6	1.6	7.6	○	○
	小皿a	ヘラ	R-028	Fig. 30-26	(9.2)	1.1	6.3	－	○
	小皿a	－	R-029	Fig. 30-37	(10.2)	1.5	7.5	－	○
	小皿a	－	R-030	Fig. 30-23	(9.0)	1.4	(6.7)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-031	Fig. 30-39	(10.4)	1.5	(8.2)	○	○
	小皿a	－	R-032	Fig. 30-21	(8.8)	1.5	(6.8)	○	－
	小皿a	－	R-033	Fig. 30-38	(10.3)	0.9	(8.5)	○	－
	小皿a	ヘラ	R-034	Fig. 30-36	(10.0)	0.9	(7.1)	○	○
	小皿a	－	R-035	Fig. 30-31	(9.4)	1.1	(6.5)	○	－
	小皿a	－	R-036	Fig. 30-29	(9.3)	1.6	(7.0)	－	－
	小皿a	－	R-037	Fig. 30-28	(9.2)	1.1	(7.4)	－	○
	丸底坏a	－	R-001	Fig. 30-50	15.0	3.3		－	○
	丸底坏a	－	R-002	Fig. 30-56	15.6	3.4		－	○
	丸底坏a	－	R-003	Fig. 30-52	15.2	3.3		－	○
	丸底坏a	－	R-010	Fig. 30-58	(15.6)	3.7		○	－
	丸底坏a	－	R-011	Fig. 30-61	(16.2)	3.2		－	－
	丸底坏a	ヘラ	R-012	Fig. 30-49	(15.2)	3.0		○	○
	丸底坏a	〃	R-013	Fig. 30-48	(15.0)	3.6		－	－
	丸底坏a	〃	R-014	Fig. 30-60	(16.0)	3.1		－	－
	丸底坏a	〃	R-017	Fig. 30-43	(14.8)	3.25		－	－
	丸底坏a	－	R-018	Fig. 30-40	(14.4)	3.4		－	○
	丸底坏a	ヘラ	R-021	Fig. 30-45	(14.8)	3.2		－	○
	丸底坏a	〃	R-022	Fig. 30-54	(15.4)	3.5		－	○
	丸底坏a	〃	R-023	Fig. 30-55	(15.4)	3.3		－	○
	丸底坏a	〃	R-024	Fig. 30-44	(14.8)	2.7		－	－
	丸底坏a	－	R-025	Fig. 30-47	15.0	3.3		○	－
	丸底坏a	ヘラ	R-039	Fig. 30-42	(14.7)	3.1		－	○
	丸底坏a	〃	R-040	Fig. 30-41	14.4	3.1		－	○
	丸底坏a	〃	R-041	Fig. 30-51	15.0	3.2		○	○
	丸底坏a	－	R-042	Fig. 30-57	(15.7)	3.7		－	○
	丸底坏a	ヘラ	R-043	Fig. 30-59	(16.0)	3.4		－	○
	丸底坏a	〃	R-044	Fig. 30-53	(15.4)	2.9		○	○
	丸底坏a	〃	R-045	Fig. 30-62	(16.8)	3.3		○	－
	丸底坏a	〃	R-046	Fig. 30-46	(14.8)	2.9		○	－

S-70灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	－	R-003	Fig. 30-65	(9.5)	1.1	(6.6)	－	－
	小皿a	－	R-004	Fig. 30-63	(9.0)	1.45	6.0	－	－
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig. 30-64	9.2	1.3	6.6	○	－
	小皿a	〃	R-006	Fig. 30-66	9.6	1.6	7.4	－	○
	丸底坏a	〃	R-007	Fig. 30-68	(15.4)	3.55		－	○
	丸底坏a	ヘラ?	R-008	Fig. 30-67	(15.1)	3.5		－	－

S-70灰茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig. 29-4	(9.4)	1.3	(6.6)	○?	－
	小皿a	〃	R-003	Fig. 29-2	(8.9)	1.2	(6.8)	○	－
	小皿a	〃	R-004	Fig. 29-8	(11.2)	1.4	(9.4)	○	－
	小皿a	〃	R-005	Fig. 29-6	(9.7)	1.65	(6.9)	－	－
	小皿a	〃	R-006	Fig. 29-5	9.6	1.4	8.0	○	○
	小皿a	〃	R-007	Fig. 29-7	(9.8)	1.3	(7.7)	○	－
	小皿a	〃	R-008	Fig. 29-3	9.4	1.5	7.0	○	○
	丸底坏a		R-002	Fig. 29-11	(17.9)	2.85+α	－		
	丸底坏a		R-009	Fig. 29-12	(18.4)	3.4	－		
	丸底坏a		R-010	Fig. 29-9	(15.2)	3.4+α	－		
	丸底坏a		R-011	Fig. 29-10	(15.9)	3.3+α	－		
	蓋b3		R-012	Fig. 29-1	(14.8)	2.85	－		

S-75暗灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig. 28-41	14.6	2.75	－		
	丸底坏a	－	R-002	Fig. 28-43	(15.0)	3.0	－		
	丸底坏a	ヘラ	R-003	Fig. 28-42	(14.8)	2.6	－		

S-80

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	－	R-001	Fig. 28-33	－	1.8+α	(7.1)	○	－

S-80灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	－	R-001	Fig. 28-34	－	1.4+α	－	－	－

S-85(3)

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	－	R-001	Fig. 40-12	－	2.6+α	(6.8)	－	－

S-95明茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig.36-2	(8.8)	1.0	(6.8)	—	○
	小皿a 〃	R-002	Fig.36-1	(8.6)	1.2	(6.6)	—	—
	丸底坏a 〃	R-003	Fig.36-3	(14.8)	3.2+α	—	—	—
	丸底坏a 〃	R-004	Fig.36-4	(15.0)	3.2	—	—	○
瓦器	椀	R-005	Fig.36-5	—	3.0+α	—		

S-100e

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig.27-1	—	1.2+α	—	—	○
	小皿a ヘラ	R-002	Fig.27-2	—	1.25+α	—	○	—

S-100g

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig.27-3	(9.0)	1.1	(6.0)	○	—

S-105c柱痕

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 —	R-001	Fig.27-35	(15.0)	2.7+α	—	—	—

S-110青灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig.36-19	(10.0)	1.4	(7.5)	○	○
	小皿a 〃	R-002	Fig.36-18	(9.2)	1.1	(7.0)	○	○
	丸底坏a 〃	R-003	Fig.36-21	(15.0)	3.2+α	—	—	—
	丸底坏a 〃	R-004	Fig.36-20	—	3.2+α	—	—	—
黒色土器B	椀 —	R-005	Fig.36-22	(15.6)	3.3+α	—	—	—

S-110暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	椀c —	R-001	Fig.36-17	—	3.5+α	6.6	—	—

S-110茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig.36-16	(9.2)	1.2	(6.8)	—	○

S-130黒茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 イト	R-001	Fig.28-38	—	1.4+α	5.1	—	—

S-130黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.28-37	(15.4)	3.05	—	—	—
	丸底坏a 〃	R-002	Fig.28-36	(13.8)	2.8+α	—	—	—

S-130灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.28-39	(15.0)	3.9	—	—	○
	丸底坏a 〃	R-002	Fig.28-40	(14.2)	3.1	—	—	—

S-130明灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig.28-35	(9.4)	0.95	(7.0)	○?	—

S-140

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig.40-30	—	2.9+α	—	—	—

S-145d

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig.27-4	(14.6)	3.7		—	○

S-150e

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig.27-36	(9.6)	1.4	(7.3)	—	—

S-160灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀c	R-001	Fig.37-1	15.2	6.7~6.95	8.9		

S-163

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀c	R-001	Fig.40-15	—	2.0+α	—		

S-165h柱痕

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 —	R-001	Fig.27-7	—	2.2+α	—	—	○

S-165h掘り方

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 —	R-001	Fig.27-8	—	2.6+α	—	—	—

S-170灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig.31-27	16.1	3.5	—	○	○
	小皿a —	R-002	Fig.31-7	(9.0)	1.0	(8.0)	○	—

S-170灰茶色土土器群(1)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-15	15.4	3.3		—	—

S-170灰茶色土土器群(2)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig.31-13	15.4	3.5		○	○

S-170灰茶色土土器群(3)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	R-001	Fig.31-18	15.6	3.5		○	○

S-170灰茶色土土器群(4)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig.31-19	15.7	3.5		○	—

S-170灰茶色土土器群(5)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a イト	R-001	Fig.31-9	9.5	1.8	7.1	—	○

S-170灰茶色土土器群(6)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-28	16.1	3.3		○	—

S-170灰茶色土土器群(7)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-29	16.2	3.3		○	○

S-170灰茶色土土器群(8)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	R-001	Fig.31-8	(9.3)	0.8	(6.8)	○	○

S-170灰茶色土土器群(9)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-17	15.6	3.4		—	○

S-170灰茶色土土器群(10)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-16	15.5	3.1		—	○

S-170灰茶色土土器群(11)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-25	15.9	3.3		○	○

S-170灰茶色土土器群(12)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-22	15.8	3.0		○	○

S-170灰茶色土土器群(13)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-14	(15.4)	3.4		○	○

S-170灰茶色土土器群(14)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig.31-12	15.2	3.2		—	—

S-170灰茶色土土器群(15)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig.31-31	(17.2)	3.1		—	○

S-170灰茶色土土器群(16)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-30	16.7	3.3		○	○

S-170灰茶色土土器群(17)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-26	16.0	3.8		○	○

S-170灰茶色土土器群(18)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig.31-20	(15.8)	3.5		○	○
	丸底坏c —	R-002	Fig.31-23	15.9	3.6	—	—	—

S-170灰茶色土土器群(19)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a ヘラ	R-001	Fig.31-11	15.4	2.9	12.0	○	○

S-170灰茶色土土器群(20)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-24	15.9	3.8		○	○

S-170灰茶色土土器群(21)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig.31-21	15.8	3.5		—	○

S-170灰茶色土土器群(22)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a ヘラ	R-001	Fig.31-10	15.4	2.9	11.1	○	○

S-170茶灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	R-001	Fig.31-1		3.4+α	(6.3)		
	丸底坏a —	R-002	Fig.31-2	16.3	3.2		○	○

S-180

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.32-1	(9.0)	1.4	(6.8)	—	○
黒色土器A	椀c	—	R-002	Fig.32-2	—	2.3+α	(8.2)	—	—

S-180黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.32-3	—	1.0	—	—	—

S-185

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.32-6	(9.6)	1.2	(7.2)	—	—
	小皿a	—	R-002	Fig.32-7	(9.6)	0.8	(6.8)	—	—
	小皿a	—	R-003	Fig.32-5	(9.4)	1.0	(6.8)	—	—
	小皿a	—	R-005	Fig.32-8	(9.6)	1.2	(7.5)	—	—
	椀c	—	R-004	Fig.32-9	—	2.1+α	(7.2)	—	○

S-187

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-001	Fig.40-16	—	2.1+α	(8.4)	—	—

S-199

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-001	Fig.40-17	—	1.7+α	—	—	—

S-204

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	ヘラ	R-003	Fig.40-18	(15.4)	1.3+α	—	○	—
	小坏c	〃	R-004	Fig.40-19	—	2.2+α	(6.4)	—	○
土師器	椀c	—	R-001	Fig.40-20	—	2.7+α	(9.0)	—	—
	椀c	—	R-002	Fig.40-21	—	2.2+α	—	—	—
	椀c	—	R-005	Fig.40-22	—	2.2+α	(8.4)	—	—

S-205暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	大椀c	—	R-003	Fig.76-3	(17.6)	8.8	(9.2)	○	—
土師器	坏a	ヘラ	R-004	Fig.76-5	(12.6)	3.4	7.7	—	—
	椀c	—	R-001	Fig.76-6	(15.8)	6.25	(6.4)	—	—
	皿a	ヘラ	R-002	Fig.76-4	(13.1)	2.0	11.0	—	—

S-205茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-001	Fig.76-1	—	2.5+α	8.3	—	○

S-215暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.33-21	—	1.6+α	(7.0)	○	○
	坏a	〃	R-002	Fig.33-23	—	1.0+α	(7.0)	○	○
	坏a	〃	R-003	Fig.33-22	—	1.6+α	7.0	—	○
	坏a	—	R-004	Fig.33-20	(13.2)	2.7	(7.6)	—	—
	椀c	—	R-005	Fig.33-24	—	2.8+α	(6.8)	—	—
	椀c		R-008	Fig.33-25	—	3.1+α	(7.4)		
黒色土器A	椀c	—	R-006	Fig.33-27	(15.0)	7.1	8.9	—	—

S-215灰茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-003	Fig.33-16	—	1.3+α	(6.4)	○	—
	坏a	〃	R-004	Fig.33-15	(12.3)	3.15	(7.0)	—	—
	小皿a	〃	R-006	Fig.33-14	(9.1)	1.1	(7.1)	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-005	Fig.33-17	—	3.5+α	(7.2)	—	—

S-220

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	ヘラ	R-001	Fig.32-11	(11.8)	1.8	(8.4)	—	—
	坏a	〃	R-002	Fig.32-15	—	2.0+α	(7.6)	—	—
	坏a	〃	R-003	Fig.32-14	—	2.5+α	(7.3)	—	—
	坏a	〃	R-004	Fig.32-12	12.1	3.7	7.2	—	—
	坏a	—	R-005	Fig.32-13	—	2.9+α	(6.8)	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-006	Fig.32-17	(16.6)	5.8	8.6	—	○

S-225

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ?	R-001		(10.4)	0.9	(8.9)	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-002		(16.4)	2.8+α	—	○	—

S-230暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.33-31	—	1.3+α	(7.9)	—	—
	坏a	〃	R-002	Fig.33-32	—	1.1+α	(7.9)	—	—
	椀c	—	R-003	Fig.33-33	—	3.5+α	9.5	—	○
	椀c	—	R-004	Fig.33-34	—	2.8+α	(9.4)	—	○
黒色土器A	椀c	—	R-005	Fig.33-35	—	2.8+α	(7.0)	—	—

S-230黒青色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.33-37	—	1.6+α	(7.0)	—	—

S-230暗青灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig.33-40	—	2.4+α	(10.4)	—	—
	椀c	—	R-002	Fig.33-41	—	2.8+α	6.4	○	—

S-230暗青灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-001	Fig.34-44	—	3.7+α	(7.8)	—	—
	椀c	ヘラ	R-003	Fig.34-43	(13.2)	4.9	7.4	○	—
黒色土器B	椀c	—	R-002	Fig.34-46	—	3.0+α	—	—	—

S-235

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a2	ヘラ	R-001	Fig.36-24	(9.8)	0.7	(6.4)	—	—
	小皿a	—	R-002	Fig.36-23	—	0.9	—	—	—
	丸底坏	ヘラ	R-003	Fig.36-25	—	2.6+α	—	—	—

S-240黄灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.36-31	(15.2)	3.2		—	○
	小皿a	〃	R-002	Fig.36-29	9.6	1.0	8.0	○	×
	脚付小皿	〃	R-003	Fig.36-30	(12.2)	3.0	(7.4)	○	—

S-240黒色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.36-27	(10.6)	1.1	(8.2)	—	○?
	丸底坏	〃	R-002	Fig.36-28	(15.4)	3.2+α	—	—	—

S-240黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.36-26	(10.6)	0.95	(8.1)	—	—

S-246

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀	—	R-001	Fig.40-23	(15.2)	2.9+α	—	—	—

S-250

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.32-18	(10.2)	1.1	(8.1)	—	—

S-260茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.32-23	(10.4)	1.3	(8.0)	—	—
	丸底坏a	—	R-002	Fig.32-24	—	3.0+α	—	—	—

S-260茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.32-21	(11.0)	1.35	(9.0)	○	○

S-270

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.32-25	—	0.85	—	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-002	Fig.32-26	—	1.5+α	(7.4)	—	—

S-275a

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.27-10	(15.2)	3.4+α		—	—
	小皿a	〃	R-002	Fig.27-9	—	1.2	—	—	—

S-285a

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.27-14	—	1.1	—	—	—

S-285b

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.27-16	(9.8)	1.3	(7.2)	○	—
	小皿a	〃	R-002	Fig.27-15	(9.0)	1.2	(6.8)	○	—

S-285c掘り方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.27-19	(15.2)	3.7+α		—	○

S-285d柱痕

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.27-20	(9.8)	1.0	(7.0)	—	—

S-285f

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	—	R-001	Fig.27-22	—	3.0	—	—	—

S-290暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.36-33	(9.8)	1.05	(7.1)	—	—
	小皿a	ヘラ?	R-002	Fig.36-32	(9.4)	1.0	(7.1)	—	—

S-290灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.36-37	(10.2)	1.3	(8.15)	—	○
	小皿a	—	R-002	Fig.36-34	(9.8)	0.95	(7.2)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-008	Fig.36-35	(10.0)	1.25	(7.6)	—	○
	小皿a	—	R-010	Fig.36-36	(10.0)	1.5	(7.5)	—	○
	小皿a2?	ヘラ	R-009	Fig.36-38	(11.2)	1.05	(8.2)	—	—
	丸底坏a	〃	R-003	Fig.36-39	(14.8)	3.3+α		—	—
	丸底坏a	—	R-004	Fig.36-43	(16.2)	3.4+α		—	—
	丸底坏a	—	R-005	Fig.36-42	(15.2)	3.1+α		—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-006	Fig.36-41	(15.4)	3.4+α		—	○
	丸底坏a	〃	R-007	Fig.36-40	(15.0)	3.1+α		—	—

S-300褐色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c ヘラ?	R-001	Fig. 35-2	(14.4)	5.15	(7.3)	—	—

S-300暗灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c —	R-001	Fig. 35-4	(14.4)	3.9+α	—	—	—
	小皿a ヘラ	R-002	Fig. 35-3	(10.0)	1.05	6.8	○	○

S-310暗灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig. 38-9	(10.4)	1.1	(7.8)	○	—
	小皿a 〃	R-002	Fig. 38-8	(9.8)	1.0	(7.7)	—	—
	小皿a 〃	R-003	Fig. 38-7	(9.8)	1.6	(6.7)	○	○

S-310黒灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-002	Fig. 38-12	(11.0)	1.55	(8.2)	○	—
	小皿a ヘラ	R-003		—	1.2+α	—	○	○
	小皿a 〃	R-006	Fig. 38-11	(10.2)	0.8	(8.2)	○	—
	小皿a 〃	R-007	Fig. 38-10	(9.8)	0.7	(7.2)	○	○
	椀c ヘラ?	R-004	Fig. 38-13	—	1.7+α	(7.0)	○	—

S-310灰褐色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig. 38-1	(9.2)	1.1+α	(7.0)	○	—
	小皿a —	R-002	Fig. 38-3	(10.2)	1.45	(8.1)	—	—
	小皿a ヘラ?	R-004	Fig. 38-2	(9.6)	1.5	(8.2)	—	—

S-310黒青色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig. 38-17	(9.6)	1.5	(6.2)	○	○
	小皿a 〃	R-002	Fig. 38-16	(9.4)	1.3	(7.2)	○	○
	小皿a 〃	R-003	Fig. 38-22	(9.8)	1.25	(7.2)	○	—
	小皿a 〃	R-004	Fig. 38-20	(9.8)	1.25	(6.4)	—	—
	小皿a 〃	R-005	Fig. 38-21	(9.8)	1.45	(7.3)	○	—
	小皿a 〃	R-006	Fig. 38-23	(10.0)	1.0	(7.4)	—	—
	小皿a 〃	R-007	Fig. 38-18	(9.6)	1.05	(7.0)	—	—
	小皿a 〃	R-008	Fig. 38-19	(9.6)	1.2	(7.0)	○	○
	小皿a 〃	R-013	Fig. 38-24	—	0.7+α	(6.4)	○	—
	小皿a 〃	R-014	Fig. 38-25	—	1.0	—	○	—
	小丸底坏a 〃	R-009	Fig. 38-26	(11.6)	2.05+α	—	—	—
	丸底坏 〃	R-010	Fig. 38-27	(15.6)	3.0+α	—	—	—

S-315茶灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c —	R-001	Fig. 39-16	—	2.2+α	(7.6)	○	—
	皿a —	R-006	Fig. 39-15	(14.8)	1.3+α	(11.0)	—	—
	蓋3	R-002	Fig. 39-14	(17.7)	1.8+α		○	—
	蓋3	R-007	Fig. 39-13	(17.6)	2.1+α		○	
	蓋3	R-008	Fig. 39-12	(17.6)	2.5+α		○	—
土師器	蓋3	R-009	Fig. 39-17	(14.6)	1.4+α			
	皿a —	R-003	Fig. 39-18	(17.9)	1.9	(14.8)	—	—
	坏d —	R-004	Fig. 39-20	11.7	3.4	9.2	—	—
	坏c —	R-010	Fig. 39-21	(12.1)	4.5	(6.6)	—	—
	椀c —	R-011	Fig. 39-19		3.0+α	(8.8)	—	—

S-315明灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3 ヘラ	R-001	Fig. 39-10	—	1.7+α		○	

S-315灰褐色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	皿a	R-001	Fig. 39-8	(19.9)	2.0	(15.2)	○	

S-315

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c —	R-001	Fig. 39-2		1.5+α	(7.7)	○	—
	坏c —	R-002	Fig. 39-1		1.8+α	(7.4)	—	—
	大椀c —	R-003	Fig. 39-3		2.9+α	(9.5)	○	—
土師器	皿a —	R-005	Fig. 39-4	(19.6)	1.85	(15.0)	—	—
	大皿a —	R-004	Fig. 39-5	(28.1)	2.3	(22.0)	—	—
	大皿c —	R-006	Fig. 39-6	—	2.0+α	(16.5)	—	—

S-330黒灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿c ヘラ	R-003	Fig. 35-13	9.6	2.4	6.6	○	○
	小皿a 〃	R-004	Fig. 35-11	(9.7)	1.0	(7.8)	—	—
	小皿a —	R-005	Fig. 35-12		6.5+α	(7.4)	○	—
	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig. 35-15	15.2	3.5		—	○
	丸底坏a —	R-002	Fig. 35-14	(15.0)	2.65		—	○

S-330暗灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-002	Fig. 35-17	(8.7)	1.3	(6.0)	○	○
	小皿a イト	R-003	Fig. 35-18	(9.1)	1.1	(7.4)		×
	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig. 35-19	(14.8)	3.2		—	○
	丸底坏a 〃	R-004	Fig. 35-20	(15.6)	3.4+α		—	×

S-330黒灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig. 35-6	(13.6)	2.8+α		—	—
	丸底坏a 〃	R-002	Fig. 35-5	(13.2)	2.9+α		—	—
	丸底坏a 〃	R-003	Fig. 35-7	—	2.5+α		—	○

S-335灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀	R-001	Fig. 32-28	—	2.9+α	—		

S-340c

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c —	R-002	Fig. 27-31	—	1.6+α	—	—	×

S-340g

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀	R-001	Fig. 27-33	—	2.6+α	—		

S-342

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c ヘラ	R-001	Fig. 40-25	—	2.1+α	(8.0)	—	×

S-345黒灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋4 —	R-001	Fig. 44-17	16.0	2.5+α	—	○	×
	坏c ヘラ	R-002	Fig. 44-19	—	1.4+α	(8.2)	○	○
	坏c 〃	R-008	Fig. 44-20	—	2.5+α	(8.9)	○	—
	坏c 〃	R-009	Fig. 44-18	—	1.6+α	(8.1)	○	—
土師器	蓋3 ヘラ	R-003	Fig. 44-21	—	0.8+α	—	○	×
	小皿a 〃	R-005	Fig. 44-24	(9.8)	1.2	(7.2)	○	○
	小皿a 〃	R-012	Fig. 44-28	(10.6)	0.9	(8.2)	○	○?
	小皿a 〃	R-025	Fig. 44-26	10.0	1.4	7.3	○	○
	小皿a 〃	R-026	Fig. 44-22	(9.4)	1.05	(6.8)	○	—
	小皿a —	R-027	Fig. 44-23	(9.6)	1.1	(7.0)	—	○
	小皿a ヘラ	R-031	Fig. 44-25	(9.8)	1.1	(7.5)	—	○
	小皿a —	R-032	Fig. 44-27	(10.0)	1.0	(7.6)	—	—
	皿a —	R-004	Fig. 44-29	(17.0)	2.0	(13.5)	—	—
	皿a ヘラ	R-010	Fig. 44-30	(14.4)	1.4	(11.0)	—	—
	皿a 〃	R-017	Fig. 44-31	(13.6)	2.5+α	(9.5)	—	—
	坏a 〃	R-011	Fig. 44-40	—	2.7+α	(7.6)	—	—
	坏a 〃	R-013	Fig. 44-37	—	1.9+α	(7.2)	—	○
	坏a 〃	R-014	Fig. 44-41	—	1.9+α	(8.0)	—	—
	坏a 〃	R-016	Fig. 44-36	(13.6)	3.6	(8.3)	○?	○
	坏a 〃	R-020	Fig. 44-32	(11.4)	1.9	(7.7)	○	○
	坏a 〃	R-021	Fig. 44-33	(12.8)	3.7	(8.4)	—	—
	坏a 〃	R-022	Fig. 44-38	—	2.3+α	(7.5)	○	—
	坏a 〃	R-033	Fig. 44-39	—	2.1+α	(7.5)	—	○
	坏a 〃	R-035	Fig. 44-34	(13.0)	4.3	(8.0)	○?	○
	坏a 〃	R-036	Fig. 44-35	(13.2)	3.1	(8.0)	○	○
	椀	R-015	Fig. 44-42	(15.0)	4.15+α	—		
	椀c ヘラ	R-023	Fig. 44-43	—	4.4+α	(9.9)	○	—
	椀c —	R-024	Fig. 44-44	—	2.0+α	—	—	—
	丸底坏a ヘラ	R-028	Fig. 44-45	(15.6)	3.3		—	—
黒色土器A	椀c —	R-018	Fig. 45-47	—	2.4+α	(8.2)	—	—
黒色土器B	椀	R-029	Fig. 45-48	(15.4)	4.0+α			

S-345黒茶色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a ヘラ	R-015	Fig. 44-5	(14.7)	1.8	(9.9)	—	—
	小皿a 〃	R-001	Fig. 44-2	(9.6)	0.8	(7.4)	○	○
	小皿a 〃	R-002	Fig. 44-3	(9.6)	1.1	(6.8)	○	—
	小皿a 〃	R-008	Fig. 44-1	9.15	0.95	6.1	—	○
	小皿a 〃	R-012	Fig. 44-4	—	1.1	—	○	○
	坏a 〃	R-005	Fig. 44-6	(11.6)	1.9	(8.1)	○	
	坏a 〃	R-006	Fig. 44-7	(12.9)	3.7	(7.2)	—	
	坏a 〃	R-009	Fig. 44-9	—	2.3+α	(8.2)	—	—
	坏a 〃	R-013	Fig. 44-8	—	1.4+α	(8.1)	—	—
	坏a 〃	R-014	Fig. 44-10	—	2.7+α	(8.4)	—	—
	椀c —	R-007	Fig. 44-11	—	3.3+α	(9.0)	—	

S-345暗灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig. 43-25	(11.2)	1.0	(8.5)	○	○
	皿a ヘラ	R-019	Fig. 43-26	(14.0)	2.7+α	(11.2)	—	×
	坏a 〃	R-003	Fig. 43-33	—	2.4+α	7.4	○	○
	坏a 〃	R-006	Fig. 43-35	—	2.3+α	(8.0)	○	×
	坏a 〃	R-007	Fig. 43-31	(14.0)	3.25	(8.2)	○	○
	坏a 〃	R-011	Fig. 43-27	(12.5)	3.1	(10.2)	○	○
	坏a —	R-012	Fig. 43-28	(12.8)	3.4	(8.0)	○	○
	坏a ヘラ	R-013	Fig. 43-34	—	1.9+α	7.5	○	○
	坏a 〃	R-016	Fig. 43-30	(13.2)	4.2	7.7	○	○
	坏a —	R-017	Fig. 43-29	(12.8)	3.2	(7.0)	—	—
	坏a ヘラ	R-018	Fig. 43-32	—	3.1+α	(8.0)	○	×
	坏a —	R-021	Fig. 43-36	—	2.3+α	(8.2)	—	—
	丸底坏a —	R-002	Fig. 43-39	15.2	3.5	—	—	○
	椀c —	R-008	Fig. 43-38	—	3.2+α	(9.4)	○	×
	椀	R-009	Fig. 43-37	(14.4)	3.2+α	—		
黒色土器A	椀	R-004	Fig. 43-41	(17.4)	4.1+α	—		
	椀	R-010	Fig. 43-42	(14.4)	5.1+α	—		

S-345

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a ヘラ	R-023	Fig. 43-11	(14. 4)	1. 45	(5. 3)	—	×
	小皿a ヘラ?	R-001	Fig. 43-6	(9. 8)	1. 7	(7. 1)	○	—
	小皿a —	R-006	Fig. 43-8	9. 85	1. 3	7. 7	—	—
	小皿a ヘラ	R-007	Fig. 43-3	9. 4	1. 4	7. 2	—	○
	小皿a 〃	R-008	Fig. 43-2	9. 2	1. 5	7. 0	○	—
	小皿a 〃	R-009	Fig. 43-1	9. 1	0. 9	7. 1	—	○
	小皿a 〃	R-012	Fig. 43-9	10. 0	1. 2	7. 5	—	○
	小皿a 〃	R-013	Fig. 43-5	(9. 8)	1. 4	(7. 0)	○	○
	小皿a —	R-014	Fig. 43-4	(9. 6)	1. 25	(7. 2)	—	—
	小皿a ヘラ	R-015	Fig. 43-10	—	1. 1+α	—	—	—
	小皿a —	R-021	Fig. 43-7	9. 8	1. 5	7. 5	—	○
	丸底坏a ヘラ	R-003	Fig. 43-18	15. 2	3. 3	—	—	○
	丸底坏a 〃	R-004	Fig. 43-17	15. 1	3. 3	—		
	丸底坏a 〃	R-005	Fig. 43-16	15. 0	3. 2	—	—	—
	丸底坏a 〃	R-010	Fig. 43-20	15. 4	3. 1	—	—	○
	丸底坏a	R-016	Fig. 43-21	(15. 6)	3. 0			
	丸底坏a	R-017	Fig. 43-13	14. 8	3. 0			
	丸底坏a	R-018	Fig. 43-19	15. 2	3. 5	—	—	—
	丸底坏a ヘラ	R-019	Fig. 43-14	14. 9	3. 05	—	—	—
	丸底坏a 〃	R-020	Fig. 43-22	(16. 55)	4. 35	—	—	○
	丸底坏a 〃	R-022	Fig. 43-15	15. 0	3. 2	—	○	○
	丸底坏a 〃	R-024	Fig. 43-12	(14. 0)	3. 35	—	—	○

S-350灰茶色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a イト	R-001	Fig. 46-1	(9. 0)	1. 5	(7. 4)	○	×
	小皿a —	R-004	Fig. 46-2	(9. 6)	1. 0	(7. 0)	—	○
	丸底坏a —	R-003	Fig. 46-3	(14. 8)	3. 2	—	—	—

S-350茶灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-002	Fig. 46-9	(9. 8)	1. 0	(7. 5)	—	○
	小皿c —	R-007	Fig. 46-10	10. 0	2. 4	5. 0	—	—
	丸底坏a —	R-003	Fig. 46-11	(14. 6)	3. 3+α	—	—	—

S-370黄茶色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig. 50-21	15. 2	3. 7		—	—
	丸底坏a —	R-002	Fig. 50-22	(15. 0)	3. 2		—	—

S-370灰茶色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig. 50-23	(9. 8)	1. 2	(6. 9)	○	○
	丸底坏a —	R-002	Fig. 50-25	(14. 8)	3. 6		—	—
	丸底坏a —	R-003	Fig. 50-24	(13. 6)	3. 0		—	—

S-370明茶色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig. 50-2	(10. 0)	1. 4	(7. 4)	—	—
	小皿a —	R-002	Fig. 50-3	(10. 0)	1. 4	(8. 0)	○	—
	小皿a ヘラ	R-008	Fig. 50-1	9. 7	1. 6	7. 0	○	○
	丸底坏a ヘラ	R-003	Fig. 50-5	14. 7	3. 25		—	○
	丸底坏a —	R-009	Fig. 50-6	14. 8	3. 7		—	—
	丸底坏a —	R-010	Fig. 50-7	(17. 0)	4. 0		—	—
	丸底坏a ヘラ	R-011	Fig. 50-4	(14. 6)	3. 0+α		—	—
	丸底坏c 〃	R-004	Fig. 50-8	(15. 2)	4. 9	6. 8	—	—
	椀	R-005	Fig. 50-9	(20. 0)	5. 8+α	—		
黒色土器B	椀c	R-006	Fig. 50-12	—	3. 7+α	(6. 8)		
	椀c —	R-012	Fig. 50-11	(16. 2)	5. 9	7. 6	—	—

S-370灰色砂

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig. 50-28	(9. 6)	1. 6	(6. 6)	—	○
	小皿a ヘラ?	R-002	Fig. 50-27	(9. 6)	0. 8	(7. 6)	—	—
	小皿a ヘラ	R-003	Fig. 50-29	(9. 8)	1. 25	(7. 4)	○	—
	丸底坏a ヘラ	R-005	Fig. 50-30	(15. 0)	3. 65	—	—	○
黒色土器B	椀c —	R-004	Fig. 50-31	—	2. 0+α	6. 8	—	—

S-370灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-002	Fig. 50-15	(10. 3)	1. 25	(7. 7)	—	○
	丸底坏a —	R-003	Fig. 50-17	(14. 8)	3. 9+α	—	—	—
	丸底坏a ヘラ	R-004	Fig. 50-16	(14. 7)	3. 1+α	—	—	—
黒色土器B	椀 —	R-008	Fig. 50-18	—	4. 3+α	—	—	—

S-375灰茶色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a ヘラ	R-001	Fig. 51-7	11. 0	2. 35	6. 7	○	○

S-375黄茶色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-004	Fig. 51-2	(10. 4)	1. 05	(8. 4)	○	○
	小皿a ヘラ	R-005	Fig. 51-1	(9. 6)	1. 0	(7. 4)	—	—
黒色土器B	椀c —	R-006	Fig. 51-3	—	1. 9+α	7. 6	—	—

S-375灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-002	Fig. 51-10	10. 2	1. 3	7. 6	—	○
	小皿a 〃	R-003	Fig. 51-11	(10. 2)	1. 0	(7. 9)	○	○
	小皿a 〃	R-004	Fig. 51-8	(9. 6)	1. 7	(7. 8)	—	○?
	小皿a 〃	R-005	Fig. 51-9	(9. 8)	1. 0	(7. 7)	○	○
	丸底坏a 〃	R-007	Fig. 51-12	(15. 0)	3. 2		—	—
	丸底坏a 〃	R-008	Fig. 51-13	(13. 4)	2. 8+α	—	—	—

S-378

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig. 40-26	(9. 6)	1. 3	(7. 2)	○	—

S-379

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a ヘラ?	R-001	Fig. 40-27	—	1. 4+α	(8. 0)	—	—

S-380

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig. 51-19	(9. 2)	1. 4	(7. 2)	—	—

S-380灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c —	R-001	Fig. 51-20	—	2. 2+α	(7. 0)	○	—

S-382

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a ヘラ	R-001	Fig. 40-28	—	1. 6+α	(8. 6)	—	—
黒色土器B	椀	R-002	Fig. 40-29	—	1. 9+α	—		

S-385

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a —	R-001	Fig. 55-1	15. 2	3. 5+α		—	—
黒色土器A	椀c ヘラ	R-002	Fig. 55-2	—	3. 0+α	(7. 6)	—	○

S-385黒灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c ヘラ	R-001	Fig. 55-9	—	3. 1+α	(7. 4)	—	—
	椀c 〃	R-002	Fig. 55-8	—	2. 8+α	(9. 0)	○	○
黒色土器B	椀c —	R-003	Fig. 55-10	—	2. 7+α	(8. 0)	—	—

S-385茶灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-001	Fig. 55-5	—	1. 5	—	○	○
	坏a イト?	R-003	Fig. 55-6	(12. 4)	2. 5	(7. 8)	○	—
	丸底坏a —	R-002	Fig. 55-7	(14. 8)	4. 0+α	—	—	—

S-385暗灰色粘土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀c —	R-001	Fig. 55-3	(16. 4)	5. 65	7. 4	—	○

S-390

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a イト	R-001	Fig. 56-2	9. 6	1. 1~1. 5	7. 8	—	—
	小皿a ヘラ?	R-002	Fig. 56-3	(10. 0)	1. 1	(7. 8)	—	—
	小皿a イト?	R-003	Fig. 56-4	(10. 0)	1. 6	(8. 0)	—	—
	小皿a ヘラ?	R-004	Fig. 56-1	(9. 4)	1. 15	(7. 0)	—	—
	小皿a ヘラ	R-005	Fig. 56-5	(10. 2)	1. 6	(8. 1)	—	○

S-390暗灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a イト	R-001	Fig. 56-9	9. 6	1. 4~1. 6	7. 2	—	○
	小皿a —	R-002	Fig. 56-8	(9. 0)	1. 1	(6. 4)	—	—

S-390黒灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ?	R-001	Fig. 56-7	(11. 0)	1. 1	(8. 2)	○	○
	小皿a ヘラ	R-002	Fig. 56-6	(10. 2)	1. 1	(7. 4)	○	○

S-395茶灰色砂

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a ヘラ	R-002	Fig. 52-5	(9. 6)	1. 1	(7. 3)	○	—
	小皿a 〃	R-003	Fig. 52-6	(10. 0)	1. 2	(8. 1)	○	○
	丸底坏a —	R-001	Fig. 52-8	15. 2	3. 7		—	—
	丸底坏a —	R-004	Fig. 52-7	(15. 0)	3. 2		—	○
黒色土器B	椀c —	R-005	Fig. 52-9	—	1. 8+α	6. 2	—	—

S-395黒灰色土

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a ヘラ	R-001	Fig. 52-11	(16. 0)	3. 4	—	—	○

S-395黄色砂

種別	器 種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a —	R-001	Fig. 52-2	(10. 0)	0. 95	(7. 9)	—	—
	小皿a —	R-002	Fig. 52-1	(9. 6)	1. 2	(7. 5)	—	—
	丸底坏a —	R-003	Fig. 52-3	(14. 6)	3. 1+α	—	—	—
	椀c —	R-004	Fig. 52-4		3. 1	(6. 7)	—	—

S-395灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-002	Fig.52-21	(10.0)	1.1	(7.4)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.52-17	(9.6)	1.1	(6.8)	—	—
	小皿a	—	R-004	Fig.52-13	(9.4)	1.25	(6.8)	—	○
	小皿a	—	R-005	Fig.52-16	(9.6)	1.0	(6.7)	○	—
	小皿a	ヘラ	R-006	Fig.52-12	(8.6)	1.0	(5.9)	○	—
	小皿a	〃	R-008	Fig.52-14	(9.4)	1.1	(6.8)	—	○
	小皿a	—	R-010	Fig.52-18	9.6	1.5	7.2	○	—
	小皿a	ヘラ	R-021	Fig.52-22	(10.2)	1.1	(7.2)	—	—
	小皿a	—	R-022	Fig.52-19	(9.8)	1.1	(7.2)	—	○
	小皿a	—	R-023	Fig.52-23	(10.2)	1.5	(7.4)	—	—
	小皿a	—	R-024	Fig.52-20	(10.0)	1.0	(7.5)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-026	Fig.52-24	10.2	1.5	7.5	○	○
	小皿a	〃	R-027	Fig.52-26	10.7	1.8	8.1	○	○
	小皿a	〃	R-028	Fig.52-15	(9.6)	2.0	(7.2)	—	○
	小皿a×坏a	ヘラ?	R-007	Fig.52-27	(10.2)	1.8	(7.6)	—	—
	小皿a×坏a	ヘラ	R-009	Fig.52-28	(11.1)	1.9	(7.8)	—	○
	小皿a×坏a	—	R-011	Fig.52-25	(10.4)	1.85	(7.2)	—	—
	小丸底坏a	ヘラ	R-012	Fig.52-29	(11.8)	2.4	—	—	○
	丸底坏a	〃	R-013	Fig.52-32	(15.2)	3.0	—	—	—
	丸底坏a	〃	R-014	Fig.52-36	(15.4)	2.7	—	—	—
	丸底坏a	〃	R-015	Fig.52-35	(15.6)	3.4	—	—	—
	丸底坏a	ヘラ?	R-016	Fig.52-30	14.9	3.25	—	—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-017	Fig.52-33	(15.2)	3.5	—	—	—
	丸底坏a	〃	R-018	Fig.52-37	(17.2)	4.15	—	—	—
	丸底坏a	—	R-025	Fig.52-31	(15.0)	3.0		—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-029	Fig.52-34	(15.2)	3.0		—	—
黒色土器B	椀	—	R-019	Fig.52-38	(15.0)	4.2+α	—	—	—
	椀c	—	R-020	Fig.52-39	—	3.1+α	(6.8)	—	—

S-400茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.53-9	(10.0)	1.4	7.5	—	○
	小皿a	〃	R-002	Fig.53-11	10.2	1.15	8.2	○	—
	小皿a	〃	R-003	Fig.53-8	(9.8)	1.4	(7.6)	○	—
	小皿a	—	R-004	Fig.53-7	(9.6)	1.0	(6.9)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.53-10	(10.2)	0.8	(7.6)	—	—
	丸底坏a	〃	R-006	Fig.53-12	(12.8)	2.75	—	—	—

S-400灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.53-19	(9.0)	1.1+α	(6.7)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.53-20	(9.2)	1.3	(7.0)	○	○?
	小皿a	〃	R-006	Fig.53-21	(10.2)	1.25	(8.0)	○	—
	小皿a	〃	R-012	Fig.53-22	10.4	1.15	7.6	○	○
	小丸底坏a	〃	R-002	Fig.53-23	(12.0)	2.8+α	—	—	—
	丸底坏a	—	R-003	Fig.53-24	(14.4)	3.5	—	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-004	Fig.53-27	(15.8)	3.4		—	—
	丸底坏a	〃	R-007	Fig.53-26	(15.6)	3.6	—	—	—
	丸底坏a	—	R-008	Fig.53-25	(14.4)	3.1+α	—	—	—
黒色土器B	椀	—	R-009	Fig.53-29	(15.6)	2.7+α	—	—	—

S-400灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.53-2	(9.0)	1.0	(6.5)	—	—
	丸底坏a	—	R-002	Fig.53-4	(15.4)	2.6+α	—	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-003	Fig.53-3	(15.0)	3.3+α	—	—	—
	丸底坏a	—	R-004	Fig.53-5	(15.4)	3.3+α	—	—	—

S-400黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.53-13	(8.8)	1.1	(6.4)	○	—
	小皿a	〃	R-002	Fig.53-14	(9.6)	1.05	(7.2)	—	—
	小皿a	〃	R-003	Fig.53-15	(9.6)	1.2	(7.4)	○	—
	丸底坏a	〃	R-004	Fig.53-17	(15.2)	3.2	—	—	—
	丸底坏a	〃	R-005	Fig.53-16	(13.6)	2.7	—	—	○

S-410

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.68-5	—	1.9+α	(7.0)	—	—
	坏a	〃	R-002	Fig.68-3	—	1.4+α	(6.4)	—	—
	坏a	〃	R-003	Fig.68-4	—	1.9+α	(6.4)	—	○
	坏a	〃	R-004	Fig.68-8	—	2.1+α	(8.0)	—	○
	坏a	〃	R-007	Fig.68-6	—	2.3+α	(7.2)	—	○
	坏a	〃	R-008	Fig.68-7	—	1.8+α	(7.6)	—	○
	坏a	〃	R-009	Fig.68-2	(12.0)	2.5	(9.0)	○	○
黒色土器A	椀c	—	R-005	Fig.68-10	—	3.1+α	(8.0)	—	○
	椀c	ヘラ	R-006	Fig.68-9	—	2.3+α	(7.2)	—	○

S-410淡灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀		R-001	Fig.68-14	(18.4)	4.7+α			

S-410黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.68-12	—	1.7+α	7.1	○	○
	坏a	〃	R-002	Fig.68-11	(10.4)	2.8	(6.8)	—	○
	坏a	〃	R-003	Fig.68-13	—	1.9+α	(7.2)	○	—

S-420a黄色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig.67-3	—	2.5+α	(7.0)	—	—
土師器	蓋3	—	R-002	Fig.67-4	—	1.0+α	—	—	—

S-420b茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	大椀c	—	R-001	Fig.67-6	—	2.3+α	(12.0)	○	—
	蓋3		R-002	Fig.67-5	—	0.9+α	—		

S-425

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.84-2	—	2.8+α	7.2	—	○
	坏a	〃	R-003	Fig.84-3	—	1.4+α	(8.4)	○	×
	皿a	〃	R-002	Fig.84-1	(12.3)	2.2~2.6	8.8	○	○

S-430黄灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.68-15	9.7	1.6	7.7	○	○

S-450

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	椀c	ヘラ	R-001	Fig.68-16	—	2.1+α	(8.3)	—	—

S-455黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.68-17	—	1.2+α	—	○	—
	小皿a	〃	R-002	Fig.68-18	(9.4)	0.8	(7.1)	○	○
	小皿a	—	R-003	Fig.68-20	(9.6)	1.1	(7.3)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.68-19	(9.6)	1.0	(6.8)	—	—
	小皿a	—	R-005	Fig.68-21	(10.4)	1.3	(7.2)	—	—

S-455暗灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.68-23	(10.2)	1.4	(7.4)	—	—
	小皿a	—	R-002	Fig.68-22	—	1.2+α	—	—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-003	Fig.68-24	—	3.1+α	—	—	—

S-460黒色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.84-10	(9.6)	1.1	(7.7)	○	
	小皿a	〃	R-004	Fig.84-12	(10.2)	1.1	(8.4)	○	
	小皿a	〃	R-005	Fig.84-11	(9.8)	1.1	(7.8)	○	○
	丸底坏a	〃	R-002	Fig.84-13	14.4)	3.3+α	—	—	—

S-460茶灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.84-16	(13.6)	2.8	—	○	—

S-460黒茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.84-6	(10.0)	1.2	(7.8)	○	○
	小皿a	〃	R-002	Fig.84-5	(9.8)	1.1	(7.4)	—	—
	小皿a	〃	R-003	Fig.84-7	(10.4)	1.6	(8.0)	—	○
	小皿a2	〃	R-005	Fig.84-8	(10.6)	1.0	(7.8)	○	○?
	椀c	—	R-004	Fig.84-9	—	2.5+α	(7.3)	—	—

S-460黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.84-15	(16.2)	4.05	—	—	○
	椀c	〃	R-002	Fig.84-14	(15.0)	5.7	(8.8)	○	○?

S-465a柱穴

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.67-24	—	1.4+α	(7.2)	○	×
	椀c	〃	R-002	Fig.67-25	—	2.5+α	(7.8)	○	×

S-475b掘方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001		—	1.3+α	(7.6)	—	—
	坏a	—	R-002		—	2.2+α	(7.4)	—	○

S-475c掘方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001		—	2.1+α	(7.4)	—	—

S-480h柱痕

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	大椀		R-001	Fig.67-9	(18.0)	5.4+α	(12.8)		

S-480m茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c3	—	R-001	Fig.67-10	(15.2)	1.2		○	—

S-480r茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	ヘラ	R-001	Fig.67-11	(14.6)	1.8+α	—	○	—

S-480x柱痕

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-001	Fig.67-12	(14.4)	1.5+α	—	—	—

S-485a柱痕

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋1	R-001	Fig.67-14	—	1.3+α	—		
	蓋1	R-002	Fig.67-15	—	1.6+α	—		

S-485d

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	R-001	Fig.67-16	(15.0)	1.6+α	—		

S-505暗茶灰色粘土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	R-001	Fig.68-28		2.5+α	(8.0)		
	小皿a	R-002	Fig.68-27		1.3+α	(7.0)		○
須恵器	坏c	R-005	Fig.68-26		1.0+α	(7.8)		

S-505灰色粘土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.68-32	10.0	1.45	5.5	○	○
	小皿a　〃	R-003	Fig.68-33	10.0	1.3	7.0	○	○
	坏a　〃	R-002	Fig.68-34	(12.4)	3.1	8.0	○	
黒色土器A	椀c	R-004	Fig.68-35		2.4+α	(8.3)		

S-510茶灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a　ヘラ	R-001	Fig.77-4		1.45+α	(9.0)	○	○

S-510青灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	椀c	R-001	Fig.78-16		3.45+α	(7.8)		
	椀　イト	R-002	Fig.78-17		2.1+α	5.7	×	×
土師器	坏a　ヘラ	R-003	Fig.78-18		1.9+α	(7.6)		
	坏a	R-004	Fig.78-19		2.2+α	(8.8)		
黒色土器B	椀c	R-005	Fig.78-20		2.9+α	(9.0)		

S-510暗灰色粘土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿c　ヘラ	R-002	Fig.78-3		2.1+α	(6.4)	○	×
	坏a	R-006	Fig.78-2		1.35+α	(7.0)	○	○
	坏a　—	R-007	Fig.78-1		2.1+α	(6.4)	—	○
	椀c　—	R-003	Fig.78-4		2.2+α	(7.2)	○	○
	椀	R-008	Fig.78-6	—	—	—		
	坏c	R-010	Fig.78-5		2.1+α	(7.4)		
黒色土器A	椀c　—	R-001	Fig.78-8		3.1+α	(8.0)	—	○
	椀c　—	R-004	Fig.78-7		3.1+α	(8.4)	○	—

S-510暗灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	椀c	R-002	Fig.78-14		2.6+α	(8.4)		

S-515茶色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋b	R-006	Fig.72-1		2.4+α			
	皿a　ヘラ	R-021	Fig.72-7	(16.6)	2.2	11.6	○	—
	坏c　〃	R-002	Fig.72-3		3.3+α	(7.8)	○	
	坏c　〃	R-008	Fig.72-2		3.3+α	8.6	○	
	坏c	R-018	Fig.72-8		3.5+α	(10.1)	○	
	坏c　ヘラ	R-024	Fig.72-4		2.8+α	(9.8)	○	
	坏c　〃	R-031	Fig.72-6		4.7+α	(10.2)	○	—
土師器	坏a　ヘラ	R-001	Fig.72-17	(13.0)	3.0	(7.8)	○	—
	坏a　〃	R-005	Fig.72-20		3.0+α	(7.8)	○?	
	坏a　ヘラ?	R-009	Fig.72-18	(13.0)	3.4	(7.8)	○	○
	坏a　ヘラ	R-012	Fig.72-15	(12.6)	4.1	(6.1)	○	—
	坏a　〃	R-017	Fig.72-19		2.1+α	(6.6)	○	—
	坏a　〃	R-028	Fig.72-14	(12.4)	4.1+α	(6.9)	○	—
	坏a　〃	R-029	Fig.72-21		2.2+α	(8.6)	○	—
	坏a　—	R-037	Fig.72-16	(12.6)	3.4	(7.8)	○	—
	皿a　ヘラ	R-016	Fig.72-23	(12.0)	2.2	(10.0)	○	—
	皿a　〃	R-033	Fig.72-22	(12.0)	1.95	(10.4)	○	
	椀c	R-025	Fig.72-25		3.0+α	(7.0)		
	椀c　ヘラ	R-032	Fig.72-24		2.2+α	(5.5)		
	椀c　—	R-038	Fig.72-26		2.8+α	7.2	—	—
	椀c　ヘラ	R-039	Fig.72-27		3.1+α	7.4	○	○
黒色土器A	椀c	R-011	Fig.73-29		2.3+α	8.4		○
	椀	R-027	Fig.73-28		2.7+α			
黒色土器B	椀c	R-034	Fig.73-30		4.0+α	(9.2)		

S-520

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a　—	R-001	Fig.68-38		1.4+α	(7.0)	—	○
	坏a　ヘラ	R-002	Fig.68-40		1.0+α	(7.6)	○	—
	坏a　—	R-003	Fig.68-39		1.2+α	(7.0)	—	—

S-520茶色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	皿c	R-003	Fig.68-43	(16.4)	3.5	(7.0)		

S-515

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	皿a　ヘラ?	R-001	Fig.69-2	(16.6)	1.7	(13.4)	○?	○
	皿a　ヘラ	R-002	Fig.69-1	(14.6)	2.2	(11.0)	○	—
	大椀c	R-005	Fig.69-7	(15.8)	7.3	(10.0)	○?	
	小坏a　ヘラ	R-015	Fig.69-3		1.7+α	(5.8)	○	
	坏c　〃	R-019	Fig.69-5		3.6+α	(8.2)	○	—
	坏c　〃	R-024	Fig.69-6		4.1+α	(10.4)	○	
	坏c　〃	R-038	Fig.69-4		3.7+α	(8.4)	○	
土師器	皿a　ヘラ?	R-003	Fig.69-17	(13.4)	2.1	(11.3)	—	—
	坏a　ヘラ	R-007	Fig.69-12	(12.2)	3.3	(7.8)	○	—
	坏a　〃	R-028	Fig.69-14		1.3+α	(7.4)	—	—
	坏a　〃	R-029	Fig.69-13	(12.4)	3.2	(8.0)	—	—
	坏a　〃	R-030	Fig.69-15		2.4+α	(8.5)	—	○
	坏a　〃	R-034	Fig.69-16		2.9+α	(6.6)	○?	—
	坏c　—	R-009	Fig.69-18		2.3+α	(6.4)	○	—
	椀c	R-006	Fig.69-22		3.3+α	(7.8)		
	椀c	R-008	Fig.69-19	(15.5)	5.5	8.3		
	椀c　ヘラ?	R-027	Fig.69-20		3.6+α	(7.3)	○?	
	椀c	R-033	Fig.69-21		5.6+α	(9.0)		
黒色土器A	椀c	R-018	Fig.70-32		2.8+α	7.7		○
	椀c	R-036	Fig.70-31		3.9+α	(8.8)		

S-525

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c　—	R-001	Fig.59-5		3.3+α		—	—
	坏a　—	R-002	Fig.59-2		1.7+α	(6.0)	—	—
	坏a　ヘラ	R-003	Fig.59-3		2.0+α	(7.0)	—	—
	坏a　—	R-007	Fig.59-4		1.8+α	(7.6)	—	—

S-530黒灰色粘土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a　ヘラ	R-001	Fig.87-22		2.6+α	(8.0)	—	—
	坏a　—	R-002	Fig.87-23		1.7+α	(8.8)	—	—
	坏a　ヘラ	R-003	Fig.87-21		1.5+α	(7.3)	○	○
	坏a　〃	R-006	Fig.87-20	(13.4)	4.0	(6.6)	○	○
	椀c	R-009	Fig.87-24		3.2+α	7.5		
	椀c　ヘラ	R-004	Fig.87-27		2.8+α	(7.4)	○	—
	椀c　〃	R-005	Fig.87-26		2.9+α	7.2	○	○
	椀c　〃	R-007	Fig.87-25		2.8+α	7.35	—	○
	椀c　ヘラ?	R-008	Fig.87-28		2.5+α	7.7	—	—
黒色土器A	椀c	R-010	Fig.87-32		3.3+α	(8.8)		○
	椀c　ヘラ	R-012	Fig.87-31		3.1+α	(8.0)		

S-530黒灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a　ヘラ	R-001	Fig.87-10		1.3+α	(8.2)	○	○
	坏a　〃	R-002	Fig.87-3	(13.8)	3.65	(9.3)	○	—
	坏a　—	R-007	Fig.87-4		2.1+α	(7.3)	—	—
	坏a　ヘラ	R-009	Fig.87-5		1.8+α	(7.4)	○	—
	坏a　〃	R-010	Fig.87-11		1.7+α	(8.2)	—	—
	坏a　〃	R-011	Fig.87-6		3.2+α	(7.4)	○	—
	坏a　—	R-012	Fig.87-9		2.2+α	(8.0)	○	—
	坏a　ヘラ	R-013	Fig.87-8		2.1+α	(8.0)	○	—
	坏a　〃	R-014	Fig.87-7		1.9+α	(7.8)	○	○
	坏a　—	R-015	Fig.87-1	(12.4)	2.3	(7.4)	○	—
	坏a　ヘラ	R-016	Fig.87-2	(13.0)	3.7	(6.4)	○	—
黒色土器A	椀c　〃	R-003	Fig.87-17		3.2+α	(6.2)		
	椀c	R-004	Fig.87-15		3.3+α	(7.6)		
	椀c　ヘラ	R-005	Fig.87-16		1.8+α	7.8		
	椀c　〃	R-006	Fig.87-14		5.1+α	(8.4)		

S-540

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	R-003	Fig.74-4	(12.0)	1.5	(7.6)	○	
	皿a　ヘラ	R-006	Fig.74-6	(12.8)	1.85	(10.0)		
	皿a　〃	R-011	Fig.74-7	(13.0)	1.95	(10.4)	○	
	皿a　〃	R-024	Fig.74-5	(12.6)	2.0	(8.2)	○	
	皿a　〃	R-018	Fig.74-3	(12.0)	2.05	(7.8)	○	○
	皿a　〃	R-005	Fig.74-2	(11.8)	2.25	(6.3)	○	
	坏a　〃	R-004	Fig.74-13	—	1.75+α	(7.2)		○
	坏a　〃	R-007	Fig.74-9	(14.0)	3.3	(8.0)	○	
	坏a	R-008	Fig.74-11	—	2.55+α	(7.0)	○	○
	坏a　ヘラ	R-012	Fig.74-12	—	1.9+α	(7.0)		○
	坏a	R-013	Fig.74-18	—	2.7+α	(6.2)		
	坏a　ヘラ	R-014	Fig.74-16	(12.6)	4.0	(7.8)	○	○
	坏a	R-019	Fig.74-15	—	1.6+α	(8.4)		
	坏a　ヘラ	R-020	Fig.74-14	—	2.35+α	(8.2)	○	
	坏a　〃	R-021	Fig.74-17	—	2.3+α	(7.0)	○	○
	坏a　〃	R-022	Fig.74-10	—	2.2+α	(7.0)	○	○
	坏a　〃	R-023	Fig.74-8	(12.4)	3.3	7.0		○
	椀c	R-001	Fig.74-19	—	4.65+α	8.2		
	椀c　ヘラ	R-025	Fig.74-20	—	4.25+α	(8.4)	○	
黒色土器A	椀c　〃	R-002	Fig.74-27	—	3.1+α	(13.2)		
	椀c	R-015	Fig.74-23	—	3.2+α	(7.2)		
	椀c	R-009	Fig.74-24	—	2.45+α	(7.2)		○
	椀c	R-010	Fig.74-26	—	4.2+α	(8.0)		
	椀c	R-026	Fig.74-25	—	2.6+α	(7.3)		

S-545灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	ヘラ	R-008	Fig.85-8	12.5	1.85	9.7	○	
	坏a	〃	R-001	Fig.85-11	12.8	3.7	7.1	○	○
	坏a	〃	R-002	Fig.85-12	(13.0)	3.7	(7.4)	○	
	坏a	〃	R-003	Fig.85-13	(13.0)	3.8	(8.0)	○	
	坏a	〃	R-009	Fig.85-15	—	2.3+α	7.2	○	○
	坏a	〃	R-010	Fig.85-10	(12.0)	3.65	(8.0)	○	○
	坏a	〃	R-011	Fig.85-14	(14.0)	4.3	(8.0)	○	
	坏a	〃	R-012	Fig.85-16	—	2.85+α	7.4	○	○
	坏a	〃	R-013	Fig.85-9	(11.9)	2.9	8.0	○	○
	椀c	〃	R-004	Fig.85-18	—	3.8+α	7.8	○	○
	椀c	〃	R-014	Fig.85-17	(14.0)	6.05	7.4	○	
	椀c	〃	R-015	Fig.85-19	—	3.8+α	8.2	○	○
	椀c	〃	R-016	Fig.85-20	—	4.3+α	8.4	○	
黒色土器A	椀c	〃	R-017	Fig.85-27	—	2.7+α	7.0		
	椀c	〃	R-005	Fig.85-28	—	2.1+α	8.0	○?	○
	椀c	〃	R-018	Fig.85-29	—	3.25+α	(8.0)		

S-545茶色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.85-32	(13.0)	3.1	7.0	○	○
	椀c	〃	R-002	Fig.85-33	(13.9)	4.9	7.4	○	

S-545黒茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.85-4		2.6+α	(7.2)	○	—
	坏a	ヘラ	R-005	Fig.85-3	(13.2)	3.4	(7.0)	○	
	皿a	ヘラ	R-003	Fig.85-2	(13.0)	1.85	(10.2)		
	皿a		R-004	Fig.85-1	(12.8)	1.65+α			
黒色土器A	椀c		R-006	Fig.85-6	—	2.3+α	(8.2)		
	椀c		R-007	Fig.85-7	—	1.9+α	(8.6)		

S-550茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀c	—	R-002	Fig.75-8		2.5+α	8.5		○

S-550灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-002	Fig.75-11		3.05	6.7	○	○
	坏a	ヘラ	R-003	Fig.75-10	12.8	3.55	8.4	○	○

S-550

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀c		R-003	Fig.75-3		3.2+α	(7.8)		

S-560黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.54-54	(10.4)	1.95	(7.0)	○	○
	坏a	〃	R-003			1.9+α	(7.2)	○	○
	坏a	〃	R-004		12.1	3.5	7.2	○	○
	丸底坏a	—	R-001	Fig.54-55	(15.2)	3.5+α		—	○

S-560黒灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.54-31	(10.2)	1.1	(6.8)	○	—
	小皿a	〃	R-005	Fig.54-32	(10.2)	1.6+α	(8.3)	○	—
	小皿a	〃	R-006	Fig.54-37	(10.4)	1.0	(8.2)	○	○?
	小皿a	〃	R-007	Fig.54-29	(10.0)	1.25	(6.8)	○	—
	小皿a	〃	R-008	Fig.54-33	(10.2)	1.15	(6.8)	○	○
	小皿a	〃	R-009	Fig.54-35	(10.2)	1.2	(7.3)	○	○
	小皿a	〃	R-010	Fig.54-39	(10.8)	1.4	(7.3)	○	○
	小皿a	〃	R-011	Fig.54-30	10.1	1.1	7.4	○	○
	小皿a	〃	R-012	Fig.54-36	10.2	1.2	7.2	○	○
	小皿a	〃	R-013	Fig.54-27	10.0	1.05	7.8	○	○
	小皿a	〃	R-014	Fig.54-44	10.7	1.25	7.2	○	○
	小皿a	〃	R-015	Fig.54-41	(10.9)	1.4	(7.1)	○	○
	小皿a	〃	R-016	Fig.54-38	(10.6)	1.4	(7.6)	○	○
	小皿a	〃	R-017	Fig.54-40	10.8	1.3	7.8	○	○
	小皿a	〃	R-018	Fig.54-25	(9.6)	1.1	(7.2)	○	○
	小皿a	〃	R-019	Fig.54-34	(10.2)	1.0	(7.5)	○	—
	小皿a	〃	R-020	Fig.54-26	(10.0)	1.2	(7.1)	○	—
	小皿a	〃	R-021	Fig.54-28	(10.0)	1.1	(8.0)	○	○
	小皿a	〃	R-022	Fig.54-42	(10.8)	1.3	(8.0)	○	—
	小皿a	〃	R-023	Fig.54-43	(10.8)	1.1	(8.1)	○	—
	小皿a	〃	R-024	Fig.54-23	(9.4)	1.2	(6.2)	○	○
	小皿a	〃	R-025	Fig.54-45	(11.0)	1.2	(7.5)	○	○?
	小皿a	〃	R-026	Fig.54-24	(9.4)	1.5	(7.2)	○	—
	小皿a	〃	R-027	Fig.54-22	(9.4)	1.4	(7.3)	○	—
	丸底坏a	〃	R-028	Fig.54-47		3.9+α		○	—
	丸底坏a	〃	R-029	Fig.54-48		3.9+α		○	—
	丸底坏a	〃	R-030	Fig.54-46		3.9+α		○	○
	丸底坏c	〃	R-031	Fig.54-49	(14.6)	5.4+α	(7.0)	○	—
黒色土器B	椀c	〃	R-032	Fig.54-52	(16.0)	5.65+α	7.0	—	○

S-560

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.54-13	(10.8)	1.25	(7.6)	○	○
	小皿a	〃	R-002	Fig.54-6	(10.1)	1.2	(8.2)	○	○
	小皿a	〃	R-003	Fig.54-4	9.9	1.7	7.8	○	○
	小皿a	〃	R-004	Fig.54-11	10.5	1.5	7.6	○	○
	小皿a	〃	R-009	Fig.54-7	(10.2)	1.4	(7.0)	○	○
	小皿a	—	R-010	Fig.54-12	(10.6)	1.35+α	(8.1)	○	—
	小皿a	ヘラ	R-013	Fig.54-8	10.2	1.5	7.5	○	○
	小皿a	〃	R-014	Fig.54-5	(10.0)	0.9	(8.5)	○	—
	小皿a	〃	R-015	Fig.54-9	(10.2)	1.35	(6.8)	○	○
	小皿a	〃	R-016	Fig.54-10	10.2	1.4	7.3	○	○
	坏a	〃	R-006	Fig.54-14	(11.8)	2.4	(8.4)	—	—
	坏a	〃	R-020	Fig.54-15	(15.6)	3.9	(9.8)	○	○
	丸底坏a	〃	R-017	Fig.54-17	(10.5)	3.3+α		○	○?
	丸底坏a	〃	R-018	Fig.54-18		4.6+α		—	—
	丸底坏a	〃	R-019	Fig.54-16	(14.6)	3.55		—	—
	椀c	〃	R-012	Fig.54-19		4.0+α	7.5	—	○

S-570a

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	ヘラ	R-001	Fig.67-18		1.2+α		○	—

S-575

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-007	Fig.75-21		2.0+α	7.1	○	○
	坏a	〃	R-008	Fig.75-20	(13.4)	3.1+α	(7.0)	—	○
	坏a	〃	R-010	Fig.75-19	(12.9)	3.35	(6.8)	—	—
	坏a	〃	R-012	Fig.75-18	(12.6)	3.9	(7.2)	—	—
	椀c	〃	R-001	Fig.75-22		2.95+α	(7.2)	—	—
	椀c	—	R-003	Fig.75-24		3.3+α	(9.7)	—	—
	椀c	ヘラ	R-009	Fig.75-23		2.8+α	8.25	—	○
黒色土器A	椀c	—	R-004	Fig.75-26		2.15+α	(8.4)	—	—
	椀c	ヘラ	R-011	Fig.75-27		2.2+α	(8.6)	—	—

S-585灰褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig.81-1		2.2+α	(7.4)	○	○?
土師器	椀c	—	R-002	Fig.81-3		2.6+α	(7.6)	—	—

S-585暗灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	ヘラ	R-001	Fig.81-6		2.6+α	(8.6)	○	
	坏a	〃	R-002	Fig.81-5	12.0	3.6	(7.6)	○	○

S-600暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-004	Fig.82-6	—	1.9+α	8.3	○	—
	坏a	〃	R-005	Fig.82-4	—	1.5+α	(7.0)	○	—
	坏a	〃	R-007	Fig.82-5	—	2.15+α	(7.6)	○	○
黒色土器B	椀c	—	R-006	Fig.82-8	—	1.7+α	(6.0)	—	—

S-600灰茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	椀c		R-001	Fig.82-1	—	3.65+α	(9.4)		
黒色土器A	椀c		R-002	Fig.82-2	—	2.5+α	(8.8)		
	椀c		R-003	Fig.82-3	—	2.5+α	(7.8)		

S-600灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	ヘラ	R-001	Fig.82-12	—	2.2+α	(9.2)	—	—
	坏a	〃	R-002	Fig.82-11	—	2.65+α	(7.4)	○	—

S-600黒灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c		R-001	Fig.82-14	—	1.65+α	5.1		

S-615茶色砂

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-004	Fig.86-2	(12.0)	2.8	(7.4)	○	—
	坏a	〃	R-005	Fig.86-3	—	3.2+α	8.7	○	—
黒色土器A	椀c	—	R-007	Fig.86-4	—	3.5+α	(6.8)	—	—
	椀c	—	R-008	Fig.86-5	—	2.8+α	8.2	—	—
黒色土器B	椀c	—	R-009	Fig.86-6	—	3.2+α	(8.7)	—	—

S-615灰色砂

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.86-13	—	1.0+α	(7.7)	—	—
	坏a	ヘラ	R-016	Fig.86-12	—	2.3+α	(7.4)	○	○
	椀c	—	R-007	Fig.86-16	—	2.5+α	(8.0)	○	—
	椀c	—	R-009	Fig.86-15	—	3.15+α	(7.6)	—	—
	椀c	—	R-012	Fig.86-14	—	2.2+α	(7.5)	○	—
黒色土器A	椀c	—	R-002	Fig.86-20	—	2.15+α	—	—	—
	椀c	—	R-013	Fig.86-19	—	2.1+α	(8.4)	—	—
	椀		R-015	Fig.86-21	(14.6)	3.4+α	—		

S-620

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.84-19	—	2.7+α	(6.9)	○	○
	坏a	ヘラ	R-002	Fig.84-22	—	2.2+α	(7.8)	○	—
	坏a	ヘラ	R-003	Fig.84-24	—	3.0+α	(8.0)	○	—
	坏a	ヘラ	R-004	Fig.84-20	—	2.4+α	(7.7)	○	—
	坏a	ヘラ	R-007	Fig.84-21	—	2.0+α	7.8	○	○
	坏a	ヘラ	R-008	Fig.84-23	—	2.0+α	(7.9)	○	—
	坏a	ヘラ?	R-009	Fig.84-18	(12.3)	3.5	(7.0)	—	—
	大皿c	—	R-010	Fig.84-25	—	4.5+α	—	—	—
須恵器	椀c	—	R-011	Fig.84-17	—	3.8+α	(9.6)	○	—

S-625淡灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.83-9	(12.8)	4.05	7.3	—	—
	椀c	ヘラ	R-002	Fig.83-10	—	4.15	8.25	○	—

S-625暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.83-11	12.65	4.05	7.2	○	○

S-678

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.47-1	(10.4)	1.2	(8.0)	○	○

S-678淡灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.47-3	8.9	1.2	6.6	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-002	Fig.47-4	(14.8)	3.1		—	○
	丸底坏a	〃	R-003	Fig.47-5	(15.0)	2.7	11.3	○	—

S-697

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.27-24	(15.1)	3.2	—	—	○

S-717

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a		R-001	Fig.47-9	(9.6)	1.45	(7.0)		○
	小皿a		R-002	Fig.47-8	(9.2)	1.0	(6.2)		○

S-718

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.47-14	9.8	1.25	7.3		○
	小皿a	〃	R-002	Fig.47-13	(9.6)	0.9+α	—	○	
	小皿a		R-003	Fig.47-12	(9.6)	1.1	(6.4)		
黒色土器A	椀c		R-004	Fig.47-15	—	2.1+α	(8.8)		

S-722

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.47-17	(10.0)	1.45+α	(7.2)		

S-723

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.47-19	(8.8)	1.05+α	(7.0)		

S-726

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a		R-002	Fig.47-25		1.5			
	小皿a		R-005	Fig.47-24	(10.0)	0.8	(8.8)		
	小皿a	ヘラ	R-006	Fig.47-22	(9.2)	1.3	(7.4)		○
	小皿a	〃	R-007	Fig.47-21	(9.0)	1.05	(6.2)		
	小皿a		R-010	Fig.47-23	(9.4)	1.2	(7.0)		○
	丸底坏a		R-001	Fig.47-28	(15.0)	3.15	(9.0)		
	丸底坏a		R-003	Fig.47-29		3.55+α			
	丸底坏a		R-004	Fig.47-27	(15.0)	2.8+α			
	丸底坏a		R-009	Fig.47-26	(14.0)	3.3+α	—		

S-728

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.48-1	(10.0)	1.2	(7.6)		
	小皿a	〃	R-002	Fig.48-2	(10.6)	1.45	(7.2)		
	坏a		R-004	Fig.48-3	(14.0)	2.7	(9.6)		
	丸底坏a		R-003	Fig.48-5	(16.0)	2.6+α	—		
	丸底坏a		R-006	Fig.48-4	(16.0)	3.8+α	—		
黒色土器B	椀		R-005	Fig.48-6		3.7+α			

S-786暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a		R-001	Fig.52-42	(9.6)	0.9	(7.0)		
	小皿a		R-002	Fig.52-43	(10.0)	1.2	(6.8)		
	小皿a		R-003	Fig.52-44	(11.0)	1.65	(8.4)		

S-791

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.48-14	(10.4)	1.5	(7.4)		
	小皿a		R-005	Fig.48-13	(9.4)	1.15	(7.2)		
	小皿a		R-006	Fig.48-15	(10.6)	1.0	(8.4)		
	小皿a	ヘラ	R-010	Fig.48-12	(9.0)	0.8	(7.4)		
	丸底坏a	〃	R-001	Fig.48-17	(16.0)	3.4	(11.6)		○
	丸底坏a	〃	R-003	Fig.48-16	(14.0)	2.8	(7.6)		

S-793

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-008	Fig.48-23	(10.0)	1.05	(7.7)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-009	Fig.48-24	(10.0)	1.6	(7.9)	○	—
	丸底坏a	ヘラ?	R-010	Fig.48-25	15.5	3.7	—		

S-802

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	—	R-001	Fig.48-33	(14.8)	3.4	—	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-002	Fig.48-34	(15.2)	3.15		—	—

S-819

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.49-1	—	1.15+α	—	○	—
	丸底坏a	〃	R-002	Fig.49-2	15.3	3.6	—	—	—

S-831

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001		(9.6)	1.65	(7.1)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-002		(9.6)	0.7	(7.0)	—	○

S-996

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏	—	R-001	Fig.67-22	—	1.8+α	—	—	—
	坏	—	R-002	Fig.67-23	—	1.4+α	(7.0)	—	—

S-1038暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	—	R-001	Fig.74-34	(12.6)	1.0	(9.1)	—	—
	皿a	—	R-002	Fig.74-35	(13.0)	1.7	8.2+α	—	—
	坏a	ヘラ	R-003	Fig.74-37	—	2.2+α	(7.4)	—	—
	坏a	—	R-004	Fig.74-38	—	1.8+α	(7.6)	—	—
	坏a	ヘラ	R-005	Fig.74-39	—	2.5+α	(8.0)	—	—
	坏a	〃	R-006	Fig.74-40	—	2.5+α	(8.0)	—	○
	坏a	〃	R-007	Fig.74-36	(13.2)	3.5	(7.8)	—	○
	椀c	—	R-008	Fig.74-41	(14.8)	5.8	(7.5)	○	—
黒色土器A	椀c	—	R-009	Fig.74-42	(16.0)	6.0+α	—	—	—

S-1038暗茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-001	Fig.74-32	—	2.1+α	(7.8)	—	—

茶灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-013	Fig.63-4	(11.0)	1.35	(8.0)	—	—
	小皿c	—	R-011	Fig.63-5	(10.8)	2.45	(6.4)	—	—
	坏a	—	R-004	Fig.63-6	—	1.8+α	(7.4)	—	—
	椀c		R-012	Fig.63-7	(14.8)	4.7+α	—		
	丸底坏	—	R-014	Fig.63-8	(14.8)	3.2+α	—	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-001	Fig.63-13	—	1.9+α	(7.8)	—	—
	椀c	—	R-002	Fig.63-12	—	2.1+α	(7.6)	—	—
	椀c	—	R-019	Fig.63-11	—	2.1+α	(7.4)	—	—
	椀c	—	R-022	Fig.63-15	—	3.4+α	(8.8)	—	—
	椀c	—	R-026	Fig.63-14	—	2.4+α	(8.0)	—	—
黒色土器B	椀c	—	R-003	Fig.63-16	—	4.7+α	—	—	—
	椀c	—	R-023	Fig.63-17	—	2.0+α	(7.0)		

黒茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	椀		R-020	Fig.60-1	(16.8)	5.4+α			
土師器	坏a		R-003	Fig.60-19	—	2.9+α	(8.8)		
	坏a	ヘラ	R-004	Fig.60-12	—	1.7+α	(5.6)		
	坏a		R-005	Fig.60-11	(13.8)	2.9	(9.0)		
	坏a		R-019	Fig.60-17	—	1.65+α	(8.0)		
	坏a		R-025	Fig.60-13	—	1.7+α	(6.8)		○
	坏a	ヘラ	R-031	Fig.60-18	—	1.05+α	(8.0)		
	坏a		R-032	Fig.60-16	—	2.3+α	(7.0)		
	坏a		R-033	Fig.60-9	(12.3)	2.3	(7.6)		
	坏a		R-036	Fig.60-15	—	2.75+α	(7.0)		
	坏a	ヘラ	R-040	Fig.60-14	—	1.75+α	(6.8)		○
	坏a		R-041	Fig.60-10	(12.4)	3.1	(8.0)		
	椀c		R-006	Fig.60-23	—	3.0+α	(7.3)		
	椀c		R-007	Fig.60-20	(12.4)	4.5	(7.4)		
	椀c	ヘラ	R-001	Fig.60-22	—	2.6+α	(7.1)		
	椀c		R-012	Fig.60-26	—	4.45+α	(9.2)		
	椀c		R-016	Fig.60-21	—	2.45+α	(6.4)		
	椀c		R-037	Fig.60-24	—	2.85+α	(7.6)		
	丸底坏a		R-002	Fig.60-27	—	3.9+α	—		
黒色土器A	椀c		R-009	Fig.60-33	—	3.15+α	(8.4)		
	椀c		R-015	Fig.60-34	—	3.9+α	(10.0)		○
	椀c		R-021	Fig.60-28	—	3.6+α	(6.4)		
	椀c	ヘラ	R-023	Fig.60-30	—	2.4+α	(7.0)		
	椀c	ヘラ	R-038	Fig.60-31	—	1.95+α	(7.2)		
	椀c		R-042	Fig.60-25	—	3.35+α	(8.2)		
	椀c		R-043	Fig.60-29	—	2.5+α	(7.0)		
	椀c		R-044	Fig.60-32	—	3.0+α	(8.0)		
黒色土器B	椀		R-022	Fig.60-35	—	4.6+α	—		

茶褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	R-001	Fig. 59-13	(14.0)	3.4	(8.2)		
	坏a	R-002	Fig. 59-14	—	2.1+α	(9.4)		
	椀c	R-003	Fig. 59-15	—	2.4+α	(8.6)		

明茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a　ヘラ	R-002	Fig. 66-36	—	2.25+α	(7.6)		
黒色土器A	椀c	R-001	Fig. 66-38	—	1.6+α	(7.6)		

暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋a3　ヘラ	R-006	Fig. 65-1	(16.2)	2.75		○	
	蓋3	R-007	Fig. 65-3	(12.6)	1.1		○	
	蓋3　ヘラ	R-015	Fig. 65-4	(19.6)	1.5		○	
	蓋c3	R-026	Fig. 65-2	(17.4)	1.95+α		○	
	皿a　ヘラ	R-020	Fig. 65-5	(20.2)	1.6	(16.6)	○	
	坏c　—	R-001	Fig. 65-12		4.7+α	(10.6)	○	—
	坏c　—	R-002	Fig. 65-10		2.85+α	(9.2)	—	—
	坏c　ヘラ	R-003	Fig. 65-13		4.0+α	(11.4)	○	
	坏c　ヘラ?	R-004	Fig. 65-6	(12.8)	4.6	(8.8)	○	
	坏c　—	R-005	Fig. 65-9		2.8+α	(9.0)	○	
	坏c	R-019	Fig. 65-14	(20.2)	6.3	(13.6)	○?	
	坏c　ヘラ	R-022	Fig. 65-7	(11.2)	3.15	(7.2)	○	
	坏c　ヘラ	R-029	Fig. 65-8	—	2.6+α	(8.0)	×	×
	椀c　ヘラ?	R-014	Fig. 65-11		3.2+α	(8.4)	○	
土師器	蓋c	R-018	Fig. 65-16	(18.4)	2.5+α		○?	
	坏a　ヘラ	R-013	Fig. 65-17	(11.6)	2.6	(6.4)	○	
	坏a	R-016	Fig. 65-20	—	2.7+α	(8.0)	○	
	坏a	R-023	Fig. 65-22	—	3.4	—		
	坏a　ヘラ	R-024	Fig. 65-18	—	1.2+α	(8.6)	○	
	坏a　—	R-027	Fig. 65-21	—	2.75+α	(8.2)	—	
	坏a　ヘラ	R-028	Fig. 65-19		2.4+α	(7.9)	○?	○?

灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a　ヘラ	R-047	Fig. 57-1	(13.2)	3.7	(8.8)	○	—
	坏c　〃	R-001	Fig. 57-3		1.8+α	(7.2)	○	—
	坏c　〃	R-004	Fig. 57-4		1.7+α	(7.6)	○	—
	坏c　〃	R-028	Fig. 57-2		1.7+α	(6.6)	○	—
土師器	小皿a　—	R-030		(9.8)	1.4+α	(6.4)	—	○
	小皿c　—	R-015	Fig. 57-17	(11.9)	2.85+α	7.0	—	—
	坏a　—	R-002	Fig. 57-9		1.8+α	(5.8)	—	—
	坏a　—	R-003	Fig. 57-8	(12.8)	4.2+α		—	—
	坏a　ヘラ	R-009	Fig. 57-7	(12.2)	3.2	(6.8)	○	—
	坏a　—	R-016	Fig. 57-13		1.9+α	(6.6)	—	—
	坏a　ヘラ	R-019	Fig. 57-14		1.5+α	(6.8)	—	—
	坏a　—	R-020	Fig. 57-16		2.4+α	(7.2)	—	—
	坏a　—	R-021	Fig. 57-15		2.9+α	(7.0)	—	—
	坏a　ヘラ	R-026	Fig. 57-11		2.9+α	(6.6)	—	—
	坏a　〃	R-027	Fig. 57-10		2.6+α	(6.2)	○	—
	坏a　〃	R-035	Fig. 57-12		2.2+α	(6.6)	—	—
	坏c　—	R-010	Fig. 57-20		1.7+α	(8.6)	—	—
	椀　—	R-013	Fig. 57-18		3.6+α	(7.2)	—	—
	椀c　—	R-036	Fig. 57-19		3.95+α	(8.0)	—	—

淡灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　—	R-002	Fig. 62-6	(10.6)	1.6+α	(7.8)	—	—
	小皿a2　—	R-007	Fig. 62-7	(9.7)	0.9+α	(6.6)	—	—
	小皿a　—	R-018	Fig. 62-5	(9.0)	1.1	(6.4)	—	—
	小皿a　ヘラ	R-020	Fig. 62-4	(8.4)	8.5	(6.4)	○	○
	坏a　〃	R-003	Fig. 62-8	(10.2)	2.3	(6.4)	○	—
	坏a　〃	R-004	Fig. 62-15		1.8+α	(8.2)	—	—
	坏a　—	R-005	Fig. 62-12		1.8+α	(7.2)	—	—
	坏a　ヘラ	R-008	Fig. 62-14		1.8+α	(7.4)	—	○
	坏a　〃	R-017	Fig. 62-9		2.7+α	6.6	—	—
	坏a　〃	R-019	Fig. 62-11		1.4+α	(7.0)	—	○
	坏a　〃	R-021	Fig. 62-13		1.3+α	(7.2)	○	—
	坏a　〃	R-022	Fig. 62-10		1.85+α	(7.0)	○	○
	坏a　〃	R-023	Fig. 62-16		1.5+α	(9.4)	—	—
	丸底坏a　—	R-001	Fig. 62-20	(15.0)	3.5+α		—	○
	丸底坏a　—	R-015	Fig. 62-21	15.3	2.9	9.9	—	—
	椀c　ヘラ	R-016	Fig. 62-17	(15.2)	5.6+α	7.9	—	—
	椀c　—	R-024	Fig. 62-19		2.3+α	(8.0)	—	—
	椀c	R-031	Fig. 62-18		3.3+α			
黒色土器A	椀c　ヘラ	R-025	Fig. 62-23		1.7+α	(7.1)	—	—
	椀c　—	R-026	Fig. 62-24		1.8+α	(8.0)	—	—
	椀	R-027	Fig. 62-25		3.85+α			

黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a　ヘラ	R-001	Fig. 59-18		1.8+α	(6.4)	—	○
	坏a　〃	R-002	Fig. 59-22		2.7+α	(7.4)	—	—
	坏a　〃	R-005	Fig. 59-20		1.9+α	(7.0)	○	○
	坏a　—	R-009	Fig. 59-21		2.5+α	(7.2)	—	—
	坏a　ヘラ	R-008	Fig. 59-19		2.05+α	(6.8)	—	○
	椀c　〃	R-003	Fig. 59-23		1.7+α	(7.0)	—	—
	椀c　〃	R-004	Fig. 59-24		2.05+α	(7.6)	—	—
黒色土器A	椀c　ヘラ?	R-006	Fig. 59-25		2.25+α		—	—
	大椀c　ヘラ	R-007	Fig. 59-26		5.9+α	(10.0)	—	—

灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3　ヘラ	R-007	Fig. 88-2		2.5+α			
	蓋c3　〃	R-010	Fig. 88-1	(14.9)	1.85			○
	皿a　〃	R-003	Fig. 88-9	19.4	2.5	15.45	○	—
	皿a　〃	R-012	Fig. 88-8	(18.0)	2.5+α	(14.8)	○	—
	坏a　〃	R-004	Fig. 88-4	(15.4)	4.3	(9.6)	○	—
	坏a　〃	R-005	Fig. 88-3	(12.4)	4.1	(9.6)	○	—
	坏c　〃	R-001	Fig. 88-5	(11.2)	3.6	(6.8)	○	—
	坏c　〃	R-006	Fig. 88-7		3.1+α	(9.6)	○	—
	坏c　〃	R-011	Fig. 88-6	(12.4)	4.85	(8.6)	○	—
土師器	坏a　—	R-015	Fig. 88-11	(14.8)	3.3	(9.0)	—	—
	坏d　—	R-002	Fig. 88-12	(11.4)	3.9	(6.6)	○	—
	坏d　—	R-013	Fig. 88-14	(16.4)	4.3	9.6	○	—
	坏d　—	R-014	Fig. 88-13	(15.0)	2.75	(6.8)	—	—

灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イト	R-001	Fig. 92-8	9.05	1.4	7.85	○	○
	丸底坏c　—	R-003	Fig. 92-10	15.0	3.8	6.9	—	—
	大椀	R-007	Fig. 92-9		2.8+α	(13.0)		
瓦器	椀c	R-002	Fig. 92-11	14.95	5.85	6.25	—	—

表土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀　イト	R-009	Fig. 94-4	—	3.95+α	(6.4)		

表16　第236-2次調査　遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土・切合いほか	調査面	埋没時期	地区
1	236-2SE001	井戸		1	XI期前後	R5
2		ピット群	茶色土	1	8世紀前半	S5
3		たまり	茶灰色土	1	中世～	T5・6
4		たまり	黄茶色土	1	奈良時代	S5
5	236-2SD005	溝	灰色粘土　操車場建設直前までの道路側溝？	1	近現代(大正時代？)	10ライン
6		ピット群	茶灰色土	1		L2
7		ピット	黒色土	1		L2
8		溝	暗灰色土	1	近世以降(近現代?)	M2・3
9		土坑	黒灰色土	1	奈良時代	M3
10	236-2SK010	土坑	暗灰色土	1	8世紀前半	O10
11		ピット群	茶灰色土	1		M2
12		ピット群		1	古代	PQ6
13		ピット		1	古代	Q7
14		ピット群		1	古代	O6
15	236-2SK015	土坑		1	XII期前後	P9
16		たまり	茶色土	1	平安時代後期	M4
17		たまり	茶色土	1	平安時代後期	KL3
18		溝	灰色土	1	古代	P11
19		ピット群		1		PQ10・11
20	236-2SX020	窪み		1	11世紀後半～	MN9・10
21		たまり	暗灰色土	1	古代	T13
22		ピット群		1	古代	T12・13
23		ピット群		1		R9
24		ピット群		1	古代	VW10
25	236-2SK025	土坑		1	8世紀後半	P7
26		ピット群		1	古代	U12
27		窪み		1	平安時代	U13
28		窪み群		1	古代	V13
29		撹乱		1	現代	W13・14
30	236-2SE030	井戸	灰色土でやや砂質	1	XII期前後	X11
31		ピット群		1	平安後期	MN9
32	236-2SX032	ピット		1	XII期前後	O9
33		土坑		1	XII期前後	X11
34	236-2SX034	ピット	黒灰色土	1		N10
35	236-2SD035	溝	暗灰色土　S-92→35	1	奈良時代	V14・15
36		ピット	S-25→36	1		P7
37		たまり		1	古代	P7
38	236-2SX038	ピット		1	12世紀前半～	O9
39		ピット群		1	古代	O7
40	236-2SK040	土坑	暗灰色土　底面やや凸凹	1	8世紀後半～末	M9
41	236-2SX041	たまり		1	奈良時代	N6・7
42		窪み		1	平安時代	N8
43		窪み群		1		M8
44		溝（撹乱）		1	近現代	N8
45	236-2SK045	土坑(井戸？)	暗灰色土	1	XII期前後	AF15
46		土坑		1	13世紀前半	AE15
47		土坑		1	平安時代	AE14
48		ピット群		1	平安前期	W12
49	236-2SX049	窪み	S-69と同一遺構か	1	奈良時代	M8
50	236-2SE050	井戸	滑石製屋蓋出土	1	VII期頃	P3
51		ピット群		1	平安前期？	O1・2
52		窪み群		1	古代	Q4
53		窪み群		1	古代	OP3
54		土坑群		1	平安時代	AE17
55	236-2SK055	土坑		1	XII期前後	AE16
56		ピット群		1	平安時代	AE16
57		土坑群		1	古代	S7
58		窪み	黒灰色粘土	1	古代	L9
59		窪み群	黒灰色粘土	1	平安時代	K9
60	236-2SB060	掘立柱建物		1	古代？	D～F・4～6
61	236-2SX061	窪み	黒灰色粘土	1	XII期前後	KL8
62	236-2SX062	窪み	黒灰色粘土	1	XII期前後	JK8
63		窪み	黒灰色粘土	1	古代	J8
64		ピット群		1	古代	MN7
66		窪み	黒灰色土	1	8世紀後半	N1
67	236-2SX067	窪み群	黒灰色土	1	平安前期	JK7
68	236-2SX068	窪み群	黒灰色土	1	XII期前後	LM6・7
69	236-2SX069	窪み	S-46と同一遺構か	1	13～14世紀	AFAF16・17
70	236-2SX070	段落ち		1	12世紀代	X～AE・16～18
71		窪み群		1	平安時代前期	LM5
72	236-2SX072	窪み群		1	奈良時代	KL6
73	236-2SX073	窪み群		1	奈良時代	IH6・7

74		窪み		1	古代	AA・AB14・15
75	236-2SX075	窪み		1	8世紀中頃	ON3～5
76		窪み群		1	奈良末～平安前期	AC15
77	236-2SX077	窪み群		1	古代	AD15
78		窪み群		1	古代	AC13
79		窪み群		1	古代	AD15
80	236-2SD080	溝	灰茶色土	1	XII期前後	W12～AB13
81	236-2SX081	窪み群		1	平安時代	WX13・14
82		窪み		1		Y14
83		窪み		1	奈良時代	K5
84	236-2SX084	窪み		1	8世紀前半	K4
85	236-2SK085	土坑	暗灰色土　S-85→80	1	XI～XII期	X12
86		窪み		1	平安時代前期	J5
87	236-2SX087	窪み		1	古代	J4
88		ピット		1		K4
89		土坑		1		DE4
91	236-2SX091	窪み		1	古代	WX15・16
92	236-2SX092	窪み		1	平安時代	VW14・15
93		窪み		1		W15
94	236-2SX094	窪み		1	XII前後	GH6・7
96		ピット		1		D5

表17　第236-2次調査　出土遺物一覧表

S-1灰茶色粘土

須恵器	甕
土師器	小皿a(ヘラ)、丸底坏a
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(縄目叩、格子叩)、破片
石製品	丸石

S-1暗灰色土

須恵器	蓋c、坏c、甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、丸底坏、小皿a(ヘラ)
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)
石製品	石

S-1茶色土

須恵器	坏、破片
土師器	丸底坏a、小皿a(ヘラ)
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)
その他	炭

S-2

須恵器	坏、坏c、甕、壺×鉢
土師器	甕、破片
瓦類	破片

S-3

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕
土師器	甕、破片
土師質土器	擂鉢
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-4

須恵器	蓋3、坏、鉢
土師器	坏、甕、破片
瓦類	破片
金属製品	鉱滓

S-5

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕
肥前系陶磁器	碗、破片
国産陶器	碗、甕、擂鉢、土瓶、急須、破片
国産磁器	碗
龍泉窯系青磁	碗；IV(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(格子叩、無文)、燻瓦
金属製品	鉱滓、硬貨、鉄釘

S-6

須恵器	坏、甕
土師器	破片
瓦類	平瓦(破片)

S-7

須恵器	破片

S-8

須恵器	皿?、坏c
土師器	破片
国産陶器	破片
瓦類	燻瓦、破片

S-9

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺b?
土師器	坏、甕、破片
瓦類	丸石

S-10黒灰色土

須恵器	蓋c、蓋c3、蓋3、椀c
土師器	坏、甕
弥生土器	破片?
瓦類	平瓦（縄目叩）、丸瓦(無文)
土製品	焼土塊

S-10暗灰色土

須恵器	坏、高坏
土師器	甕、甕(角閃石入り)、把手
弥生土器	破片
土製品	焼土塊

S-12

須恵器	坏
土師器	甕、破片

S-13

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-14

須恵器	蓋3
土師器	甕、破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-15黒灰色土

須恵器	蓋c3、坏
土師器	小皿a(ヘラ)、丸底坏a、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)

S-15暗灰色土

須恵器	坏、坏c、高坏
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、墨書あり)、破片(縄目叩)

S-16

須恵器	蓋、蓋c、蓋3、坏、坏c、甕、壺×鉢
土師器	高坏、甕、破片
白磁	碗；V(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、破片(縄目叩、無文)

S-17

須恵器	蓋、蓋3、坏、甕、鉢×壺、破片
土師器	坏
白磁	碗；V-1×VIII-1(1)
瓦類	破片(縄目叩、無文、破片)

S-18

須恵器	坏×蓋
土師器	坏、甕、破片

S-19

須恵器	坏、甕、破片
土師器	甕、破片
瓦類	平瓦(無文)

S-20灰色土

須恵器	坏、坏c(墨書)、甕
土師器	坏、高坏、丸底坏?、甕、破片
瓦類	平瓦(無文)、丸瓦(無文)

S-20暗灰色土

須恵器	蓋3、坏、坏c、椀、甕、壺×鉢
土師器	丸底坏、丸底坏a、甕
弥生土器	破片?
瓦類	丸瓦(無文)、破片

S-21

須恵器	甕
土師器	坏

S-22

土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-23

須恵器	破片
土師器	破片
白磁	破片(1)

S-24

須恵器	破片
瓦類	破片(縄目叩)

S-25茶色土

須恵器	蓋3、坏、皿a、甕
土師器	甕、破片
瓦類	破片(縄目叩、無文)

S-25暗灰色土

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏d、皿a、甕、破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-25黒灰色土

須恵器	蓋c、蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、皿a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、平瓦(破片)
縄文土器	甕?

S-26

須恵器	蓋1
土師器	坏

S-27

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(無文)、軒平瓦

S-28

須恵器	坏、破片
土師器	坏、甕、甕×壺
瓦類	丸瓦(無文)、破片

S-29

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、坏b?、甕
土師質土器	破片
龍泉窯系青磁	碗;I-2(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、燻瓦

S-30

須恵器	甕
土師器	丸底坏a
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
白磁	碗；破片(1)
瓦類	破片(格子叩)
石製品	磨り石

S-31

須恵器	坏、甕
土師器	坏
白磁	碗；IV-1a(1)
その他	炭

S-32

土師器	丸底坏a、小皿a(ヘラ)、破片
その他	炭

S-33

白磁	椀；V(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-34

土師器	甕

S-35

須恵器	蓋?、坏c
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(縄目叩)

S-36

須恵器	坏a

S-37

土師器	甕

S-38

土師器	坏a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、小皿a(イト)、甕
黒色土器A	破片

S-39

土師器	坏
瓦類	破片(縄目叩)

S-40

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏、坏a、甕、甕(角閃石含む)
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(破片)

S-41

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕、壺×鉢
土師器	坏、坏c、甕
弥生土器	甕?
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-42

須恵器	蓋3、甕、破片
土師器	甕、破片

S-43

土師器	坏、甕

S-44

須恵器	坏、破片
土師器	破片
瓦類	燻瓦、破片
その他	炭

S-45上層

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
白磁	椀；IV-1a(1)
瓦類	破片

S-45下層

須恵器	坏
土師器	坏、丸底坏?、小皿a、甕?
灰釉陶器	椀(1)
瓦類	破片(縄目叩)

S-46

須恵器	坏c、甕
土師器	坏
白磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、破片)

S-47

須恵器	坏、坏c
土師器	坏c
瓦類	平瓦(格子叩)

S-48

須恵器	坏a、坏c
土師器	椀c
瓦類	平瓦(破片)

S-49

須恵器	坏c
土師器	坏、甕

S-50

木製品	曲物底板

S-50ウラゴメ

須恵器	甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-50暗灰色粘土

須恵器	蓋3、坏c、甕、湍、破片
土師器	坏a、高坏?、甕、甕(角閃石含む)、坏破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)
石製品	滑石製層塔破片、石

S-50a

土師器	破片

S-50b

須恵器	坏、甕
土師器	坏a(ヘラ)、甕

S-50c

須恵器	甕
土師器	坏、破片

S-51

須恵器	蓋、坏c、甕
土師器	坏、坏a、破片

S-52

須恵器	甕
土師器	坏、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-53

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	甕、破片
白磁	椀；破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、瓦玉

S-54

須恵器	甕
土師器	破片
瓦類	平瓦(格子叩、破片)

S-55灰茶色土

須恵器	蓋4、皿a、甕、壺、壺×鉢
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)
石製品	碁石、剥片(黒曜石)

S-55暗灰色土

須恵器	蓋4、坏、甕、壺、壺b
土師器	坏
弥生土器	破片(丹塗り)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)

S-55

須恵器	坏、甕
土師器	坏
瓦類	丸瓦(無文)

S-56

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕、破片
瓦類	瓦玉

S-57

須恵器	蓋3、坏
土師器	甕
黒色土器B	破片?
中国陶器	破片(1)
石製品	丸石

S-58

須恵器	坏
土師器	破片
瓦類	平瓦(縄目叩、破片)

S-59

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏a

S-60b

土師器	甕片、破片

S-60c

須恵器	破片
土師器	甕片

S-60e

土師器	甕

S-60g

土師器	破片

S-60j

土師器	破片

S-61

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、丸底坏a
白磁	椀；VI-1(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)

S-62

須恵器	蓋3、坏、甕、破片
土師器	坏c、丸底坏a、甕
瓦類	平瓦(無文)、丸瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-63

須恵器	甕
土師器	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-64

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-66

須恵器	蓋1、蓋3、坏、高坏b、壺×鉢
土師器	坏、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、瓦玉

S-67

須恵器	蓋c、蓋3、坏、高坏b、壺
土師器	坏、甕
瓦類	破片

S-68

須恵器	蓋、蓋1、蓋3、坏、坏c、甕
土師器	甕(角閃石入り)、破片
白磁	椀；V-3(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-69

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、甕
龍泉窯系青磁	椀；破片　坏；III-3b　盤；III(1)
中国陶器	壺；IV-3b(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(縄目叩)

S-70

須恵器	蓋、蓋3、坏、坏c、甕、甑?、鉢×甑
土師器	坏、丸底坏?、椀c、小皿、甕
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	皿(1)
龍泉窯系青磁	皿；I(1)
同安窯系青磁	皿；I(1)
白磁	椀；IV(1)、II(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)
土製品	土塊

S-71

須恵器	蓋、蓋3、坏、坏a、甕
土師器	坏a、甕
瓦類	平瓦(無文、破片)

S-72

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、高坏、甕
土師器	甕、破片(角閃石混じり)、破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(無文)

S-73

須恵器	蓋3、坏a、坏c、破片
土師器	椀c、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)

S-74

須恵器	破片
土師器	高坏
瓦類	平瓦(格子叩)

S-75

須恵器	蓋c、蓋1、蓋3、坏、坏c、甕、壺×鉢、鉢、ツマミ
土師器	坏、甕、破片
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
弥生土器	甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、破片
金属製品	鉱滓
石製品	丸石、剥片(安山岩)

S-76

須恵器	坏、坏c、壺×鉢、破片
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(破片)

S-77

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏c、甕、把手
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、破片

S-78

須恵器	甕、破片
土師器	坏

S-79

須恵器	坏a、坏c、甕
土師器	甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、破片)、丸瓦(破片)
石製品	砥石?

S-80灰茶色土

須恵器	蓋3、坏c、皿a、甕
土師器	坏、坏a、坏c、小皿a?、丸底坏
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀c
白磁	椀；破片(1)　　皿；II-1(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、燻瓦

茶色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋4、坏c大坏c、甕、大甕、小壺、壺、壺a、鉢?
土師器	坏c、高坏、甕、把手、破片
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	壺(1)
龍泉窯系青磁	椀；I-4(1)、破片(1)
土師質土器	甑
灰釉陶器	壺?(1)、破片(1)
国産磁器	皿、破片
肥前系陶磁器	椀
白磁	椀；IV～VIII(2)、XIII-2b(1)
	皿；VII-1c(1)、IX(1)　　破片(1)
輸入陶磁器	鉢?(広東系×長沙窯系)(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(無文)、燻瓦(平瓦)
石製品	丸石
土製品	棒状土製品、破片

S-81

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)

S-82

須恵器	甕

S-83

須恵器	蓋3、甕
土師器	甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-84

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	椀×鉢
瓦類	破片(格子叩)
石製品	砥石

S-85暗灰色土

須恵器	坏
土師器	坏、丸底坏?、椀c、小皿(ヘラ)、甕、把手
黒色土器A	椀、破片
黒色土器B	破片
灰釉陶器	椀?(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)、軒丸瓦

S-85灰色土

須恵器	坏
土師器	坏、小皿a(ヘラ)、丸底坏a
黒色土器B	椀、椀c
白磁	椀；破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(縄目叩)、破片
石製品	滑石片

S-86

須恵器	蓋3、坏、壺×鉢
土師器	坏、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	不明土製品

S-87

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-88

瓦類	破片(縄目叩、格子叩)

S-89

須恵器	坏c、甕、壺×鉢
土師器	坏
瓦類	丸瓦(無文)

S-91

須恵器	壺蓋、甕
土師器	甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-92

須恵器	蓋、坏、高坏b
土師器	坏
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、破片

S-93

土師器	破片
瓦類	燻瓦

S-94

須恵器	蓋、蓋1、蓋3、坏、坏c、高坏、甕
土師器	甕
白磁	椀；V(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-96

須恵器	破片
土師器	破片
国産陶器	破片

表土

須恵器	蓋c、蓋3、坏c、甕、壺、鉢×甑、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a、甕、破片
黒色土器A	破片
国産陶器	甕片(現代)、薬瓶、植木鉢
国産磁器	蓋、椀、皿
肥前系陶磁器	皿(現代)
白磁	椀；V(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、破片)、丸瓦(無文)、燻瓦(平瓦)、破片
石製品	石斧?
土製品	焼土塊、七輪?
その他	薬ガラス瓶

撹乱

石製品	磁石

表18　第236-2次調査　須恵器・土師器・黒色土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.100-1	9.8	1.2	7.6	○	○
	小皿a　〃	R-002	Fig.100-5	(10.2)	1.35	8.5	○	○
	小皿a　〃	R-003	Fig.100-3	10.0	1.3～1.7	8.1	○	○
	小皿a　〃	R-004	Fig.100-2	9.9	1.2～1.5	7.5	○	○
	小皿a　〃	R-006	Fig.100-4	10.0	1.2～1.8	7.3	○	○
	小皿a　〃	R-007	Fig.100-7	(10.8)	1.4	8.8	○	○
	小皿a　〃	R-008	Fig.100-6	(10.2)	1.7	7.9	○	○
	丸底坏a　〃	R-009	Fig.100-8	15.0	4.1		—	○
黒色土器B	椀c　〃	R-005	Fig.100-9	(16.2)	5.3	6.9	—	—

S-1暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.100-15	(10.4)	1.2	(8.8)	—	—
	小皿a　〃	R-002	Fig.100-12	(9.6)	1.0	(6.4)	○	○
	小皿a　—	R-004	Fig.100-11	(9.6)	1.1	(7.2)	—	—
	小皿a　ヘラ	R-005	Fig.100-14	(10.0)	1.0	(8.0)	○	—
	小皿a　〃	R-006	Fig.100-10	(9.4)	1.0	(5.8)	○	○
	小皿a　—	R-007	Fig.100-16	(10.4)	1.2	(8.6)	—	—
	小皿a　ヘラ	R-008	Fig.100-17	(10.4)	1.3	(7.8)	—	○
	小皿a　〃	R-010	Fig.100-13	(9.8)	1.35+α	(7.0)	○	○
	丸底坏a　—	R-012	Fig.100-18	—	3.0+α	—	—	—
	丸底坏　—	R-003	Fig.100-20	(15.4)	3.2+α	—	—	—
	丸底坏　—	R-009	Fig.100-19	(15.0)	2.65+α	—	—	—
黒色土器A	椀c　—	R-011	Fig.100-21	—	3.9+α	6.2	—	—

S-1灰茶色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.100-23	(9.0)	1.35	(6.6)	○	○
	小皿a　〃	R-002	Fig.100-22	10.4	1.5	8.3	○	○
	丸底坏　—	R-003	Fig.100-25	(15.8)	3.1+α	—	—	—
	丸底坏　—	R-004	Fig.100-24	(15.0)	3.2+α	—	—	—
	丸底坏　—	R-005	Fig.100-26	(15.6)	3.5+α	—	—	—

S-10黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c3	R-001	Fig.106-1	(14.6)	1.8+α	(10.5)		
	蓋c3	R-002	Fig.106-2	—	1.6+α	—		
	皿a	R-003	Fig.106-4	(20.0)	2.6+α	—		
	椀c	R-004	Fig.106-3	—	4.7+α	(10.6)		

S-15暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏	R-003	Fig.106-13		4.0+α			
土師器	坏a	R-002	Fig.106-15		3.7+α			

S-15黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.106-10	(9.5)	1.1	(7.3)	○	○
	小皿a　〃	R-002	Fig.106-9	(9.4)	1.7	(7.4)	○	○
	小皿a　〃	R-003	Fig.106-7	(8.7)	0.7	(5.6)	○	○
	小皿a　〃	R-004	Fig.106-8	(8.8)	1.1	(6.7)	○	○
	丸底坏a	R-005	Fig.106-11	(14.6)	4.1	(10.1)		
黒色土器B	椀	R-006	Fig.106-12		2.5+α			

S-20暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c　ヘラ	R-001	Fig.109-20	(14.0)	3.9	(9.8)	○	×
土師器	丸底坏a	R-002	Fig.109-21		4.1+α		×	○

S-25黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	R-002	Fig.106-20		1.0+α			
	坏c	R-001	Fig.106-22		1.5+α			
	坏c　—	R-003	Fig.106-21		1.2+α	(12.3)	○	—

S-25暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	R-001	Fig.106-24		1.8+α			
土師器	坏d	R-002	Fig.106-25	(14.4)	3.2	8.1	○	×
	皿a	R-003	Fig.106-26	(19.4)	2.0	(16.0)	○	×

S-25茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3　ヘラ	R-001	Fig.106-18		1.9+α		○	
	皿a　—	R-002	Fig.106-19		2.3+α		—	—

S-30

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a　ヘラ	R-001	Fig.100-27	(16.0)	3.6		○?	○
黒色土器B	椀c	R-002	Fig.100-28		1.7+α			

S-32

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　—	R-001	Fig.108-10	(10.0)	1.2	(5.9)	—	—
	小皿a　—	R-002	Fig.108-7	(8.8)	0.9	(6.4)	○?	○?
	小皿a　ヘラ?	R-003	Fig.108-9	(9.2)	1.0	(7.3)	—	—
	小皿a　ヘラ?	R-004	Fig.108-11	(10.4)	0.9	(7.8)	?	—
	小皿a　—	R-005	Fig.108-8	(9.0)	0.9	(6.6)	—	—
	丸底坏　ヘラ	R-006	Fig.108-16		3.4+α			
	丸底坏a　〃	R-007	Fig.108-12	(14.8)	3.2+α			
	丸底坏a　〃	R-008	Fig.108-13	(15.2)	3.3			
	丸底坏a　〃	R-009	Fig.108-15	(16.6)	4.1+α			
	丸底坏a　〃	R-010	Fig.108-14	(15.4)	3.2+α			

S-35

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c　ヘラ	R-001	Fig.99-7		2.9+α	(10.8)	○	×

S-38

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イト	R-001	Fig.108-18	(10.0)	1.0	(7.2)	○	—
	小皿a　ヘラ	R-002	Fig.108-19	(10.4)	1.35	(7.0)	○	○

S-40

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	R-001	Fig.106-27		2.0+α		○	×

S-41

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c　ヘラ	R-001	Fig.109-23		1.0+α	(9.2)	○	—
	坏c　〃	R-002	Fig.109-22		1.3+α	(7.6)	○	×
	坏c　—	R-003	Fig.109-25		1.8+α	(10.0)	○?	—
	坏c　—	R-004	Fig.109-24		1.9+α	(9.8)	—	—

S-49

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	R-001	Fig.109-26	(12.8)	3.55	(9.1)		
	坏c	R-002	Fig.109-27	(14.2)	3.7	(11.2)		

S-50暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a　—	R-008	Fig.101-2		3.8+α		—	—

S-50b

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a　ヘラ	R-001	Fig.101-1	(12.3)	2.4		—	—

S-55灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	R-001	Fig.106-30	(15.0)	3.7			

S-61

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏　—	R-001	Fig.109-28	—	2.8+α		—	—

S-62

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏　ヘラ	R-001	Fig.109-29	(15.6)	3.15+α	—	—	—

S-67

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c　ヘラ	R-001	Fig.109-32	—	1.1+α	—	○	—

S-68

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	R-001	Fig.109-34	(17.0)	1.5+α	(12.8)	—	—

S-72

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3　—	R-003	Fig.109-38	—	2.5+α	(15.6)	○	—
	坏c　—	R-001	Fig.109-40	—	1.1+α	(9.9)	○	—
	坏a?　—	R-002	Fig.109-39	—	1.4+α	(11.0)	○	—

S-73

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c　—	R-001	Fig.109-41	—	1.7+α	(7.9)	○	—

S-75

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c	R-001	Fig.109-42		1.5+α		○	
	坏c　—	R-002	Fig.109-46		1.7+α		○	—
	坏c　—	R-003	Fig.109-43		1.6+α	(7.4)	—	—
	坏c　ヘラ	R-004	Fig.109-45		1.0+α	(9.6)	○	×
	坏c	R-006	Fig.109-44		2.1+α	(9.2)	○	

S-77

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	R-002	Fig.110-52		1.9+α	(9.8)	○	

S-80灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	R-001	Fig.99-9		1.7+α			
	丸底坏	R-002	Fig.99-10		2.9+α			
	丸底坏	R-003	Fig.99-11		3.4+α			
黒色土器A	椀	R-006	Fig.99-12	(14.0)	3.9+α			
黒色土器B	椀c	R-004	Fig.99-13		1.2+α	(6.3)		

S-81

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	R-001	Fig.110-54		1.6+α	5.3		

S-84

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	R-002	Fig.110-56		1.5+α			
	蓋3	R-003	Fig.110-57		1.5+α			
	蓋3	R-004	Fig.110-55		0.9+α	(13.8)		
	坏c　—	R-001	Fig.110-58		1.0+α	(7.0)	○	—

S-85灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　—	R-003	Fig.107-37		1.1		○	○
	丸底坏a	R-001	Fig.107-38		2.95+α			
	丸底坏a	R-002	Fig.107-39	(17.2)	2.8+α			
黒色土器B	椀	R-004	Fig.107-41		3.9+α			
	椀	R-005	Fig.107-40		4.1+α			
	椀	R-006	Fig.107-42		1.5+α	6.0		

S-85暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.107-31	(10.0)	1.4+α	(6.8)	○	○
	小皿a　〃	R-002	Fig.107-33		1.6+α		○	○
	小皿a　〃	R-003	Fig.107-32	(10.1)	1.4	(5.9)	○	○?

S-87

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	R-001	Fig.110-59		2.1+α	(8.4)		

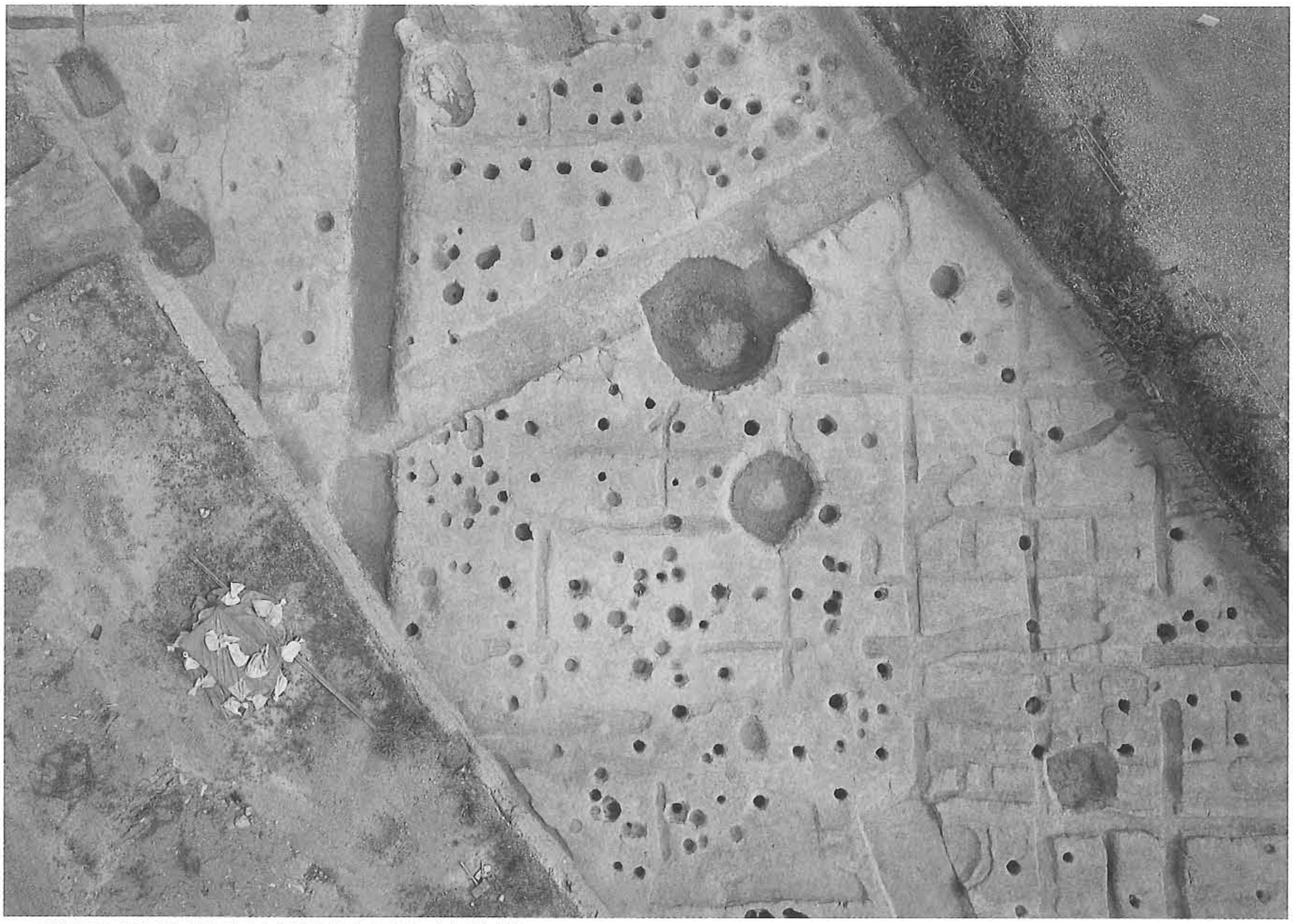
S-91

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	壷蓋	R-001	Fig.110-60	8.0	2.4+α			

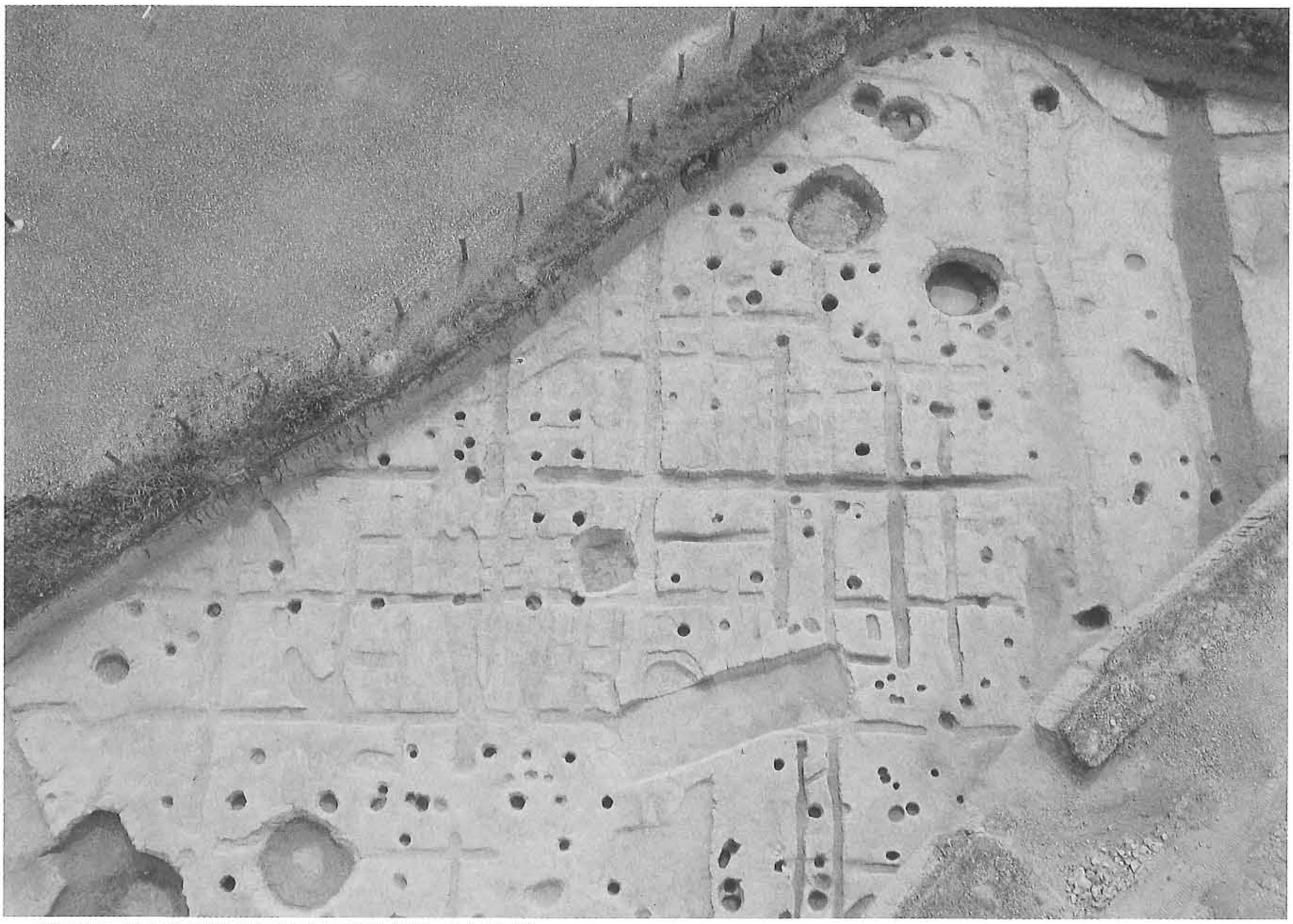
写真図版

写真図版には遺構の主な写真を掲載している。その他の遺構写真および遺物写真は、付録のCDにカラー情報で収録している。

第236-1次調査第1調査面全景（上が北）



第236-1次調査SB100付近空中写真（上が北）



第236-1次調査第1調査面南端部全景（上が東）

第236-1次調査　SB045検出状況（南から）

第236-1次調査　畑状遺構全景（南西から）

第236-1次調査　SE215全景（北から）

第236-1次調査　SK310全景（東から）

第236-1次調査第2調査面全景（上が北）

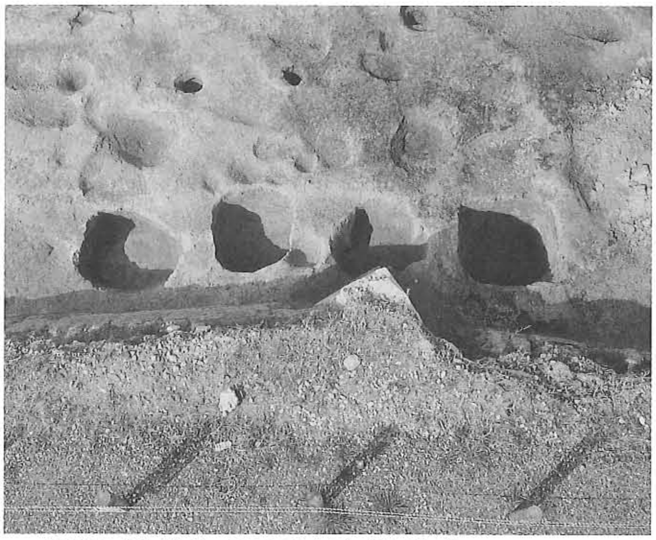
第236-1次調査第3調査面全景（上が北）

第236-1次調査　SB480全景（東から）

第236-1次調査　SB480全景（南から）

第236-1次調査　推定15条路（SF665）とSB040（上が南）

第236-1次調査　推定14条路（SF615、西から）

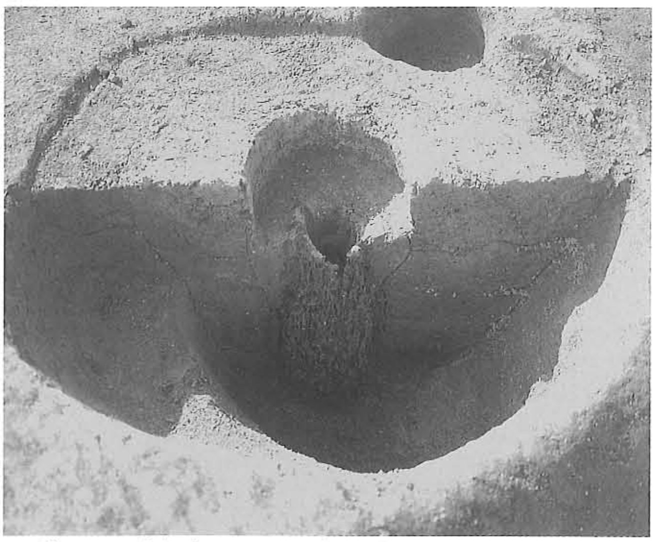

第236-1次調査　SB570全景（上が西）


第236-1次調査　SE510全景（北から）


第236-1次調査　東壁土層5（西から）


第236-1次調査　SB040k土層（北から）


第236-1次調査　SB480c土層（東から）


第236-1次調査　SB480f土層（東から）

第236-2次調査全景（上が南東）

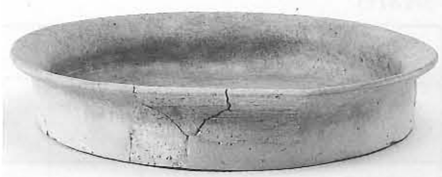
第236-2次調査　SB060全景（上が西）

第236-2次調査　SE050井戸枠状況（北から）

236-1SD370灰色粘土(Fig.50-14)

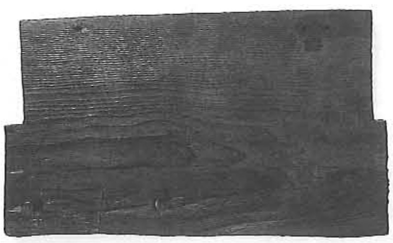
第236-1次　灰色土(Fig.58-40)

236-1SD520茶色土(Fig.68-45)

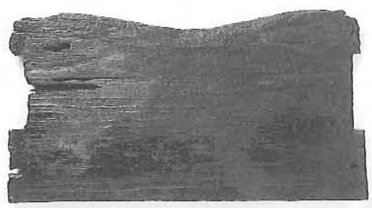


236-1SD515茶色土(Fig.69-10)

236-1SB480f(Fig.67-8)



236-1SE510(Fig.80-9)

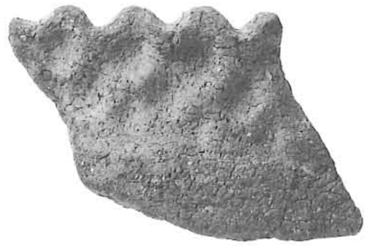


236-1SE600(Fig.83-1)

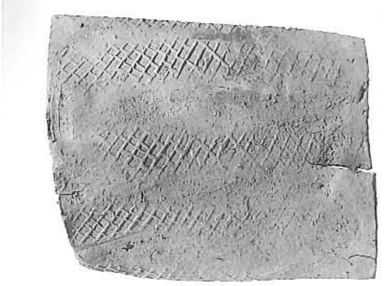
236-1SK460黒色土(Fig.84-14)

236-1SF615灰色砂(Fig.86-27)

第236-1次調査　表土(Fig.94-1)



第236-1次調査出土(Fig.94-25)



236-2SE050ウラゴメ(Fig.104-19)

236-2SE050ウラゴメ(Fig.103-17)

236-2SE050暗灰色粘土(Fig.102-11)

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと
書名	大宰府条坊跡　36
副書名	第236-1・236-2次調査
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	99集
編著者	宮崎亮一、(株)パリノ・サーヴェイ
編集機関	太宰府市教育委員会
所在地	福岡県太宰府市観世音寺１丁目１番１号
発行年月日	2008（平成20）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鏡山推定案】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 m^2	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第236-1次	左郭12・13条2坊	太宰府市 朱雀3丁目	402214	210050-236-1	55790.0	-44700.0	20040419	20050329	2740	県道新設
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第236-2次	左郭14条2坊	太宰府市 朱雀2丁目	402214	210050-236-2	55650.0	-44623.0	20050126	20050608	1705	県道・ 市道新設

所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
大宰府条坊跡　第236-1次	都城跡	奈良、平安	掘立柱建物、井戸、土坑、溝、道路	土師器　須恵器　須恵器盤 陶磁器　緑釉陶器　灰釉陶器	南北16間(29.6m)の掘立柱建物 条坊痕跡
大宰府条坊跡　第236-2次	都城跡	奈良、平安	掘立柱建物、井戸、土坑、溝	土師器　須恵器　陶磁器　瓦 滑石製石塔 墨書瓦	

太宰府市の文化財　第99集

大宰府条坊跡36

ー県道観世音寺二日市線建設に伴う調査ー

平成20(2008)年3月

編集　太宰府市教育委員会

発行　太宰府市観世音寺1-1-1

印刷　（株）三光　福岡営業所
福岡市博多区山王1-14-4

太宰府市の文化財第99集

大宰府条坊跡36

付図・・・第236-1次調査　第1調査面遺構全体図（1/200）
第236-1次調査　第2調査面遺構全体図（1/200）
第236-1次調査　第3調査面遺構全体図（1/200）
第236-1次調査　第4遺構面遺構全体図（1/400）
第236-1次調査　第1調査面略測図（1/200）
第236-1次調査　第2調査面略測図（1/200）
第236-1次調査　第3・4調査面略測図（1/200、1/400）
第236-2次調査　遺構全体図（1/200）
第236-2次調査　遺構略測図（1/300）

付図1　大宰府条坊跡第236-1次調査　第1調査面　遺構全体図（1/200）

付図2　大宰府条坊跡第236-1次調査　第2調査面　遺構全体図（1/200）

付図3　大宰府条坊跡第236-1次調査　第3調査面　遺構全体図（1/200）

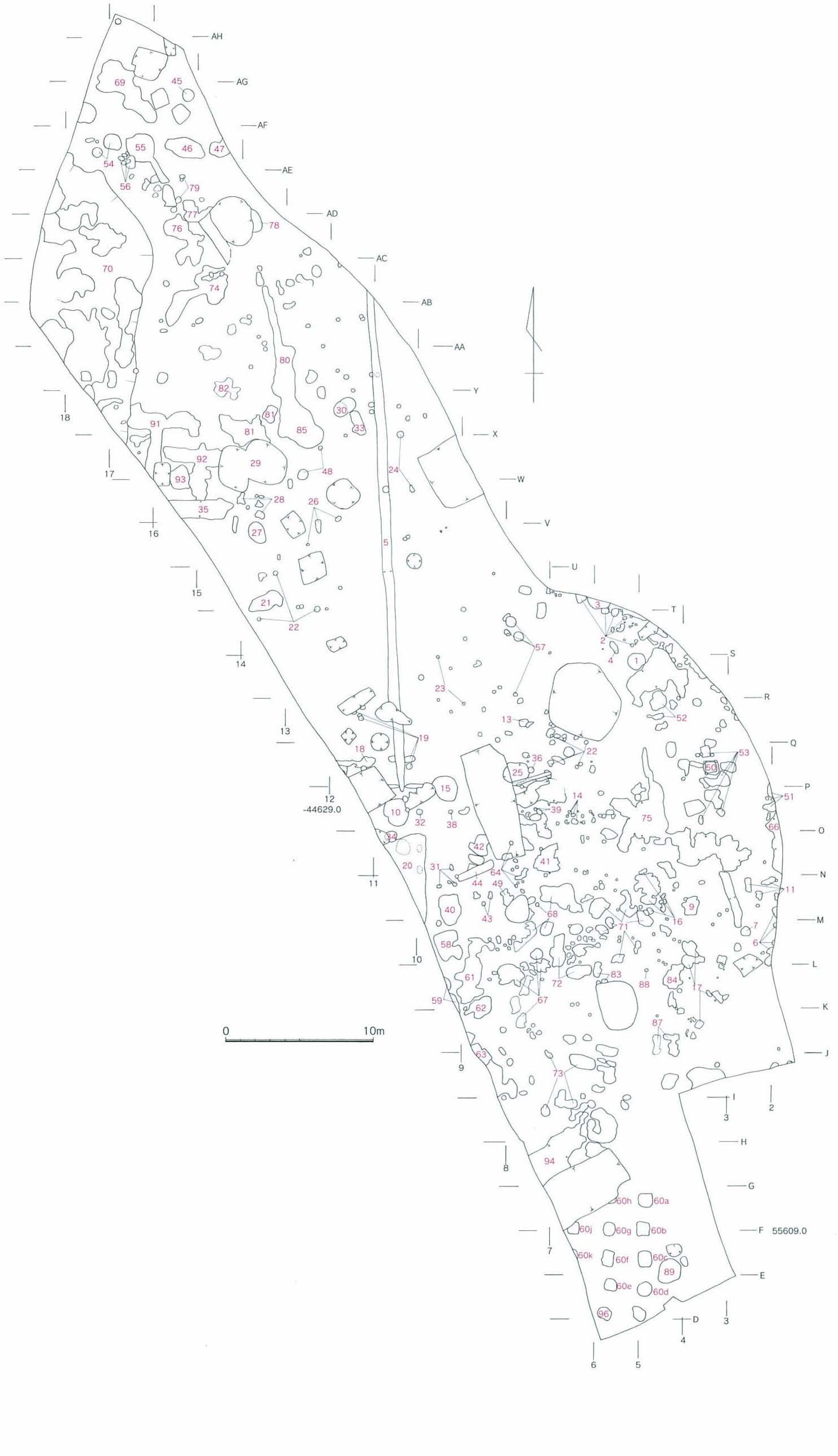
付図4　大宰府条坊跡第236-1次調査　第4遺構面　遺構全体図（1/400）

付図5　大宰府条坊跡第236-1次調査　第1調査面略測図（1/200）

付図6　大宰府条坊跡第236-1次調査　第2調査面略測図（1/200）

付図7　大宰府条坊跡第236-1次調査　第3・4調査面略測図（1/200・1/400）

付図8　大宰府条坊跡第236-2次調査　遺構全体図（1/200）



付図9　大宰府条坊跡第236-2次調査　遺構略測図（1/300）